

多摩市
子ども・子育てに関する計画策定に係る
ニーズ調査報告書

令和6年3月

多 摩 市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	2
4	調査方法	2
5	回収状況	2
6	調査結果の表示方法	2
II	調査結果.....	3
1	多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（未就学児用）【A-1】	3
	（1）お子さんご家族の状況について	3
	（2）子育てに関する情報について	4
	（3）お子さんの保護者の就労状況について	6
	（4）お子さんの保護者の育児休業取得状況について	15
	（5）お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	21
	（6）来年4月にお子さんが就学される方に、小学校就学後の放課後の 過ごし方について ...	41
	（7）お子さんが病気になったときの対応について	44
	（8）お子さんの子育て支援事業の利用状況について	51
	（9）お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う「一時預かり」等の利用について ...	73
	（10）お子さんの発達や医療的ケアについて	83
	（11）あなたの暮らし向きについて	86
	（12）子育ての悩みや相談相手について	89
	（13）多摩市での子育てについて	94
	（14）地域や社会、家庭内で望む子育て支援について	96
	（15）回答いただいているあなたの状況について	101
2	多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（小学生用）【A-2】	105
	（1）お子さんご家族の状況について	105
	（2）子育てに関する情報について	106
	（3）お子さんの保護者の就労状況について	107
	（4）お子さんの「土曜・休日の学童クラブ・児童館利用」について	126
	（5）お子さんが病気になったときの対応について	133
	（6）お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う「一時預かり」等の利用について ...	139

(7) お子さんの子育て支援事業の利用状況等について	148
(8) 子育ての悩みや相談相手について	157
(9) お子さんの発達について	161
(10) あなたの暮らし向きについて	163
(11) 多摩市での子育てについて	166
(12) 地域や社会、家庭内で望む子育て支援について	168
(13) 回答いただいているあなたの状況について	172
3 多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（中高生世代用）【A-3】	176
(1) あなたの日頃の行動について	176
(2) 地域活動やボランティア活動について	187
(3) あなたの生活への意識について	191
(4) あなたの交友関係や悩み事について	193
(5) 携帯電話やスマートフォン、インターネットの利用について	194
(6) 子どもをもつことや結婚に対する考えについて	197
(7) あなたの生きがいや将来について	200
(8) あなたの持ち物について	205
(9) 多摩市への意見や要望について	209
(10) あなたとご家族、お住まいについて	212
4 多摩市若者ニーズ調査【B】	214
(1) 令和4（2022）年4月につくられた「多摩市子ども・若者の権利を 保障し支援と活躍を 推進する条例」について	214
(2) 『あなたの生活』について	218
(3) 『あなたの悩みや相談するところ』について	223
(4) 『学校を含む社会・地域のこと』について	230
(5) あなたの人との関わりについて	232
(6) あなたのお仕事について	240
(7) 『あなた自身のこと』について	242
(8) あなたとご家族、お住まいについて	250
5 多摩市子どもの生活実態調査（保護者用）【C-1】	254
(1) あなたの健康や食事について	254
(2) あなたの暮らし向きについて	262
(3) 子育ての悩みや相談相手について	267
(4) お子さん（高校生以下の子のうち1番年長の方）の教育や生活について	272
(5) あなたとご家族の状況について	278

6	多摩市子どもの生活実態調査（中高生世代用）【C-2】	284
(1)	あなたの日頃の行動について	284
(2)	地域活動やボランティア活動について	295
(3)	あなたの生活への意識について	299
(4)	あなたの交友関係や悩み事について	301
(5)	携帯電話やスマートフォン、インターネットの利用について	302
(6)	子どもをもつことや結婚に対する考えについて	305
(7)	あなたの生きがいや将来について	308
(8)	あなたの持ち物について	312
(9)	多摩市への意見や要望について	315
(10)	あなたとご家族、お住まいについて	318
7	多摩市少子化に関する実態・意識調査【D】	320
(1)	『あなた自身』について	320
(2)	子どもを持つことについて	323
(3)	「結婚」について	325
(4)	「妊娠・出産」について	330
(5)	「子育て支援施策」について	332
8	多摩市子どもニーズ調査 ～自分自身や学校・地域とのかかわりを見つめなおしてみよう～ 【E-1】	339
(1)	令和4（2022）年4月につくられた「多摩市子ども・若者の権利を 保障し支援と活躍を 推進する条例」について	339
(2)	『あなたの生活』について	340
(3)	『あなたの悩みや相談するところ』について	343
(4)	『学校・地域のこと』について	348
(5)	『あなたの思い』について	350
(6)	『あなた自身のこと』について	351
9	多摩市子ども・若者支援に関する調査【E-2】	353
(1)	令和4（2022）年4月に施行された「多摩市子ども・若者の権利 を保障し支援と活躍を 推進する条例」について	353
(2)	『子どもや若者の生活』について	357
(3)	『子どもや若者の相談』について	363
(4)	『地域のこと』について	364
(5)	『あなた自身のこと』について	367

10 多摩市子ども・若者支援に関する調査（関係機関用）【E-3】	371
（1）令和4（2022）年4月に施行された「多摩市子ども・若者の権利を 保障し支援と活躍を推進する条例」について	371
（2）『あなたが職場で関わる子どもや若者の生活』について	375
（3）『あなた自身のこと』について	378
（4）『貧困の状況にある子ども・若者、保護者の状態』について	381
（5）『貧困の状況にある子どもや若者、保護者に対する支援』について	387

Ⅲ 調査票..... 399

1 多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（未就学児用）【A-1】	
2 多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（小学生用）【A-2】	
3 多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（中高生世代用）【A-3】	
4 多摩市若者ニーズ調査【B】	
5 多摩市子どもの生活実態調査（保護者用）【C-1】	
6 多摩市子どもの生活実態調査（中高生世代用）【C-2】	
7 多摩市少子化に関する実態・意識調査【D】	
8 多摩市子どもニーズ調査 ～自分自身や学校・地域とのかかわりを見つめなおしてみよう～ 【E-1】	
9 多摩市子ども・若者支援に関する調査【E-2】	
10 多摩市子ども・若者支援に関する調査（関係機関用）【E-3】	

I 調査の概要

1 調査の目的

本市では、令和2年3月に「多摩市子ども・子育て・若者プラン～第2期多摩市子ども・子育て支援事業計画～」を策定し、子育て・子育てのための様々な支援に取り組んでいます。

令和7年3月の次期計画策定にあたっては、こどもの最善の利益を第一に考え、「こどもまんなか社会」を実現していくために、「こども基本法」に基づく、「こども計画」と「子ども・子育て支援事業計画」を一体的に策定することを予定しています。

また、これまでの多摩市自治基本条例に基づく市民主体のまちづくりや、誰もが健やかで幸せを実感する健幸都市・多摩市の実現に向けた取組をさらに進め、子ども・若者を誰一人取り残さず、大切に作るまち・多摩市の実現を目指すため、「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」の理念を包含する計画とする予定です。

本調査は、(仮称)多摩市子ども・子育てに関する計画の策定に係る基礎資料として、就学前児童・小学生の保護者、中高生世代に加え、子どもや若者世代、ひとり親世帯、関係機関を対象に、子育て状況、教育・保育ニーズ、子育て支援サービスの利用状況、子ども・若者の意識、暮らし向きや困窮状況等について幅広く現状を把握するために実施しました。

2 調査対象

番号	調査の種類	対象者
A-1	多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（未就学児用）	就学前の子どもがいる世帯から無作為抽出
A-2	多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（小学生用）	多摩市内の公立小学校に通う2年生、4年生の保護者の方
A-3	多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（中高生世代用）	多摩市の住民基本台帳に登録されている12歳～17歳の方(令和5年4月1日時点)から無作為抽出
B	多摩市若者ニーズ調査	多摩市の住民基本台帳に登録されている15歳～39歳(令和5年4月1日時点)の方から無作為抽出
C-1	多摩市子どもの生活実態調査（保護者用）	児童扶養手当受給世帯の世帯主
C-2	多摩市子どもの生活実態調査（中高生世代用）	児童扶養手当受給者の最年長の子1名（12～17歳(令和5年4月1日時点)）
D	多摩市少子化に関する実態・意識調査	多摩市の住民基本台帳に登録されている（令和5年4月1日現在）15歳から59歳までの方から無作為抽出
E-1	多摩市子どもニーズ調査～自分自身や学校・地域とのかかわりを見つめなおしてみよう～	市内公立小学校・中学校に通う小学5年生から中学3年生の児童・生徒
E-2	多摩市子ども・若者支援に関する調査	多摩市の住民基本台帳に登録されている、40歳～69歳（令和5年4月1日時点）の人から無作為抽出
E-3	多摩市子ども・若者支援に関する調査（関係機関用）	子ども・若者支援に携わる関係機関の職員（市の担当部署や民間団体・施設等の職員）

3 調査期間

令和5年10月から令和6年2月

4 調査方法

郵送配付・郵送回収及びインターネット回答

5 回収状況

	配 布 数	有効回答数	有効回答率
多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（未就学児用）	1,500 通	770 通	51.3%
多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（小学生用）	2,209 通	1,054 通	47.7%
多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（中高生世代用）	1,200 通	478 通	39.8%
多摩市若者ニーズ調査	2,500 通	602 通	24.1%
多摩市子どもの生活実態調査（保護者用）	667 通	252 通	37.8%
多摩市子どもの生活実態調査（中高生世代用）	421 通	109 通	25.9%
多摩市少子化に関する実態・意識調査	2,000 通	625 通	31.3%
多摩市子どもニーズ調査 ～自分自身や学校・地域とのかかわりを見つめなおしてみよう～	5,342 通	4,338 通	81.2%
多摩市子ども・若者支援に関する調査	1,000 通	356 通	35.6%
多摩市子ども・若者支援に関する調査（関係機関用）	332 通	152 通	45.8%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。
- ・選択肢ごとの経年比較について、過去の調査で同じ選択肢がないものは記載していません。
- ・記述回答の部分については、いただいた意見を推敲し、主な意見を抜粋して掲載しています。
- ・無回答の比率が多い設問については、無回答を除いた項目ごとの比率を記載し、無回答を「-」と表記しています。

Ⅱ 調査結果

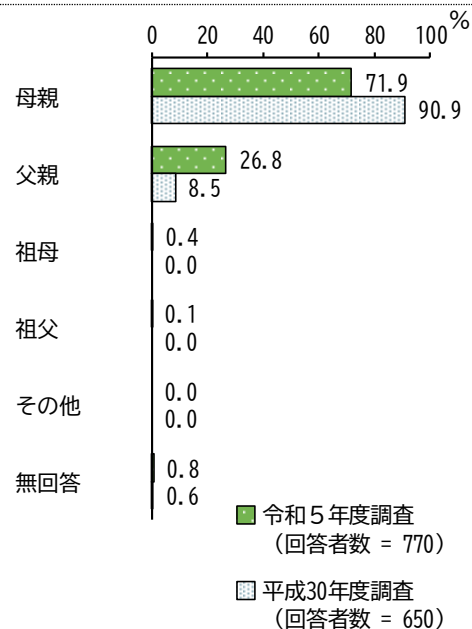
1 多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（未就学児用）【A-1】

（1）お子さんとお家族の状況について

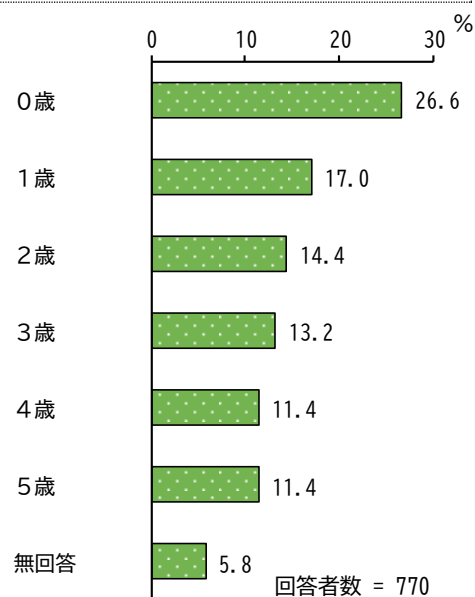
問1 ご回答いただく方は、お子さんからみて次のどの関係にあたりますか。
（○は1つ）

「母親」の割合が71.9%と最も高く、次いで
「父親」の割合が26.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「母親」の割合が減少した一方、「父親」の割合が増加しています。



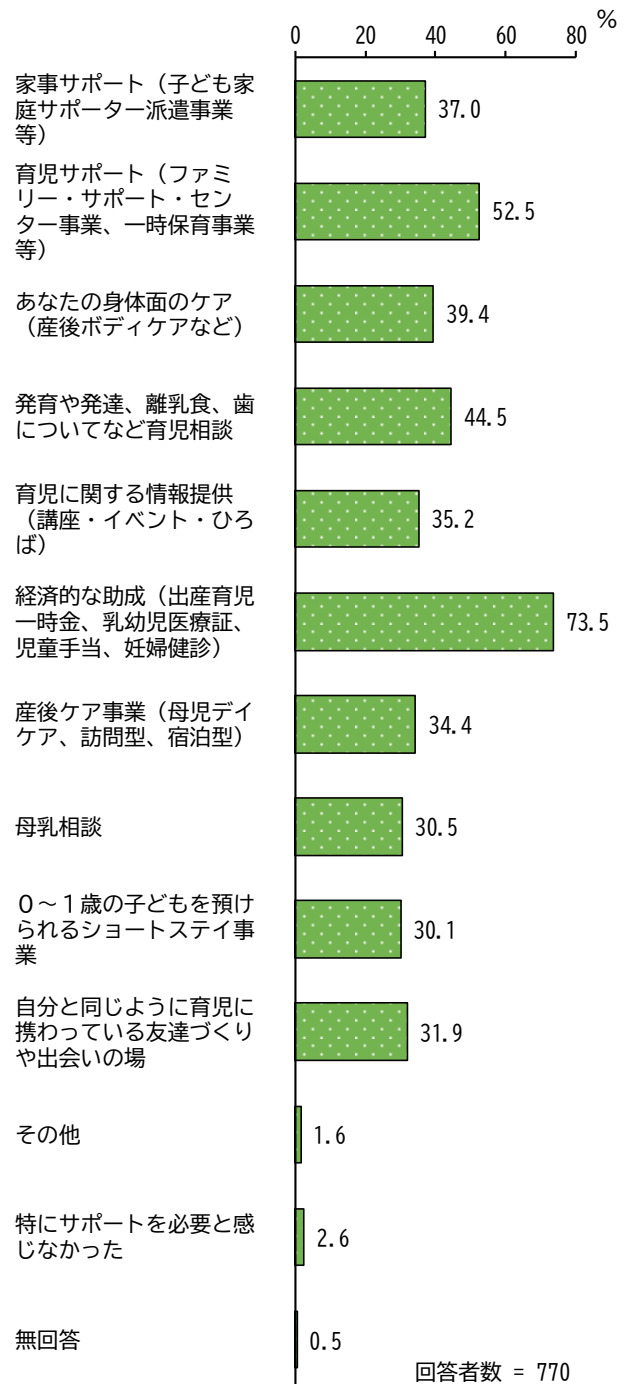
問2 お子さんの生年月を四角枠の中に数字でご回答ください。※元号は、「平成」「令和」の該当する方に○をしてください。※未就学のお子さんが複数人いる場合は、1番下のお子さんの生年月を回答してください。



(2) 子育てに関する情報について

問3 妊娠中や出産後に必要と感じたサポートはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

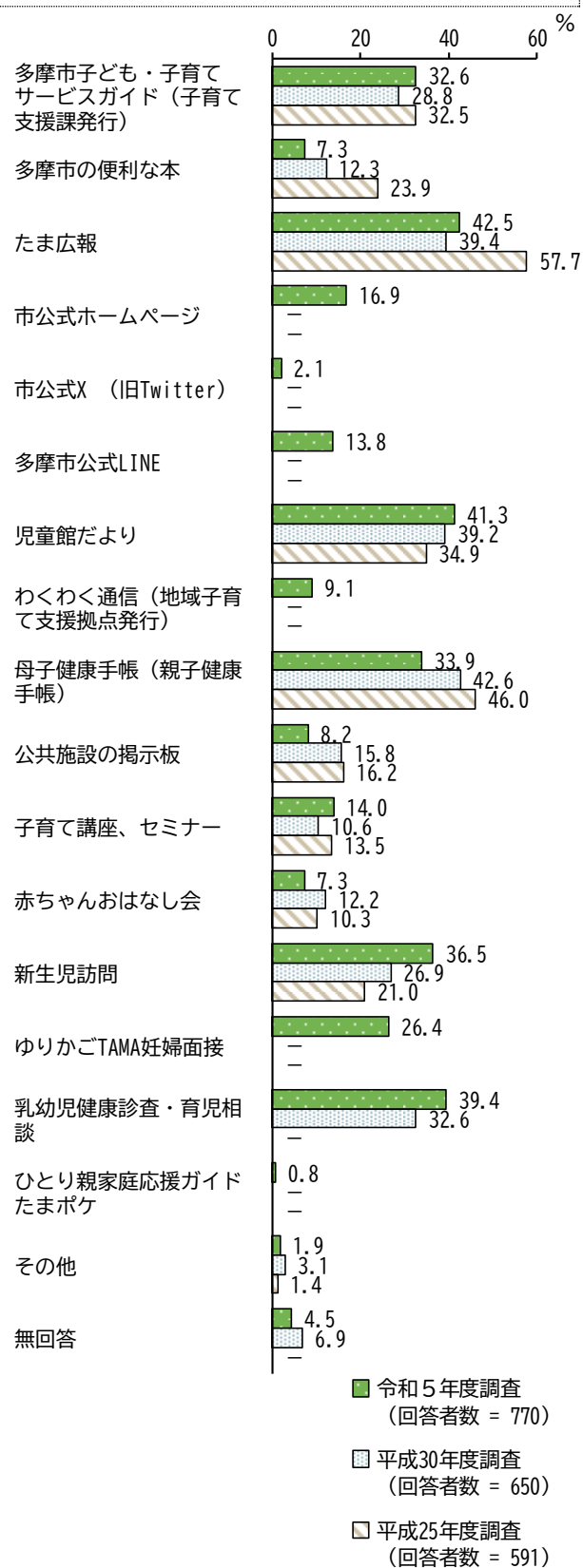
「経済的な助成（出産育児一時金、乳幼児医療証、児童手当、妊婦健診）」の割合が 73.5%と最も高く、次いで「育児サポート（ファミリー・サポート・センター事業、一時保育事業等）」の割合が 52.5%、「発育や発達、離乳食、歯についてなど育児相談」の割合が 44.5%となっています。



問4 市の発行物または市が発信する情報の中で、子育てに関する情報を得るのに役立ったものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「たま広報」の割合が 42.5%と最も高く、次いで「児童館だより」の割合が 41.3%、「乳幼児健康診査・育児相談」の割合が 39.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「新生児訪問」「乳幼児健康診査・育児相談」の割合が増加しています。一方、「多摩市の便利な本」「母子健康手帳（親子健康手帳）」「公共施設の掲示板」の割合が減少しています。



※令和5年度調査で、「多摩市公式 LINE」「わくわく通信 (地域子育て支援拠点発行)」「ゆりかご TAMA 妊婦面接」「ひとり親家庭応援ガイドたまボケ」の選択肢を追加しています。

※平成 30 年度調査では、「市公式ホームページ」「市公式 X (旧 Twitter)」が 1 つの選択肢でした。

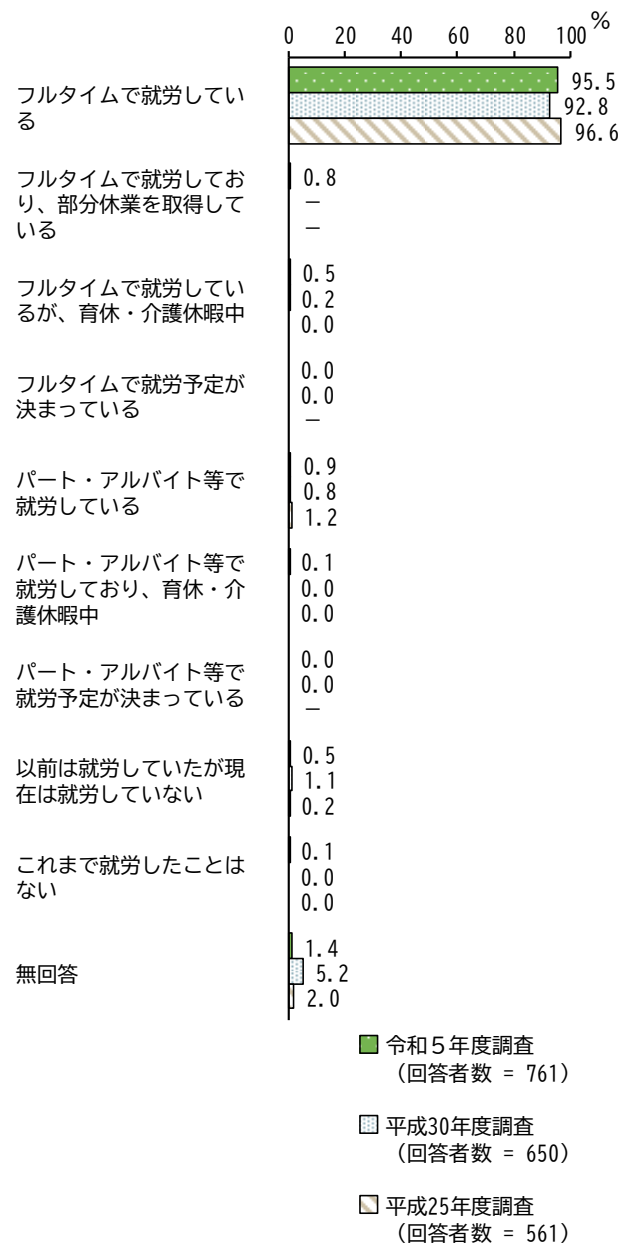
(3) お子さんの保護者の就労状況について

問5 お子さんの父親、母親の現在の働き方（自営業、家族従事者を含む）は次のどれにあたりますか。父親、母親それぞれ1～9のうちあてはまる番号1つに○をつけてください。

(ア) 父親【母子家庭・両親不在の場合は回答不要です】

「フルタイムで就労している」の割合が

95.5%と最も高くなっています。



※令和5年度調査で、「フルタイムで就労しており、部分休業を取得している」の選択肢を追加しています。

※平成30年度調査で、「フルタイムで就労予定が決まっている」「パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」の選択肢を追加しています。

【「1. フルタイムで就労している」から「7. パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」と答えた方にお伺いします】

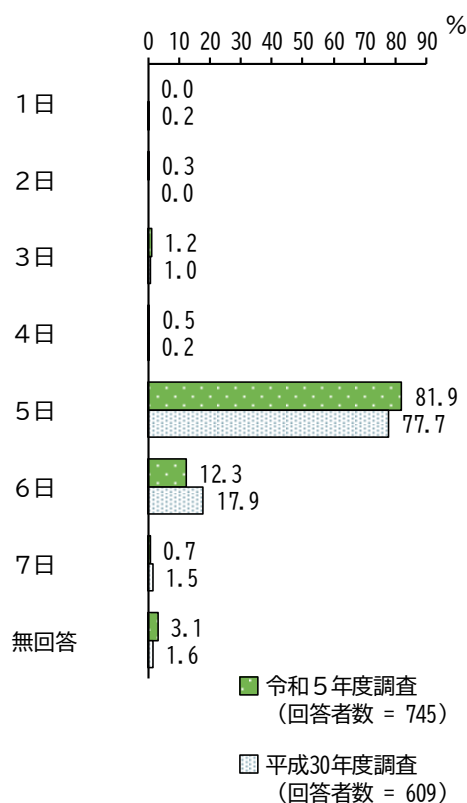
問5-1 1週あたりの平均的な「就労日数」、1日あたりの平均的な「就労時間」をお答えください。育休・介護休暇中の方は休業に入る前の状況についてお答えください。

< 1週あたりの就労日数 >

「5日」の割合が81.9%と最も高く、次いで

「6日」の割合が12.3%となっています。

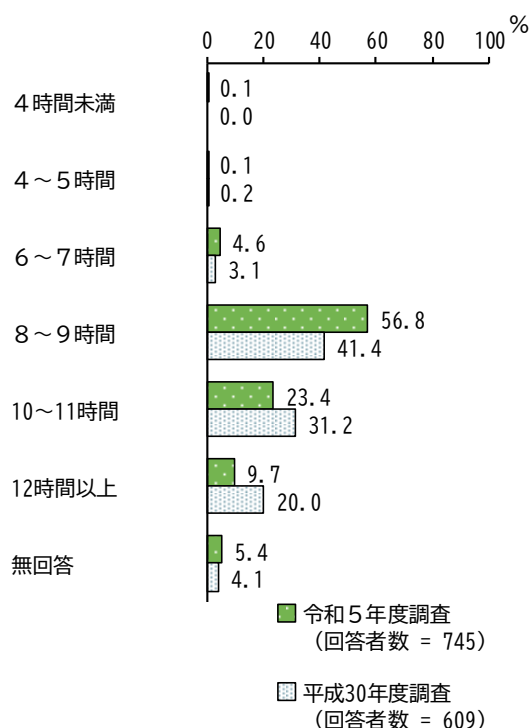
平成30年度調査と比較すると、「5日」の割合が増加し、6日以上の割合が減少しています。



< 1日あたりの就労時間 >

「8～9時間」の割合が56.8%と最も高く、次いで「10～11時間」の割合が23.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、9時間以下の割合が増加しています。一方、10時間以上の割合が減少しています。

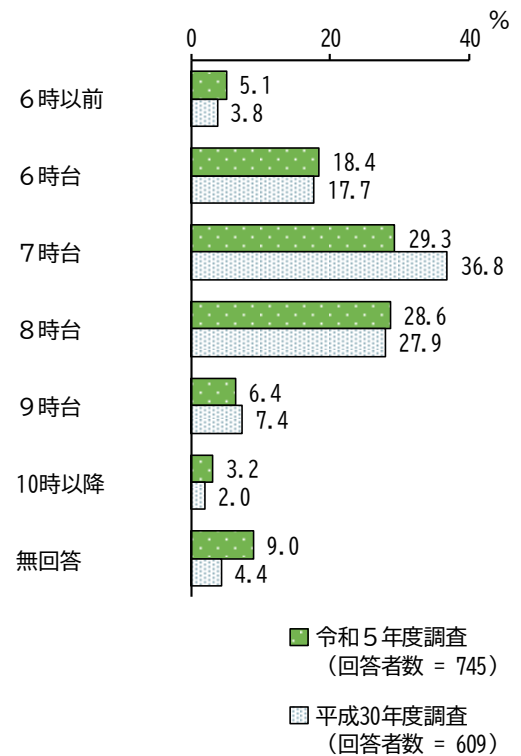


A-1 未就学児用

<家を出る時刻>

「7時台」の割合が29.3%と最も高く、次いで「8時台」の割合が28.6%、「6時台」の割合が18.4%となっています。

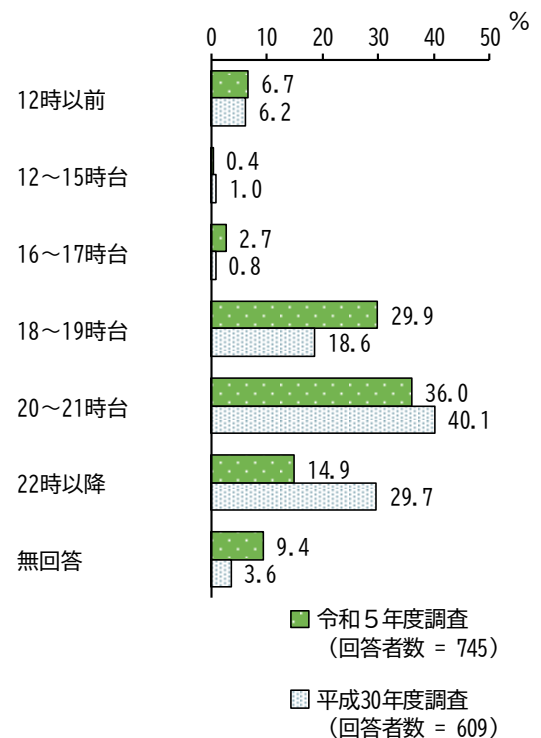
平成30年度調査と比較すると、「7時台」の割合が減少しています。



<平均帰宅時刻>

「20～21時台」の割合が36.0%と最も高く、次いで「18～19時台」の割合が29.9%、「22時以降」の割合が14.9%となっています。

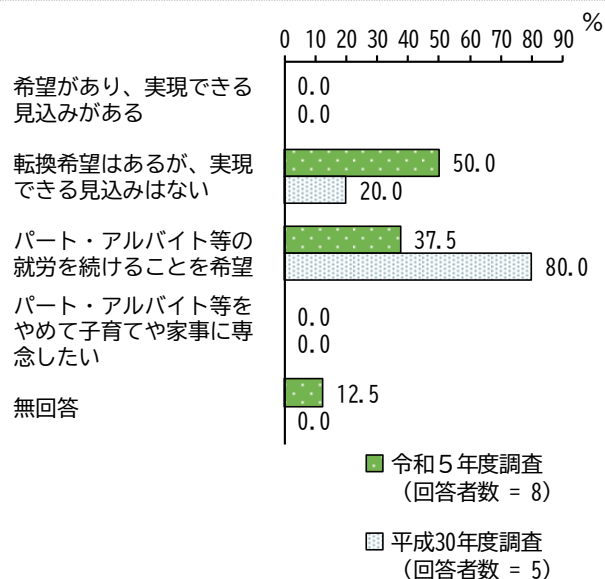
平成30年度調査と比較すると、20時より前の割合が増加し、20時以降の割合が減少しています。



【「5. パート・アルバイト等で就労している」から「7. パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」と答えた方にお伺いします】

問5-2 フルタイムへの転換希望はありますか。(○は1つ)

「転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が4件となっています。「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が3件となっています。

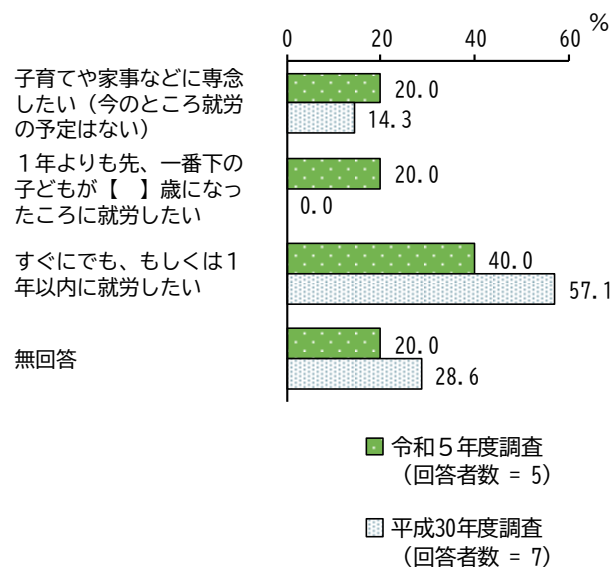


【「8. 以前は就労していたが現在は就労していない」「9. これまで就労したことはない」と答えた方にお伺いします】

問5-3 就労したいという希望はありますか。(○は1つ) 併せて【 】内に数字をご記入ください

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が2件となっています。「子育てや家事などに専念したい(今のところ就労の予定はない)」、「1年よりも先、一番下の子どもが【 】歳になったところに就労したい」が1件となっています。

就労を希望する時の子の年齢は、7歳が1件となっています。また、希望する就労形態は「フルタイム」が2件となっています。

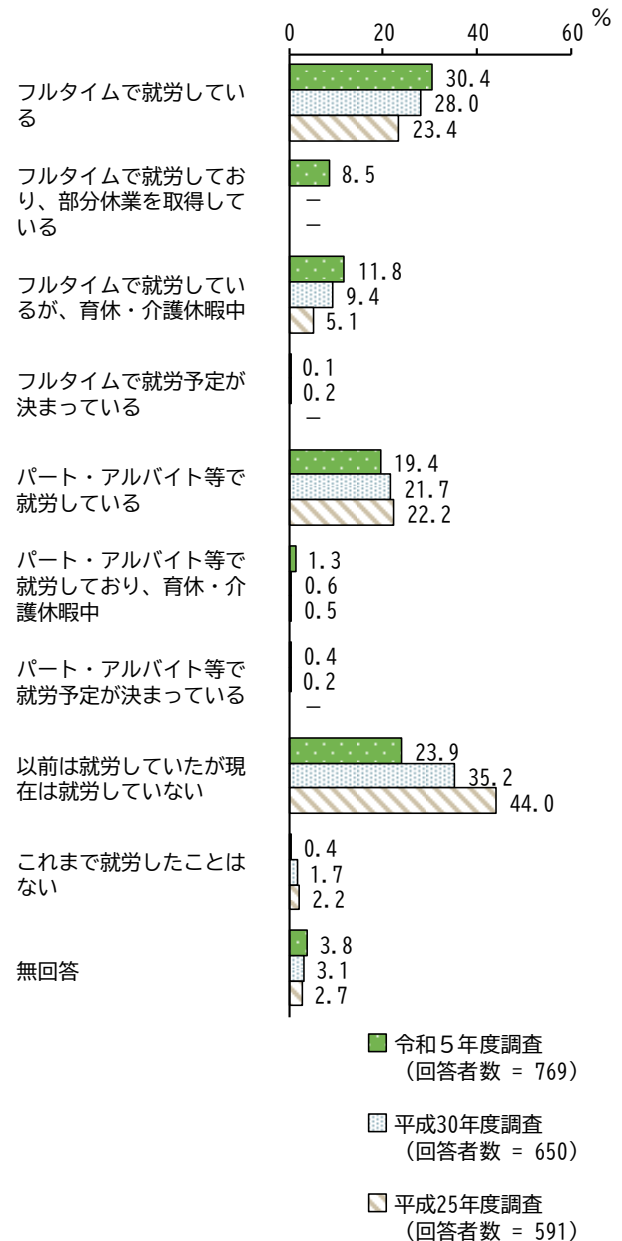


A-1 未就学児用

(イ) 母親【父子家庭・両親不在の場合は記入不要です】

「フルタイムで就労している」の割合が30.4%と最も高く、次いで「以前は就労していたが現在は就労していない」の割合が23.9%、「パート・アルバイト等で就労している」の割合が19.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「フルタイムで就労している」「フルタイムで就労しているが、育休・介護休暇中」の割合が若干増加し、「以前は就労していたが現在は就労していない」の割合が減少しています。



※令和5年度調査で、「フルタイムで就労しており、部分休業を取得している」の選択肢を追加しています。

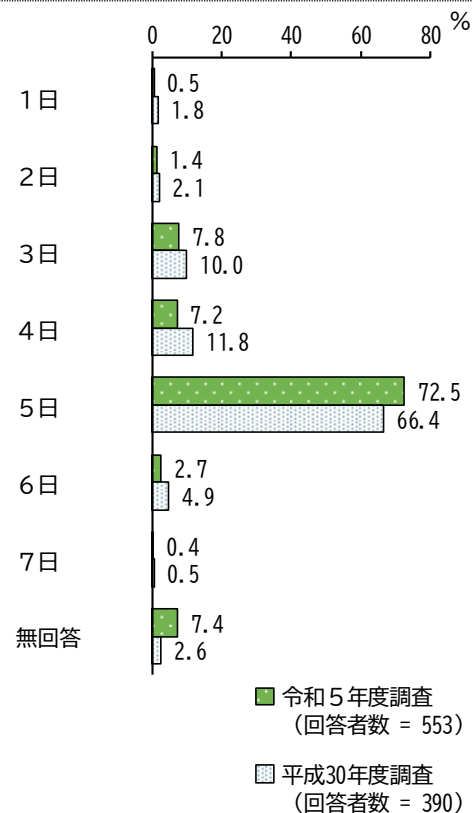
※平成30年度調査で、「フルタイムで就労予定が決まっている」「パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」の選択肢を追加しています。

【「1. フルタイムで就労している」から「7. パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」と答えた方すべてにお伺いします】

問5-4 1週あたりの平均的な「就労日数」、1日あたりの平均的な「就労時間」をお答えください。育休・介護休暇中の方は休業に入る前の状況についてお答えください。

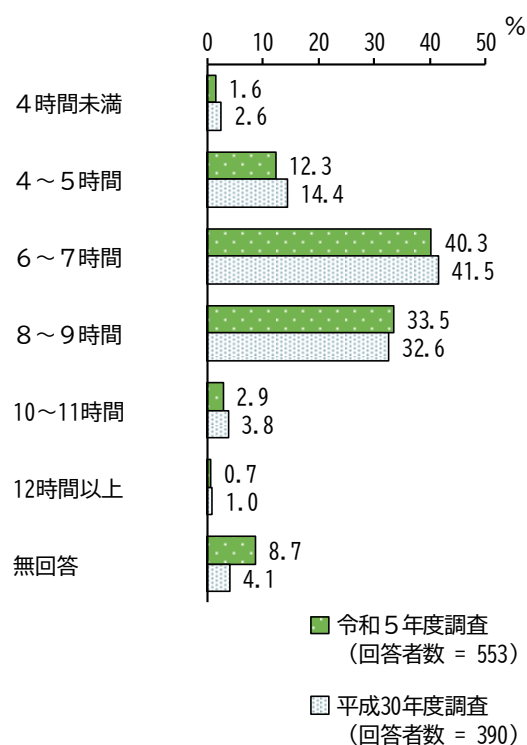
< 1週あたりの就労日数 >

「5日」の割合が72.5%と最も高くなっています。



< 1日あたりの就労時間 >

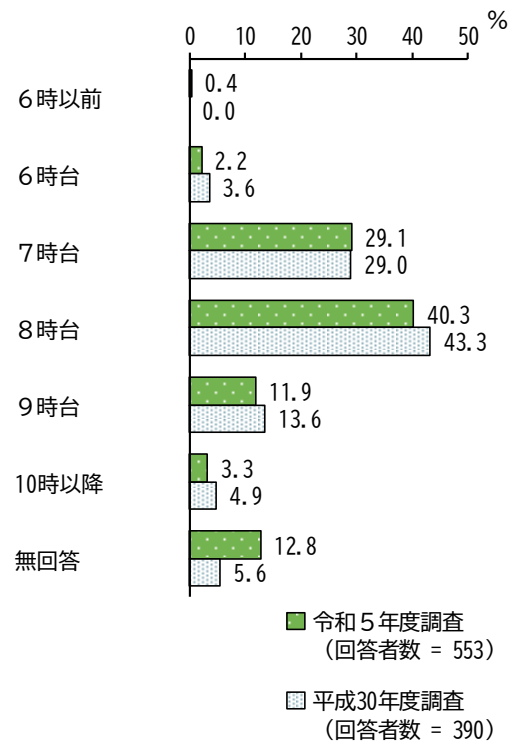
「6～7時間」の割合が40.3%と最も高く、次いで「8～9時間」の割合が33.5%、「4～5時間」の割合が12.3%となっています。



A-1 未就学児用

<家を出る時刻>

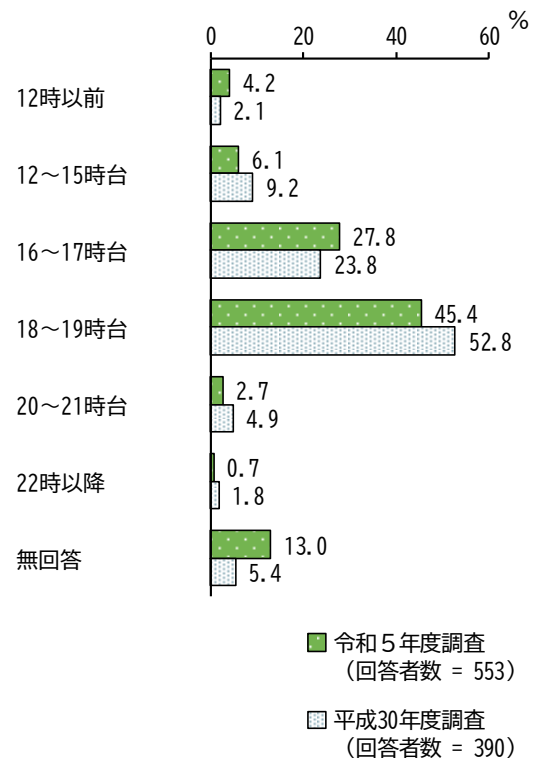
「8時台」の割合が40.3%と最も高く、次いで「7時台」の割合が29.1%、「9時台」の割合が11.9%となっています。



<平均帰宅時刻>

「18～19時台」の割合が45.4%と最も高く、次いで「16～17時台」の割合が27.8%となっています。

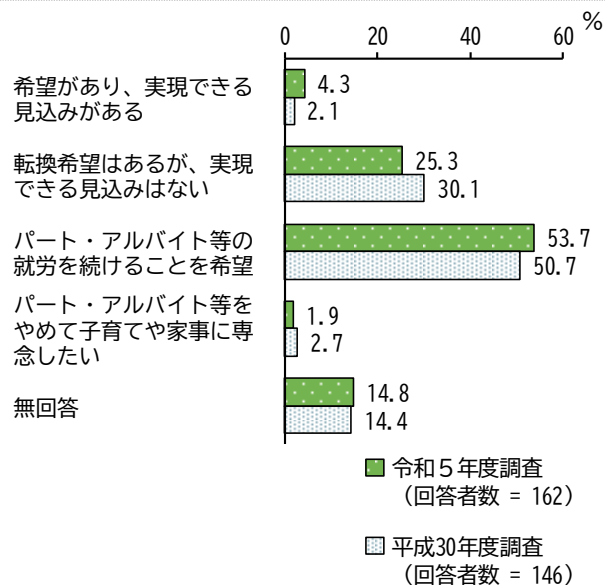
平成30年度調査と比較すると、18時以降の割合が減少しています。



【「5. パート・アルバイト等で就労している」から「7. パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」と答えた方にお伺いします】

問5-5 フルタイムへの転換希望はありますか。(○は1つ)

「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」の割合が53.7%と最も高く、次いで「転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合が25.3%となっています。

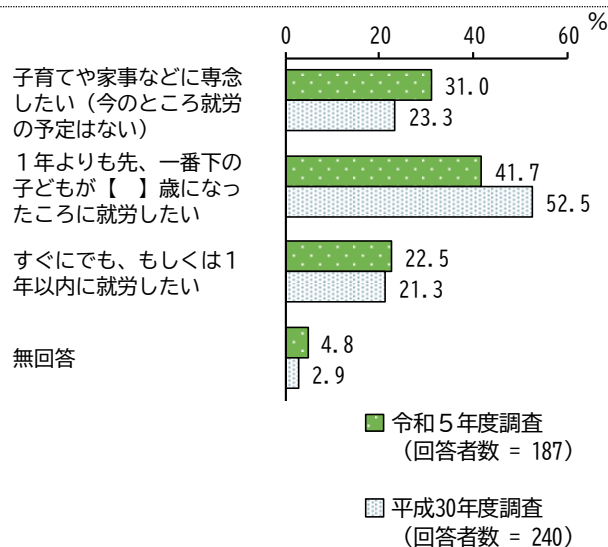


【「8. 以前は就労していたが現在は就労していない」「9. これまで就労したことはない」と答えた方にお伺いします】

問5-6 就労したいという希望はありますか。(○は1つ) 併せて【 】内に数字をご記入ください

「1年よりも先、一番下の子どもが【 】歳になったところに就労したい」の割合が41.7%と最も高く、次いで「子育てや家事などに専念したい(今のところ就労の予定はない)」の割合が31.0%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が22.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「子育てや家事などに専念したい(今のところ就労の予定はない)」の割合が増加しています。一方、「1年よりも先、一番下の子どもが【 】歳になったところに就労したい」の割合が減少しています。

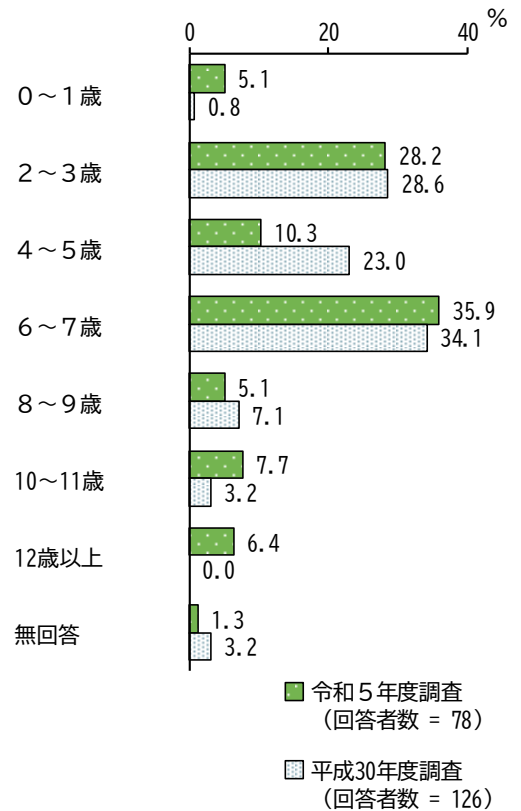


A-1 未就学児用

<就労を希望する時の子の年齢>

「6～7歳」の割合が35.9%と最も高く、次いで「2～3歳」の割合が28.2%、「4～5歳」の割合が10.3%となっています。

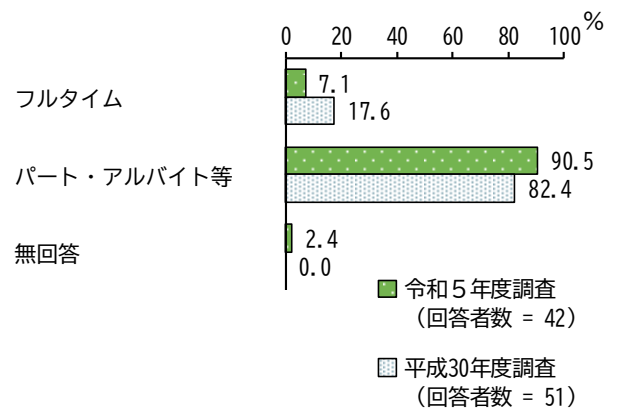
平成30年度調査と比較すると、「4～5歳」の割合が減少している一方で、「0～1歳」「10～11歳」「12歳以上」の割合が増加しています。



<希望する就労形態>

「フルタイム」の割合が7.1%、「パート・アルバイト等」の割合が90.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「パート・アルバイト等」の割合が増加しています。一方、「フルタイム」の割合が減少しています。



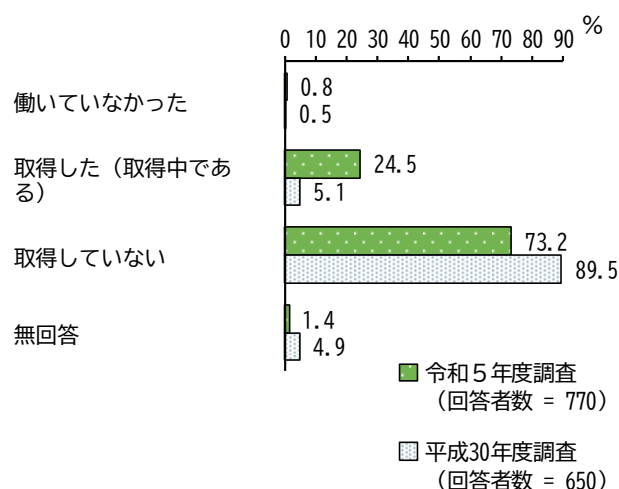
(4) お子さんの保護者の育児休業取得状況について

問6 お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。(母親、父親それぞれ○は1つ) また、「取得していない」とお答えの方はその理由をご回答ください。

<父親>

「取得していない」の割合が73.2%と最も高く、次いで「取得した(取得中である)」の割合が24.5%となっています。

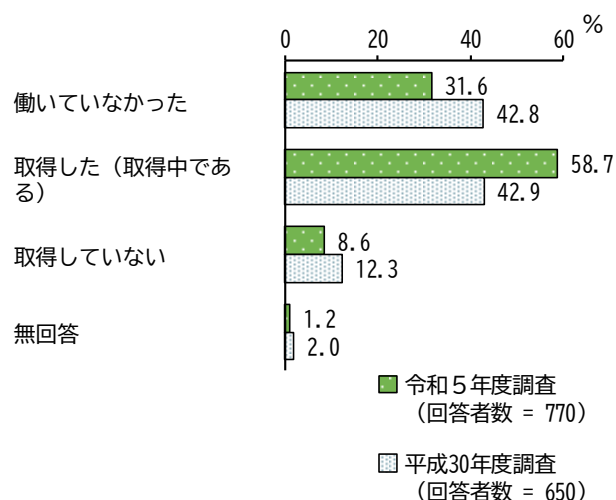
平成30年度調査と比較すると、「取得した(取得中である)」の割合が増加しています。一方、「取得していない」の割合が減少しています。



<母親>

「取得した(取得中である)」の割合が58.7%と最も高く、次いで「働いていなかった」の割合が31.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「取得した(取得中である)」の割合が増加しています。一方、「働いていなかった」の割合が減少しています。



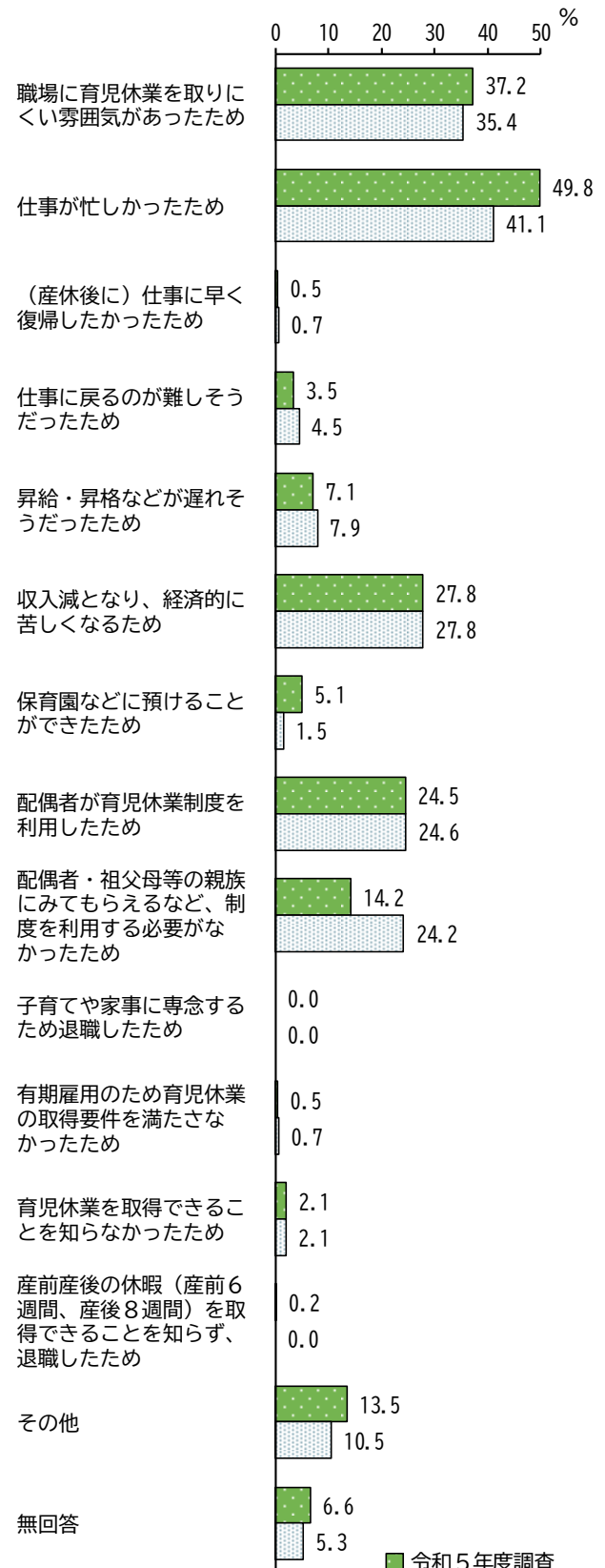
【問6で父親または母親について「3. 取得していない」と答えた方にお伺いします】

問6-1 「取得していない」とお答えの方は、その理由をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

<父親>

「仕事が忙しかったため」の割合が49.8%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったため」の割合が37.2%、「収入減となり、経済的に苦しくなるため」の割合が27.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「仕事が忙しかったため」「保育園などに預けることができたため」の割合が増加しています。一方、「配偶者・祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかったため」の割合が減少しています。



■ 令和5年度調査
(回答者数 = 564)

■ 平成30年度調査
(回答者数 = 528)

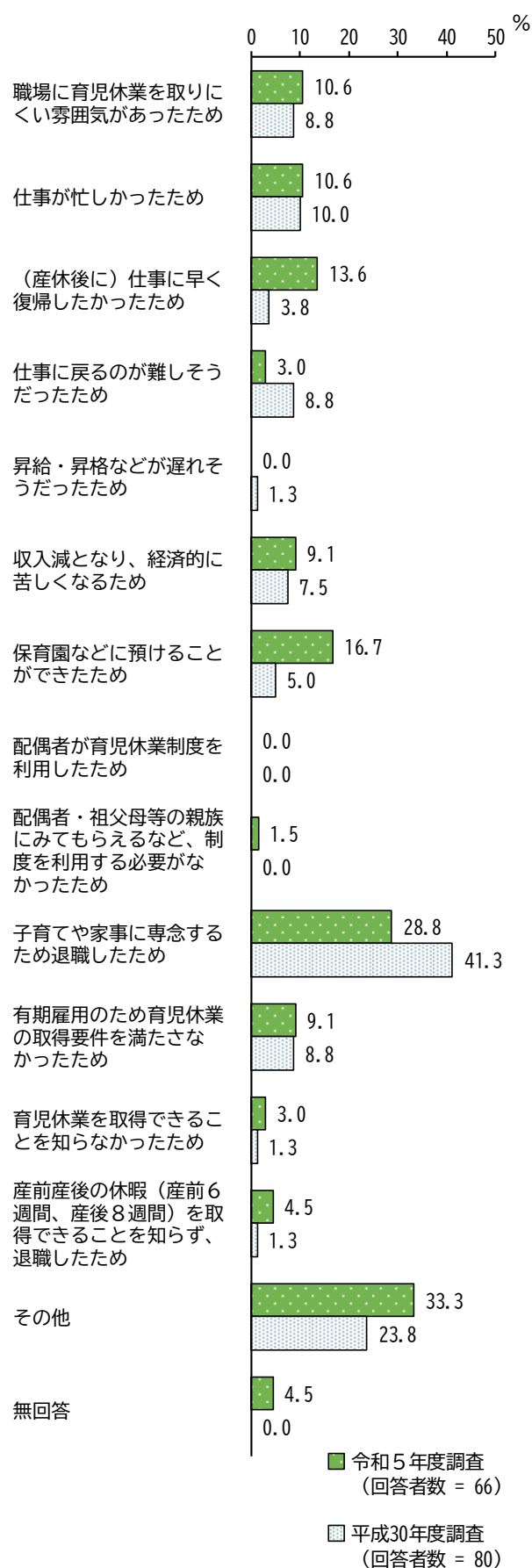
<母親>

「子育てや家事に専念するため退職したため」の割合が28.8%と最も高く、次いで「保育園などに預けることができたため」の割合が16.7%、「(産休後に) 仕事に早く復帰したかったため」の割合が13.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「(産休後に) 仕事に早く復帰したかったため」「保育園などに預けることができたため」の割合が大幅に増加しています。一方、「仕事に戻るのが難しそうだったため」「子育てや家事に専念するため退職したため」の割合が減少しています。

主な「その他」意見

- ・自営業のため (18件)
- ・育児休業制度がなかったため (8件)
- ・取得するつもりがなかった (7件)
- ・申請したがとれなかったため (2件)

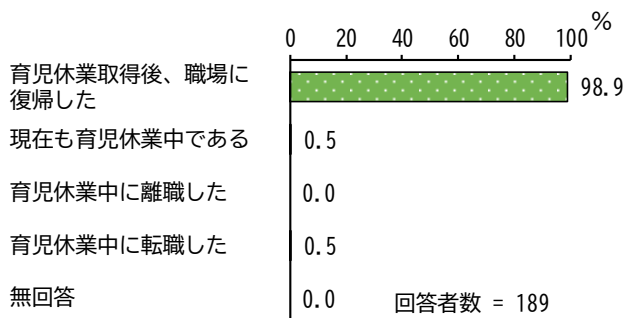


A-1 未就学児用

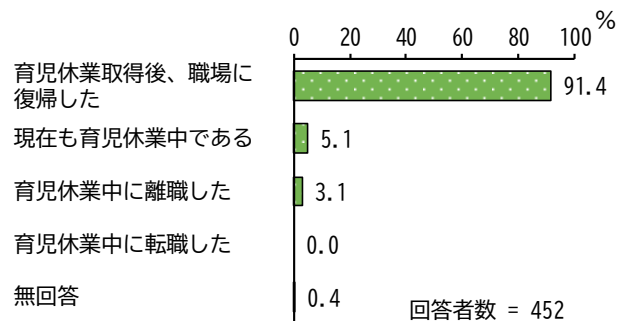
【問6で「2. 取得した（取得中である）」と答えた方にお伺いします】

問6-2 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（○は1つ）

<父親>



<母親>

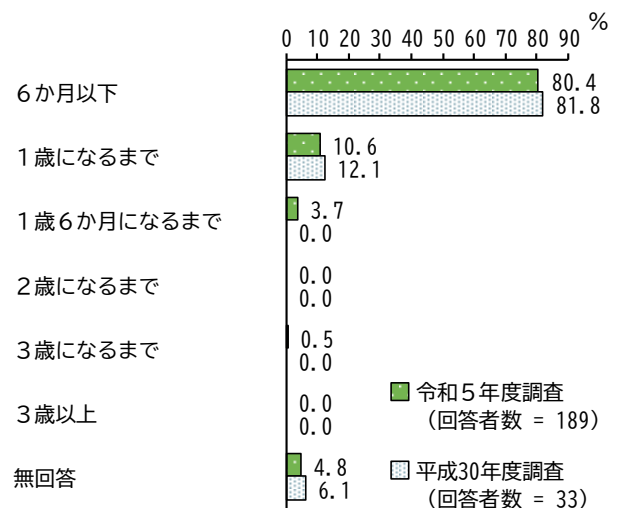


問6-3 お子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、希望として、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたいと思いましたか。【 】内に数字でご記入ください。

(1) 父親

<実際の復帰時期>

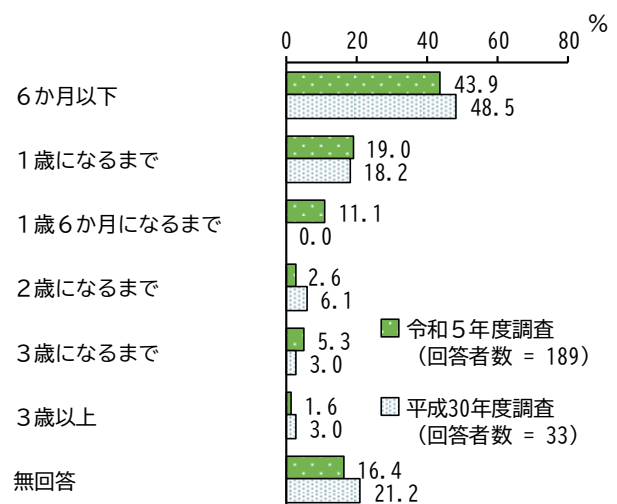
「6か月以下」の割合が80.4%と最も高く、次いで「1歳になるまで」の割合が10.6%となっています。



<希望していた復帰時期>

「6か月以下」の割合が43.9%と最も高く、次いで「1歳になるまで」の割合が19.0%、「1歳6か月になるまで」の割合が11.1%となっています。

実際の復帰時期と比較すると6か月以降に復帰を希望する割合が高い傾向です。

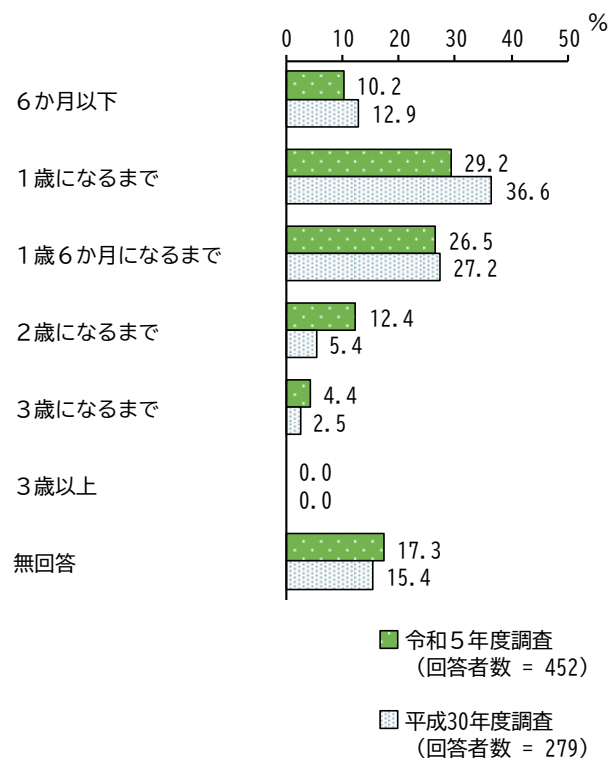


(2) 母親

<実際の復帰時期>

「1歳になるまで」の割合が29.2%と最も高く、次いで「1歳6か月になるまで」の割合が26.5%、「2歳になるまで」の割合が12.4%となっています。

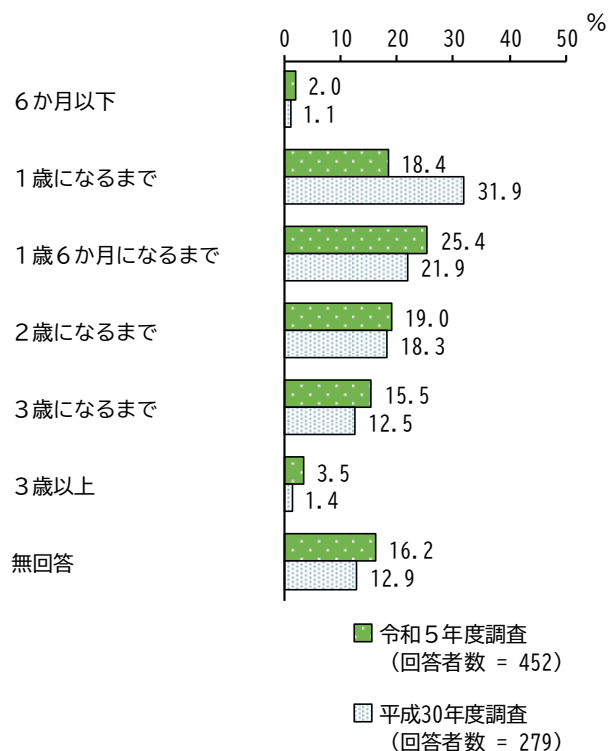
平成30年度調査と比較すると、1歳6か月以降に職場復帰した割合が増加しています。



<希望していた復帰時期>

「1歳6か月になるまで」の割合が25.4%と最も高く、次いで「2歳になるまで」の割合が19.0%、「1歳になるまで」の割合が18.4%となっています。

実際の復帰時期と比較すると2歳以降に職場復帰を希望する割合が高い傾向です。



【問6-3で希望の復帰時期と実際の復帰時期が異なる方にお伺いします】

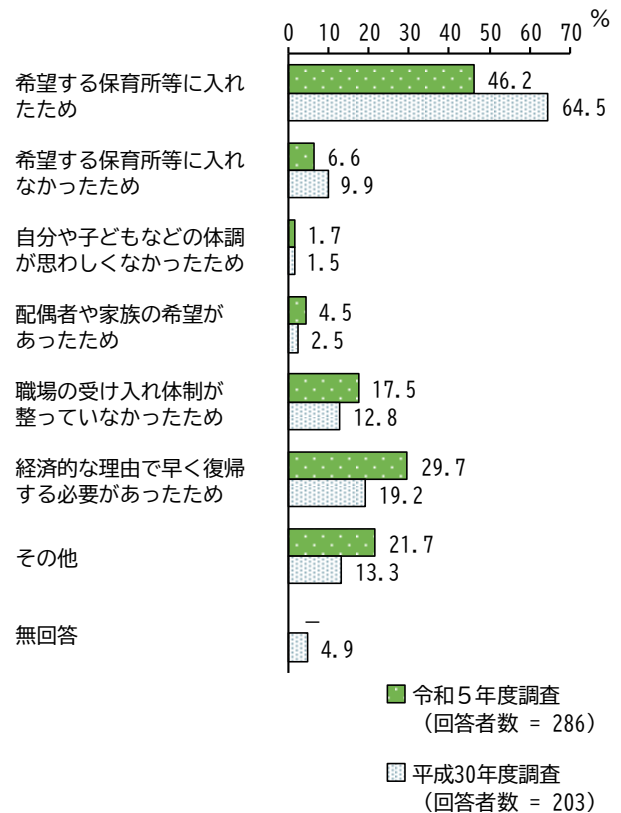
問6-4 希望と実際の復帰時期が異なった理由はどのようなことでしたか。
(あてはまるものすべてに○)

「希望する保育所等に入れたため」の割合が46.2%と最も高く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」の割合が29.7%、「職場の受け入れ体制が整っていなかったため」の割合が17.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」の割合が増加しています。

主な「その他」意見

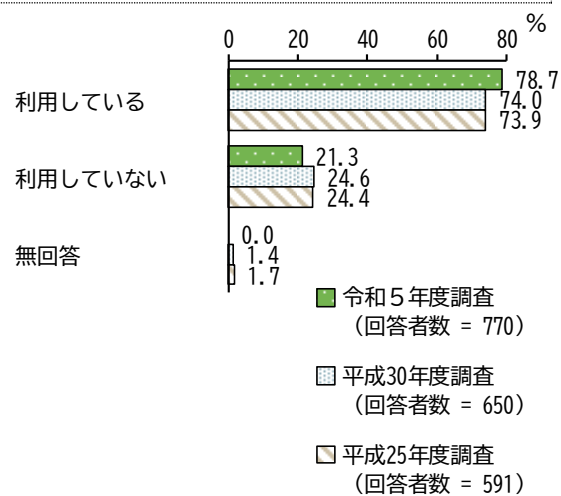
- ・0歳で入園しないと入れないと思ったから（10件）
- ・職場の人手不足のため（8件）



(5) お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

問7 お子さんは現在、幼稚園や保育園などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。(○は1つ)

「利用している」の割合が 78.7%、「利用していない」の割合が 21.3%となっています。



【問7で「1. 利用している」と答えた方にお伺いします】

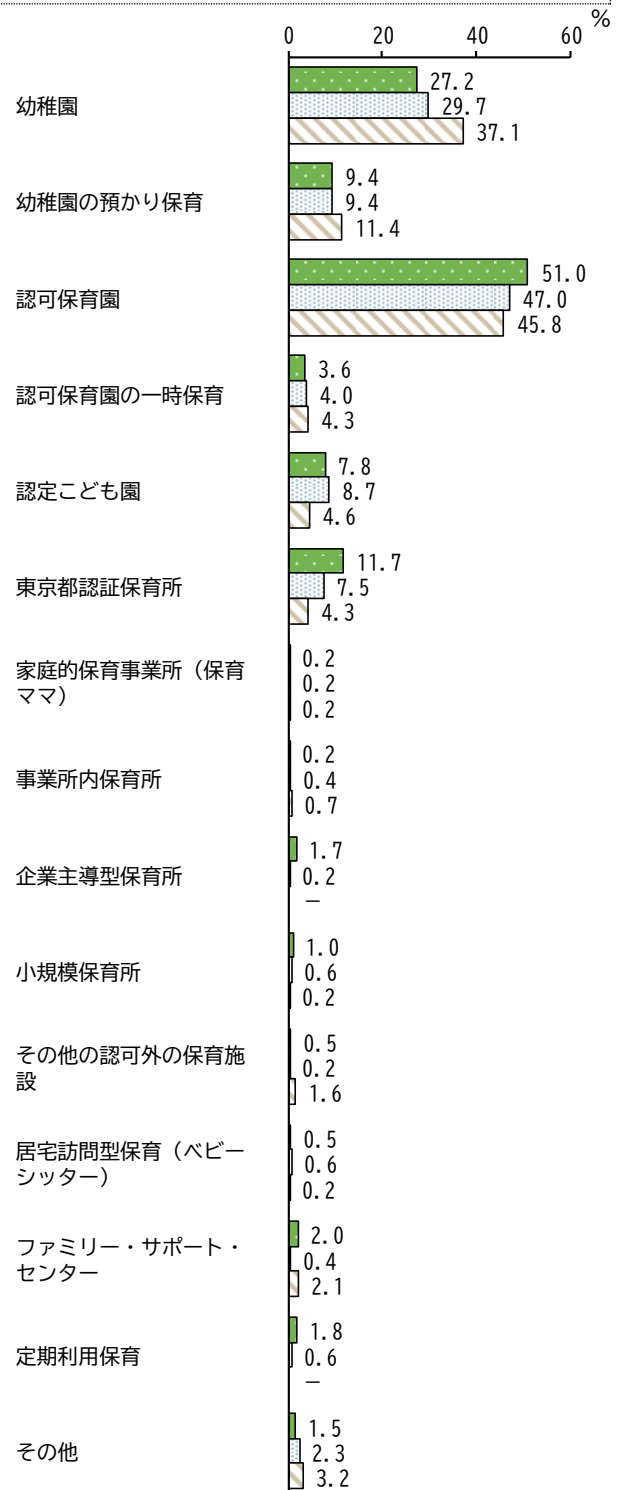
問7-1 お子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

「認可保育園」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が 27.2%、「東京都認証保育所」の割合が 11.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「幼稚園」の割合が減少している一方、「認可保育園」「東京都認証保育所」の割合が増加しています。

主な「その他」意見

- ・オリーブの一時保育 (2件)
- ・病児保育 (2件)
- ・ひまわり教室 (2件)



■ 令和5年度調査
(回答者数 = 606)

■ 平成30年度調査
(回答者数 = 481)

■ 平成25年度調査
(回答者数 = 437)

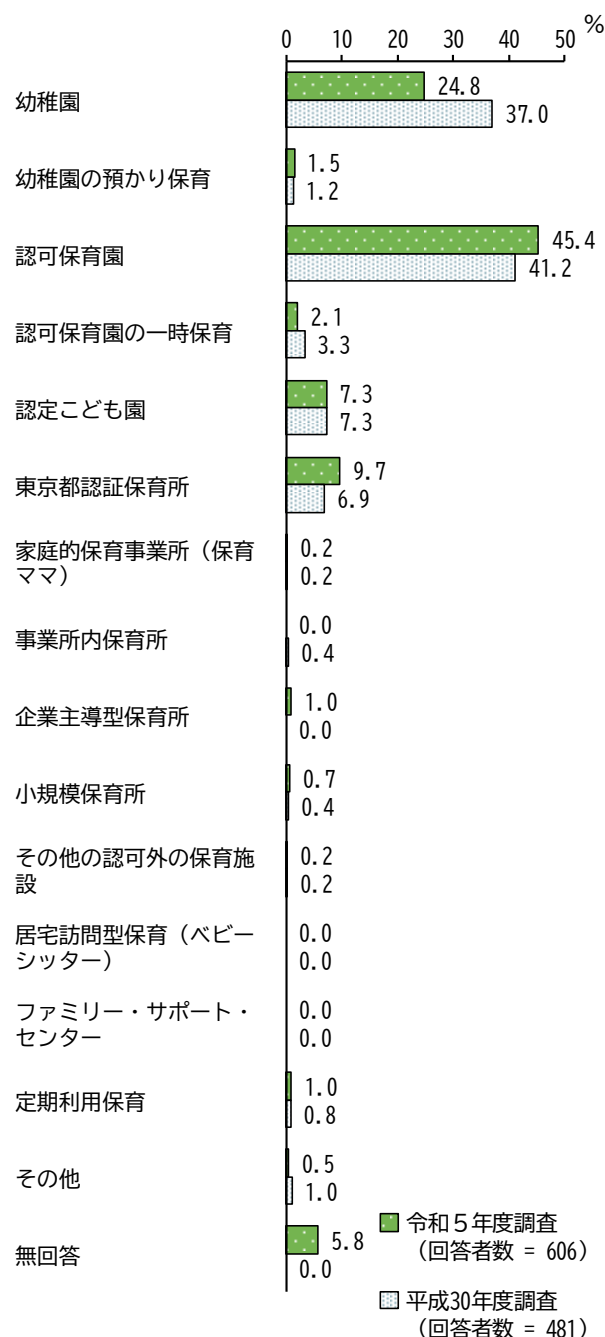
※平成 30 年度調査で、「企業主導型保育所」「定期利用保育」の選択肢を追加しています。

(A) 選んだ中で最も多く利用しているもの1つを選び数字をご記入ください。また、その利用場所について該当する番号1つに○をつけてください。

<最も多く利用しているもの>

「認可保育園」の割合が 45.4%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が 24.8%となっています。

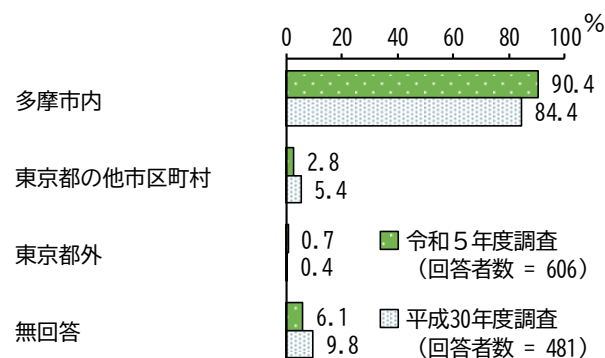
平成 30 年度調査と比較すると、「幼稚園」の割合が減少し、「認可保育園」「東京都認証保育所」の割合が若干増加しています。



<利用場所>

「多摩市内」の割合が 90.4%と最も高くなっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「多摩市内」の割合が増加しています。

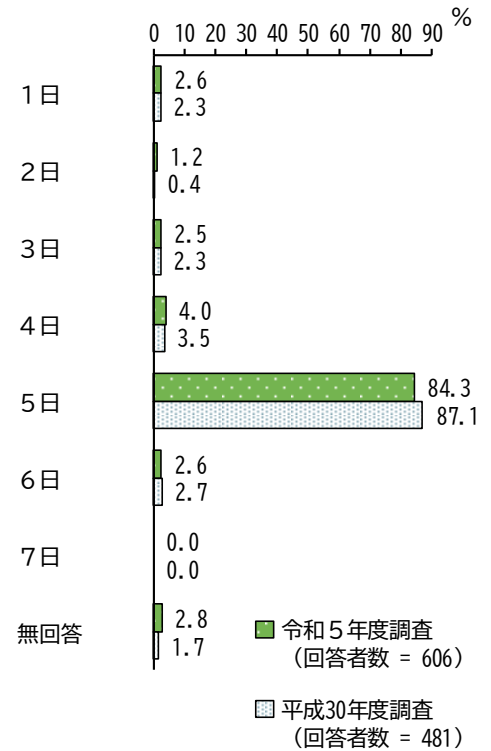


(B) (A) で選んだものは平日どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。1 週あたり何日、1 日あたり何時間（何時から何時まで）かを【 】内に具体的な数字でご記入ください。時間は 24 時間制でご記入ください。

< 1 週あたりの利用日数 >

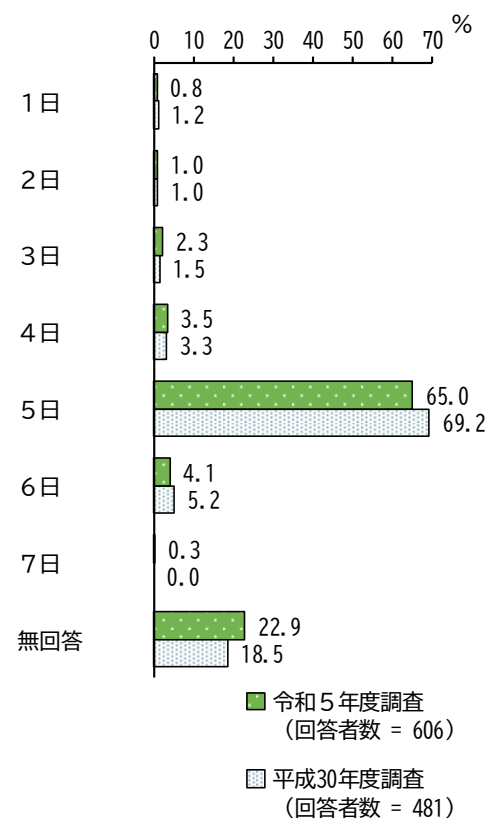
(現在)

「5 日」の割合が 84.3%と最も高くなっています。



(希望)

「5 日」の割合が 65.0%と最も高くなっています。

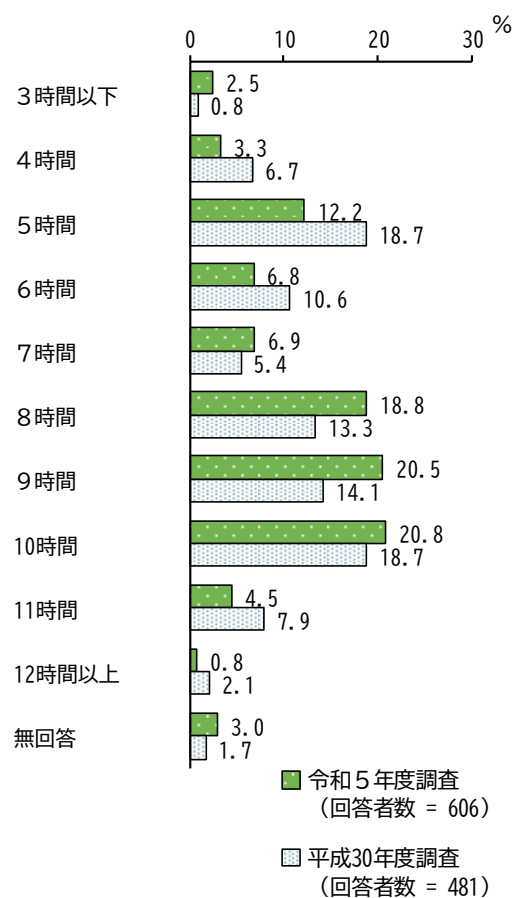


< 1日あたりの利用時間 >

(現在)

「10 時間」の割合が 20.8%と最も高く、次いで「9 時間」の割合が 20.5%、「8 時間」の割合が 18.8%となっています。

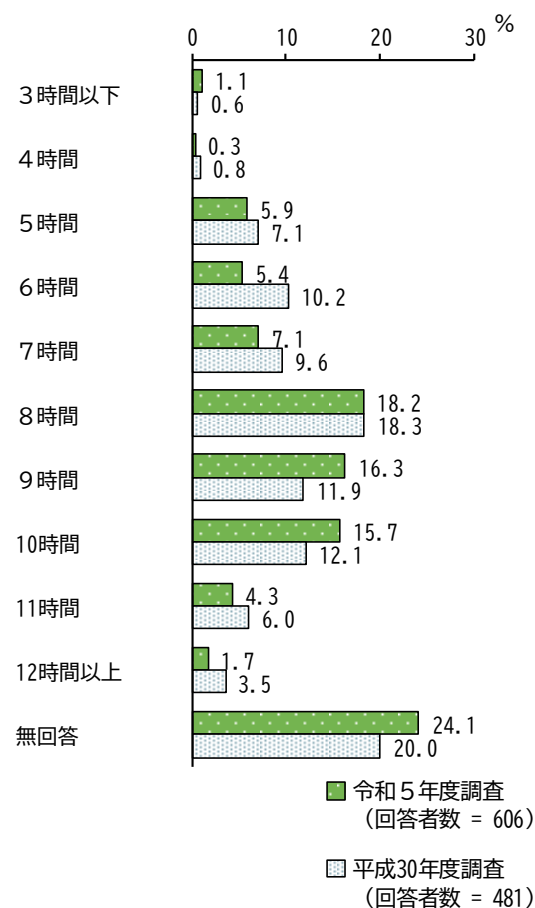
平成 30 年度調査と比較すると、8 時間から 10 時間の割合が増加しています。一方、6 時間以下の割合が減少しています。



(希望)

「8 時間」の割合が 18.2%と最も高く、次いで「9 時間」の割合が 16.3%、「10 時間」の割合が 15.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、5 時間から 7 時間での利用希望割合が減少し、「9 時間」「10 時間」の割合が増加しています。



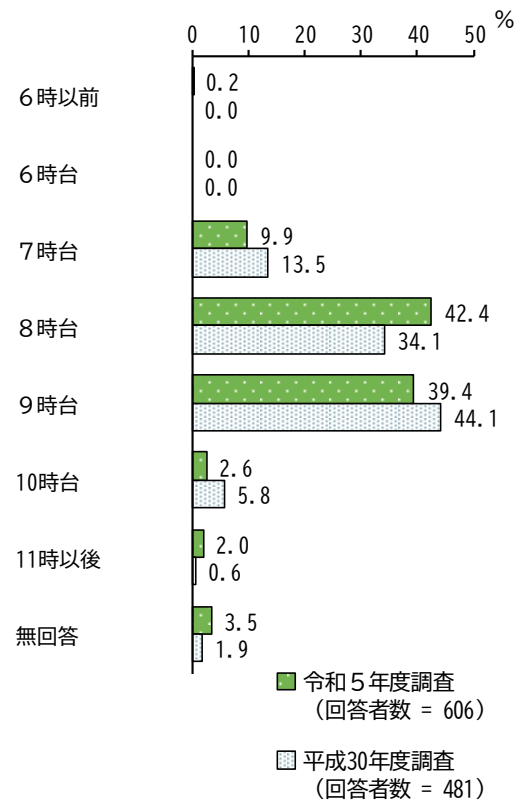
A-1 未就学児用

<利用開始時間>

(現在)

「8時台」の割合が42.4%と最も高く、次いで「9時台」の割合が39.4%となっています。

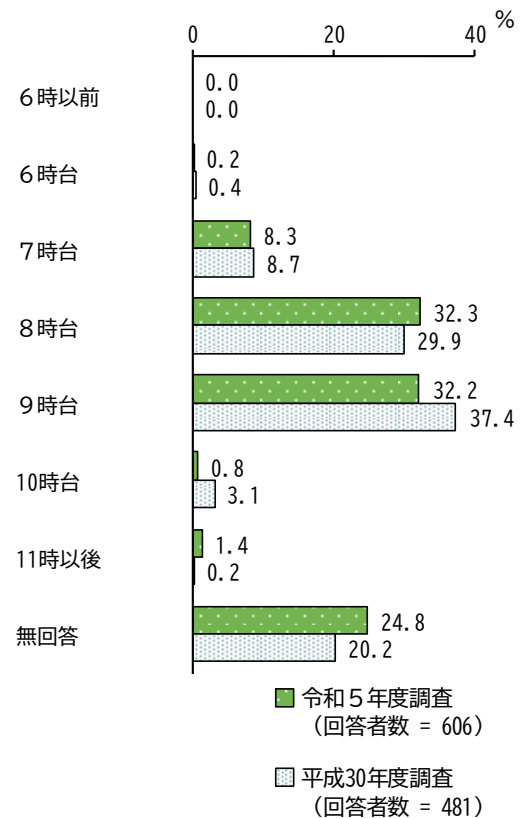
平成30年度調査と比較すると、「8時台」の割合が増加、「7時台」「9時台」の割合が減少しています。



(希望)

「8時台」の割合が32.3%と最も高く、次いで「9時台」の割合が32.2%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「9時台」の割合が減少し、「8時台」の割合が若干増加しています。

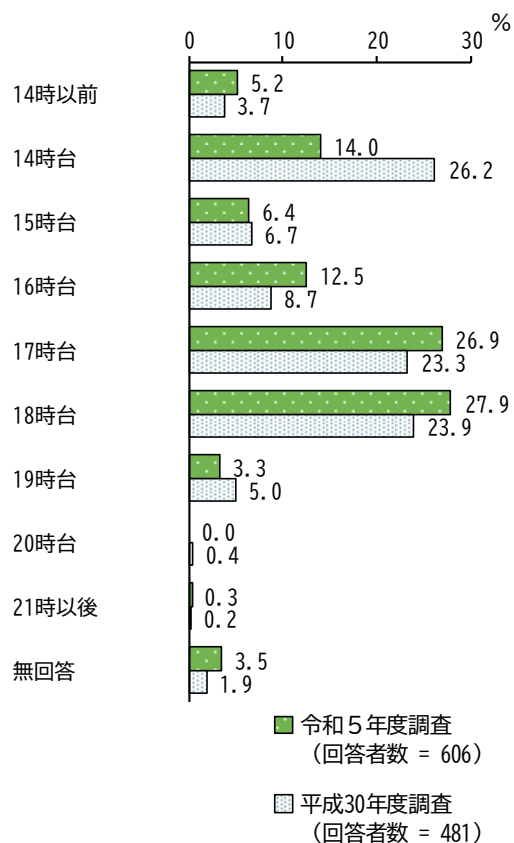


<利用終了時間>

(現在)

「18 時台」の割合が 27.9%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 26.9%、「14 時台」の割合が 14.0%となっています。

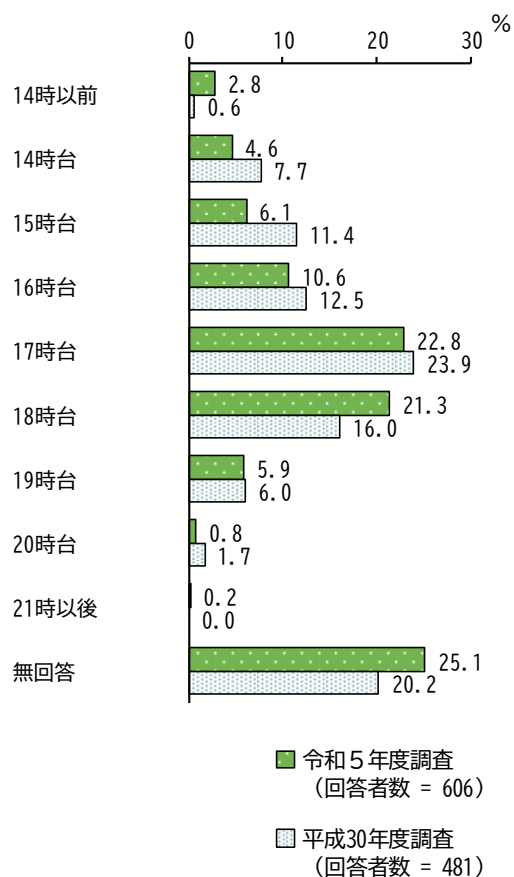
平成 30 年度調査と比較すると、16 時以前の割合が減少しており、利用終了時間が遅くなっている傾向が見られます。



(希望)

「17 時台」の割合が 22.8%と最も高く、次いで「18 時台」の割合が 21.3%、「16 時台」の割合が 10.6%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「18 時台」の割合が増加し、「14 時台」「15 時台」「16 時台」の割合が若干減少しています。



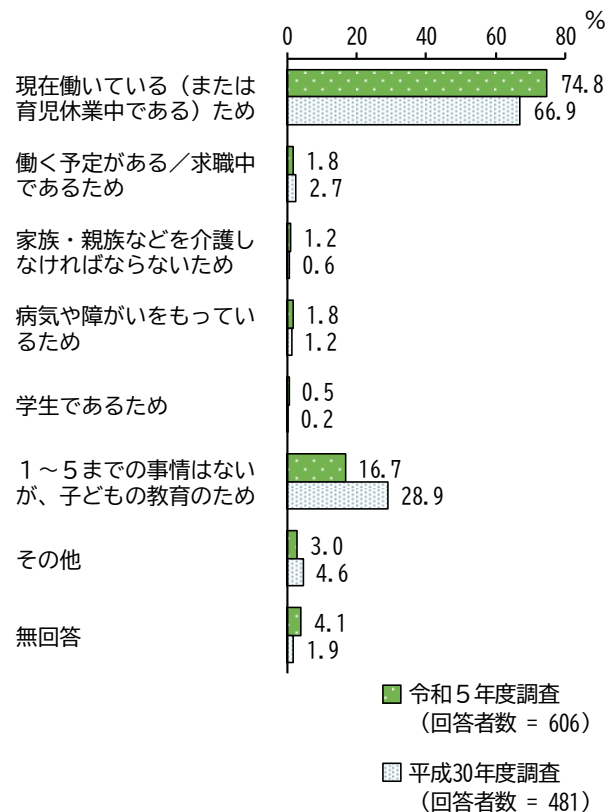
(C) (A) で選んだものを利用している理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「現在働いている（または育児休業中である）ため」の割合が 74.8%と最も高く、次いで「1～5までの事情はないが、子どもの教育のため」の割合が 16.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「現在働いている（または育児休業中である）ため」の割合が増加し、「1～5までの事情はないが、子どもの教育のため」の割合が減少しています。

主な「その他」意見

- ・自分の時間を作るため （5件）



【問7で「2. 利用していない」と答えた方にお伺いします】

問7-2 教育・保育の事業を利用していない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「(子どもの父親か母親が就労していないなどの理由で) 必要がないため」の割合が54.9%と最も高く、次いで「子どもがまだ幼いため【 】歳になったら利用しようと考えている」の割合が40.9%、「利用したいが、教育・保育の事業に空きがないため」の割合が14.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「利用したいが、教育・保育の事業に空きがないため」の割合が減少し、「(子どもの父親か母親が就労していないなどの理由で) 必要がないため」の割合が若干増加しています。

主な「その他」意見

- ・育児休業中のため (2件)
- ・申し込み中のため (2件)

(子どもの父親か母親が就労していないなどの理由で) 必要がないため

子どもの祖父母や親戚の人がみているため

近所の人や父母の友人・知人がみているため

保護者が子どもを預け合う「自主保育」を利用しているため

利用したいが、教育・保育の事業に空きがないため

利用したいが、経済的な理由でサービスを利用できないため

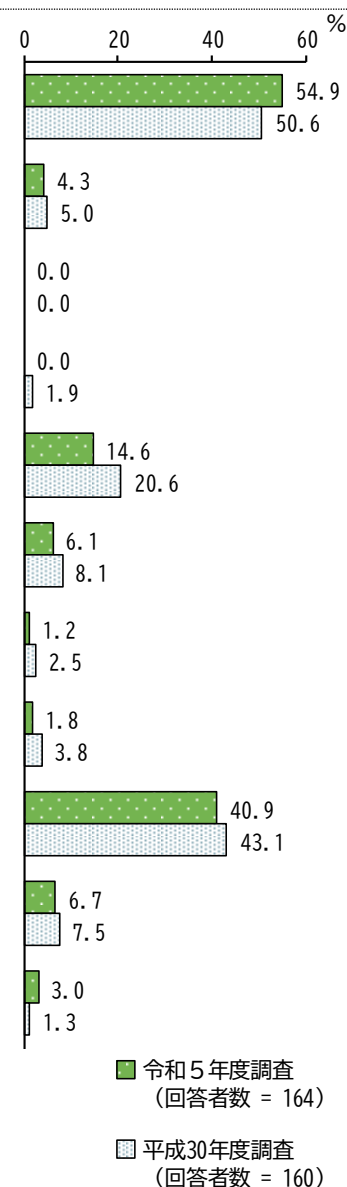
利用したいが、延長・夜間等の場所や時間帯の条件が整わないため

利用したいが、サービスの質や場所など、納得できるサービスがないため

子どもがまだ幼いため【 】歳になったら利用しようと考えている

その他

無回答

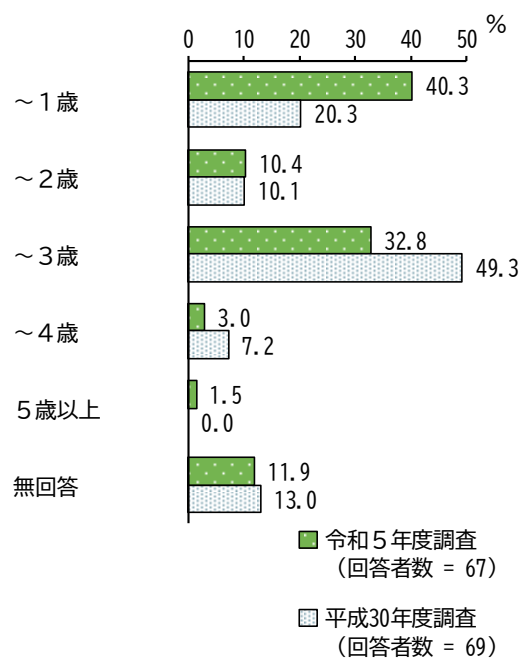


A-1 未就学児用

<利用を希望する年齢>

「～1歳」の割合が40.3%と最も高く、次いで「～3歳」の割合が32.8%、「～2歳」の割合が10.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「～1歳」の割合が増加し、「～3歳」「～4歳」の割合が減少しています。



問8 現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業について、お子さんの成長にあわせて年齢ごとに希望する事業を次ページの【A群：希望する教育・保育事業】から選んで枠内に番号を記入してください。（現在のお子さんの年齢以降、5歳までについてお答えください。）

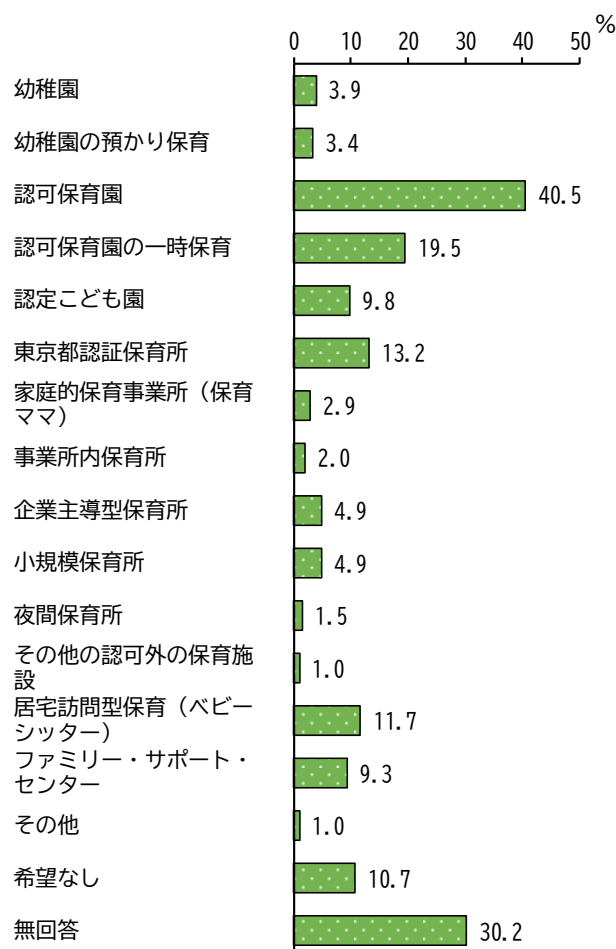
また、その事業を希望する上で重視する条件について、あてはまる条件を【B群：事業を希望する上で重視する条件】から3つまで選んで枠内に番号を記入してください。

あわせて、1週当たりの利用希望日数、1日あたりの利用希望時間をご記入ください。

※これらの事業の利用には、一定の保育料の支払い等の利用者負担が発生します。

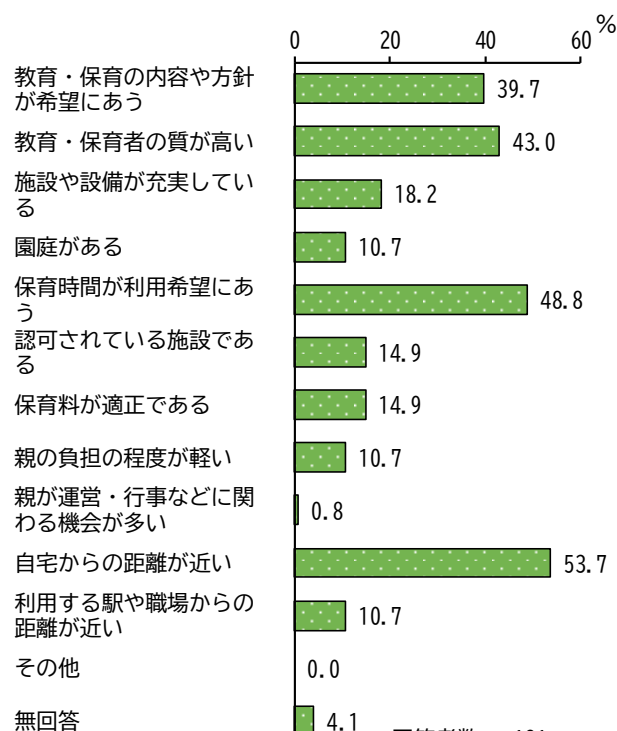
（1）0歳

< A群：希望する教育・保育事業 >



回答者数 = 205

< B群：事業を希望する上で重視する条件 >



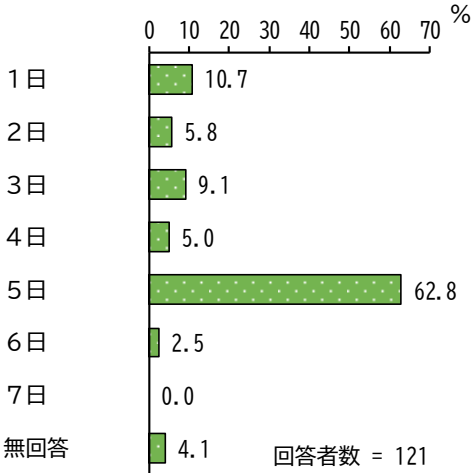
回答者数 = 121

主な「その他」意見

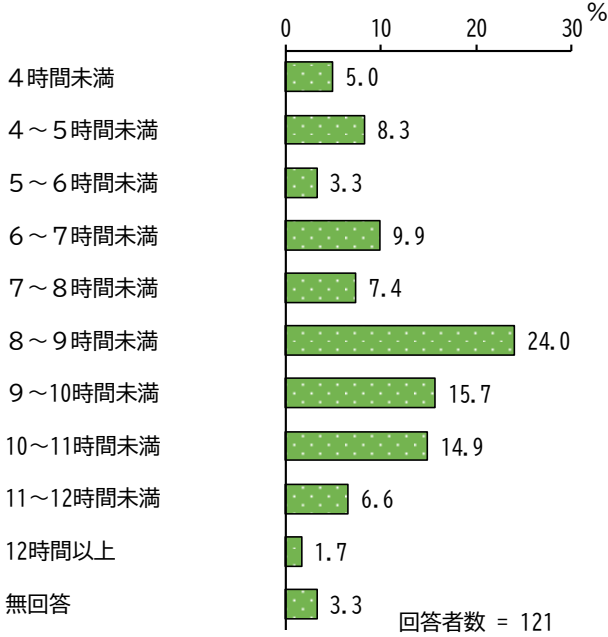
- ・病児、病後児保育 （4件）

A-1 未就学児用

<利用希望日数>

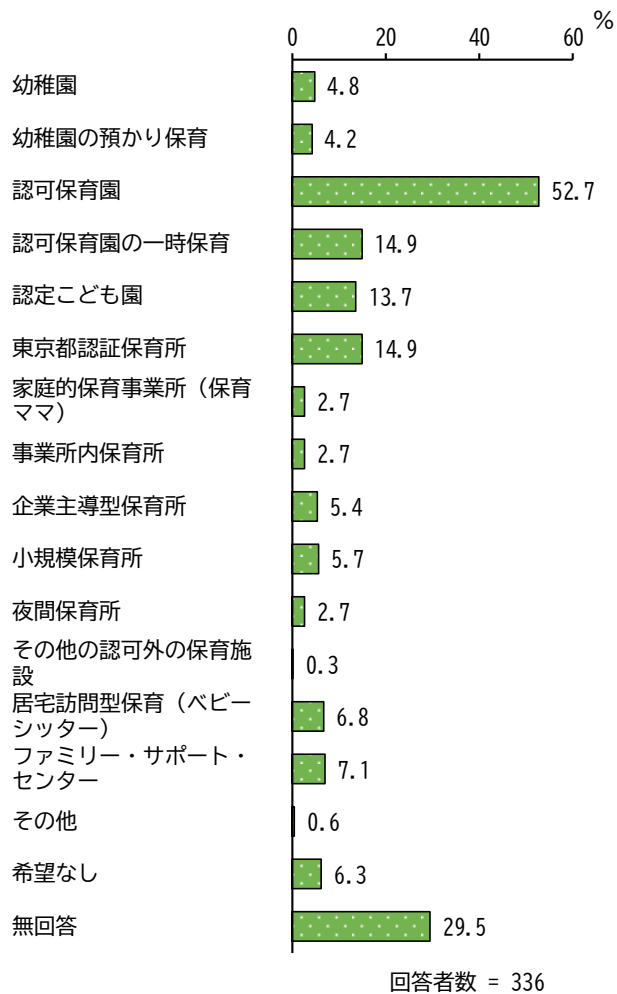


<利用希望時間>

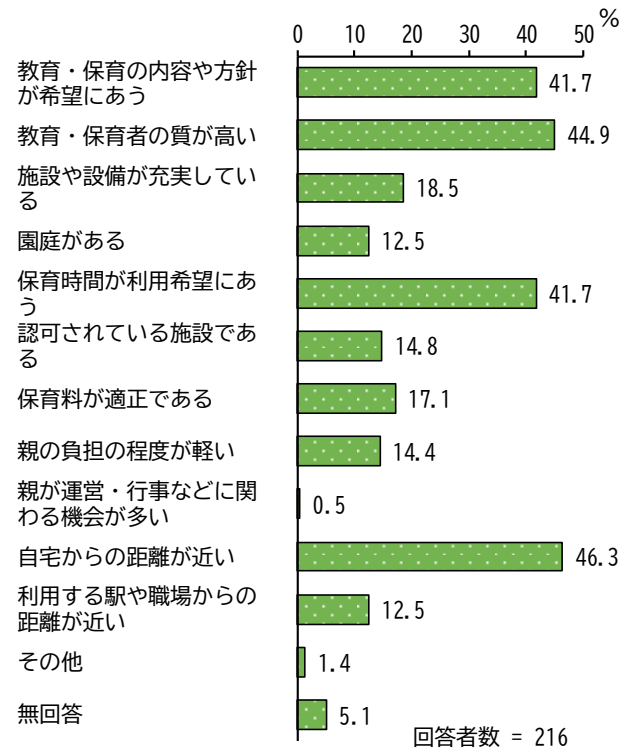


(2) 1歳

< A群：希望する教育・保育事業 >



< B群：事業を希望する上で重視する条件 >

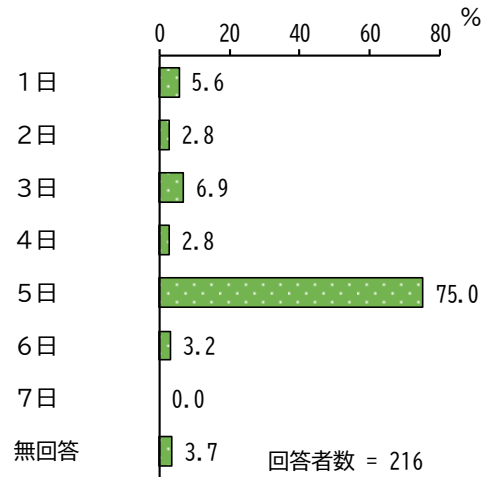


主な「その他」意見

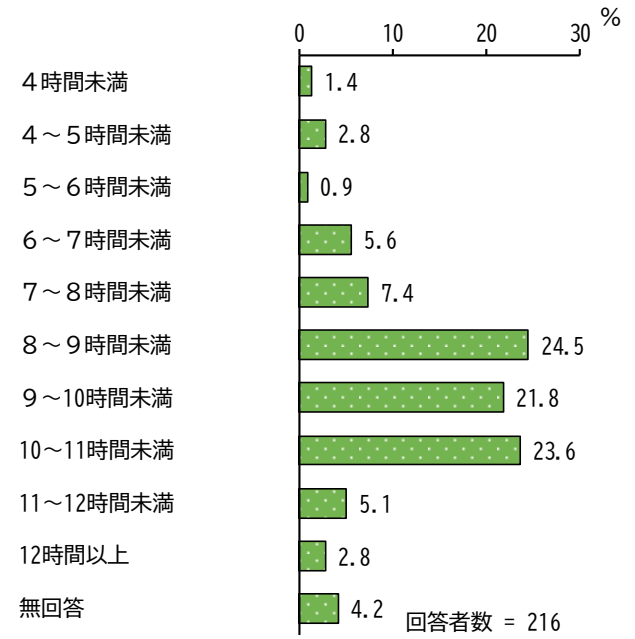
・病児、病後児保育 (2件)

A-1 未就学児用

<利用希望日数>

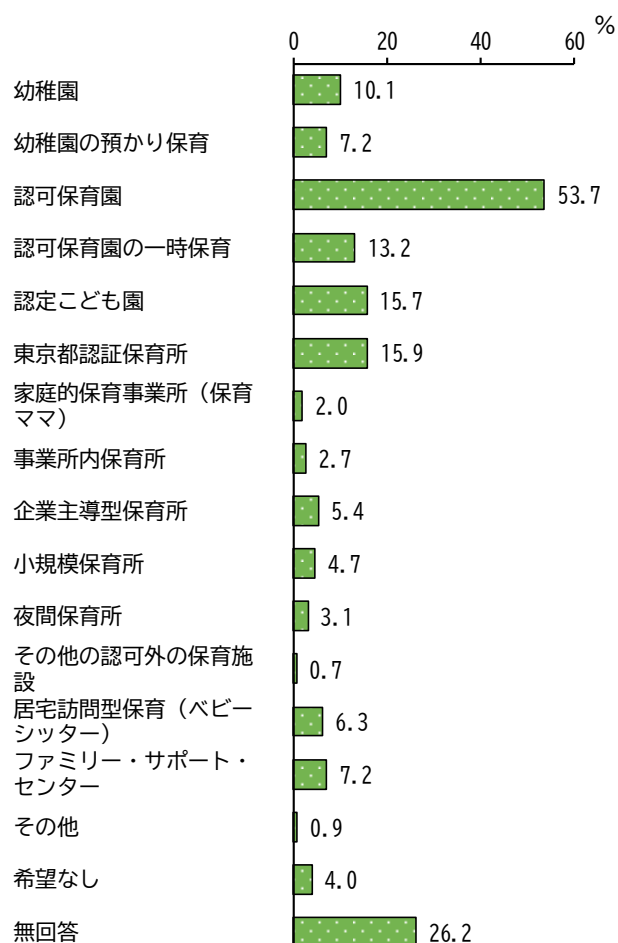


<利用希望時間>



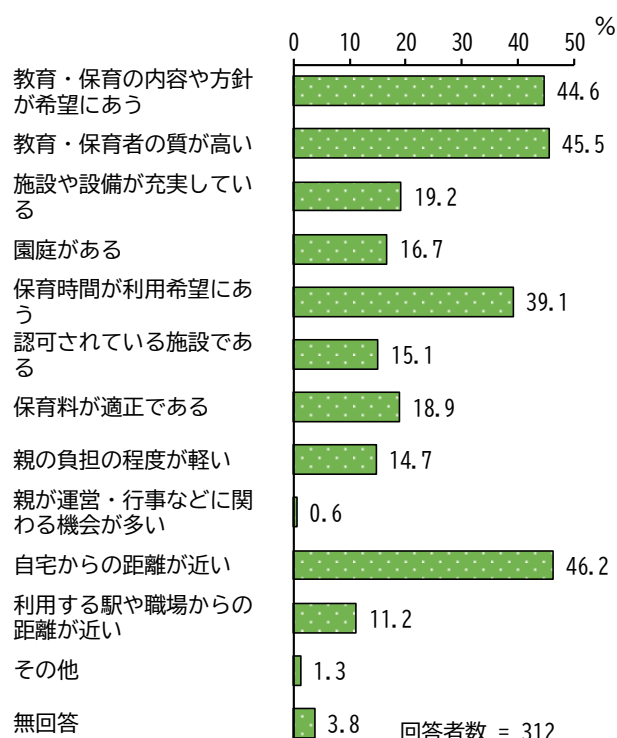
(3) 2歳

< A群：希望する教育・保育事業 >



回答者数 = 447

< B群：事業を希望する上で重視する条件 >

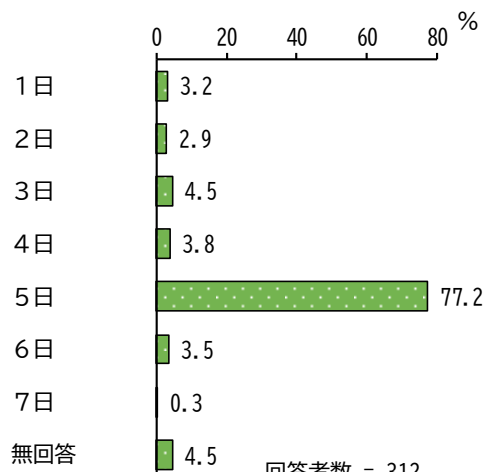


回答者数 = 312

主な「その他」意見

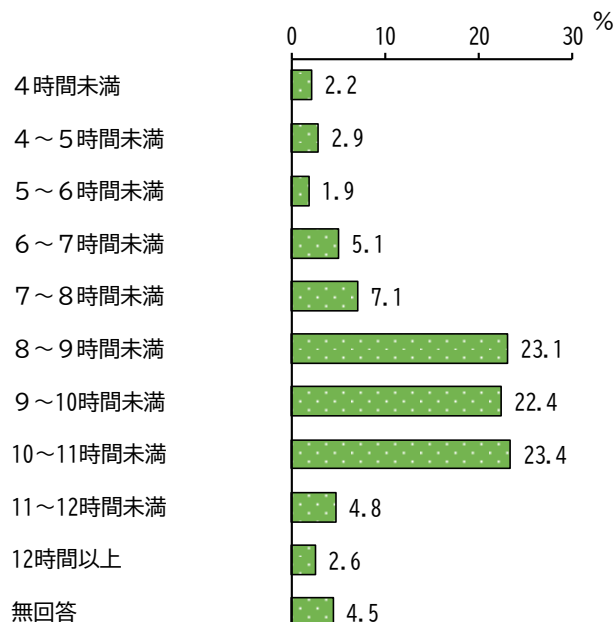
・病児、病後児保育（2件）

< 利用希望日数 >



回答者数 = 312

< 利用希望時間 >

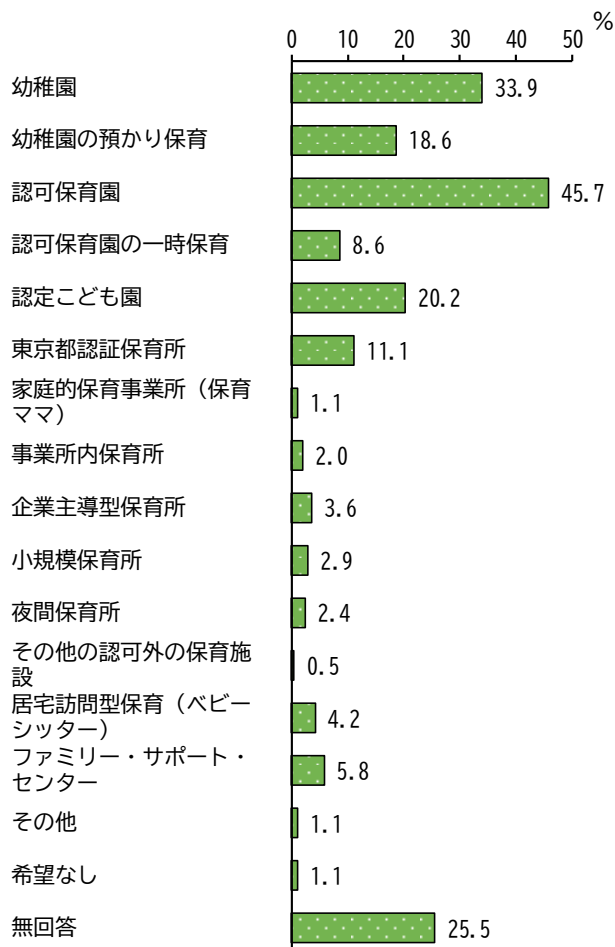


回答者数 = 312

A-1 未就学児用

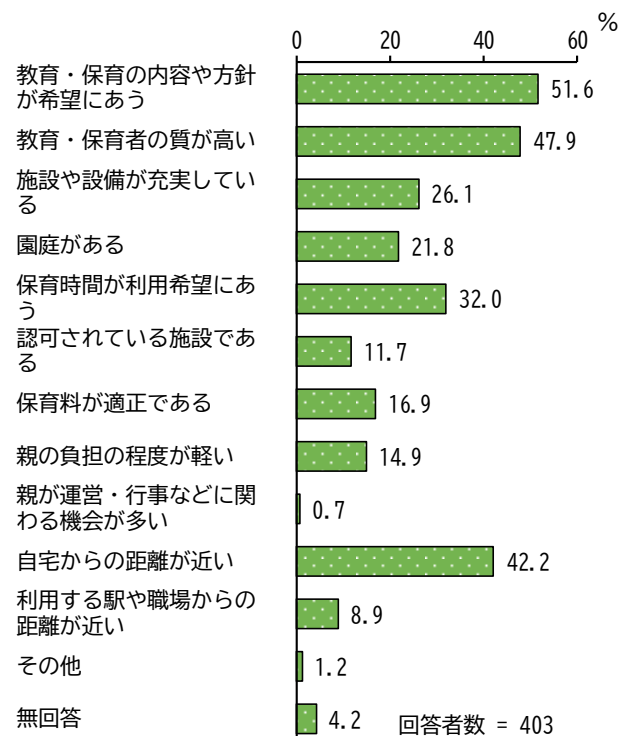
(4) 3歳

< A群：希望する教育・保育事業 >



回答者数 = 549

< B群：事業を希望する上で重視する条件 >



回答者数 = 403

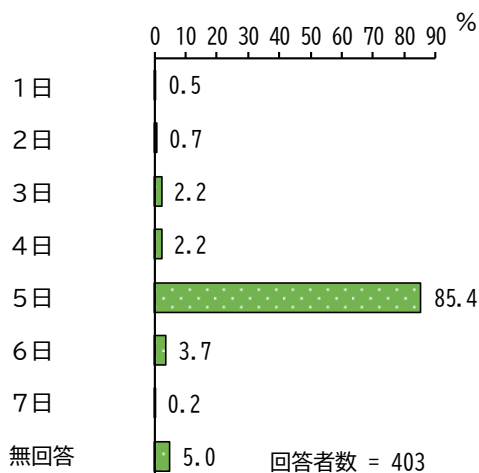
主な「その他」意見

・病児、病後児保育（2件）

主な「その他」意見

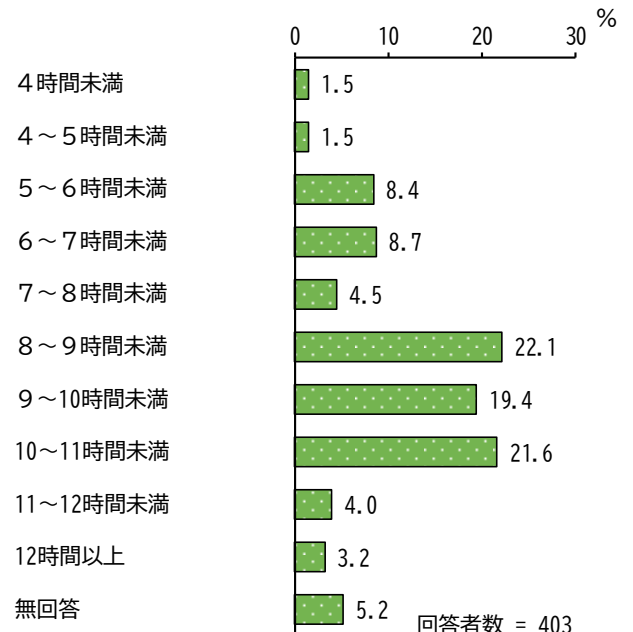
・バスでの送り迎えがある（2件）

< 利用希望日数 >



回答者数 = 403

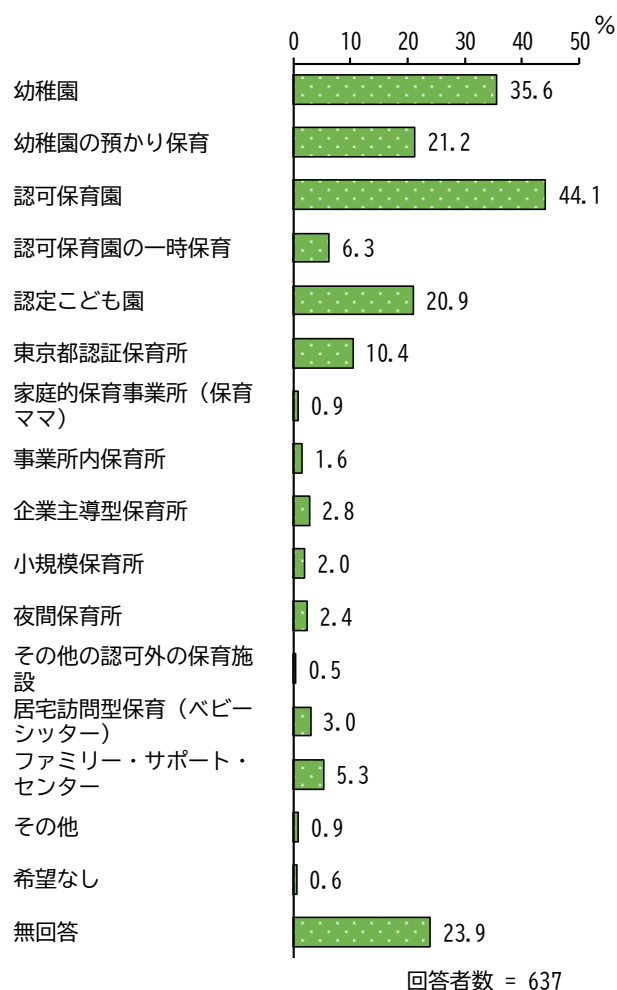
< 利用希望時間 >



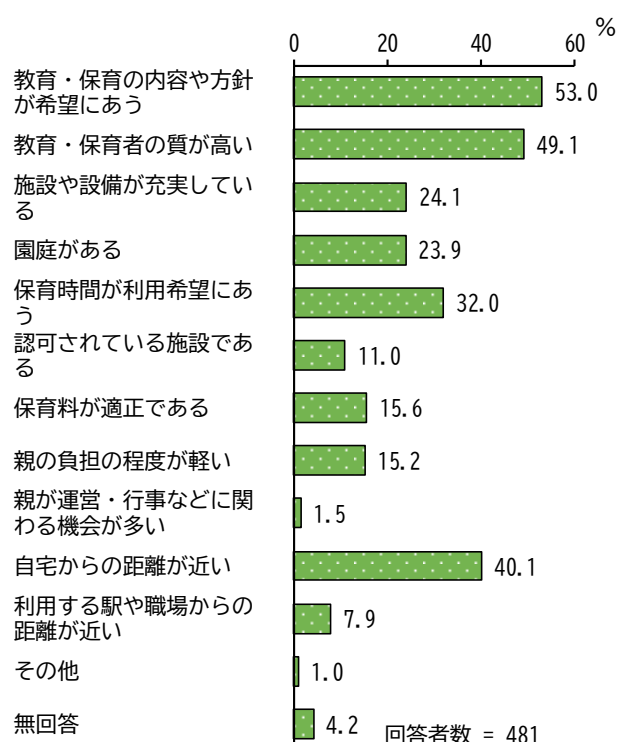
回答者数 = 403

(5) 4歳

< A群：希望する教育・保育事業 >



< B群：事業を希望する上で重視する条件 >



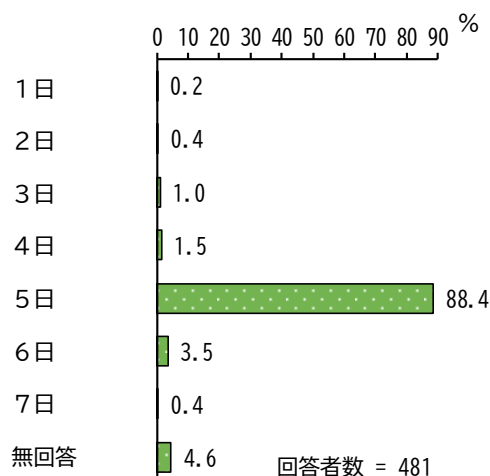
主な「その他」意見

・病児、病後児保育（2件）

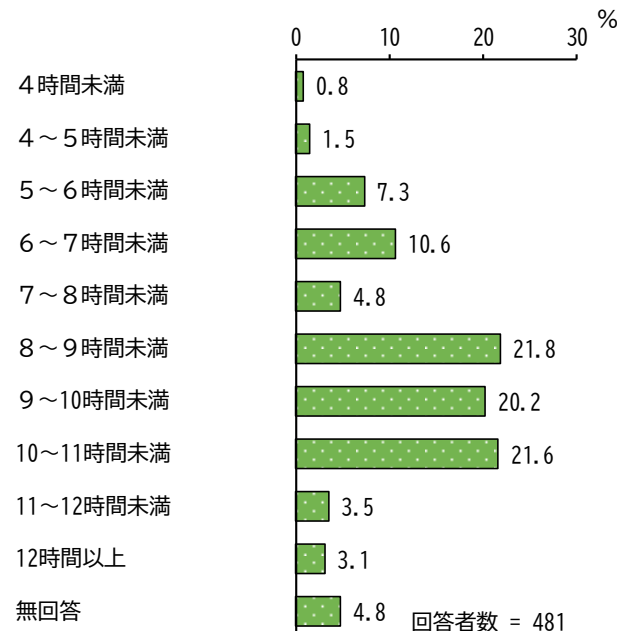
主な「その他」意見

・バスでの送り迎えがある（2件）

< 利用希望日数 >



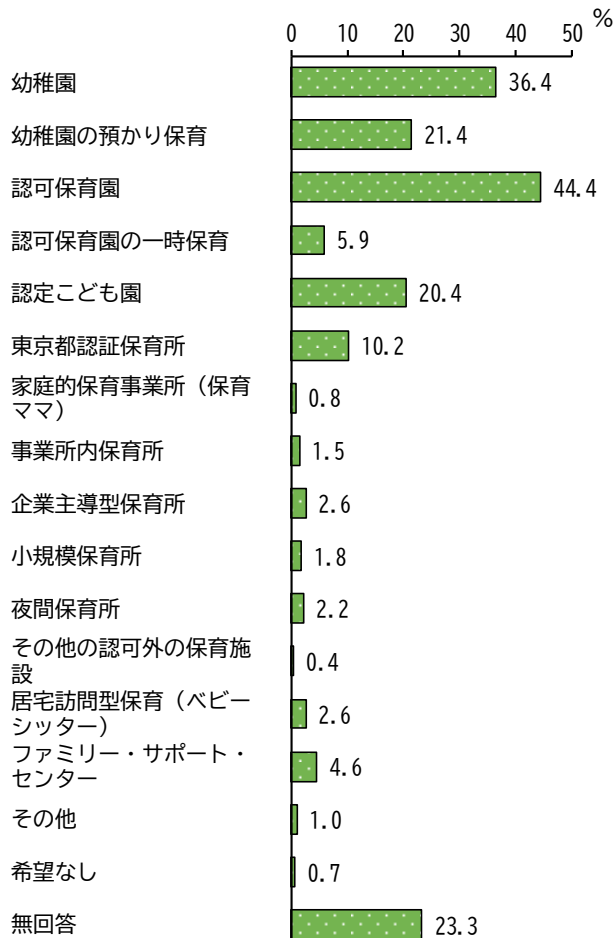
< 利用希望時間 >



A-1 未就学児用

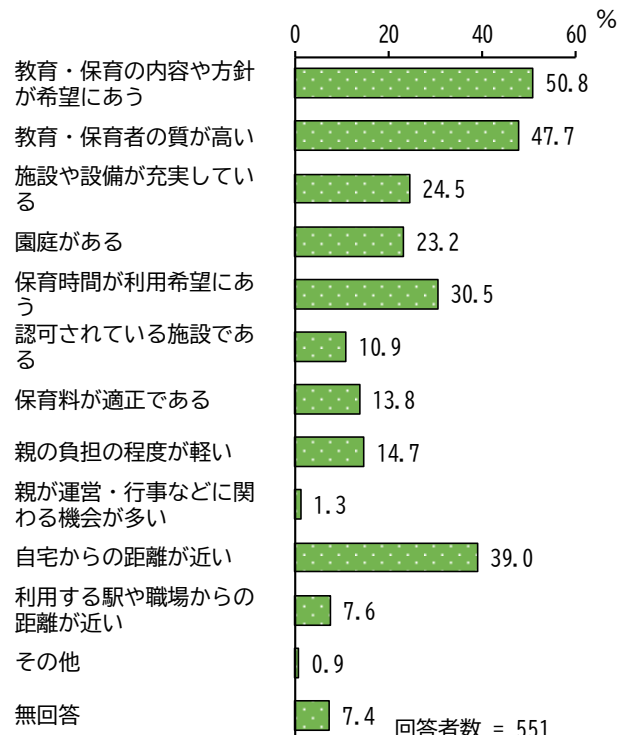
(6) 5歳

< A群：希望する教育・保育事業 >



回答者数 = 725

< B群：事業を希望する上で重視する条件 >



回答者数 = 551

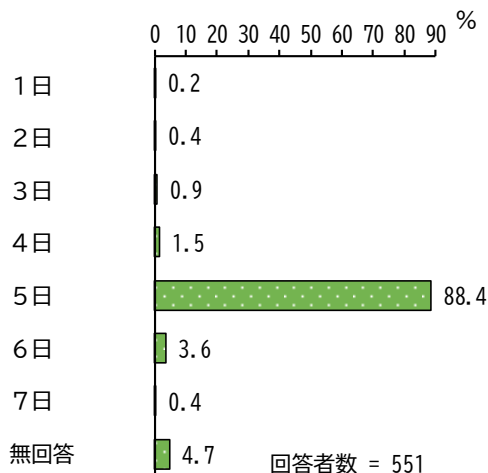
主な「その他」意見

病児、病後児保育（2件）

主な「その他」意見

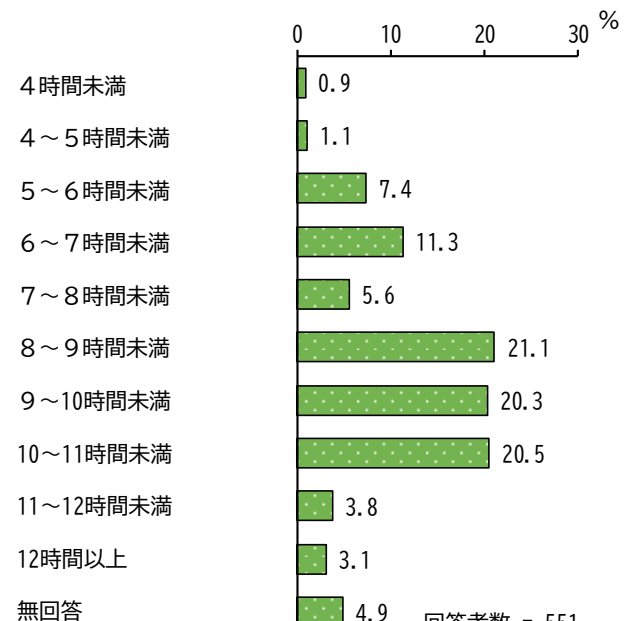
・バスでの送り迎えがある（2件）

< 利用希望日数 >



回答者数 = 551

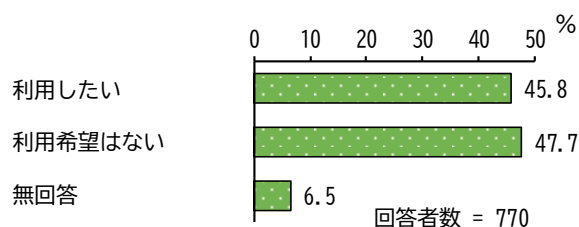
< 利用希望時間 >



回答者数 = 551

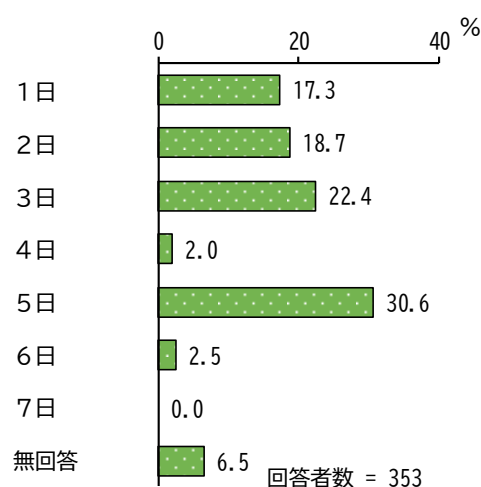
問9 国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、利用したいと思いますか。あてはまる番号に○をつけ、利用を希望する頻度や時間も【 】内に数字でご記入ください。時間は24時間制でご記入ください。
 ※サービスの利用にあたっては、一定の利用料が発生する場合があります。なお、現時点で利用時間数や利用料金等については、国において検討段階であるため、詳細は未定です。

「利用したい」の割合が45.8%、「利用希望はない」の割合が47.7%となっています。



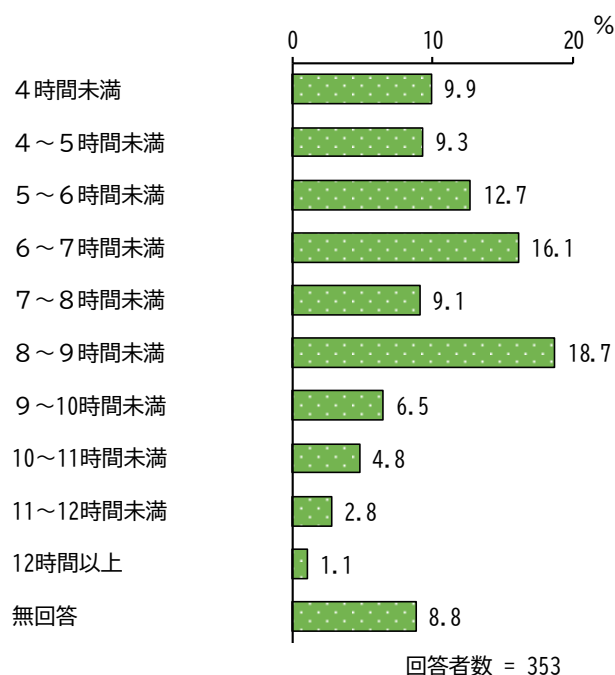
< 1 週あたりの利用希望日数 >

「5日」の割合が30.6%と最も高く、次いで「3日」の割合が22.4%、「2日」の割合が18.7%となっています。



< 1 回あたりの利用希望時間 >

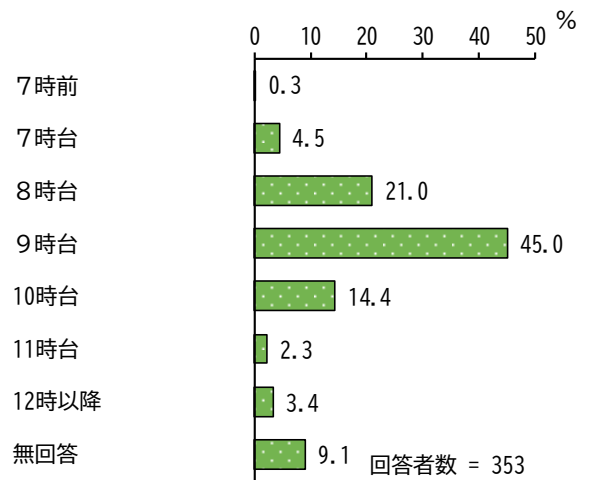
「8～9時間未満」の割合が18.7%と最も高く、次いで「6～7時間未満」の割合が16.1%、「5～6時間未満」の割合が12.7%となっています。



A-1 未就学児用

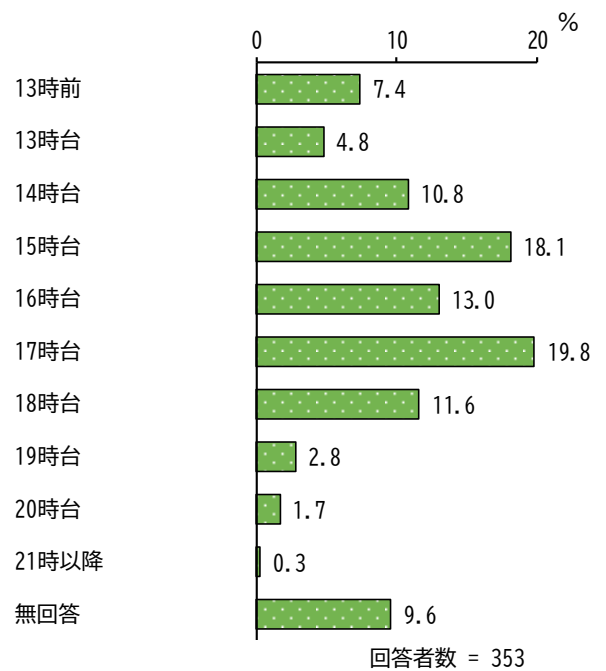
<希望する利用開始時間>

「9時台」の割合が45.0%と最も高く、次いで「8時台」の割合が21.0%、「10時台」の割合が14.4%となっています。



<希望する利用終了時間>

「17時台」の割合が19.8%と最も高く、次いで「15時台」の割合が18.1%、「16時台」の割合が13.0%となっています。

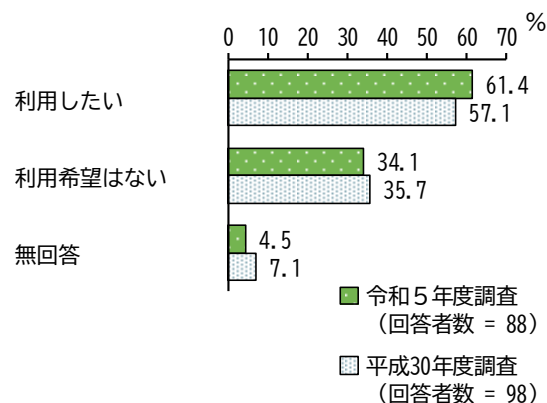


(6) 来年4月にお子さんが就学される方に、小学校就学後の放課後の過ごし方について

問 10 お子さんについて、小学校就学後は、平日の放課後に学童クラブ（学童保育）の利用希望がありますか。料金も考慮の上、あてはまる番号に○をつけ、利用を希望する時間も【 】内に数字でご記入ください。時間は 24 時間制でご記入ください。

「利用したい」の割合が 61.4%、「利用希望はない」の割合が 34.1%となっています。

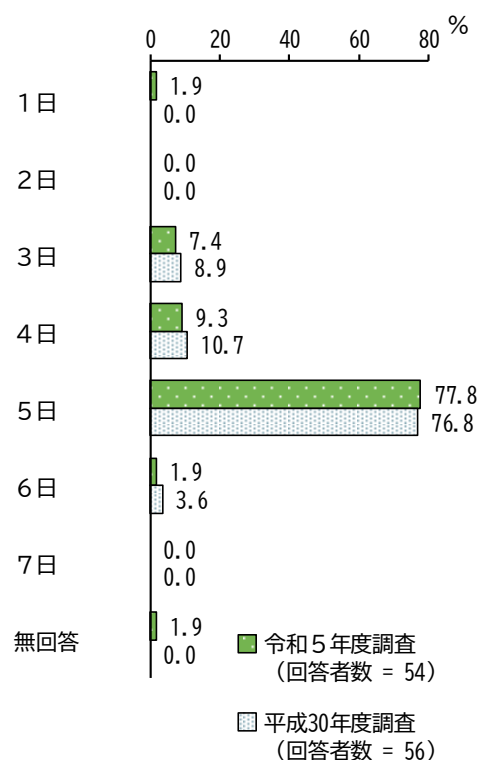
平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



< 1 週あたりの利用希望日数 >

「5日」の割合が 77.8%と最も高くなっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

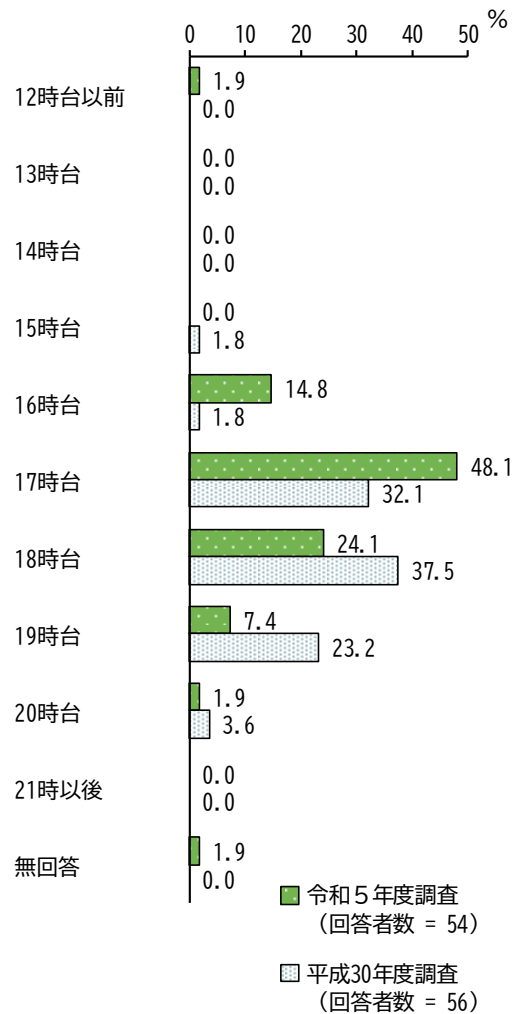


A-1 未就学児用

<希望する利用終了時間>

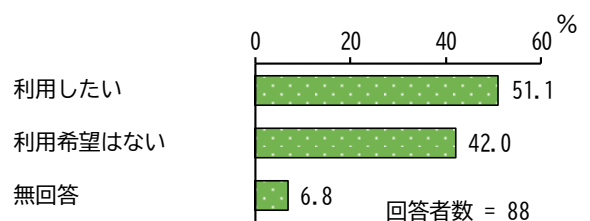
「17 時台」の割合が 48.1%と最も高く、次いで「18 時台」の割合が 24.1%、「16 時台」の割合が 14.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「16 時台」「17 時台」の割合が増加しています。一方、18 時以降の割合が減少しています。



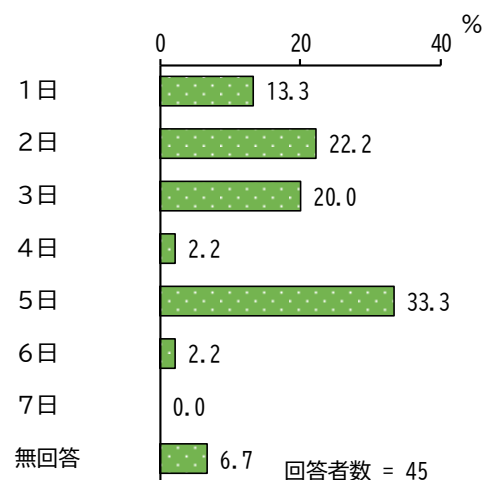
問 11 お子さんについて、小学校就学後は、平日の放課後に放課後子ども教室の利用希望がありますか。あてはまる番号に○をつけ、利用を希望する時間も【 】内に数字でご記入ください。時間は 24 時間制でご記入ください。

「利用したい」の割合が 51.1%、「利用希望はない」の割合が 42.0%となっています。



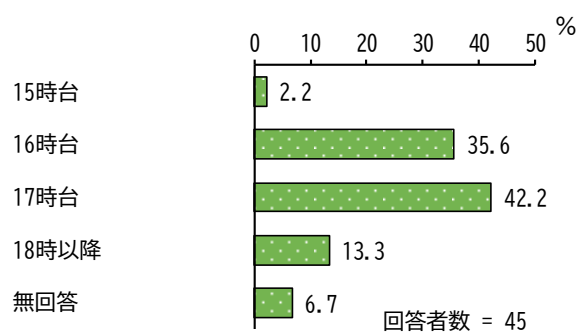
< 1 週あたりの利用希望日数 >

「5日」の割合が 33.3%と最も高く、次いで
「2日」の割合が 22.2%、「3日」の割合が
20.0%となっています。



< 希望する利用終了時間 >

「17 時台」の割合が 42.2%と最も高く、次いで
「16 時台」の割合が 35.6%、「18 時以降」の
割合が 13.3%となっています。



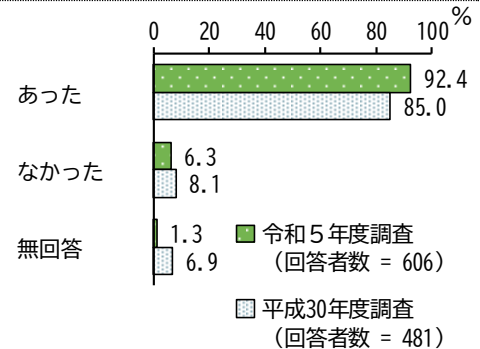
(7) お子さんが病気になったときの対応について

【平日の定期的な教育・保育の事業を利用（幼稚園、保育園、認可外保育施設を利用）している方にお伺いします】

問 12 この1年間に、お子さんが病気やけがで幼稚園、保育園、認可外保育施設（認証保育施設や事業所内保育施設を含む）を休まなければならなかったことはありましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「あった」の割合が 92.4%、「なかった」の割合が 6.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「あった」の割合が増加しています。



【問 12 で「1. あった」と答えた方にお伺いします】

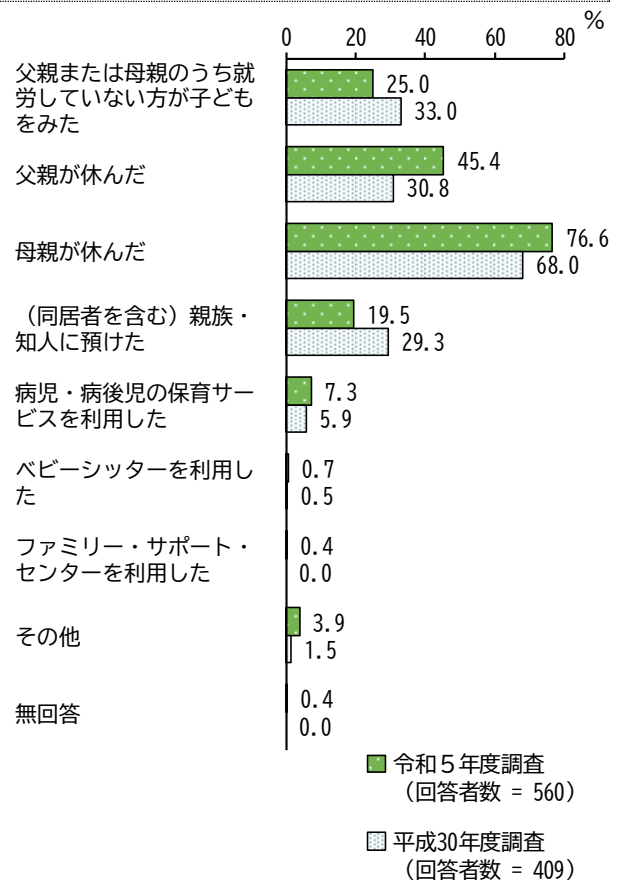
問 12-1 そのときどう対処しましたか。以下の中から該当する番号すべてに○をつけてください。また、その年間の日数を数字で記入してください。

「母親が休んだ」の割合が 76.6%と最も高く、次いで「父親が休んだ」の割合が 45.4%、「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」の割合が 25.0%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「父親が休んだ」「母親が休んだ」の割合が増加しています。一方、「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」「(同居者を含む) 親族・知人に預けた」の割合が減少しています。

「その他」意見

- ・父親または母親がテレワークで対応した (16 件)
- ・母親が育児休業中だった (4 件)
- ・実家に預けた (2 件)

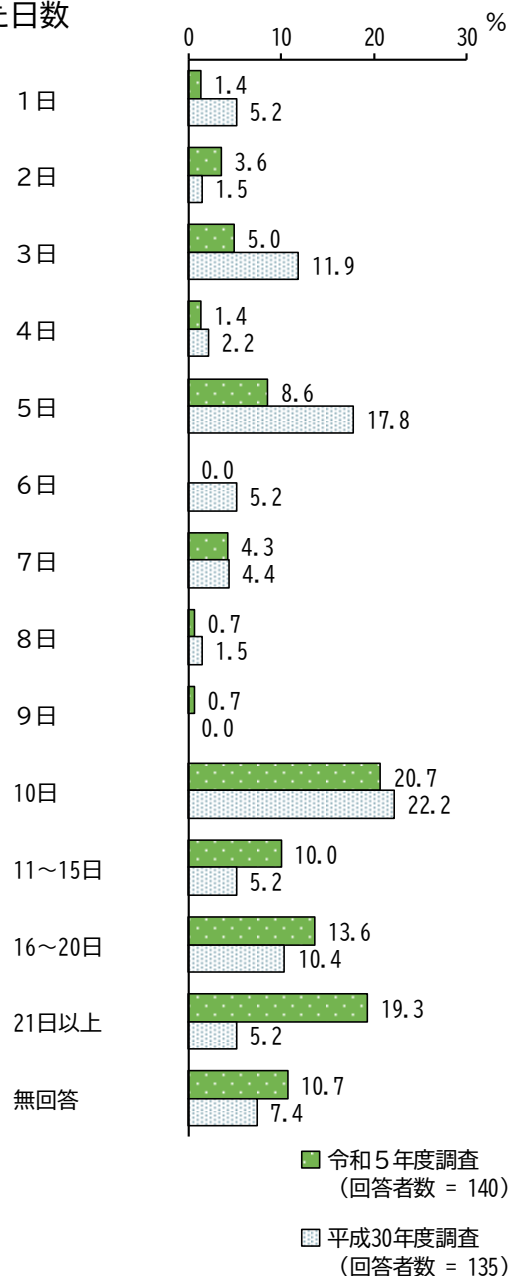


<項目ごと年間日数>

1. 父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた日数

「10 日」の割合が 20.7%と最も高く、次いで
「21 日以上」の割合が 19.3%、「16～20 日」の
割合が 13.6%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、11 日以上の
割合が増加しています。一方、8 日以下の割合
が減少しています。

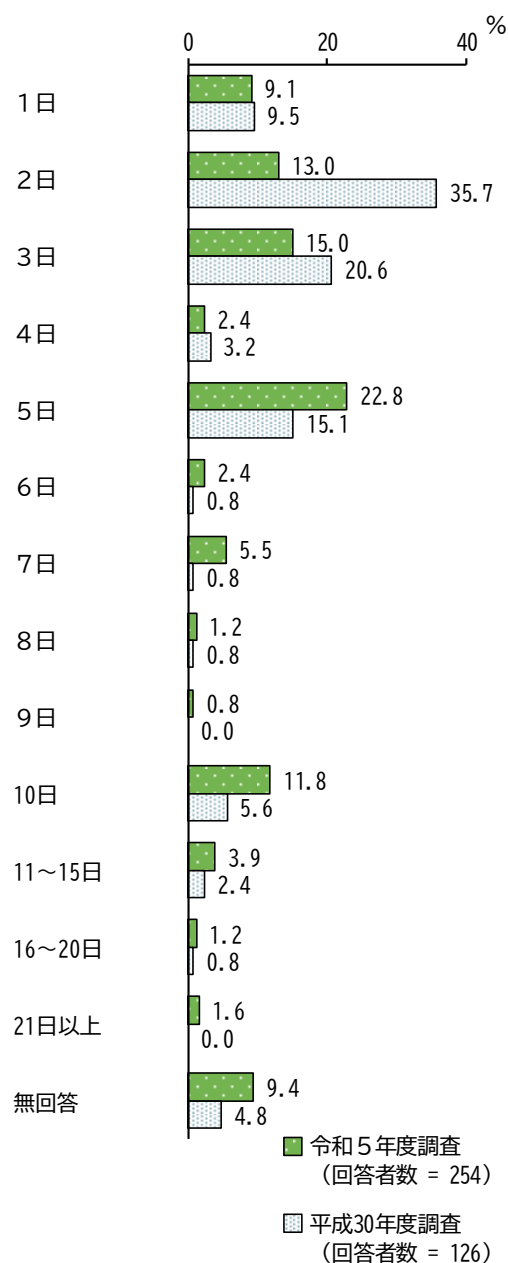


A-1 未就学児用

2. 父親が休んだ日数

「5日」の割合が22.8%と最も高く、次いで「3日」の割合が15.0%、「2日」の割合が13.0%となっています。

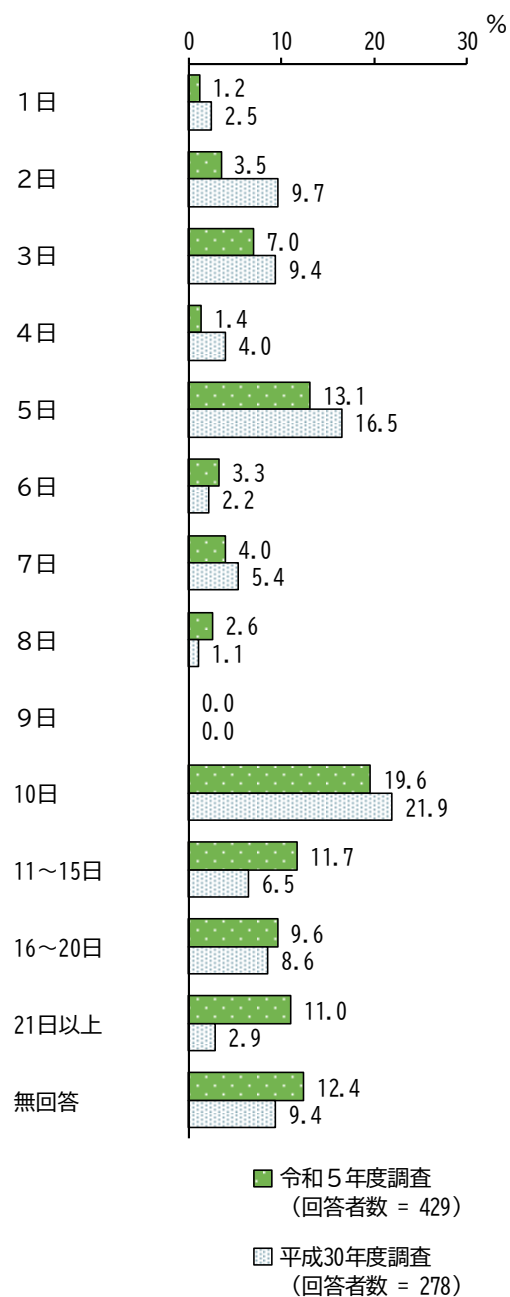
平成30年度調査と比較すると、5日以上で増加傾向がみられ、4日以下で減少傾向となっています。



3. 母親が休んだ日数

「10 日」の割合が 19.6%と最も高く、次いで「5 日」の割合が 13.1%、「11～15 日」の割合が 11.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、11 日以上で増加傾向がみられ、5 日以下で減少傾向となっています。

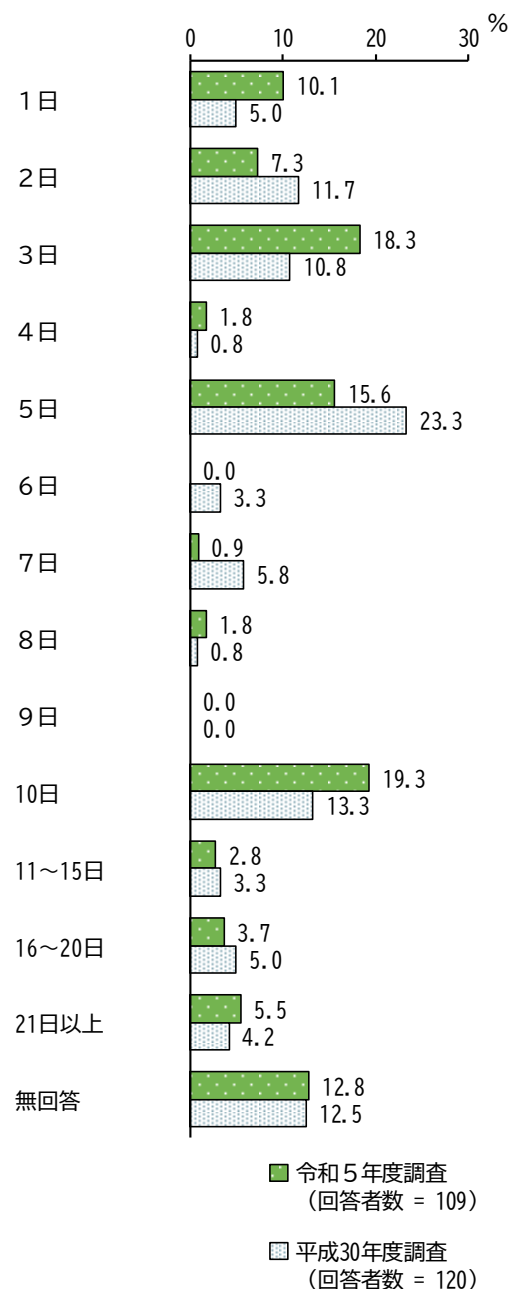


A-1 未就学児用

4. (同居者を含む) 親族・知人に預けた日数

「10 日」の割合が 19.3%と最も高く、次いで「3 日」の割合が 18.3%、「5 日」の割合が 15.6%となっています。

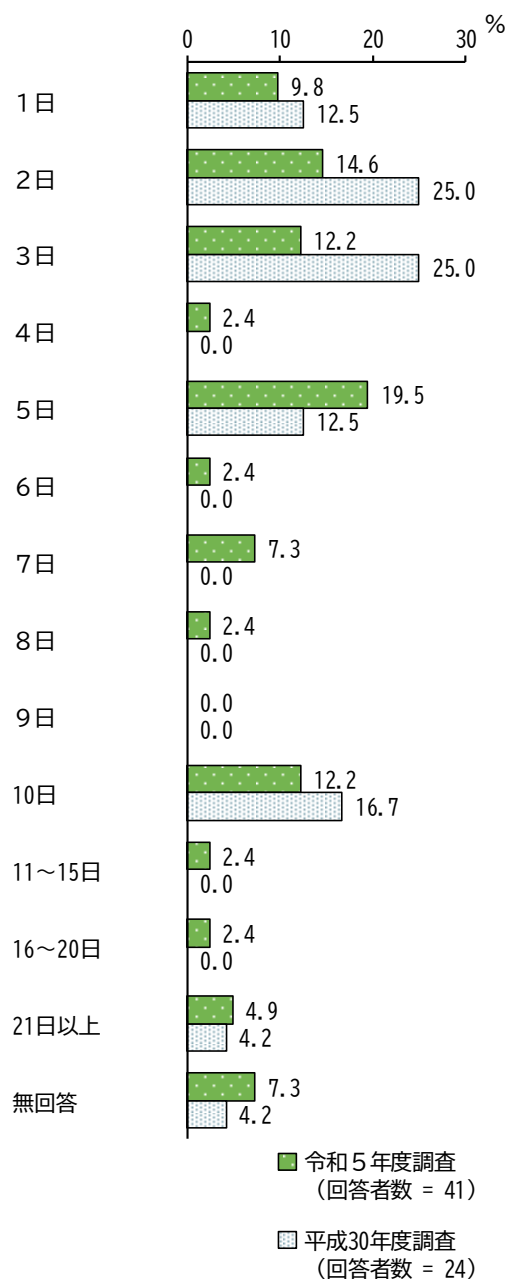
平成 30 年度調査と比較すると、「1 日」「3 日」「10 日」の割合が増加しています。一方、「2 日」「5 日」の割合が減少しています。



5. 病児・病後児の保育サービスを利用した日数

「5日」の割合が19.5%と最も高く、次いで「2日」の割合が14.6%、「3日」、「10日」の割合が12.2%となっています。

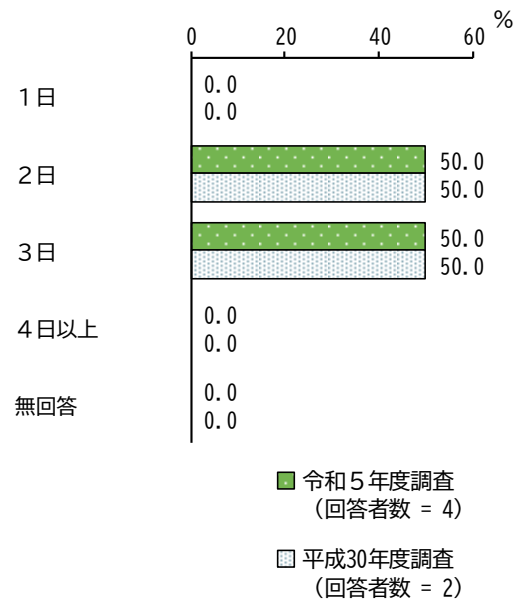
平成30年度調査と比較すると、5日から8日の割合が増加しています。一方、1日から3日の割合が減少しています。



A-1 未就学児用

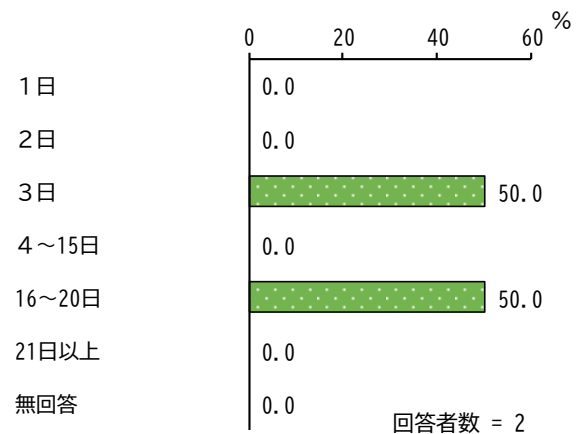
6. ベビーシッターを利用した日数

「2日」、「3日」が2件となっています。



7. ファミリー・サポート・センターを利用した日数

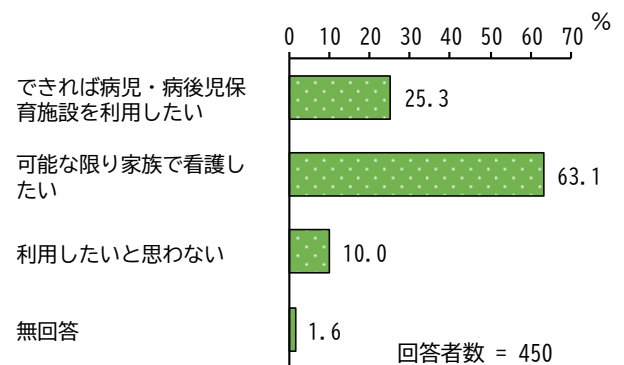
「3日」、「16～20日」が1件となっています。



【問 12-1 で「2. 父親が休んだ」「3. 母親が休んだ」と答えた方にお伺いします】

問 12-2 「病児・病後児保育施設の利用意向」について、あてはまる番号1つに○をつけてください。※病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

「可能な限り家族で看護したい」の割合が 63.1%と最も高く、次いで「できれば病児・病後児保育施設を利用したい」の割合が 25.3%、「利用したいと思わない」の割合が 10.0%となっています。

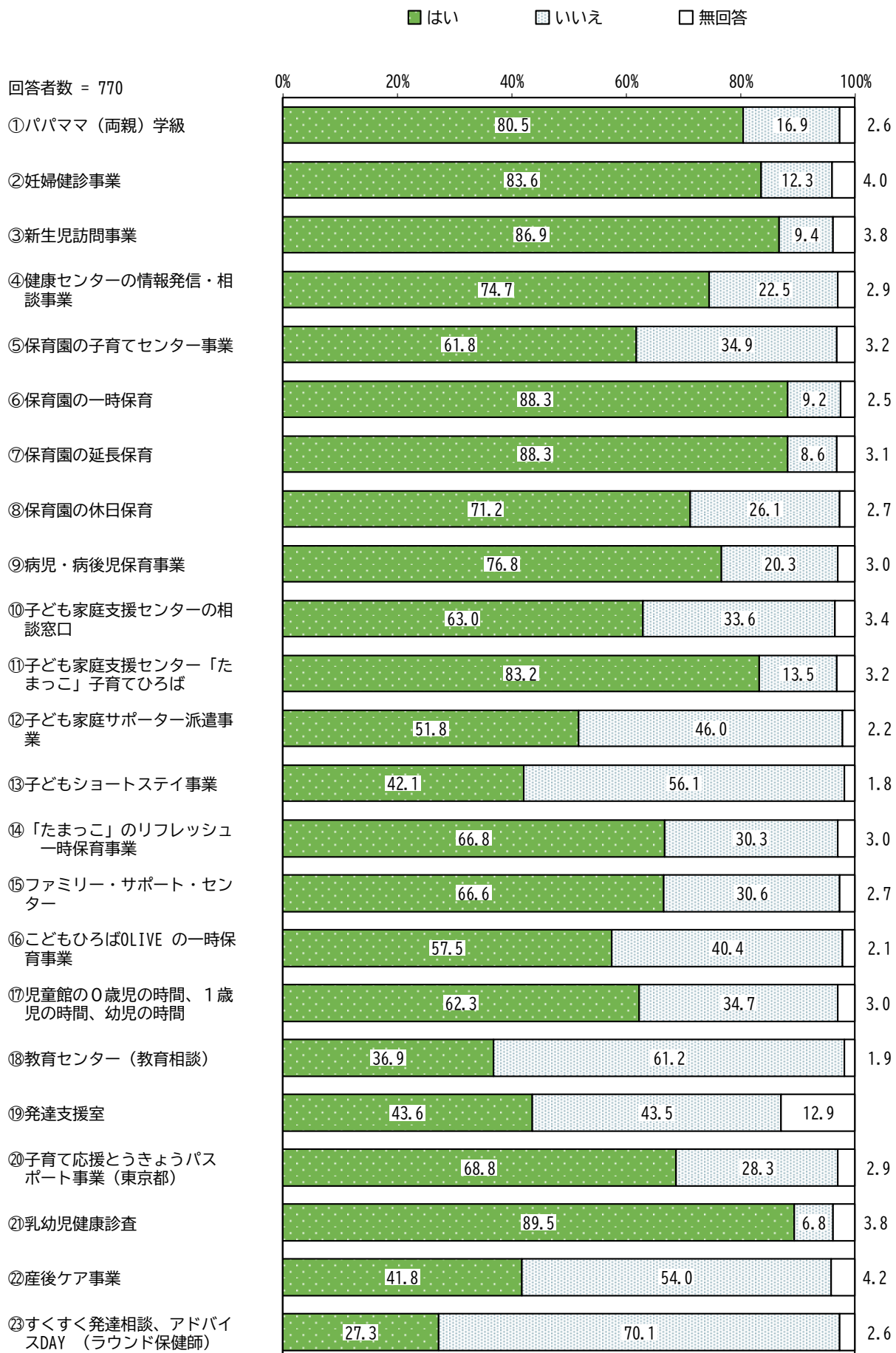


(8) お子さんの子育て支援事業の利用状況について

問 13 下記の事業や取り組みについて、「A. 知っているかどうか」「B. 利用したことがあるかどうか」「C. 今後、利用したいかどうか」について、それぞれ1つ○をつけてお答えください。また、各事業や取り組みについて、「B. 利用したことがある」とお答えの方は、「満足」「不満」のいずれかにも○をつけてください。※多摩市の事業についてのみお答えください。

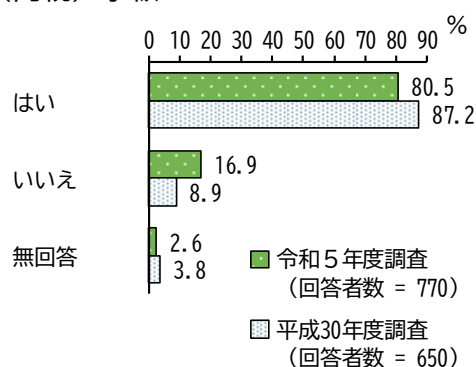
A-1 未就学児用

A 知っているかどうか

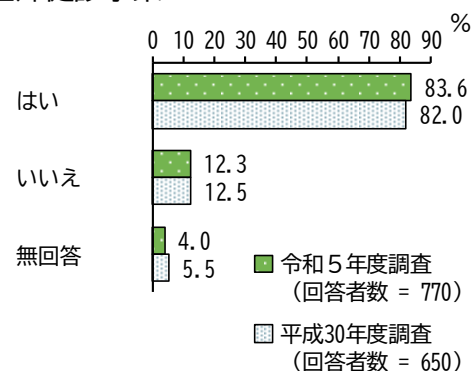


<項目ごとの経年比較>

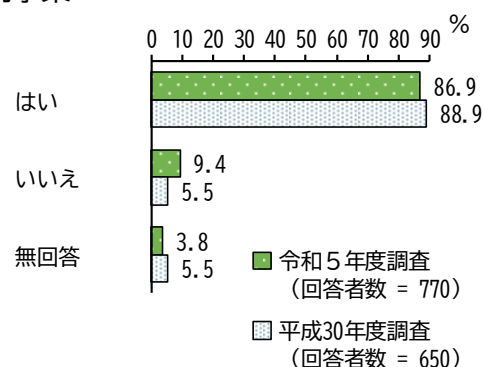
①パパママ（両親）学級



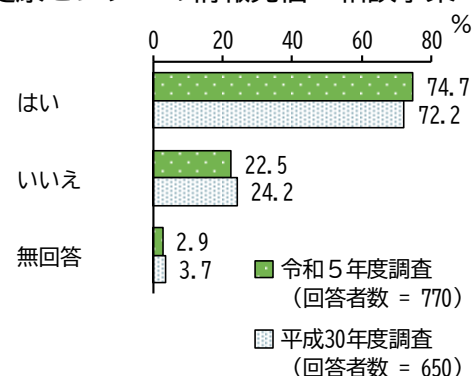
②妊婦健診事業



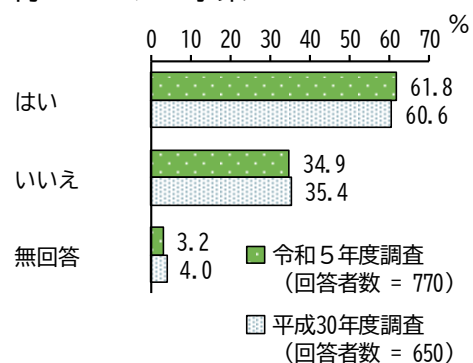
③新生児訪問事業



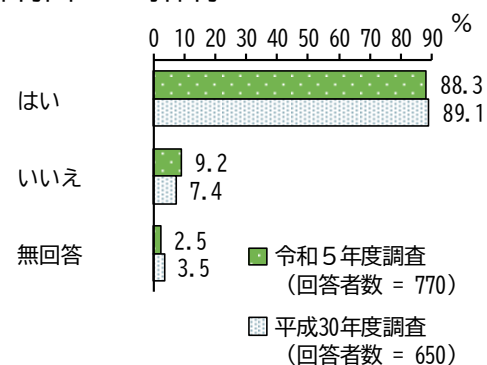
④健康センターの情報発信・相談事業



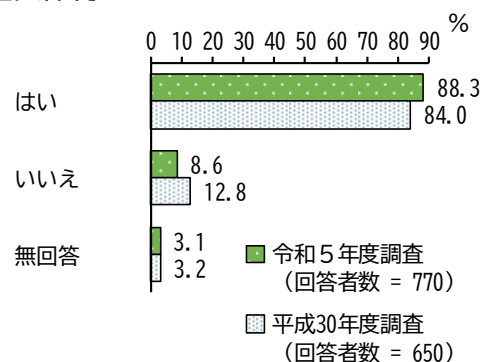
⑤保育園の子育てセンター事業



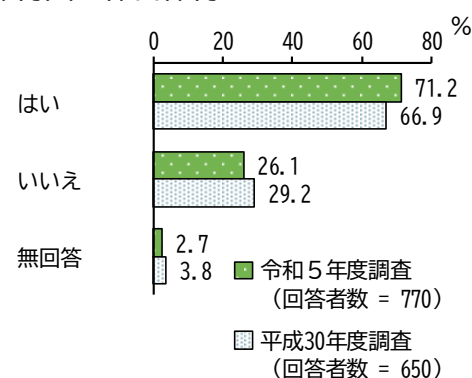
⑥保育園の一時保育



⑦保育園の延長保育

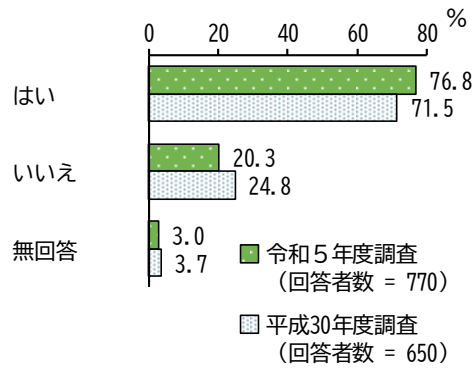


⑧保育園の休日保育

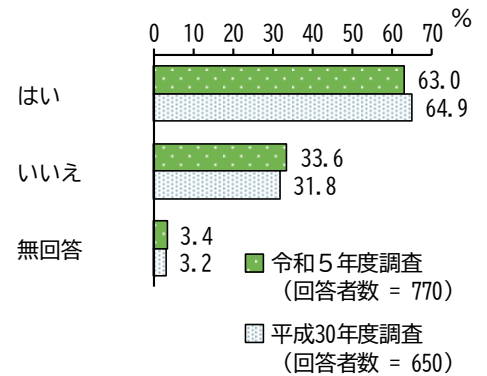


A-1 未就学児用

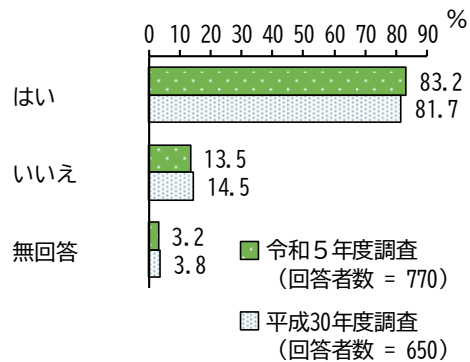
⑨病児・病後児保育事業



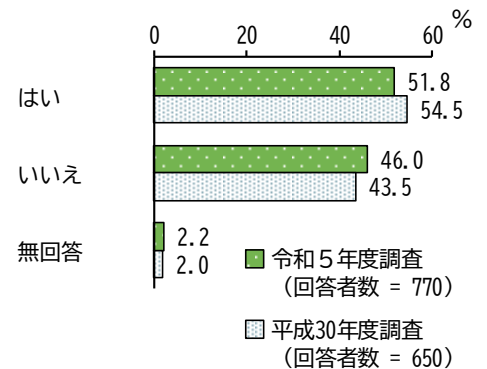
⑩子ども家庭支援センターの相談窓口



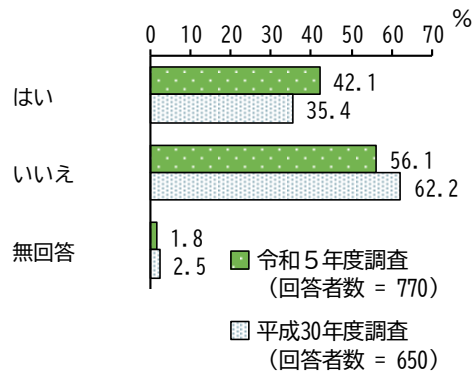
⑪子ども家庭支援センター「たまっこ」子育てひろば



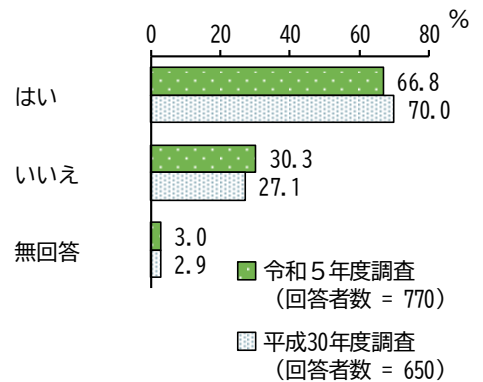
⑫子ども家庭サポーター派遣事業



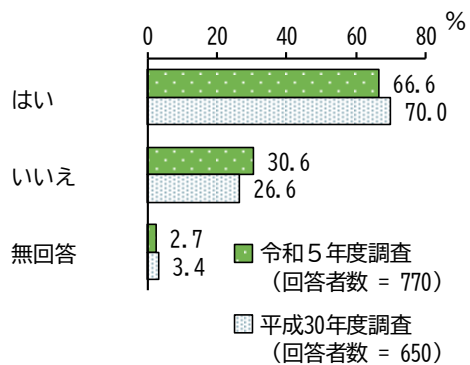
⑬子どもショートステイ事業



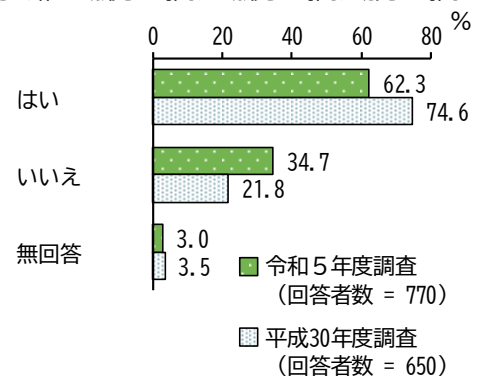
⑭「たまっこ」のリフレッシュ時保育事業



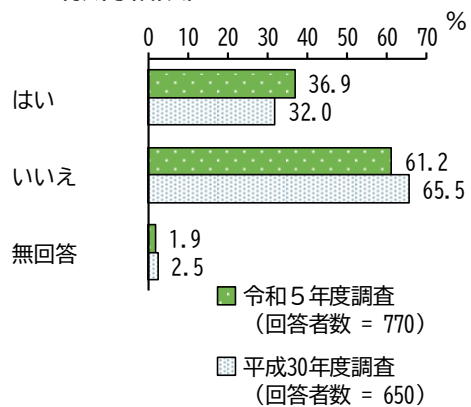
⑮ファミリー・サポート・センター



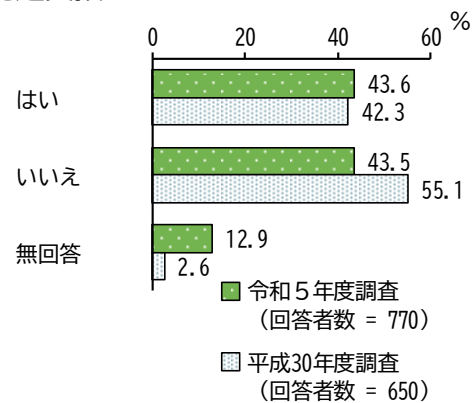
⑯児童館の0歳児の時間、1歳児の時間、幼児の時間



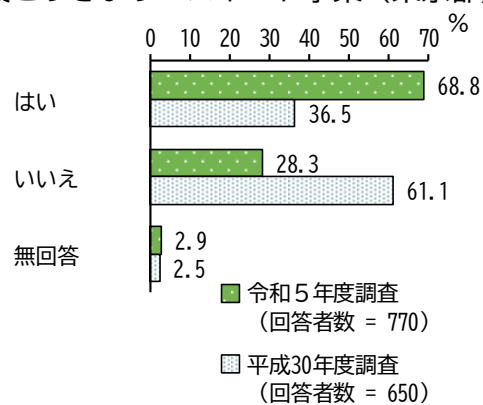
⑱教育センター（教育相談）



⑲発達支援室

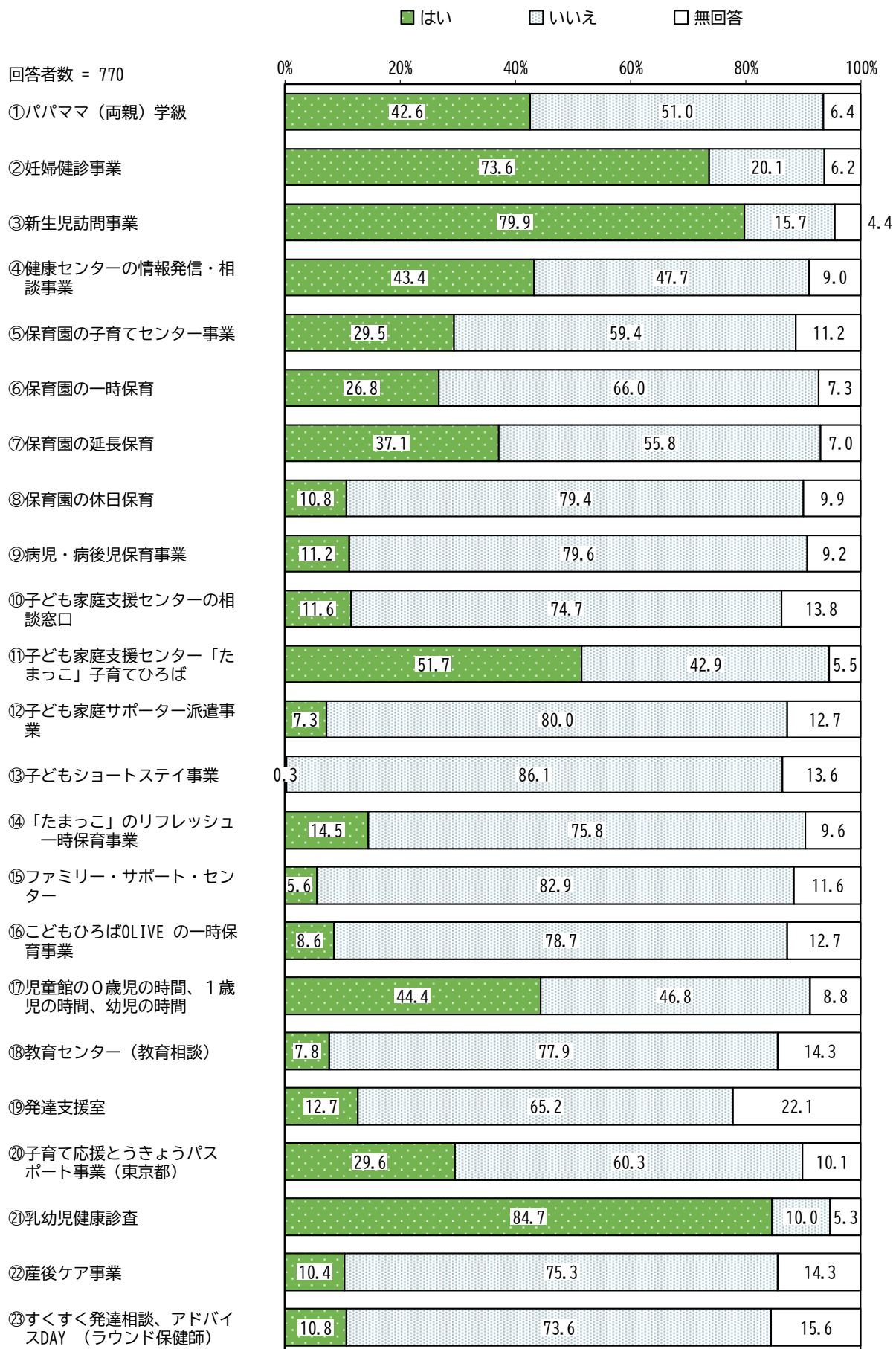


⑳子育て応援とうきょうパスポート事業（東京都）



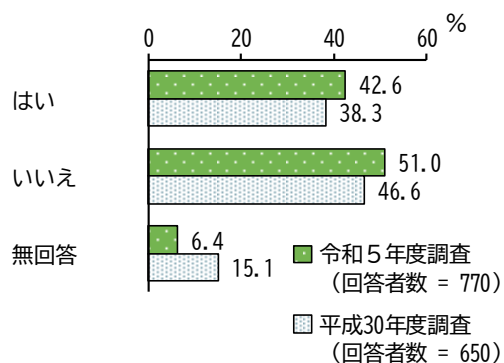
A-1 未就学児用

B これまでに利用したことがあるかどうか

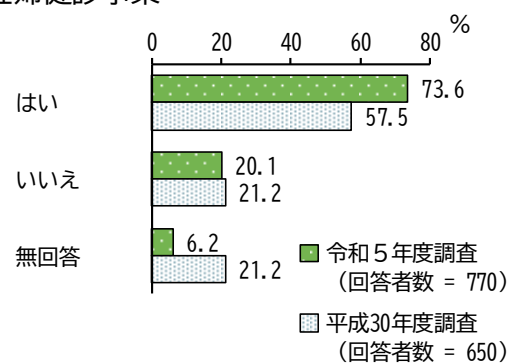


<項目ごとの経年比較>

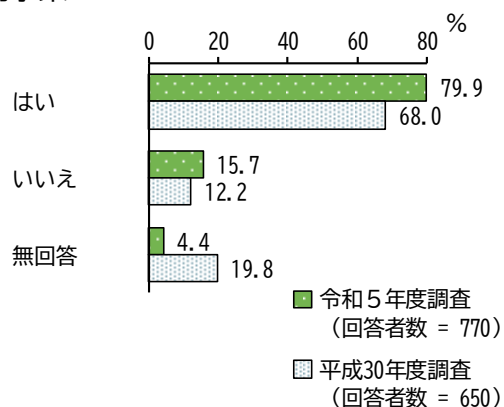
①パパママ（両親）学級



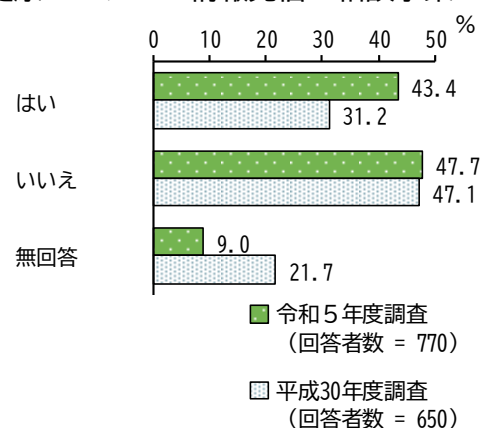
②妊婦健診事業



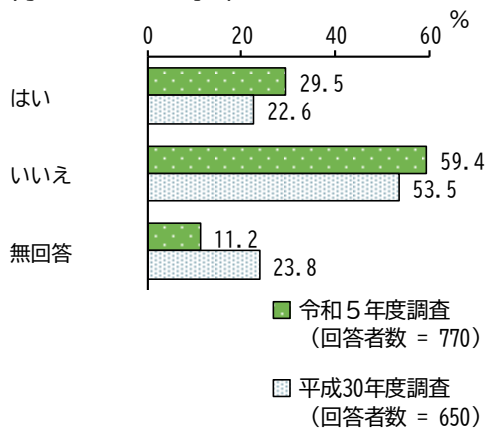
③新生児訪問事業



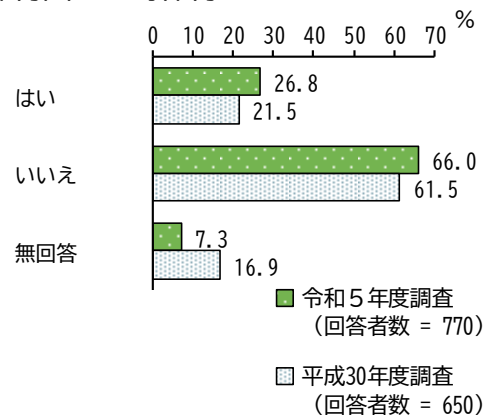
④健康センターの情報発信・相談事業



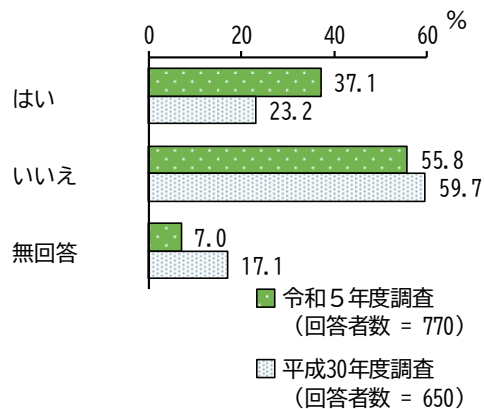
⑤保育園の子育てセンター事業



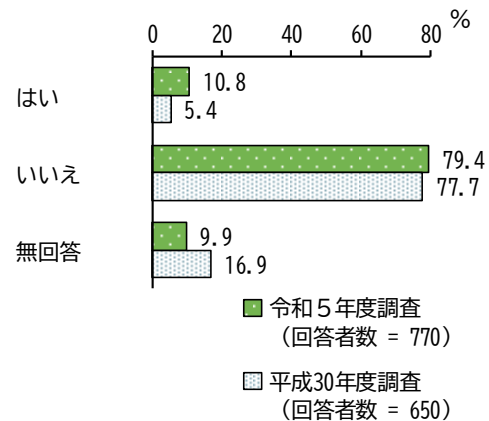
⑥保育園の一時保育



⑦保育園の延長保育

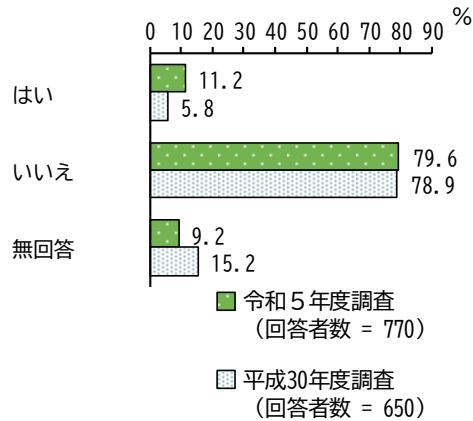


⑧保育園の休日保育

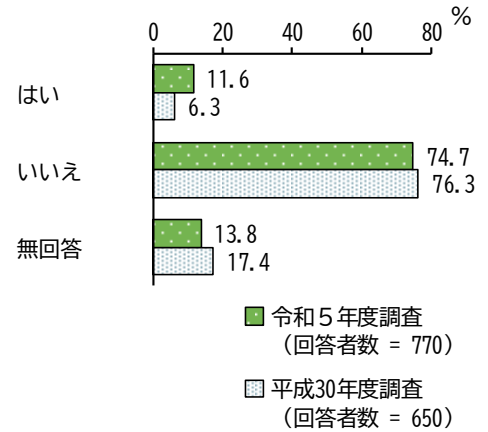


A-1 未就学児用

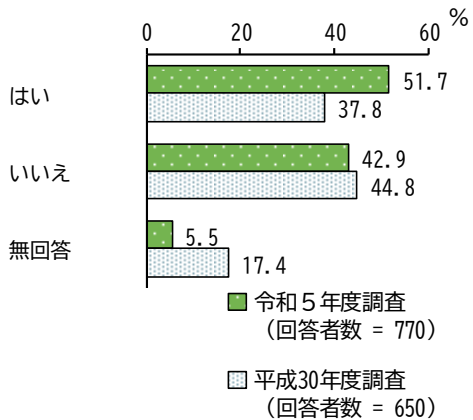
⑨病児・病後児保育事業



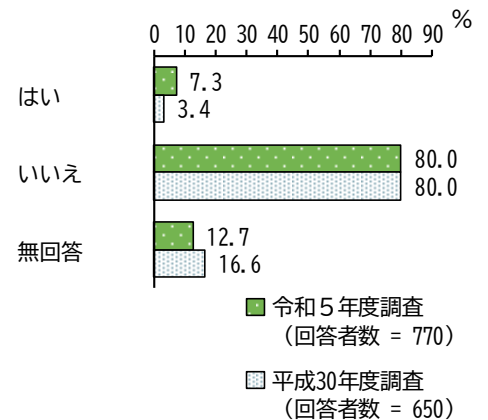
⑩子ども家庭支援センターの相談窓口



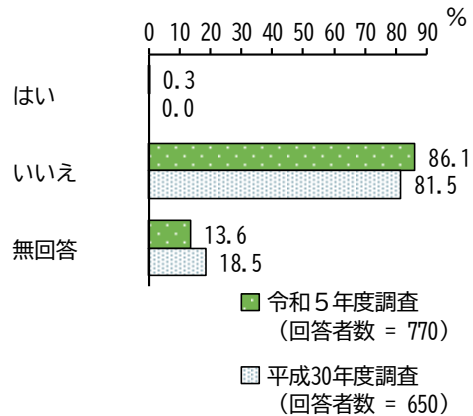
⑪子ども家庭支援センター「たまっこ」子育てひろば



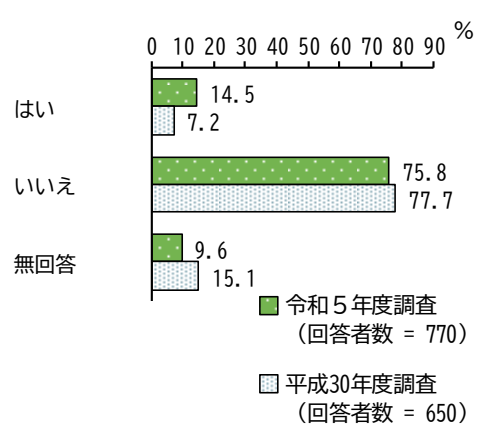
⑫子ども家庭サポーター派遣事業



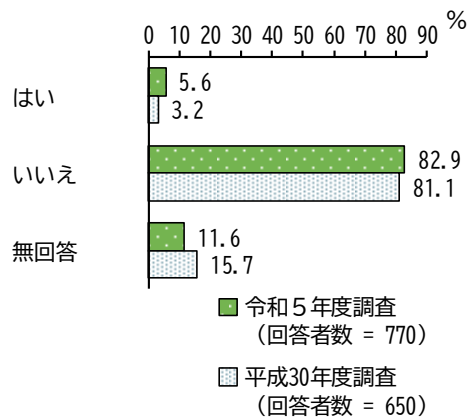
⑬子どもショートステイ事業



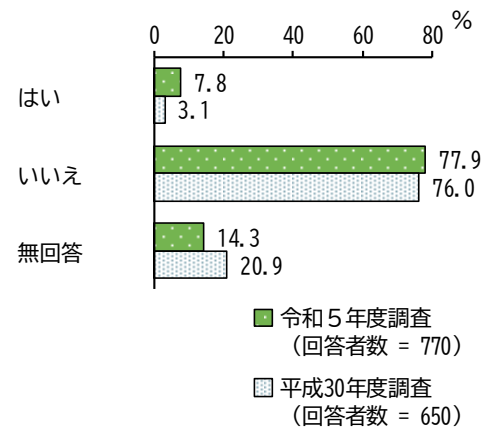
⑭「たまっこ」のリフレッシュ時保育事業



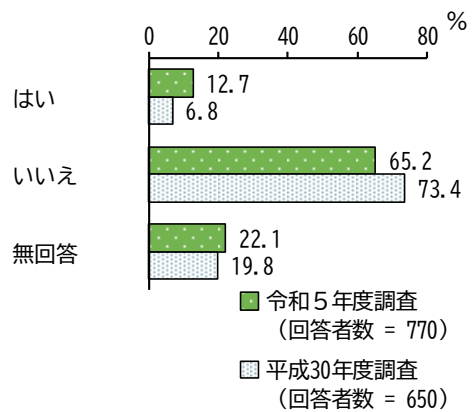
⑮ファミリー・サポート・センター



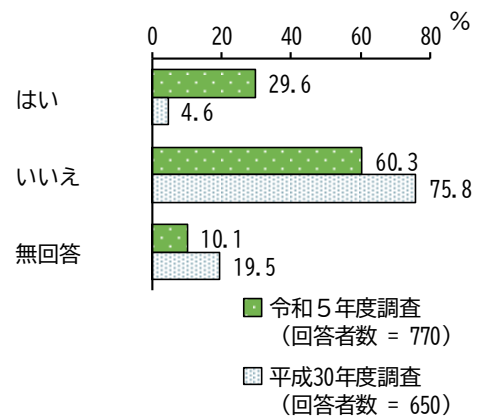
⑯教育センター（教育相談）



⑱発達支援室

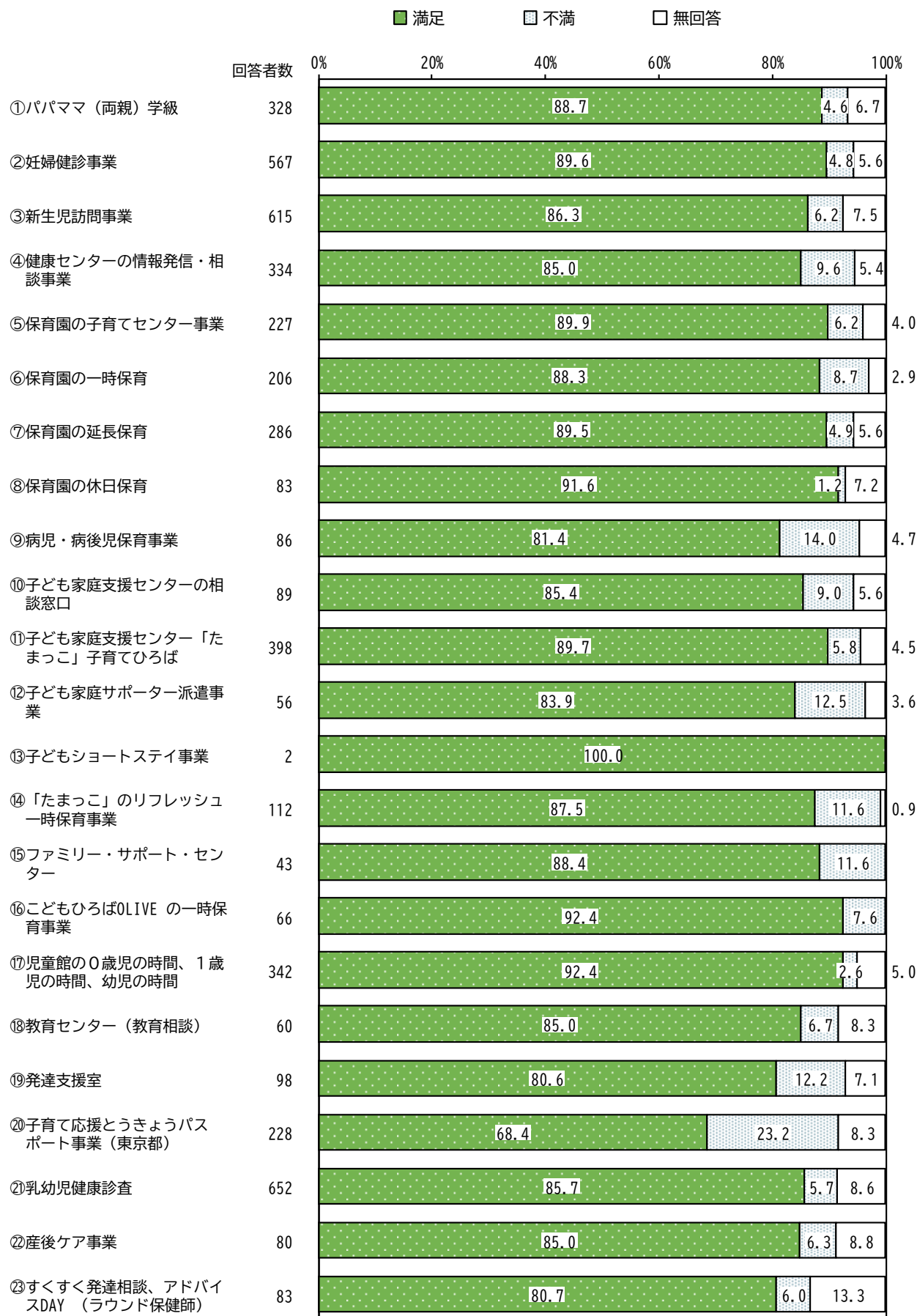


⑳子育て応援とうきょうパスポート事業 (東京都)



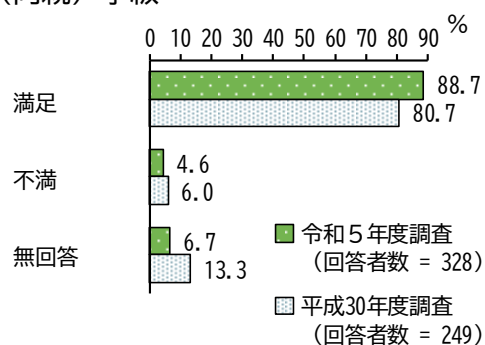
A-1 未就学児用

B 満足度

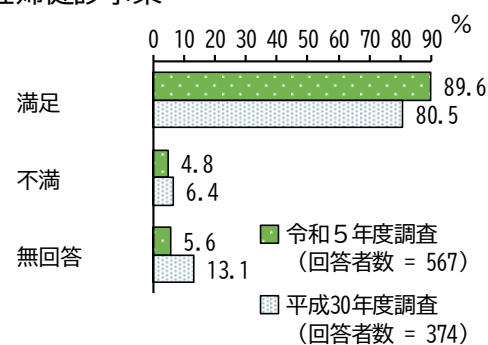


<項目ごとの経年比較>

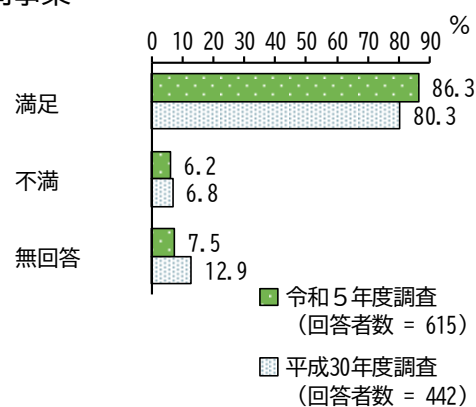
①パパママ（両親）学級



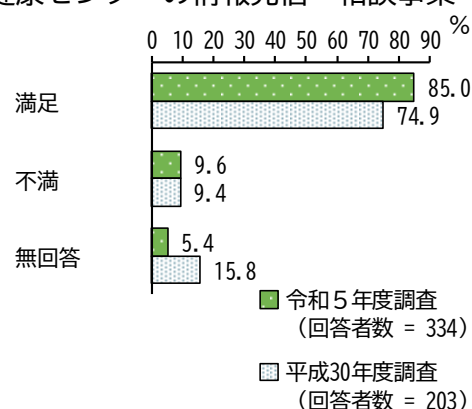
②妊婦健診事業



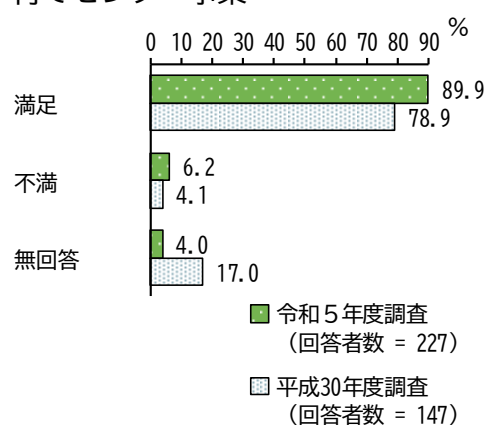
③新生児訪問事業



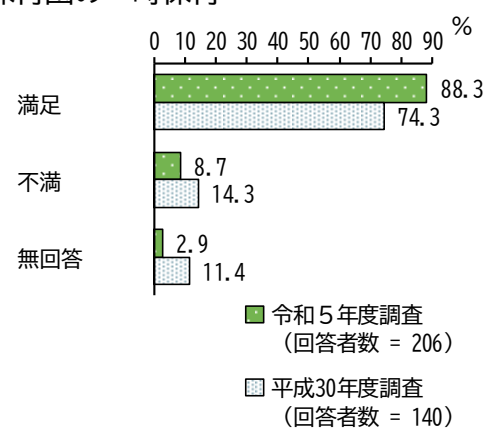
④健康センターの情報発信・相談事業



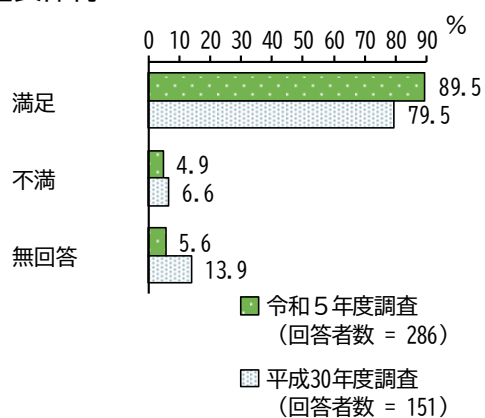
⑤保育園の子育てセンター事業



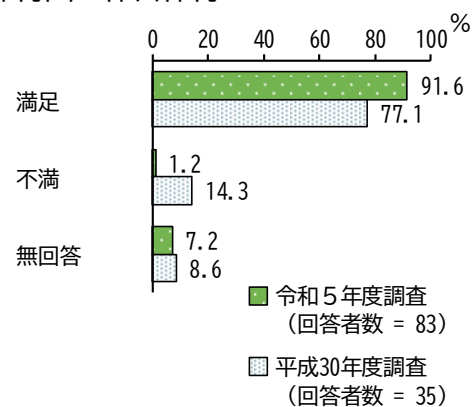
⑥保育園の一時保育



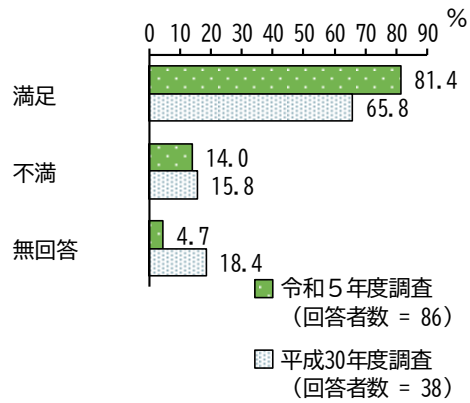
⑦保育園の延長保育



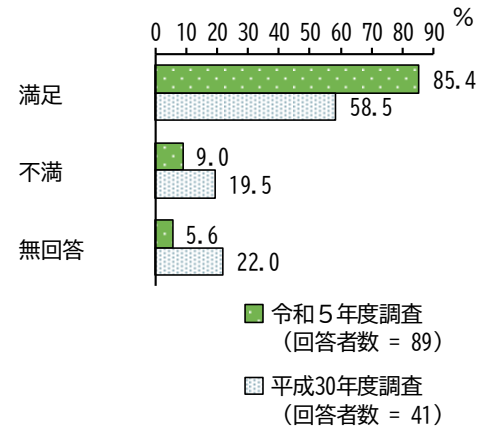
⑧保育園の休日保育



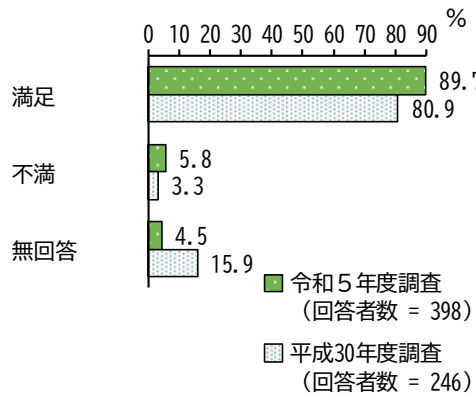
⑨病児・病後児保育事業



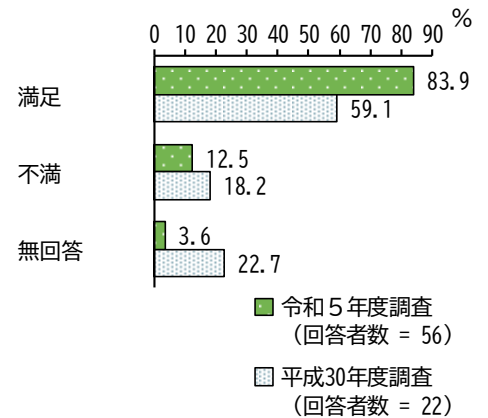
⑩子ども家庭支援センターの相談窓口



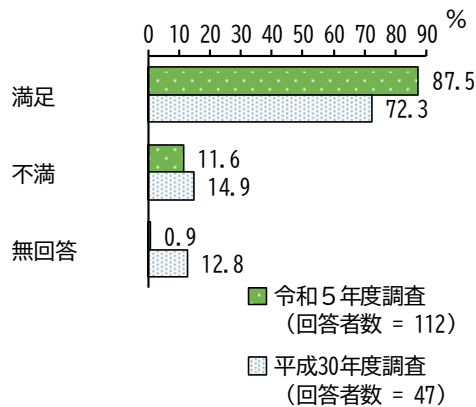
⑪子ども家庭支援センター「たまっこ」子育てひろば



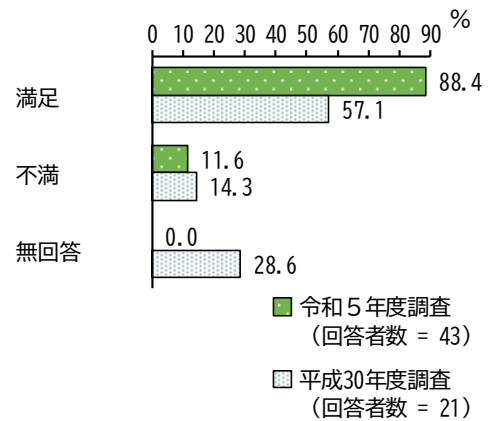
⑫子ども家庭サポーター派遣事業



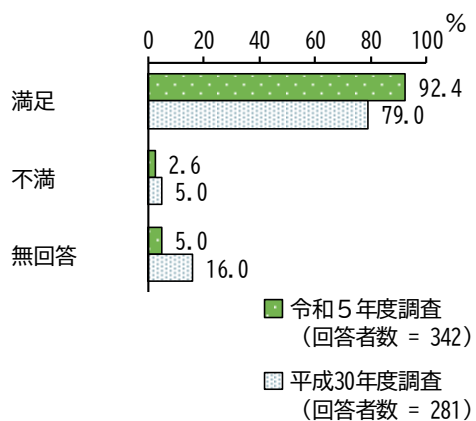
⑭「たまっこ」のリフレッシュ時保育事業



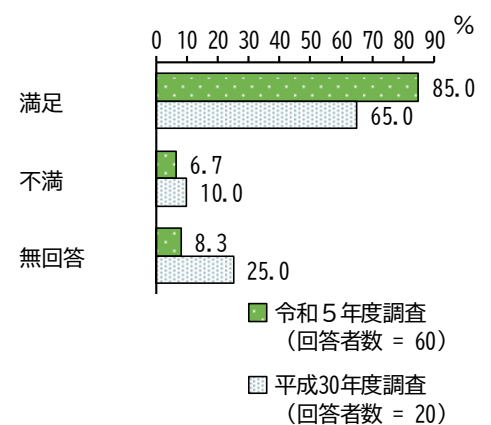
⑮ファミリー・サポート・センター



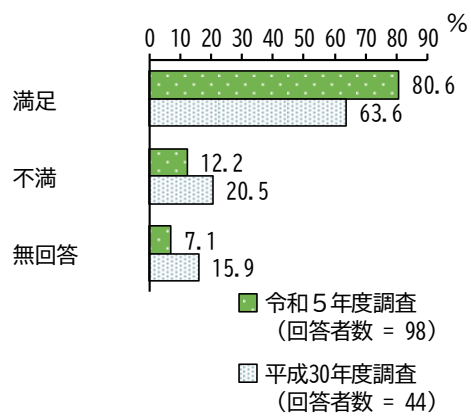
⑰児童館の0歳児の時間、1歳児の時間、幼児の時間



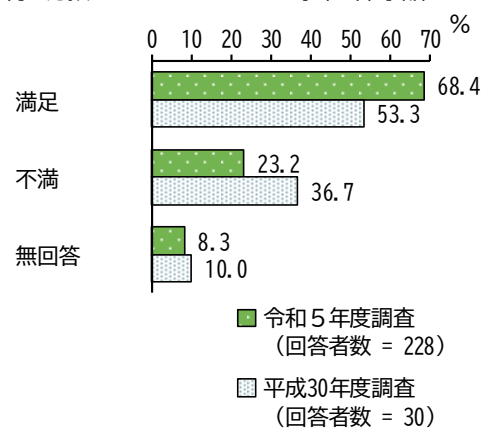
⑱教育センター（教育相談）



⑱発達支援室

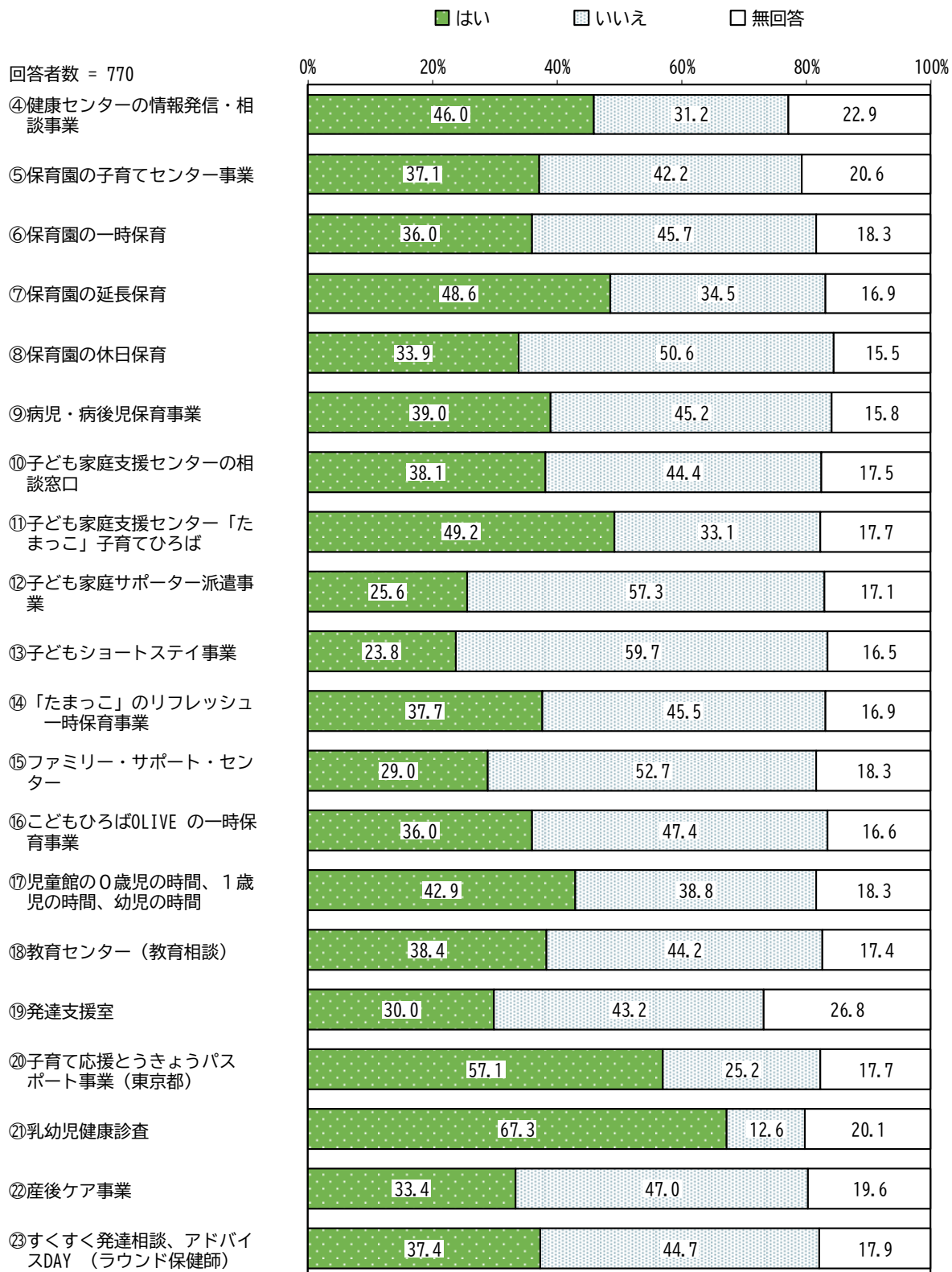


⑳子育て応援とうきょうパスポート事業 (東京都)



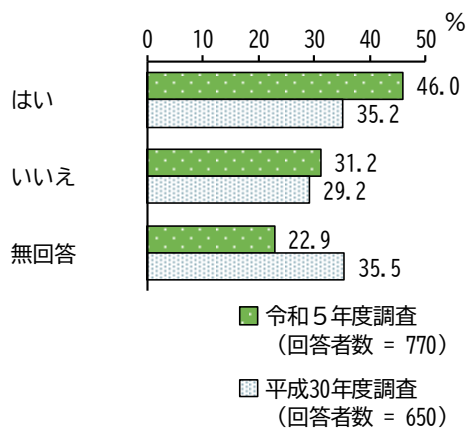
A-1 未就学児用

C 今後利用したいかどうか

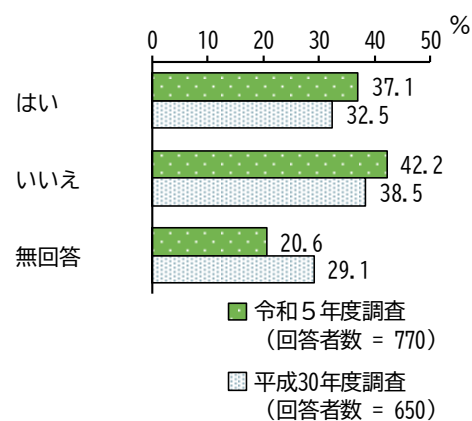


<項目ごとの経年比較>

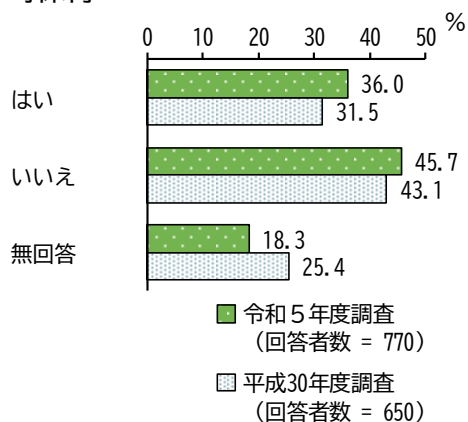
④健康センターの情報発信・相談事業



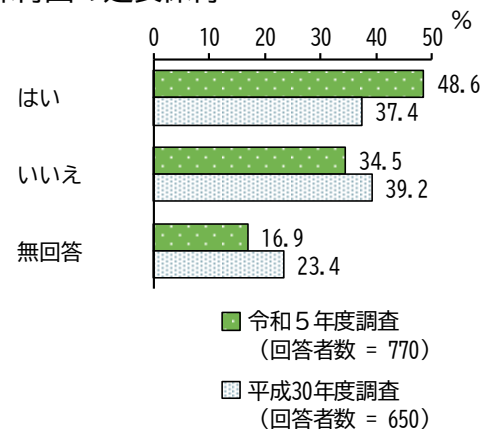
⑤保育園の子育てセンター事業



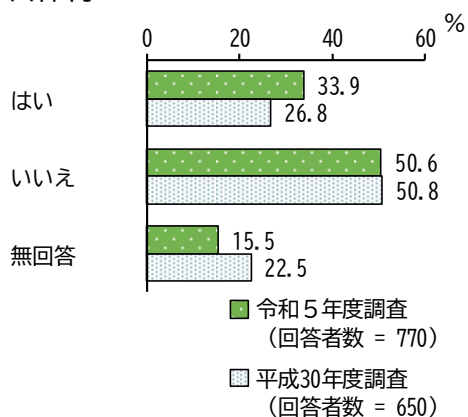
⑥保育園の一時保育



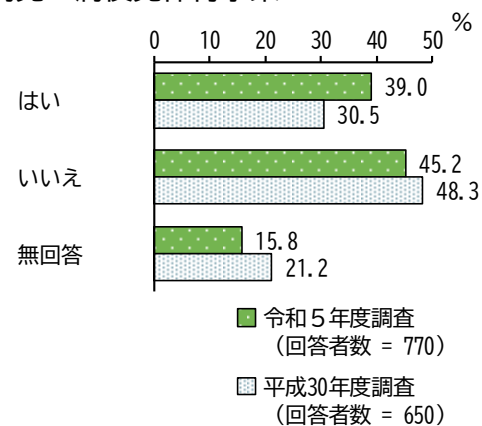
⑦保育園の延長保育



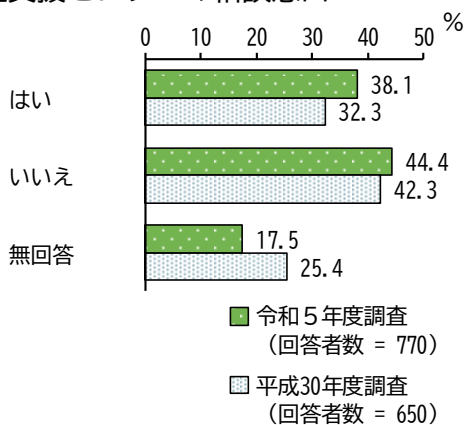
⑧保育園の休日保育



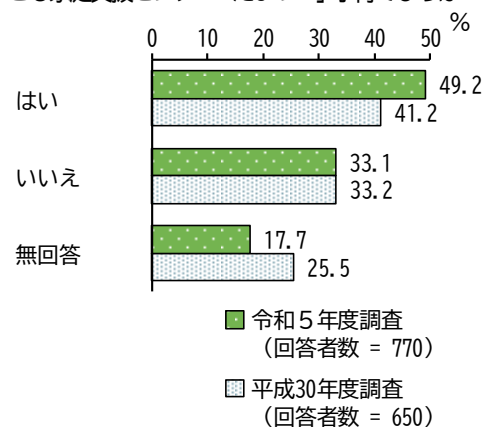
⑨病児・病後児保育事業



⑩子ども家庭支援センターの相談窓口

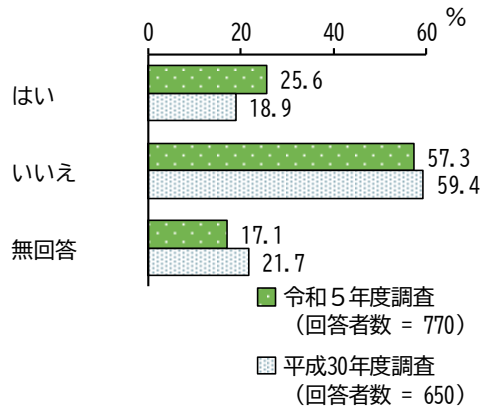


⑪子ども家庭支援センター「たまっこ」子育てひろば

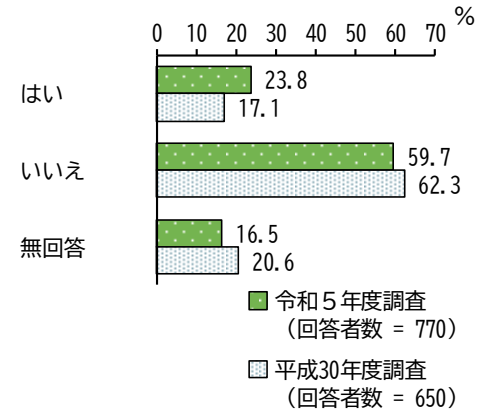


A-1 未就学児用

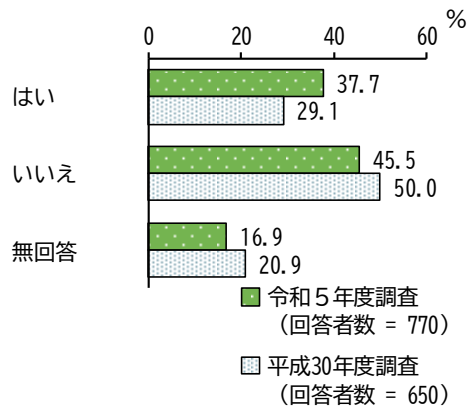
⑫子ども家庭サポーター派遣事業



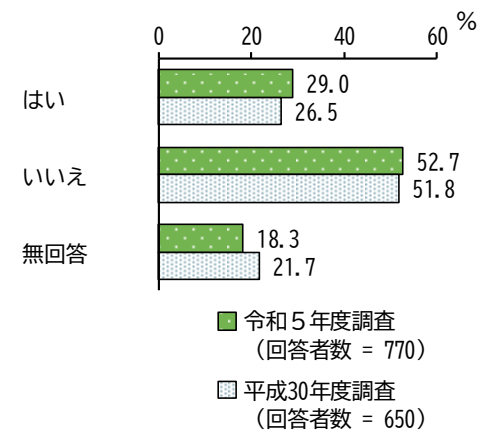
⑬子どもショートステイ事業



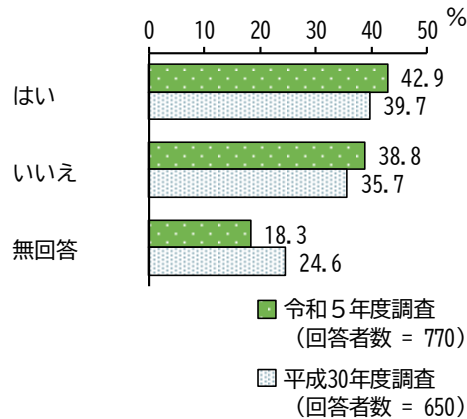
⑭「たまっこ」のリフレッシュ時保育事業



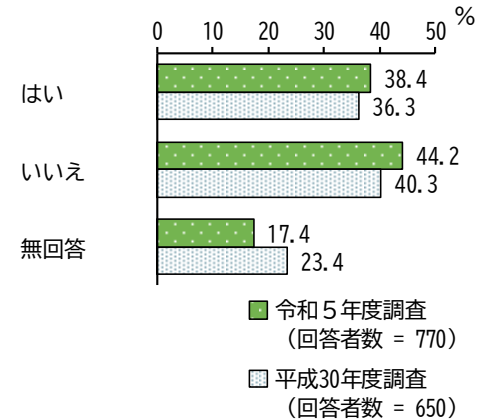
⑮ファミリー・サポート・センター



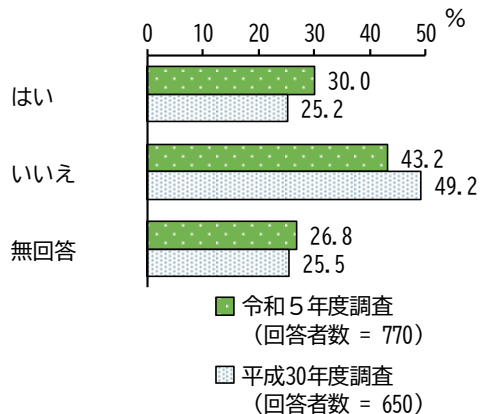
⑰児童館の0歳児の時間、1歳児の時間、幼児の時間



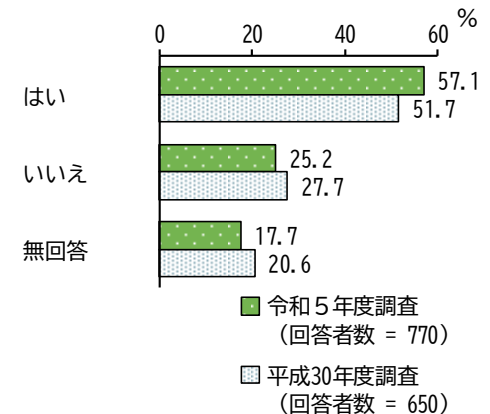
⑱教育センター（教育相談）



⑲発達支援室



⑳子育て応援とうきょうパスポート事業（東京都）

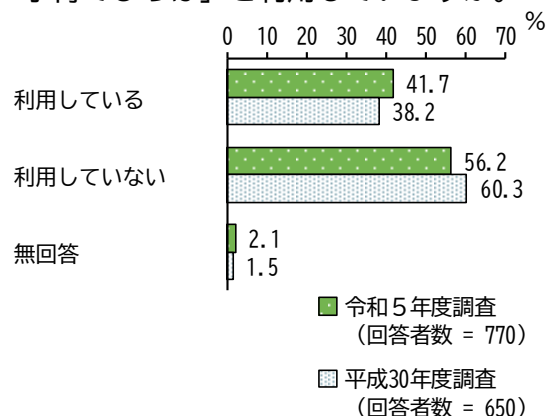


問 14 お子さんは、現在、以下にあげる地域子育て支援拠点を利用していますか。それぞれあてはまる番号と記号に○をつけ、【 】内に数字でご記入ください。

(ア) 上記の場所に設置している地域子育て支援拠点の「子育てひろば」を利用していますか。

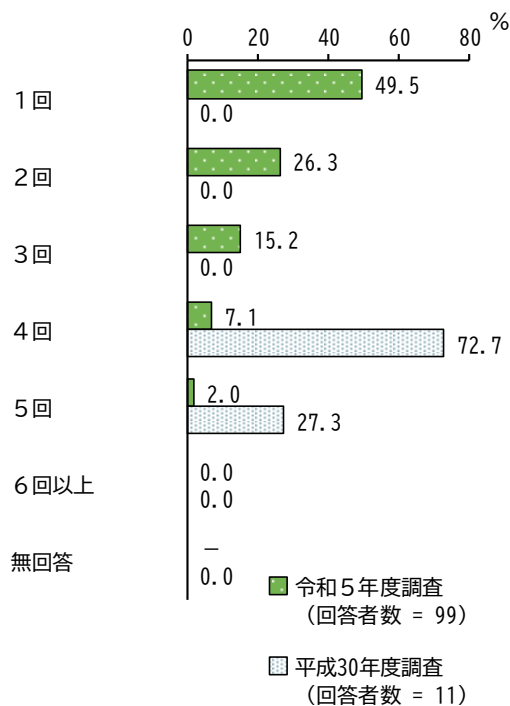
「利用している」の割合が 41.7%、「利用していない」の割合が 56.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「利用している」の割合が若干増加し、「利用していない」の割合が若干減少しています。



<利用者の、1 週あたりの利用回数>

「1 回」の割合が 49.5%と最も高く、次いで「2 回」の割合が 26.3%、「3 回」の割合が 15.2%となっています。

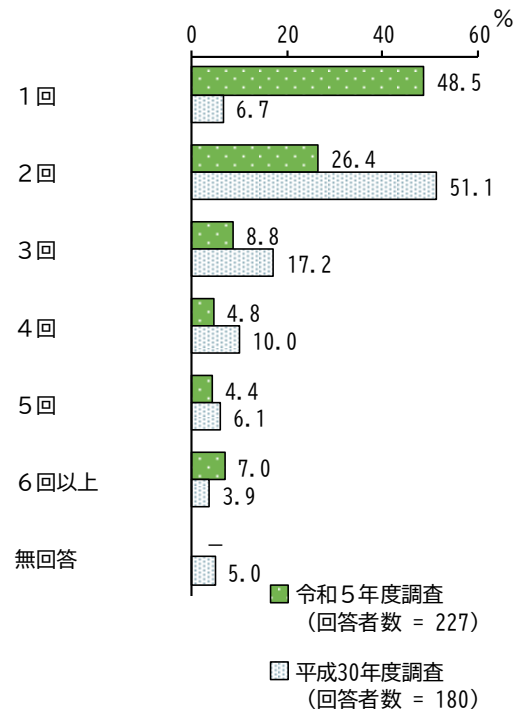


A-1 未就学児用

<利用者の、1月あたりの利用回数>

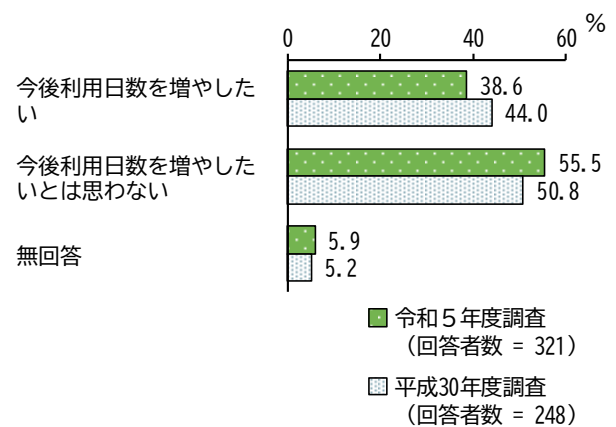
「1回」の割合が48.5%と最も高く、次いで「2回」の割合が26.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「1回」の割合が増加しています。一方、「2回」「3回」「4回」の割合が減少しています。



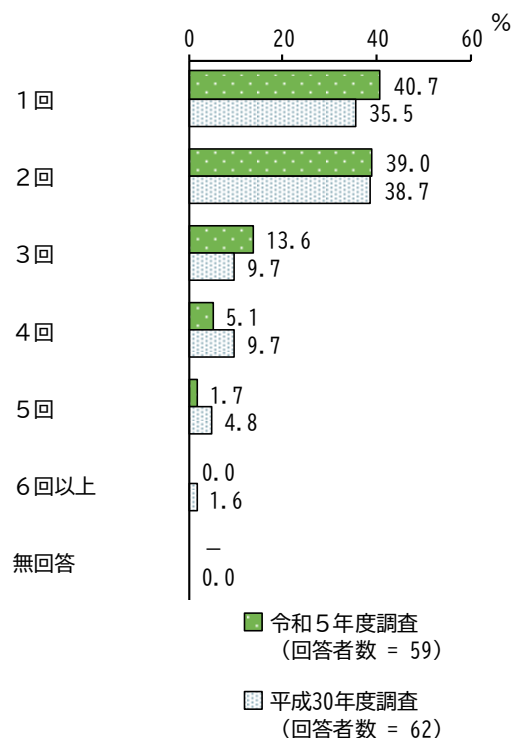
<利用者の、今後の利用意向について>

「今後利用日数を増やしたい」の割合が38.6%、「今後利用日数を増やしたいとは思わない」の割合が55.5%となっています。



<利用日数を増やしたいと回答した利用者の、1週あたりの利用希望回数>

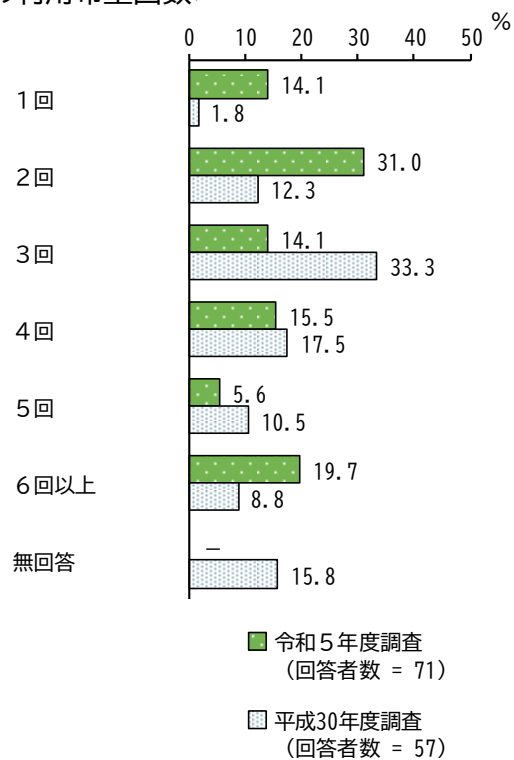
「1回」の割合が40.7%と最も高く、次いで
「2回」の割合が39.0%、「3回」の割合が
13.6%となっています。



<利用日数を増やしたいと回答した利用者の、1月あたりの利用希望回数>

「2回」の割合が31.0%と最も高く、次いで
「6回以上」の割合が19.7%、「4回」の割合
が15.5%となっています。

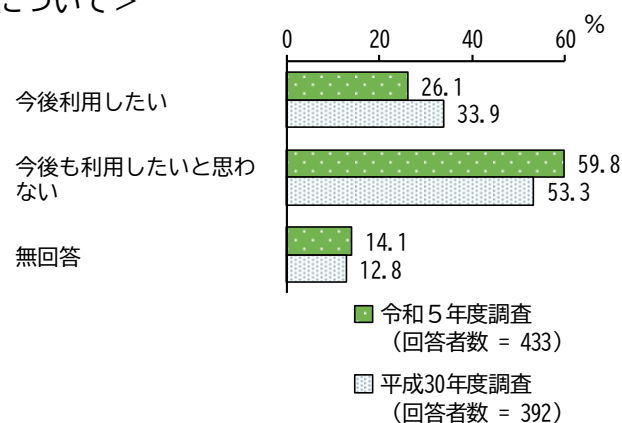
平成30年度調査と比較すると、「1回」「2回」「6回以上」の割合が増加しています。一方、「3回」の割合が減少しています。



A-1 未就学児用

<利用していないと回答した方の、今後の利用意向について>

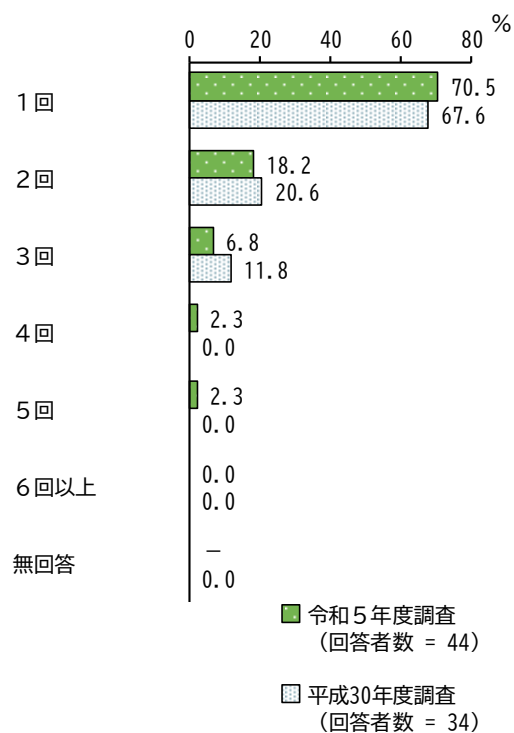
「今後利用したい」の割合が 26.1%、「今後も利用したいと思わない」の割合が 59.8%となっています。



<利用しておらず、今後利用したいと回答した方の、1週あたりの利用希望回数>

「1回」の割合が 70.5%と最も高く、次いで「2回」の割合が 18.2%となっています。

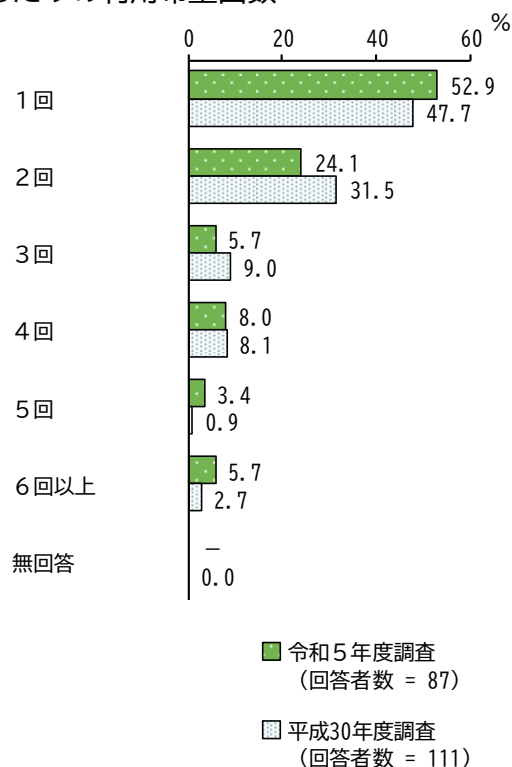
平成 30 年度調査と比較すると、「3回」の割合が減少しています。



<利用しておらず、今後利用したいと回答した方の、1月あたりの利用希望回数>

「1回」の割合が52.9%と最も高く、次いで

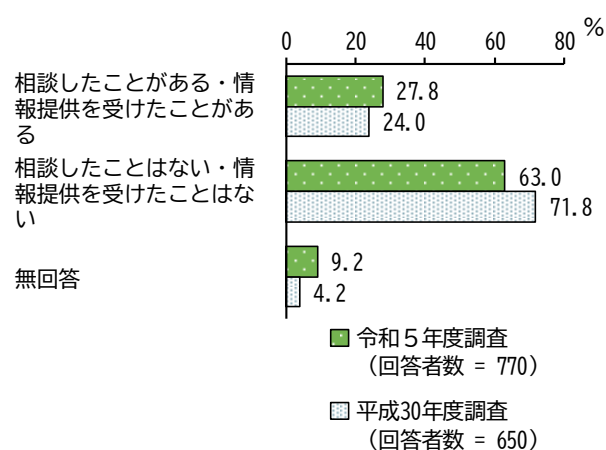
「2回」の割合が24.1%となっています。



(イ) 地域子育て支援拠点の「子育てひろば」で相談を行った、または情報提供を受けたことはありますか。

「相談したことがある・情報提供を受けたことがある」の割合が27.8%、「相談したことはない・情報提供を受けたことはない」の割合が63.0%となっています。

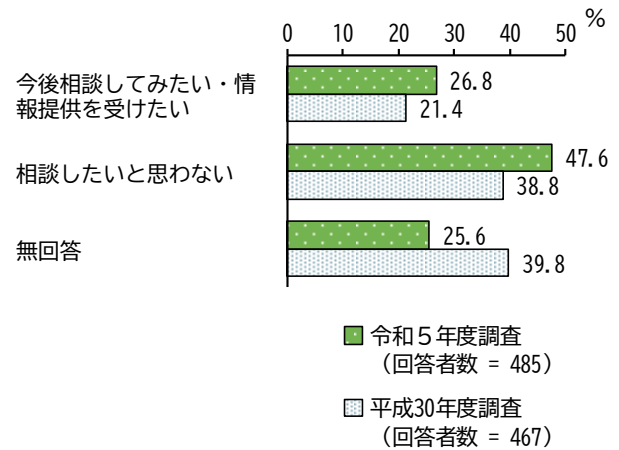
平成30年度調査と比較すると、「相談したことがある・情報提供を受けたことがある」の割合が若干増加し、「相談したことはない・情報提供を受けたことはない」の割合が若干減少しています。



A-1 未就学児用

<今後の相談について>

「今後相談してみたい・情報提供を受けたい」の割合が 26.8%、「相談したいと思わない」の割合が 47.6%となっています。

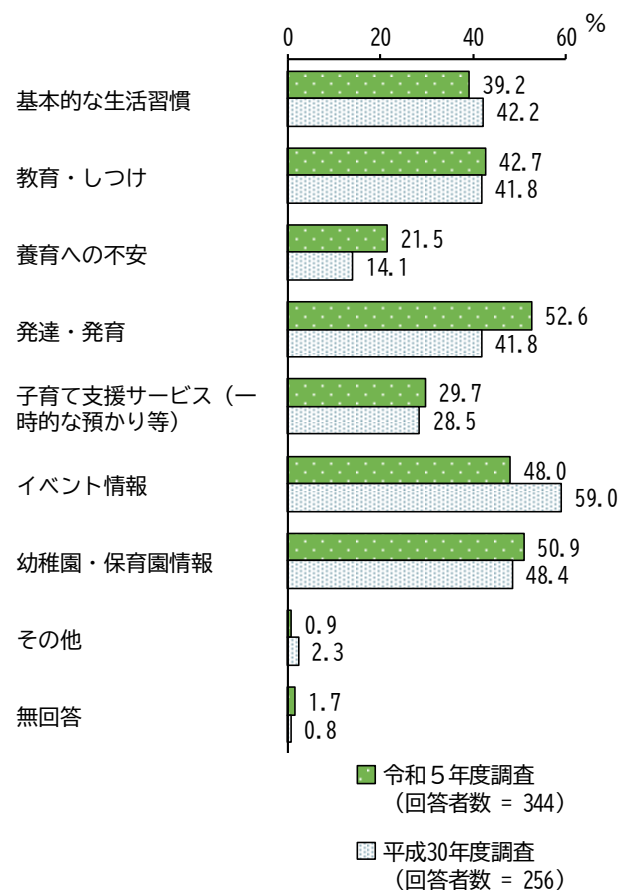


(ウ) 相談したいこと（これまで相談したこと）または知りたい情報はどんなことですか。

（あてはまるものすべてに○）

「発達・発育」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園情報」の割合が 50.9%、「イベント情報」の割合が 48.0%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「養育への不安」「発達・発育」の割合が増加しています。一方、「イベント情報」の割合が減少しています。



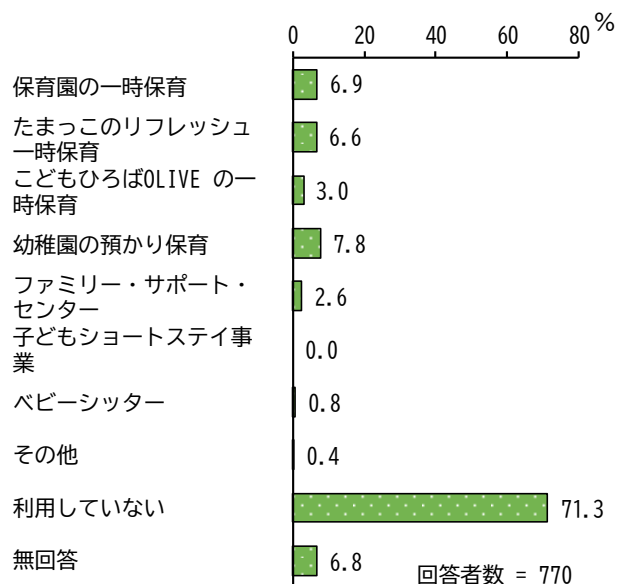
(9) お子さんの不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う「一時預かり」等の利用について

問 15 お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、保護者の用事や通院、不特定の就労等の目的で不特定に利用している事業はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

また、ある場合は1年間の利用日数(おおよそ)も数字でご記入ください。

「利用していない」の割合が71.3%と最も高くなっています。

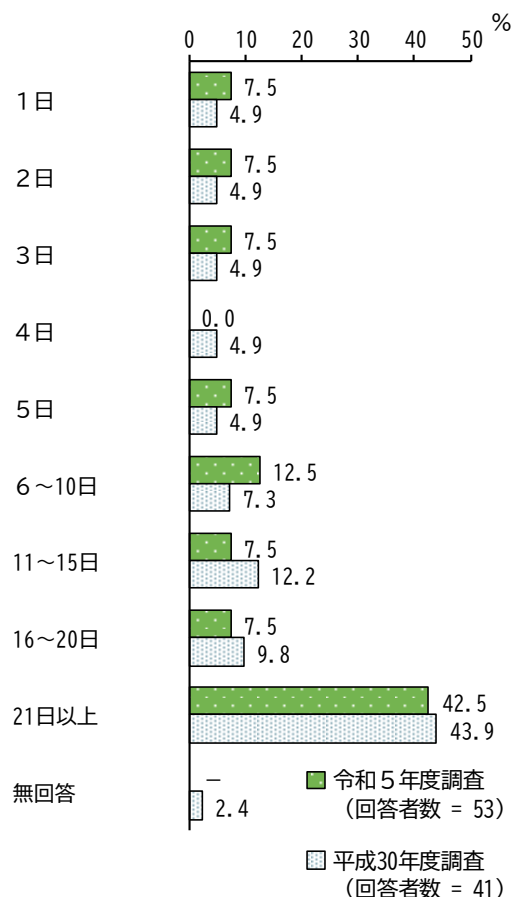


<項目ごとの1年間の利用日数>

1. 保育園の一時預かり

「21日以上」の割合が42.5%と最も高く、次いで「6～10日」の割合が12.5%となっています。

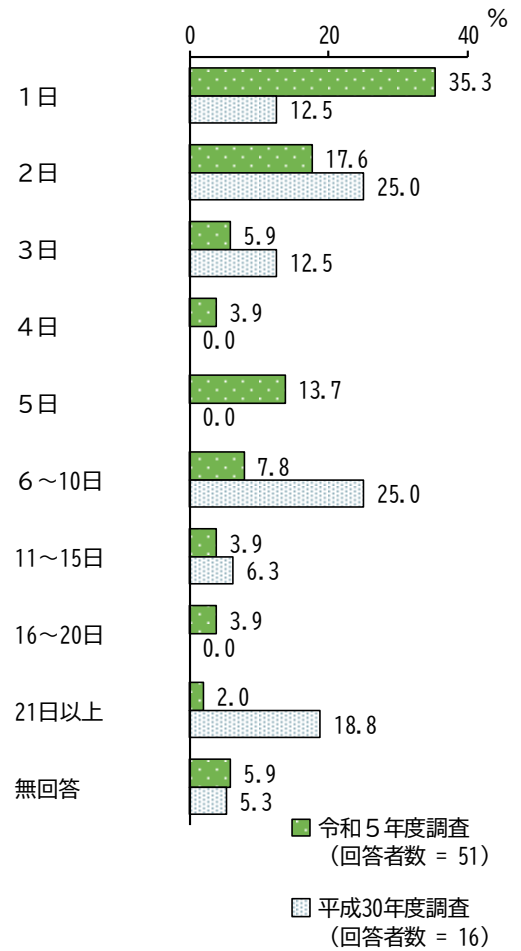
平成30年度調査と比較すると、「6～10日」の割合が増加しています。



A-1 未就学児用

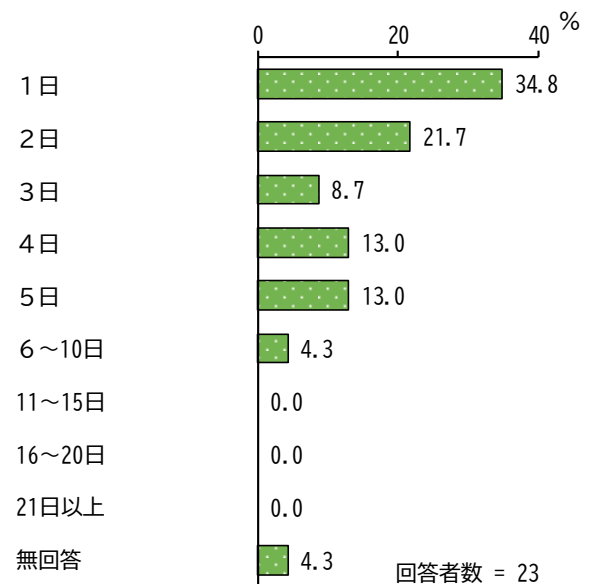
2. たまっこのリフレッシュ時保育

「1日」の割合が35.3%と最も高く、次いで「2日」の割合が17.6%、「5日」の割合が13.7%となっています。



3. こどもひろば OLIVE の一時保育

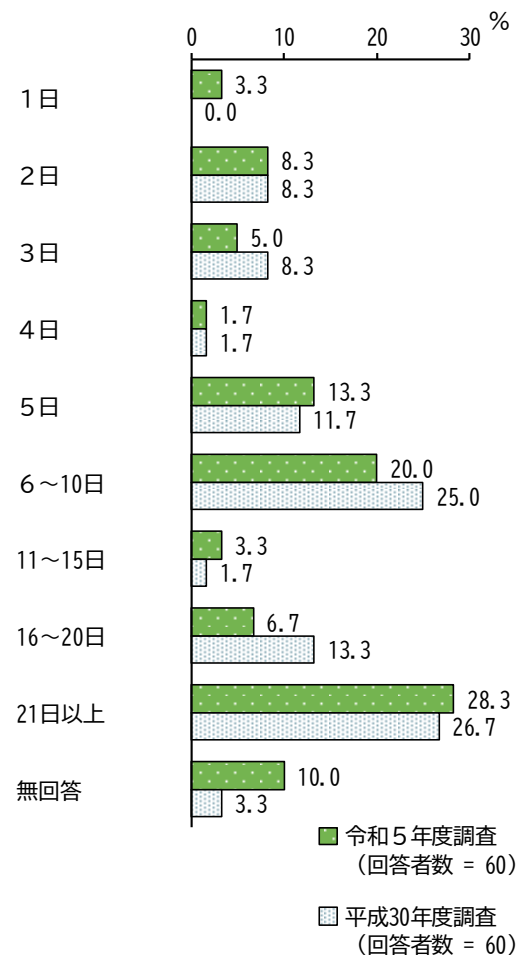
「1日」の割合が34.8%と最も高く、次いで「2日」の割合が21.7%、「4日」、「5日」の割合が13.0%となっています。



4. 幼稚園の預かり保育

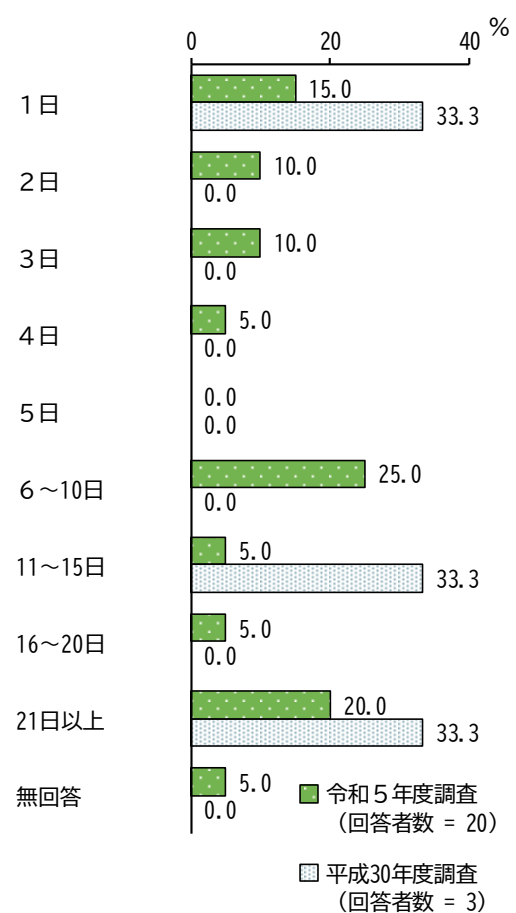
「21 日以上」の割合が 28.3%と最も高く、次いで「6～10 日」の割合が 20.0%、「5 日」の割合が 13.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「6～10 日」「16～20 日」の割合が減少し、「5 日」「21 日以上」の割合が若干増加しています。



5. ファミリー・サポート・センター

「6～10 日」の割合が 25.0%と最も高く、次いで「21 日以上」の割合が 20.0%、「1 日」の割合が 15.0%となっています。

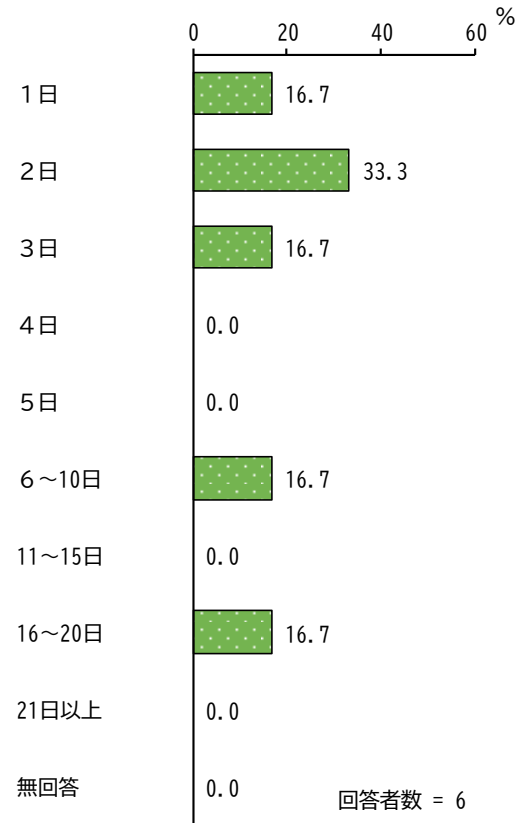


A-1 未就学児用

6. 子どもショートステイ事業
有効回答がありませんでした。

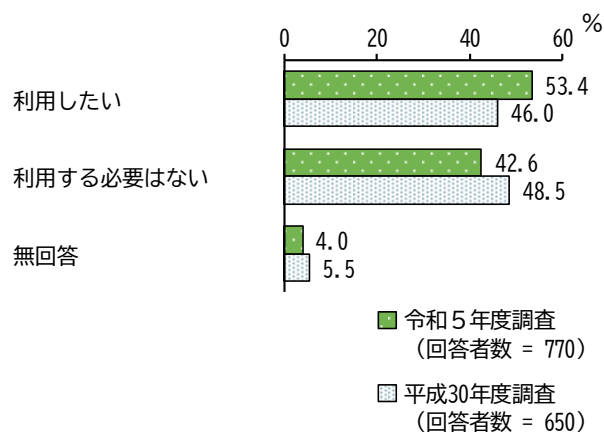
7. ベビーシッター

「2日」が2件となっています。「1日」、「3日」、「6～10日」、「16～20日」が1件となっています。



問 16 お子さんについて、保護者の用事や通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい一時的な預かり事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無についてあてはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数をご記入ください（目的別の内訳の日数を【 】内に数字でご記入ください）。
※事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。利用料も考慮の上ご回答ください。

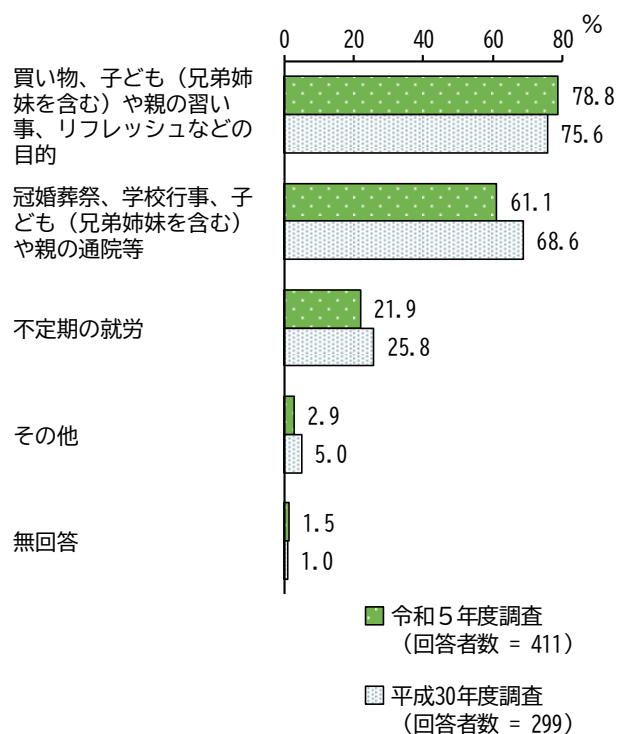
「利用したい」の割合が 53.4%、「利用する必要はない」の割合が 42.6%となっています。
平成 30 年度調査と比較すると、「利用したい」の割合が増加しています。



<利用目的>

「買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事、リフレッシュなどの目的」の割合が 78.8%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」の割合が 61.1%、「不定期の就労」の割合が 21.9%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事、リフレッシュなどの目的」の割合が若干増加し、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」の割合が減少しています。



A-1 未就学児用

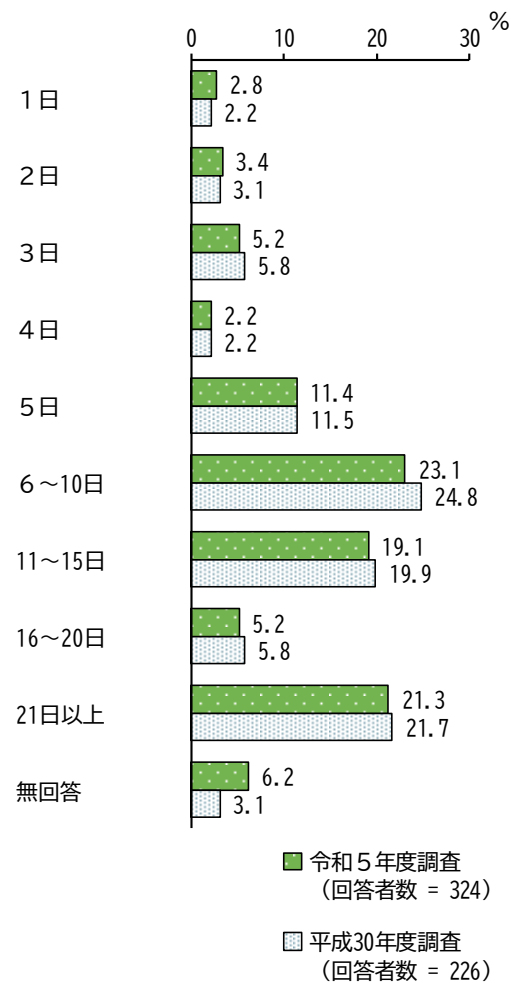
<項目ごとの1年間の利用日数>

ア. 買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や

親の習い事、リフレッシュなどの目的の日数

「6～10日」の割合が23.1%と最も高く、次いで「21日以上」の割合が21.3%、「11～15日」の割合が19.1%となっています。

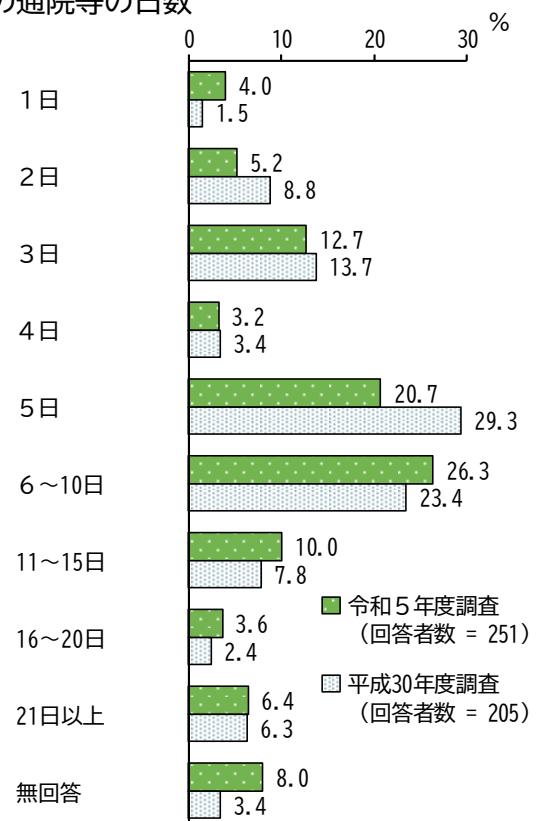
平成30年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



イ. 冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等の日数

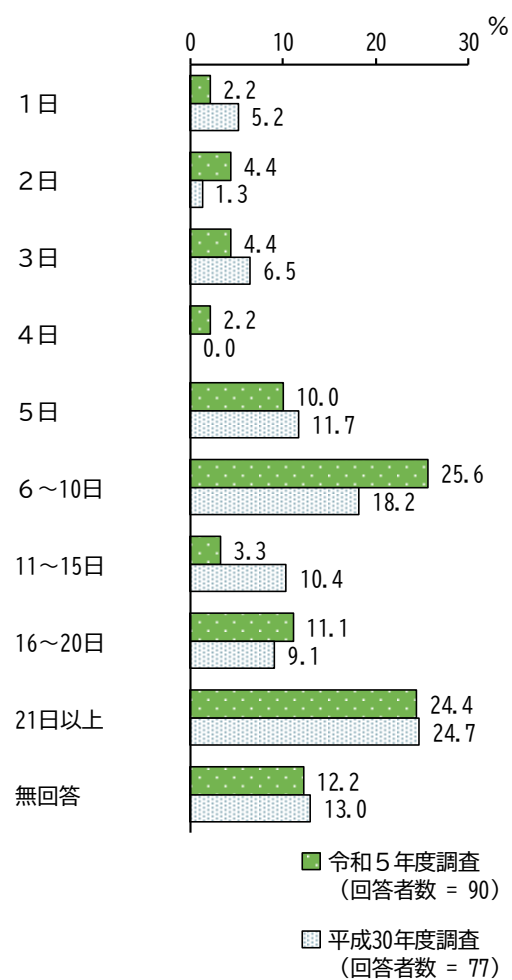
「6～10日」の割合が26.3%と最も高く、次いで「5日」の割合が20.7%、「3日」の割合が12.7%となっています。

平成30年度調査と比較すると、6日以上の割合が増加しています。



ウ. 不定期の就労の日数

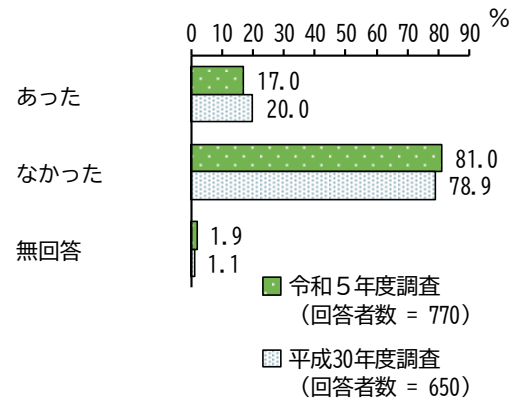
「6～10日」の割合が25.6%と最も高く、次いで「21日以上」の割合が24.4%、「16～20日」の割合が11.1%となっています。



問 17 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、お子さんを泊りがけで家族以外（同居者を含む）にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。
あった場合は、この1年間の対処方法としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。それぞれの日数も【 】内に数字でご記入ください。

「あった」の割合が 17.0%、「なかった」の割合が 81.0%となっています。

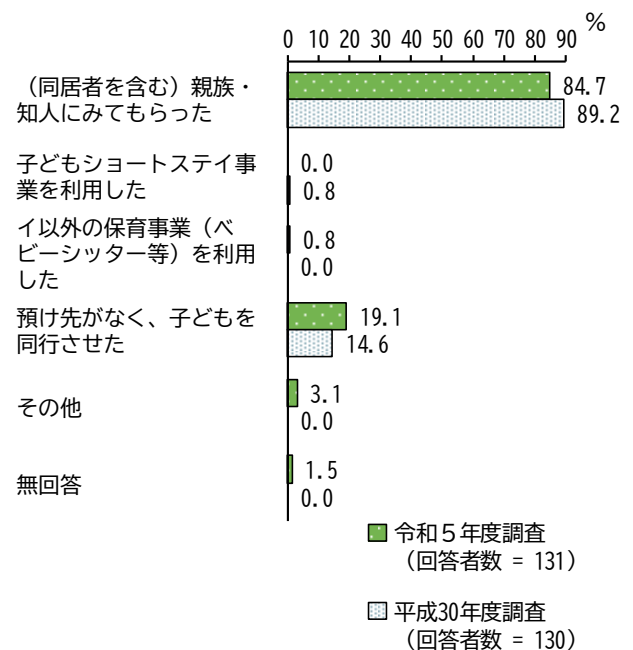
平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



<直近1年間の対処方法>

「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」の割合が 84.7%と最も高く、次いで「預け先がなく、子どもを同行させた」の割合が 19.1%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、傾向の変化はないものの、「預け先がなく、子どもを同行させた」の割合が若干増加しています。



主な「その他」意見

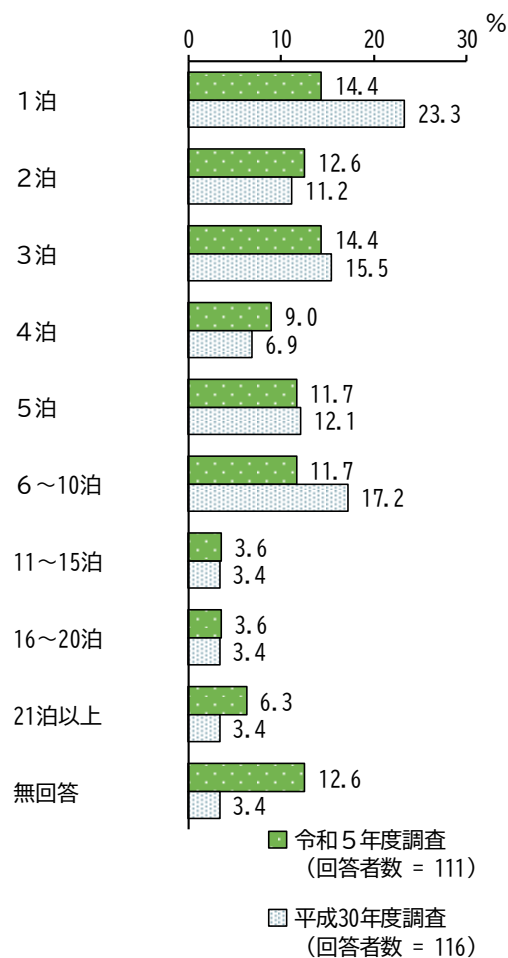
- ・あきらめた （2件）

<項目ごとの年間で活用した泊数>

ア. (同居者を含む) 親族・知人にみてもらった泊数

「1泊」、「3泊」の割合が14.4%と最も高く、次いで「2泊」の割合が12.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「1泊」「6～10泊」の割合が減少し、「4泊」「21泊以上」の割合が若干増加しています。



イ. 子どもショートステイ事業を利用した泊数

有効回答がありませんでした。

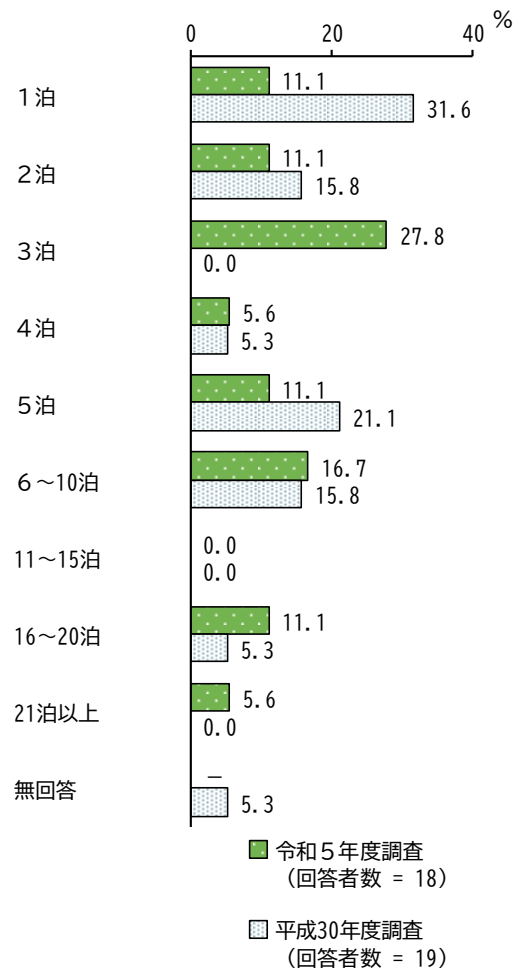
ウ. イ以外の保育事業（ベビーシッター等）を利用した泊数

「4泊」が1件となっています。

A-1 未就学児用

工. 預け先がなく、子どもを同行させた泊数

「3泊」の割合が27.8%と最も高く、次いで「6～10泊」の割合が16.7%、「1泊」「2泊」「5泊」「16～20泊」の割合が11.1%となっています。

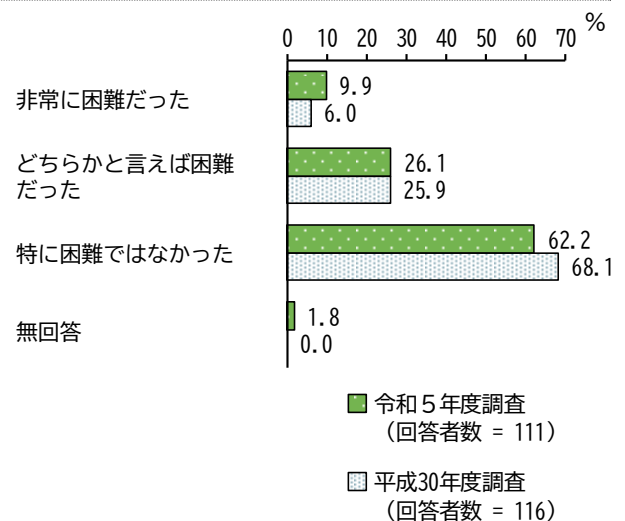


【問17で「ア. (同居人を含む) 親族・知人にみてもらった」と答えた方にお伺いします】

問17-1 そのとき、預かってくれる親族・知人を見つけるのは、どの程度困難でしたか。(○は1つ)

「特に困難ではなかった」の割合が62.2%と最も高く、次いで「どちらかと言えば困難だった」の割合が26.1%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「特に困難ではなかった」の割合が減少し、「非常に困難だった」の割合が若干増加しています。

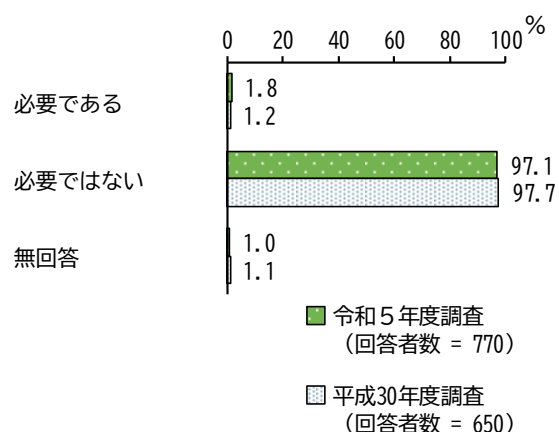


(10) お子さんの発達や医療的ケアについて

問 18 お子さんについて、日常的に医療的ケアが必要ですか。(○は1つ)

「必要である」の割合が1.8%、「必要ではない」の割合が97.1%となっています。

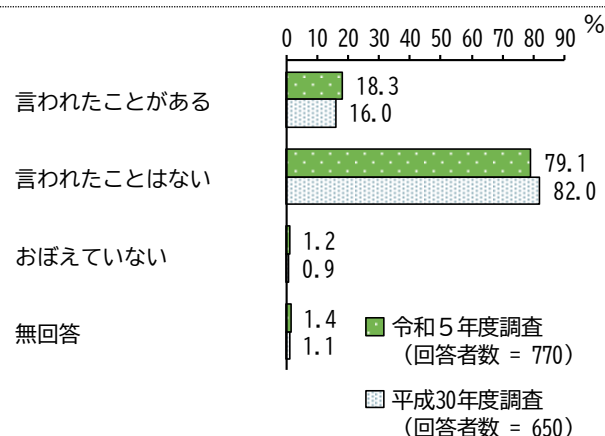
平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



問 19 お子さんは、健康センターの乳幼児健診（3～4か月・1歳6か月・3歳児健診）、保育所や通院した医療機関等で「発達に遅れが見られる」または「発達で気になるところが見られる」などと言われたことがありますか。(○は1つ)

「言われたことはない」の割合が79.1%と最も高く、次いで「言われたことがある」の割合が18.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



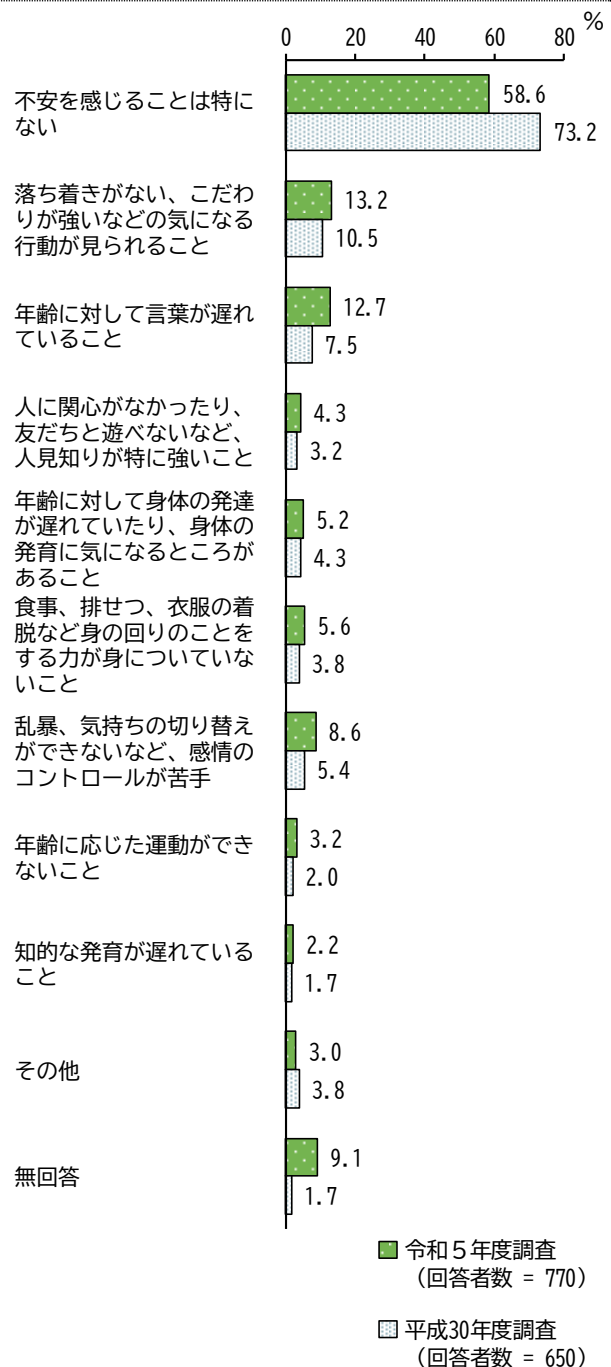
問 20 あなたは、お子さんの発達の面で不安を感じたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「不安を感じることは特にない」の割合が 58.6%と最も高く、次いで「落ち着きがない、こだわりが強いなどの気になる行動が見られること」の割合が 13.2%、「年齢に対して言葉が遅れていること」の割合が 12.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「不安を感じることは特にない」の割合が減少し、子どもの発達の面で不安を感じる割合が増えています。

主な「その他」意見

- ・食べ物好き嫌い (5件)
- ・言葉の遅れ (3件)
- ・吃音 (2件)



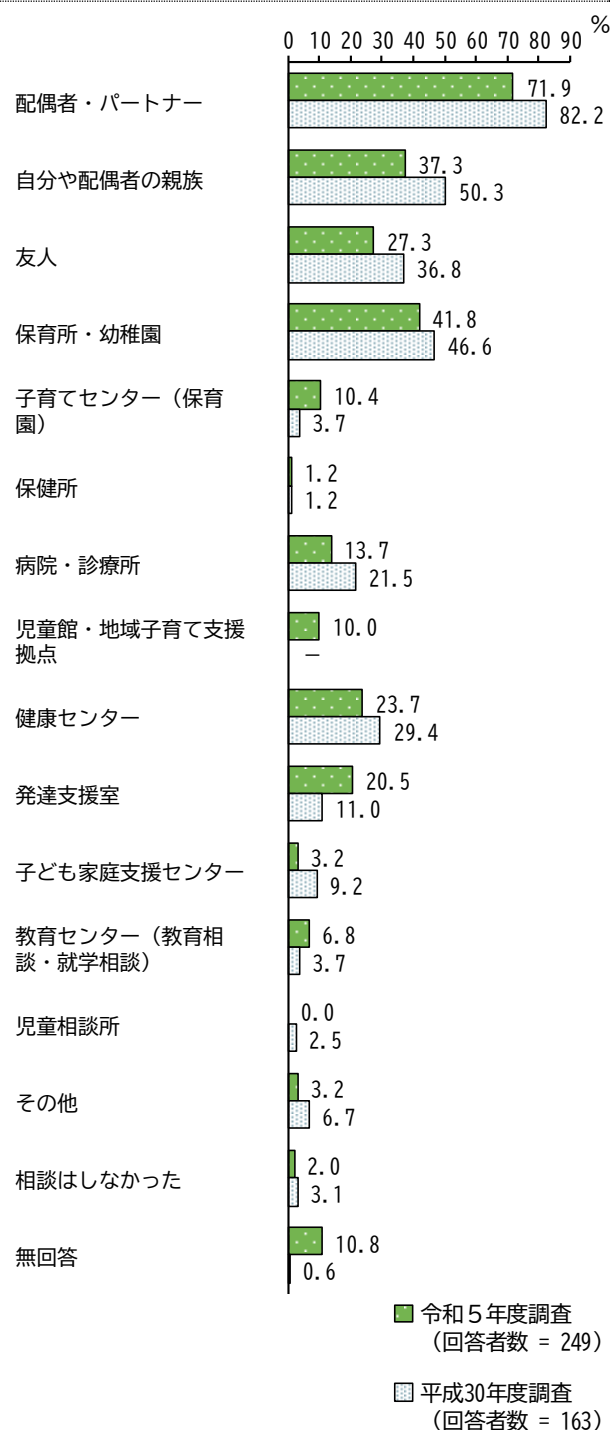
【問 20 で「2. 落ち着きがない、こだわりが強いなどの気になる行動が見られること」から「10. その他」のいずれかに○をつけた方にお伺いします】

問 20-1 あなたがお子さんの発達の面で不安を感じたとき、誰（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者・パートナー」の割合が 71.9%と最も高く、次いで「保育所・幼稚園」の割合が 41.8%、「自分や配偶者の親族」の割合が 37.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「子育てセンター（保育園）」「発達支援室」の割合が増加しています。一方、「配偶者・パートナー」「自分や配偶者の親族」「友人」「保育所・幼稚園」「病院・診療所」「健康センター」「子ども家庭支援センター」の割合が減少しています。

主な「その他」意見
・療育センター （2件）



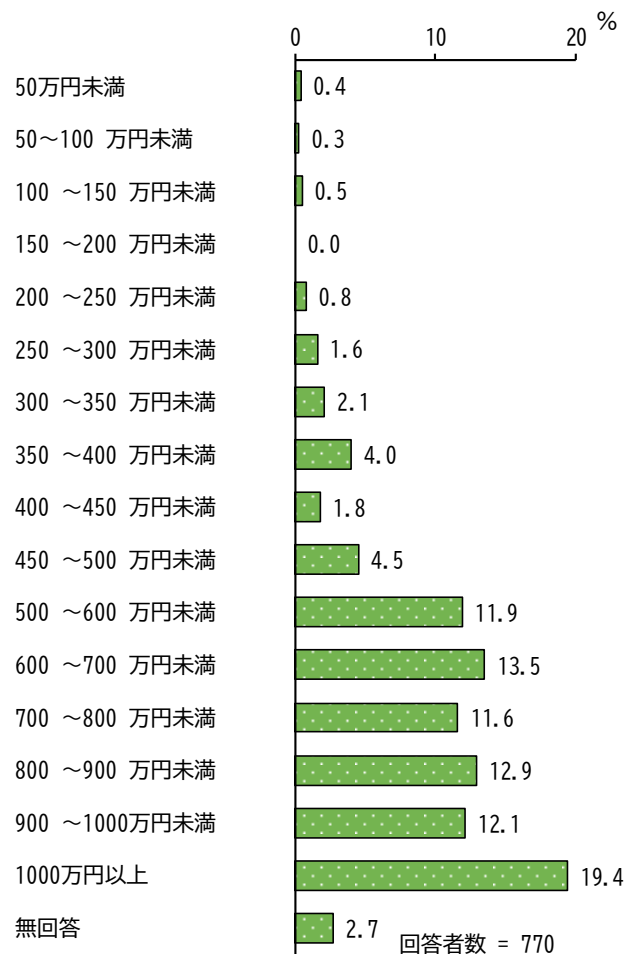
※令和5年度調査で、「児童館・地域子育て支援拠点」の選択肢を追加しています。

※「子ども家庭支援センター」は、令和2年4月1日に、子育て総合センターから名称変更を行っています。

(11) あなたの暮らし向きについて

問 21 昨年（令和4年1～12月）1年間の、あなたの世帯（生計を共にする家族の収入も含みます）のおよその総収入（養育費や手当等すべての収入を含みます）を教えてください。（○は1つ）

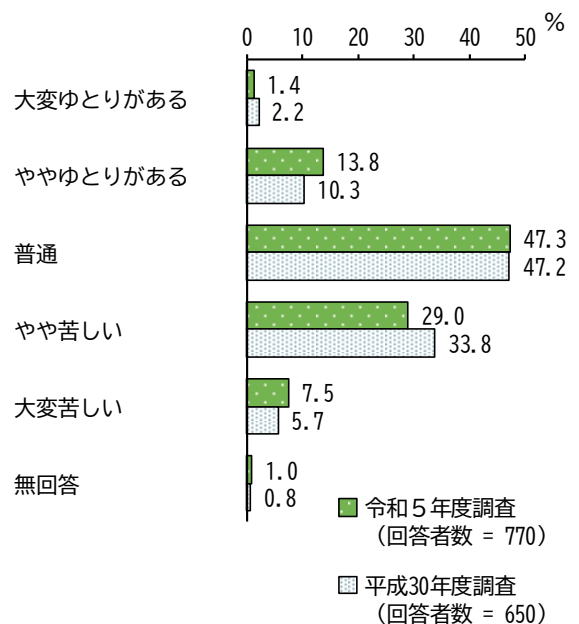
「1000 万円以上」の割合が 19.4%と最も高く、次いで「600～700 万円未満」の割合が 13.5%、「800～900 万円未満」の割合が 12.9%となっています。



問 22 現在の経済的な状況を総合的にみて、どう感じていますか。（○は1つ）

「普通」の割合が 47.3%と最も高く、次いで「やや苦しい」の割合が 29.0%、「ややゆとりがある」の割合が 13.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「ややゆとりがある」「大変苦しい」の割合が若干増加し、「やや苦しい」の割合が若干減少しています。



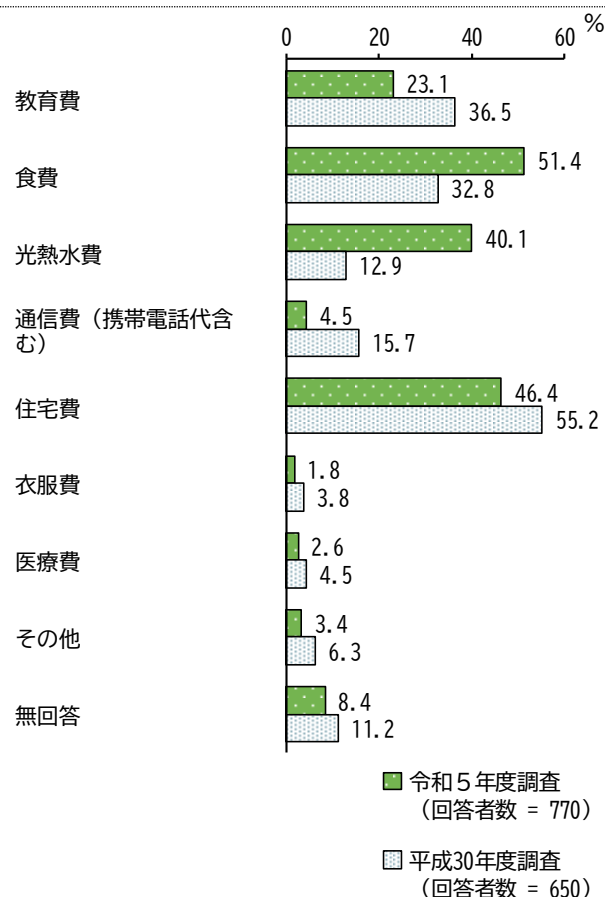
問 23 生活の中で負担に感じる費用はありますか。上位2つをお選びください。
(○は2つ)

「食費」の割合が 51.4%と最も高く、次いで
「住宅費」の割合が 46.4%、「光熱水費」の割
合が 40.1%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「食費」「光熱
水費」の割合が大幅に増加しています。一方、
「教育費」「通信費(携帯電話代含む)」「住宅費」
の割合が減少しています。

主な「その他」意見

- ・税金 (16 件)
- ・保険料 (7 件)

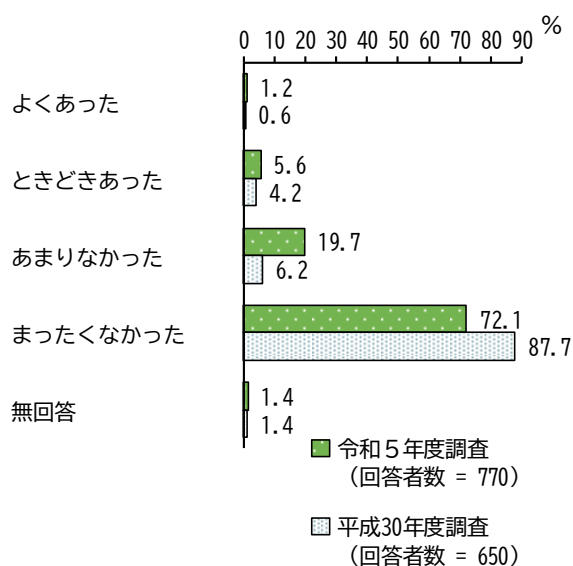


問 24 あなたのご家庭では、過去1年間の間にお金が足りずに、家族が必要とする食料
や衣類を買えないことなどがありましたか。(それぞれ○を1つ)

【ア. 食料】

「まったくなかった」の割合が 72.1%と最も
高く、次いで「あまりなかった」の割合が 19.7%
となっています。

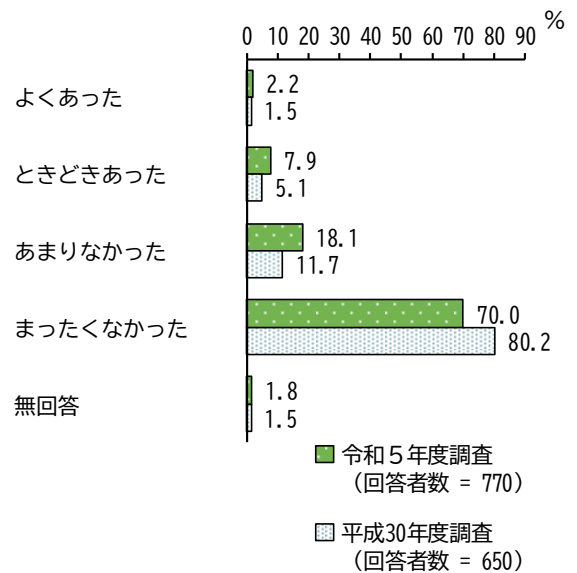
平成 30 年度調査と比較すると「まったくな
かった」の割合が減少し、「あまりなかった」の
割合が増加しています。



【イ. 衣類】

「まったくなかった」の割合が 70.0%と最も高く、次いで「あまりなかった」の割合が 18.1%となっています。

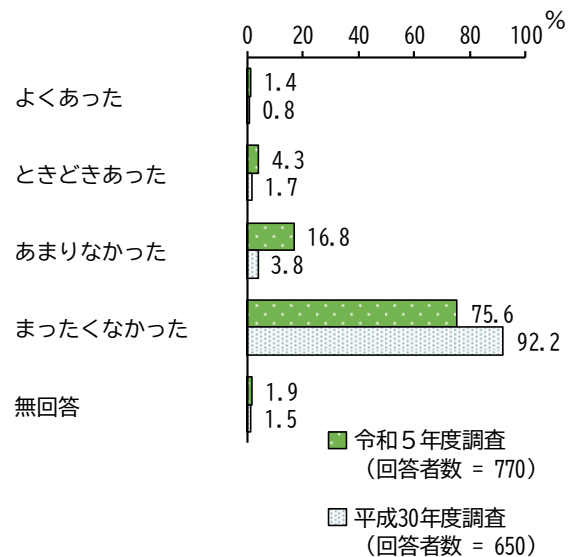
平成 30 年度調査と比較すると、「まったくなかった」の割合が減少し、「あまりなかった」の割合が増加しています。



【ウ. 光熱水費】

「まったくなかった」の割合が 75.6%と最も高く、次いで「あまりなかった」の割合が 16.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「まったくなかった」の割合が減少し、「あまりなかった」の割合が増加しています。

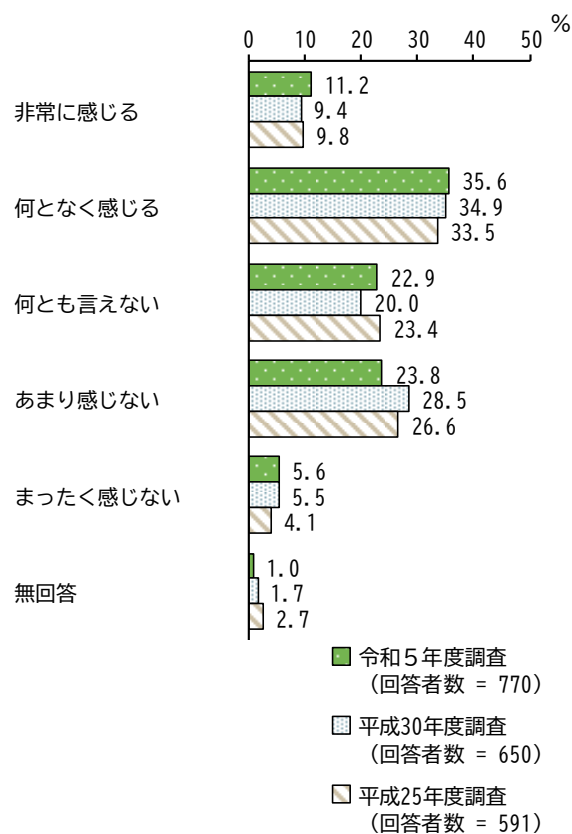


(12) 子育ての悩みや相談相手について

問 25 子育てについて、不安や負担を感じていますか。(○は1つ)

「何となく感じる」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「あまり感じない」の割合が 23.8%、「何とも言えない」の割合が 22.9%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



【問 25 で「1. 非常に感じる」「2. 何となく感じる」と答えた方にお伺いします】

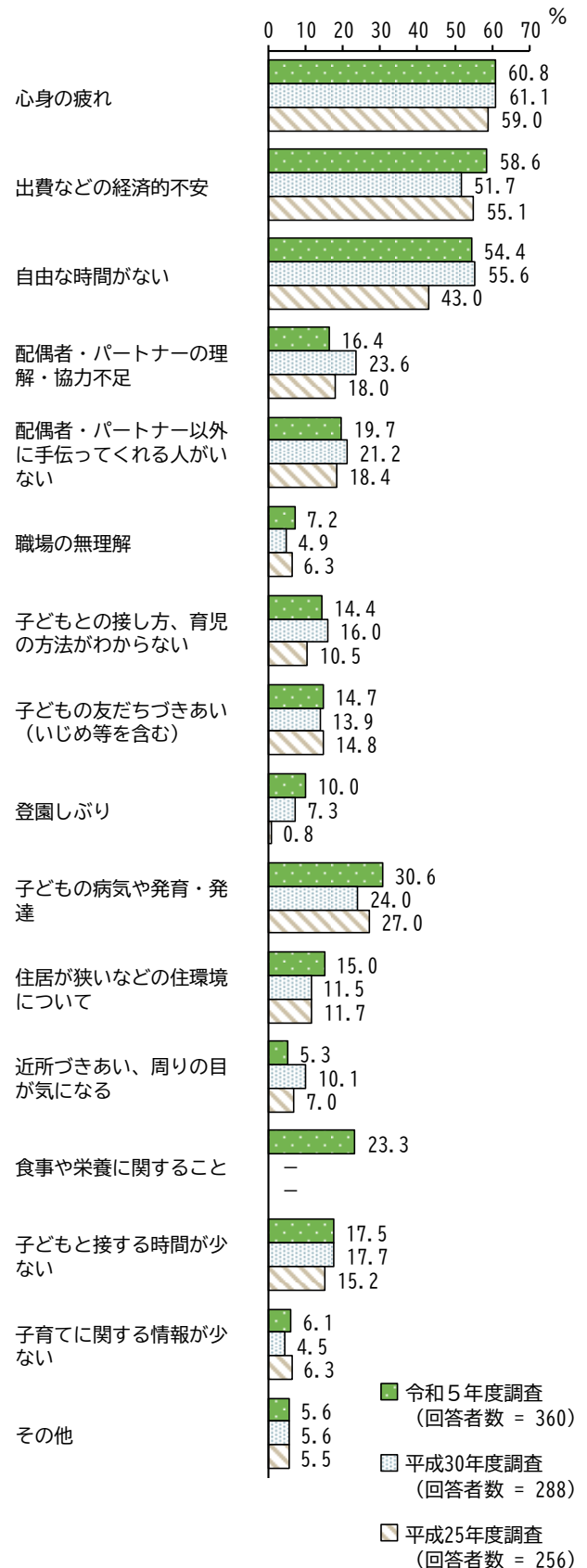
問 25-1 具体的にどのような不安や負担を感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「心身の疲れ」の割合が 60.8%と最も高く、次いで「出費などの経済的不安」の割合が 58.6%、「自由な時間がない」の割合が 54.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「出費などの経済的不安」「子どもの病気や発育・発達」の割合が増加しています。一方、「配偶者・パートナーの理解・協力不足」の割合が減少しています。

主な「その他」意見

・進学について (2件)

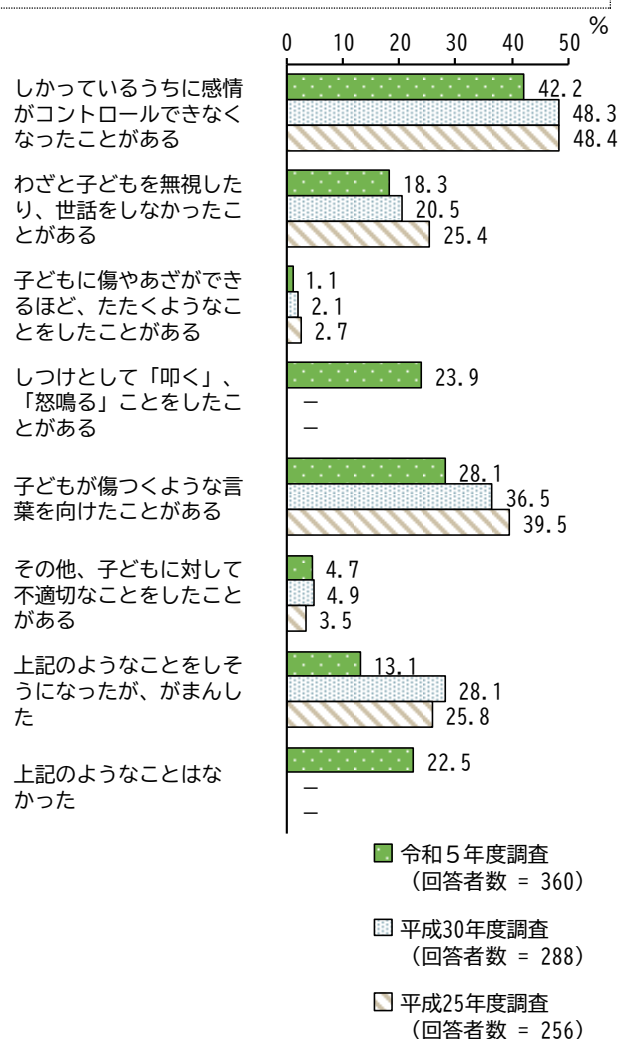


※令和5年度調査で、「食事や栄養に関すること」の選択肢を追加しています。

問 25-2 子育ての中で次のような経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「しかっているうちに感情がコントロールできなくなったことがある」の割合が42.2%と最も高く、次いで「子どもが傷つくような言葉を向けたことがある」の割合が28.1%、「しつけとして「叩く」、「怒鳴る」ことをしたことがある」の割合が23.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「しかっているうちに感情がコントロールできなくなったことがある」「子どもが傷つくような言葉を向けたことがある」「上記のようなことをしそうなになったが、がまんした」の割合が減少しています。

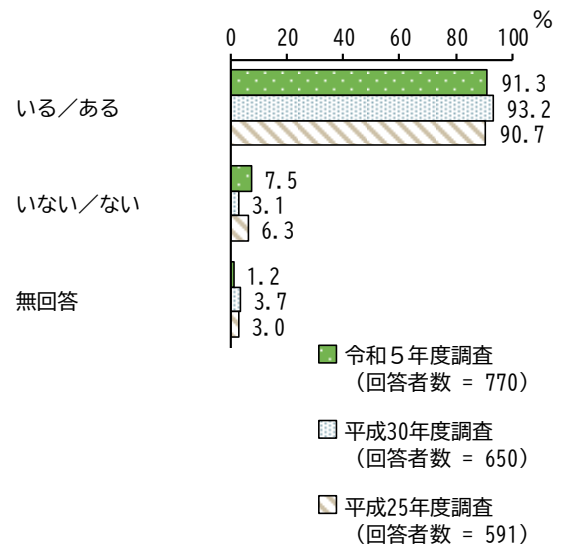


※令和5年度調査で、「しつけとして「叩く」、「怒鳴る」ことをしたことがある」「上記のようなことはなかった」の選択肢を追加しています。

問 26 お子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人、または相談できる場所がありますか。（○は1つ）

「いる／ある」の割合が 91.3%、「いない／ない」の割合が 7.5%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



【問 26 で「1」と答えた方にお伺いします】

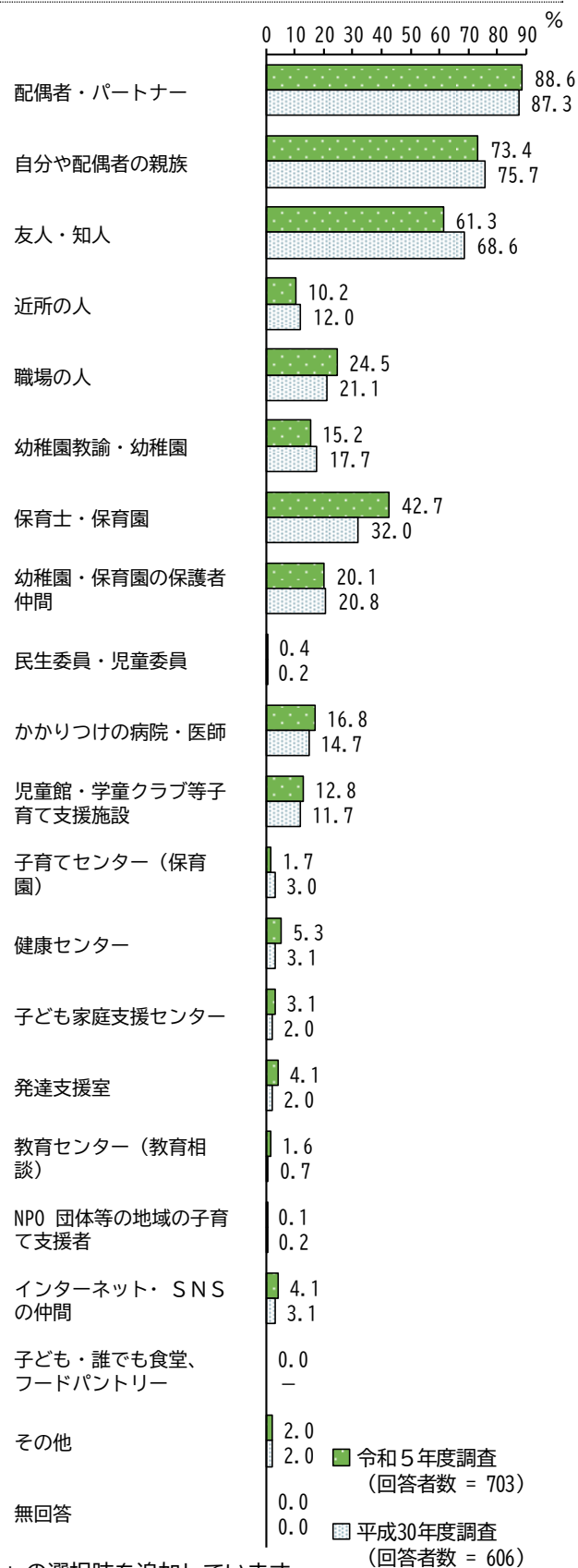
問 26-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は誰（どこ）ですか。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者・パートナー」の割合が 88.6%と最も高く、次いで「自分や配偶者の親族」の割合が 73.4%、「友人・知人」の割合が 61.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「保育士・保育園」の割合が増加しています。一方、「友人・知人」の割合が減少しています。

主な「その他」意見

- ・療育センター （3件）
- ・児童発達支援事業所 （3件）
- ・自分の両親 （2件）



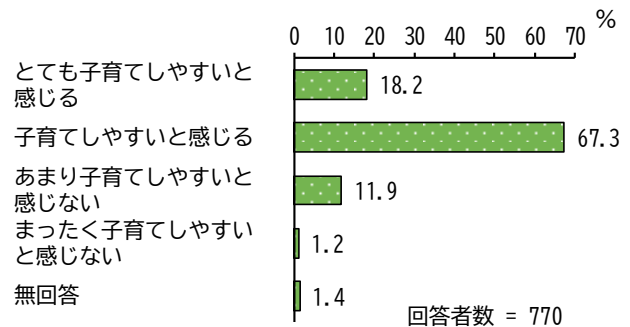
※令和5年度調査で、「子ども・誰でも食堂、フードパントリー」の選択肢を追加しています。

※「子ども家庭支援センター」は、令和2年4月1日に、子育て総合センターから名称変更を行っています。

(13) 多摩市での子育てについて

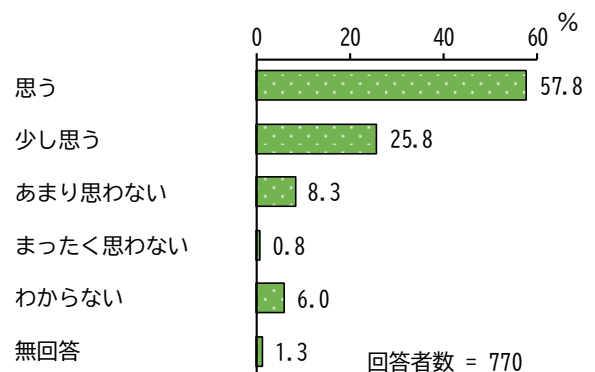
問 27 あなたは、多摩市で子育てをしていて、子育てをしやすいまちだと感じますか。
(○は1つ)

「子育てしやすいと感じる」の割合が 67.3%と最も高く、次いで「とても子育てしやすいと感じる」の割合が 18.2%、「あまり子育てしやすいと感じない」の割合が 11.9%となっています。



問 28 あなたは将来、多摩市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

「思う」の割合が 57.8%と最も高く、次いで「少し思う」の割合が 25.8%となっています。

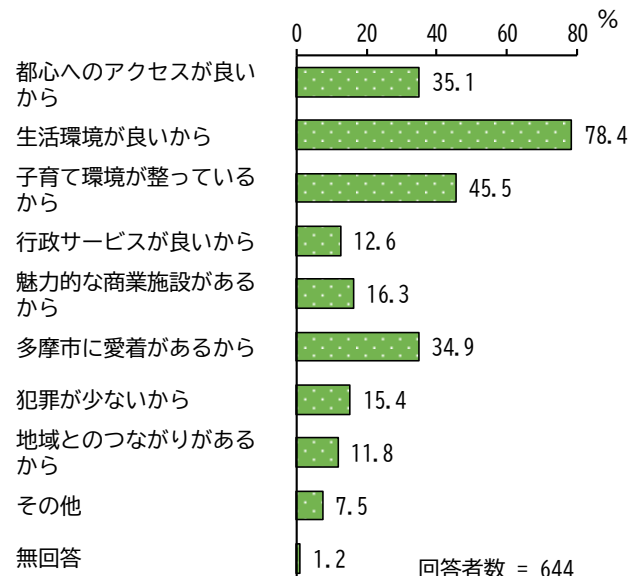


問 28-1 多摩市に住み続けたい理由 (あてはまるものすべてに○)

「生活環境が良いから」の割合が 78.4%と最も高く、次いで「子育て環境が整っているから」の割合が 45.5%、「都心へのアクセスが良いから」の割合が 35.1%となっています。

主な「その他」意見

- ・家を購入したから (11 件)
- ・実家が近いから (8 件)
- ・公園が多いから (8 件)
- ・親族が近くに住んでいるから (4 件)
- ・住み慣れているから (2 件)

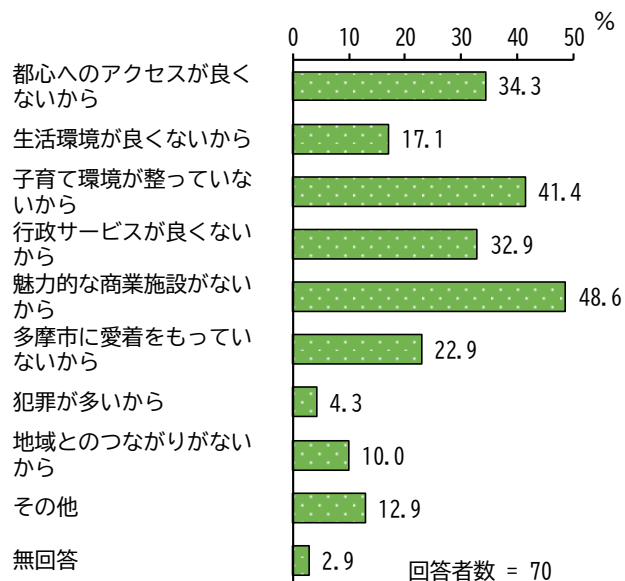


問 28－2 多摩市に住み続けたいと思わない理由（あてはまるものすべてに○）

「魅力的な商業施設がないから」の割合が 48.6%と最も高く、次いで「子育て環境が整っていないから」の割合が 41.4%、「都心へのアクセスが良くないから」の割合が 34.3%となっています。

主な「その他」意見

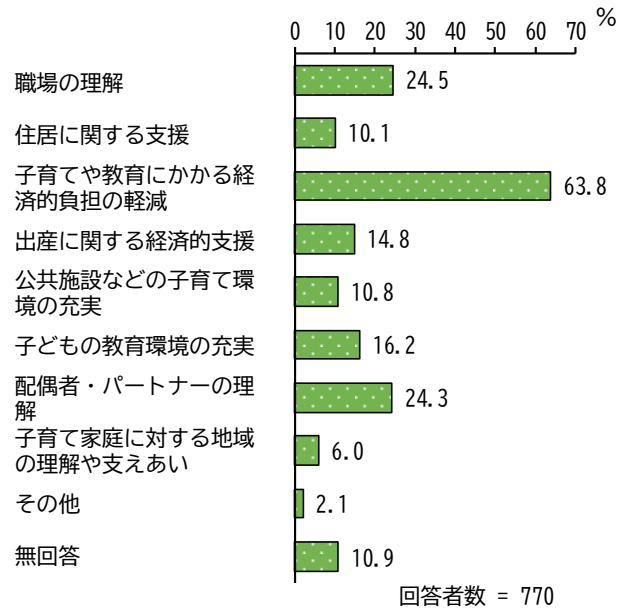
・坂が多いから （2件）



(14) 地域や社会、家庭内で望む子育て支援について

問 29 あなたが、子どもを持ちたい、育てたいと思えるようになるための必要な条件はどのようなことだと思いますか。特に必要なものを2つ選んでください。
(○は2つ)

「子育てや教育にかかる経済的負担の軽減」の割合が 63.8%と最も高く、次いで「職場の理解」の割合が 24.5%、「配偶者・パートナーの理解」の割合が 24.3%となっています。



問 30 安心して子どもを生み育て、子どもが健やかに育つことができる環境を整えるために、行政や地域などに対するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

※（ ）は意見数

項目	主な意見（要約）
1. 保育園 (31)	・ 保育士の給与を増やし、労働環境を改善してほしい。 ・ 駅周辺に保育園を増設し、アクセスの向上を図ってほしいです。 ・ 保育園入園のタイミングや条件が整わず、早期入園を余儀なくされている環境を改善してほしい。 ・ 共働き家庭や子育てに困難を抱える家庭への支援を充実してほしいです。 ・ 保育園の増設によって、待機児童問題の解消と利用者のニーズへの対応を行うことが必要だと思います。
2. 一時保育／延長保育／休日保育 (4)	・ 一時預かりやリフレッシュ一時保育の手続きが煩雑で利用が難しいので、手軽に利用できるようにしてほしい。 ・ 子ども関連の費用が高く、特に一時保育の料金が高額であり、非課税世帯にだけ給付金が配られることに疑問を感じます。 ・ 関戸地域では「OLIVE や」、「たまっこ」が遠く、近隣の公民館などでも一時保育を提供してほしい。 ・ 子どもを平日だけでなく、土日も預けることが出来る場所がほしいです。
3. 幼稚園 (5)	・ 子どもを産んで離職し、幼稚園入園とともに就業する場合、職の選択肢が狭くなっています。 ・ 幼稚園の年中・年長あたりで、進学する小学校の見学に行きたいです。 ・ 幼稚園での預かり保育はあるが、小学校に進学すると短時間のパートで働く場合、子どもの預け先に不安があります。
4. 病児保育 (6)	・ 近隣に病児保育施設が不足しており、通常保育の間に発熱した場合に対応してくれるサービスがほしいです。 ・ 現在の病児保育施設の数少なく、利用が難しい状況であるため、各地区に施設を設置し、預かり時間も長く設定してほしいです。 ・ 夫婦ともに実家が遠く、東京に親戚がいないため、急な病気で両親ともに子ども看病できない状況になった場合に、頼れる人やサポートが不足しています。
5. 経済的負担／助成 (55)	・ 子育てに関連する経済的な負担の軽減や、教育費や保育料の無償化をしてほしいです。 ・ 妊婦検診の保険適用や出産費用の補助、子育て支援を拡充してほしいです。 ・ 支援制度の収入制限の撤廃や、家計の負担軽減、住宅手当の提供などをしてほしいです。 ・ 子どもが複数いる世帯や低所得者だけでなく、全ての子育て家庭に支援を平等に提供してほしいです。

A-1 未就学児用

項目	主な意見（要約）
6. 公園／子育てしやすい環境（38）	・近くに公園があるが遊具が少ないです。 ・オムツ替えできるトイレを増やしてほしいです。 ・公園が高台にあたり、暗かったりするので、もう少し見通しが良くなる様にしてほしいです。 ・人と人とのつながりを提供する環境がたくさんほしいです。 ・公園には子ども向けの遊具が少ないのもっと設置してほしいです。 ・公園を活かして、地域の人達と一緒に子育てできる環境がほしいです。 ・公園等で定期的に地域とつながれるイベントを開催してほしいです。
7. 防犯・安全対策、交通対策（26）	・子どもが1人で帰ってくるのがあぶなく、パートの時間を安心して延ばせないです。 ・歩道の幅が十分に確保できていない箇所が多く、特に通学路において安全に通えるように整備してほしいです。 ・通学路などの安全整備。1人で歩いても安全な町にほしい。 ・犯罪等が少なく、安心して歩ける街にほしいです。 ・歩道がせまく、歩道橋もさびていて心配なのでもう少し整備してほしいです。 ・車の往来で一部死角があり、子どもの安全を守るためにもカーブミラーを設置してほしいです。 ・学校の防犯カメラを増やしてほしいです。
8. 子育て支援施設（14）	・出産後、健康センターの訪問ケアや専門家の支援が非常に有難かったです。 ・公共施設などに未就学児が無料で遊べる場所を増やしてほしい。 ・子どもが安心してボール遊びができるような環境（広場等）があると良いと思います。 ・公園の遊具の更新と、駅前商業施設の近くに小さな遊具を設置してほしい。 ・駅の近くに子育て施設を増やしてほしいです。 ・歩道が荒れているため歩きづらいです。 ・もっと室内遊技場があるとうれしいです。 ・産後ケア施設の充実や宿泊型施設の設置をしてほしい。

項目	主な意見（要約）
9. 子育て支援サービス（22）	・区部のような子育て支援を望みます。 ・多摩市には出産費用の高さや所得制限による支援の限定性があります。 ・平日の相談や検診の難しさ、健康センターの夜間診療の改善が必要です。 ・無償のベビーシッターサービスや産後ケアのステイサービス、リモートワークやフレックス制の普及が必要です。 ・ミニバスの時間延長や子育て支援施設の拡充、子ども食堂や配食サービスの充実が必要です。 ・産後の心身の調子が優れない時期のサポートや家事代行サービス、託児サービスを拡充してほしいです。 ・働きながら子育てをする母親の負担軽減策や託児サービスの拡充をしてほしいです。
10. 子育てしやすい労働環境について（2）	・仕事に復職したいが、保育園の入所難や費用の高さがハードルとなっています。 ・職場では子育てに対する理解が得られにくく、利益重視の人員削減が子育てに対する支援を難しくしている。行政から働く親を支援するための施策や声かけに期待します。
11. イベント・子育て情報の発信、相談支援について（20）	・高齢出産に伴う産後の体調不良についての情報が不足しており、不安を感じています。 ・子育てに関する情報が本などにまとめられているが、全てを把握することが難しいため、年齢に応じたサービスや支援を手紙などで提供してもらえると助かります。 ・救命講習や子育てに関するイベントが多く開催されていると思います。 ・子育てに関するサービスや支援はあるものの、情報の発信が不十分であり、必要な情報が後から知られることが多いと感じています。 ・子育て支援事業の利用が減少しても、相談場所の充実が安心感につながると感じています。 ・情報収集の手段としてホームページの見やすさを希望します。 ・子育て支援に関する情報が不足しており、信頼できる相談窓口や支援者の情報がほしいです。 ・経済的に苦しい家庭への支援が必要であり、そのための情報提供や相談窓口の拡充をしてほしいです。 ・発達障がいに関する支援や情報が不足しています。
12. 学童クラブ／児童館／放課後のサポートについて（20）	・雨の日や休日に子どもを遊ばせる場所がほしいので、駐車場のある児童館や室内の遊び場を設置してほしいです。 ・子どもが増えている地域で学童の申請が増えるので、小学校低学年向けの預け場所の増設が必要だと思います。 ・児童館や学童クラブの平日利用が難しいため、休日や祝日の利用拡充や子ども向けのイベントを増やしてほしいです。 ・学童クラブの校内建設や給食提供を希望します。また、学童への加入条件の緩和や待機児童の解消をしてほしい。 ・学童の待機児童の早期解消や子どもへの投資の重要性が訴えられているため、地域の子育て環境の改善が必要です。

A-1 未就学児用

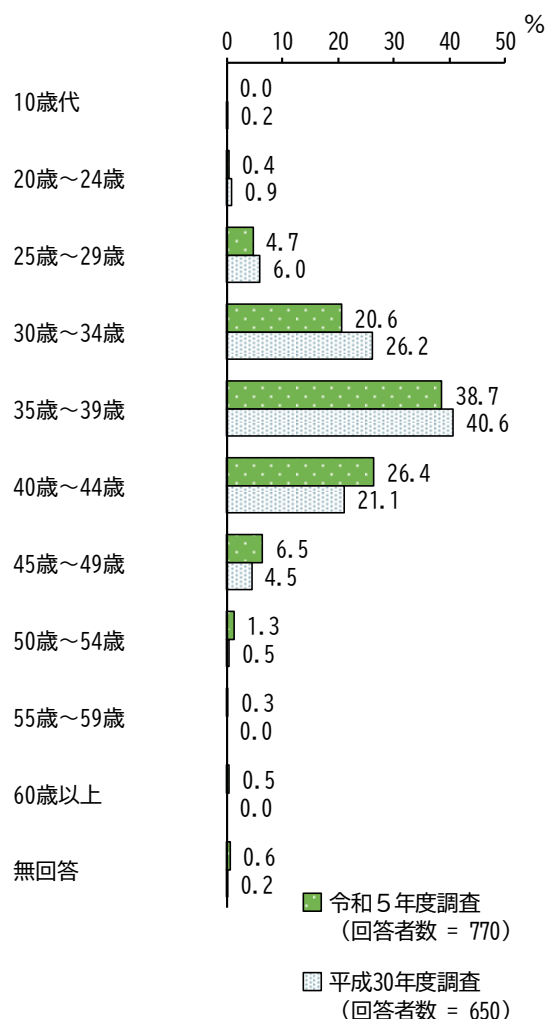
項目	主な意見（要約）
13. 医療／休日診療について（18）	・子どもや親が高熱の際に病院への受診が困難になり、予約がいっぱいで行きづらくなりました。 ・病院の数を増やし、時間外診療を行ってくれる医療機関の増加を望みます。 ・妊娠から出産までの医療体制は整っているが、婦人科やその他の診療科の受診先が少なく、選択肢が限られています。 ・医療機関の選択が難しく、情報が不足しており、情報提供やアクセスの向上を望みます。
14. 図書館（2）	・多摩センターの小田急線・京王相模原線沿いに限らず、聖蹟桜ヶ丘駅周辺でも公共施設や新しい図書館を設置してほしい。 ・素晴らしい図書館ができたことを評価し、子どもたちが学びを楽しむ場として活用されることを期待します。
15. 健診について（2）	・妊婦健診の補助金を増額してほしい。 ・コロナ禍における自粛措置により孤立感を感じ、育児ノイローゼに陥った経験から、イベントの中止を避け、育児支援を強化してほしい。
16. 障がい児、医療ケア児への支援（2）	・発達障がい児への支援を強化してほしい。地域の保育所での拒否や差別をなくし、発達障がい児を受け入れる体制や環境を整えてほしいです。 ・学校における特別支援学級の不足や通学上の不便さなど、障がいのある子どもも安心して生活できる環境を整備してほしいです。
17. その他（37）	・子どもの世代を優遇する政策を推進し、近隣の市と連携して世代別のメリットを創出することを提案します。 ・地域の子育てがしやすい環境づくりを要望し、PTA の廃止や保健師への相談制度の改善を求めます。 ・子育てに関する負担を軽減し、親の自由な時間を確保する政策の実施を要望します。 ・多摩市における商業施設の不足や駅周辺の改善、地域の活性化を提案します。

(15) 回答いただいているあなたの状況について

問 31 ご回答いただいているあなたの現在の年齢をお答えください。(○は1つ)

「35歳～39歳」の割合が38.7%と最も高く、次いで「40歳～44歳」の割合が26.4%、「30歳～34歳」の割合が20.6%となっています。

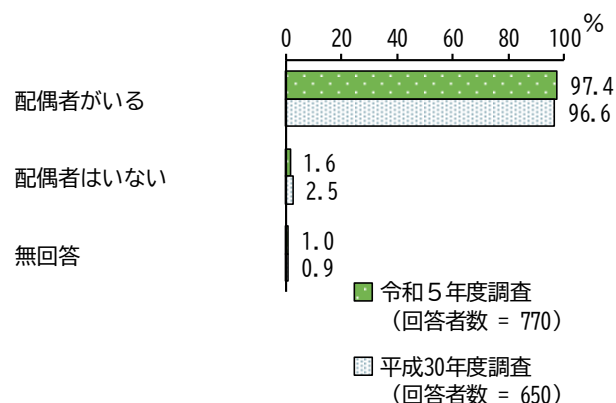
平成30年度調査と比較すると、「40歳～44歳」の割合が増加しています。一方、「30歳～34歳」の割合が減少しています。



問 32 ご回答いただいているあなたの配偶関係についてお答えください。(○は1つ)

「配偶者がいる」の割合が97.4%、「配偶者はいない」の割合が1.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。

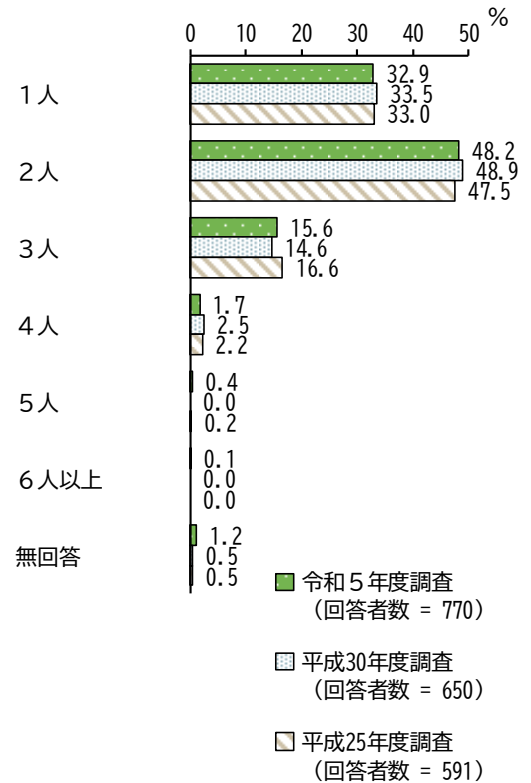


問 33 お子さんは何人いらっしゃいますか。お子さんを含めた人数を四角枠の中に数字でご記入ください。お2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、年少の方の生年月月をご記入ください。※「平成」、「令和」の該当する方へ○をお願いします。

<子どもの人数>

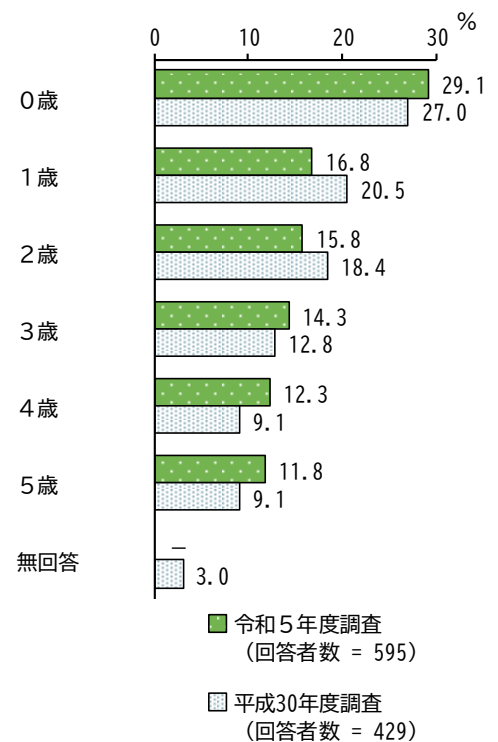
「2人」の割合が48.2%と最も高く、次いで「1人」の割合が32.9%、「3人」の割合が15.6%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



<末子の年齢>

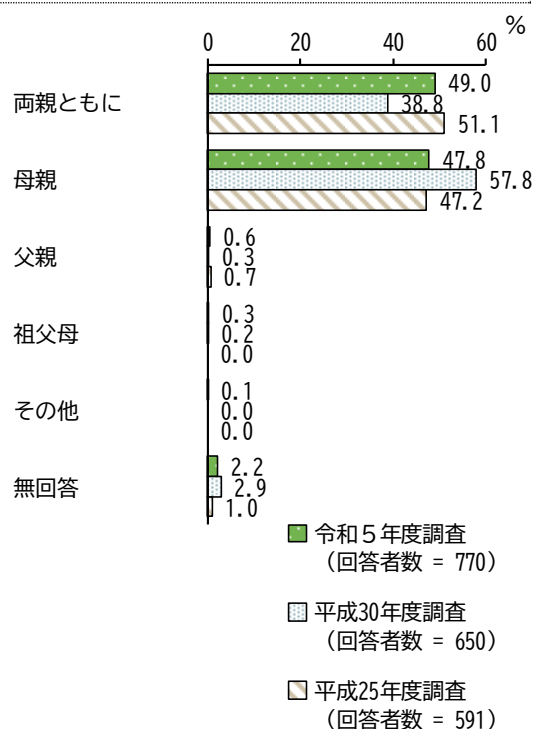
「0歳」の割合が29.1%と最も高く、次いで「1歳」の割合が16.8%、「2歳」の割合が15.8%となっています。



問 34 お子さんの子育てを主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。(○は1つ)

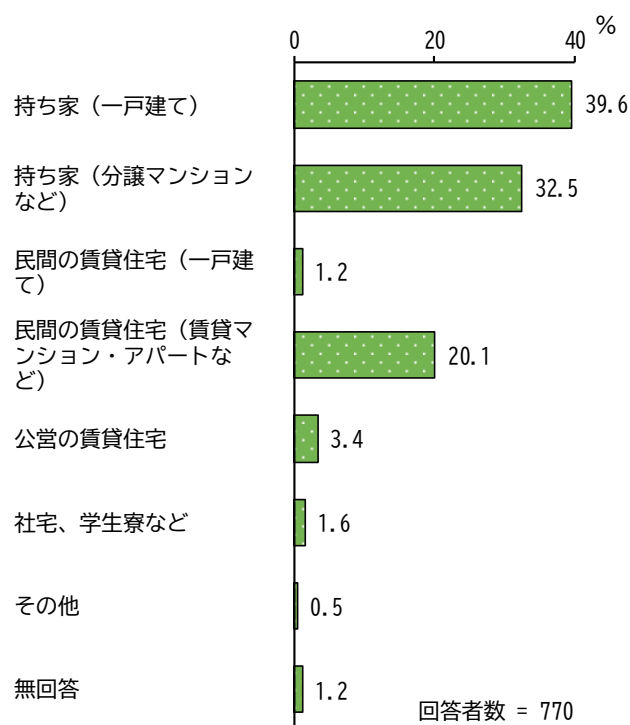
「両親ともに」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「母親」の割合が 47.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「両親ともに」の割合が増加しています。一方、「母親」の割合が減少しています。

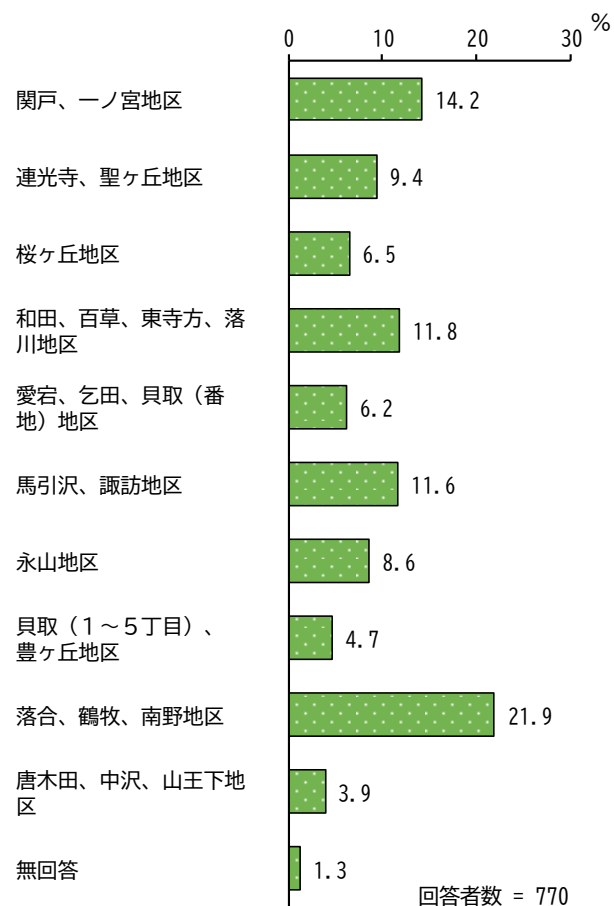


問 35 現在、あなたのお住まいの形態を教えてください。(○は1つ)

「持ち家（一戸建て）」の割合が 39.6%と最も高く、次いで「持ち家（分譲マンションなど）」の割合が 32.5%、「民間の賃貸住宅（賃貸マンション・アパートなど）」の割合が 20.1%となっています。



問 36 お住まいの地区はどちらですか。(○は1つ)

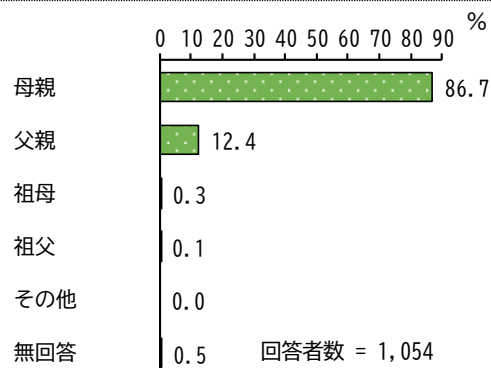


2 多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（小学生用）【A-2】

（１）お子さんご家族の状況について

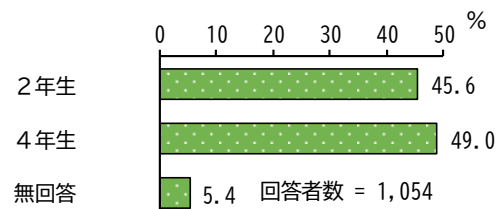
問１ ご回答いただいているあなたは、調査票を持ち帰ったお子さんからみて、次のどの関係にあたりますか。（○は１つ）

「母親」の割合が 86.7%と最も高く、次いで
「父親」の割合が 12.4%となっています。



※令和５年度調査で、「その他」の選択肢を追加しています。

問２ 調査票を持ち帰ったお子さんの生年月を四角枠の中に数字でご記入ください。



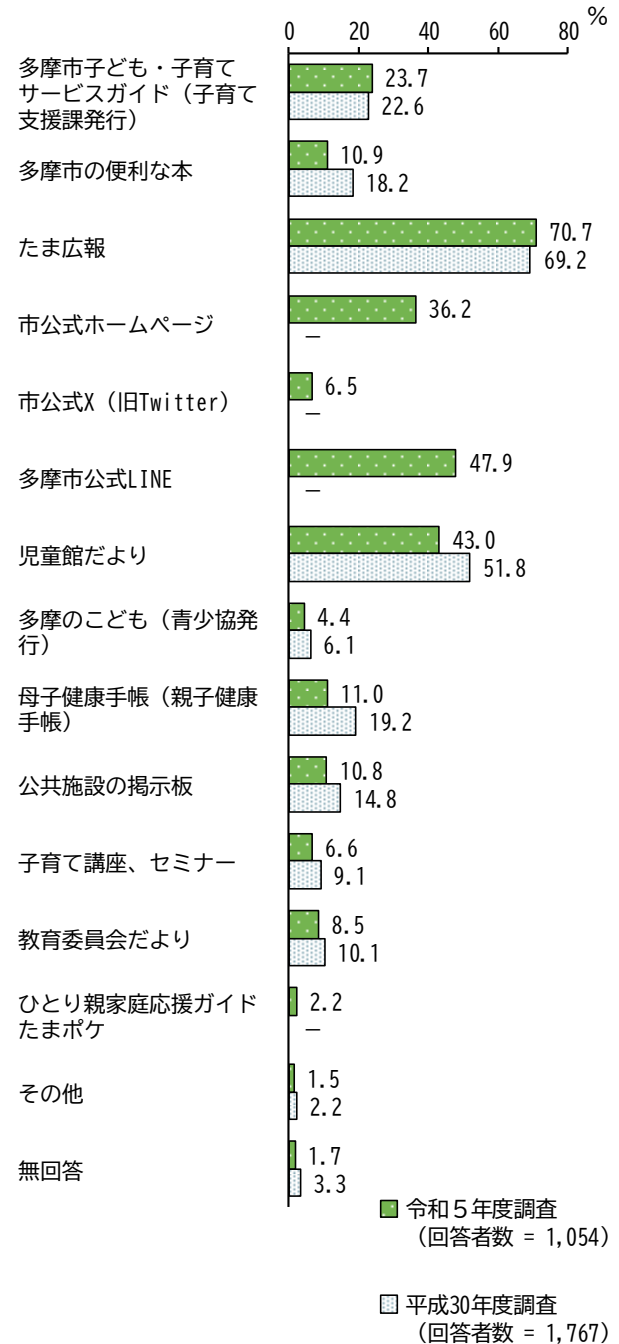
(2) 子育てに関する情報について

問3 市の発行物または市が発信する情報の中で子育てに関する情報を得るのにどのようなものが役立つと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

「たま広報」の割合が70.7%と最も高く、次いで「多摩市公式LINE」の割合が47.9%、「児童館だより」の割合が43.0%となっています。

主な「その他」意見

- ・学校からの配布物 (5件)
- ・もしもし新聞 (3件)



※令和5年度調査では、「多摩市公式LINE」「ひとり親家庭応援ガイドたまポケ」の選択肢を追加しています。
 ※平成30年度調査では、「市公式ホームページ」「市公式X(旧Twitter)」は1つのまとまった選択肢でした。

(3) お子さんの保護者の就労状況について

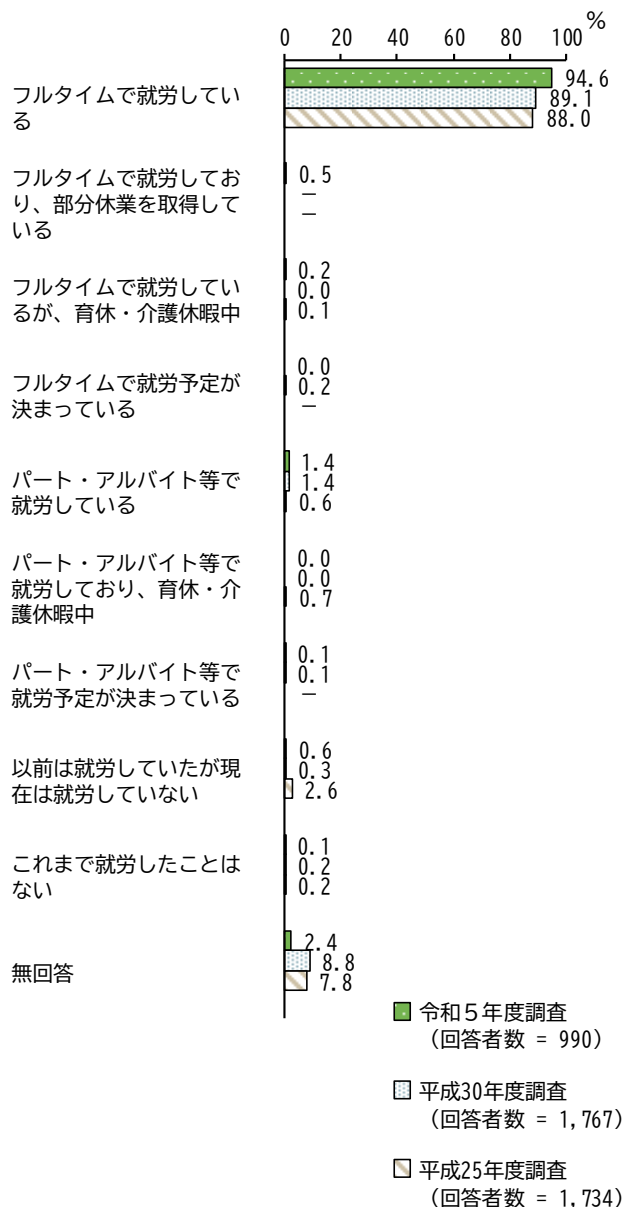
問4 お子さんの父親、母親の現在の働き方（自営業、家族従事者を含む）は次のどれにあたりますか。父親、母親それぞれ1～9のうちあてはまる番号1つに○をつけてください。

(ア) 父親【母子家庭・両親不在の場合は記入不要です】

「フルタイムで就労している」の割合が

94.6%と最も高くなっています。

平成30年度調査と比較すると、「フルタイムで就労している」の割合が増加しています。



※令和5年度調査で、「フルタイムで就労しており、部分休業を取得している」の選択肢を追加しています。

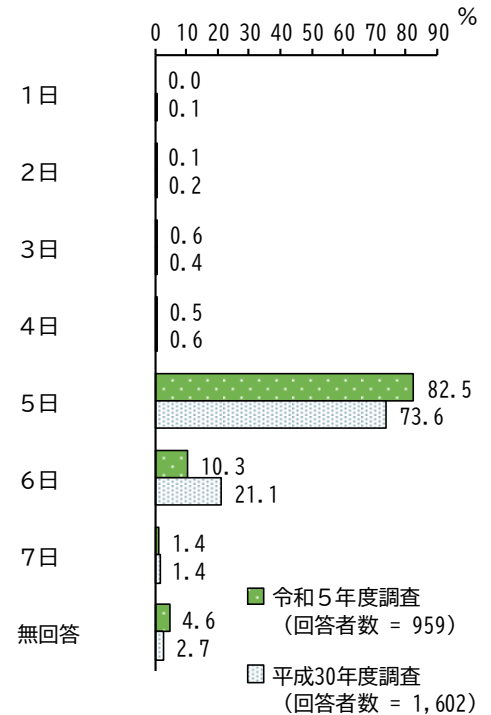
※平成30年度調査で、「フルタイムで就労予定が決まっている」「パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」の選択肢を追加しています。

【「1. フルタイムで就労している」から「7. パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」と答えた方にお伺いします】

問4-1 1週あたりの平均的な「就労日数」、1日あたりの平均的な「就労時間」をお答えください。育休・介護休暇中の方は休業に入る前の状況についてお答えください。

< 1週あたりの就労日数 >

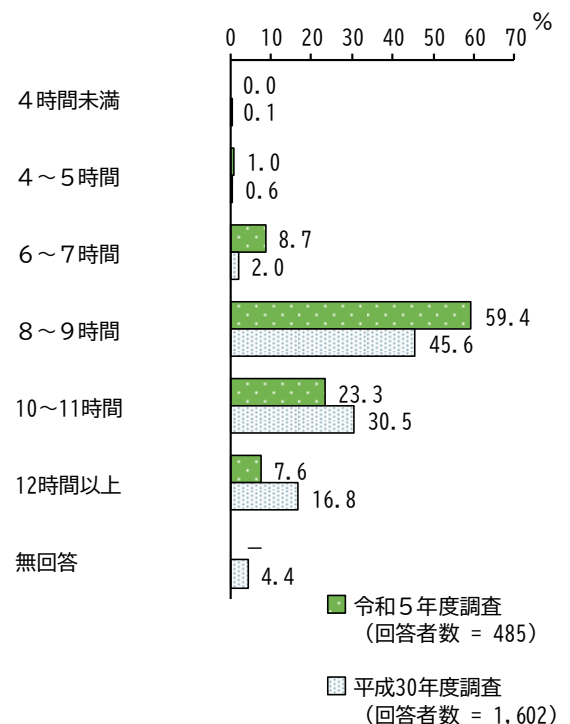
「5日」の割合が82.5%と最も高く、次いで「6日」の割合が10.3%となっています。



< 1日あたりの就労時間 >

「8～9時間」の割合が59.4%と最も高く、次いで「10～11時間」の割合が23.3%となっています。

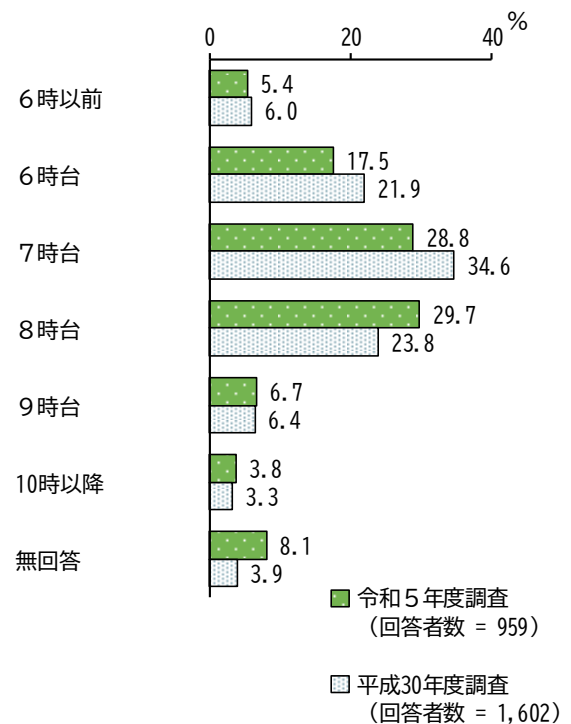
平成30年度調査と比較すると、9時間以下の割合が増加し、10時間以上の割合が減少しています。



<家を出る時刻>

「8時台」の割合が29.7%と最も高く、次いで「7時台」の割合が28.8%、「6時台」の割合が17.5%となっています。

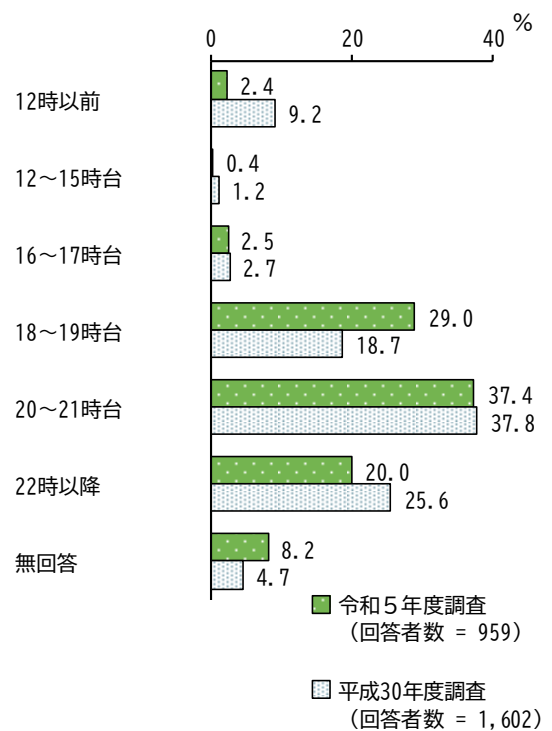
平成30年度調査と比較すると、「8時台」以降の割合が増加しています。一方、「7時台」以前の割合が減少しています。



<平均帰宅時刻>

「20～21時台」の割合が37.4%と最も高く、次いで「18～19時台」の割合が29.0%、「22時以降」の割合が20.0%となっています。

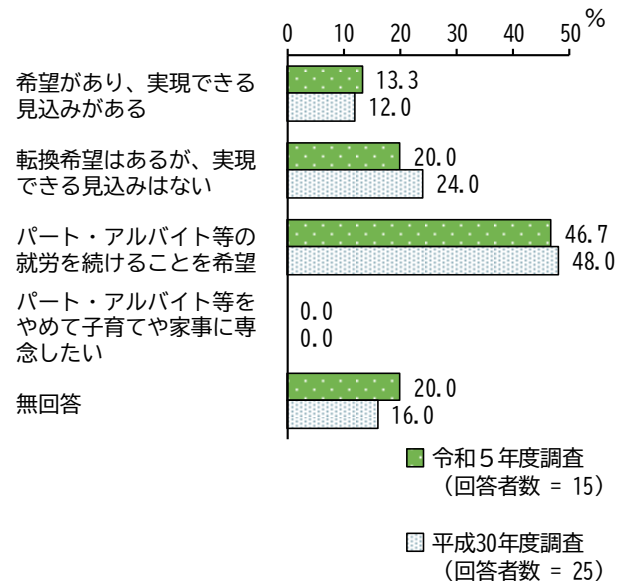
平成30年度調査と比較すると、「18～19時台」の割合が増加しています。一方、「22時以降」の割合が減少しています。



【「5. パート・アルバイト等で就労している」から「7. パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」と答えた方にお伺いします】

問4-2 フルタイムへの転換希望はありますか。(○は1つ)

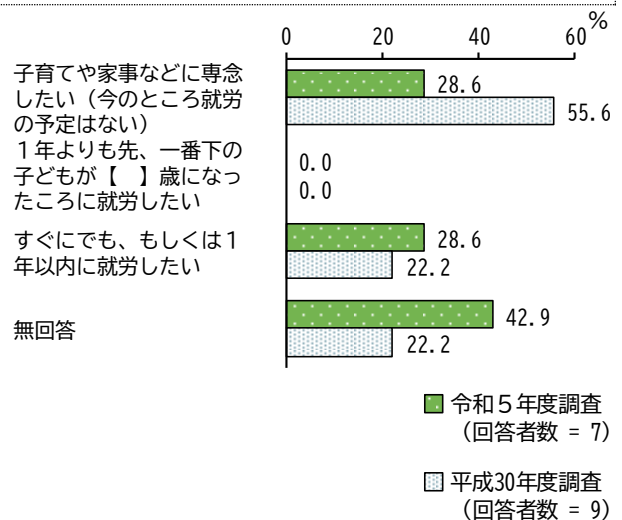
「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」の割合が46.7%と最も高く、次いで「転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合が20.0%、「希望があり、実現できる見込みがある」の割合が13.3%となっています。



【「8. 以前は就労していたが現在は就労していない」「9. これまで就労したことはない」と答えた方にお伺いします】

問4-3 就労したいという希望はありますか。(○は1つ) 併せて【 】内に数字をご記入ください

「子育てや家事などに専念したい（今のところ就労の予定はない）」、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が2件となっています。



<就労を希望する時の子の年齢>

有効回答がありませんでした。

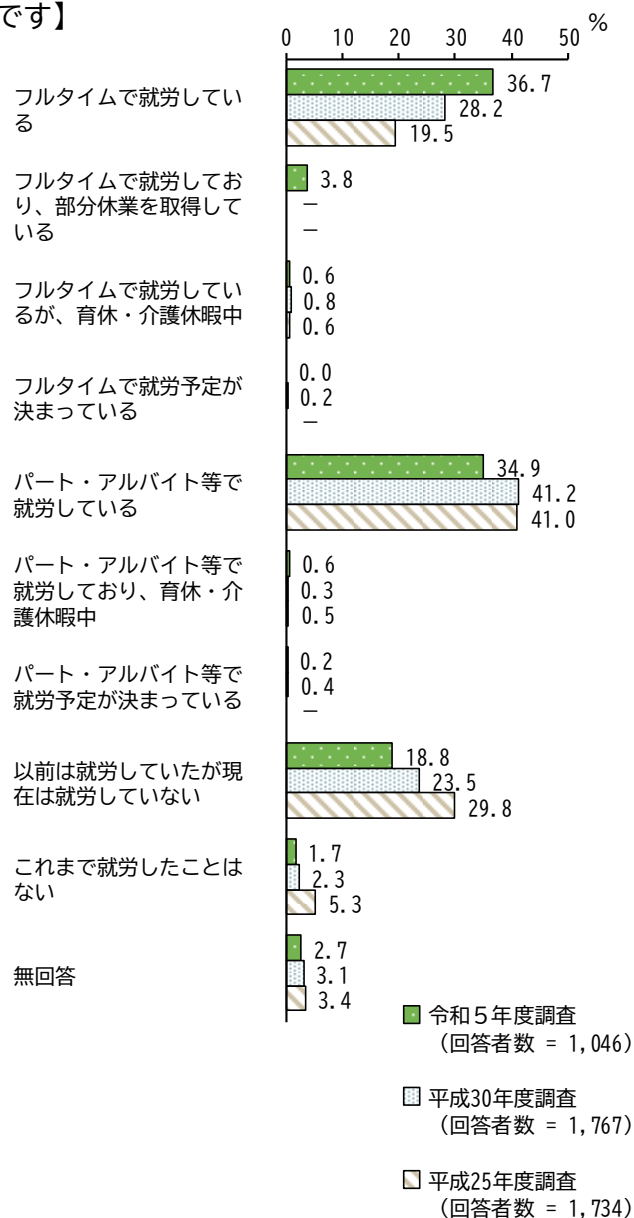
<希望する就労形態>

「フルタイム」が2件となっています。

(イ) 母親【父子家庭・両親不在の場合は記入不要です】

「フルタイムで就労している」の割合が36.7%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労している」の割合が34.9%、「以前は就労していたが現在は就労していない」の割合が18.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「フルタイムで就労している」の割合が増加しています。一方、「パート・アルバイト等で就労している」「以前は就労していたが現在は就労していない」の割合が減少しています。



※令和5年度調査で、「フルタイムで就労しており、部分休業を取得している」の選択肢を追加しています。

※平成30年度調査で、「フルタイムで就労予定が決まっている」「パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」の選択肢を追加しています。

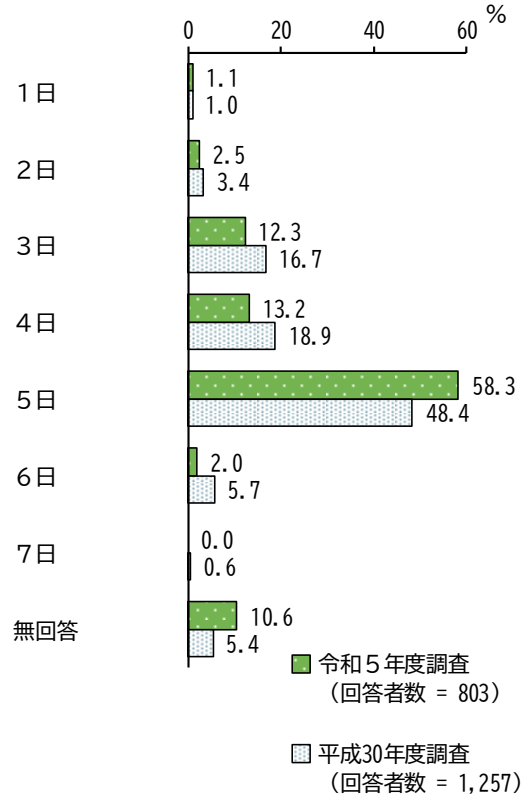
【「1. フルタイムで就労している」から「7. パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」と答えた方にお伺いします】

問4-4 1週あたりの平均的な「就労日数」、1日あたりの平均的な「就労時間」をお答えください。育休・介護休暇中の方は休業に入る前の状況についてお答えください。

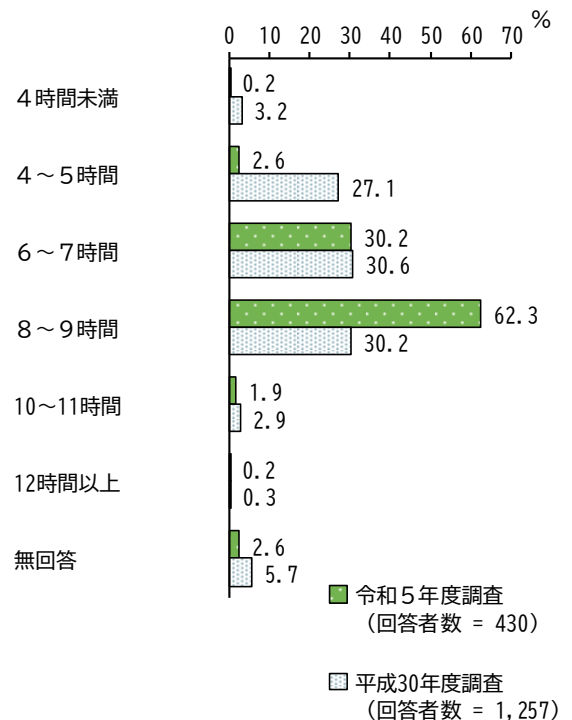
< 1週あたりの就労日数 >

「5日」の割合が58.3%と最も高く、次いで「4日」の割合が13.2%、「3日」の割合が12.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「5日」の割合が増加しています。一方、4日以下の割合が減少しています。



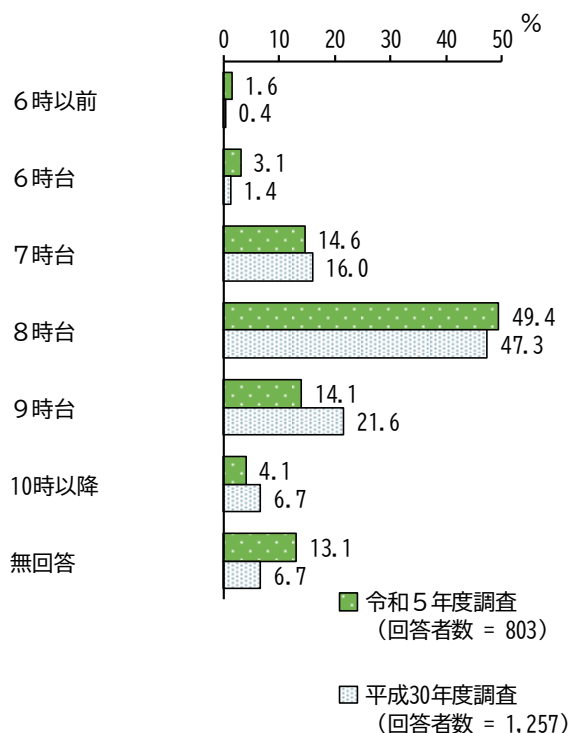
< 1日あたりの就労時間 >



<家を出る時刻>

「8時台」の割合が49.4%と最も高く、次いで「7時台」の割合が14.6%、「9時台」以降の割合が14.1%となっています。

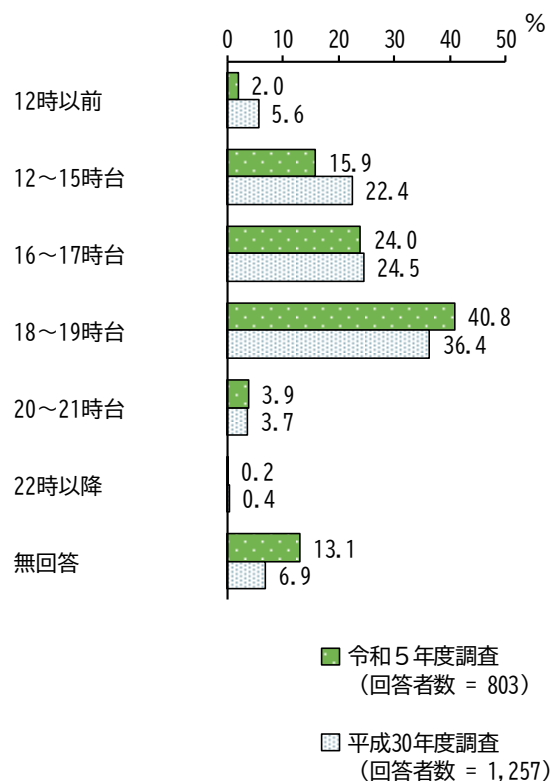
平成30年度調査と比較すると、「9時台」の割合が減少しています。



<平均帰宅時刻>

「18～19時台」の割合が40.8%と最も高く、次いで「16～17時台」の割合が24.0%、「12～15時台」の割合が15.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「12～15時台」の割合が若干減少し、「18～19時台」の割合が若干増加しています。

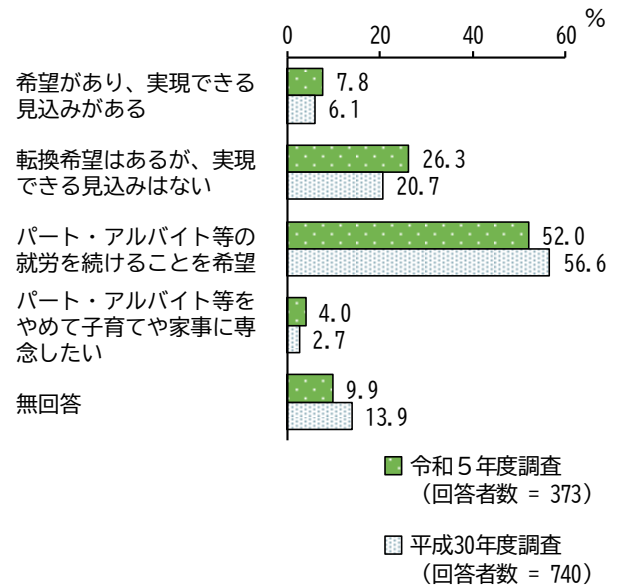


【「5. パート・アルバイト等で就労している」から「7. パート・アルバイト等で就労予定が決まっている」と答えた方にお伺いします】

問4-5 フルタイムへの転換希望はありますか。(○は1つ)

「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」の割合が52.0%と最も高く、次いで「転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合が26.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合が増加しています。

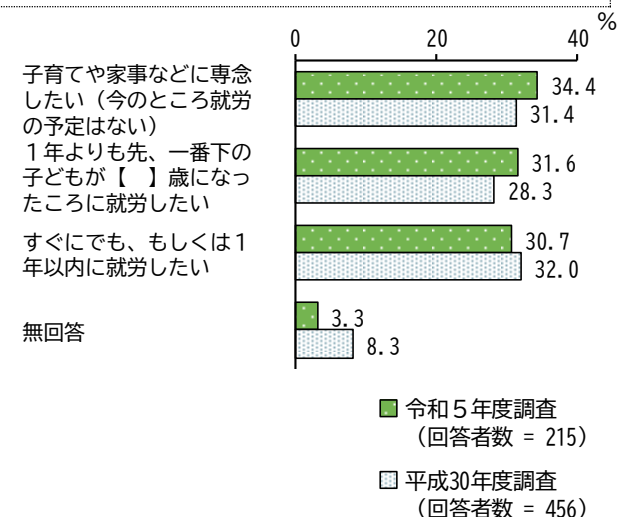


【「8. 以前は就労していたが現在は就労していない」「9. これまで就労したことはない」と答えた方にお伺いします】

問4-6 就労したいという希望はありますか。(○は1つ) 併せて【 】内に数字をご記入ください

「子育てや家事などに専念したい(今のところ就労の予定はない)」の割合が34.4%と最も高く、次いで「1年よりも先、一番下の子どもが【 】歳になったところに就労したい」の割合が31.6%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が30.7%となっています。

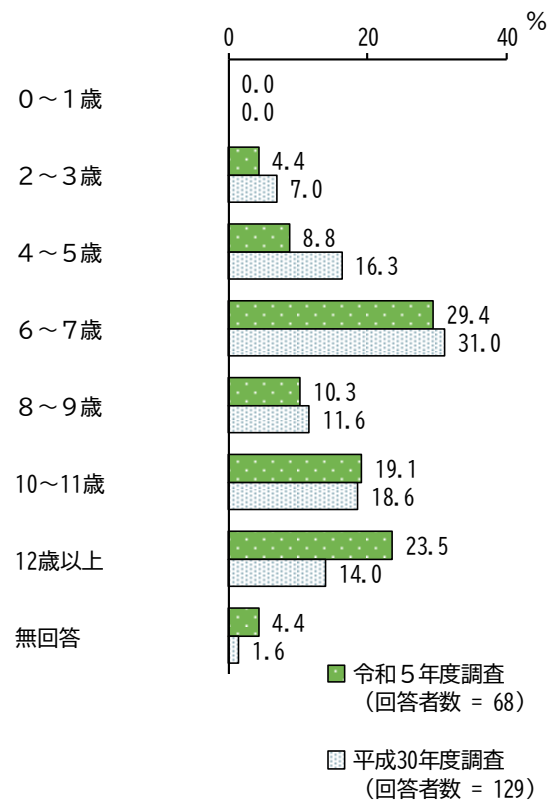
平成30年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



<就労を希望する時の子の年齢>

「6～7歳」の割合が29.4%と最も高く、次いで「12歳以上」の割合が23.5%、「10～11歳」の割合が19.1%となっています。

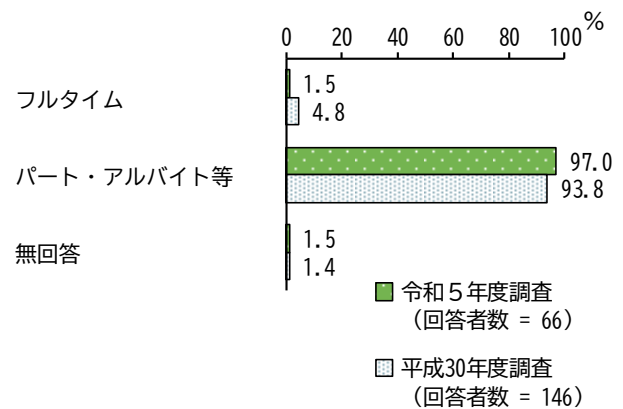
平成30年度調査と比較すると、「10～11歳」以上の割合が増加しています。一方、「4～5歳」以下の割合が減少しています。



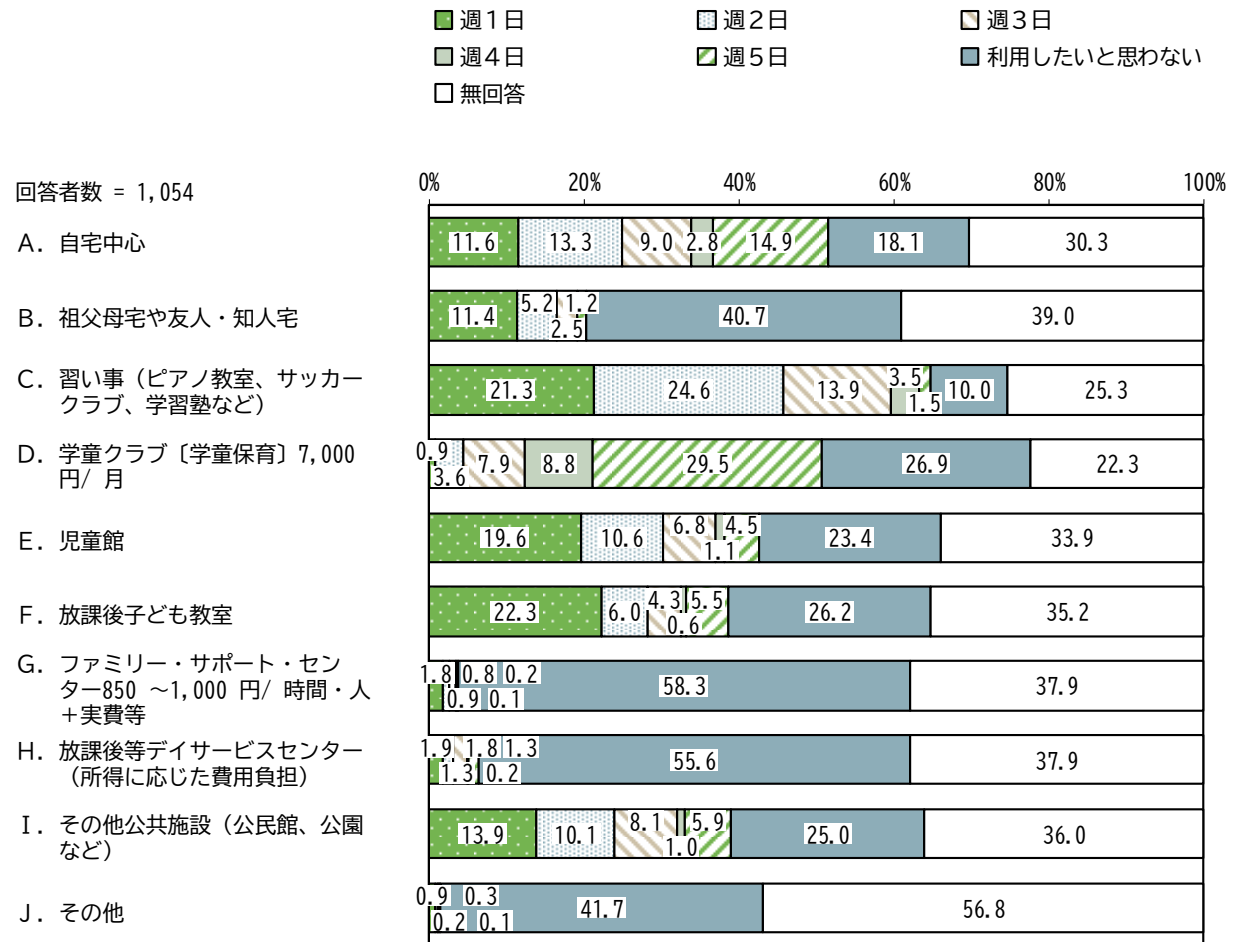
<希望する就労形態>

「フルタイム」の割合が1.5%、「パート・アルバイト等」の割合が97.0%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



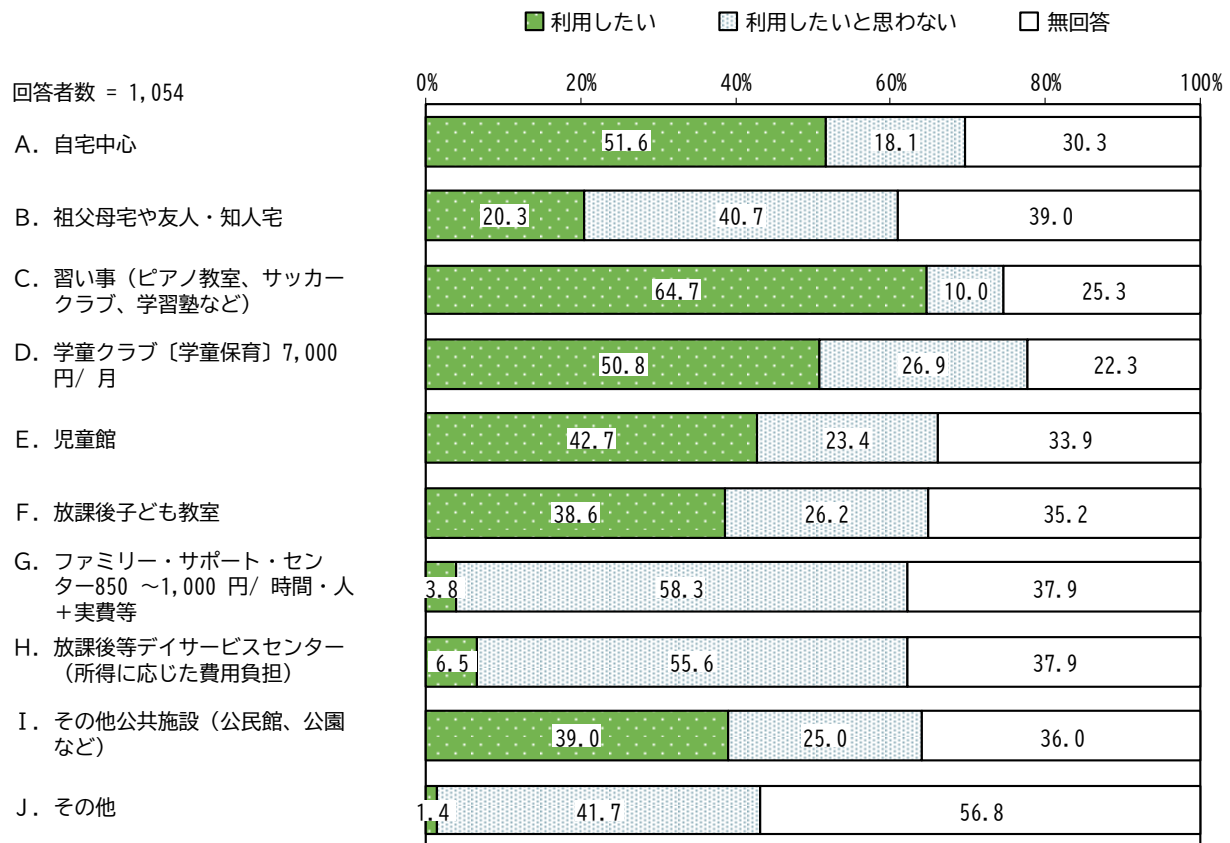
問5 調査票を持ち帰ったお子さんについて、小学校低学年（１～３年生）では、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか（過ごさせましたか）。料金も考慮の上、利用を希望する場所についてはそれぞれ希望する週あたり日数の数字をお選びください。（○はそれぞれ１つ）



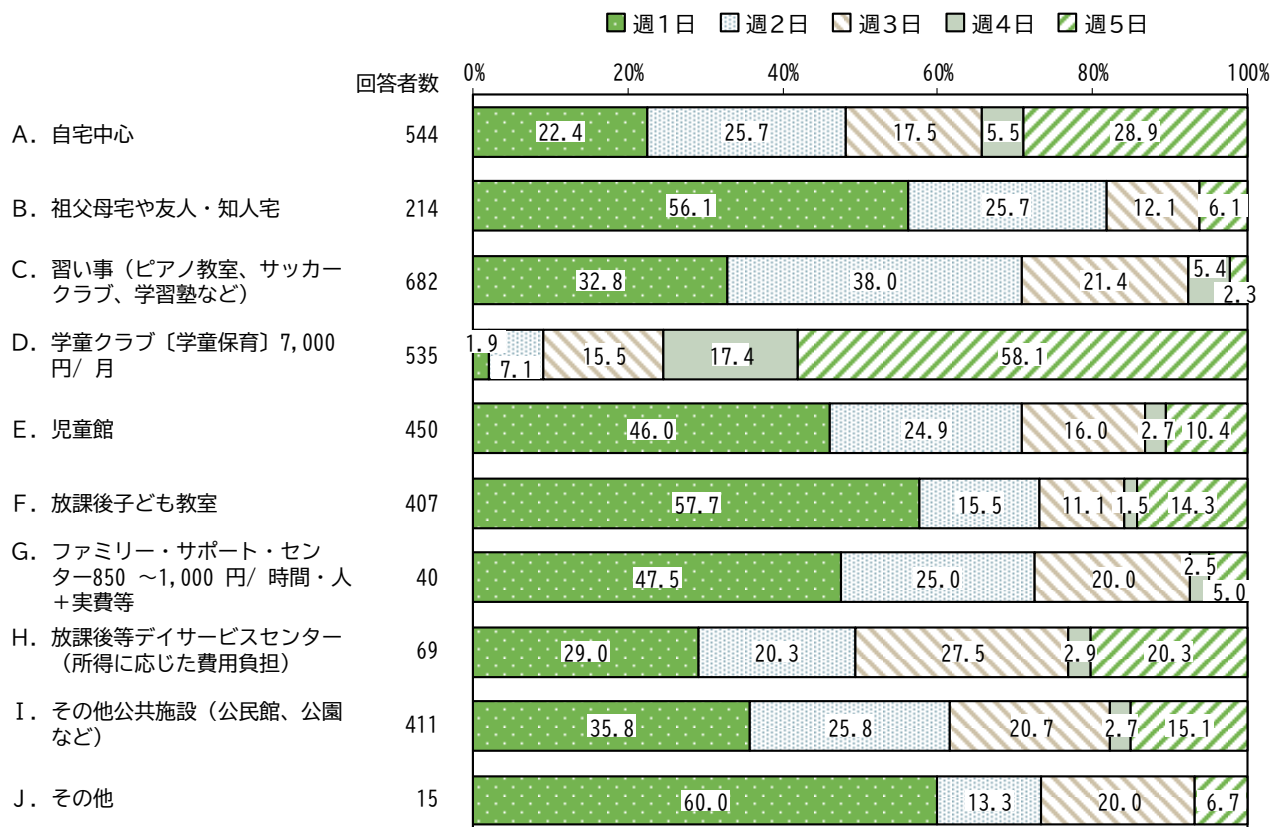
主な「その他」意見

・友達と遊ぶ （4件）

<利用意向について>



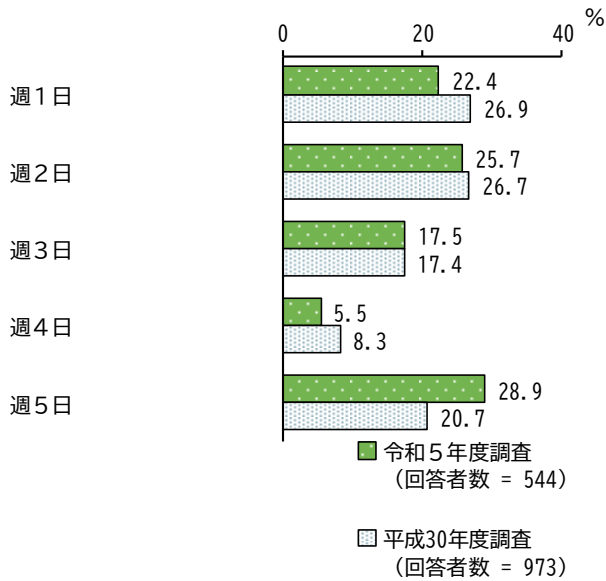
<週あたりの利用希望日数>



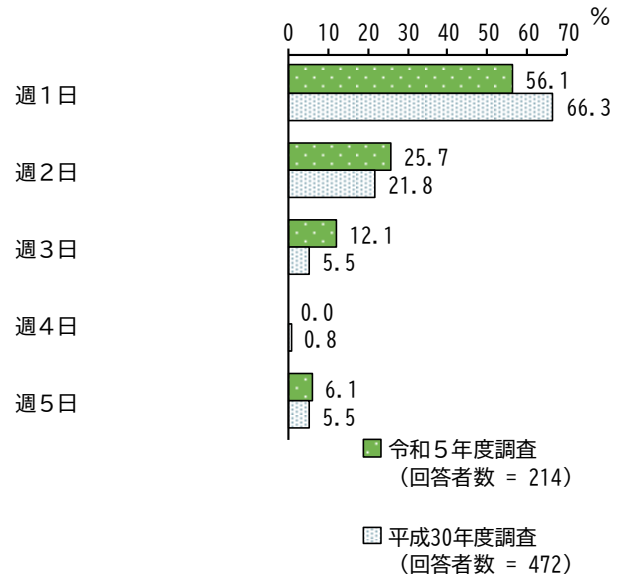
A-2 小学生用

<項目ごとの経年比較>

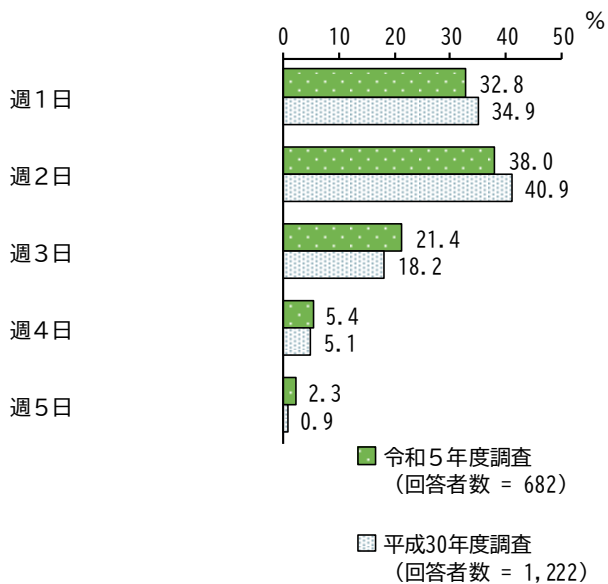
A. 自宅中心



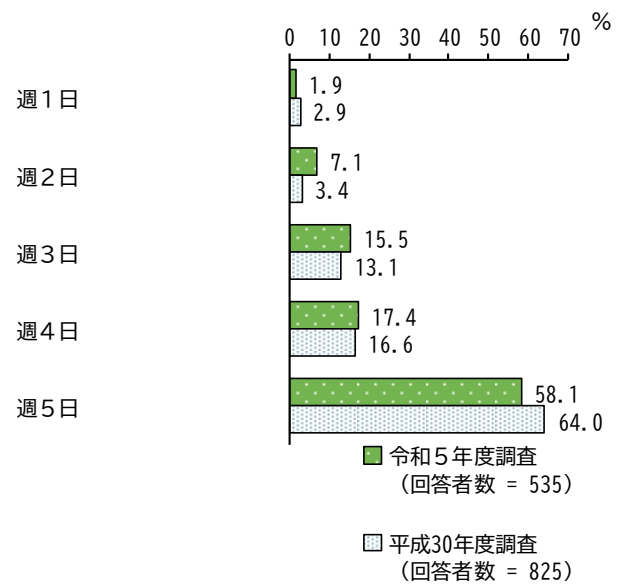
B. 祖父母宅や友人・知人宅



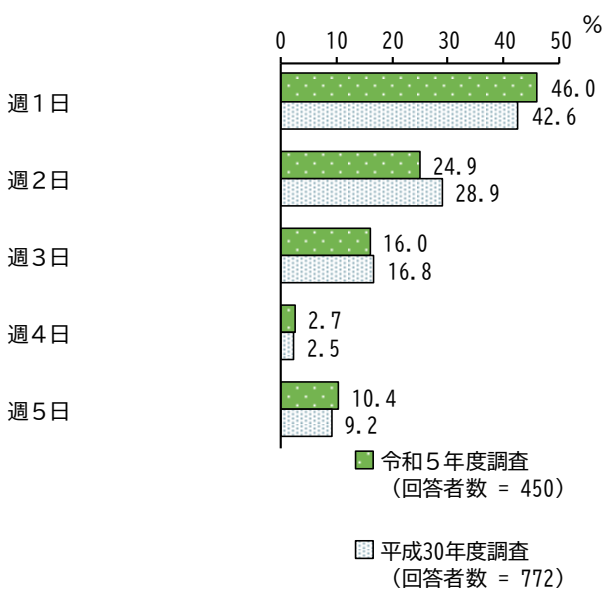
C. 習い事 (ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)



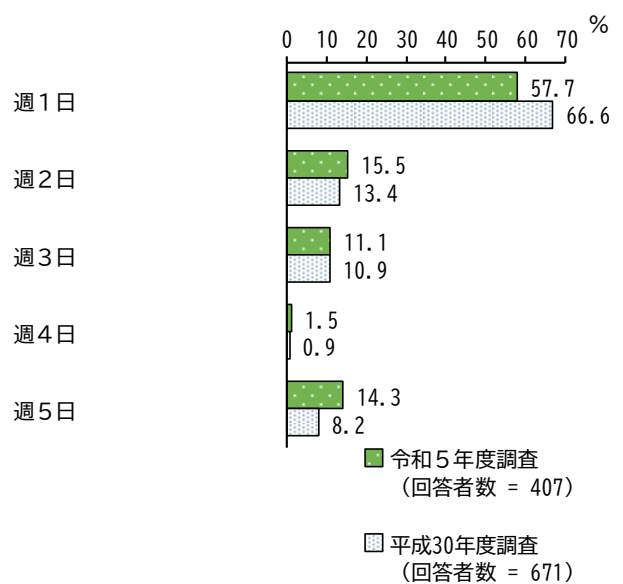
D. 学童クラブ〔学童保育〕7,000円/月



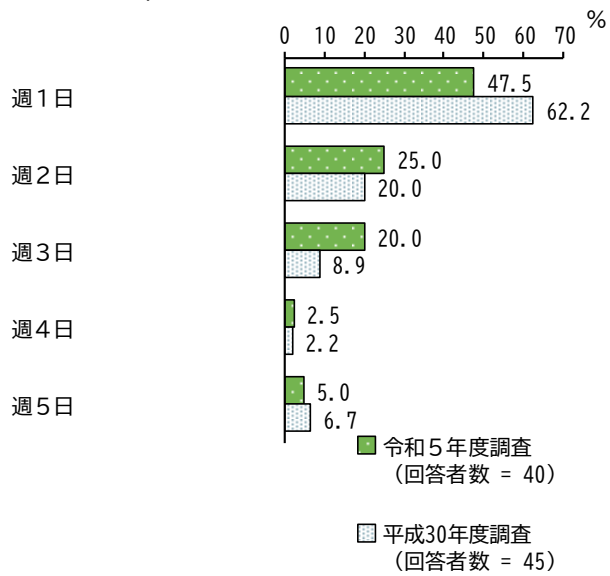
E. 児童館



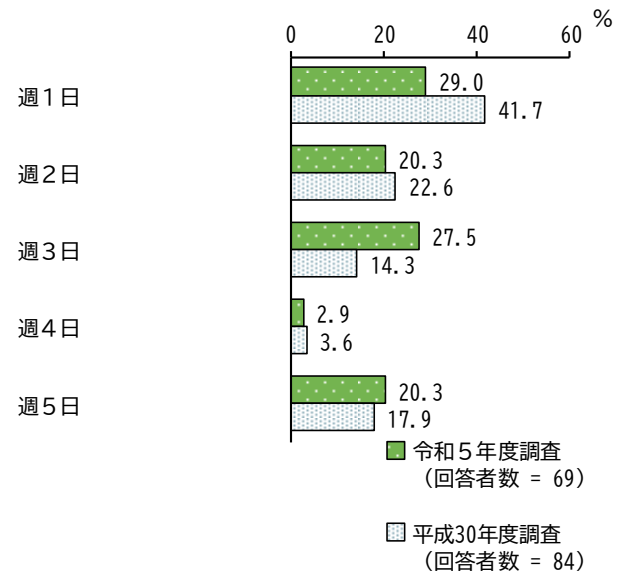
F. 放課後子ども教室



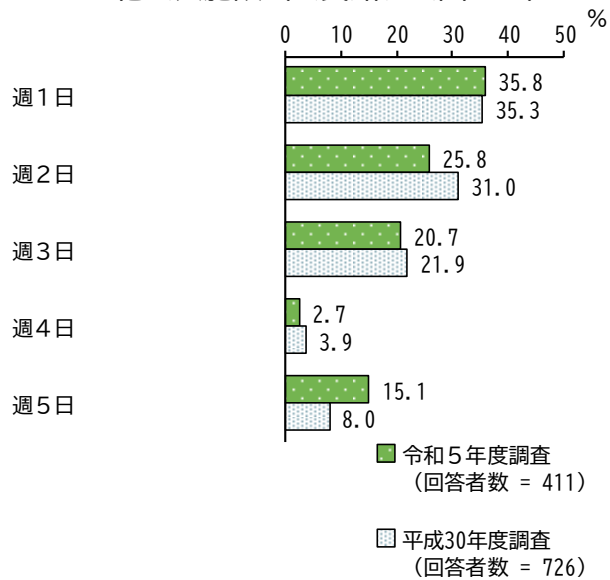
G. ファミリー・サポート・センター
850～1,000 円／時間・人＋実費等



H. 放課後等デイサービスセンター
(所得に応じた費用負担)



I. その他公共施設 (公民館、公園など)



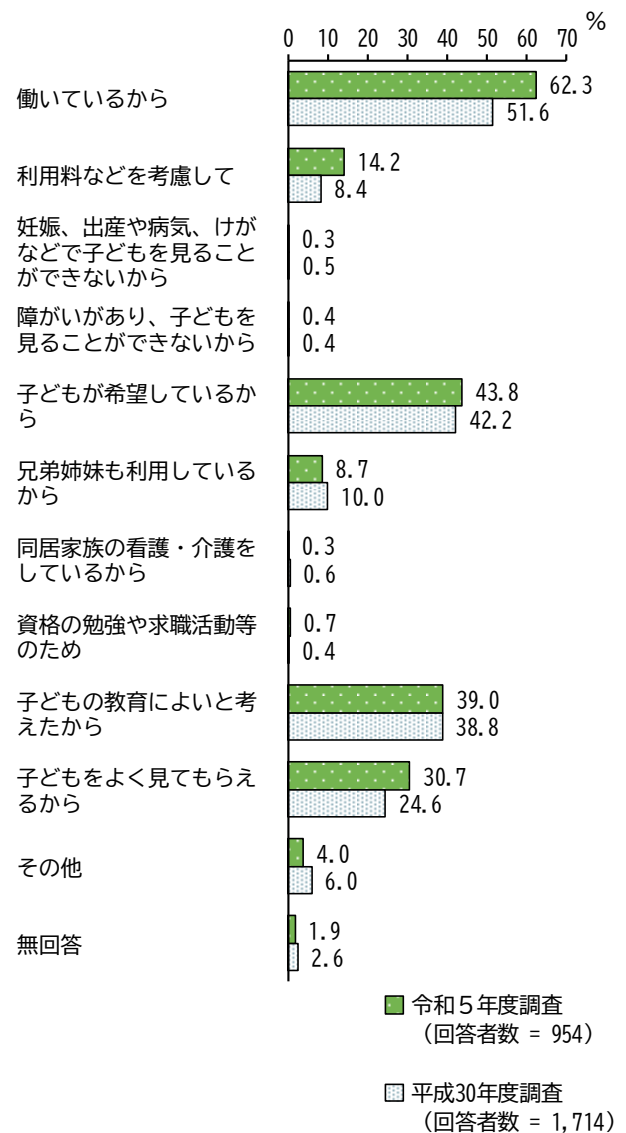
問5－1 問5で選択した場所で過ごさせたい（過ごさせた）と回答した理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「働いているから」の割合が62.3%と最も高く、次いで「子どもが希望しているから」の割合が43.8%、「子どもの教育によいと考えたから」の割合が39.0%となっています。

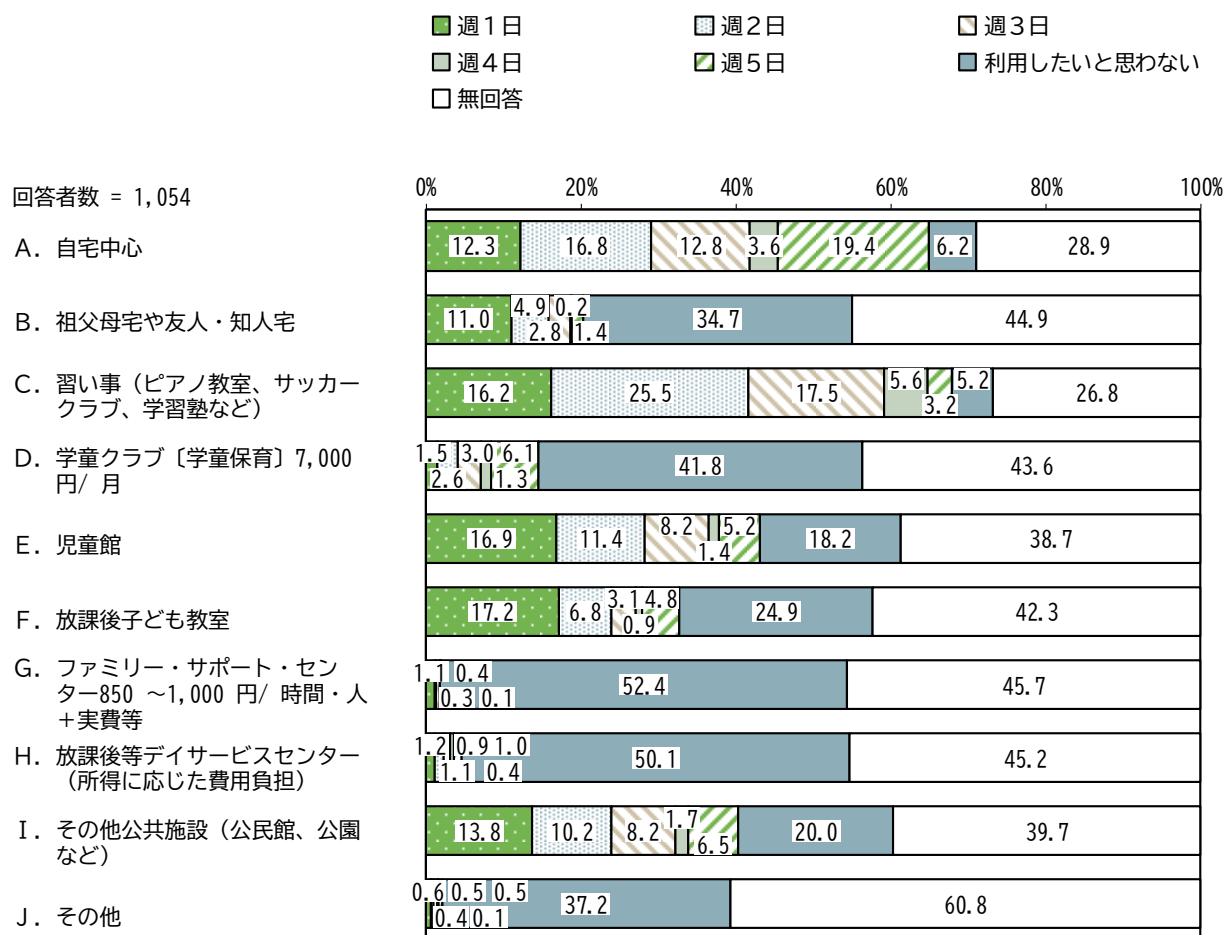
平成30年度調査と比較すると、「働いているから」「利用料などを考慮して」「子どもをよく見てもらえるから」の割合が増加しています。

主な「その他」意見

- ・友達と遊んでほしいから （8件）
- ・父親が在宅で仕事をしているため （3件）



問6 あて名のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）では、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか（過ごしていますか）。料金も考慮の上、利用を希望する場所についてはそれぞれ希望する週あたり日数の数字をお選びください。（○はそれぞれ1つ）



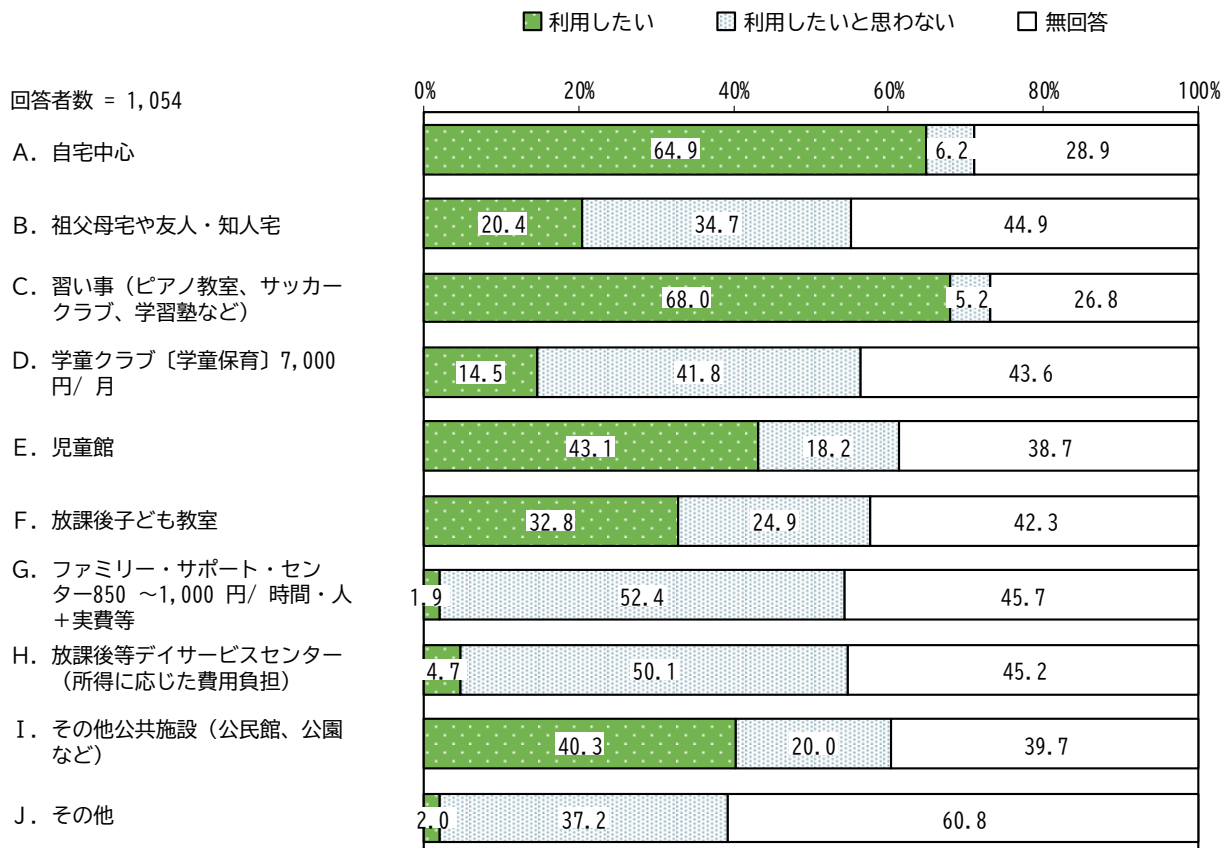
主な「その他」意見

・友達と遊ぶ（2件）

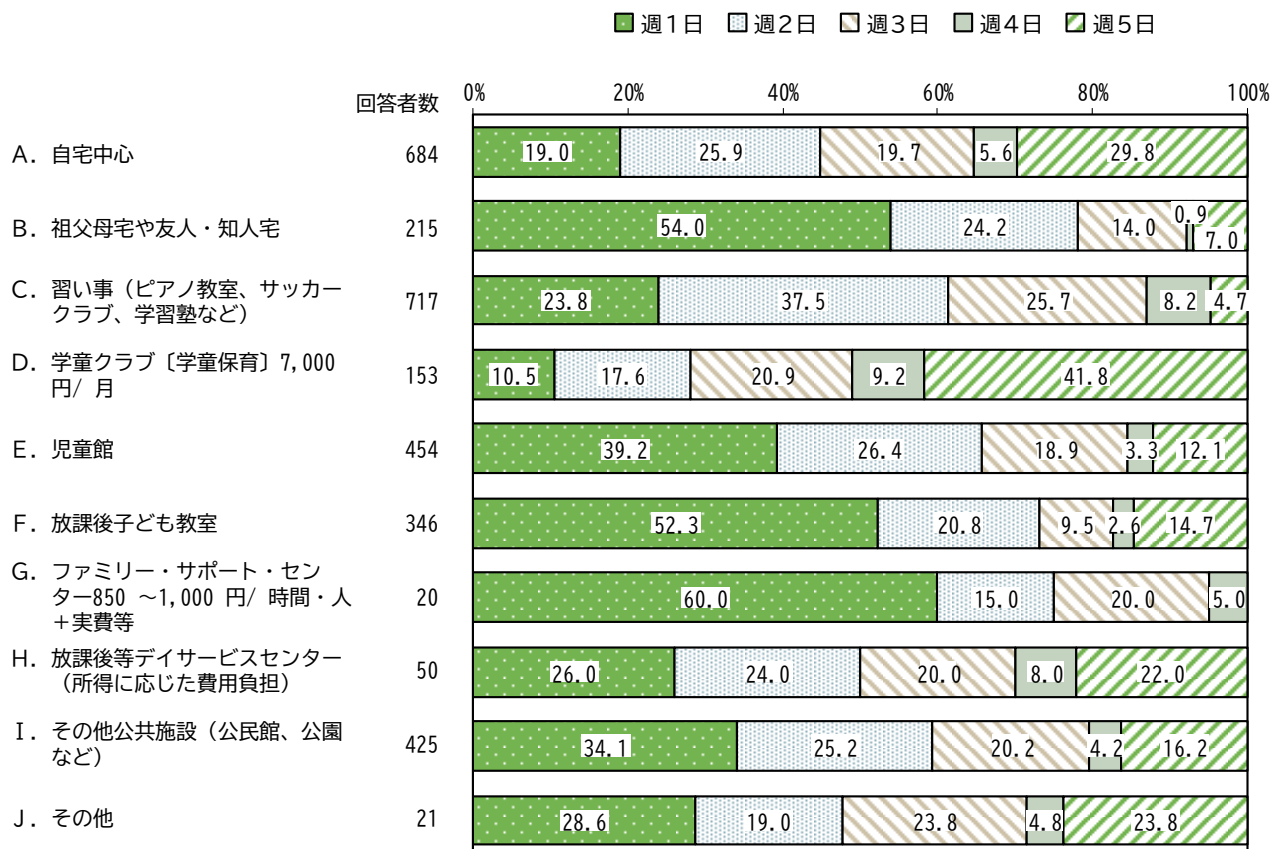
A-2 小学生用

<利用意向について>

回答者数 = 1,054

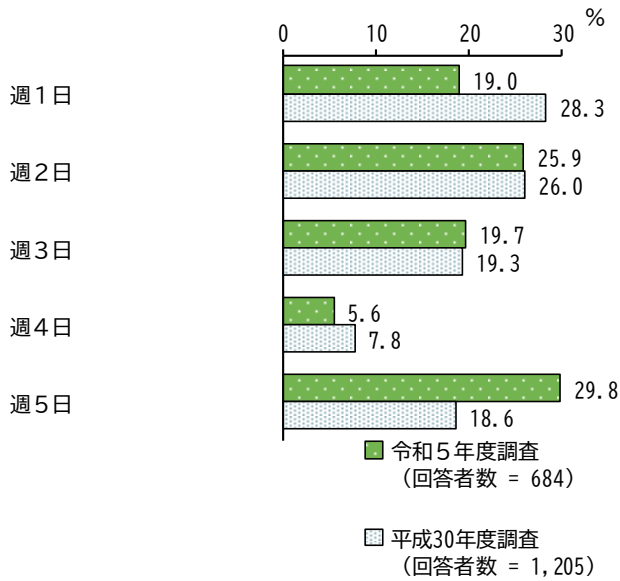


<週あたりの利用希望日数>

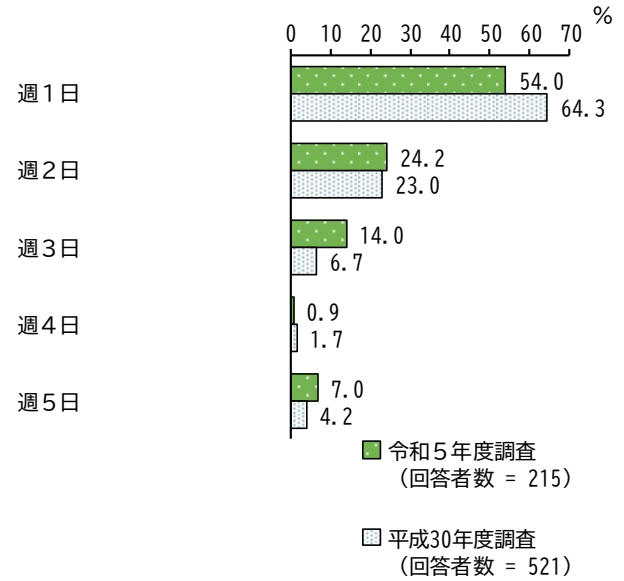


<項目ごとの経年比較>

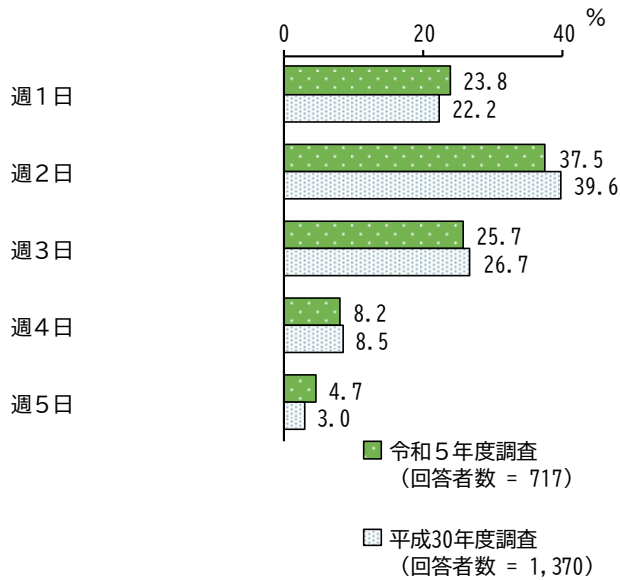
A. 自宅中心



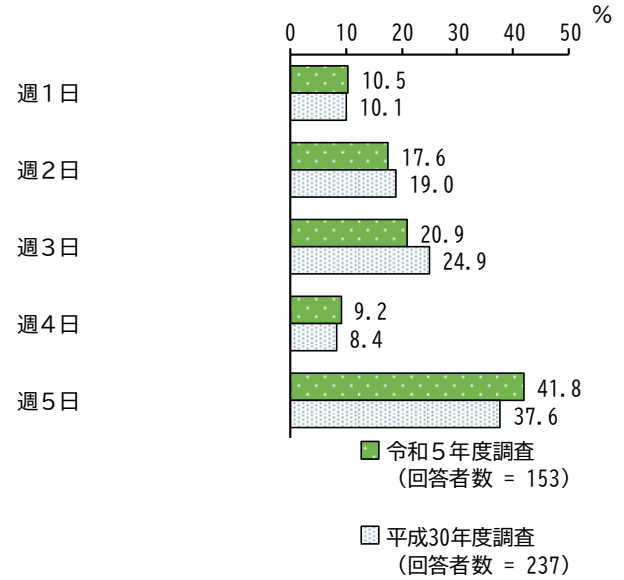
B. 祖父母宅や友人・知人宅



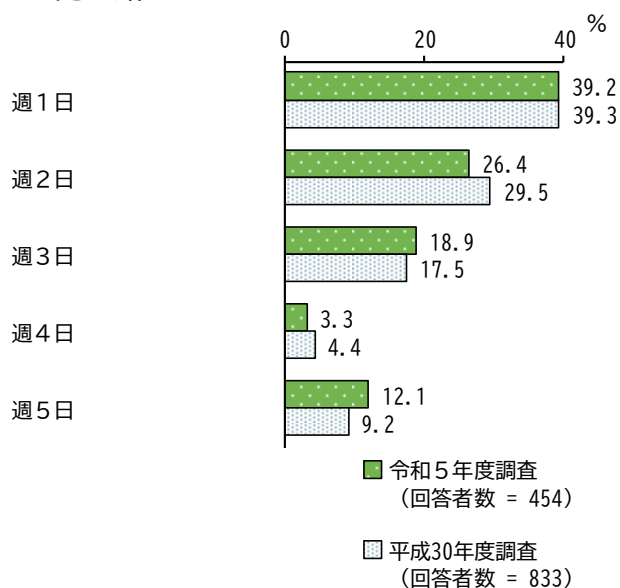
C. 習い事 (ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)



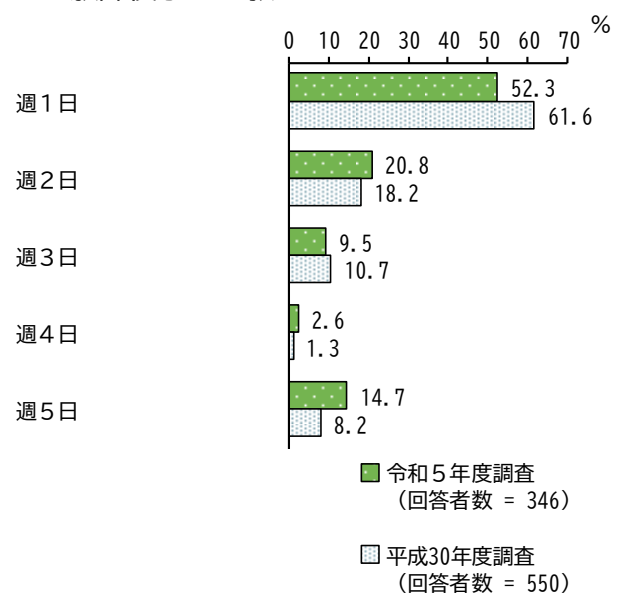
D. 学童クラブ〔学童保育〕7,000円/月



E. 児童館

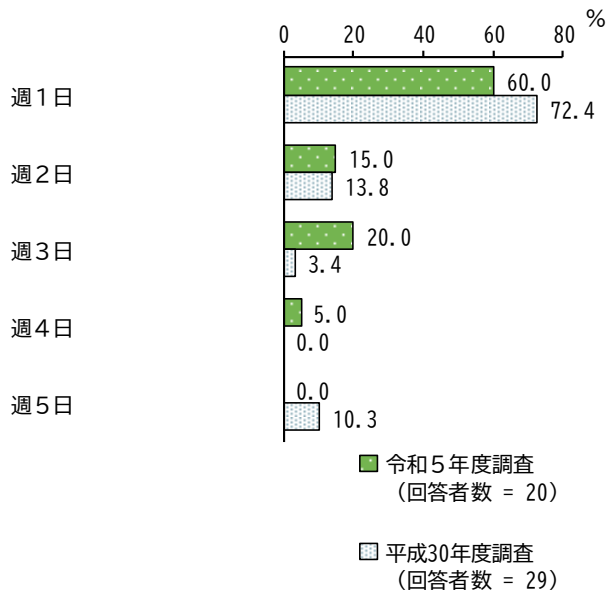


F. 放課後子ども教室

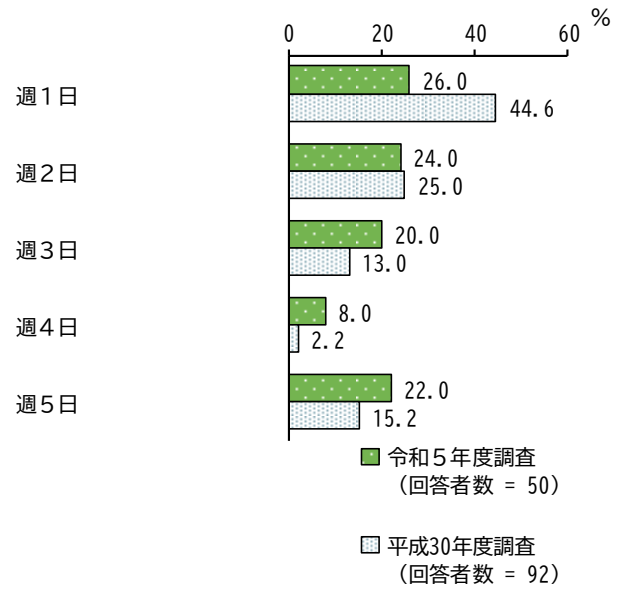


A-2 小学生用

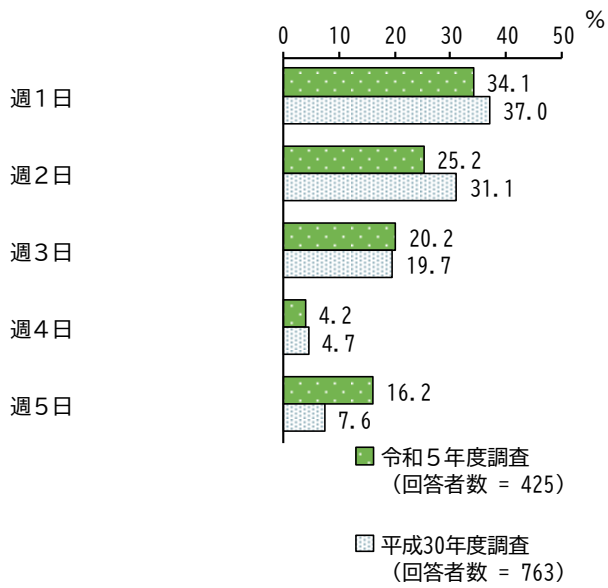
G. ファミリー・サポート・センター
850～1,000 円／時間・人＋実費等



H. 放課後等デイサービスセンター
(所得に応じた費用負担)



I. その他公共施設 (公民館、公園など)



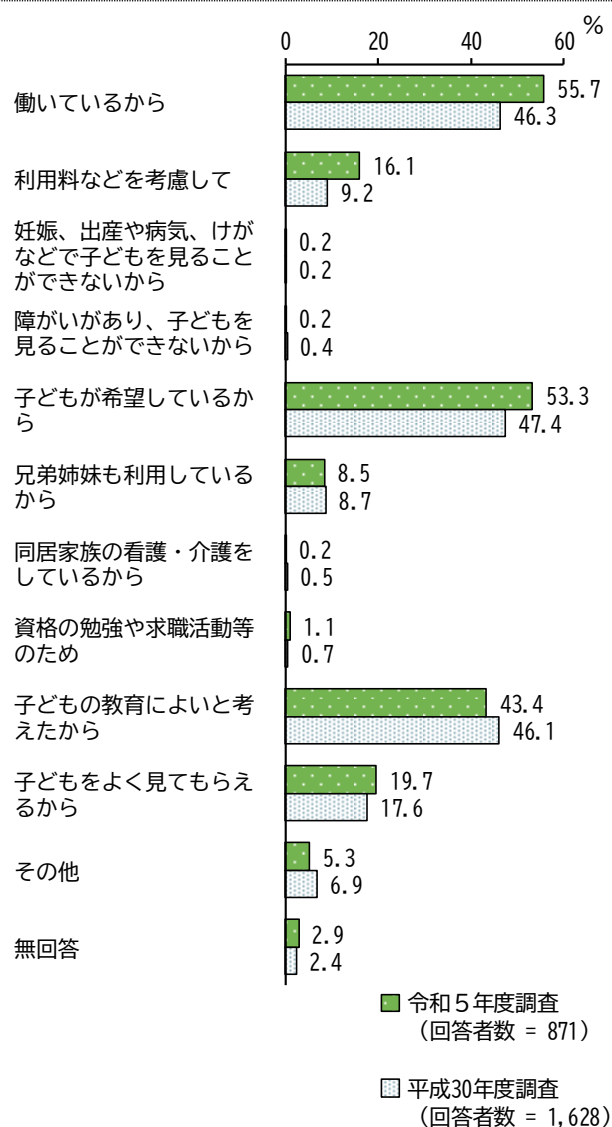
問6-1 問6で選択した場所で過ごさせたい（過ごしている）と回答した理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「働いているから」の割合が55.7%と最も高く、次いで「子どもが希望しているから」の割合が53.3%、「子どもの教育によいと考えたから」の割合が43.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「働いているから」「利用料などを考慮して」「子どもが希望しているから」の割合が増加しています。

主な「その他」意見

- ・友達と遊んでほしいから （12件）
- ・安全だから （5件）
- ・父親が在宅で仕事をしているため （3件）
- ・中学受験のため （2件）



(4) お子さんの「土曜・休日の学童クラブ・児童館利用」について

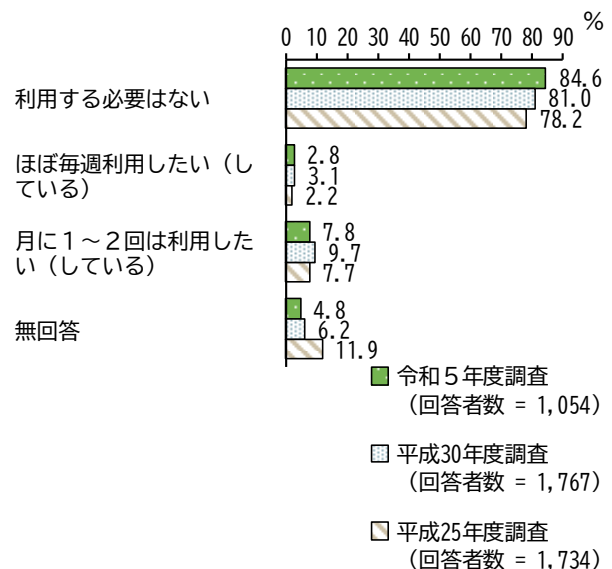
問7 調査票を持ち帰ったお子さんについて、土曜日や日曜日・祝日に、定期的な学童クラブ・児童館の利用を希望しますか。料金も考慮の上、あてはまる番号1つに○をつけてください。また、希望がある場合は、利用したい（している）時間帯を24時間制でご記入ください。
※市内の学童クラブ・児童館では土曜日は通常利用できます。

A 学童クラブ

(1) 土曜日

「利用する必要はない」の割合が84.6%と最も高くなっています。

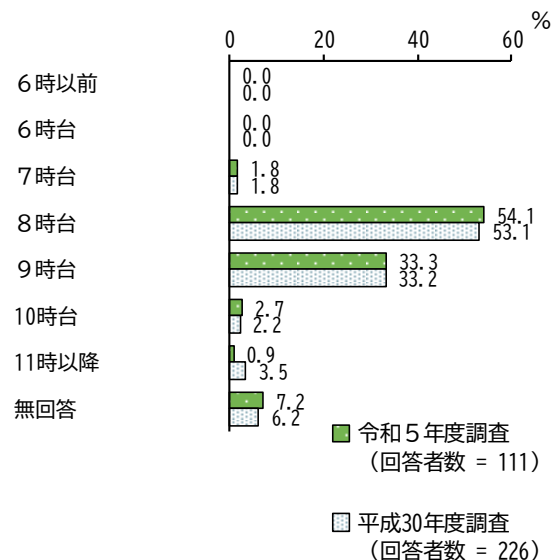
平成30年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



<希望する利用開始時間>

「8時台」の割合が54.1%と最も高く、次いで「9時台」の割合が33.3%となっています。

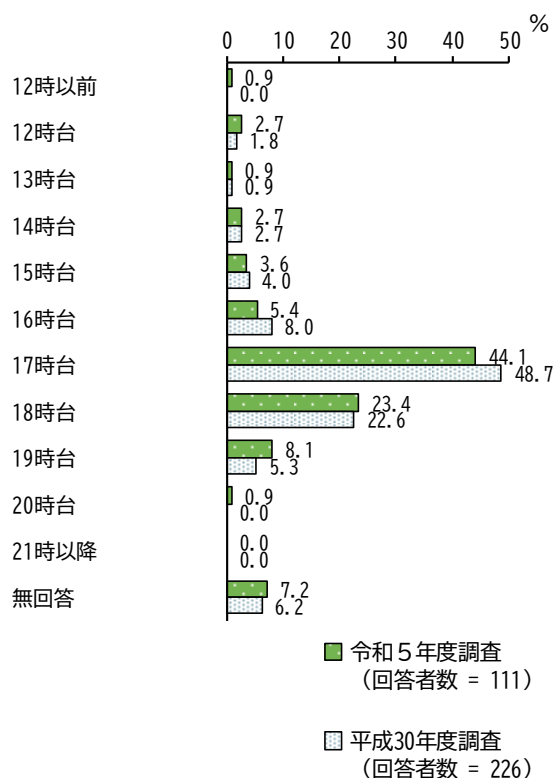
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



<希望する利用終了時間>

「17 時台」の割合が 44.1%と最も高く、次いで「18 時台」の割合が 23.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

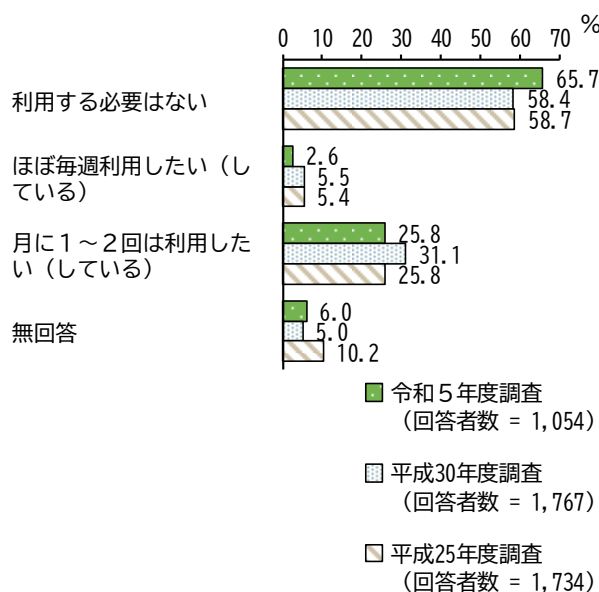


B 児童館

(1) 土曜日

「利用する必要はない」の割合が 65.7%と最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい(している)」の割合が 25.8%となっています。

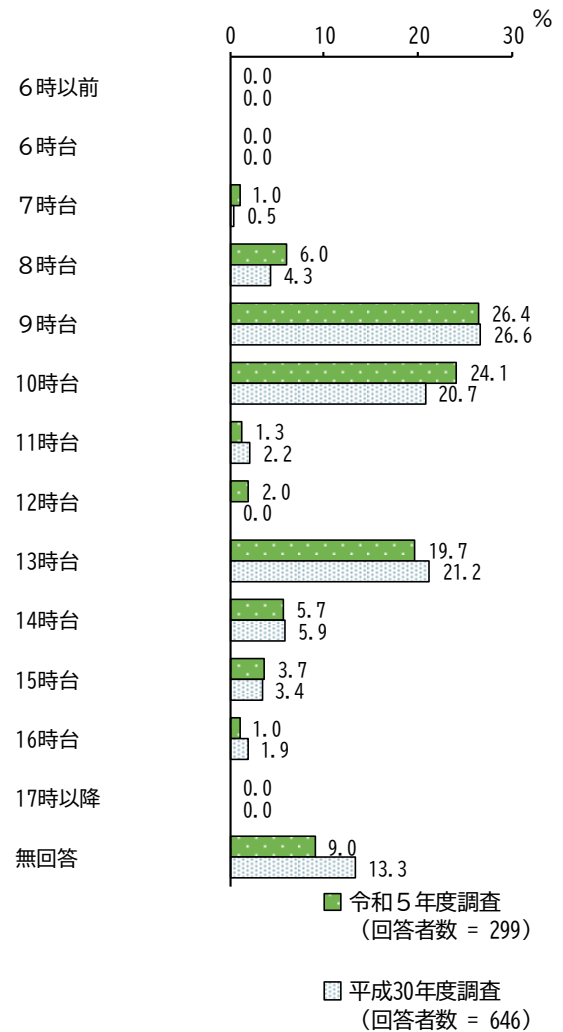
平成 30 年度調査と比較すると、「利用する必要はない」の割合が増加しています。一方、「月に1～2回は利用したい(している)」「ほぼ毎週利用したい(している)」の割合が減少しています。



A-2 小学生用

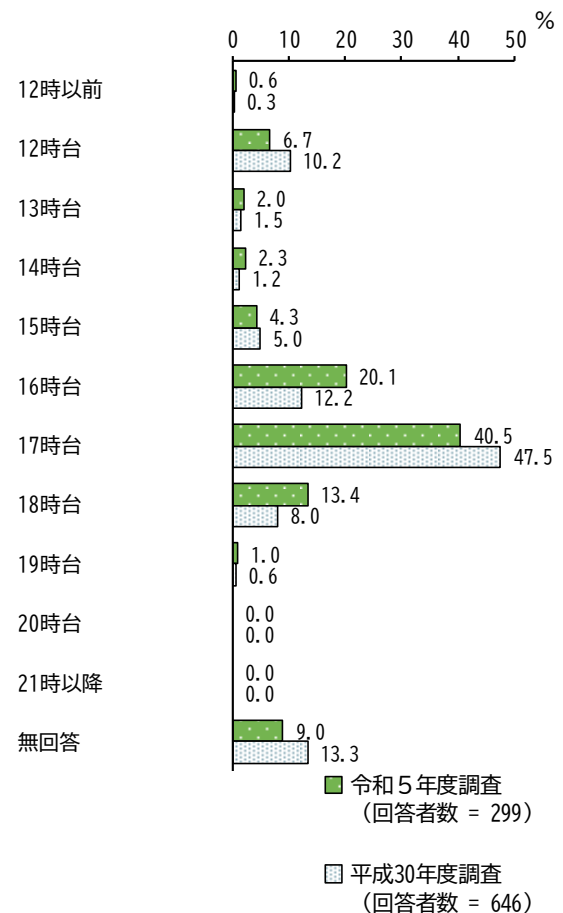
<希望する利用開始時間>

「9時台」の割合が26.4%と最も高く、次いで「10時台」の割合が24.1%、「13時台」の割合が19.7%となっています。



<希望する利用終了時間>

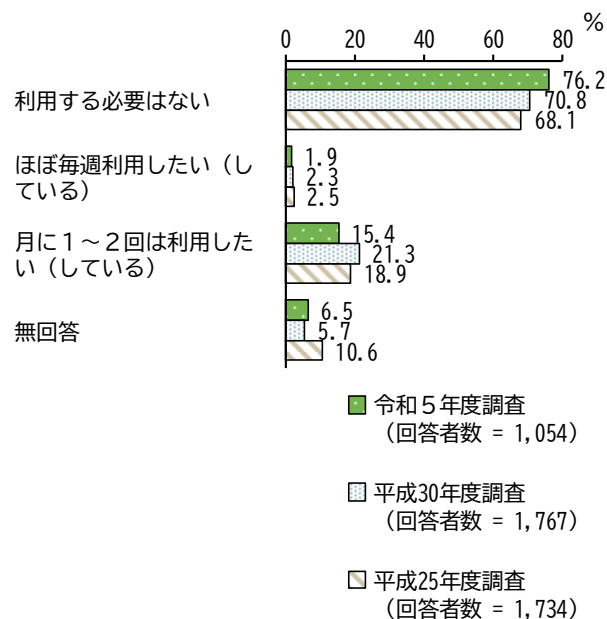
「17時台」の割合が40.5%と最も高く、次いで「16時台」の割合が20.1%、「18時台」の割合が13.4%となっています。



(2) 日曜日・祝日 ※現在一ノ宮児童館、永山児童館、唐木田児童館で実施

「利用する必要はない」の割合が 76.2%と最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい(している)」の割合が 15.4%となっています。

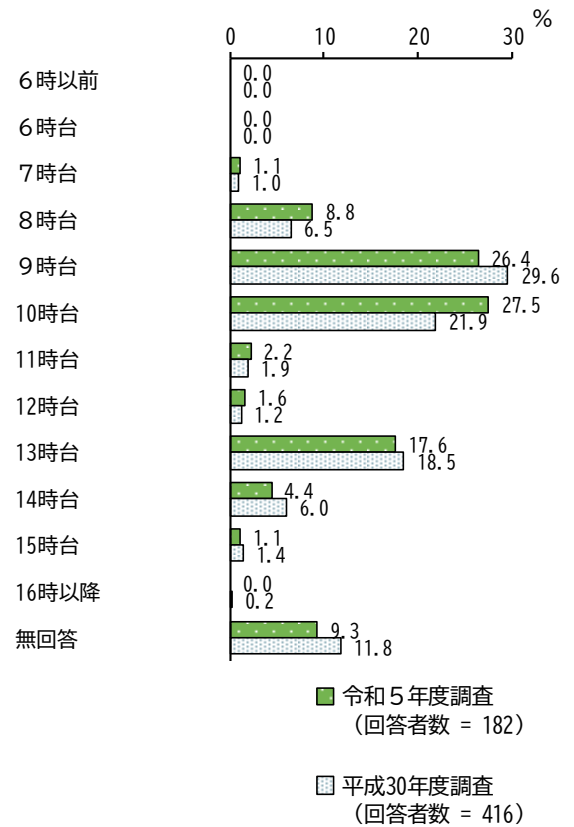
平成 30 年度調査と比較すると、「利用する必要はない」の割合が増加しています。一方、「月に1～2回は利用したい(している)」「ほぼ毎週利用したい(している)」の割合が減少しています。



A-2 小学生用

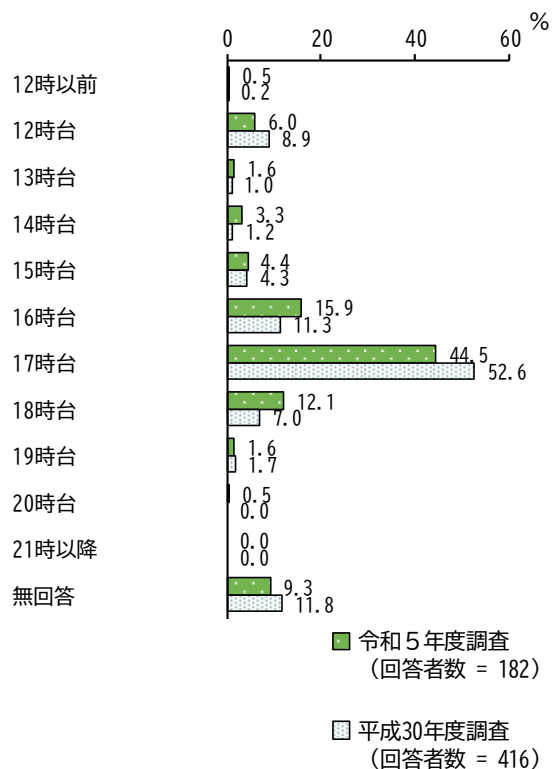
<希望する利用開始時間>

「10 時台」の割合が 27.5%と最も高く、次いで「9 時台」の割合が 26.4%、「13 時台」の割合が 17.6%となっています。



<希望する利用終了時間>

「17 時台」の割合が 44.5%と最も高く、次いで「16 時台」の割合が 15.9%、「18 時台」の割合が 12.1%となっています。

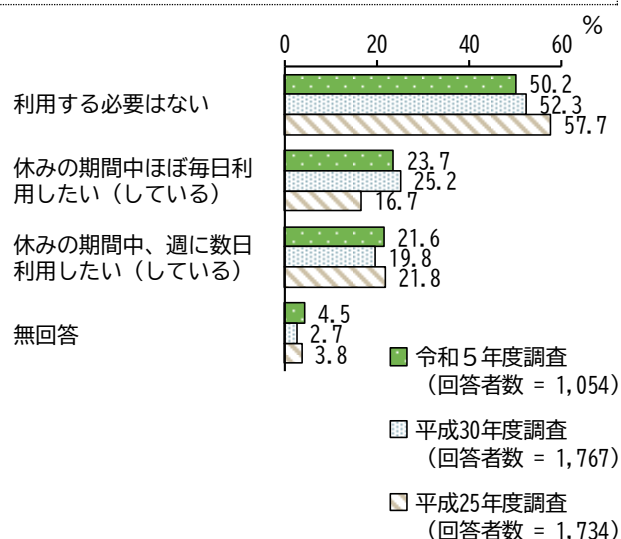


問8 調査票を持ち帰ったお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の学童クラブの利用を希望しますか。料金も考慮の上、あてはまる番号1つに○をつけてください。また、希望がある場合は、利用したい（している）時間帯を24時間制でご記入ください。

※多摩市では8月の1か月の一時入所を実施しており、7,000円/月かかります。

「利用する必要はない」の割合が50.2%と最も高く、次いで「休みの期間中ほぼ毎日利用したい（している）」の割合が23.7%、「休みの期間中、週に数日利用したい（している）」の割合が21.6%となっています。

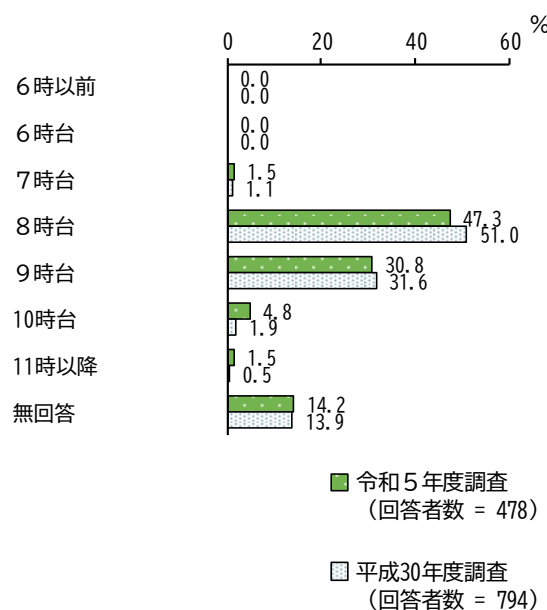
平成30年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



<希望する利用開始時間>

「8時台」の割合が47.3%と最も高く、次いで「9時台」の割合が30.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。

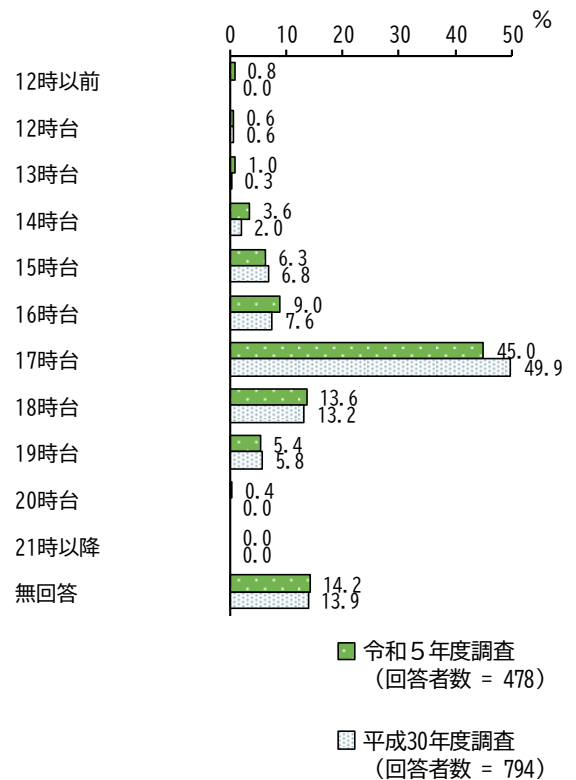


A-2 小学生用

<希望する利用終了時間>

「17 時台」の割合が 45.0%と最も高く、次いで「18 時台」の割合が 13.6%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



【問8で「3.週に数日利用したい」と答えた方にお伺いします】

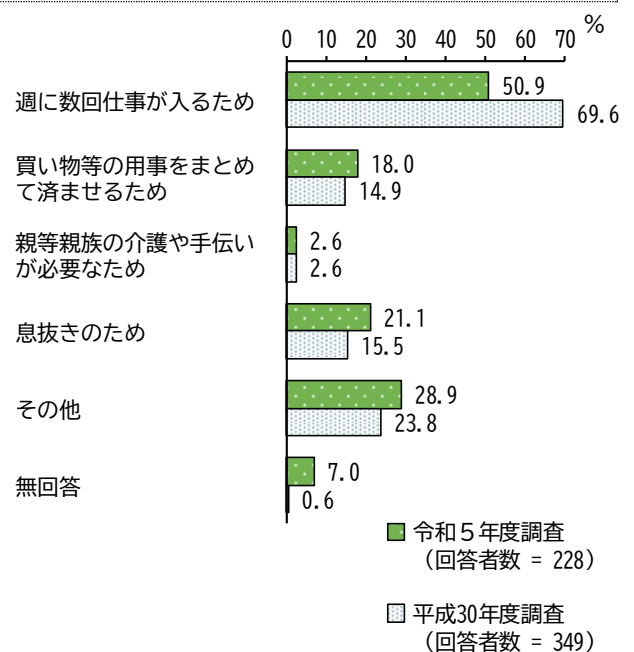
問8－1 毎日ではなく、数日利用したい理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

「週に数回仕事が入るため」の割合が 50.9%と最も高く、次いで「息抜きのため」の割合が 21.1%、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」の割合が 18.0%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「息抜きのため」の割合が増加しています。一方、「週に数回仕事が入るため」の割合が減少しています。

主な「その他」意見

- ・ 習い事があるため (8件)
- ・ 子どもの希望 (15件)
- ・ ひとりで家にいる日を減らすため (7件)
- ・ 友達と遊ばせるため (7件)

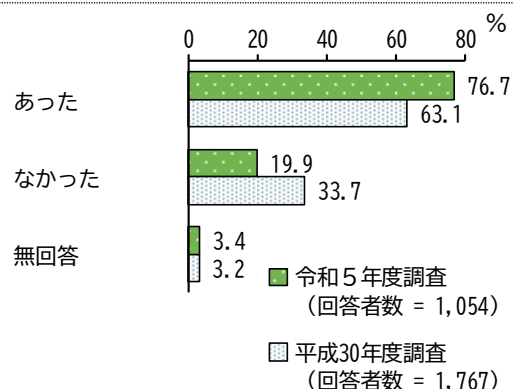


(5) お子さんが病気になったときの対応について

問9 この1年間に、病気やけがで、学校や学童クラブを休まなければならなかったことはありましたか。(○は1つ)

「あった」の割合が 76.7%、「なかった」の割合が 19.9%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「あった」の割合が増加し、「なかった」の割合が減少しています。



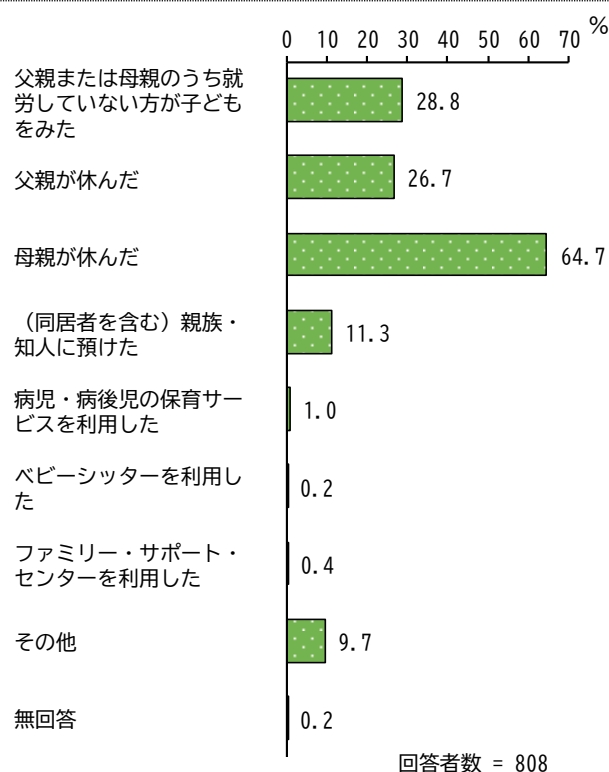
【問9で「1. あった」と答えた方にお伺いします】

問9-1 そのときどう対処しましたか。以下の中から該当する番号すべてに○をつけてください。また、その年間の日数を数字で記入してください。

「母親が休んだ」の割合が 64.7%と最も高く、次いで「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」の割合が 28.8%、「父親が休んだ」の割合が 26.7%となっています。

主な「その他」意見

- ・父親と母親どちらかがテレワークで対応した (57 件)
- ・留守番をさせた (10 件)
- ・父親と母親がそれぞれ半休を取り交代で見た (2 件)

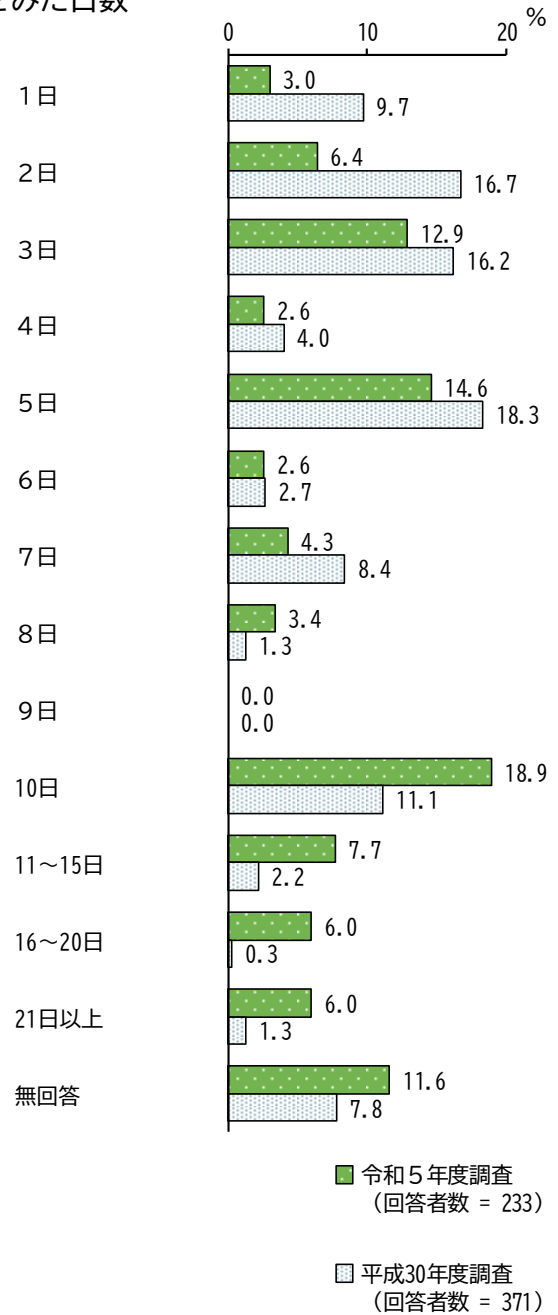


<項目ごとの年間日数>

1. 父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた日数

「10 日」の割合が 18.9%と最も高く、次いで
「5 日」の割合が 14.6%、「3 日」の割合が 12.9%
となっています。

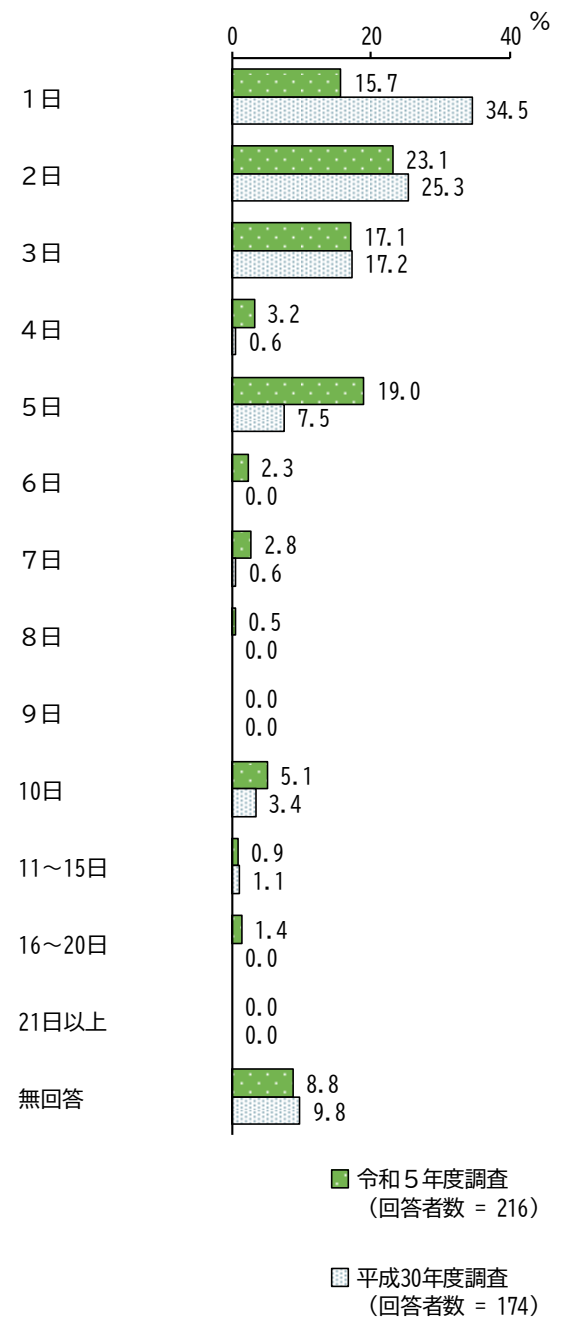
平成 30 年度調査と比較すると、10 日以上と答
えた割合が増加しています。一方、5 日以下と答
えた割合が減少しています。



2. 父親が休んだ日数

「2日」の割合が23.1%と最も高く、次いで「5日」の割合が19.0%、「3日」の割合が17.1%となっています。

平成30年度調査と比較すると、4日以上と答えた割合が増加傾向にあり、2日以下と答えた割合が減少傾向にあります。

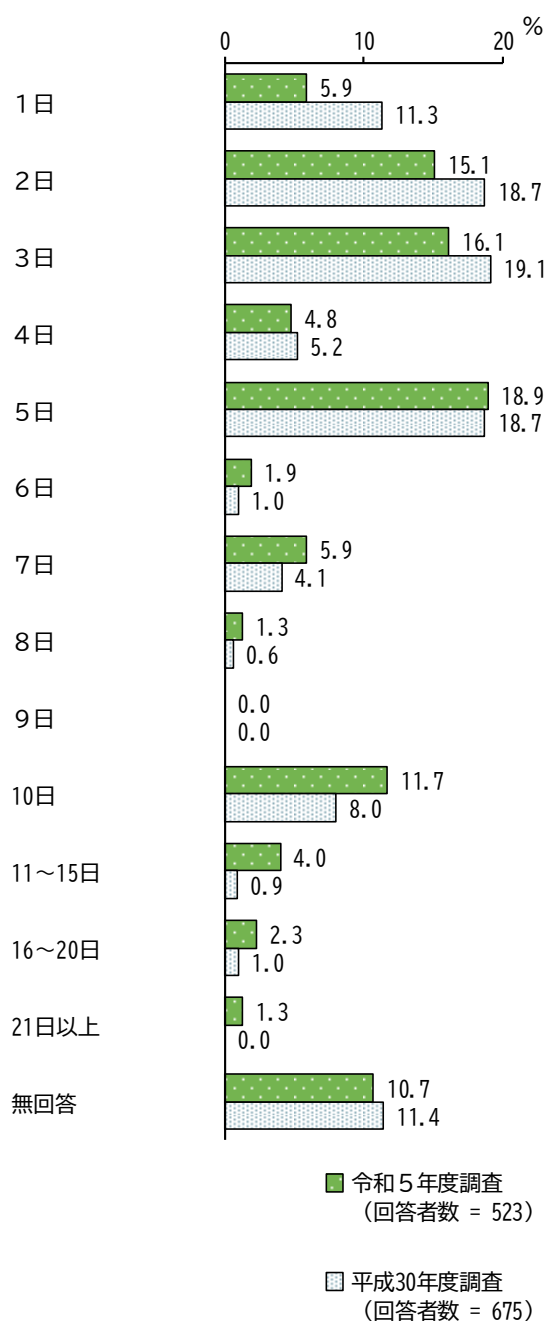


A-2 小学生用

3. 母親が休んだ日数

「5日」の割合が18.9%と最も高く、次いで「3日」の割合が16.1%、「2日」の割合が15.1%となっています。

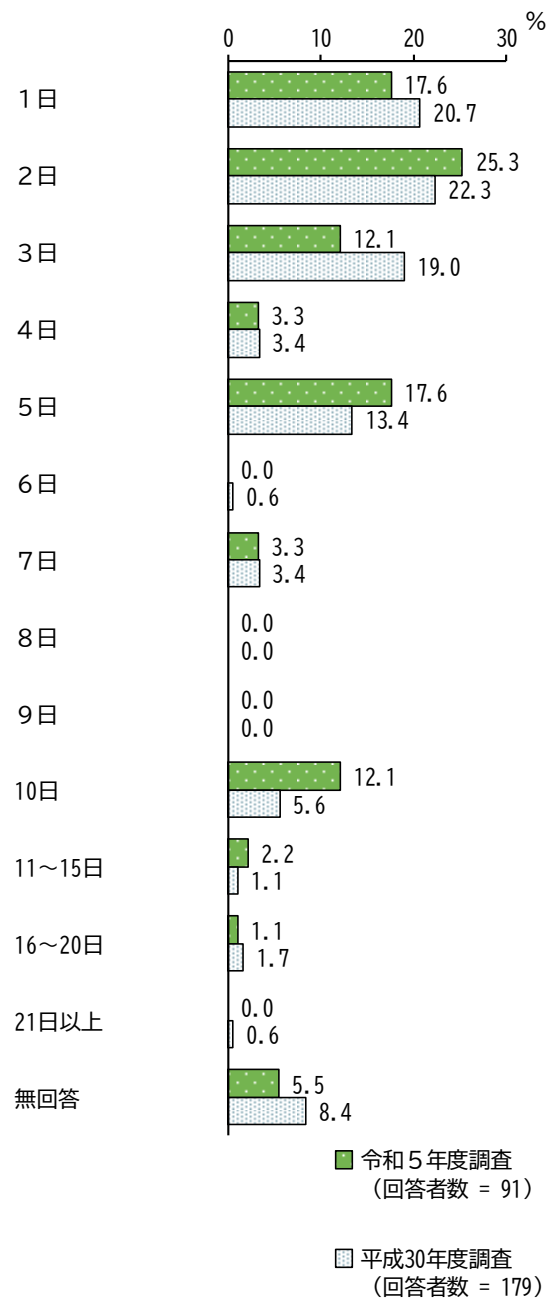
平成30年度調査と比較すると、4日以下の割合が減少傾向にあります。



4. (同居者を含む) 親族・知人に預けた日数

「2日」の割合が25.3%と最も高く、次いで「1日」、「5日」の割合が17.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると「5日」「10日」の割合が増加しており、「1日」「3日」の割合が減少しています。



A-2 小学生用

5. 病児・病後児の保育サービスを利用した日数

「1日」、「2日」が3件となっています。

6. ベビーシッターを利用した日数

「1日」が1件となっています。

7. ファミリー・サポート・センターを利用した日数

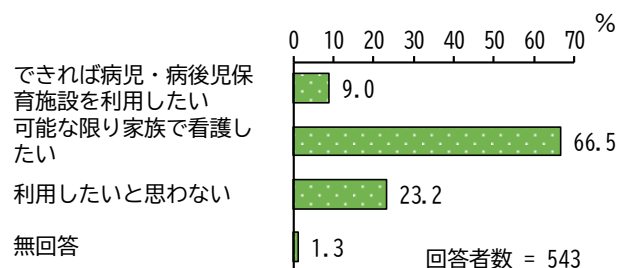
「3日」が1件となっています。

【問9－1で「2. 父親が休んだ」「3. 母親が休んだ」を選んだ方にお伺いします】

問9－2 「病児・病後児保育施設の利用意向」について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

※病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

「可能な限り家族で看護したい」の割合が66.5%と最も高く、次いで「利用したいと思わない」の割合が23.2%となっています。

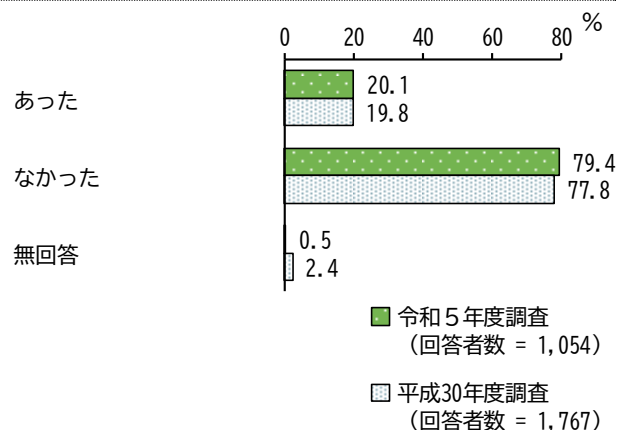


(6) お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う「一時預かり」等の利用について

問 10 この1年間に、緊急の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など、土日に関係なく）やリフレッシュ目的のため、調査票を持ち帰ったお子さんを家族以外の誰かに一時的に預けたことはありましたか。（○は1つ）

「あった」の割合が 20.1%、「なかった」の割合が 79.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。

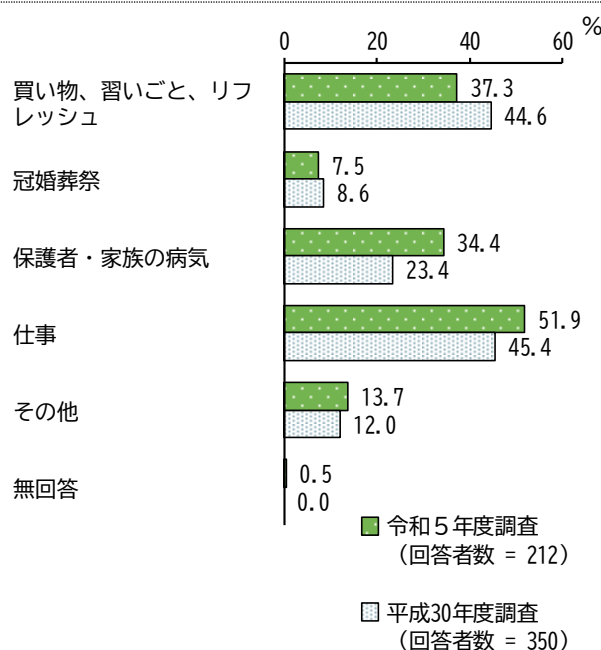


【問 10 で「1. あった」と答えた方にお伺いします】

問 10-1 その理由はどのようなものですか。以下の中から該当する番号すべてに○をつけてください。また、その年間の日数を数字で記入してください。

「仕事」の割合が 51.9%と最も高く、次いで「買い物、習いごと、リフレッシュ」の割合が 37.3%、「保護者・家族の病気」の割合が 34.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「保護者・家族の病気」「仕事」の割合が増加しています。一方、「買い物、習いごと、リフレッシュ」の割合が減少しています。



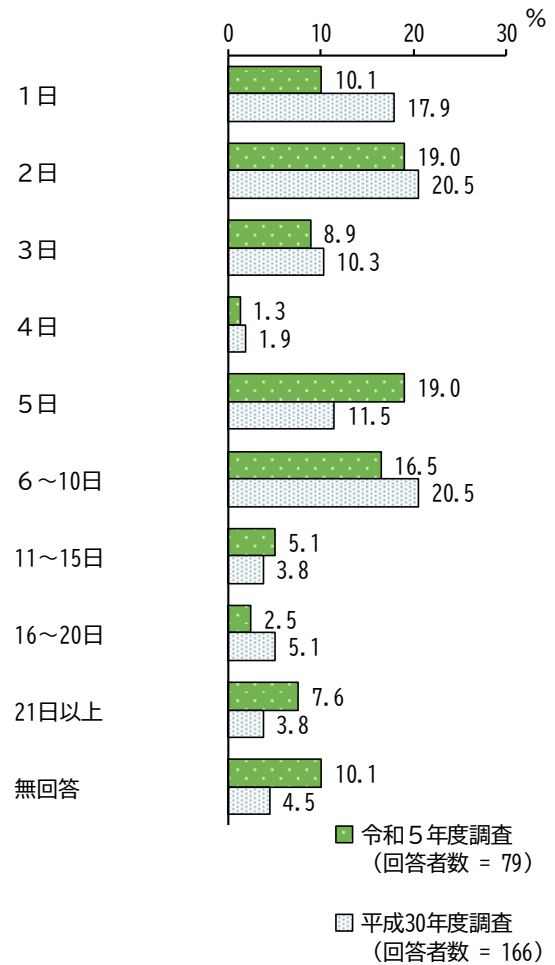
主な「その他」意見

- ・兄弟の行事 （7件）
- ・祖父母宅へのお泊り （4件）
- ・家族の通院 （2件）

<項目ごとの年間日数>

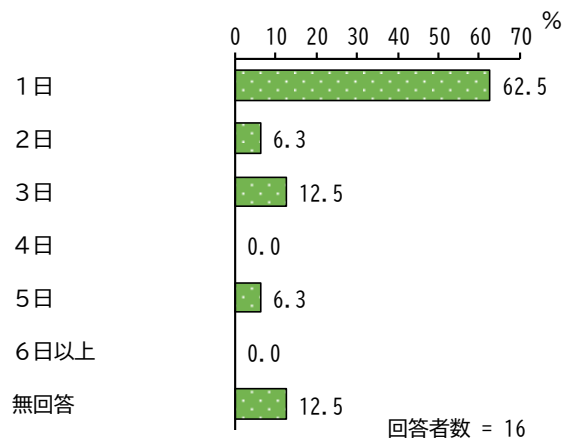
1. 買い物、習いごと、リフレッシュの日数

「2日」、「5日」の割合が19.0%と最も高く、次いで「6～10日」の割合が16.5%となっています。



2. 冠婚葬祭の日数

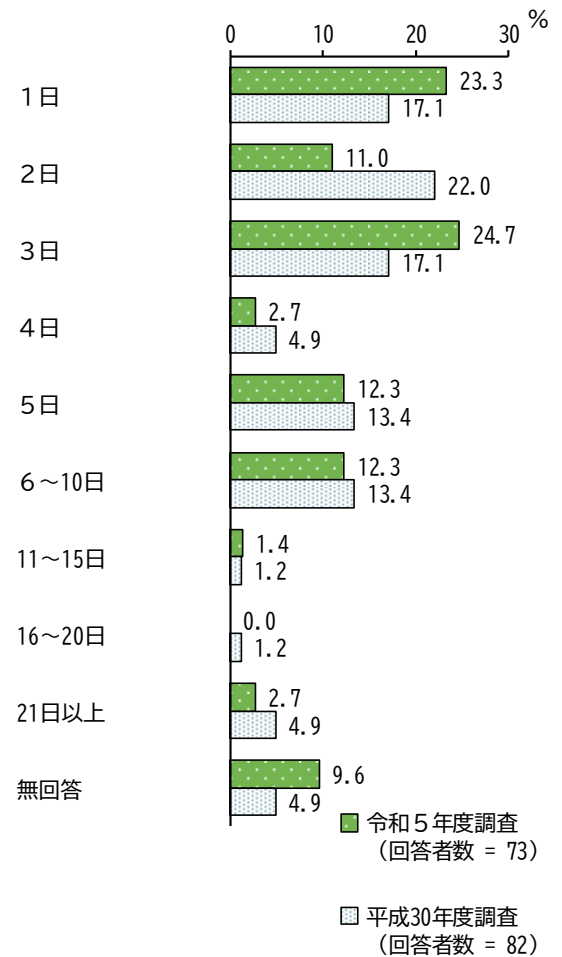
「1日」の割合が62.5%と最も高く、次いで「3日」の割合が12.5%となっています。



※平成30年度調査の回答者数が少ないため、経年比較を行っておりません。

3. 保護者・家族の病気の日数

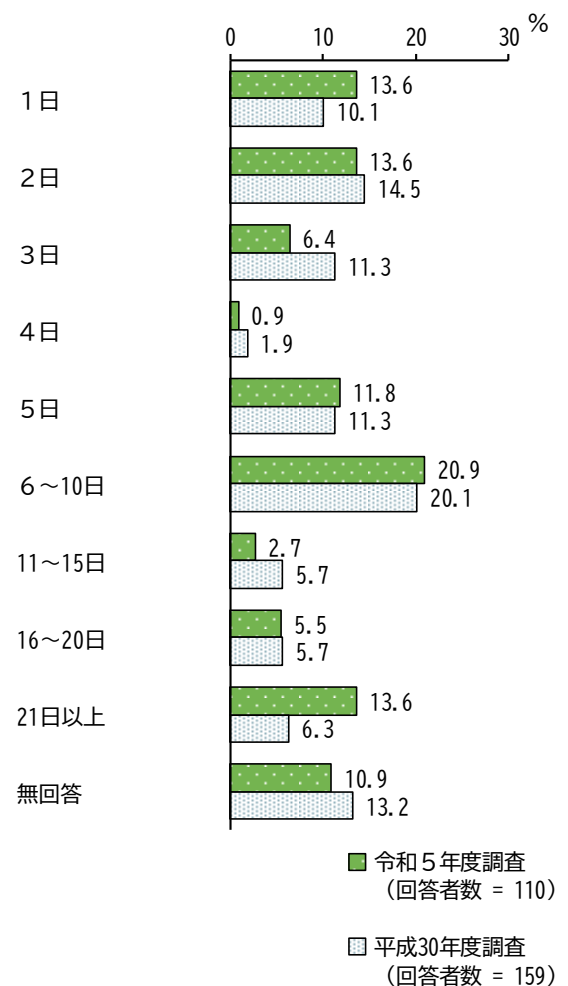
「3日」の割合が24.7%と最も高く、次いで「1日」の割合が23.3%、「5日」、「6～10日」の割合が12.3%となっています。



4. 仕事の日数

「6～10日」の割合が20.9%と最も高く、次いで「1日」、「2日」、「21日以上」の割合が13.6%となっています。

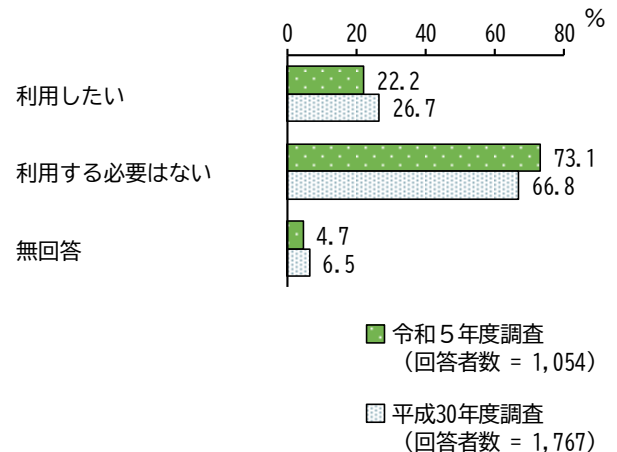
平成30年度調査と比較すると、「21日以上」の割合が増加しています。



問 11 調査票を持ち帰ったお子さんについて、用事、親の通院、不特定の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無についてあてはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数をご記入ください（目的別の内訳の日数を【 】内に数字でご記入ください）。
※事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

「利用したい」の割合が 22.2%、「利用する必要はない」の割合が 73.1%となっています。

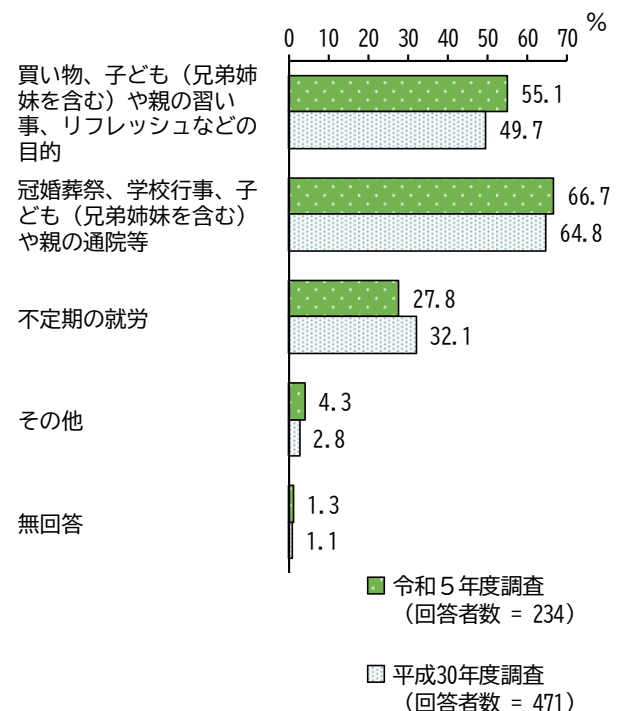
平成 30 年度調査と比較すると、「利用したい」の割合が減少し、「利用する必要はない」の割合が増加しています。



<利用したい目的>

「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」の割合が 66.7%と最も高く、次いで「買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事、リフレッシュなどの目的」の割合が 55.1%、「不特定の就労」の割合が 27.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事、リフレッシュなどの目的」の割合が増加しています。



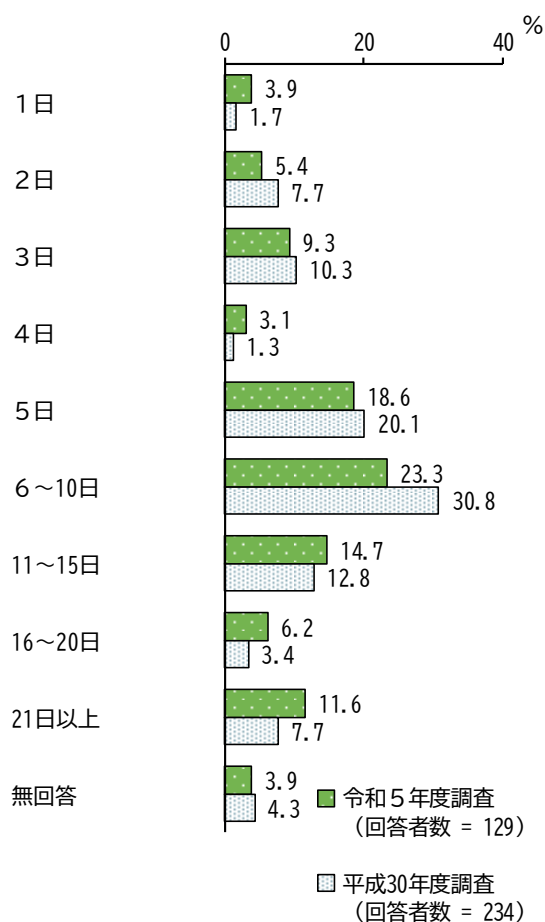
<項目ごとの年間日数>

ア. 買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や

親の習い事、リフレッシュなどの目的の日数

「6～10日」の割合が23.3%と最も高く、次いで「5日」の割合が18.6%、「11～15日」の割合が14.7%となっています。

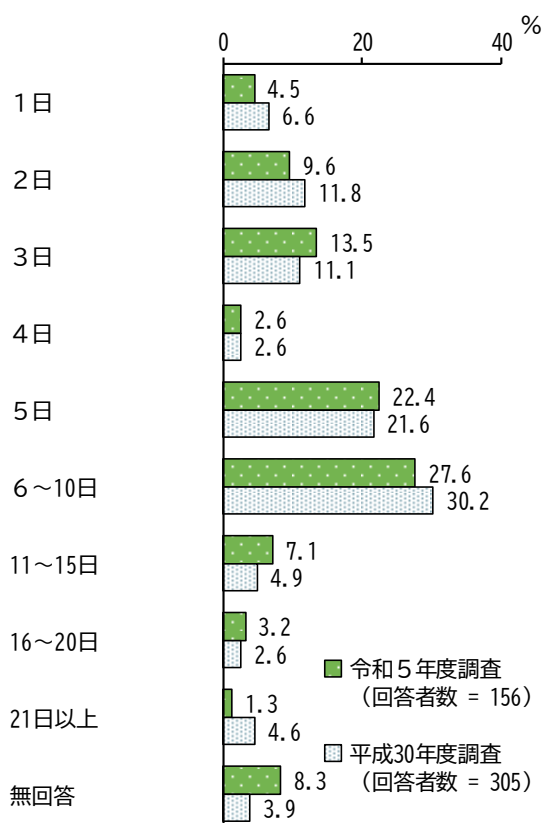
平成30年度調査と比較すると、「6～10日」の割合が減少しています。



イ. 冠婚葬祭、学校行事、

子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等の日数

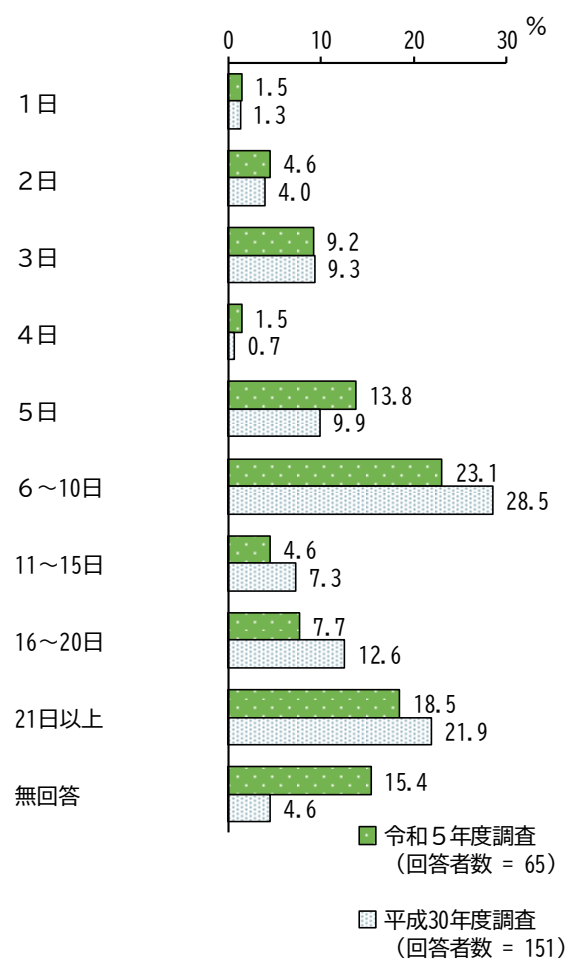
「6～10日」の割合が27.6%と最も高く、次いで「5日」の割合が22.4%、「3日」の割合が13.5%となっています。



A-2 小学生用

ウ. 不定期の就労の日数

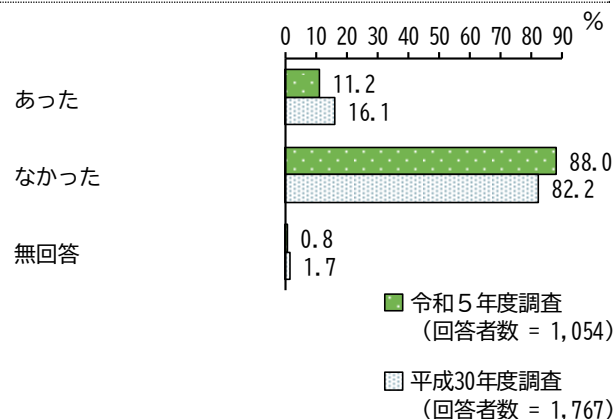
「6～10日」の割合が23.1%と最も高く、次いで「21日以上」の割合が18.5%、「5日」の割合が13.8%となっています。



問 12 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、調査票を持ち帰ったお子さんを泊りがけで家族以外（同居者を含む）にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。あった場合は、この1年間の対処方法としてあてはまるものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）それぞれの日数も【 】内に数字でご記入ください。

「あった」の割合が11.2%、「なかった」の割合が88.0%となっています。

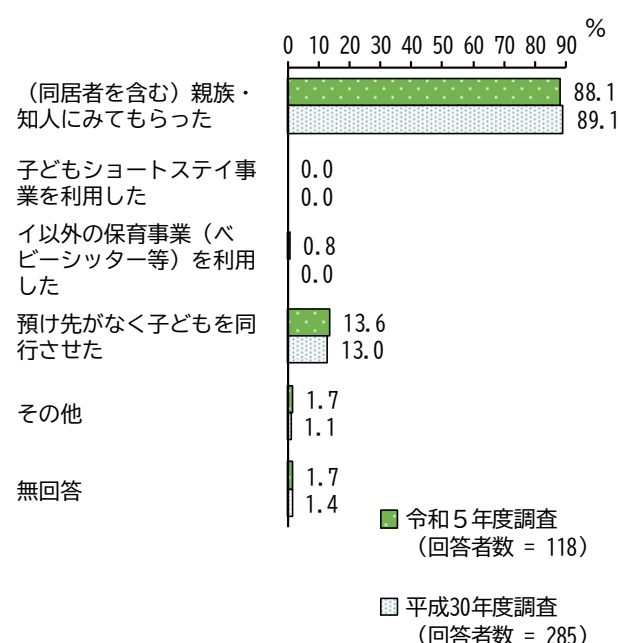
平成30年度調査と比較すると、「あった」の割合が減少し、「なかった」の割合が増加しています。



<直近1年間の対処方法>

「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」の割合が88.1%と最も高く、次いで「預け先がなく子どもを同行させた」の割合が13.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。

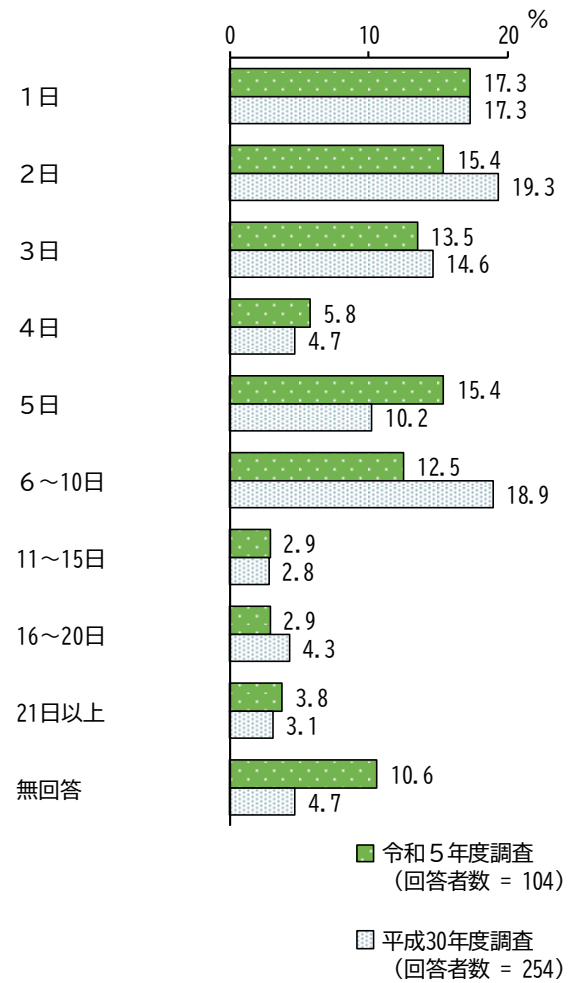


A-2 小学生用

<項目ごとの年間日数>

ア. (同居者を含む) 親族・知人にみてもらった日数

「1日」の割合が17.3%と最も高く、次いで「2日」、「5日」の割合が15.4%となっています。



イ. 子どもショートステイ事業を利用した日数

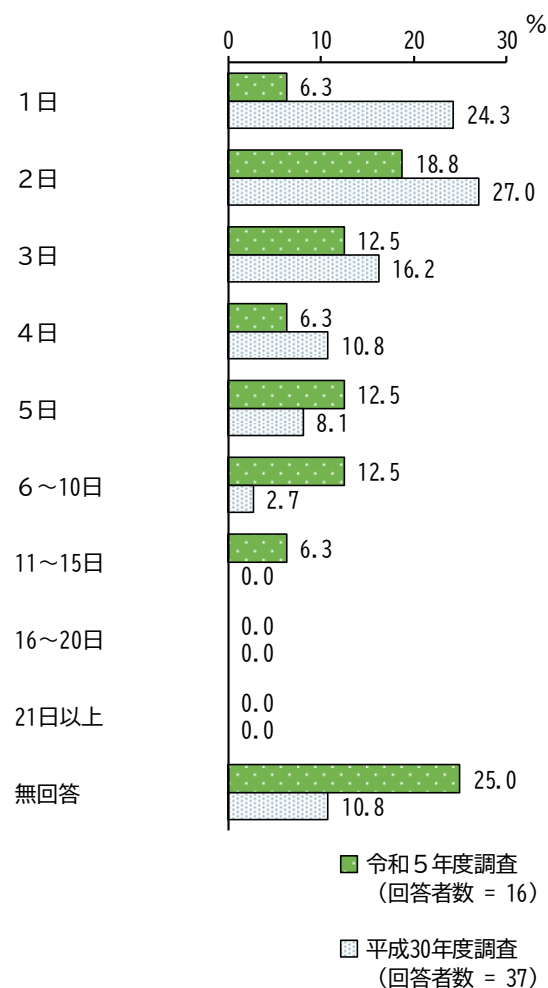
有効回答がありませんでした。

ウ. イ以外の保育事業（ベビーシッター等）を利用した日数

「2日」が1件となっています。

工. 預け先がなく子どもを同行させた日数

「2日」の割合が18.8%と最も高く、次いで「3日」、「5日」、「6～10日」の割合が12.5%となっています。

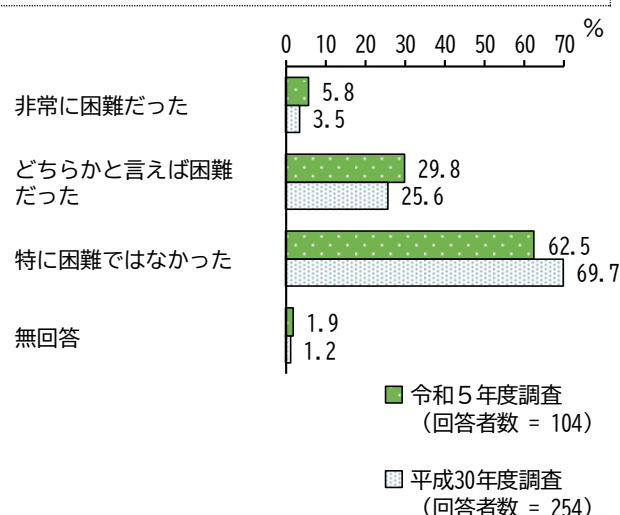


【問12で「ア. (同居人を含む) 親族・知人にみてもらった」と答えた方にお伺いします】

問12-1 そのとき、預かってくれる親族・知人を見つけるのは、どの程度困難でしたか。(○は1つ)

「特に困難ではなかった」の割合が62.5%と最も高く、次いで「どちらかと言えば困難だった」の割合が29.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「どちらかと言えば困難だった」の割合が増加し、「特に困難ではなかった」の割合が減少しています。

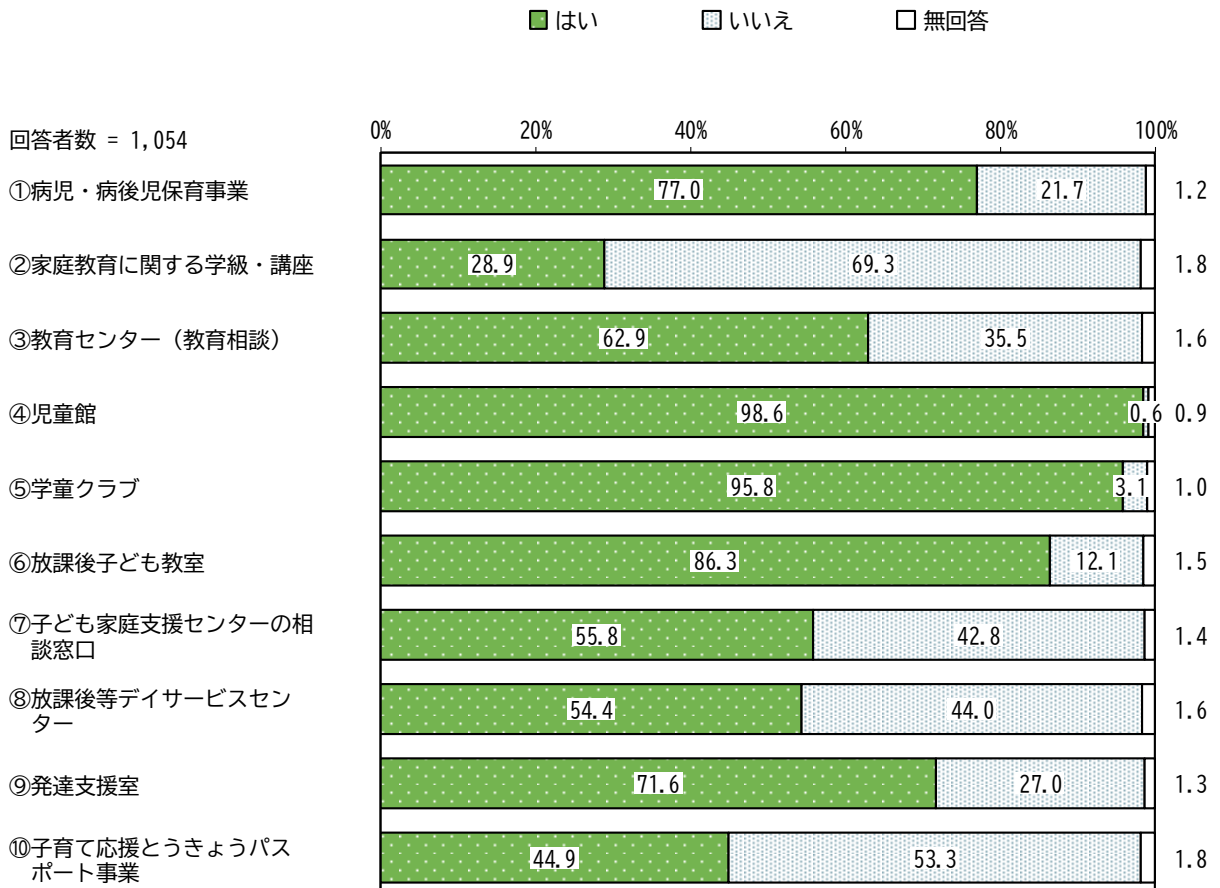


(7) お子さんの子育て支援事業の利用状況等について

問 13 下記の事業や取り組みについて、「A. 知っているかどうか」「B. 利用したことがあるかどうか」「C. 今後、利用したいかどうか」について、それぞれ1つ○をつけてお答えください。また、各事業や取り組みについて、「B. 利用したことがある」とお答えの方は、「満足」「不満」のいずれかにも○をつけてください。

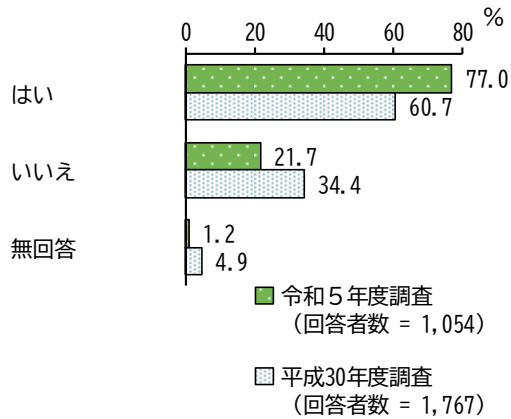
※多摩市の事業についてのみお答えください。

A 知っているかどうか

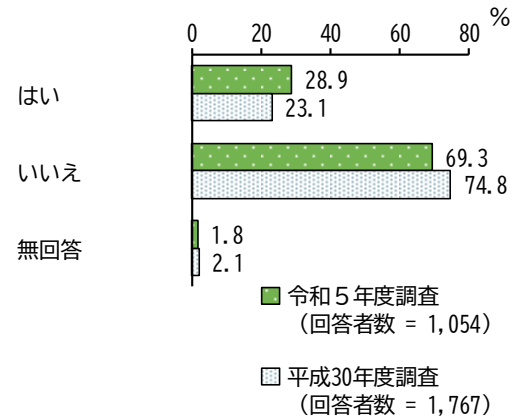


<項目ごとの経年比較>

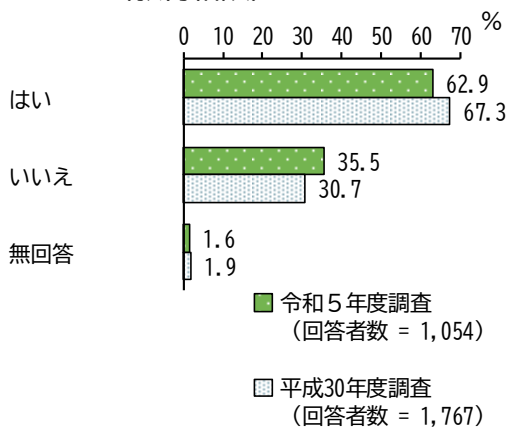
①病児・病後児保育事業



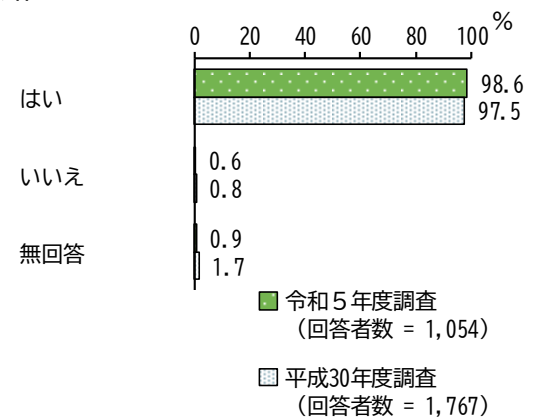
②家庭教育に関する学級・講座



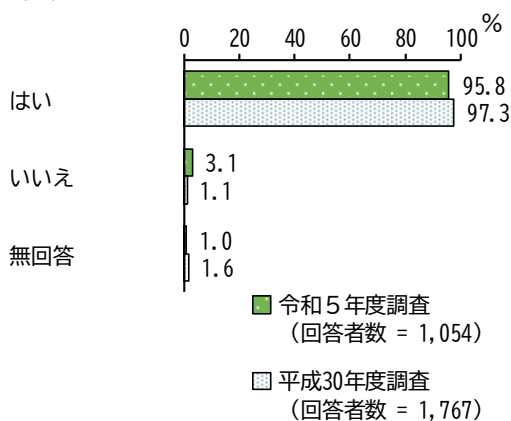
③教育センター（教育相談）



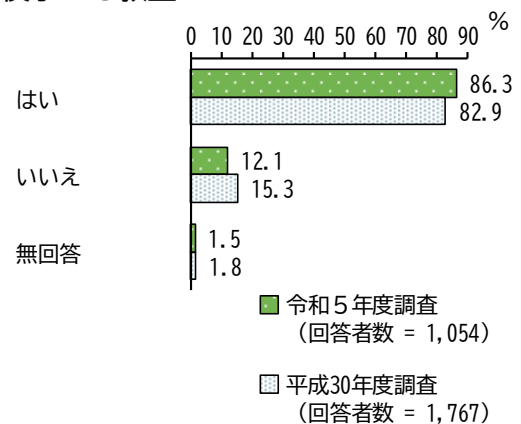
④児童館



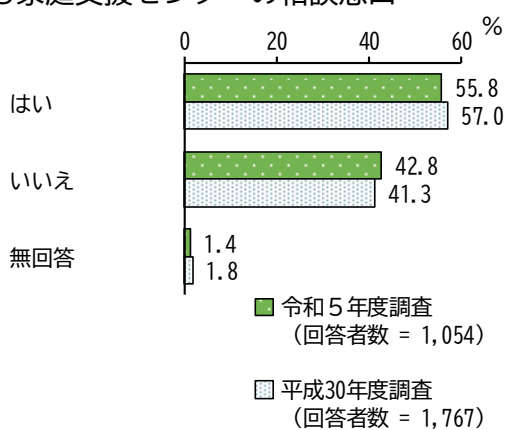
⑤学童クラブ



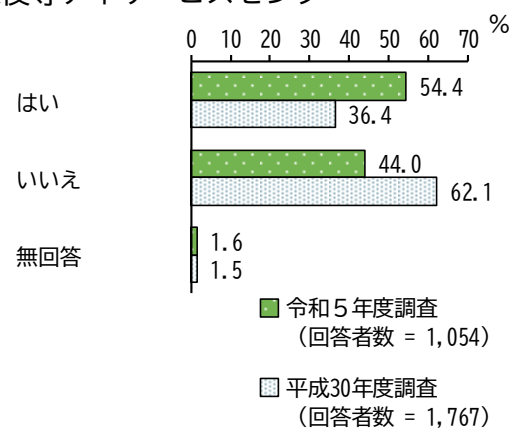
⑥放課後子ども教室



⑦子ども家庭支援センターの相談窓口

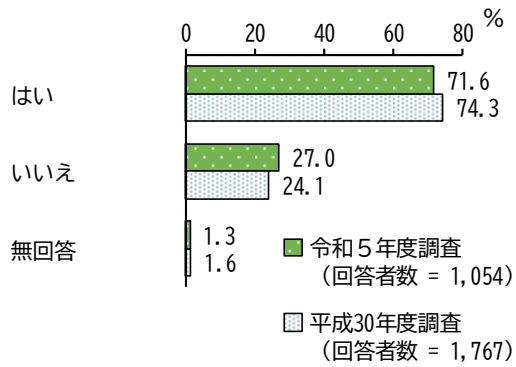


⑧放課後等デイサービスセンター

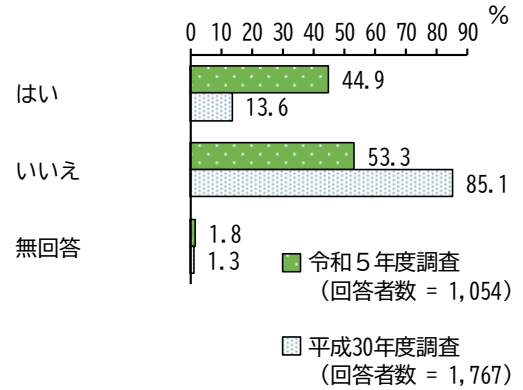


A-2 小学生用

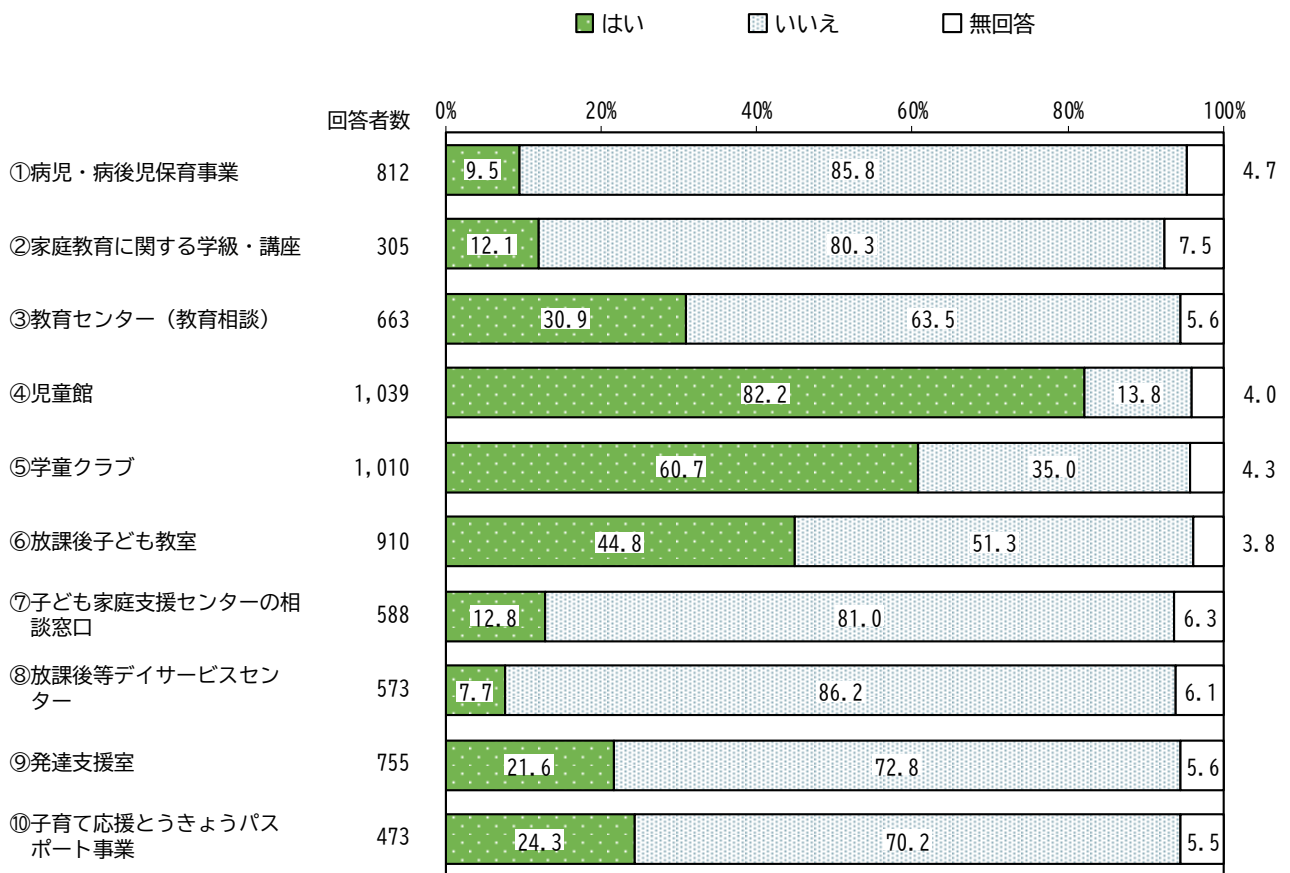
⑨発達支援室



⑩子育て応援とうきょうパスポート事業

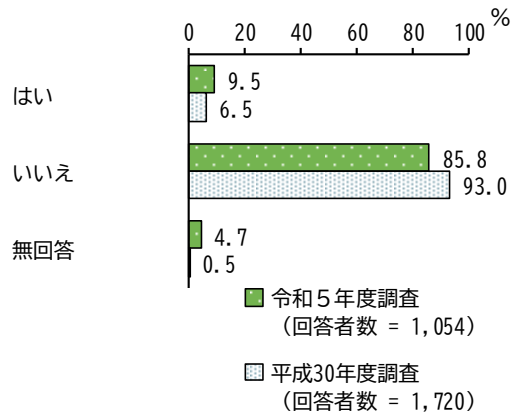


B これまでに利用したことがあるかどうか

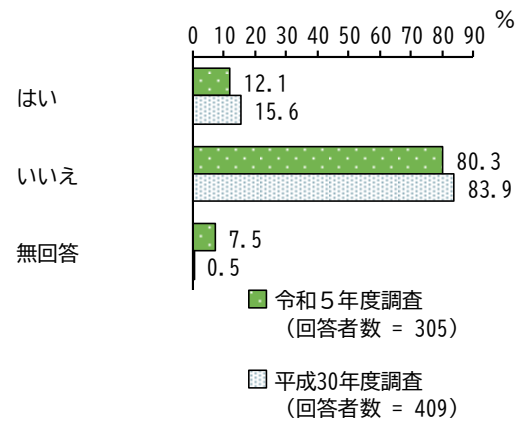


<項目ごとの経年比較>

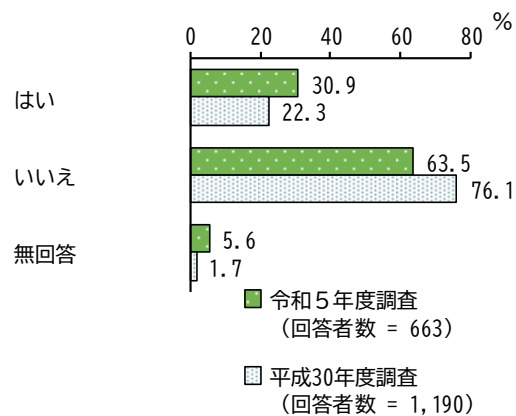
①病児・病後児保育事業



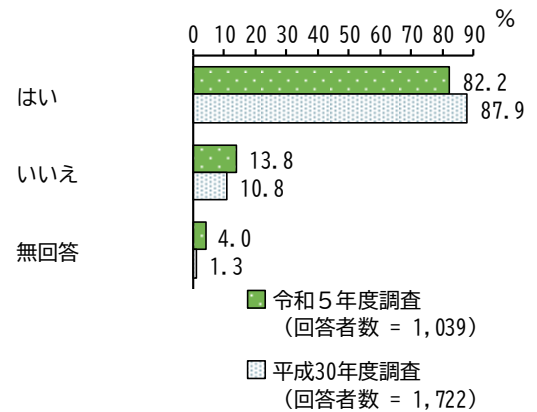
②家庭教育に関する学級・講座



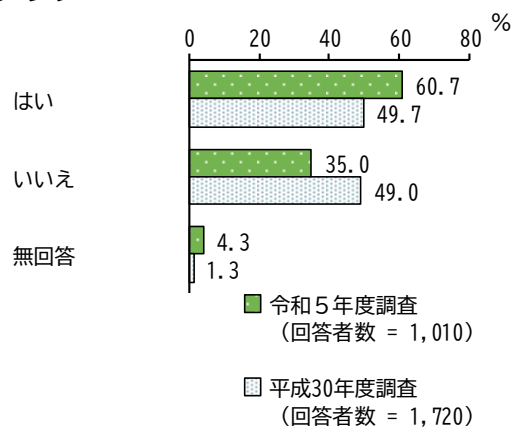
③教育センター（教育相談）



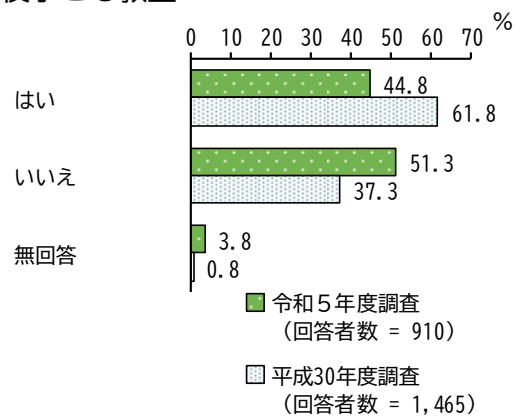
④児童館



⑤学童クラブ

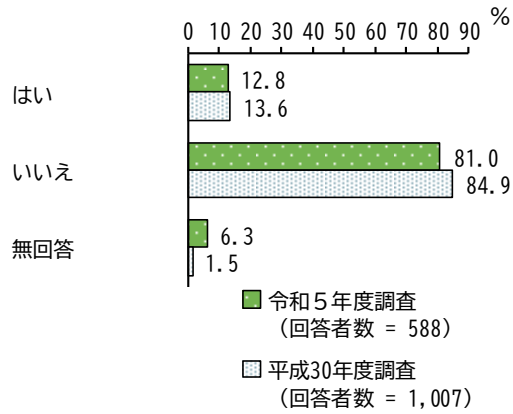


⑥放課後子ども教室

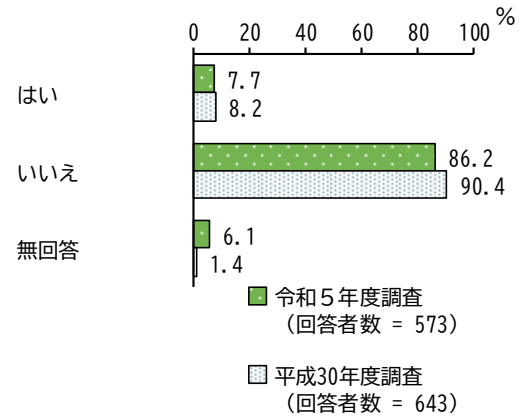


A-2 小学生用

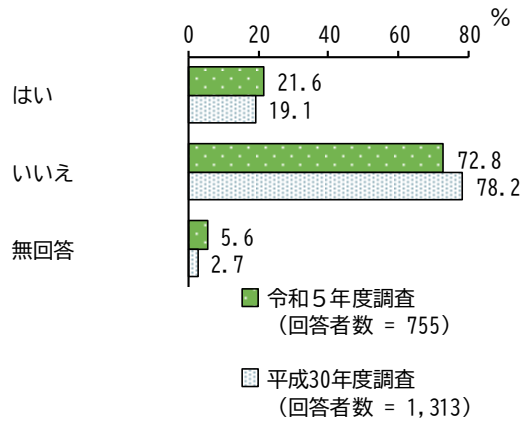
⑦子ども家庭支援センターの相談窓口



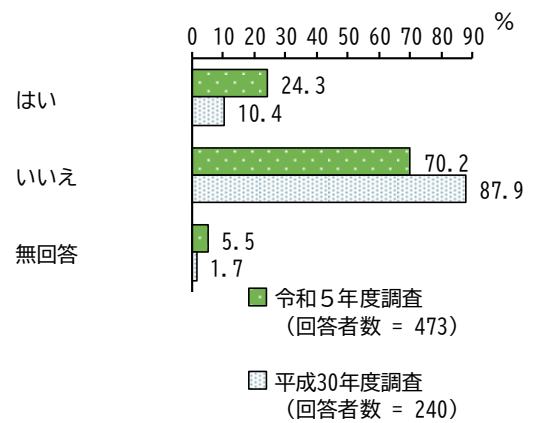
⑧放課後等デイサービスセンター



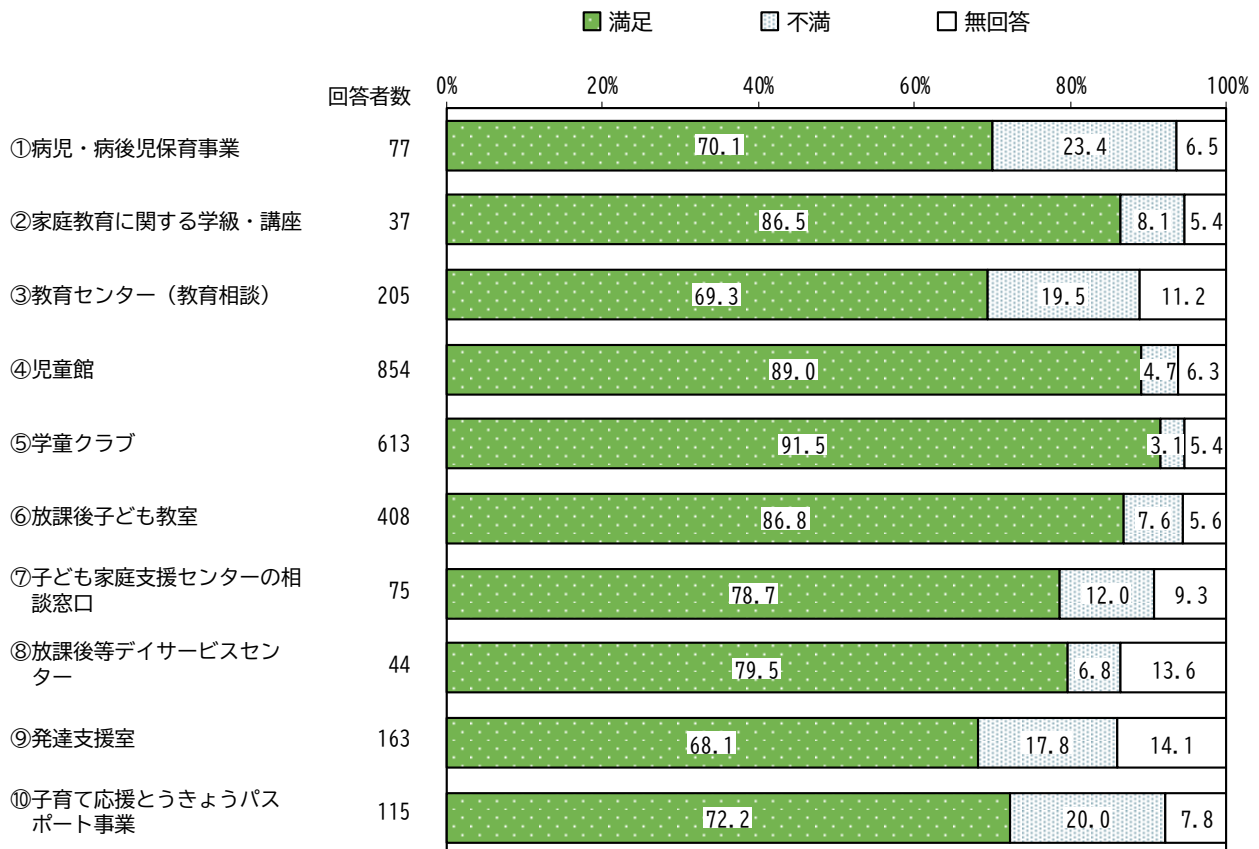
⑨発達支援室



⑩子育て応援とうきょうパスポート事業



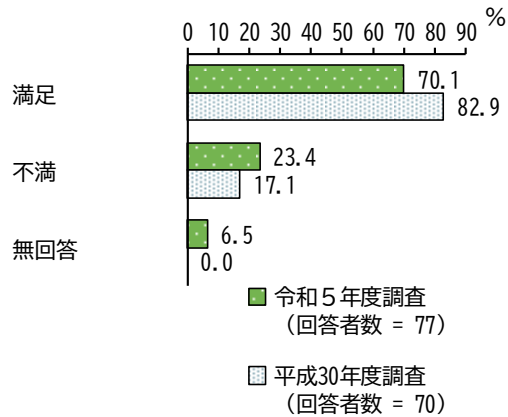
B 満足度



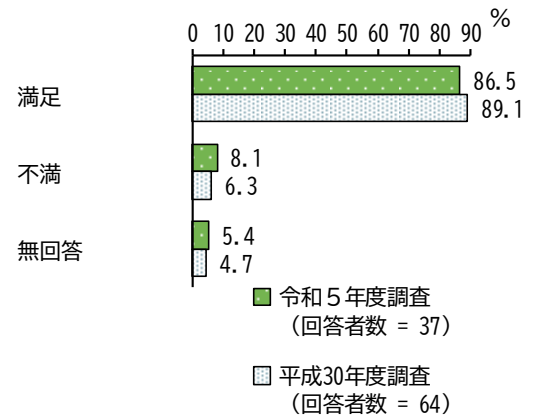
A-2 小学生用

<項目ごとの経年比較>

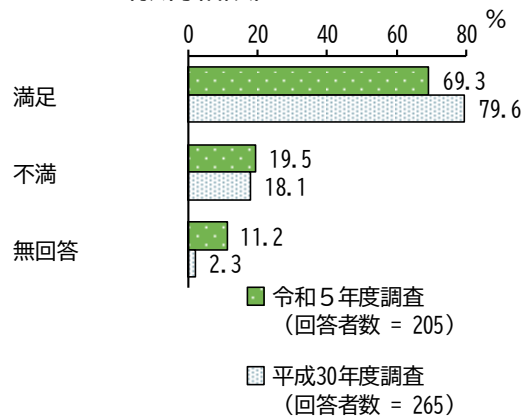
①病児・病後児保育事業



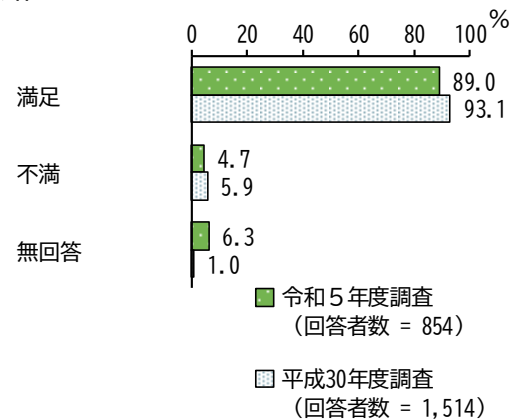
②家庭教育に関する学級・講座



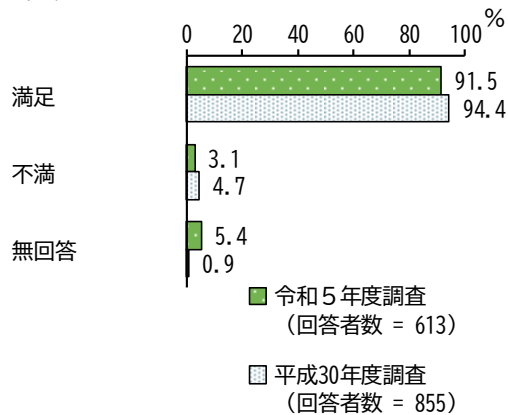
③教育センター（教育相談）



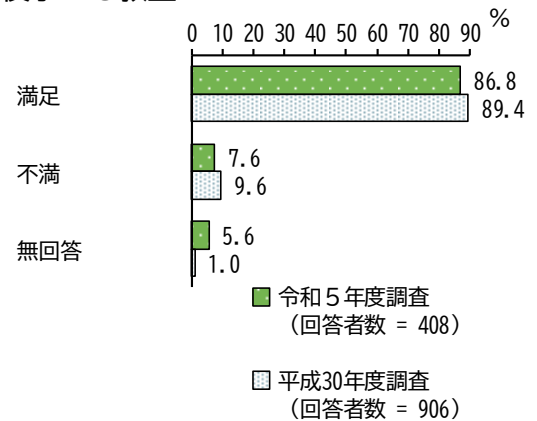
④児童館



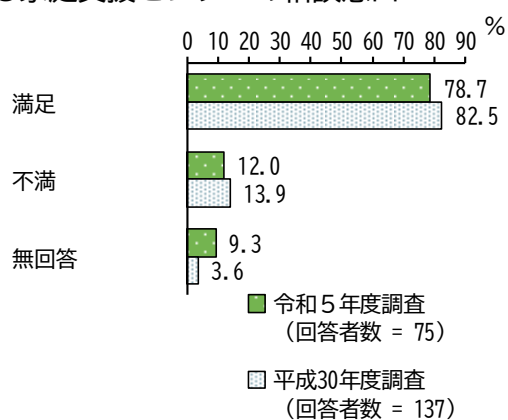
⑤学童クラブ



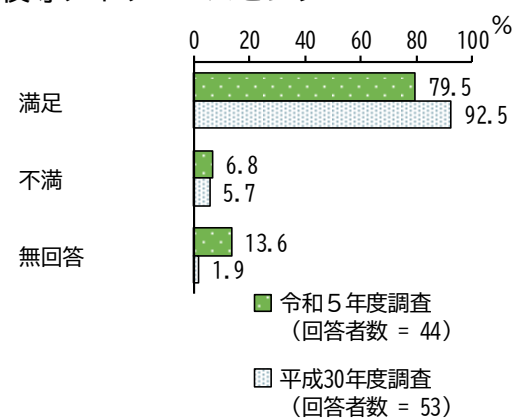
⑥放課後子ども教室



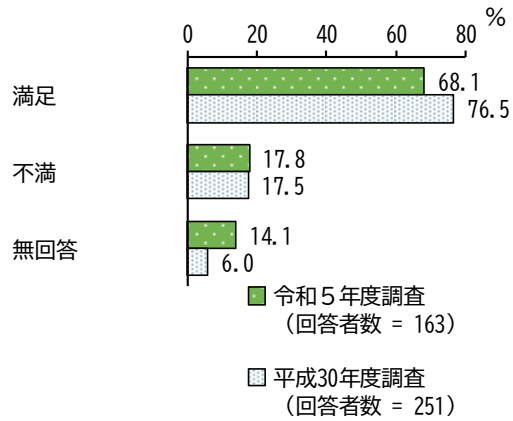
⑦子ども家庭支援センターの相談窓口



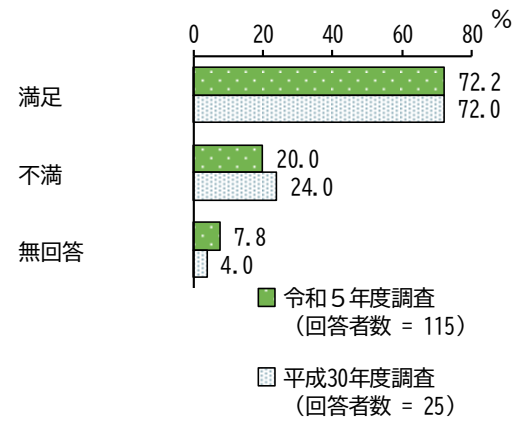
⑧放課後等デイサービスセンター



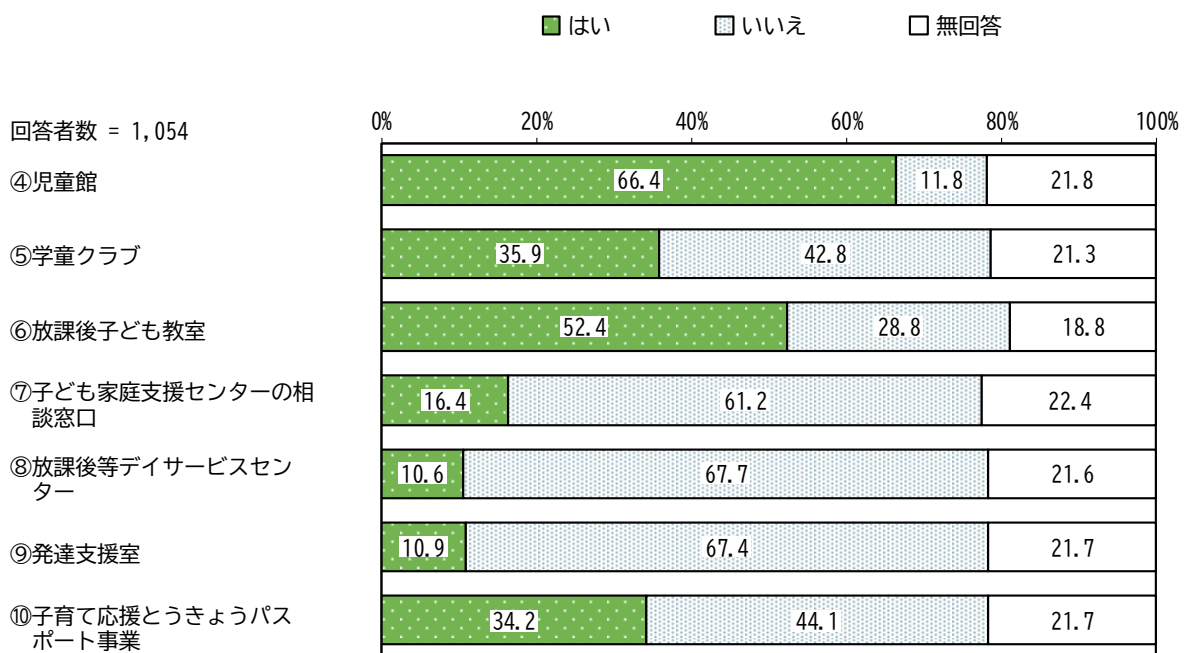
⑨発達支援室



⑩子育て応援とうきょうパスポート事業



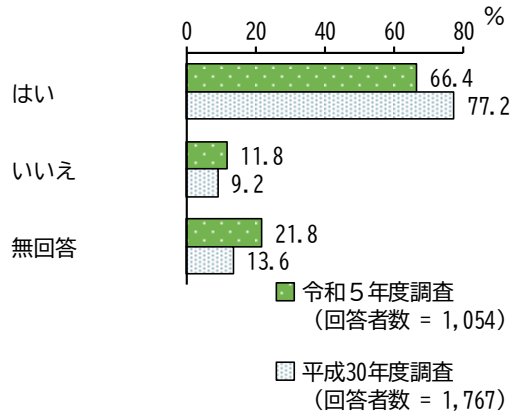
C 今後利用したいかどうか



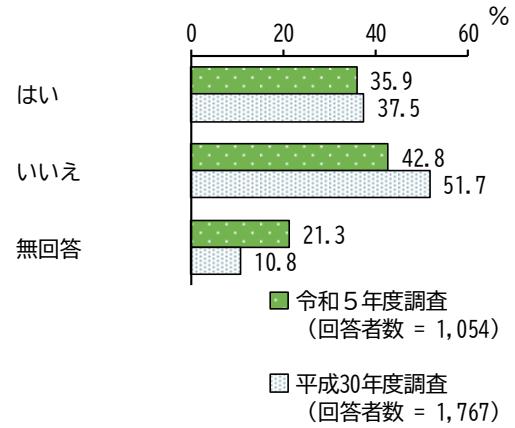
A-2 小学生用

<項目ごとの経年比較>

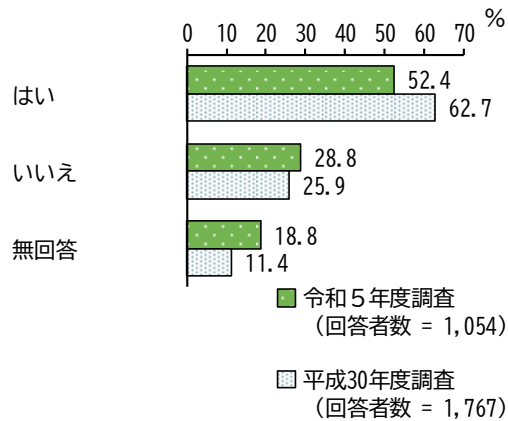
④児童館



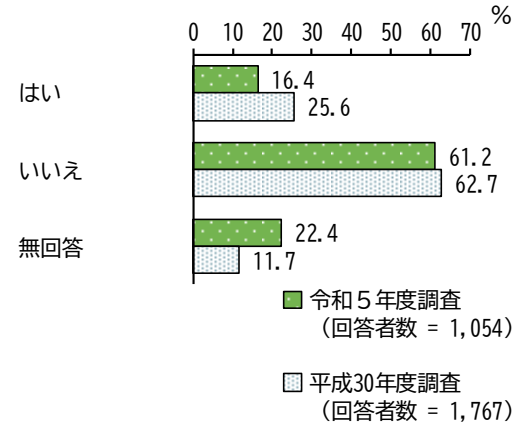
⑤学童クラブ



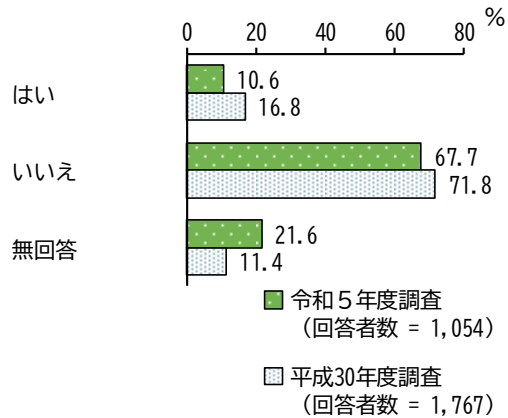
⑥放課後子ども教室



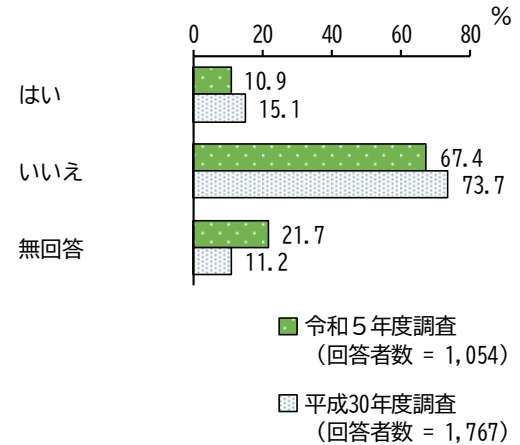
⑦子ども家庭支援センターの相談窓口



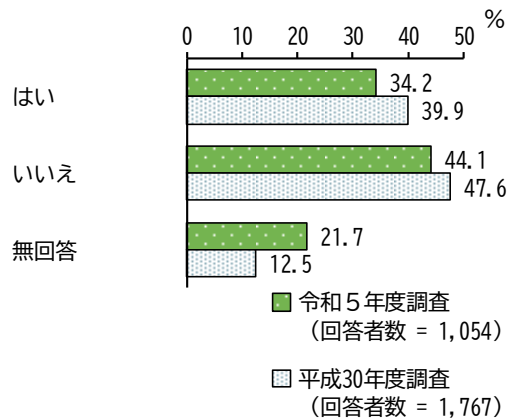
⑧放課後等デイサービスセンター



⑨発達支援室



⑩子育て応援とうきょうパスポート事業

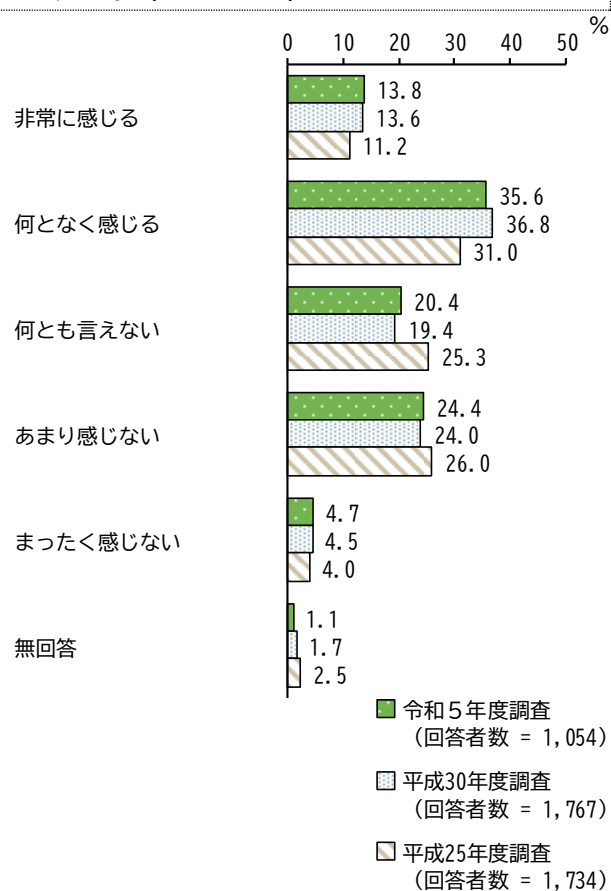


(8) 子育ての悩みや相談相手について

問 14 子育てについて、不安や負担を感じていますか。(○は1つ)

「何となく感じる」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「あまり感じない」の割合が 24.4%、「何とも言えない」の割合が 20.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



【問 14 で「1」、「2」と答えた方におうかがいします】

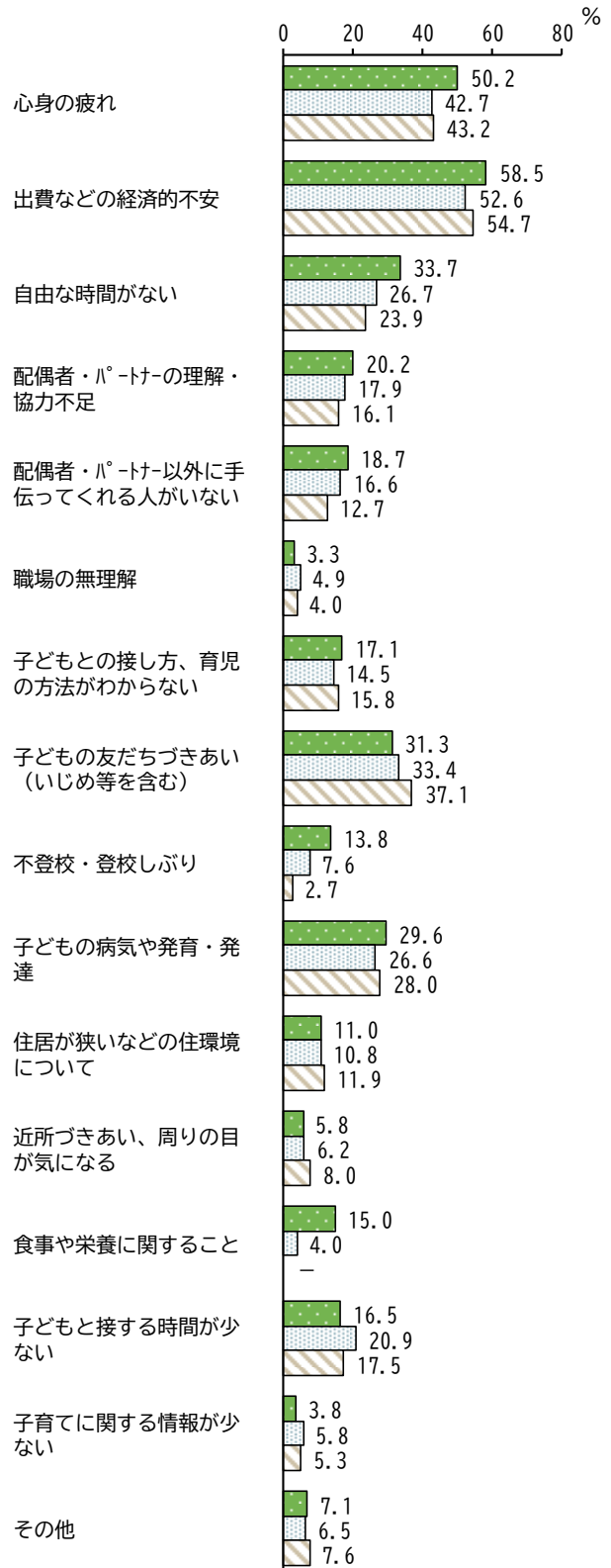
問 14-1 具体的にどのような不安や負担を感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「出費などの経済的不安」の割合が 58.5%と最も高く、次いで「心身の疲れ」の割合が 50.2%、「自由な時間がない」の割合が 33.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「心身の疲れ」「出費などの経済的不安」「自由な時間がない」「不登校・登校しぶり」「食事や栄養に関すること」の割合が増加しています。

主な「その他」意見

- ・学習面・進路での不安 (9件)
- ・人数が多いゆえの負担 (3件)
- ・発達障がいによる不安 (3件)
- ・ひとり親による負担・不安 (3件)
- ・放課後の子どもの居場所 (2件)



■ 令和5年度調査
(回答者数 = 520)

■ 平成30年度調査
(回答者数 = 890)

■ 平成25年度調査
(回答者数 = 733)

※平成 30 年度調査で、「食事や栄養に関すること」の選択肢を追加しています。

問 14-2 子育ての中で次のような経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「しかっているうちに感情がコントロールできなくなったことがある」の割合が 53.1%と最も高く、次いで「子どもが傷つくような言葉を向けたことがある」の割合が 45.8%、「“しつけ”として「叩く」、「怒鳴る」ことをしたことがある」の割合が 34.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「子どもが傷つくような言葉を向けたことがある」「上記のようなことをしそうになったが、がまんした」の割合が減少しています。

しかっているうちに感情がコントロールできなくなったことがある

わざと子どもを無視したり、世話をしなかったことがある

子どもに傷やあざができるほど、たたくようなことをしたことがある

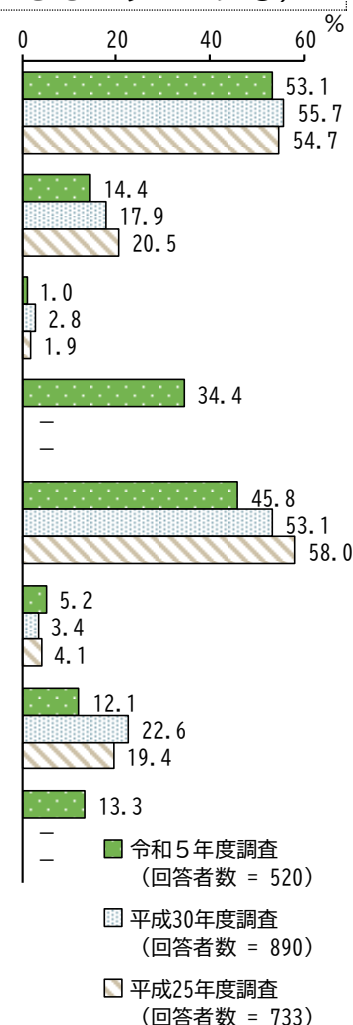
“しつけ”として「叩く」、「怒鳴る」ことをしたことがある

子どもが傷つくような言葉を向けたことがある

その他、子どもに対して不適切なことをしたことがある

上記のようなことをしそうになったが、がまんした

上記のようなことはなかった



※令和5年度調査で、「しつけ」として「叩く」、「怒鳴る」ことをしたことがある」「上記のようなことはなかった」の選択肢を追加しています。

問 15 調査票を持ち帰ったお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人、または相談できる場所がありますか。(○は1つ)

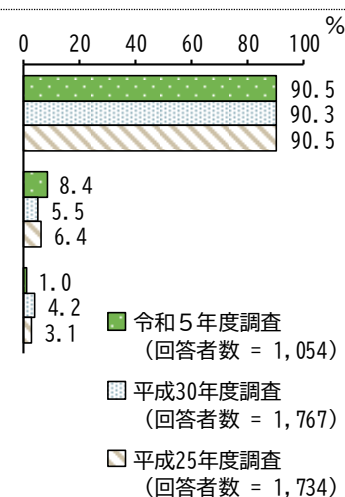
「いる／ある」の割合が 90.5%、「いない／ない」の割合が 8.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。

いる／ある

いない／ない

無回答



【問 15 で「1. いる／ある」と答えた方にお伺いします】

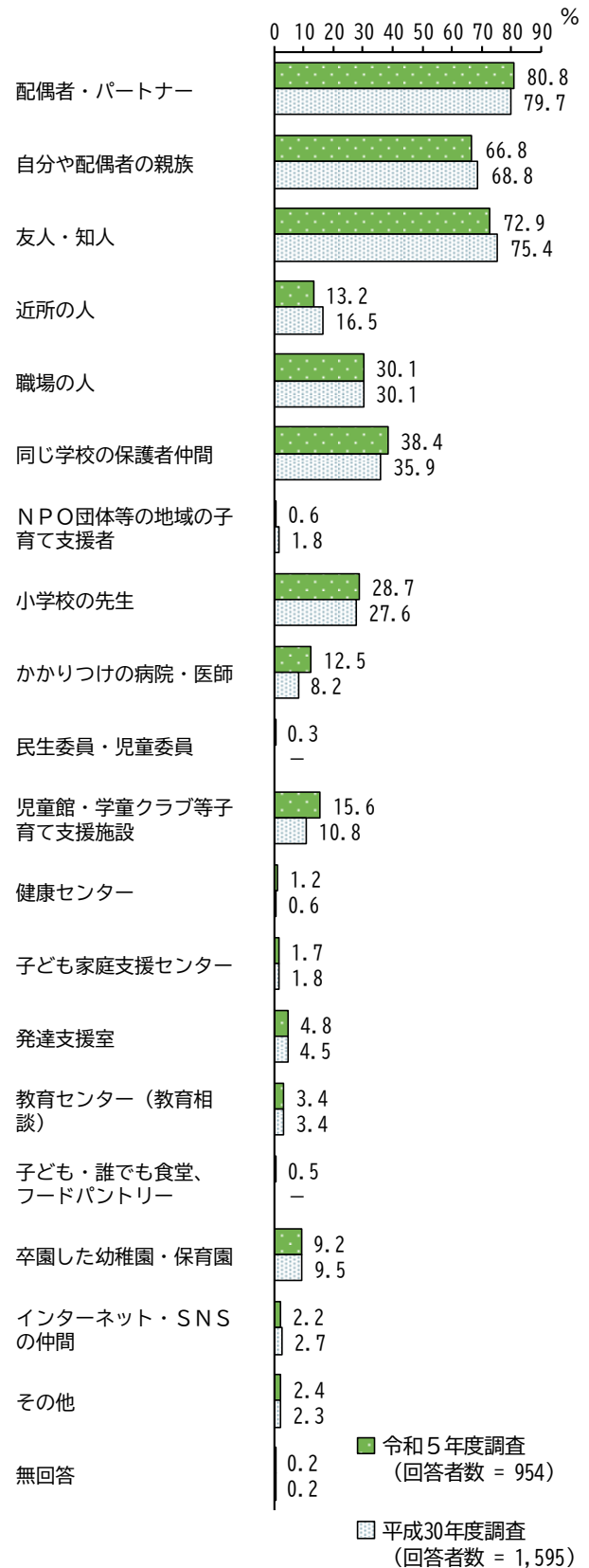
問 15-1 調査票を持ち帰ったお子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は誰（どこ）ですか。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者・パートナー」の割合が 80.8%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 72.9%、「自分や配偶者の親族」の割合が 66.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「かかりつけの病院・医師」「児童館・学童クラブ等子育て支援施設」の割合が若干増加し、「友人・知人」「近所の人」の割合が若干減少しました。

主な「その他」意見

- ・スクールカウンセラー （5件）
- ・習い事の先生 （4件）
- ・児童相談所 （2件）
- ・療育センター （2件）



※令和5年度調査で、「民生委員・児童委員」「子ども・誰でも食堂、フードパントリー」の選択肢を追加しています。

(9) お子さんの発達について

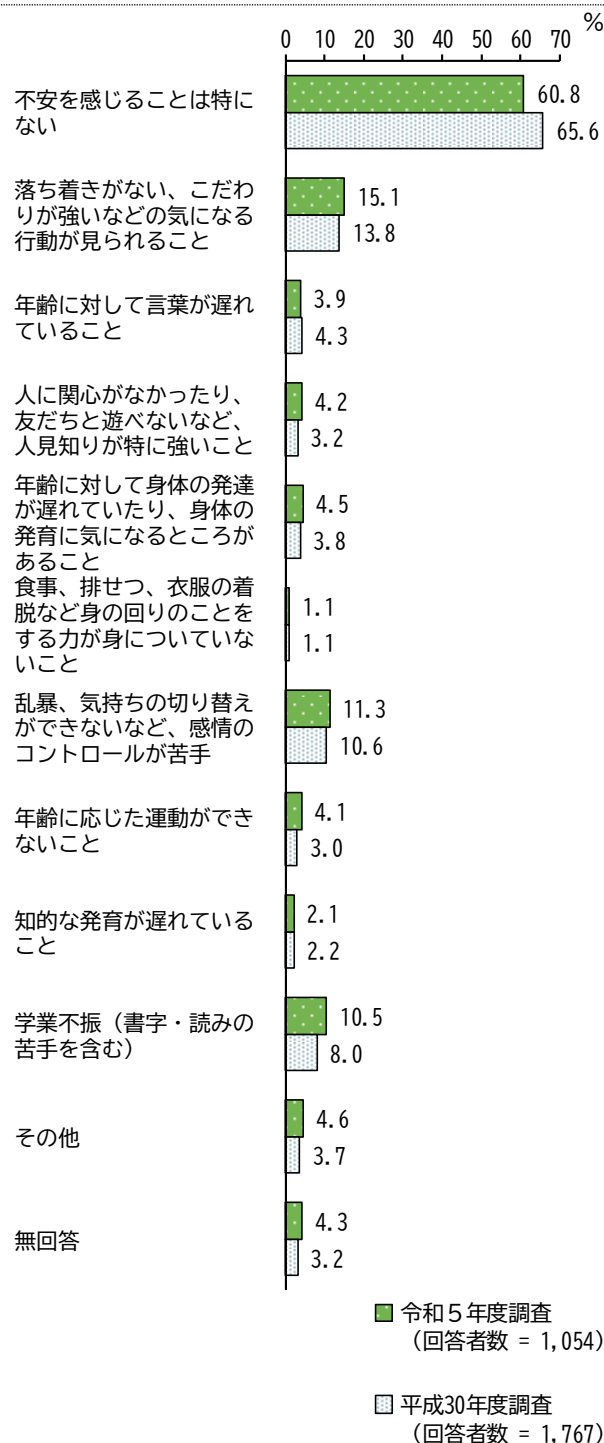
問 16 あなたは、お子さんの発達に不安を感じたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「不安を感じることは特にない」の割合が60.8%と最も高く、次いで「落ち着きがない、こだわりが強いなどの気になる行動が見られること」の割合が15.1%、「乱暴、気持ちの切り替えができないなど、感情のコントロールが苦手」の割合が11.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「不安を感じることは特にない」が若干減少しています。

主な「その他」意見

- ・コミュニケーション能力 (7件)
- ・忘れ物など不注意が多い (6件)
- ・チック症状 (4件)
- ・夜尿症 (4件)



【問 16 で「2. 落ち着きがない、こだわりが強いなどの気になる行動が見られること」から「11. その他」のいずれかに○をつけた方にお伺いします】

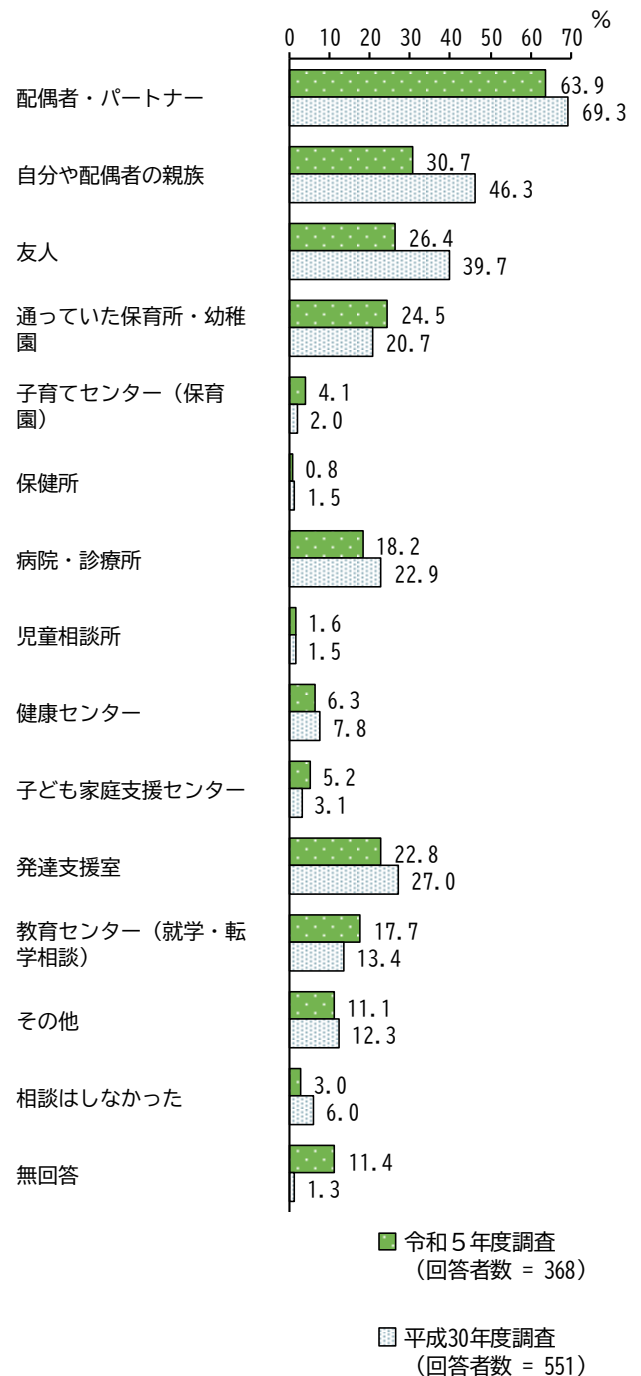
問 16-1 あなたがお子さんの発達に不安を感じたとき、誰（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者・パートナー」の割合が 63.9%と最も高く、次いで「自分や配偶者の親族」の割合が 30.7%、「友人」の割合が 26.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「配偶者・パートナー」「自分や配偶者の親族」「友人」の割合が減少し、「通っていた保育所・幼稚園」「教育センター（就学・転学相談）」の割合が若干増加しています。

主な「その他」意見

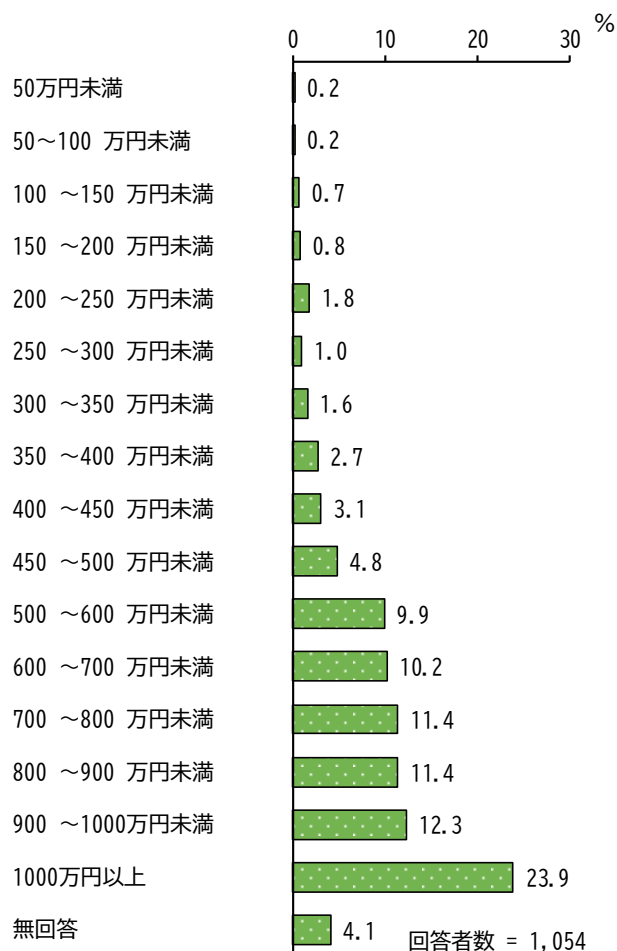
- ・学校、学校の先生 （20 件）
- ・療育センター （12 件）
- ・スクールカウンセラー （3 件）
- ・学童・学童の先生 （2 件）



(10) あなたの暮らし向きについて

問 17 昨年（令和4年1～12月）1年間の、あなたの世帯（生計を共にする家族の収入も含みます）のおよその総収入（養育費や手当等すべての収入を含みます）を教えてください。（○は1つ）

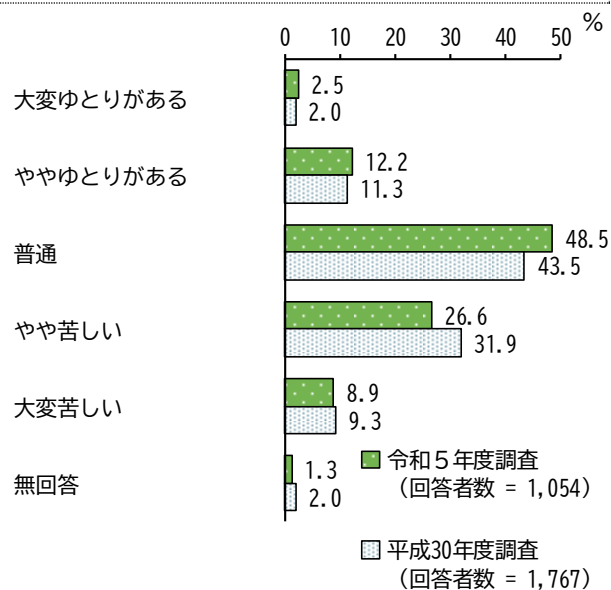
「1000 万円以上」の割合が 23.9%と最も高く、次いで「900～1000 万円未満」の割合が 12.3%、「700～800 万円未満」、「800～900 万円未満」の割合が 11.4%となっています。



問 18 現在の経済的な状況を総合的にみて、どう感じていますか。（○は1つ）

「普通」の割合が 48.5%と最も高く、次いで「やや苦しい」の割合が 26.6%、「ややゆとりがある」の割合が 12.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「普通」の割合が増加しています。一方、「やや苦しい」の割合が減少しています。



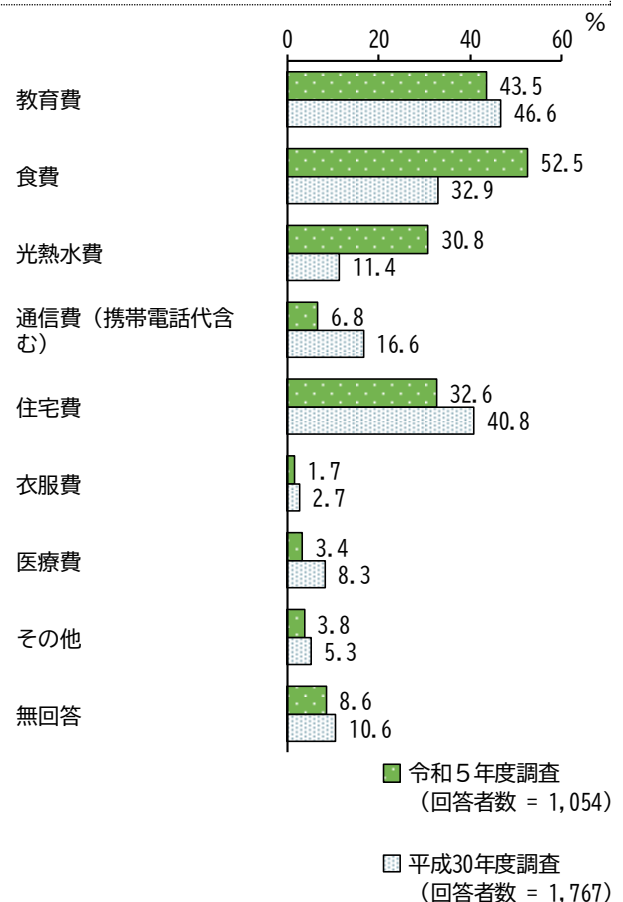
問 19 生活の中で負担に感じる費用はありますか。上位2つをお選びください。
(○は2つ)

「食費」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「教育費」の割合が 43.5%、「住宅費」の割合が 32.6%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「食費」「光熱水費」の割合が増加しています。一方、「通信費（携帯電話代含む）」「住宅費」の割合が減少しています。

主な「その他」意見

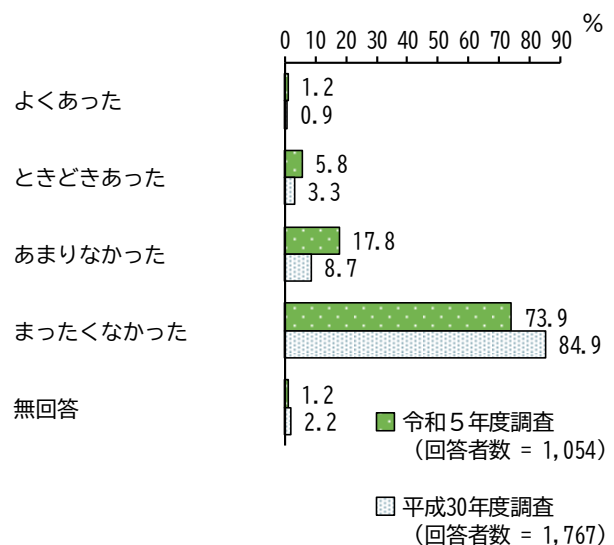
- ・税金 (11 件)
- ・保険料 (6 件)
- ・習い事 (5 件)
- ・貯蓄 (5 件)
- ・親への支援 (3 件)



問 20 あなたのご家庭では、過去1年間の間にお金が足りずに、家族が必要とする食料や衣類を買えないことなどがありましたか。(それぞれ○を1つ)

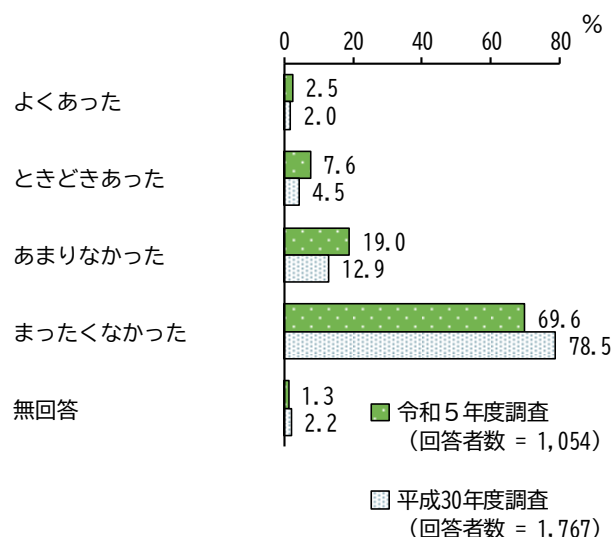
【ア. 食料】

「まったくなかった」の割合が 73.9%と最も高く、次いで「あまりなかった」の割合が 17.8%となっています。



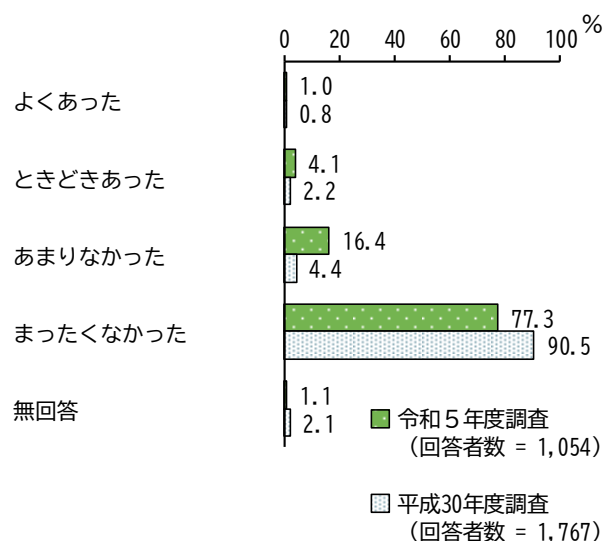
【イ. 衣類】

「まったくなかった」の割合が 69.6%と最も高く、次いで「あまりなかった」の割合が 19.0%となっています。



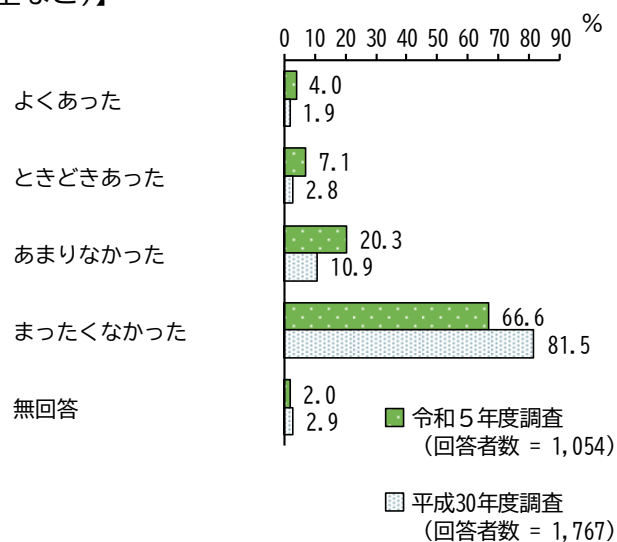
【ウ. 光熱水費】

「まったくなかった」の割合が 77.3%と最も高く、次いで「あまりなかった」の割合が 16.4%となっています。



【エ. 習い事 (学習塾、サッカー、水泳、英会話教室など)】

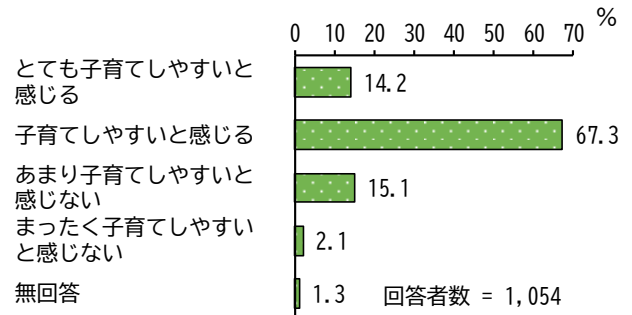
「まったくなかった」の割合が 66.6%と最も高く、次いで「あまりなかった」の割合が 20.3%となっています。



(11) 多摩市での子育てについて

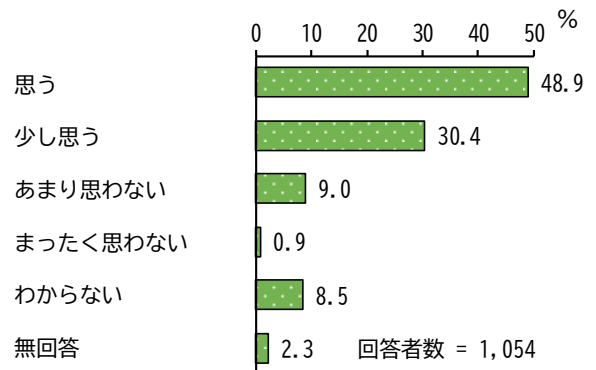
問 21 あなたは、多摩市で子育てをしていて、子育てをしやすいまちだと感じますか。
(○は1つ)

「子育てしやすいと感じる」の割合が 67.3%と最も高く、次いで「あまり子育てしやすいと感じない」の割合が 15.1%、「とても子育てしやすいと感じる」の割合が 14.2%となっています。



問 22 あなたは将来、多摩市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

「思う」の割合が 48.9%と最も高く、次いで「少し思う」の割合が 30.4%となっています。

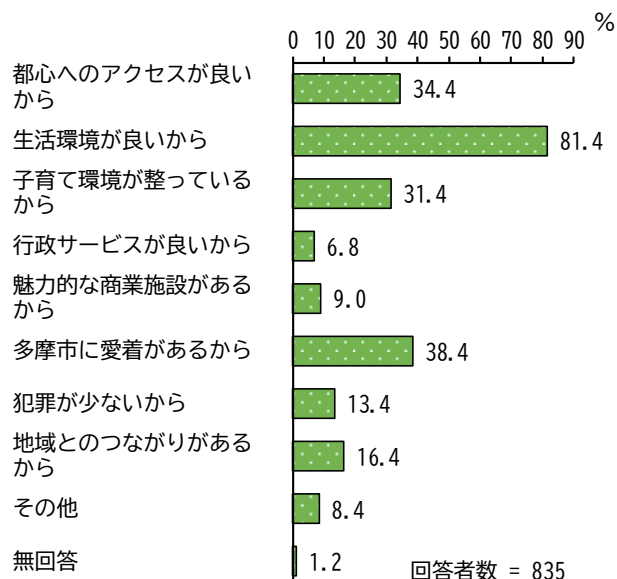


問 22-1 多摩市に住み続けたい理由（あてはまるものすべてに○）

「生活環境が良いから」の割合が 81.4%と最も高く、次いで「多摩市に愛着があるから」の割合が 38.4%、「都心へのアクセスが良いから」の割合が 34.4%となっています。

主な「その他」意見

- ・家があるから （15 件）
- ・親族が近くに住んでいるから （11 件）
- ・自然や公園が多いから （11 件）
- ・子どもの頃から住んでいるから （6 件）
- ・職場に近いから、通いやすいから （5 件）

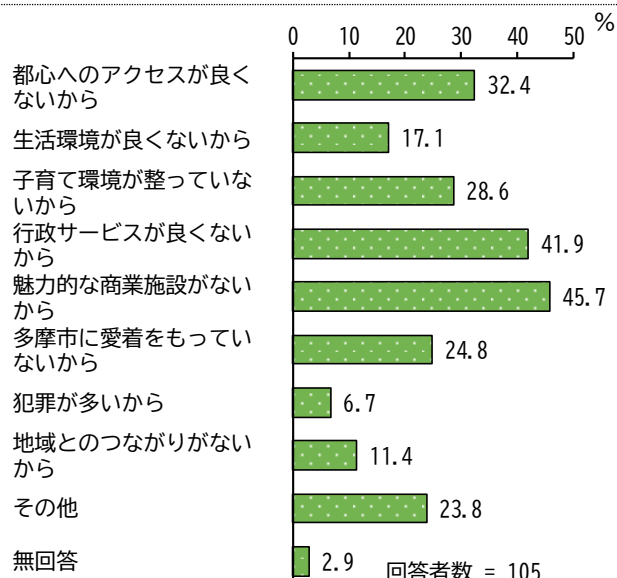


問 22-2 多摩市に住み続けたいと思わない理由（あてはまるものすべてに○）

「魅力的な商業施設がないから」の割合が 45.7%と最も高く、次いで「行政サービスが良くないから」の割合が 41.9%、「都心へのアクセスが良くないから」の割合が 32.4%となっています。

主な「その他」意見

- ・地元に戻りたいから （6 件）
- ・坂が多いから （5 件）



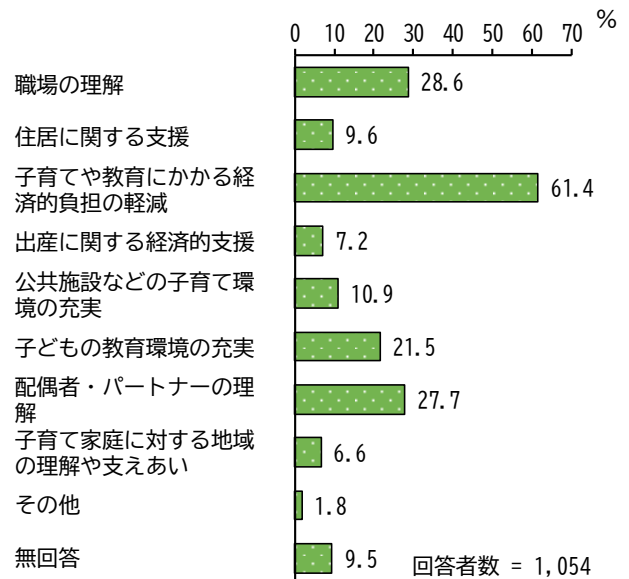
(12) 地域や社会、家庭内で望む子育て支援について

問 23 あなたが、子どもを持ちたい、育てたいと思えるようになるための必要な条件はどのようなことだと思いますか。特にあてはまるものを2つ選んでください。
(○は2つ)

「子育てや教育にかかる経済的負担の軽減」の割合が61.4%と最も高く、次いで「職場の理解」の割合が28.6%、「配偶者・パートナーの理解」の割合が27.7%となっています。

主な「その他」意見

- ・ 保育園、学童の整備 (2件)
- ・ 充分なお金と広い家 (2件)



問 24 安心して子どもを生み育て、子どもが健やかに育つことができる環境を整えるために、行政や地域などに対するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

※（ ）は意見数

項目	主な意見（要約）
1. 公園／子どもの遊び場について (18)	・虫や防犯面で安心して公園で遊ばせられないです。 ・公園に新しい遊具がほしいです。 ・魅力的な公園の遊具やボルダリング、パルクールが出来る広場がほしい。 ・夜は真っ暗になってしまいます。 ・公園やプレーパークなどほっと話せる親以外の大人が居る場所があると良いと思います。 ・安全なあそび場や参加できるイベントなどがあるといいと思います。 ・子どもにやさしい公園がほしい。 ・自由に安全に遊べて、集まれる公園が近くにあればいいと思います。 ・子どもが遊べる遊具を増やしてほしい。 ・子どもが安心して遊べる場所が沢山ほしいです。
2. 防犯／安全対策／交通対策について (15)	・通学路にスズメバチが出て危険なので対策をしてほしい。 ・不審者による声かけが多く、子どもを守る為にも公園に防犯カメラを拡充してほしい。 ・暗い歩道が多い。 ・不審者対策。子どもが1人で乗れるようにバス停に工夫があるとうれしいです。 ・街灯が少ないです。 ・通学路に車の通りが多く危険な場所が多いです。 ・小学生に無償で全生徒GPSをつけるなど、防犯対策をしてほしい。 ・自転車で移動するのに歩行者と共存できる歩道になってほしい。
3. 行政サービスの情報発信／窓口の対応等について (6)	・幼児・児童期以降の経済的負担が軽減されるような政策や情報提供を積極的に行ってほしい。 ・こちらから働きかけないと必要な情報提供をしてもらえず「今から必要になる情報は、これです」と、リストアップした書面・冊子などがあると良かった。 ・家庭やその人により抱える問題が違うので、それぞれが欲しい情報を取得しやすくしてほしいです。 ・給食費無償化について、広報に詳しく出してほしいです。 ・支援制度があっても、利用する為のとても面倒な申請のステップや、問い合わせ先が電話のみで、webやEメールでの問い合わせに対応しておらず、不便だと感じています。

項目	主な意見（要約）
4. 学童クラブ／児童館／放課後子ども教室／放課後の遊び場・学びの場について (29)	・夏休み中に子どもを学童に預けているが、8月のみの一時預かりではなく、7月の終業日から8月までの間も学童での預かりを希望します。 ・児童館や市の施設で行われる人気の講座やイベントに応募するが、抽選や先着順で参加できないことが多く、参加しやすいような工夫をしてほしいです。 ・学童に通う子どもだけでなく、放課後に集まれる場所や児童施設が増えてほしい。 ・子どもが学童を嫌がり、留守番も不安なため、大人の目が届く範囲での集団生活の場がほしいです。 ・子ども食堂やボランティアの塾などの支援が欠如している地域もあり、一人親の家庭や子どもが増える地域に対する支援がほしいです。 ・子どもが学童や児童館に行きたがらない課題があり、子どもが行きたいと思う環境の整備をしてほしいです。 ・学童無償化や放課後子ども教室の充実、日曜祝日の施設利用など、サポートの拡充をしてほしいです。 ・学童クラブの対応不足や子どもだけで過ごせる居場所の拡充、学童の希望通りの利用など、施設運営の改善や柔軟な対応をしてほしいです。
5. 経済的負担／助成について (30)	・給食費の負担をなくし、住んでいる場所に関係なく均等に支援してほしいです。 ・所得制限のない児童手当や学費全額免除など、経済的負担の軽減を希望します。 ・大学までの教育費の無償化や奨学金制度の充実など、教育費の負担を減らしてほしい。 ・妊娠や出産にかかる費用の高騰に対するサポートの充実を要望します。 ・子育て世帯への経済的援助や給食費無償化など、経済的支援の強化を希望します。 ・交通費の助成や就学支援金の増額、助成制度の拡充を要望します。 ・一律の子育て補助金の提供や、収入や家庭の状況に関係なく均等な支援を希望します。 ・シングルマザーへの金銭支援や、収入や家庭状況に応じた支援策の検討を要望します。
6. 保育園／一時預かり／病児保育について (8)	・保育園や保育サービスの素晴らしい支援に感謝します。ぜひ継続してほしいです。 ・子育て中の母親が就労しなくても保育園の利用できるようにしてほしい。 ・保育園の先生やスタッフへの適切な給与水準や、働きやすい環境を整えてほしい。 ・保育園や学童に入所する際の家庭環境や働き方の柔軟な対応を求めます。 ・子どもの預け先に関する費用体系について、兄弟の人数や年齢に応じた公平な制度にしてもらいたい。

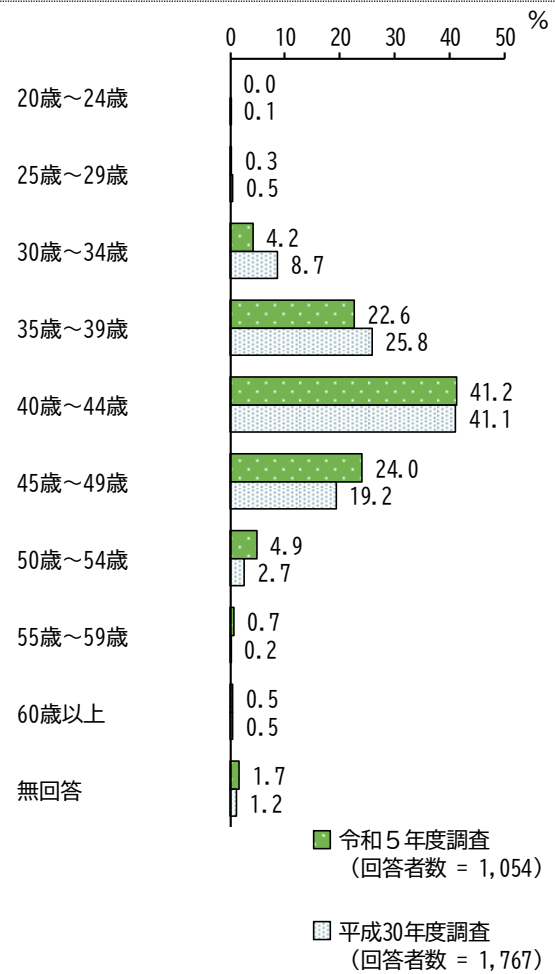
※ () は意見数

項目	主な意見（要約）
7. 障がい児への支援や配慮について (3)	・子どもの成長や学校生活に関する情報を一元管理し、利用者が手間をかけずに利用できるようにしてほしい。 ・子どもに発達障がいがあるが、手続きや支援制度に関する情報を探しづらい。また、支援学校や放課後等デイケアなどのサービスを拡充してほしい。 ・発達支援室の立地を改善し、子育て支援にはタクシー券や家事代行チケットなどの支援をしてほしいです。
8. 地域での子育てについて (9)	・児童館や地域の支援が子育てを支える素晴らしい環境があるが、孤立や不安を感じる人がいなくなるような政策が必要だと思います。 ・子どもの社会経験や地域交流を促進する取り組みをしてほしい。例えば、地域のお店での手伝いなどの体験はどうか。 ・多摩市の子育て環境について、広報や学童・児童館のサービスに地域差があることが課題ではないか。・習い事の地域格差、子育てに関する無理解や苦情が不満です。より地域の人との交流や子育てへの理解が進んでほしい。
9. 市の子育て支援全体について (10)	・子どもを産みたいと思える支援をしてほしい。子どもの年齢に関係なく子育て支援や保育料の無償化をしてほしいです。 ・就労支援サービスの充実や多子世帯への支援をしてほしい。また、子育てと仕事の両立がしやすい環境の整備が進んでほしい。 ・子育て支援のニーズに応じた支援や世帯年収に関係ない支援をしてほしい。 ・子どもの預け先や保育サービスの確保が仕事と子育ての両立に直結するため、預け先の確保や子育て支援の充実が必要だと感じる。
10. その他 (50)	・学校の給食について、仕切りのあるワンプレートや質の高いメニュー、温かい食事を希望します。 ・学校の教師の増員や子どもの年齢に応じた支援の充実を行ってほしい。 ・子どもの保育や教育に関する施策の拡充や、職業体験の機会を増やしてほしい。

(13) 回答いただいているあなたの状況について

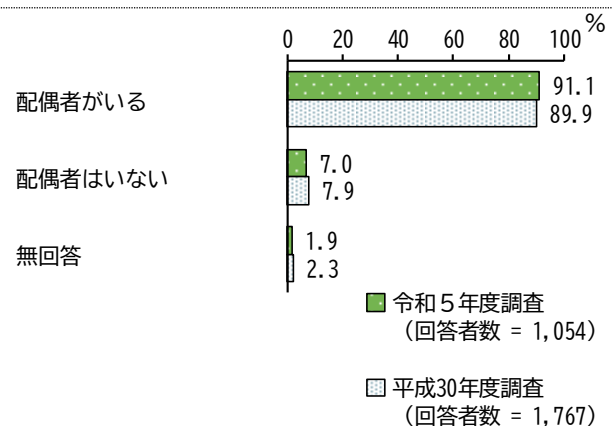
問 25 ご回答いただいているあなたの現在の年齢をお答えください。(○は1つ)

「40歳～44歳」の割合が41.2%と最も高く、
次いで「45歳～49歳」の割合が24.0%、「35歳
～39歳」の割合が22.6%となっています。



問 26 ご回答いただいているあなたの配偶関係についてお答えください。(○は1つ)

「配偶者がいる」の割合が91.1%、「配偶者
はいない」の割合が7.0%となっています。

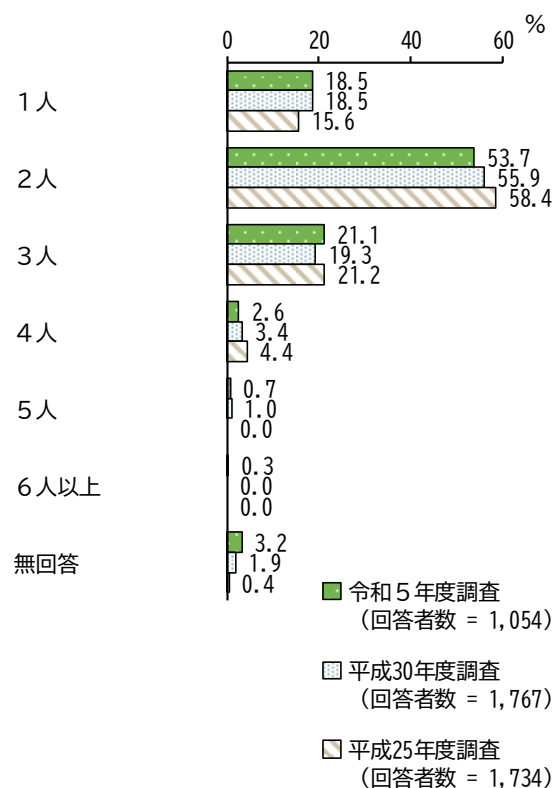


問 27 お子さんは何人いらっしゃいますか。調査票を持ち帰ったお子さんを含めた人数を四角枠の中に数字でご記入ください。お2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、年少の方の生年月月をご記入ください。
※「平成」、「令和」の該当する方へ○をお願いします。

<子どもの人数>

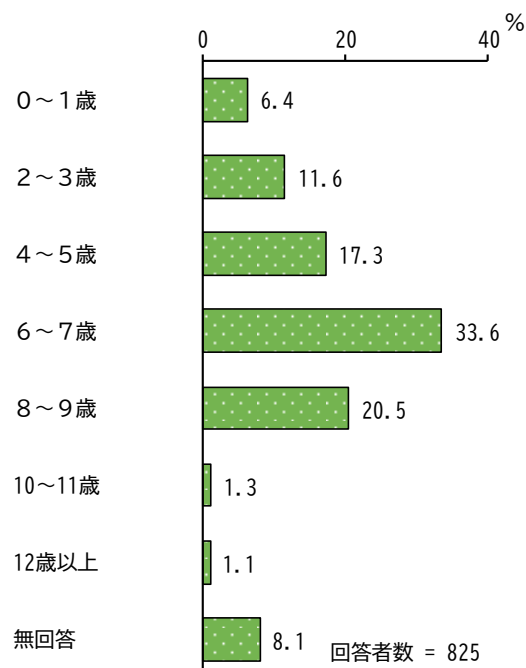
「2人」の割合が53.7%と最も高く、次いで「3人」の割合が21.1%、「1人」の割合が18.5%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



<未子の年齢>

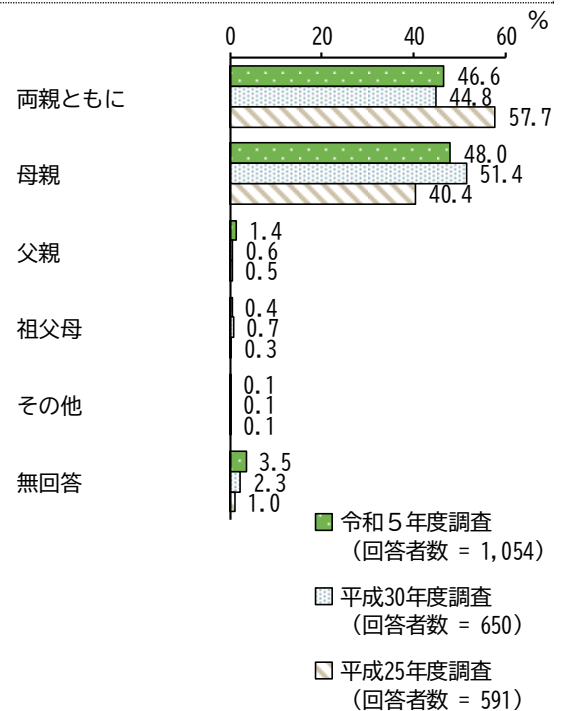
「6～7歳」の割合が33.6%と最も高く、次いで「8～9歳」の割合が20.5%、「4～5歳」の割合が17.3%となっています。



問 28 調査票を持ち帰ったお子さんの子育てを主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。(○は1つ)

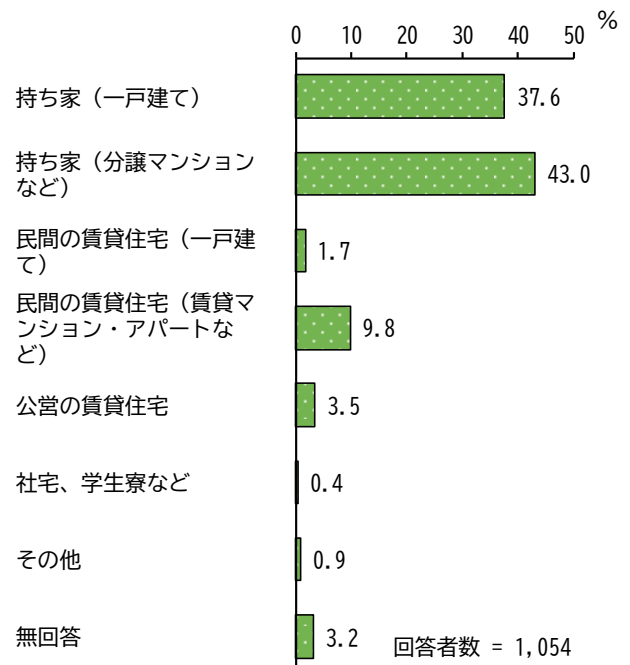
「母親」の割合が48.0%と最も高く、次いで「両親ともに」の割合が46.6%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。

主な「その他」意見
・兄妹 (2件)

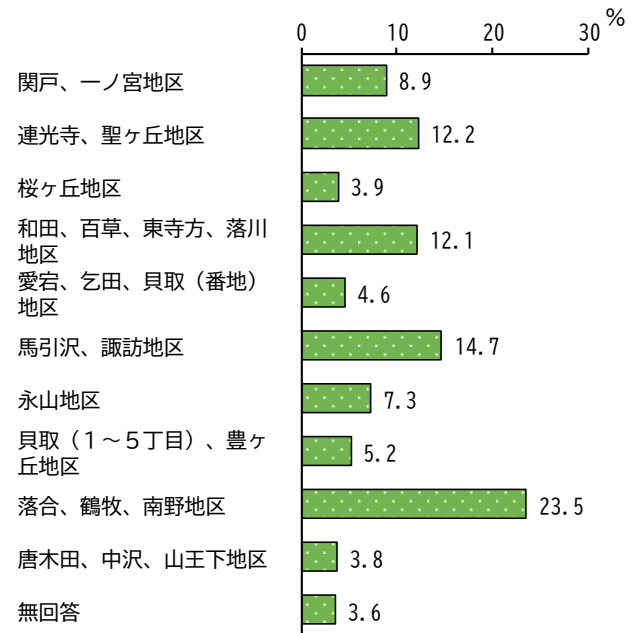


問 29 現在、あなたのお住まいの形態を教えてください。(○は1つ)

「持ち家（分譲マンションなど）」の割合が43.0%と最も高く、次いで「持ち家（一戸建て）」の割合が37.6%となっています。



問 30 お住まいの地区はどちらですか。(○は1つ)



回答者数 = 1,054

3 多摩市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（中高生世代用）【A-3】

(1) あなたの日頃の行動について

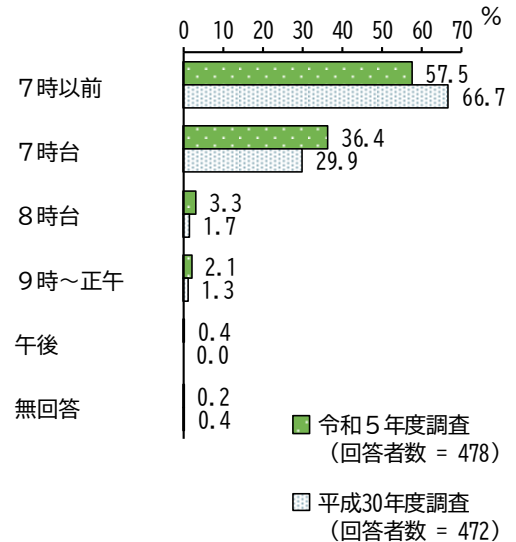
問1 あなたは、いつも何時頃に起床、就寝しますか。平日、休日についてそれぞれお答えください。(○はそれぞれ1つ)

<起床時間>

A. 平日

「7時以前」の割合が57.5%と最も高く、次いで「7時台」の割合が36.4%となっています。

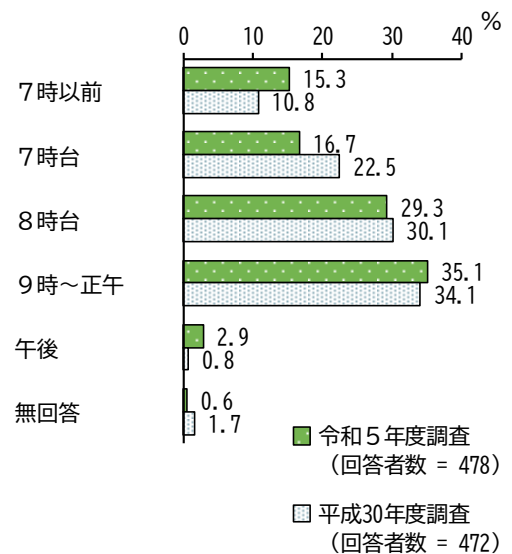
平成30年度調査と比較すると「7時以前」が減少し、「7時台」に起床する割合が増加しています。「8時台」「9時～正午」に起床する割合も若干増加し、起床する時間が遅くなっている傾向がみられます。



B. 休日

「9時～正午」の割合が35.1%と最も高く、次いで「8時台」の割合が29.3%、「7時台」の割合が16.7%となっています。

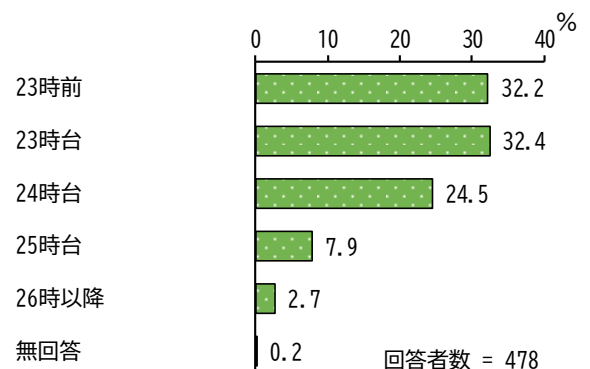
平成30年度調査と同様に「8時台」「9時～正午」に起床する割合が多い傾向にあります。



<就寝時間>

C. 平日

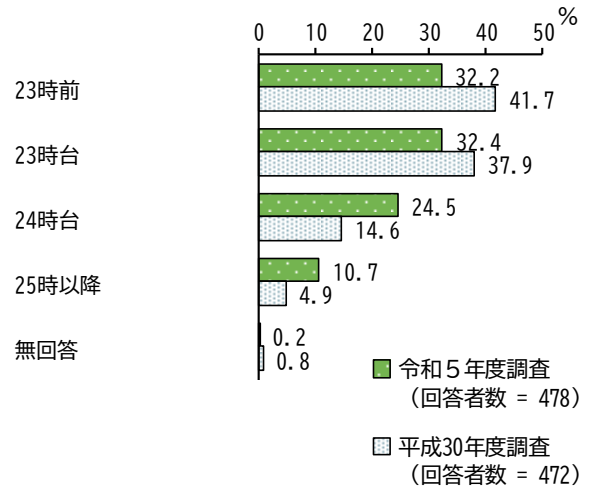
「23時台」の割合が32.4%と最も高く、次いで「23時前」の割合が32.2%、「24時台」の割合が24.5%となっています。



<経年比較>

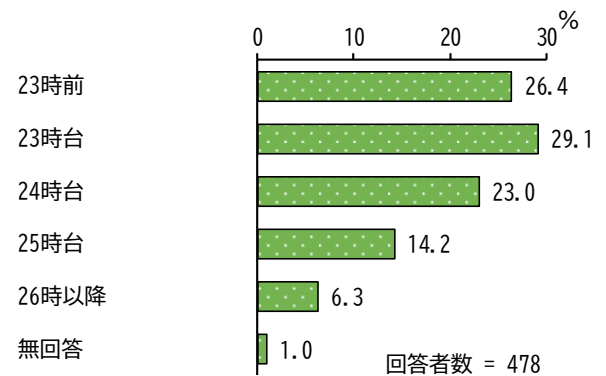
平成 30 年度調査と比較すると、24 時以降の割合が増加しています。一方、24 時より前の割合が減少しています。

※平成 30 年度調査では、「25 時以降」の選択肢でした。



D. 休日（休日前）

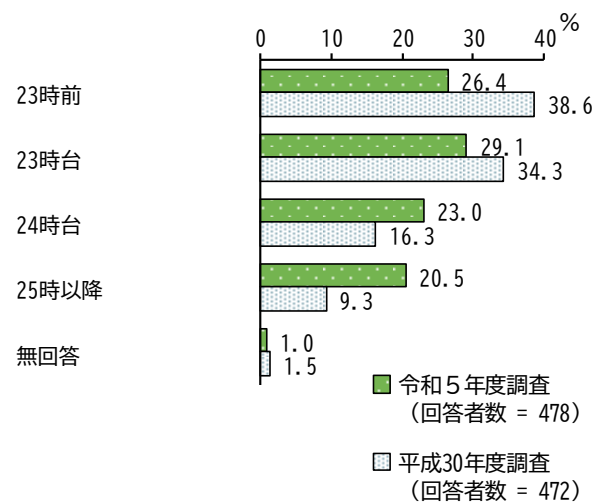
「23 時台」の割合が 29.1%と最も高く、次いで「23 時前」の割合が 26.4%、「24 時台」の割合が 23.0%となっています。



<経年比較>

平成 30 年度調査と比較すると、24 時以降の割合が増加しています。一方、24 時より前の割合が減少しています。

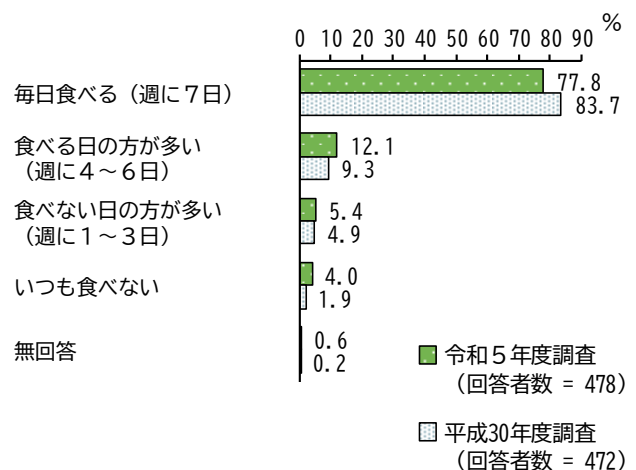
※平成 30 年度調査では、「25 時以降」の選択肢でした。



問2 あなたは、普段朝ごはんを食べますか。(○は1つ)

「毎日食べる（週に7日）」の割合が 77.8%と最も高く、次いで「食べる日の方が多い（週に4～6日）」の割合が 12.1%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「毎日食べる（週に7日）」の割合が減少し、「食べる日の方が多い（週に4～6日）」の割合が増加しています。また、「いつも食べない」割合が若干高くなっています。

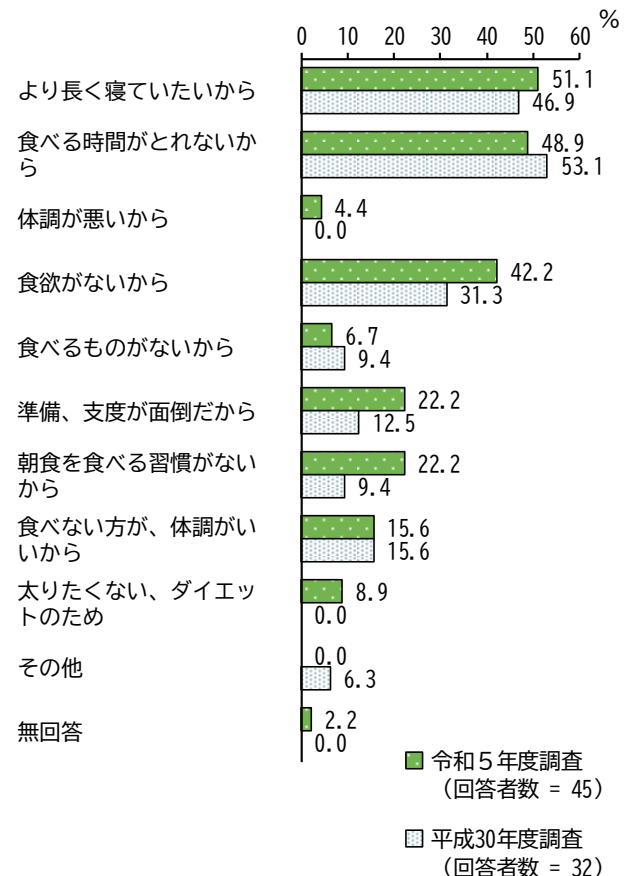


【問2で「3. 食べない日の方が多い（週に1～3日）」「4. いつも食べない」と答えた方におうかがいします】

問2-1 朝食を食べない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「より長く寝ていたいから」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「食べる時間がとれないから」の割合が 48.9%、「食欲がないから」の割合が 42.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「食べる時間がとれないから」の割合が減少し、「朝食を食べる習慣がないから」「食欲がないから」「準備、支度が面倒だから」「太りたくない、ダイエットのため」の順に割合が増加しています。

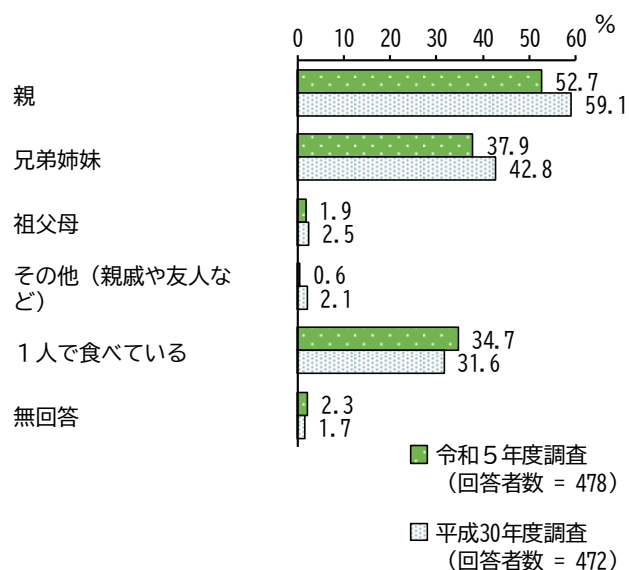


問3 あなたは、普段朝食・夕食をどなたと食べていますか。
(それぞれあてはまるものすべてに○)

【ア. 朝食】

「親」の割合が 52.7%と最も高く、次いで「兄弟姉妹」の割合が 37.9%、「1人で食べている」の割合が 34.7%となっています。

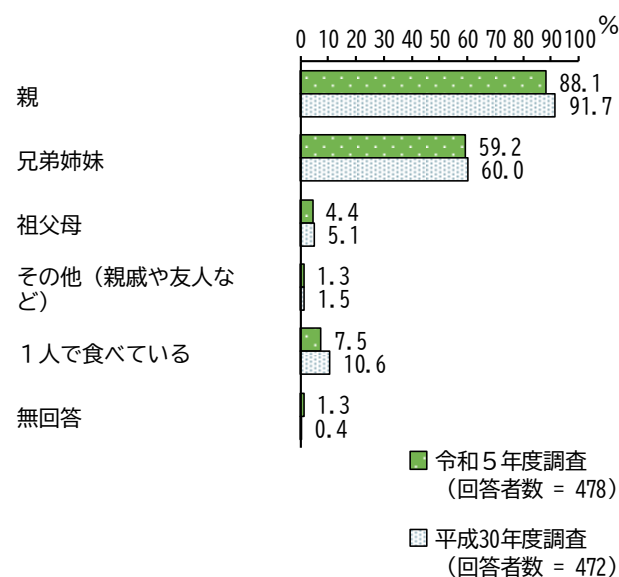
平成 30 年度調査と比較すると、「親」「兄弟姉妹」「祖父母」の割合が減少し、「1人で食べている」割合が増加しています。



【イ. 夕食】

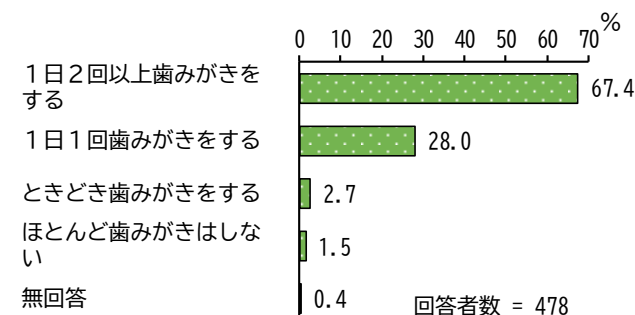
「親」の割合が 88.1%と最も高く、次いで「兄弟姉妹」の割合が 59.2%となっています。

平成 30 年度調査と同様に「親」と食べる割合が最も高く、次に「兄弟姉妹」と食べる割合が高い傾向にあります。



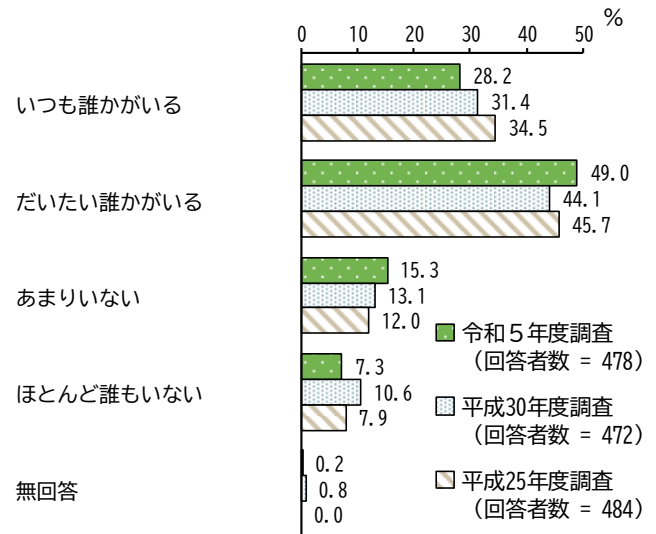
問4 あなたは、歯みがきをどのくらいしますか。(○は1つ)

「1日2回以上歯みがきをする」割合が最も高く、「1日1回歯みがきをする」を合わせると 95%を超えています。



問5 あなたが放課後（終業後）帰宅した時や休日に、家に大人の方はいますか。
（○は1つ）

「いつも誰かがいる」「だいたい誰かがいる」を合わせると、約8割が家に帰宅した時に大人がいるという調査結果となっています。

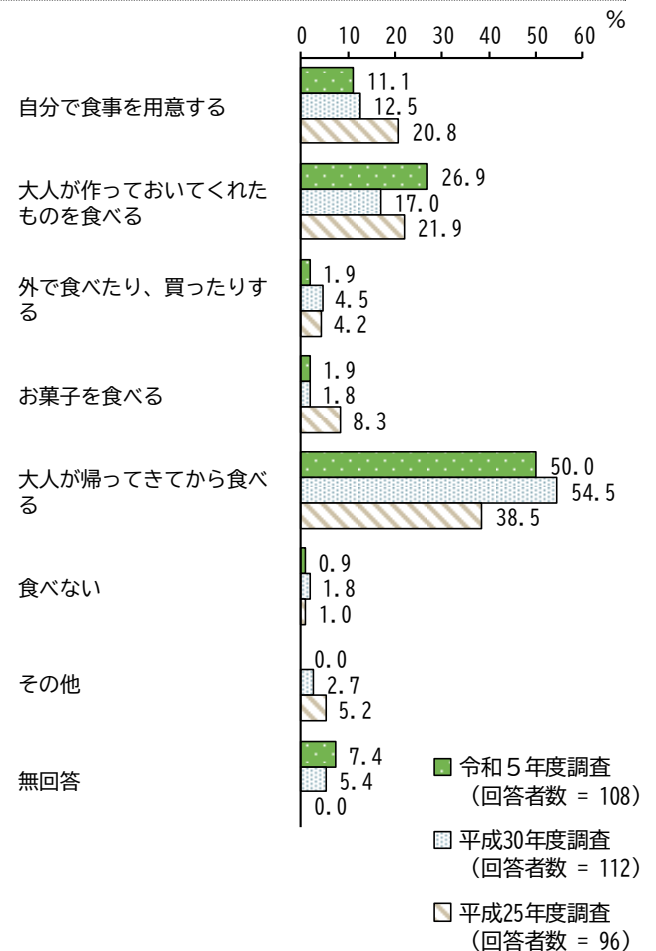


【問5で「3. あまりいない」「4. ほとんど誰もいない」と答えた方におうかがいします】

問5-1 帰宅した時や休日に大人の方が誰もいない時、食事はどうしていますか。
（○は1つ）

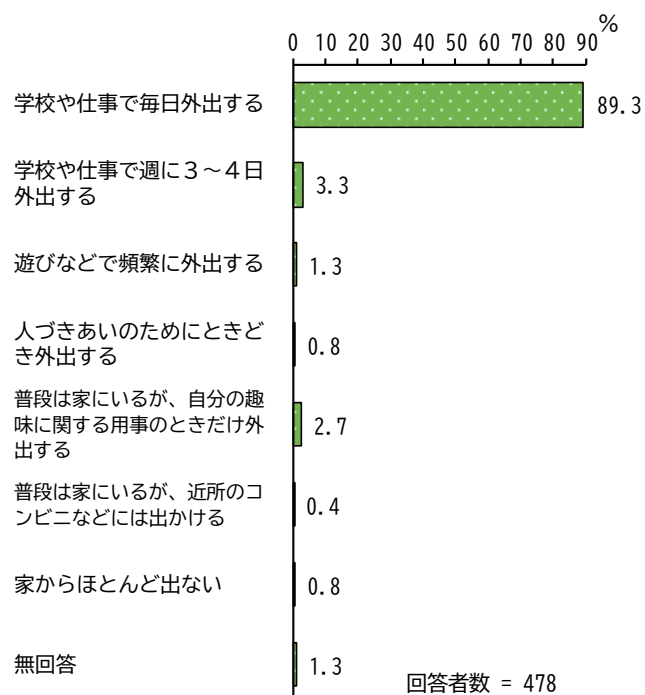
「大人が帰ってきてから食べる」の割合が50.0%と最も高く、次いで「大人が作ってくれたものを食べる」の割合が26.9%、「自分で食事を用意する」の割合が11.1%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「大人が作ってくれたものを食べる」の割合が増加し、「外で食べたり、買ったりする」の割合が減少しています。



問6 あなたは、平日（月曜日から金曜日）どのくらい外出しますか。（○は1つ）

「学校や仕事で毎日外出する」の割合が89.3%、「学校や仕事で週に3～4日外出する」を合わせると92.6%となり、週に3～4日以上外出する割合が9割を超えています。



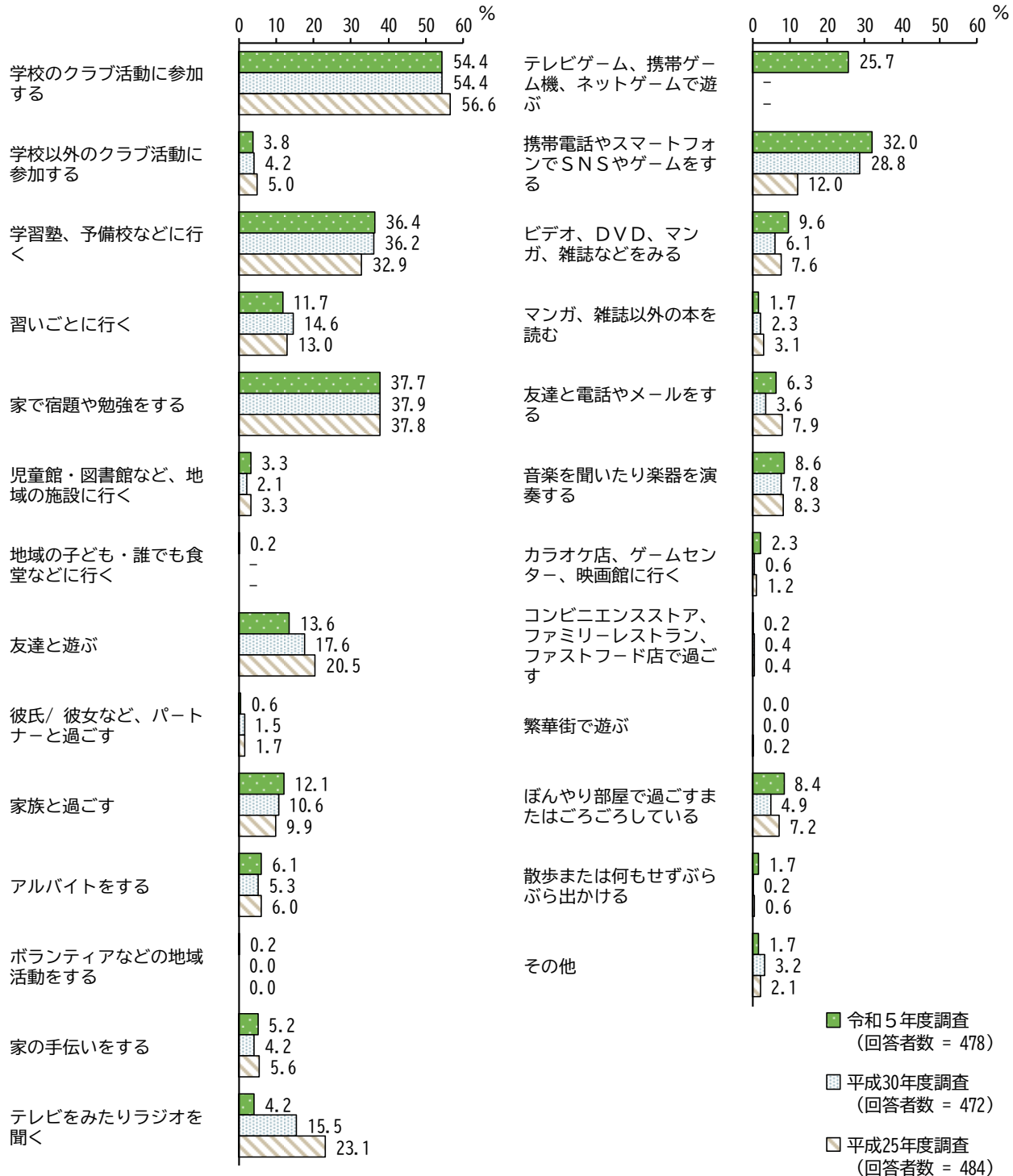
問7 あなたは放課後（終業後）と休日をどのように過ごしていますか。下から3つまで選んで四角枠の中に数字をご記入ください。

（平日）

「学校のクラブ活動に参加する」の割合が54.4%と最も高く、次いで「家で宿題や勉強をする」の割合が37.7%、「学習塾、予備校などに行く」の割合が36.4%となっています。

「携帯電話やスマートフォンでSNSやゲームをする」も増加傾向にあります。

また、「テレビゲーム、携帯ゲーム機、ネットゲーム機で遊ぶ」は「携帯電話やスマートフォンでSNSやゲームをする」に次いで割合が高くなっています。



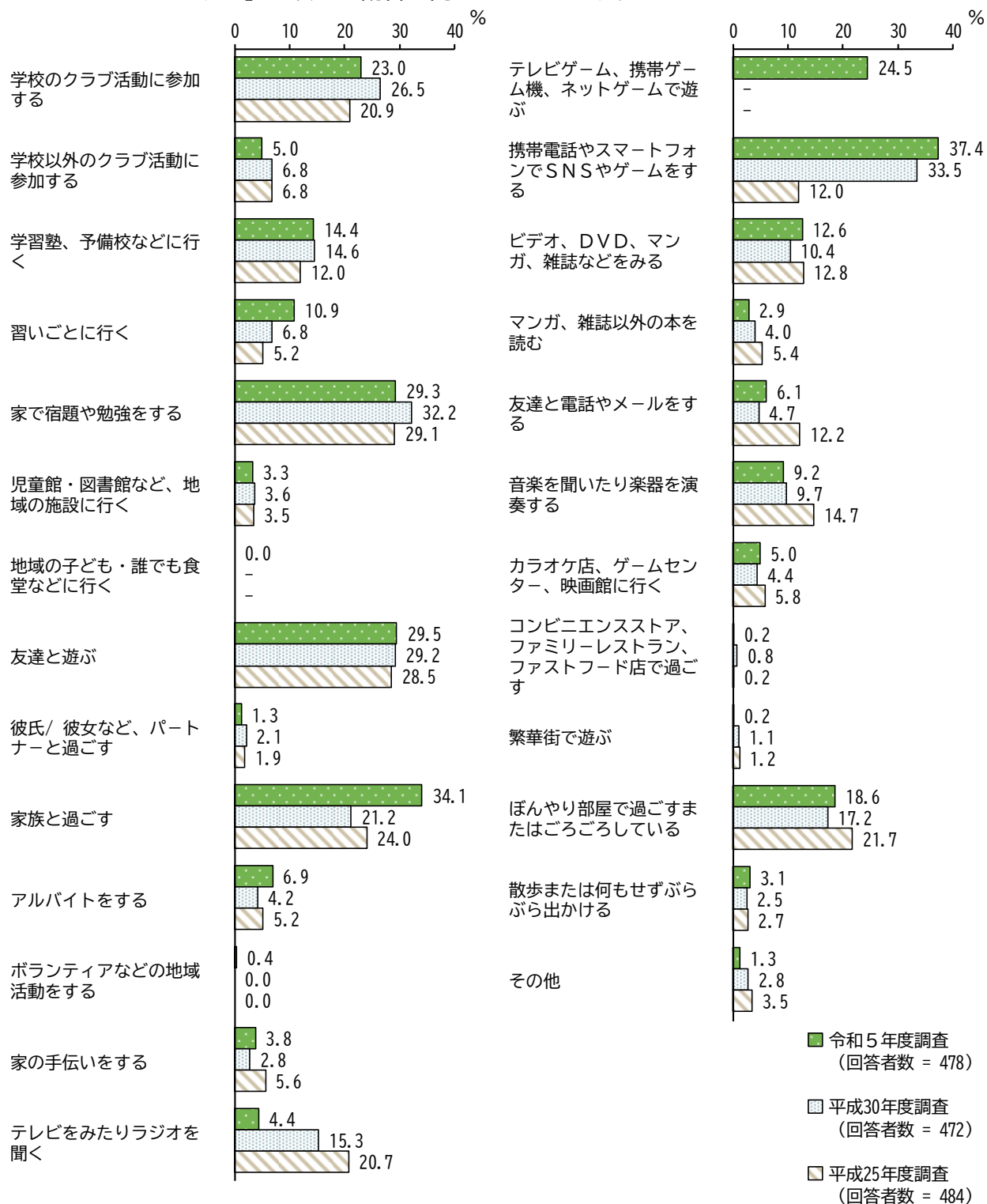
※令和5年度調査で、「地域の子ども・誰でも食堂などに行く」「テレビゲーム、携帯ゲーム機、ネットゲームで遊ぶ」の選択肢を追加しています。

(休日)

「携帯電話やスマートフォンでSNSやゲームをする」の割合が37.4%と最も高く、次いで「家族と過ごす」の割合が34.1%、「友達と遊ぶ」の割合が29.5%となっています。

「友達と遊ぶ」「家で宿題や勉強をする」は同程度の割合となっています。

また、「テレビゲーム、携帯ゲーム機、ネットゲーム機で遊ぶ」は「携帯電話やスマートフォンでSNSやゲームをする」に次いで割合が高くなっています。

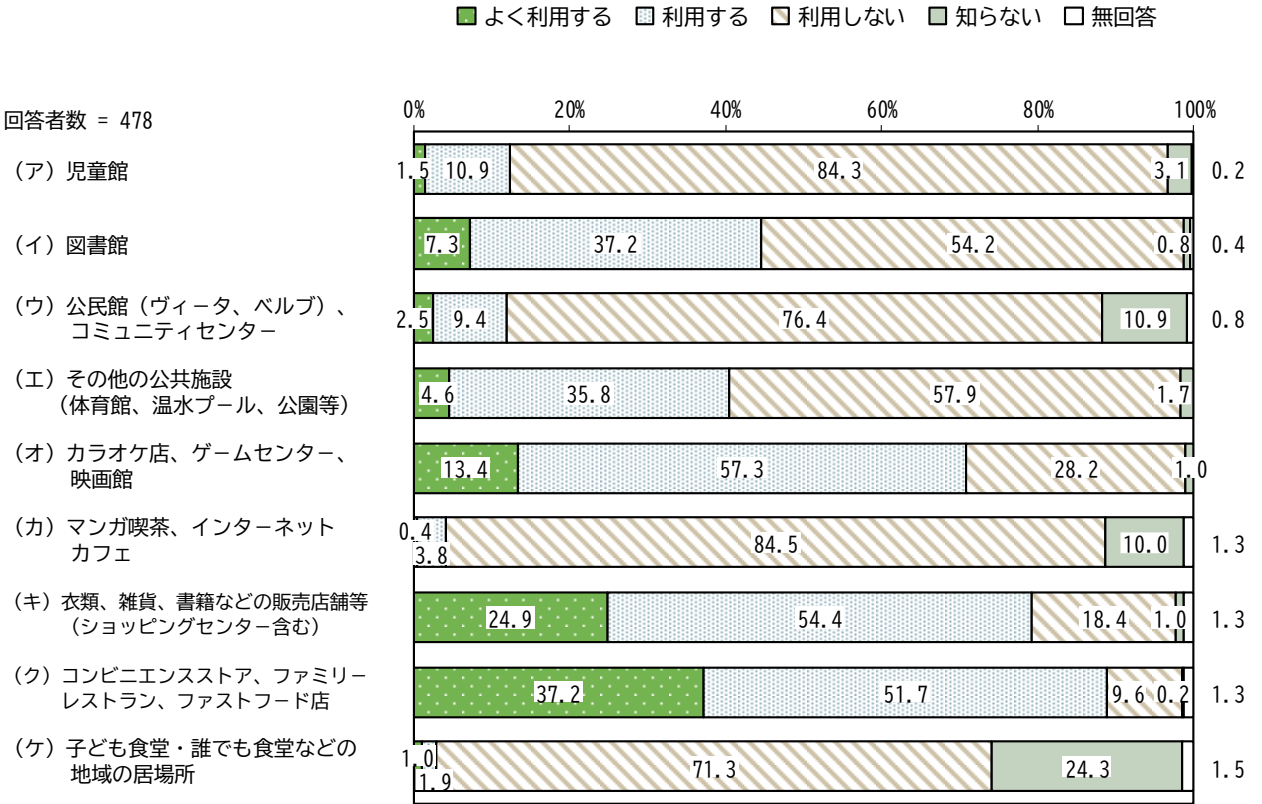


主な「その他」意見

- ・放課後デイサービス (2件)

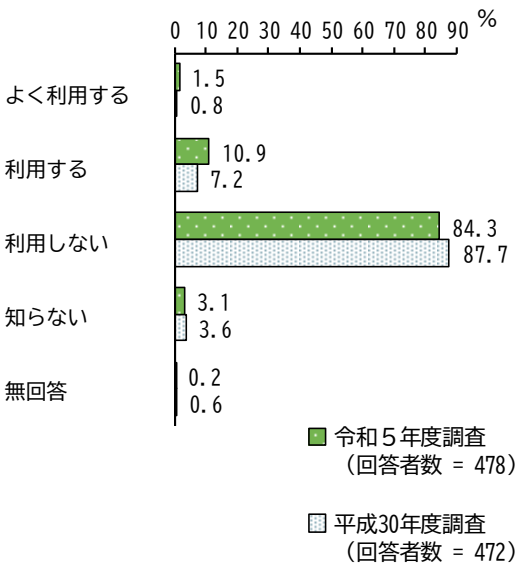
※令和5年度調査で、「地域の子ども・誰でも食堂などに行く」「テレビゲーム、携帯ゲーム機、ネットゲームで遊ぶ」の選択肢を追加しています。

問8 以下の（ア）から（ケ）のそれぞれの施設の利用状況についておうかがいします。（それぞれ○は1つ）

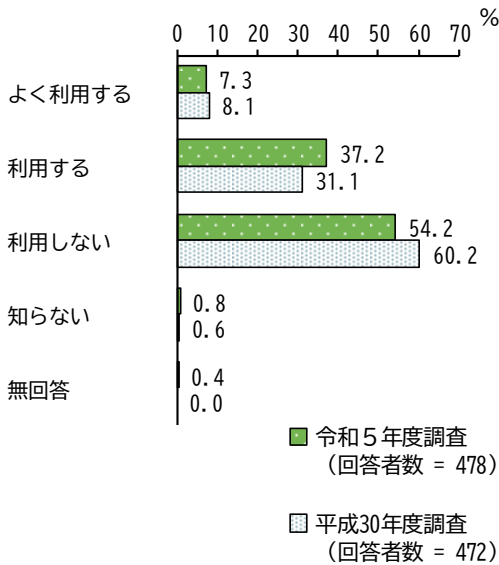


<項目ごとの経年比較>

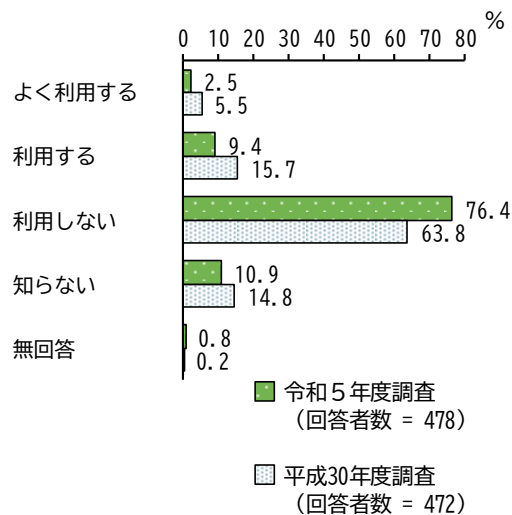
（ア）児童館



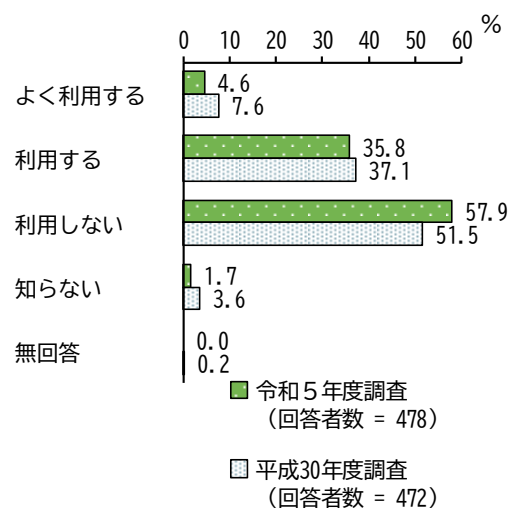
（イ）図書館



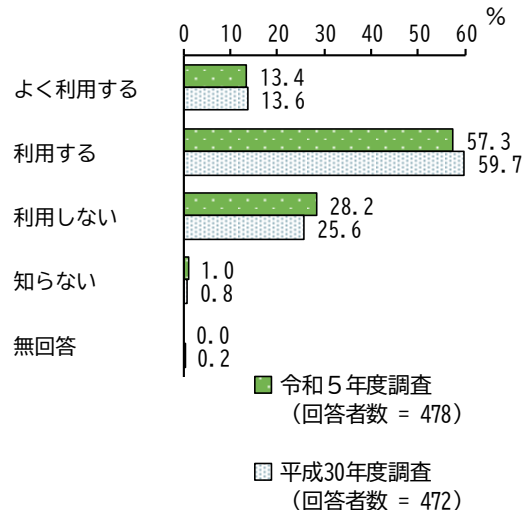
(ウ) 公民館（ヴィータ、ベルブ）、コミュニティセンター



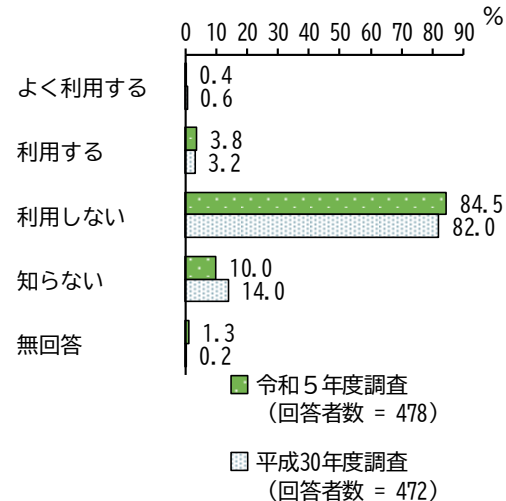
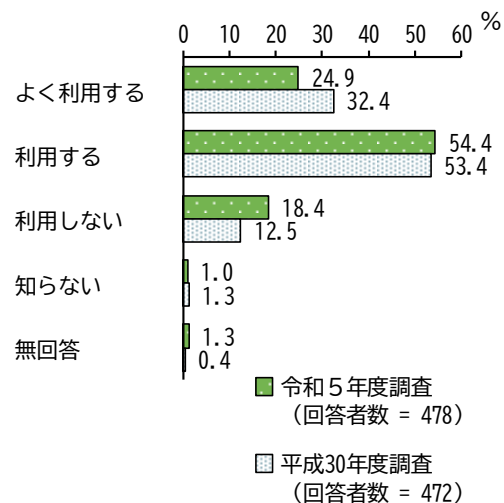
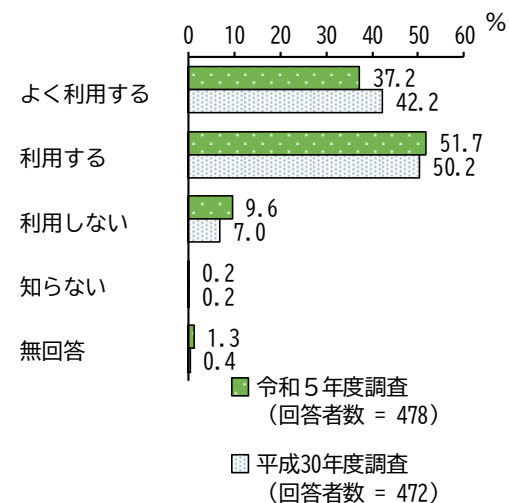
(エ) その他の公共施設（体育館、温水プール、公園等）



(オ) カラオケ店、ゲームセンター、映画館



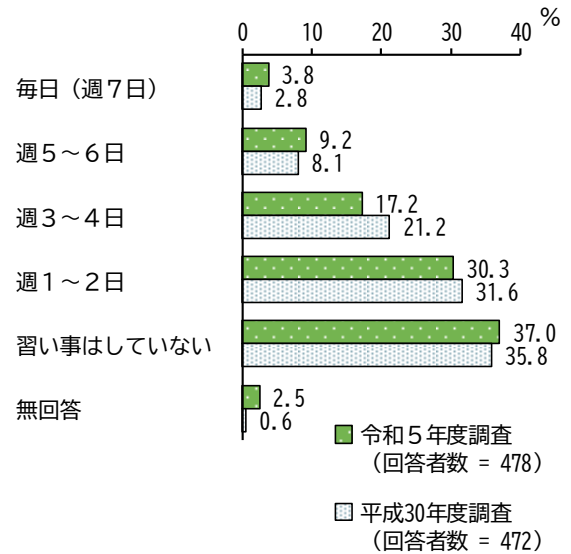
(カ) マンガ喫茶、インターネットカフェ

(キ) 衣類、雑貨、書籍などの販売店舗等
(ショッピングセンター含む)(ク) コンビニエンスストア、
ファミリーレストラン、ファストフード店

問9 あなたは1週間のうちどのくらい塾や習い事をしていますか。(○は1つ)

習い事をしている頻度は「週1～2日」が最も多く、順に「週3～4日」、「週5～6日」、「毎日(週7日)」となっています。

平成30年度調査と比較すると、「週5～6日」「毎日(週7日)」の割合が若干増加しています。

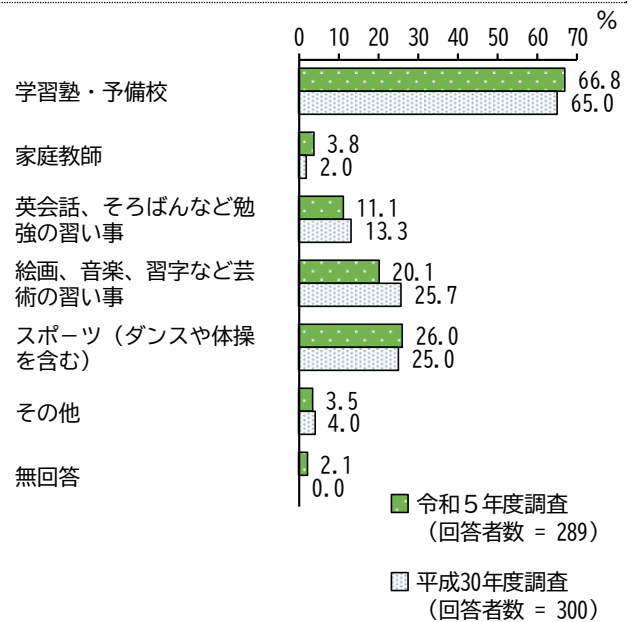


【問9で「1. 毎日(週7日)」「2. 週5～6日」「3. 週3～4日」「4. 週1～2日」と答えた方におうかがいします】

問9-1 どのような習い事をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「学習塾・予備校」の割合が66.8%と最も高く、次いで「スポーツ(ダンスや体操を含む)」の割合が26.0%、「絵画、音楽、習字など芸術の習い事」の割合が20.1%となっています。

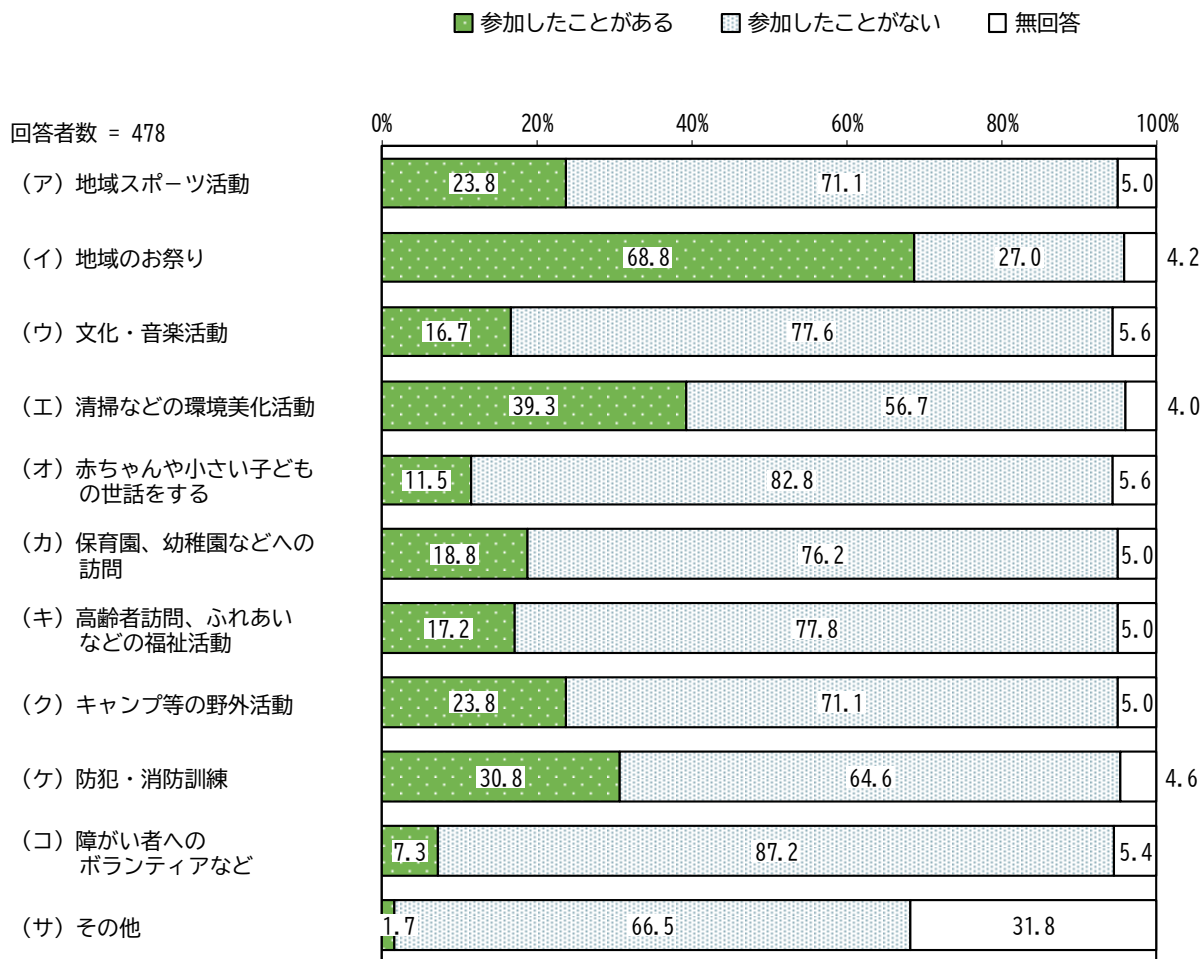
平成30年度調査と比較すると、「絵画、音楽、習字など芸術の習い事」の割合が減少しています。



(2) 地域活動やボランティア活動について

問 10 あなたは、地域のグループ活動やボランティア活動に参加したことがありますか。「(ア) 地域スポーツ活動」から「(サ) その他」まで、「A 参加経験」を教えてください。また、参加したことがあるものは、「B 参加内容」「C 参加した理由」について、もっともあてはまる番号1つに○をつけてください。

A 参加経験

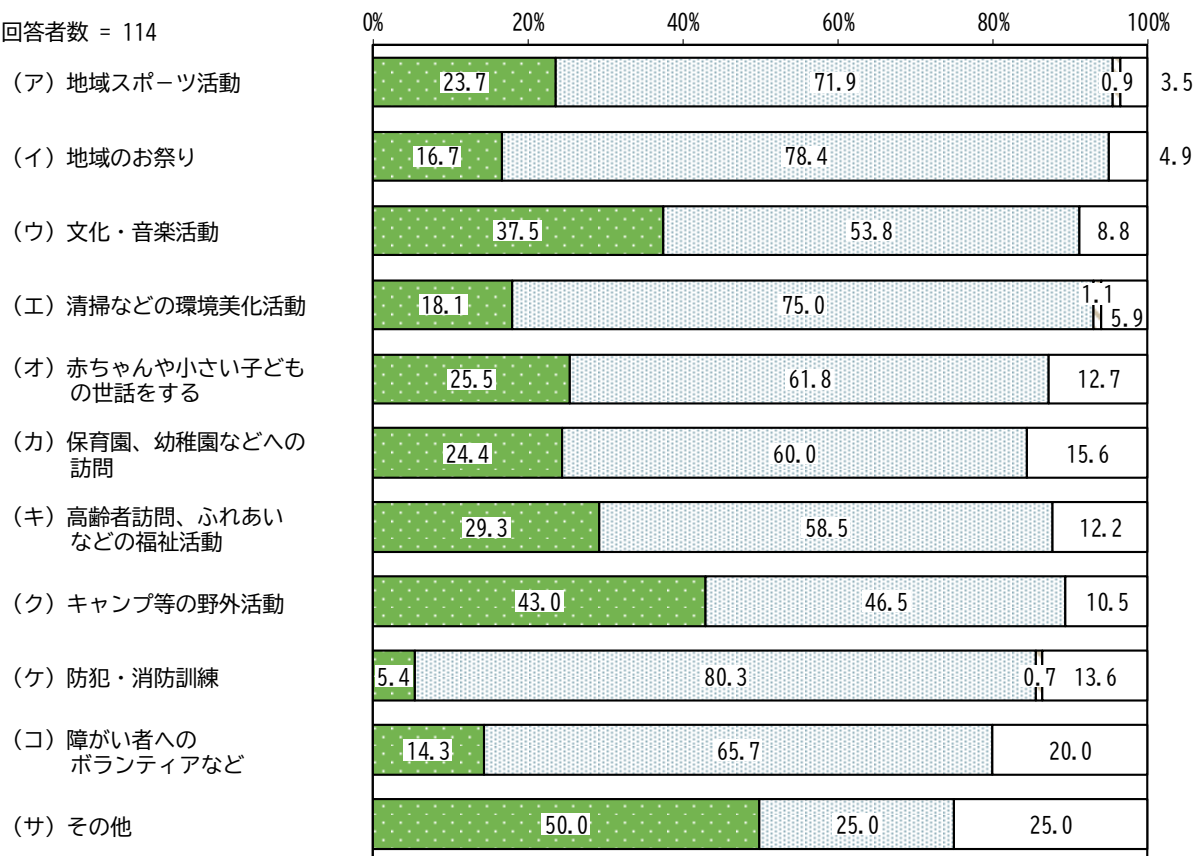


A-3 中高生世代用

B 参加内容

■ 準備から参加した □ 当日参加した ■ 後片付けのみ参加した □ 無回答

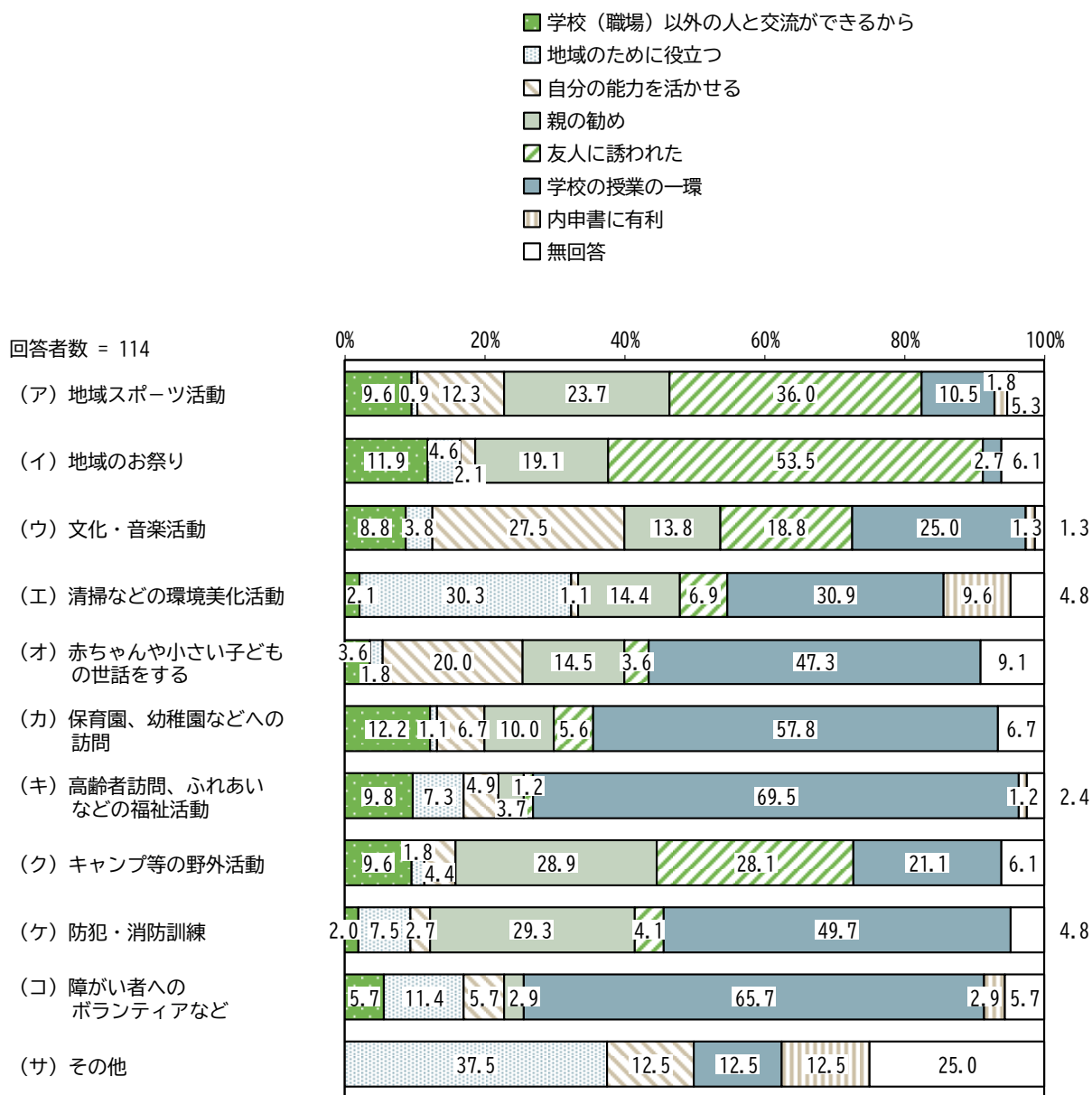
回答者数 = 114



C 参加した理由

「参加したことがある」の割合が高い『(イ) 地域のお祭り』では、参加した理由として「友人に誘われた」が53.5%を占めています。

「学校の授業の一環」に着目すると、『(キ) 高齢者訪問、ふれあいなどの福祉活動』『(コ) 障がい者へのボランティアなど』『保育園、幼稚園などへの訪問』の順で割合が高くなっています。



主な「その他」意見

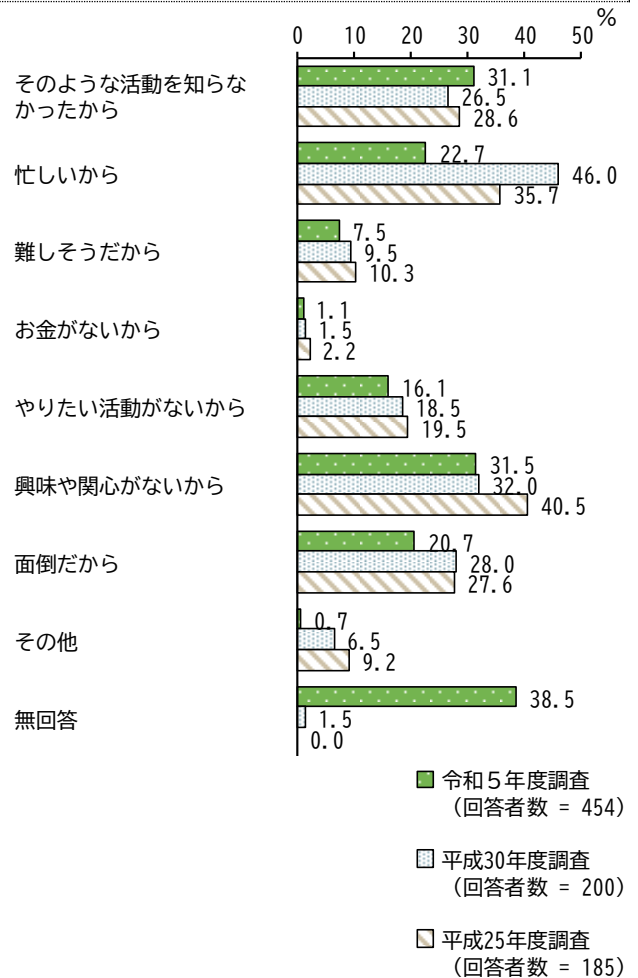
- ・子ども食堂のお手伝い (2件)

【問 10 で「(ア) 地域スポーツ活動」から「(サ) その他」まで1つでも「参加したことがない」と答えた方におうかがいします】

問 10－1 参加したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

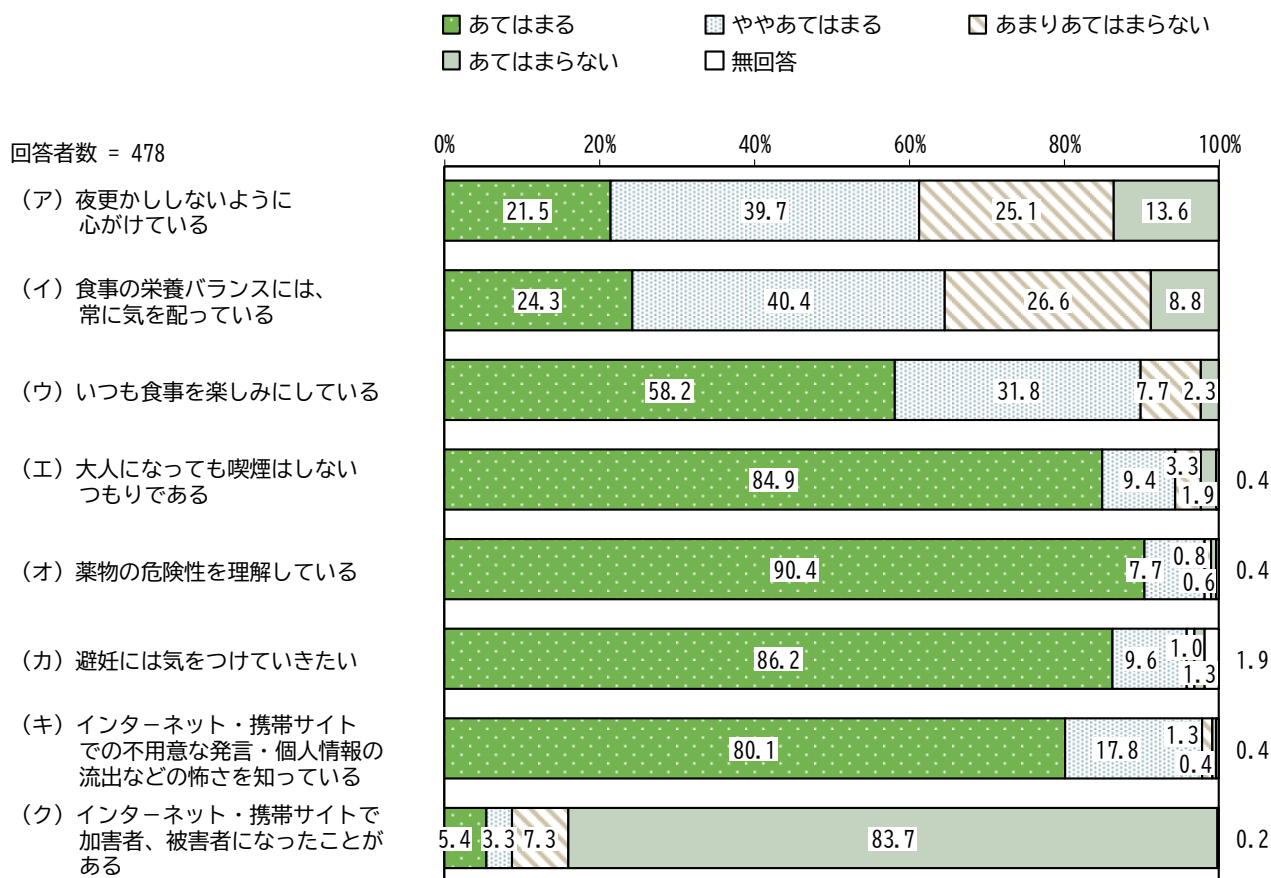
「興味や関心がないから」の割合が 31.5%と最も高く、次いで「そのような活動を知らなかったから」の割合が 31.1%、「忙しいから」の割合が 22.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「忙しいから」の割合が低くなっています。



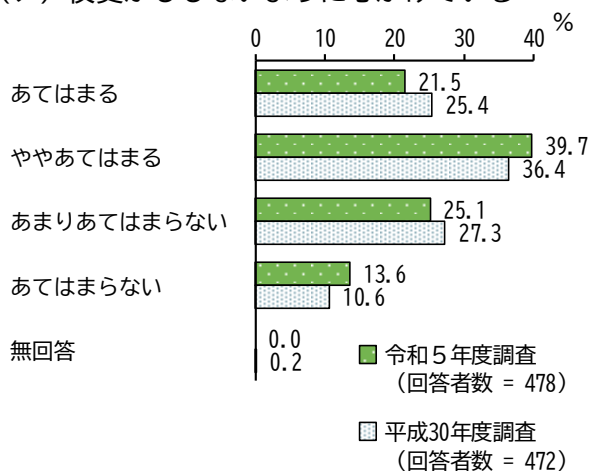
(3) あなたの生活への意識について

問 11 あなたの生活への意識についておうかがいします。(それぞれ〇は1つ)

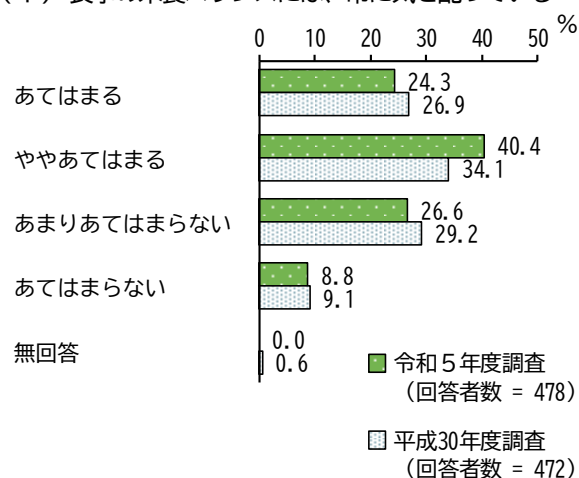


<項目ごとの経年比較>

(ア) 夜更かししないように心がけている

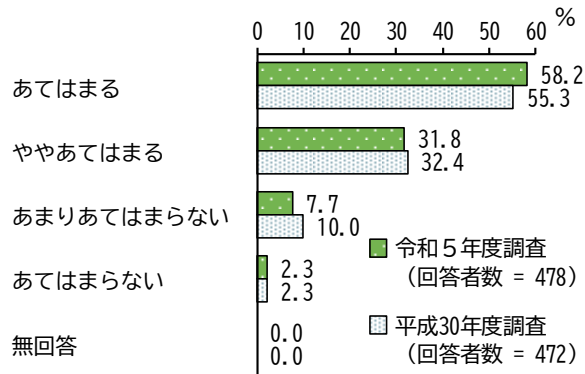


(イ) 食事の栄養バランスには、常に気を配っている

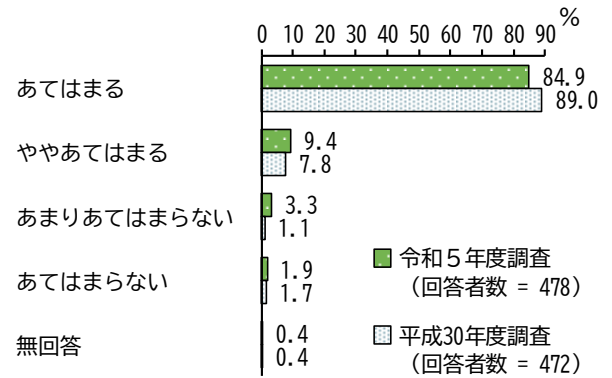


A-3 中高生世代用

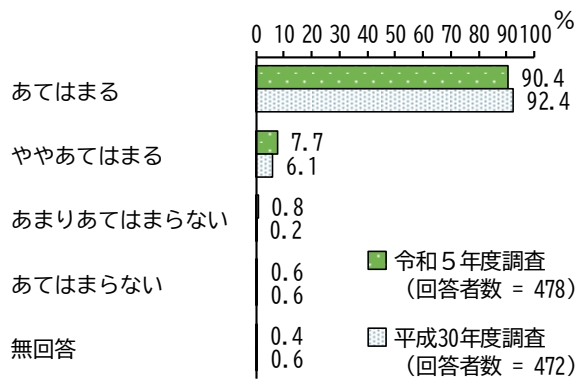
(ウ) いつも食事を楽しみにしている



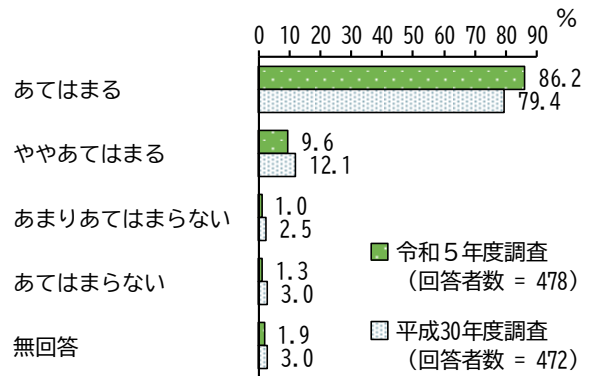
(エ) 大人になっても喫煙はしないつもりである



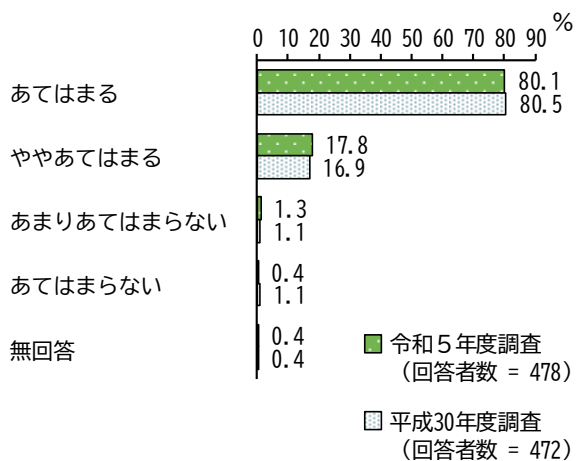
(オ) 薬物の危険性を理解している



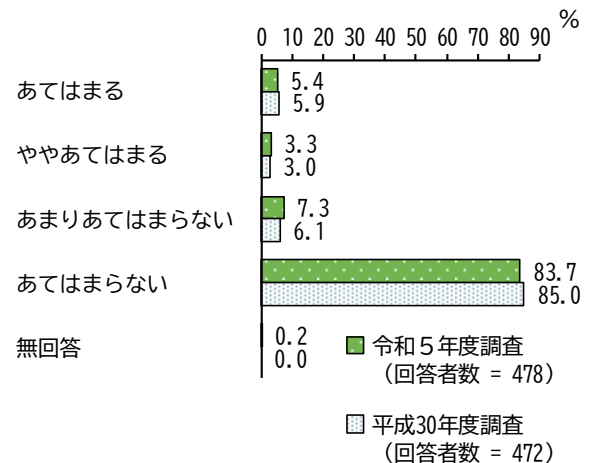
(カ) 避妊には気をつけていきたい



(キ) インターネット・携帯サイトでの不用意な発言・個人情報の流出などの怖さを知っている



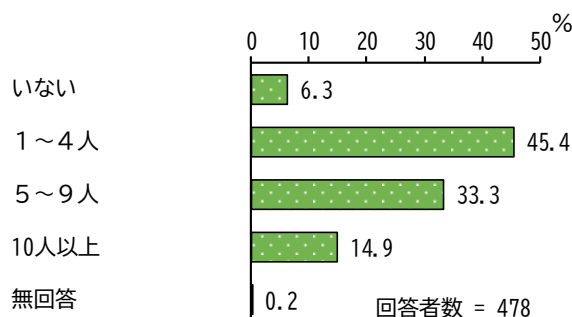
(ク) インターネット・携帯サイトで加害者、被害者になったことがある



(4) あなたの交友関係や悩み事について

問 12 日頃から遊んだり、一緒に過ごしたりする友人は何人いますか。(○は1つ)

「1～4人」の割合が45.4%と最も高く、次いで「5～9人」の割合が33.3%、「10人以上」の割合が14.9%となっています。



問 13 学校や職場の人間関係で、以下のようなことがありますか。(○は3つまで)

「そのようなことはない」の割合が53.1%と最も高く、次いで「友達に合わせようとして疲れる」の割合が23.0%、「先生と合わない」の割合が10.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「そのようなことはない」の割合が減少しています。

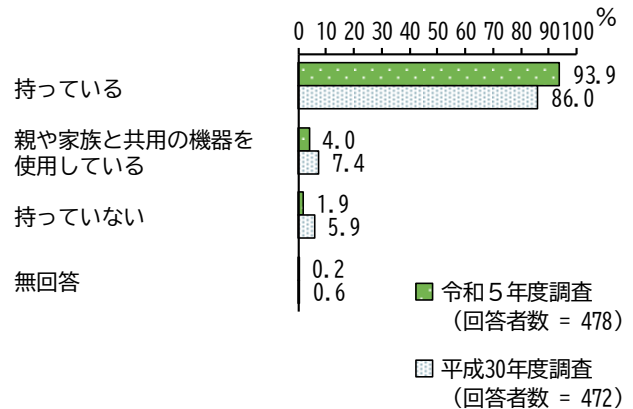


(5) 携帯電話やスマートフォン、インターネットの利用について

問 14 あなたは、インターネットに接続できる、自分用の携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン等を持っていますか。(○は1つ)

「持っている」の割合が 93.9%と最も高くなっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「親や家族と共用の機器を使用している」「持っていない」の割合が減少し、「持っている」の割合が増加しています。

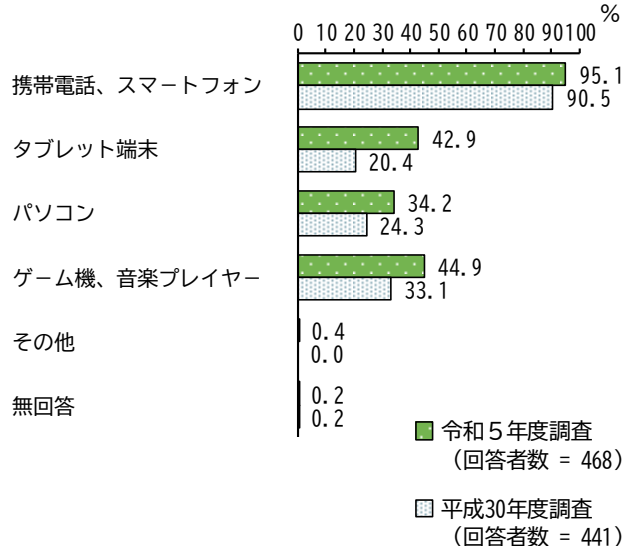


【問 14 で「1. 持っている」、「2. 親や家族と共用の機器を使用している」と答えた方におうかがいします】

問 14-1 どのような機器を使用してインターネットを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

「携帯電話、スマートフォン」の割合が 95.1%と最も高く、次いで「ゲーム機、音楽プレイヤー」の割合が 44.9%、「タブレット端末」の割合が 42.9%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「タブレット端末」の利用割合が約 2 倍に増加しています。



主な「その他」意見

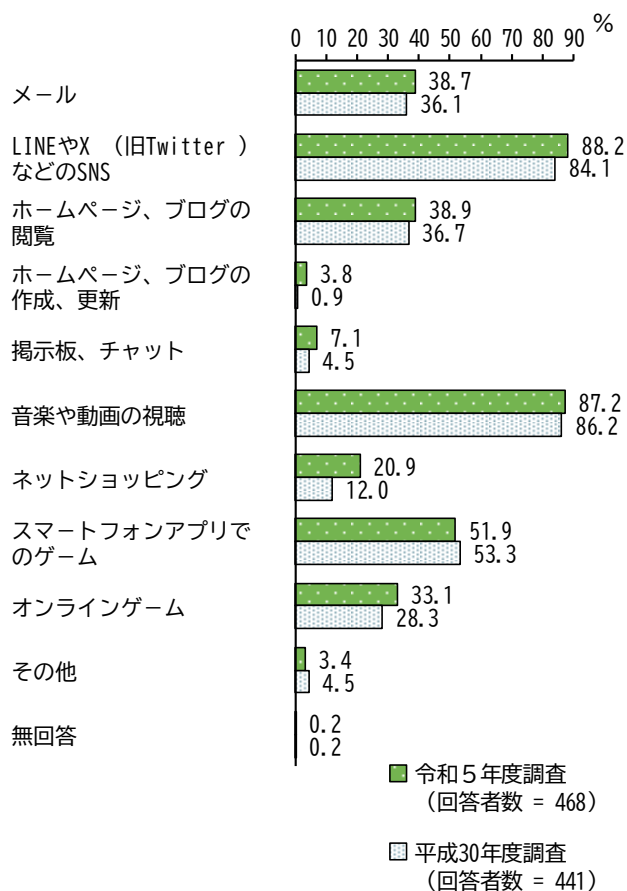
・テレビ (2件)

問 14-2 あなたは、具体的にどのような目的でインターネットを利用していますか。
(あてはまるものすべてに○)

「LINE や X (旧 Twitter) などの SNS」の割合が 88.2%と最も高く、次いで「音楽や動画の視聴」の割合が 87.2%、「スマートフォンアプリでのゲーム」の割合が 51.9%となっています。
平成 30 年度調査と比較すると、「ネットショッピング」の割合が増加しています。

主な「その他」意見

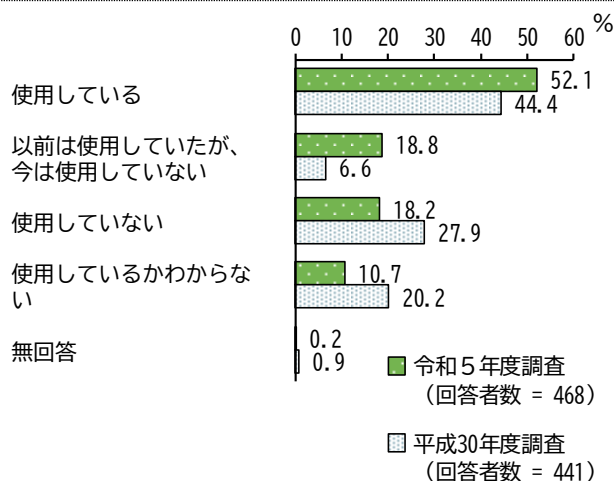
- ・調べ物 (4件)
- ・絵を描く (3件)
- ・授業への参加 (3件)
- ・動画編集 (3件)
- ・勉強 (2件)



問 14-3 あなたがインターネットを利用する機器には、ペアレンタルコントロール機能(利用時間制限等)やフィルタリング機能(有害サイトアクセス制限サービス)が使用されていますか。(○は1つ)

「使用している」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「以前は使用していたが、今は使用していない」の割合が 18.8%、「使用していない」の割合が 18.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「使用している」「以前は使用していたが、今は使用していない」の割合が増加しています。



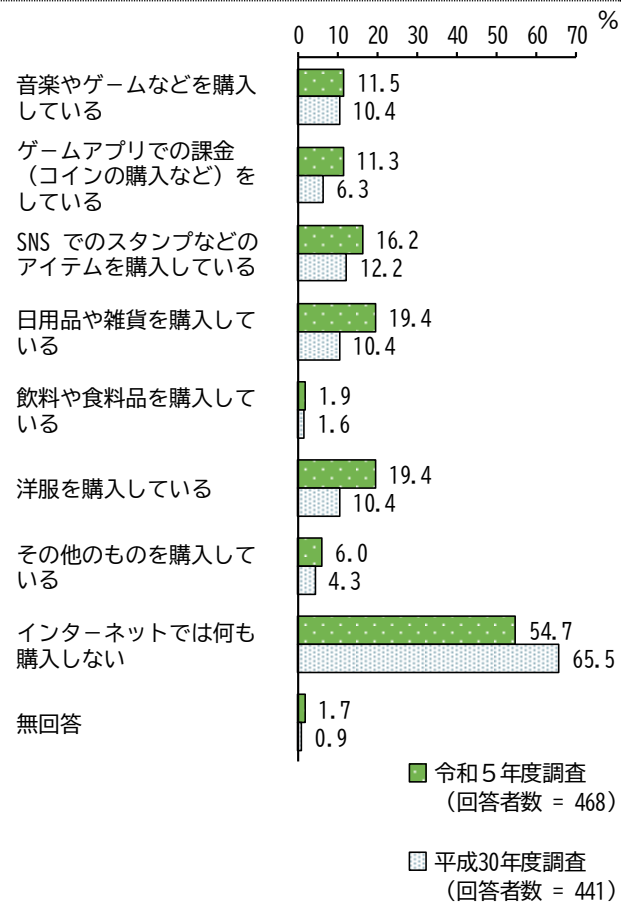
問 14-4 あなたは、インターネットで買い物をすることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「インターネットでは何も購入しない」の割合が 54.7%と最も高く、次いで「日用品や雑貨を購入している」、「洋服を購入している」の割合が 19.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「ゲームアプリでの課金（コインの購入など）をしている」「日用品や雑貨を購入している」「洋服を購入している」の割合が増加しています。一方、「インターネットでは何も購入しない」の割合が減少しています。

主な「その他」意見

- ・グッズ等 （12 件）
- ・遊園地のチケット （2 件）
- ・スポーツ観戦のチケット （2 件）
- ・CD （2 件）
- ・スポーツ用品 （2 件）

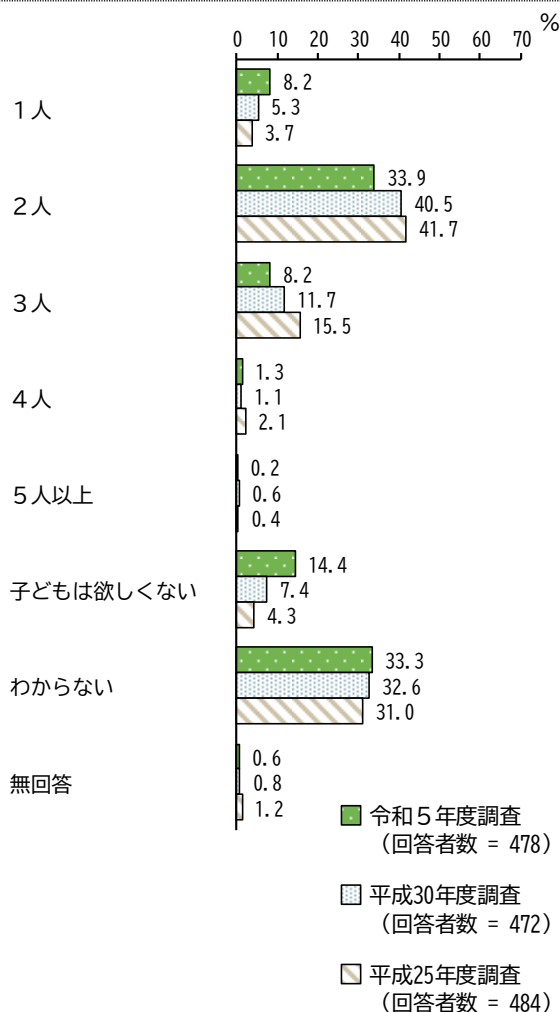


(6) 子どもをもつことや結婚に対する考えについて

問 15 あなたは将来子どもが欲しいと思いますか。また欲しい方は理想の人数を教えてください。(○は1つ)

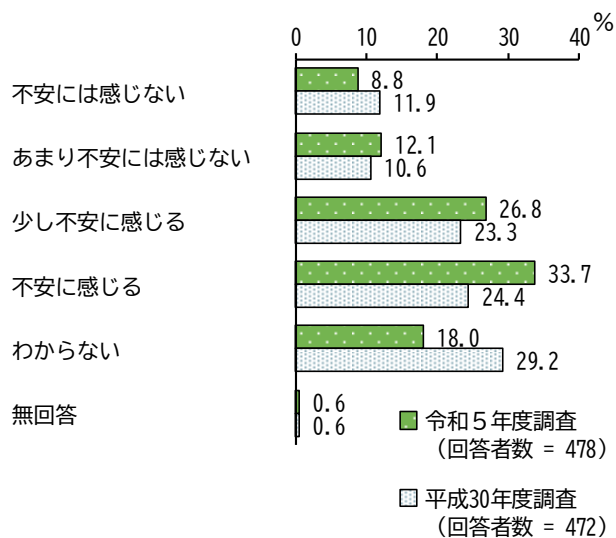
「2人」の割合が最も高くなっていますが、平成 25 年度調査から少しずつ減少しています。

また、「子どもは欲しくない」「わからない」の割合が増加傾向にあります。特に「子どもは欲しくない」の割合は、平成 30 年度調査と比較して2倍弱に増加しています。



問 16 あなたが将来、仕事と子育てを両立することになると考えたとき、不安を感じますか。(○は1つ)

「不安を感じる」「少し不安を感じる」を合わせた割合が6割を超えており、平成 30 年度調査と比較して増加しています。



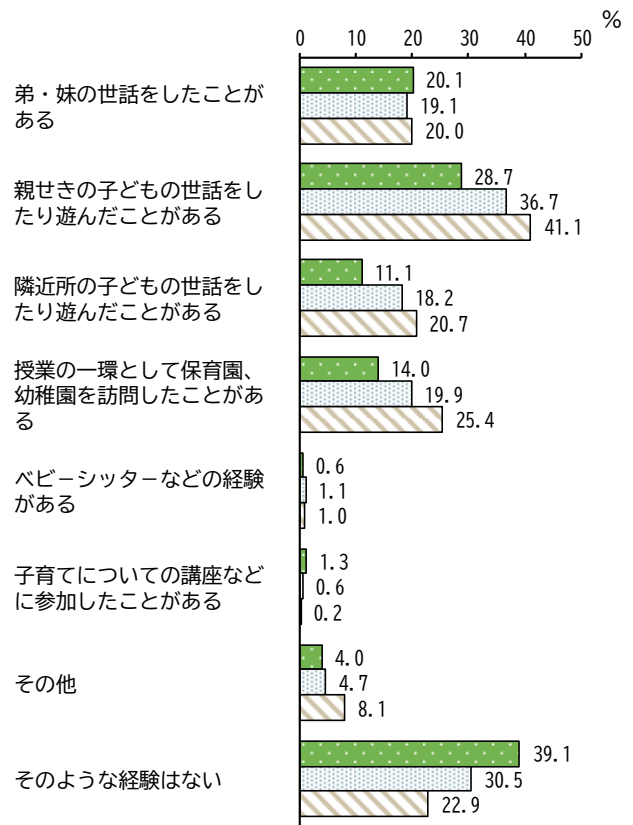
問 17 あなたは最近5年間で、赤ちゃんや小さな子どもの世話をしたり、遊んだりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「そのような経験はない」の割合が 39.1%と最も高く、次いで「親せきの子どもの世話をしたり遊んだことがある」の割合が 28.7%、「弟・妹の世話をしたことがある」の割合が 20.1%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「そのような経験はない」の割合が増加しています。また、「親せきの子どもの世話をしたり遊んだことがある」「隣近所の子どもの世話をしたり遊んだことがある」「授業の一環として保育園、幼稚園を訪問したことがある」の割合が減少しています。

主な「その他」意見

- ・ 友達の弟や妹と遊んだことがある (3件)
- ・ 児童館で遊んだことがある (3件)
- ・ 小学校で下級生の世話をしたり遊んだことがある (2件)



■ 令和5年度調査
(回答者数 = 478)

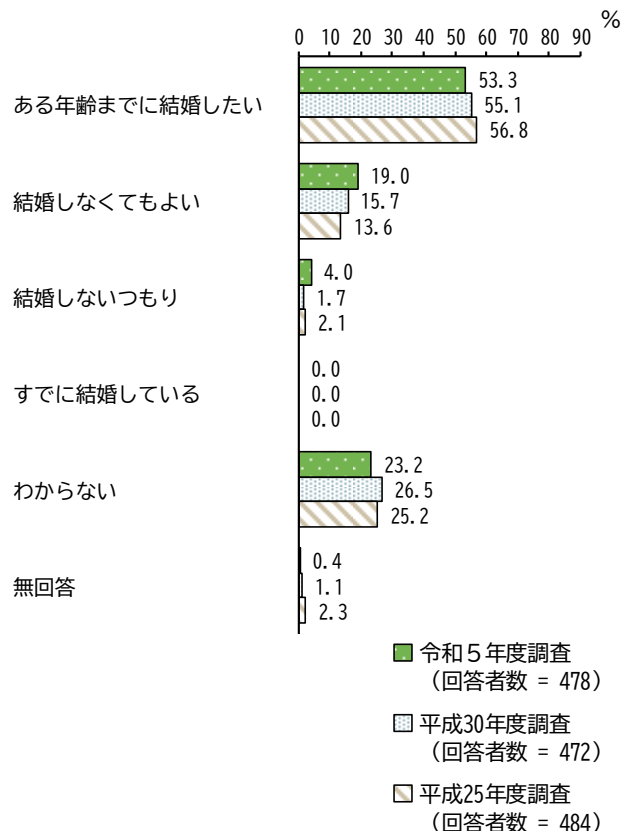
■ 平成30年度調査
(回答者数 = 472)

■ 平成25年度調査
(回答者数 = 484)

問 18 あなたは結婚についてどのように考えていますか。(○は1つ)

「ある年齢までに結婚したい」の割合が53.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が23.2%、「結婚しなくてもよい」の割合が19.0%となっています。

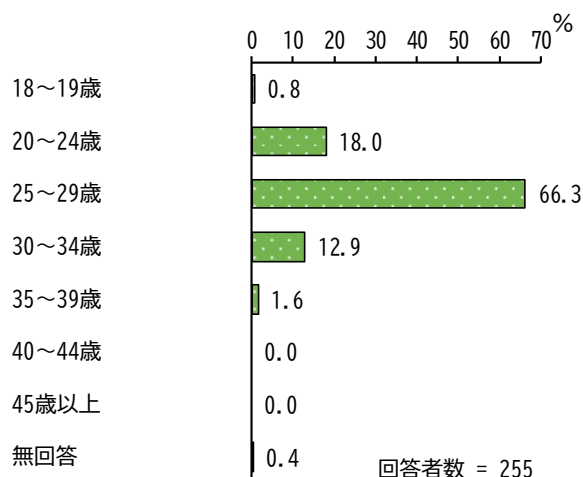
平成30年度調査と比較すると、「結婚しなくてもよい」「結婚しないつもり」が若干増加しています。



【問18で「1. ある年齢までに結婚したい」と答えた方におうかがいします】

問 18-1 あなた自身は何歳で結婚したいと思いますか。(○は1つ)

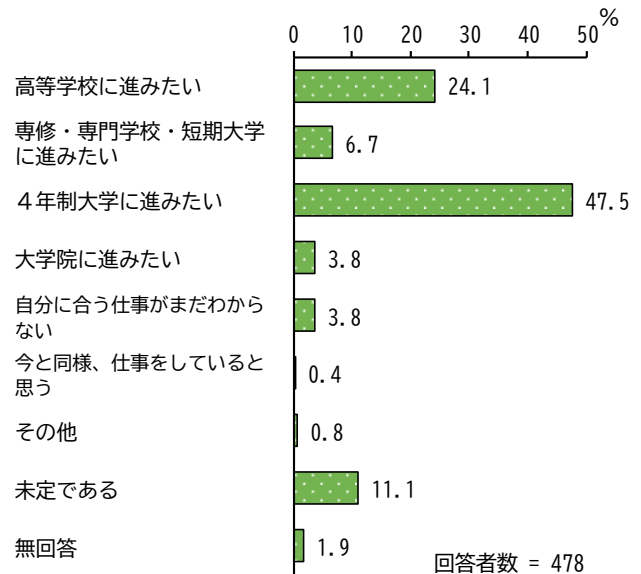
「25～29歳」の割合が66.3%と最も高く、次いで「20～24歳」の割合が18.0%、「30～34歳」の割合が12.9%となっています。



(7) あなたの生きがいや将来について

問 19 あなたは今後の進路（学校の場合には希望する最終学歴）についてどのように考えていますか。（○は1つ）

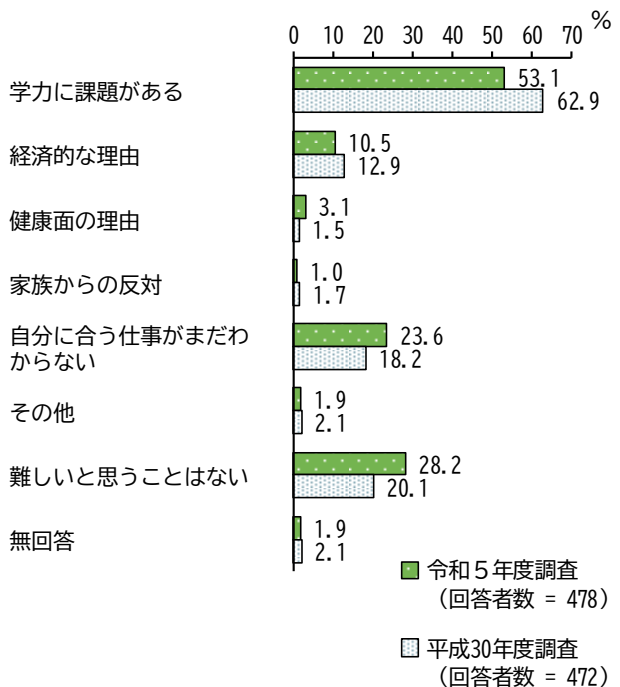
「4年制大学に進みたい」の割合が47.5%と最も高く、次いで「高等学校に進みたい」の割合が24.1%、「未定である」の割合が11.1%となっています。



問 20 問 19 で回答した進路について考えた際、実現することが難しいと思うことがありますか。また、その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「学力に課題がある」の割合が53.1%と最も高く、次いで「難しいと思うことはない」の割合が28.2%、「自分に合う仕事はまだわからない」の割合が23.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「自分に合う仕事はまだわからない」「難しいと思うことはない」の割合が増加し、「学力に課題がある」の割合が減少しています。



問 21 あなたには将来の夢がありますか。(○は1つ)

「ある」「はっきりとしてはいないがある」を合わせた割合が 66.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「今のところない」「まだわからない」の割合が若干増加しています。

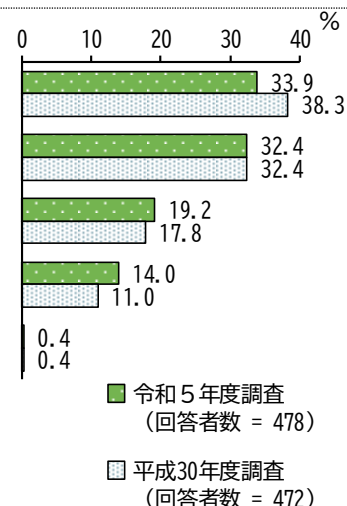
ある

はっきりとしてはいないがある

今のところない

まだわからない

無回答



【問 21 で「1. ある」「2. はっきりとしてはいないがある」と答えた方におうかがいします】

問 21-1 あなたは将来どのようなになりたいですか。(あてはまるものすべてに○)

「自分の好きなことを仕事にする」の割合が 80.8%と最も高く、次いで「安定した毎日を送る」の割合が 58.0%、「趣味を充実させて生きる」の割合が 54.9%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「自分の好きなことを仕事にする」「お金持ちになる」「あたたかい家庭を築く」「素敵な相手と恋愛・結婚をする」「安定した毎日を送る」「趣味を充実させて生きる」「豊富な知識を身につける」「マイペースで自分らしい生活を送る」「人から尊敬されるような人間になる」の割合が増加しています。

自分の好きなことを仕事にする

お金持ちになる

社会や人の役に立つ仕事をする

あたたかい家庭を築く

素敵な相手と恋愛・結婚をする

安定した毎日を送る

趣味を充実させて生きる

豊富な知識を身につける

科学や技術の分野で活躍する

スポーツの分野で活躍する

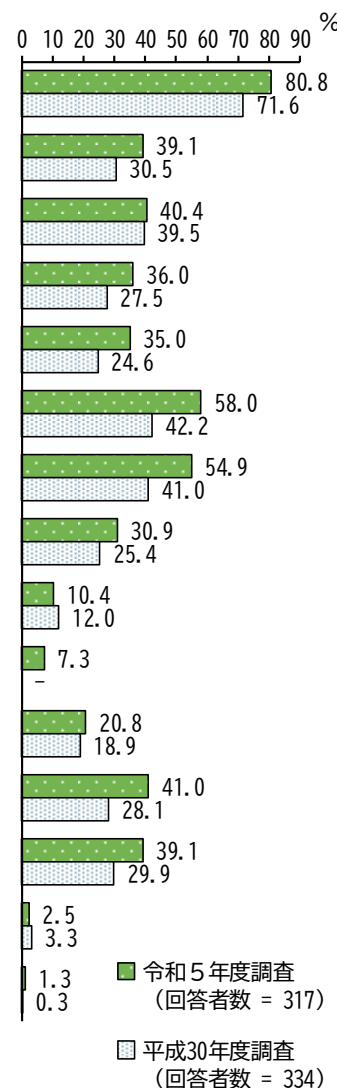
人に負けない特技を身につける

マイペースで自分らしい生活を送る

人から尊敬されるような人間になる

その他

無回答



※令和5年度調査で、「スポーツの分野で活躍する」の選択肢を追加しています。

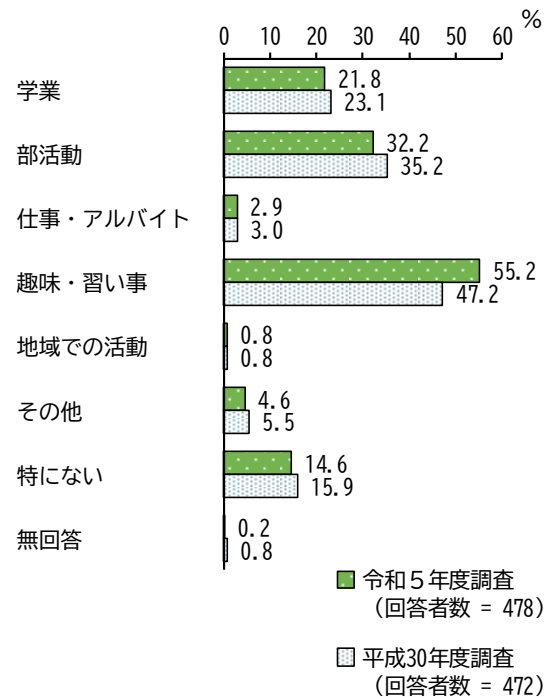
問 22 あなたは今、熱中していることがありますか。それはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

「趣味・習い事」の割合が 55.2%と最も高く、
次いで「部活動」の割合が 32.2%、「学業」の割合が 21.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「趣味・習い事」の割合が増加しています。

主な「その他」意見

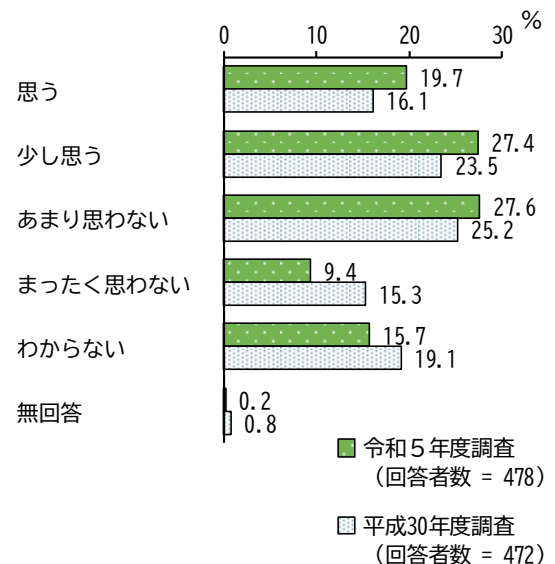
- ・ゲーム (9件)
- ・音楽関係 (3件)



問 23 あなたは将来、親と同居または親の近くに住みたいと思いますか。(○は1つ)

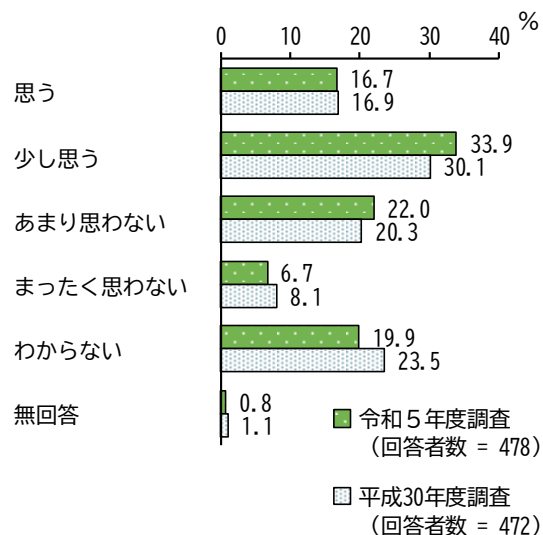
「少し思う」「あまり思わない」の割合がほぼ
同じ割合となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「まったく思
わない」の割合が減少し、「思う」「少し思う」
「あまり思わない」の割合が若干増加していま
す。



問 24 あなたは将来、多摩市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

「思う」「少し思う」を合わせた割合が 50.6%、
「あまり思わない」「まったく思わない」を合わせた割合が 28.7%となっています。



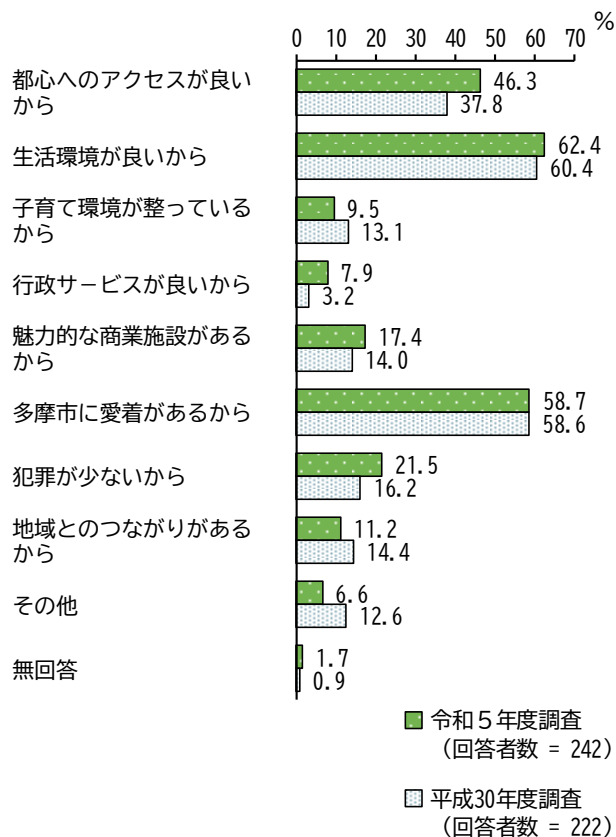
問 24-1 多摩市に住み続けたい理由 (あてはまるものすべてに○)

「生活環境が良いから」の割合が 62.4%と最も高く、次いで「多摩市に愛着があるから」の割合が 58.7%、「都心へのアクセスが良いから」の割合が 46.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「都心へのアクセスが良いから」「犯罪が少ないから」の割合が増加しています。

主な「その他」意見

- ・住み慣れているから (3件)
- ・両親がいるから (3件)
- ・災害が少ないから (3件)
- ・緑が多いから (3件)
- ・安心したり落ち着くことができるから (3件)
- ・丁度良いから (2件)



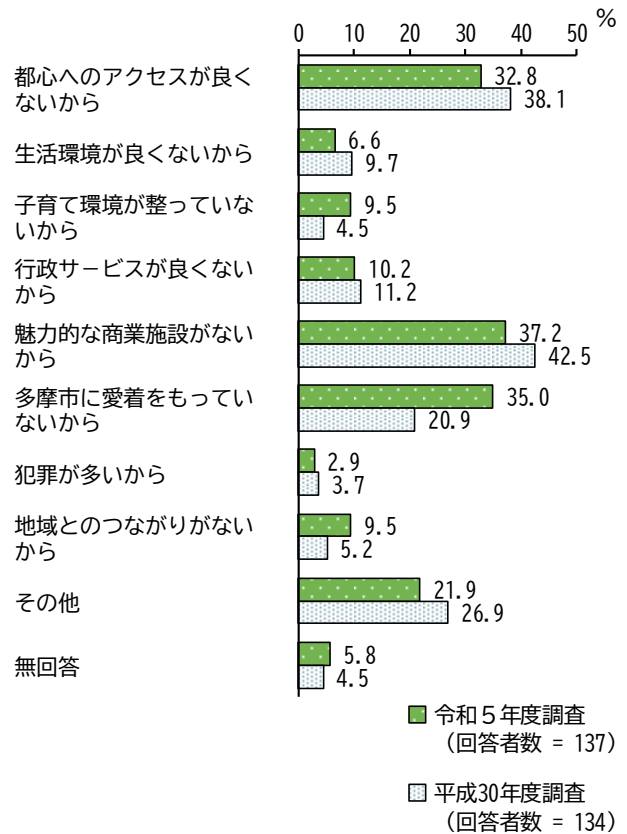
問 24-2 多摩市に住みたいと思わない理由（あてはまるものすべてに○）

「魅力的な商業施設がないから」の割合が37.2%と最も高く、次いで「多摩市に愛着をもっていないから」の割合が35.0%、「都心へのアクセスが良くないから」の割合が32.8%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「多摩市に愛着をもっていないから」の割合が増加しています。一方、「都心へのアクセスが良くないから」「魅力的な商業施設がないから」の割合が減少しています。

主な「その他」意見

- ・他の所に住んでみたいから（6件）
- ・都心に住みたいから（4件）
- ・坂が多いから（2件）

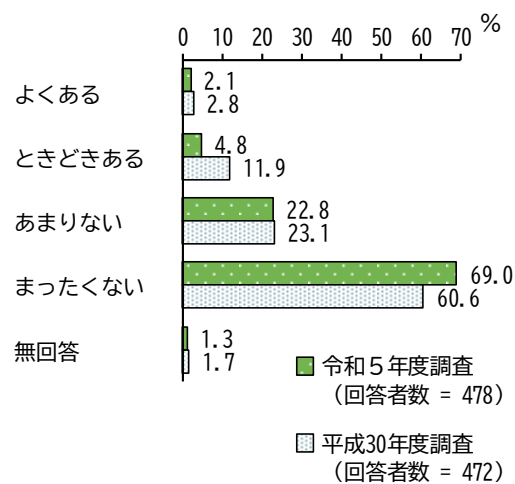


(8) あなたの持ち物について

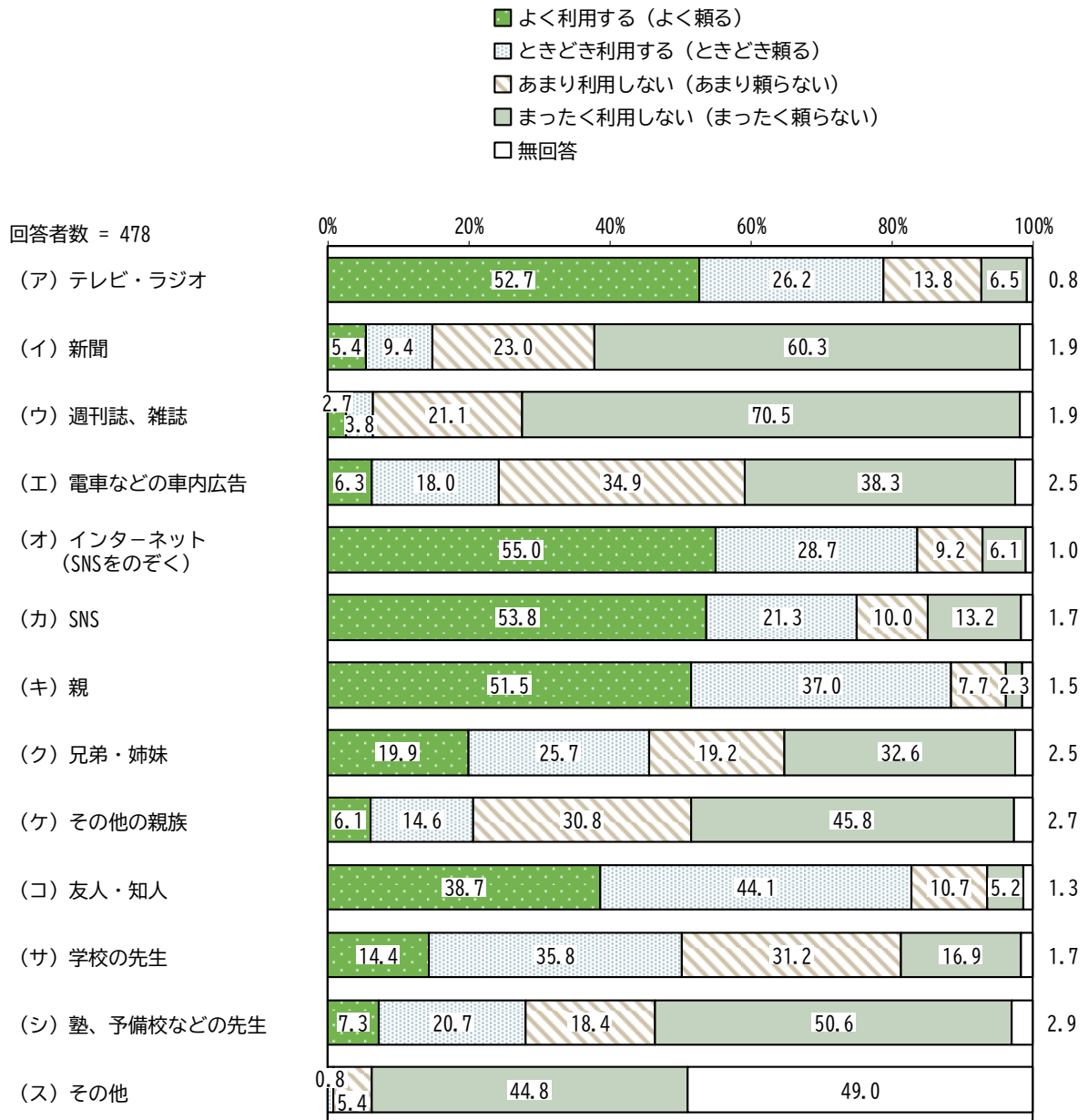
問 25 あなたは、ふだんの生活の中で、お金が足りなくて、必要とする文具や教材が買えないことはありますか。(○はひとつだけ)

「まったくない」の割合が 69.0%と最も高く、次いで「あまりない」の割合が 22.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「よくある」「ときどきある」の割合が減少しています。

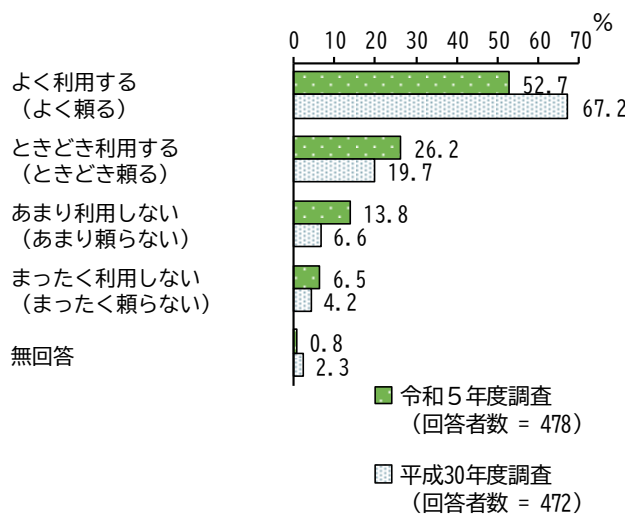


問 26 あなたは世の中の出来事や身近な情報を知る際に、何を利用し、誰に頼りますか。(○はそれぞれひとつ)

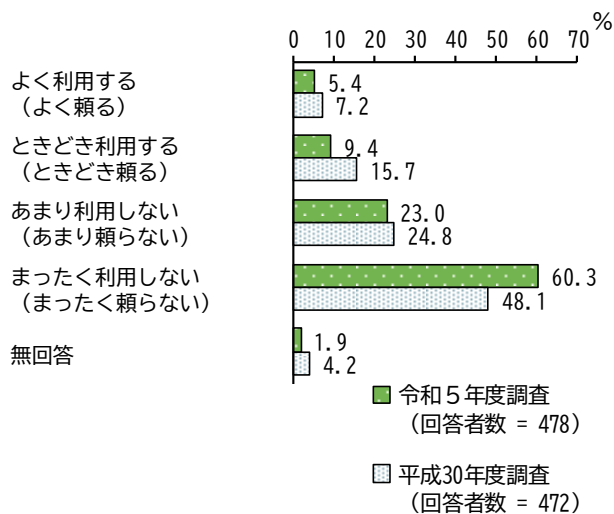


<項目ごとの経年比較>

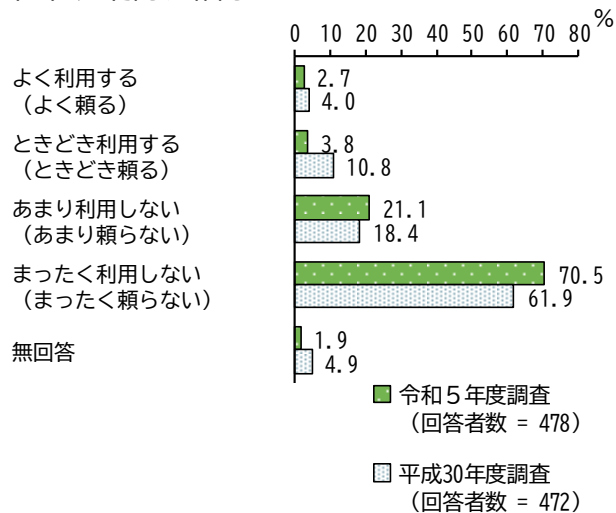
(ア) テレビ・ラジオ



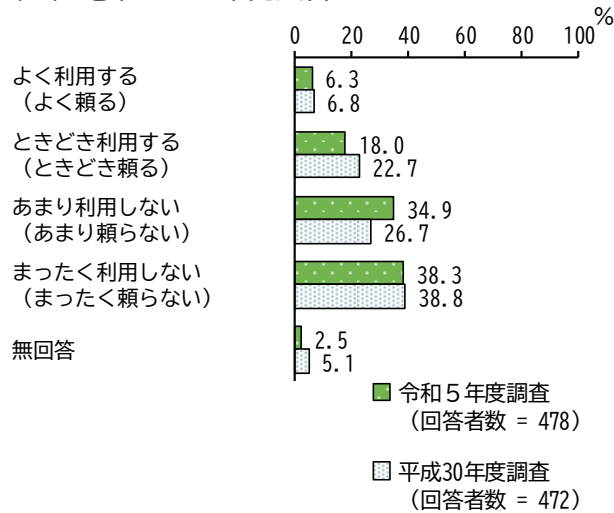
(イ) 新聞



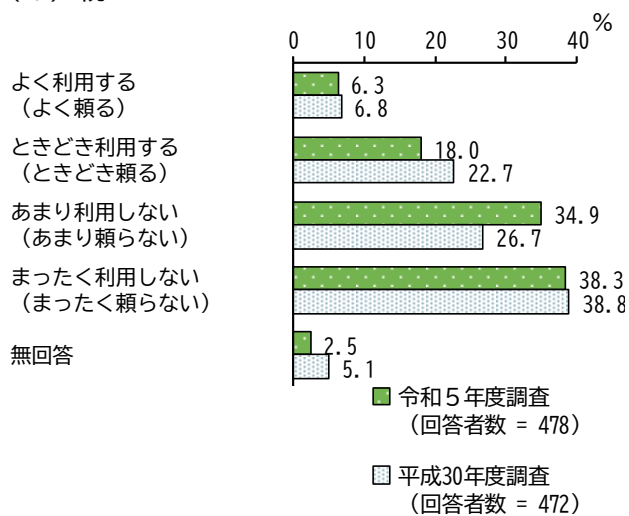
(ウ) 週刊誌、雑誌



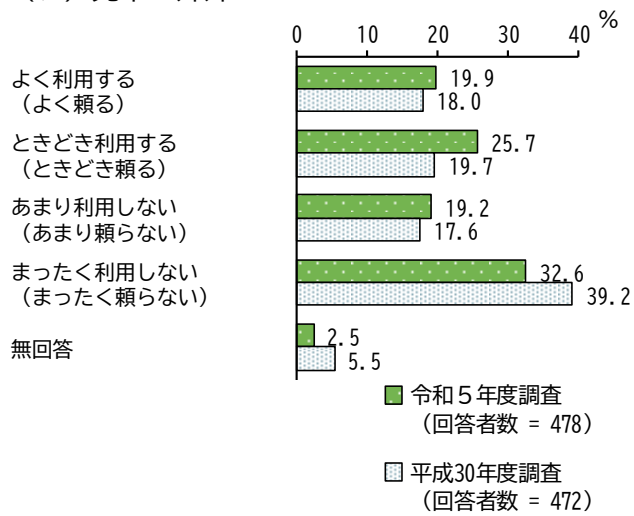
(エ) 電車などの車内広告



(キ) 親

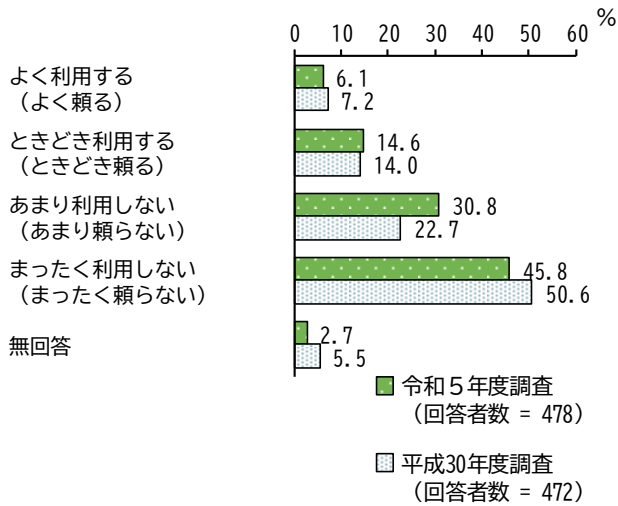


(ク) 兄弟・姉妹

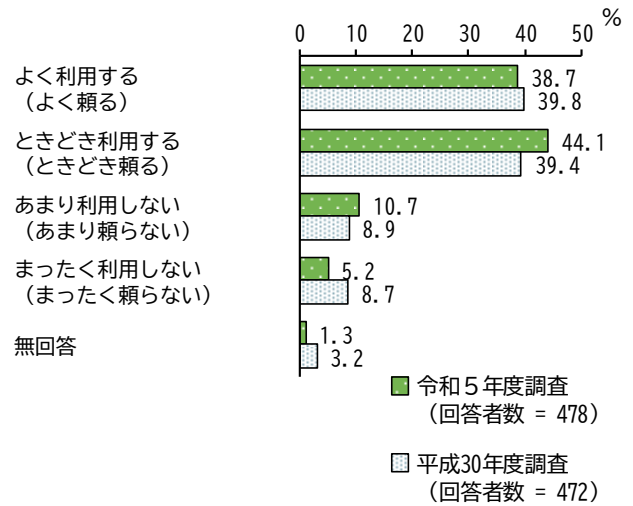


A-3 中高生世代用

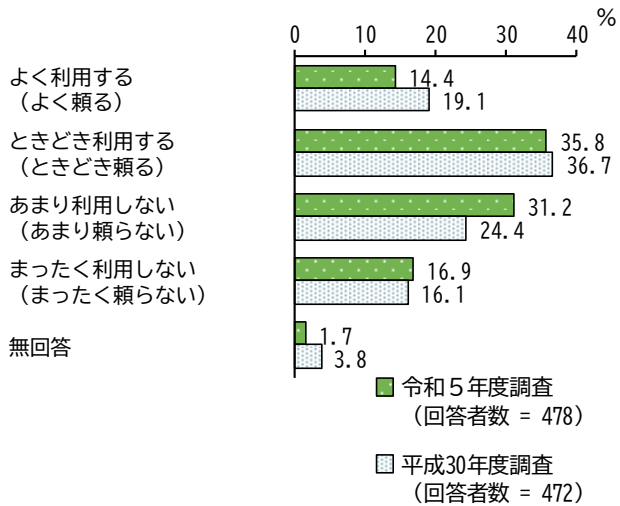
(ケ) その他の親族



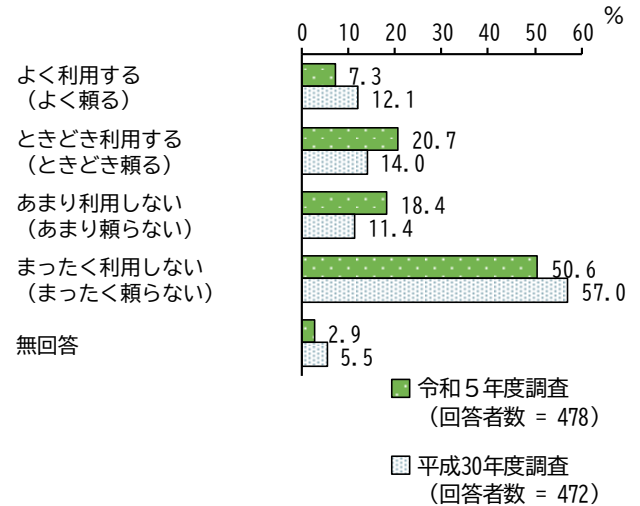
(コ) 友人・知人



(サ) 学校の先生



(シ) 塾、予備校などの先生



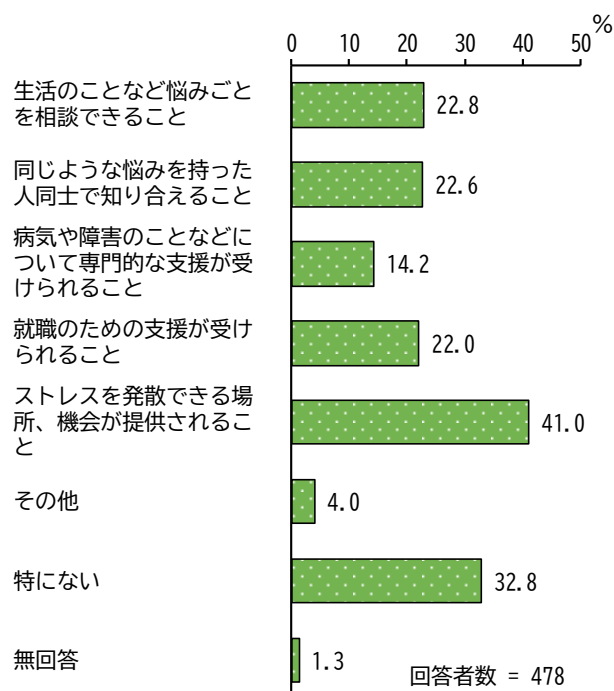
(9) 多摩市への意見や要望について

問 27 あなたが現在必要としていることで、重要だと思う支援はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

「ストレスを発散できる場所、機会が提供されること」の割合が 41.0%と最も高く、次いで「特にない」の割合が 32.8%、「生活のことなど悩みごとを相談できること」「同じような悩みを持った人同士で知り合えること」の割合が 22%台となっています。

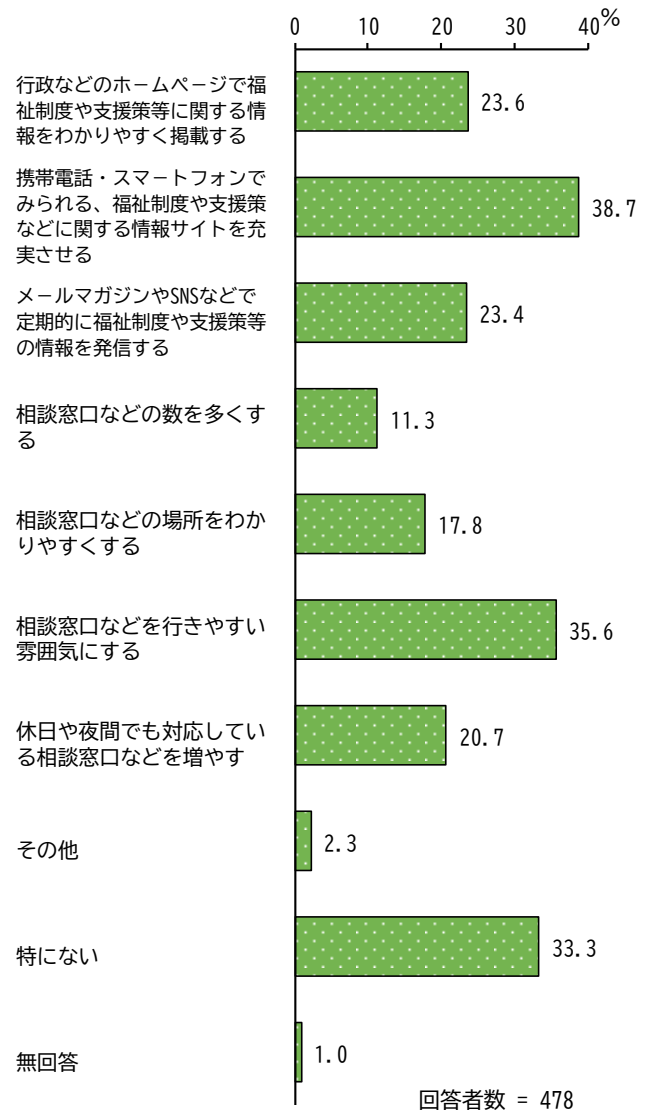
主な「その他」意見

- ・教育的な支援が受けられること (6件)
- ・図書館等での自習スペースの増加や拡大 (4件)
- ・経済的な支援が受けられること (2件)
- ・進路について相談できる場所 (2件)



問 28 あなたが必要な支援を受けるために重要だと思うことを教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

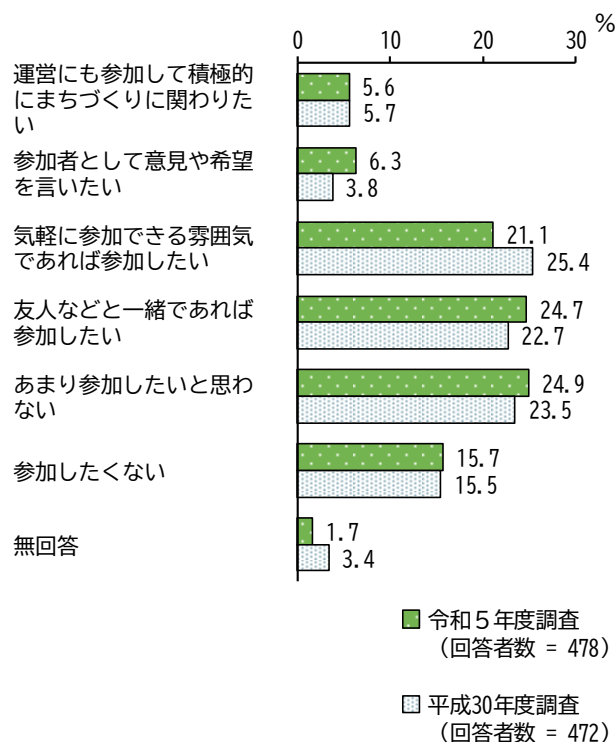
「携帯電話・スマートフォンでみられる、福祉制度や支援策などに関する情報サイトを充実させる」の割合が 38.7%と最も高く、次いで「相談窓口などを行きやすい雰囲気にする」の割合が 35.6%、「特にない」の割合が 33.3%となっています。



問 29 あなたは市のまちづくりについて、意見や自分の希望を言えるような機会があるとしたら、参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

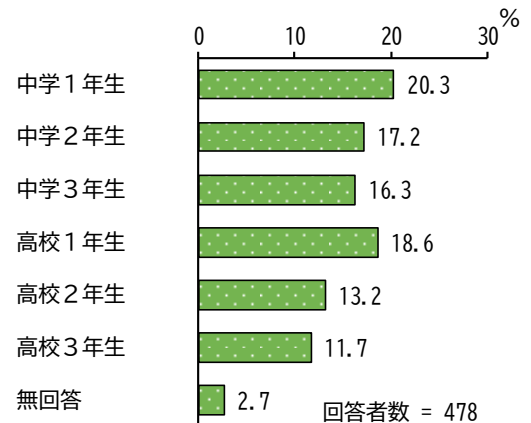
「あまり参加したいと思わない」「友人などと一緒にあれば参加したい」がほぼ同じ割合となっています。次いで、「気軽に参加できる雰囲気であれば参加したい」の割合が高くなっています。

「参加したくない」の割合は 15.7%、「あまり参加したいと思わない」と合わせると 40.6%となっています。

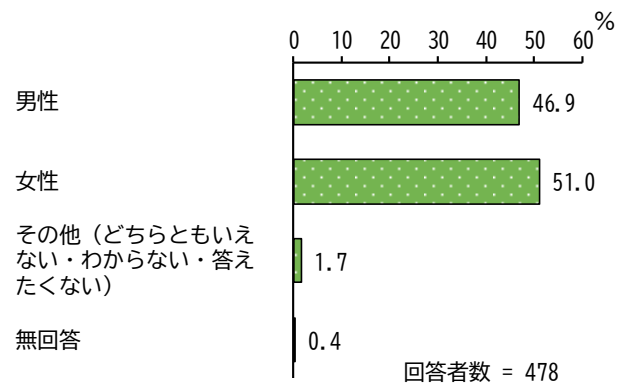


(10) あなたとご家族、お住まいについて

問 30 あなたの生年月を教えてください。(数字で具体的に)

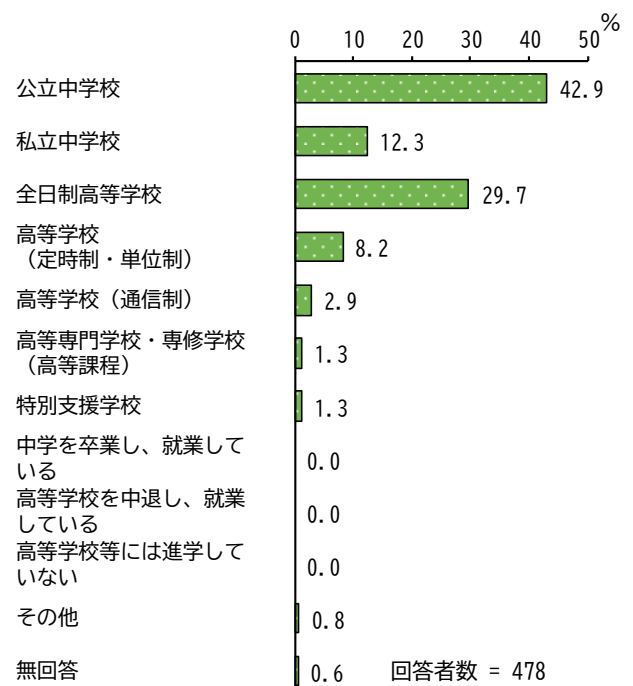


問 31 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)



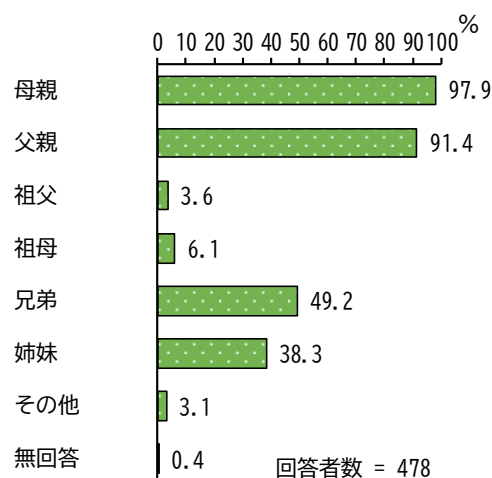
問 32 あなたは次のうち、どちらに属していますか。(○は1つ)

「公立中学校」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「全日制高等学校」の割合が 29.7%、「私立中学校」の割合が 12.3%となっています。



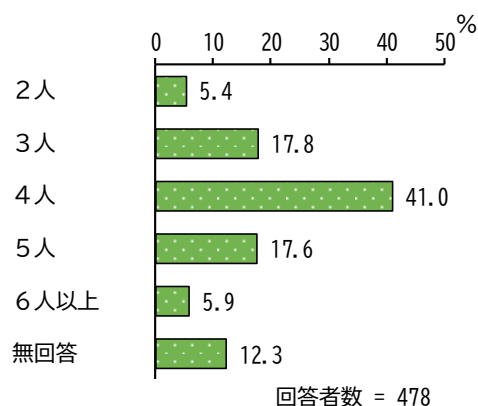
問 33 あなたと同居されているご家族すべてに○をつけてください。なお、続柄はあなたから見た関係です。また、あなたを含む同居している家族全員の人数を記入してください。

「母親」の割合が 97.9%と最も高く、次いで「父親」の割合が 91.4%、「兄弟」の割合が 49.2%となっています。

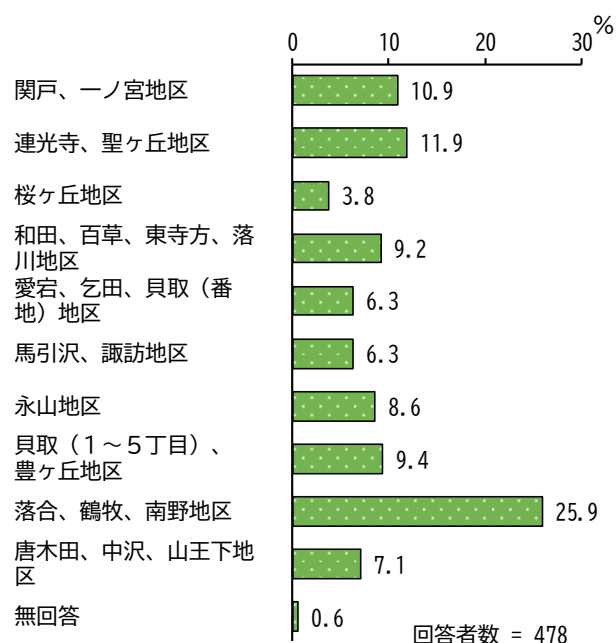


<家族の合計人数>

「4人」の割合が 41.0%と最も高く、次いで「3人」の割合が 17.8%、「5人」の割合が 17.6%となっています。



問 34 あなたのお住まいの地区はどこですか。(○は1つ)

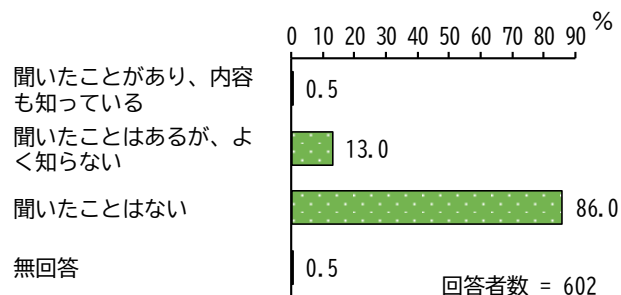


4 多摩市若者ニーズ調査【B】

(1) 令和4（2022）年4月につくられた「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」について

問1 「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」を知っていますか。（○は1つ）

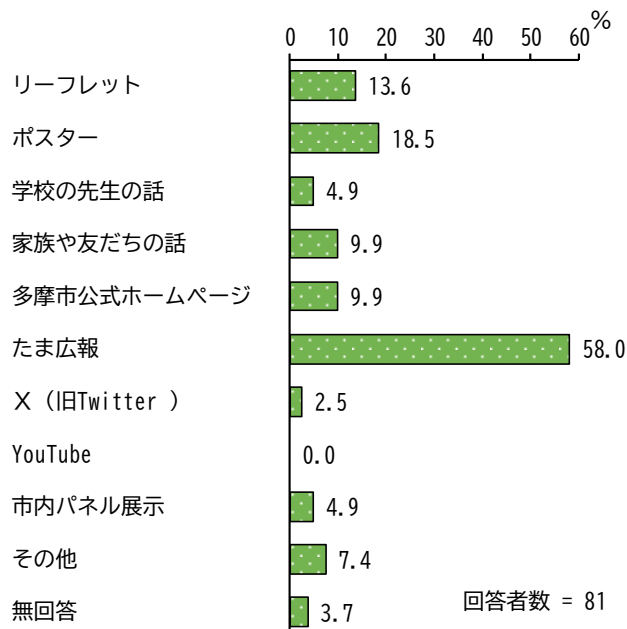
「聞いたことはない」の割合が86.0%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」の割合が13.0%となっています。



【問1で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた方におうかがいします】

問1-1 「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」をどのような方法で見たり聞いたりしますか。（あてはまるものすべてに○）

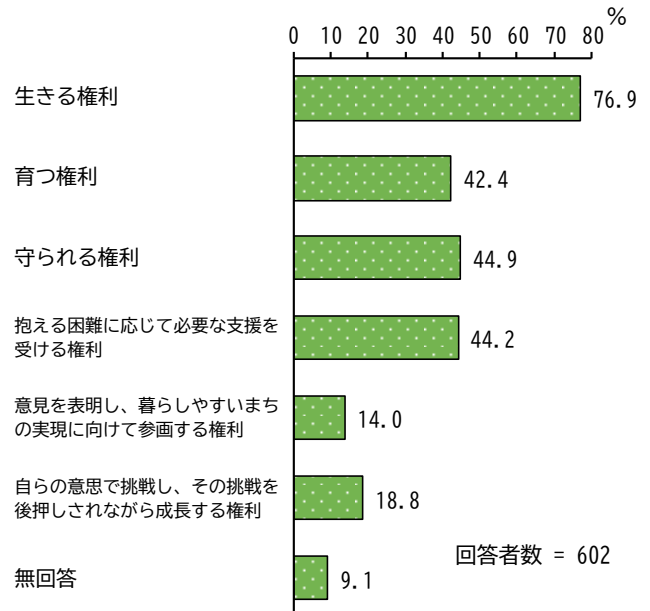
「たま広報」の割合が58.0%と最も高く、次いで「ポスター」の割合が18.5%、「リーフレット」の割合が13.6%となっています。



問2 「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」には、次のような6つの子ども・若者の権利が示されています。

問2-1 6つの子ども・若者の権利のうち、自分にとって大切だと思うものがありますか。あてはまるものを最大3つまで選び、大切だと思う順にその番号と理由を書いてください。

「生きる権利」の割合が 76.9%と最も高く、次いで「守られる権利」の割合が 44.9%、「抱える困難に応じて必要な支援を受ける権利」の割合が 44.2%となっています。



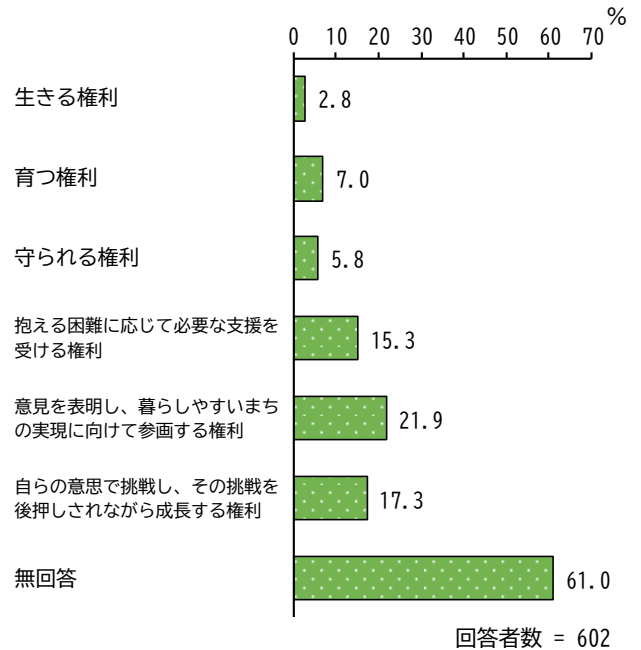
<大切だと思う主な理由>

※ () は意見数

項目	主な意見（要約）
1. 生きる権利 (338)	・まずは、衣・食・住を確保できなければ、他の支援を受けることができないと思うから。 ・まず生きていけないと、他の権利も何の意味もなくなってしまうから。 ・命は他の何にも代えがたく、最も尊いものであると考えるから。 ・親を子を選べない中で生まれた命はみんなで守るべき。 ・近年では児童虐待やネグレクトなど子どもの命が脅かされているニュース、事件が多くあるため。
2. 育つ権利 (163)	・自分の子どもには学業だけにとらわれず、幅広い分野に興味関心を持って自分にあった能力を見つけて伸ばしてほしいと思うため。 ・育つ環境が人格育成にかなり影響すると思うから。 ・自身の能力を伸ばす権利が発揮されない場合、生まれ持った素質と与えられた環境に依存する人生を歩まざるを得ないから。 ・知識や能力が伸ばせればいざと言うとき臨機応変に対応でき、将来生きていく選択肢が多く得られるため。 ・少子高齢化が進むため、子どもの教育の質が大切になると思うから。
3. 守られる権利 (177)	・昨今知らぬ間に犯罪等に加担するケースもあるため、それらから自分を守る知識を養うのが大切と感じた。 ・国外の情勢や、国内で子どもが巻き込まれるおそれのある危険を踏まえ、現在脅かされつつある権利だと感じるから。 ・人間には「不当な被害を受けずに人生を生きる権利」があると思うから。 ・社会の情勢が不安な中で、守られる権利をしっかり確保することが大切だと思ったから。 ・女性、子ども、老人など比較的弱い立場にある人は守られるべきだと思うから。
4. 抱える困難に応じて必要な支援を受ける権利 (182)	・自分自身ではどうしても出来ない時に、福祉の支援が受けられるのであれば最悪の事態にはならないと思ったため。 ・困難に限らず一人ひとりがもつ特性が認め、受け入れられ、合理的配慮のもと、誰もが生きやすい環境であってほしいから。 ・予想外のことが起きた時に助けてもらえる制度が充実してほしいから。 ・自分ではどうしてもない困難な状況に置かれたときに、健康で文化的な最低限の生活を送ることができる状態に回復するためには第三者からの支援が必要だから。 ・それぞれ家庭環境が違い、一人一人に向き合った支援が必要だから。
5. 意見を表明し、暮らしやすいまちの実現に向けて参画する権利 (58)	・少子高齢化社会、特に進む多摩の中で、我々若者の意見は投じられるべきである。 ・若者であっても住みよい町づくりのためのアイデア出しは大切。 ・私たちの意見によって未来が変わるから。
6. 自らの意思で挑戦し、その挑戦を後押しされながら成長する権利 (78)	・人は挑戦することで成長すると思うからその後押しをしてほしい。 ・挑戦に伴うリスクを軽減することで、発想力や行動力のある有望な人材を呼び込めると考えるため。 ・基礎的な権利が整った環境では、自己を成長させる経験はとても重要だから。

問2-2 6つの子ども・若者の権利のうち、あなた自身が守られていないと思うもの
 はありますか。あれば最大3つまで選び、守られていないと思う順にその番
 号と理由を書いてください。

「意見を表明し、暮らしやすいまちの実現に
 向けて参画する権利」の割合が21.9%と最も高
 く、次いで「自らの意思で挑戦し、その挑戦を
 後押しされながら成長する権利」の割合が
 17.3%、「抱える困難に応じて必要な支援を受
 ける権利」の割合が15.3%となっています。



<守られていないと思う理由>

※（ ）は意見数

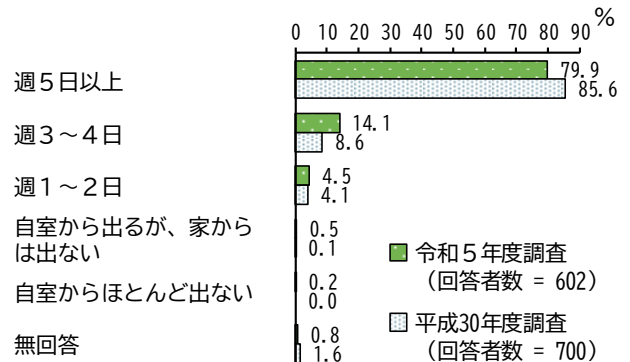
項目	主な意見（要約）
1. 生きる権利（10）	・生きていく上での食費など色々が高すぎて、支出が多いから。
2. 育つ権利（33）	・地域格差、親の収入格差による、教育環境の差があるから。 ・多摩市だけの問題ではないが、飛び級制度がない限り、能力を伸ばして成長できると言い難いから（教育が画一的である）。 ・個人に合わせた教育ではないと思うから。 ・知的障害など、子どもに合った通級などが、数や学校が遠くで通級しづらい。もう少し通級などの数や学校を増やしてほしい。
3. 守られる権利（19）	・万が一、紛争で難民になった時にどのように守ってくれるのかがあまりよく分かっていないため。 ・どこにどう助けを求めに行ったら良いのか等が分からない。 ・第三者からの外的要因から自分を守るのは難しいから。
4. 抱える困難に応じて必要な支援を受ける権利（61）	・困っている時に頼れると感じる人や物、制度がないと感じるから。 ・困難なことがあったときに助けてもらった記憶がないから。 ・学校以外での相談窓口がまだまだ足りない様に思うから。 ・自身が不登校時代、必要な権利を受けられなかったから。
5. 意見を表明し、暮らしやすいまちの実現に向けて参画する権利（94）	・なにか意見があっても、上手く伝えることが出来ず流されてしまうことがあったりするため。 ・市民が参画して市政運営がされている印象がない。 ・意思表明をする機会や雰囲気はまだ確立されていないと感じているから。 ・若者の意見がどれだけ反映されて、どのような結果や成果があったのか聞いた事がない。 ・守られていないと言うより、自主的に調べないと分からない。
6. 自らの意思で挑戦し、その挑戦を後押しされながら成長する権利（65）	・保育園や学童に入れないと仕事ができず、自己のキャリアアップが後回しになることを危惧しているから。 ・意思決定に関わる過程のサポートが不足している気がする。 ・子どもや若者がやりたいと思うことに対して色々な制約があり、後押しどころか制限しているように思うため。 ・自分が成長するための自己投資をしたい時に何が近くにあるのかが不明瞭なため。 ・生活の維持がやっと。挑戦する余裕がない。

(2)『あなたの生活』について

問3 あなたは、週にどのくらい外出しますか。平均の外出日数を教えてください。
(○は1つ)

「週5日以上」の割合が79.9%と最も高く、次いで「週3～4日」の割合が14.1%となっています。

平成30年度調査と比較すると、週4日以下の割合が増加しています。一方、「週5日以上」の割合が減少しています。



【問3で「1.週5日以上」「2.週3～4日」「3.週1～2日」と答えた方におうかがいします】

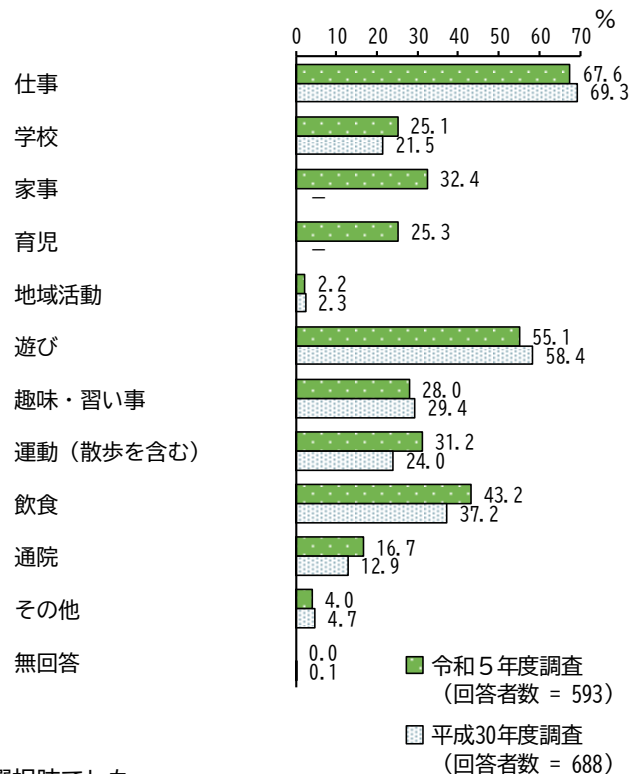
問3-1 外出の目的は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「仕事」の割合が67.6%と最も高く、次いで「遊び」の割合が55.1%、「飲食」の割合が43.2%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「運動（散歩を含む）」「飲食」の割合が増加しています。

主な「その他」意見

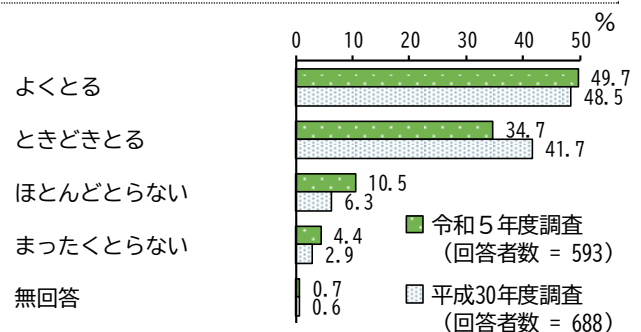
- ・アルバイト (10件)
- ・買い物 (7件)



※平成30年度調査では、「家事」「育児」は1つのまとまった選択肢でした。

問3-2 外出した際、友人や知人とコミュニケーションをとりますか。(○は1つ)

「よくとる」の割合が49.7%と最も高く、次いで「ときどきとる」の割合が34.7%、「ほとんどとらない」の割合が10.5%となっています。



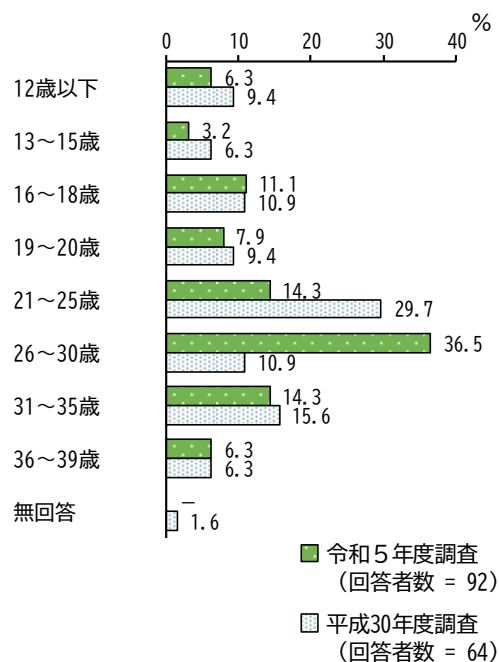
B 多摩市若者ニーズ調査

【問3で「4. 自室から出るが、家からは出ない」「5. 自室からほとんど出ない」または問3-2で「3. ほとんどとらない」「4. まったくとらない」と答えた方におうかがいします】

問3-3 現在の状態になったのはあなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

「26～30歳」の割合が36.5%と最も高く、次いで「21～25歳」、「31～35歳」の割合が14.3%となっています。

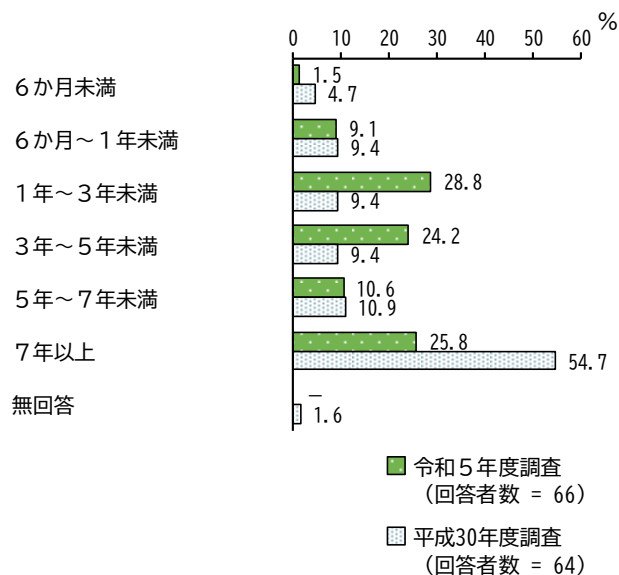
平成30年度調査と比較すると、「26～30歳」の割合が増加しています。一方、「21～25歳」の割合が減少しています。



問3-4 現在の状態になってどのくらい経ちますか。(○は1つ)

「1年～3年未満」の割合が28.8%と最も高く、次いで「7年以上」の割合が25.8%、「3年～5年未満」の割合が24.2%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「1年～3年未満」「3年～5年未満」の割合が増加しています。一方、「7年以上」の割合が減少しています。



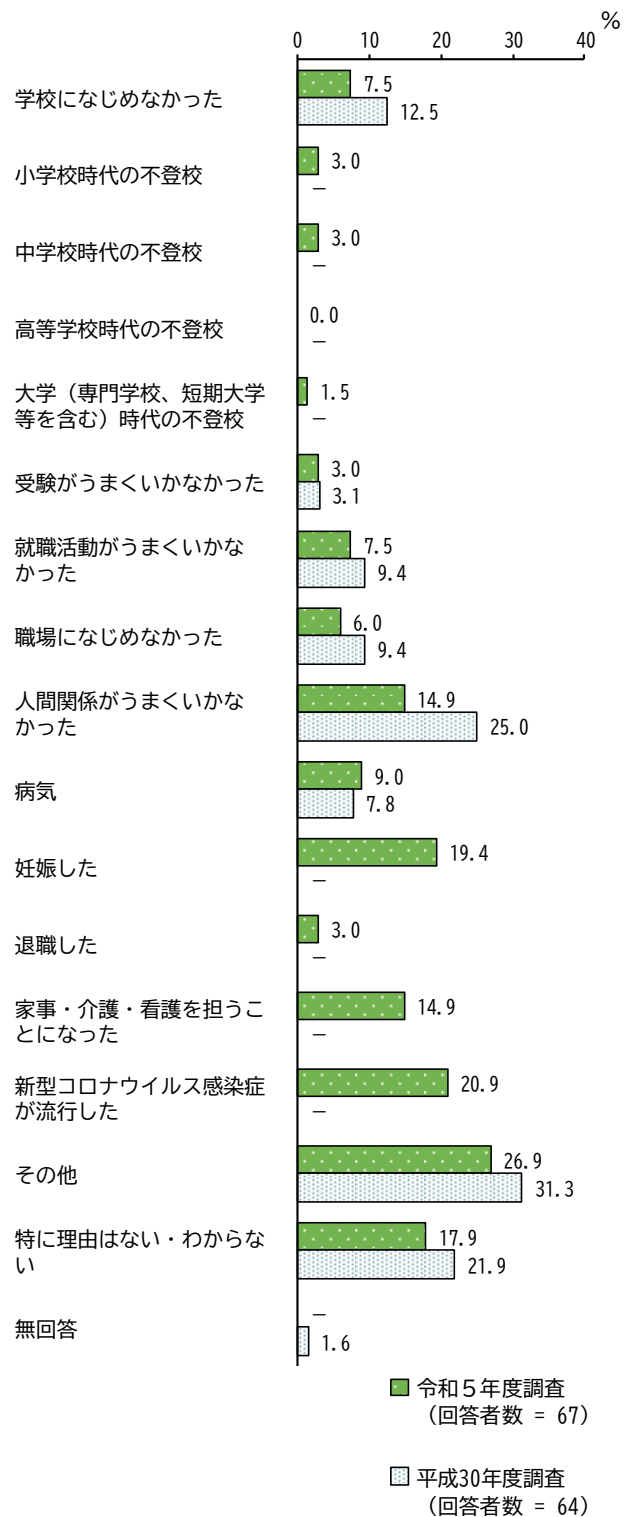
問3-5 現在の状態になったきっかけについて思いあたることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「新型コロナウイルス感染症が流行した」の割合が 20.9%と最も高く、次いで「妊娠した」の割合が 19.4%、「特に理由はない・わからない」の割合が 17.9%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「学校になじめなかった」「人間関係がうまくいかなかった」の割合が減少しています。

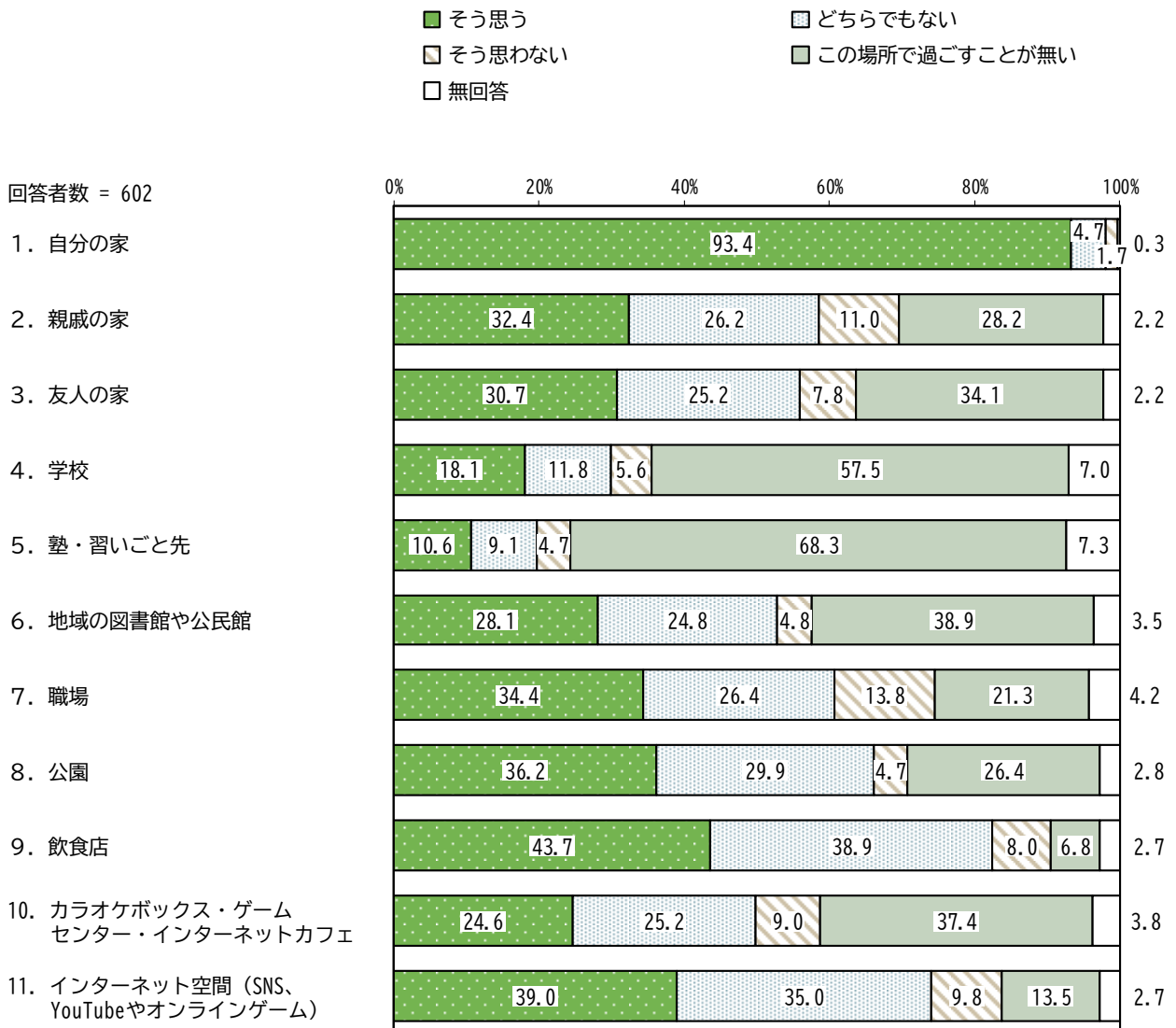
主な「その他」意見

- ・友人・知人と会わなくなったから (4件)
- ・仕事が忙しいから (3件)
- ・育児のため (3件)
- ・転職や引っ越しをしたため (3件)



※令和5年度調査で、「小学校時代の不登校」「中学校時代の不登校」「高等学校時代の不登校」「大学（専門学校、短期大学等を含む）時代の不登校」等の選択肢を追加しています。

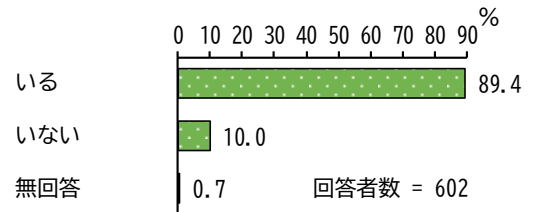
問4 次の場所は、あなたにとって居場所（活躍できる場所、ほっとできる場所、居心地の良い場所など）になっていますか。（あてはまるものすべてに○）



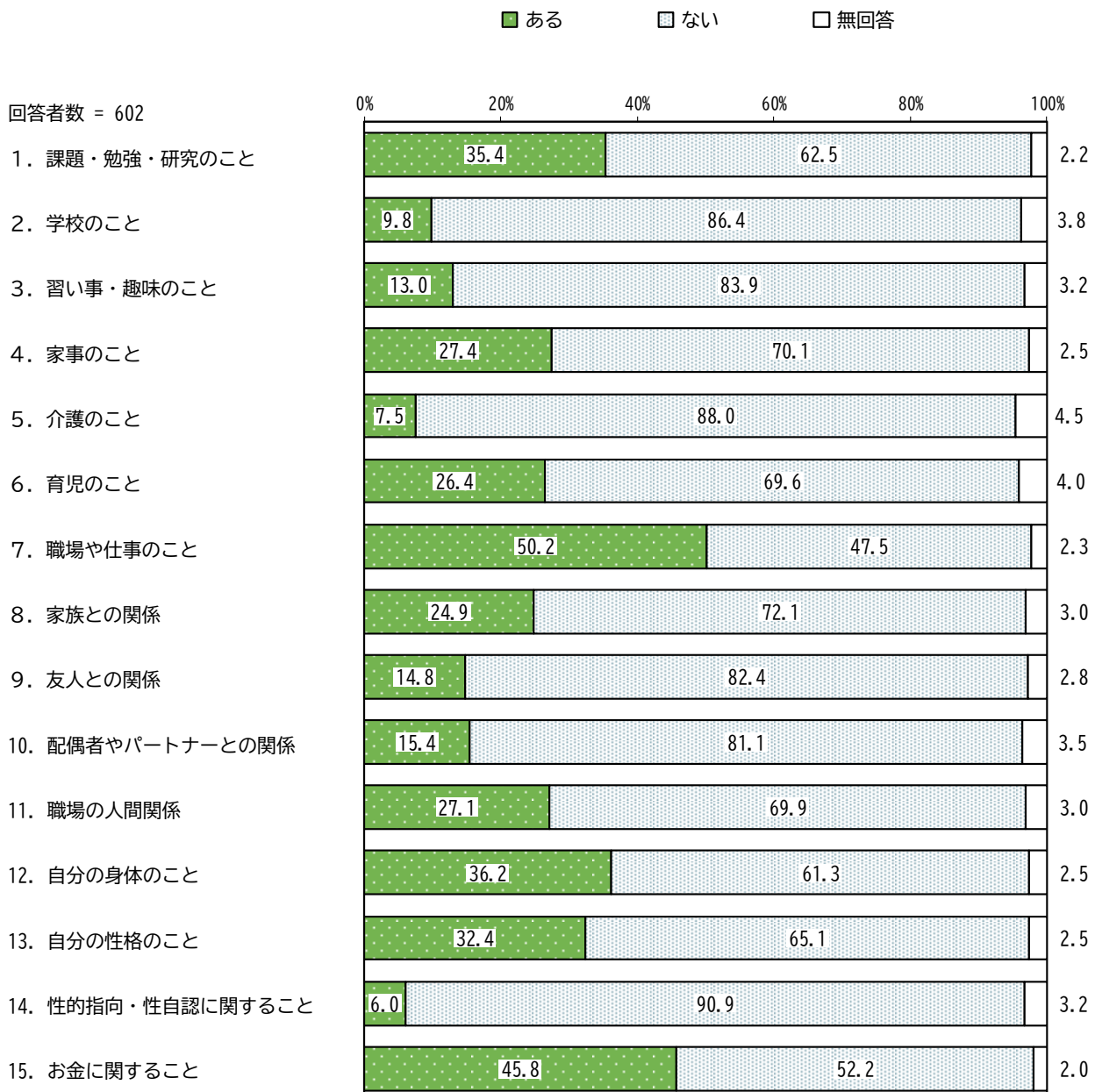
(3) 『あなたの悩みや相談するところ』について

問5 あなたには、安心して自分の気持ちや悩みを話せる人がいますか。(○は1つ)

「いる」の割合が 89.4%、「いない」の割合が 10.0%となっています。



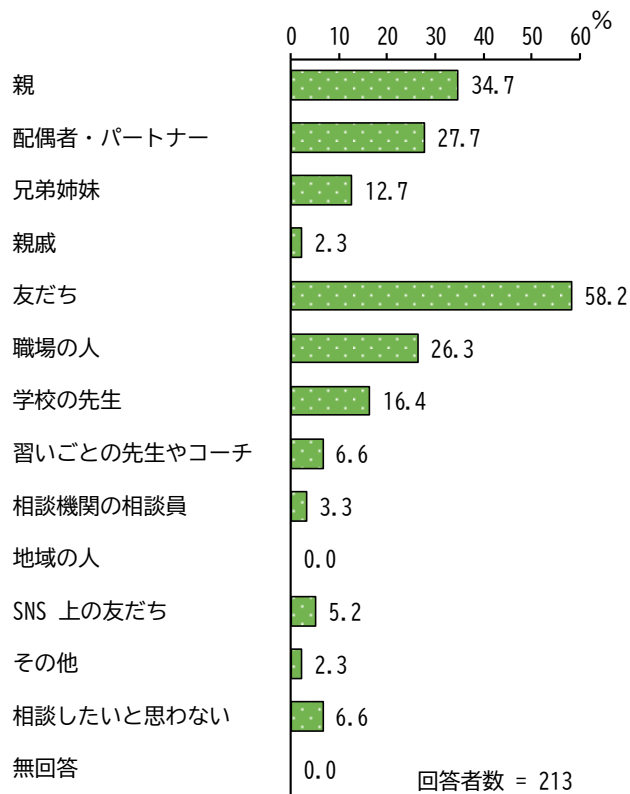
問6 あなたは次の1～15のことについて、困っていることや悩んでいることはありますか？また、困っていることや悩んでいることがある場合、誰に相談したいですか。(あてはまるものすべてに○)



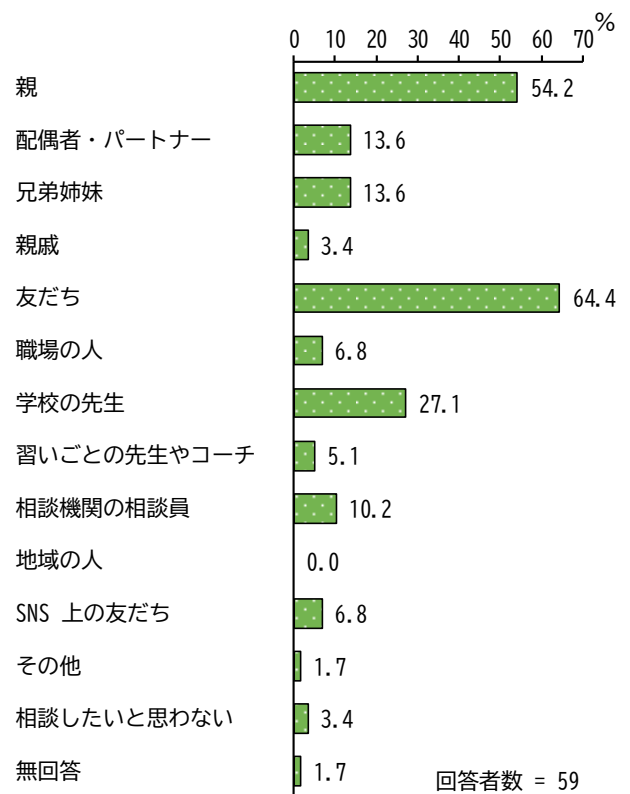
B 多摩市若者ニーズ調査

<誰に相談したいか（相談先）>

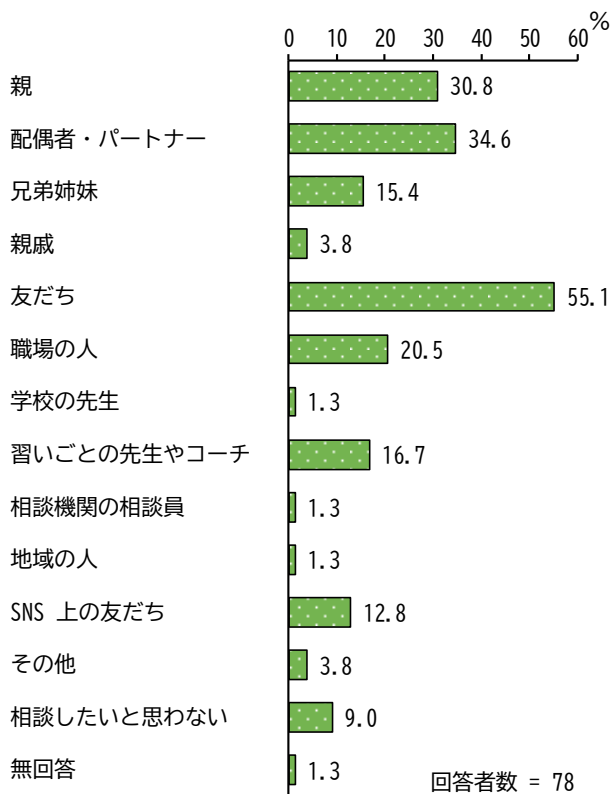
1. 課題・勉強・研究のこと



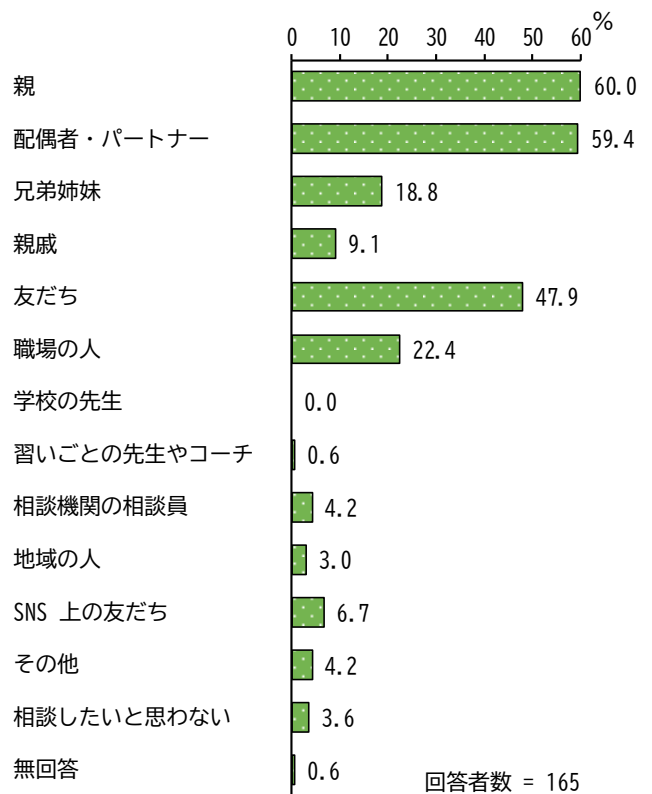
2. 学校のこと



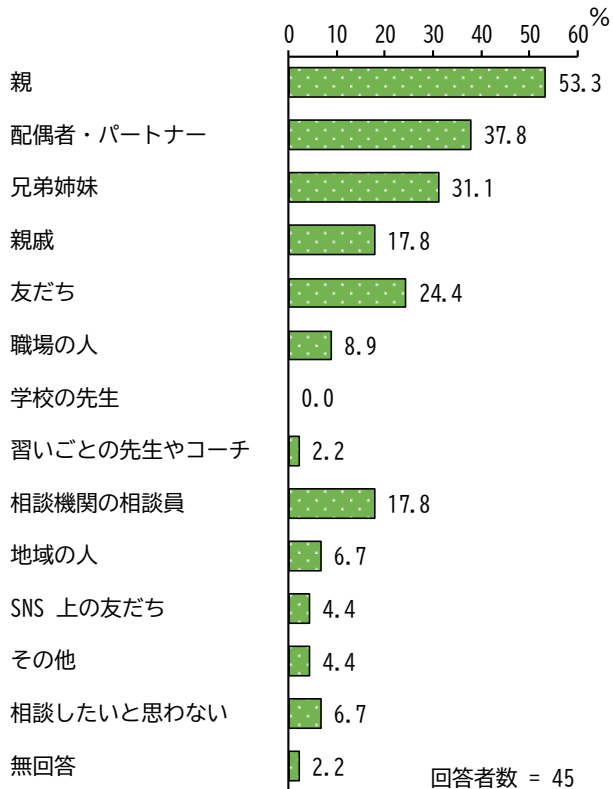
3. 習い事・趣味のこと



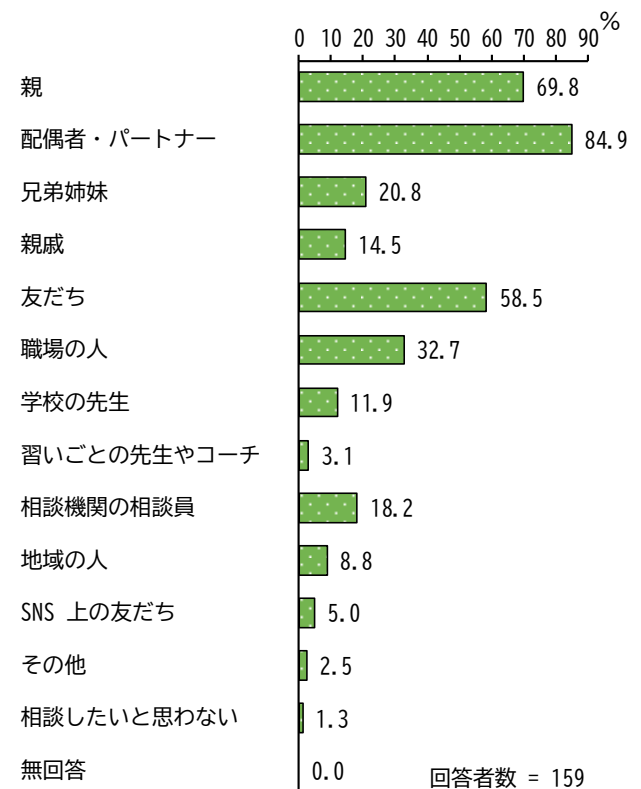
4. 家事のこと



5. 介護のこと



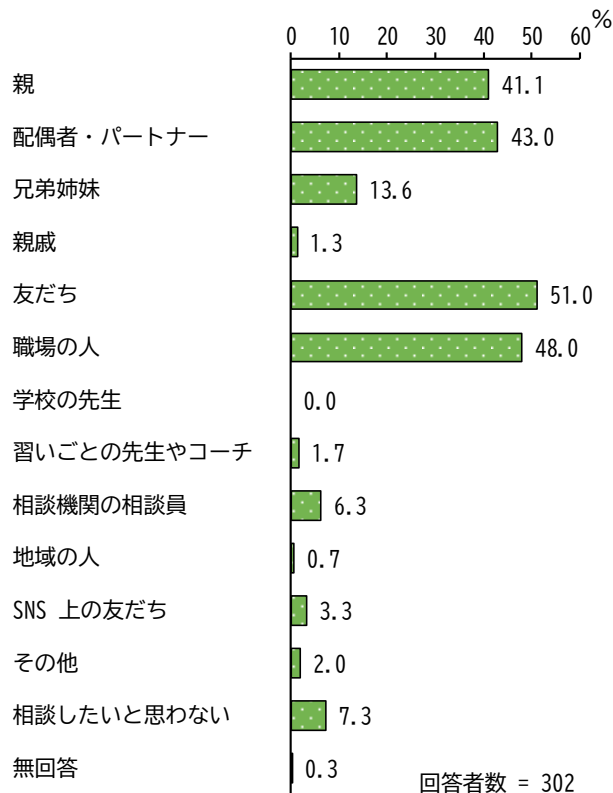
6. 育児のこと



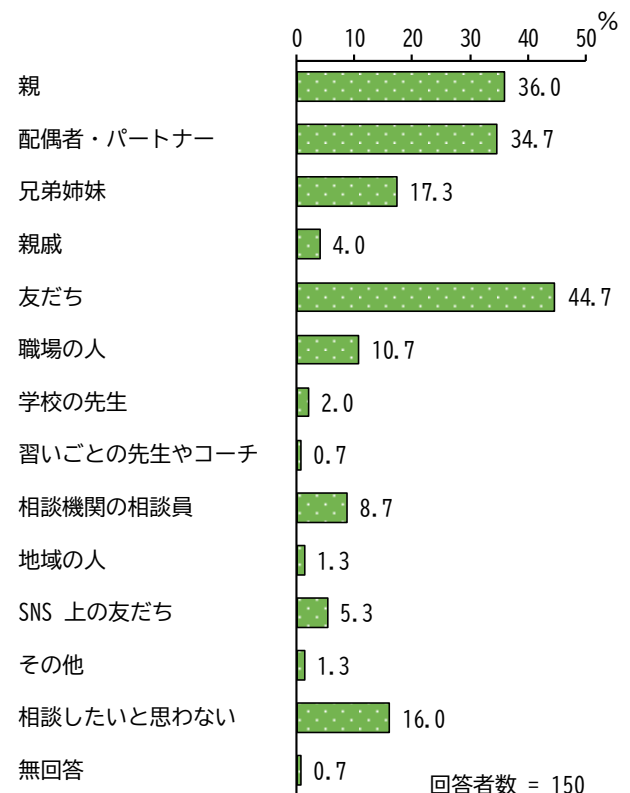
主な「その他」意見

- ・保育園の先生 (2件)
- ・児童館の職員 (2件)

7. 職場や仕事のこと

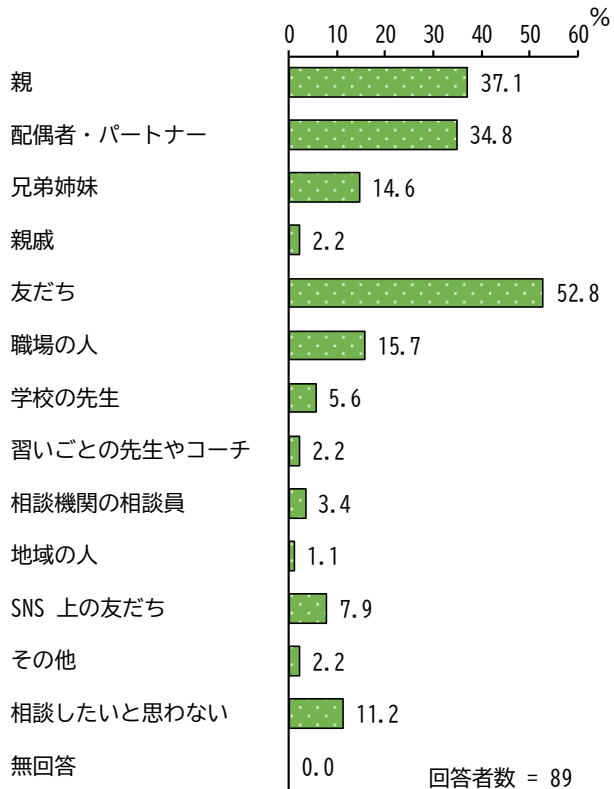


8. 家族との関係

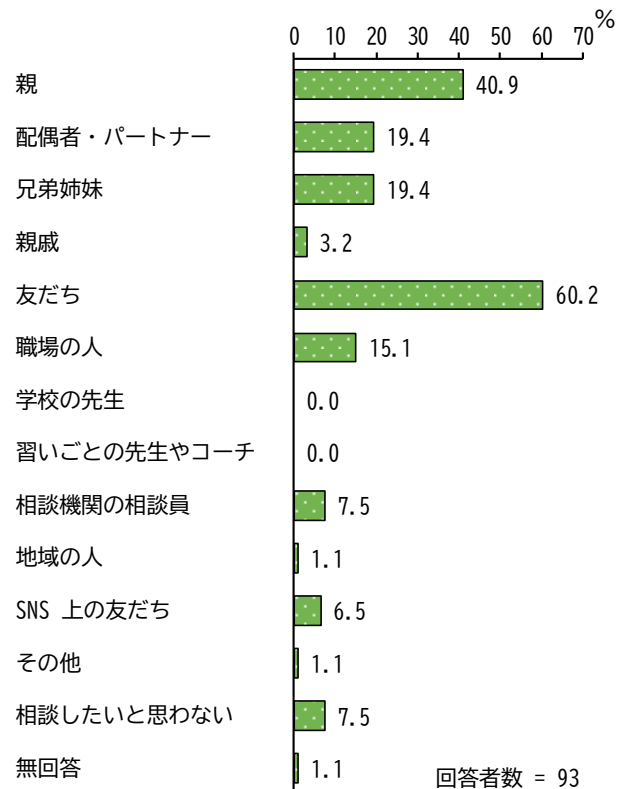


B 多摩市若者ニーズ調査

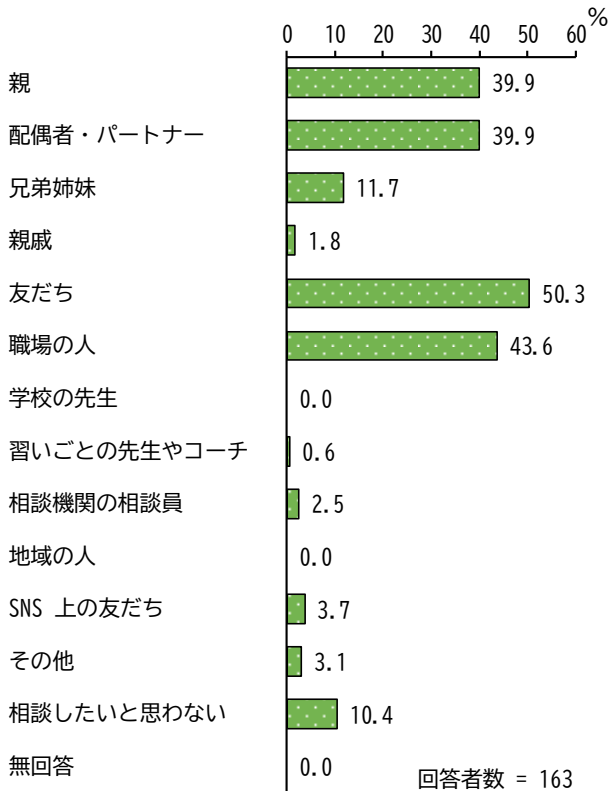
9. 友人との関係



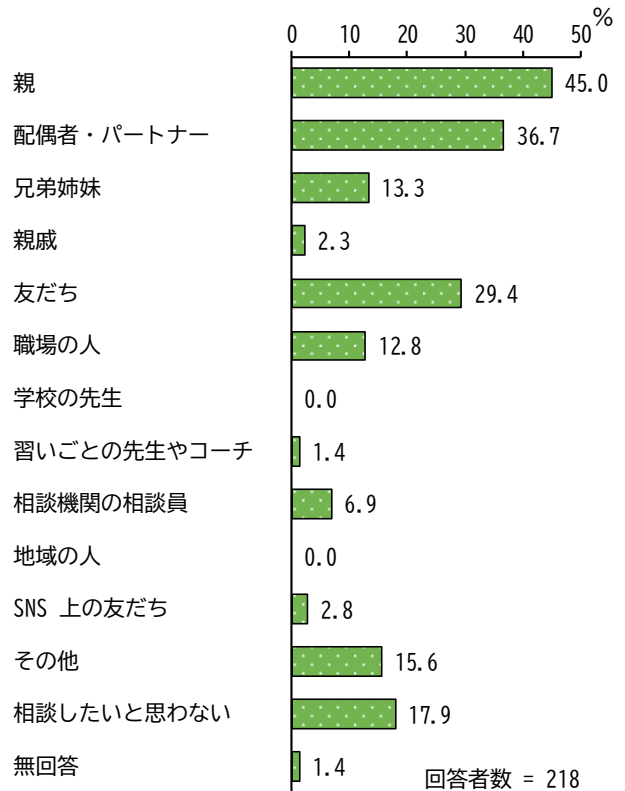
10. 配偶者やパートナーとの関係



11. 職場の人間関係

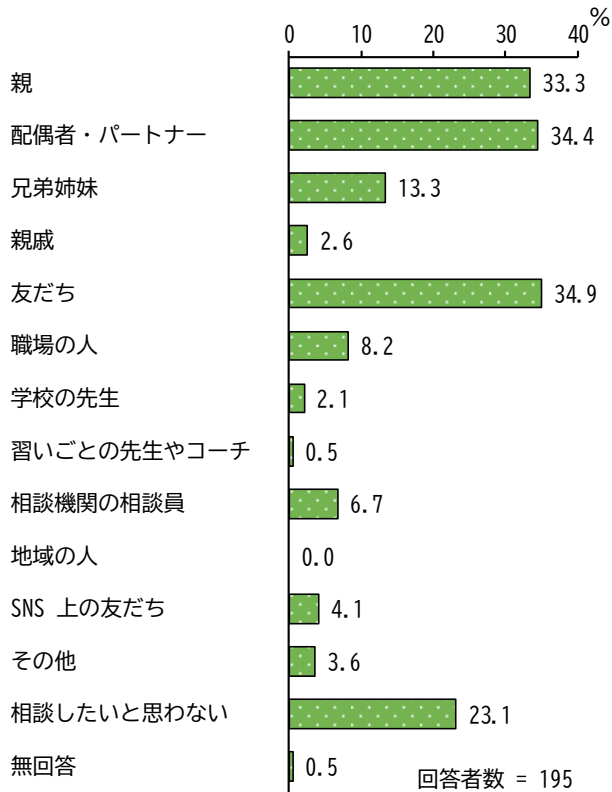


12. 自分の身体のこと

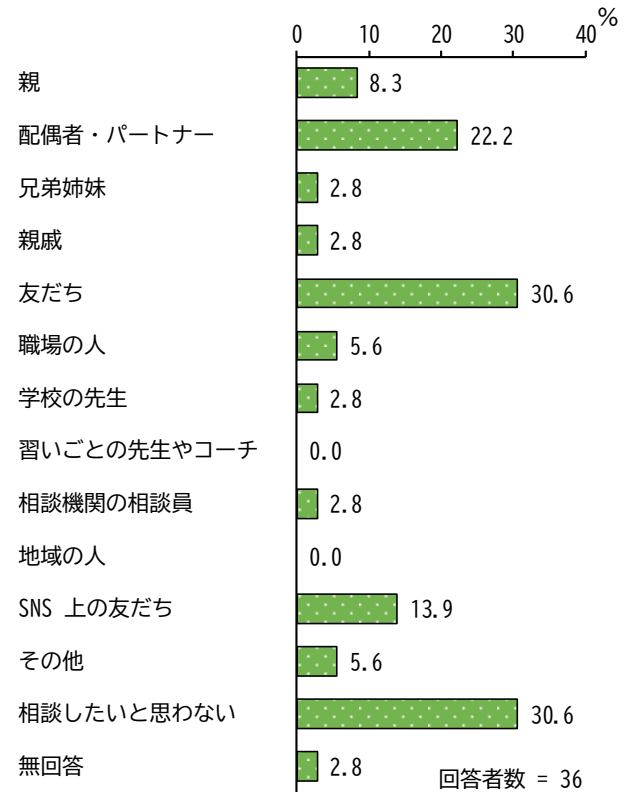


主な「その他」意見
・医者 (24件)

13. 自分の性格のこと

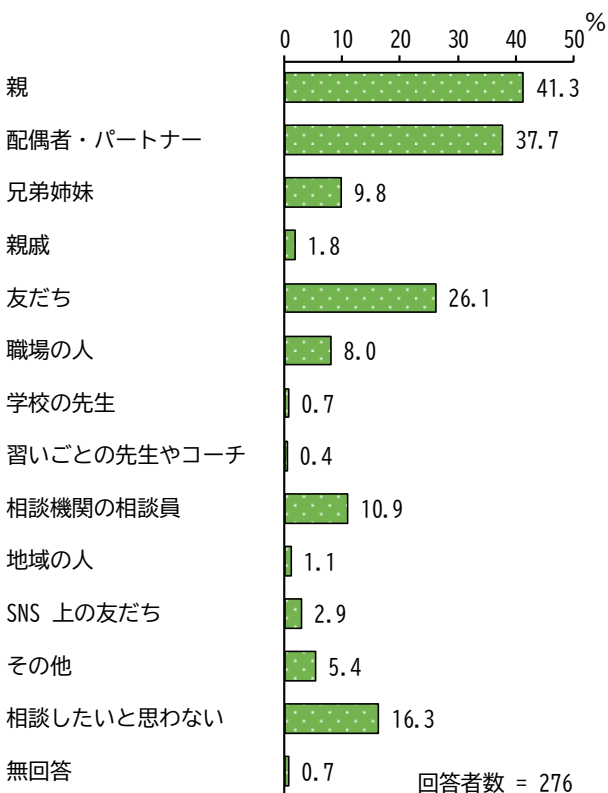


14. 性的指向・性自認に関すること



主な「その他」意見
・医者（2件）

15. お金に関すること



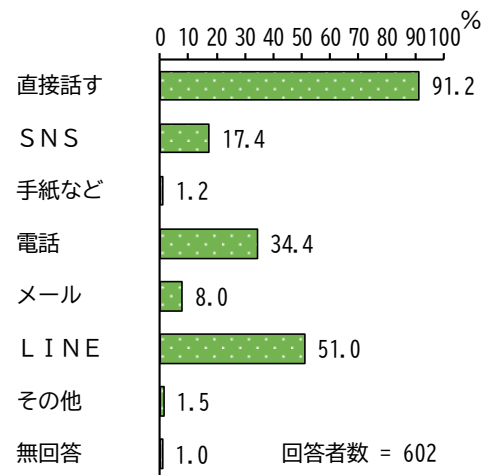
主な「その他」意見
・FP（ファイナンシャルプランナー）（3件）
・専門家（2件）

問7 あなたは、困ったり悩んだりしたとき、相談するとしたら、どのような方法で相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

「直接話す」の割合が91.2%と最も高く、次いで「LINE」の割合が51.0%、「電話」の割合が34.4%となっています。

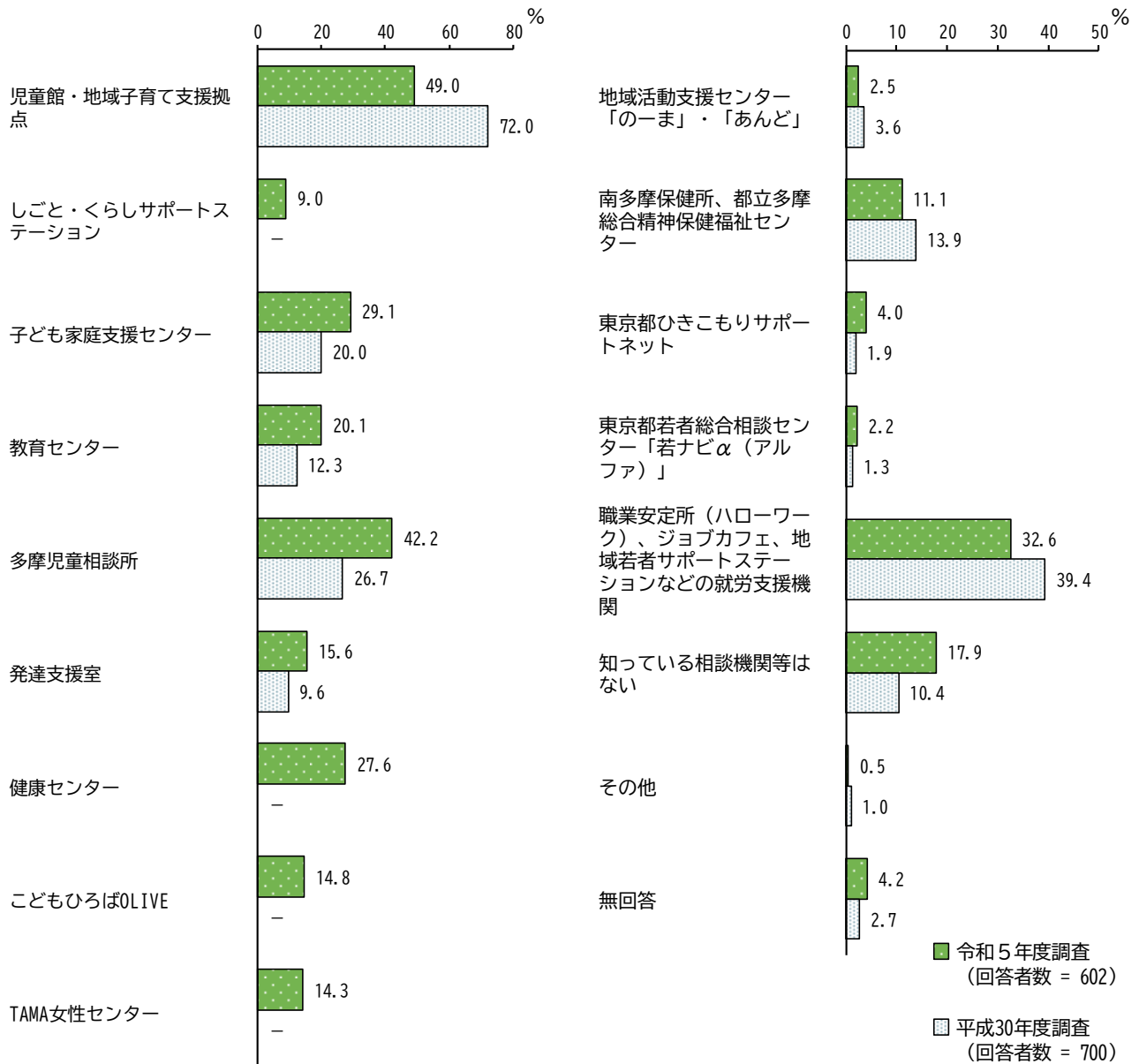
主な「その他」意見

・相談しない (4件)



問8 次のような子どもや若者を対象とした相談機関を知っていますか。
(知っているものすべてに○)

「児童館・地域子育て支援拠点」の割合が49.0%と最も高く、次いで「多摩児童相談所」の割合が42.2%、「職業安定所（ハローワーク）、ジョブカフェ、地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」の割合が32.6%となっています。



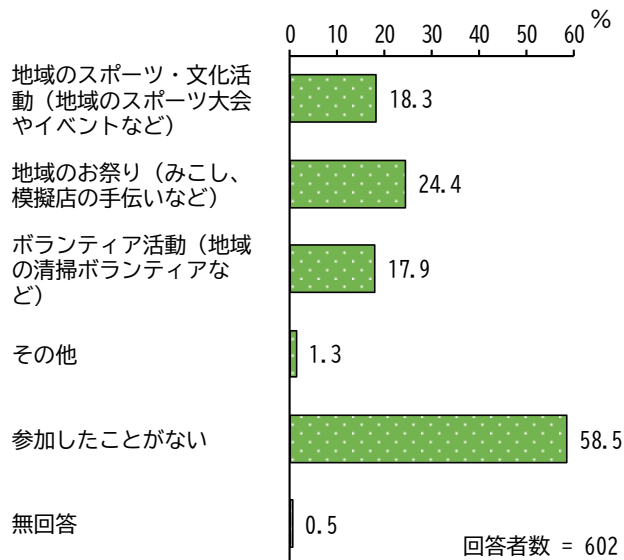
※令和5年度調査で、しごと・くらしサポートステーション」「健康センター」「こどもひろばOLIVE」「TAMA女性センター」の選択肢を追加しています。

※「子ども家庭支援センター」は、令和2年4月1日に、子育て総合センターから名称変更を行っています。

(4)『学校を含む社会・地域のこと』について

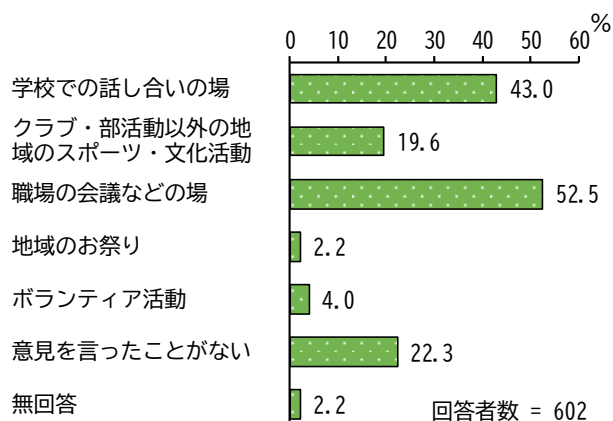
問9 あなたは、地域の活動・イベント・ボランティア等に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「参加したことがない」の割合が58.5%と最も高く、次いで「地域のお祭り（みこし、模擬店の手伝いなど）」の割合が24.4%、「地域のスポーツ・文化活動（地域のスポーツ大会やイベントなど）」の割合が18.3%となっています。



問10 あなたは、次のような場で、自分から意見を言ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「職場の会議などの場」の割合が52.5%と最も高く、次いで「学校での話し合いの場」の割合が43.0%、「意見を言ったことがない」の割合が22.3%となっています。

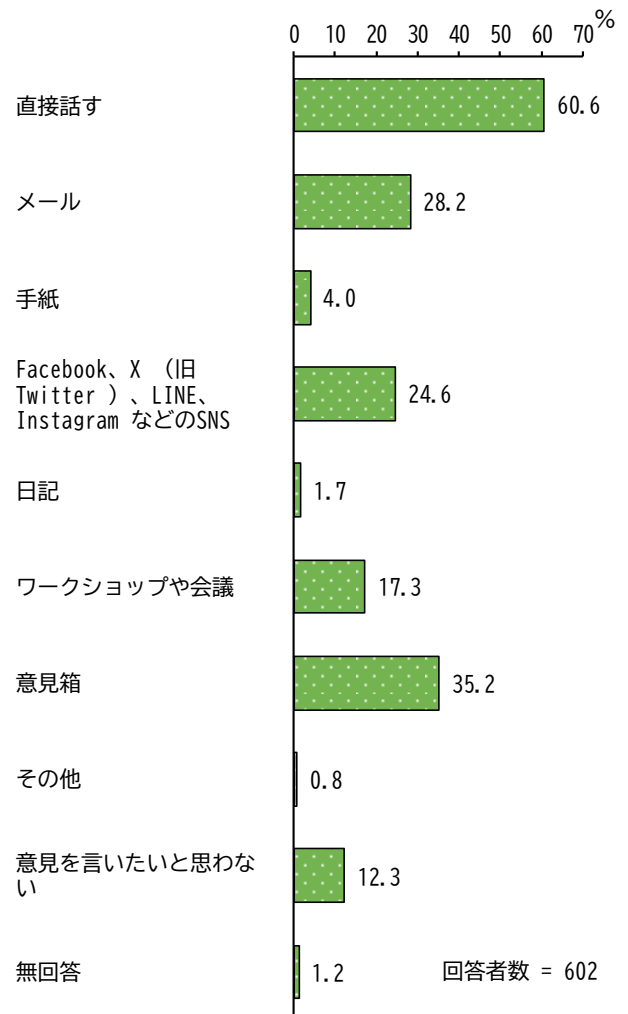


問 11 あなたは、学校生活や社会・地域活動の中で、どのような方法であれば、意見を言いたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「直接話す」の割合が 60.6%と最も高く、次いで「意見箱」の割合が 35.2%、「メール」の割合が 28.2%となっています。

主な「その他」意見

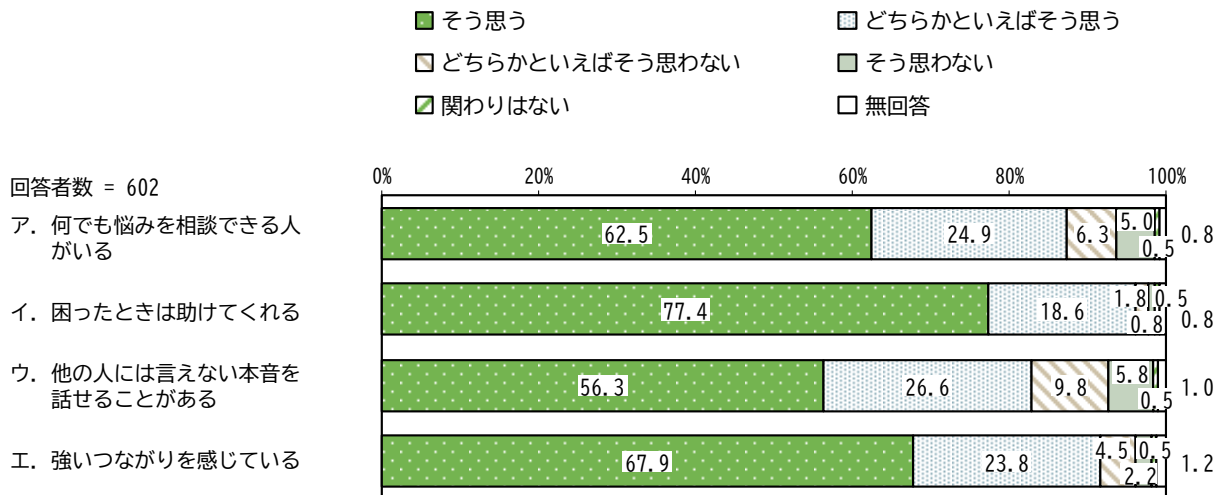
・アンケート （2件）



(5) あなたの人との関わりについて

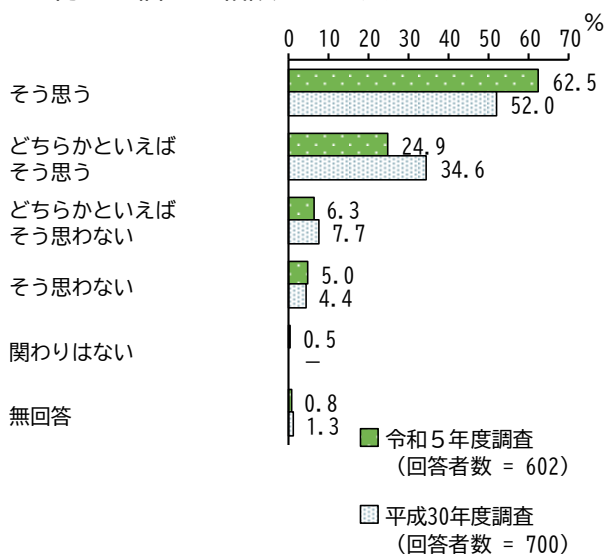
問 12 次にあげる人たちとあなたとの関わりはどのようなものですか。
(それぞれ○は1つ)

A 家族・親族

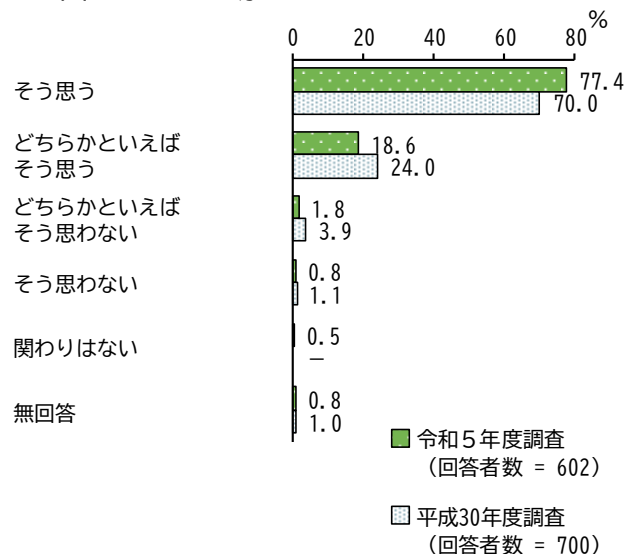


<項目ごとの経年比較>

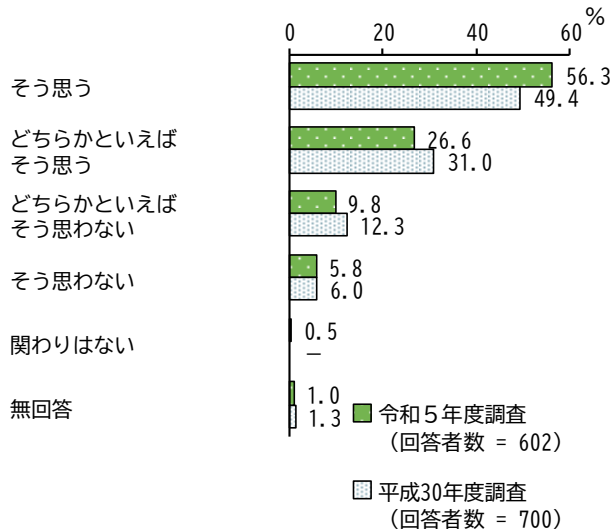
ア. 何でも悩みを相談できる人がある



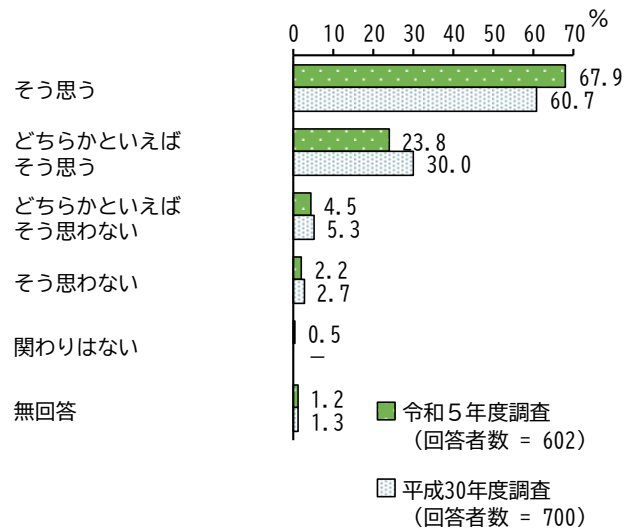
イ. 困ったときは助けてくれる



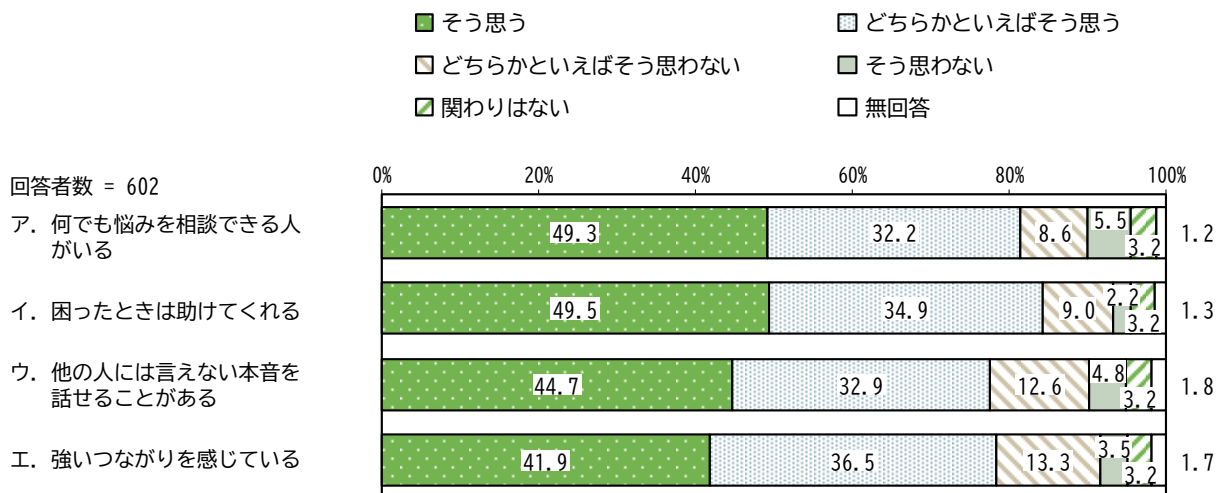
ウ. 他の人には言えない本音を話せることがある



エ. 強いつながりを感じている



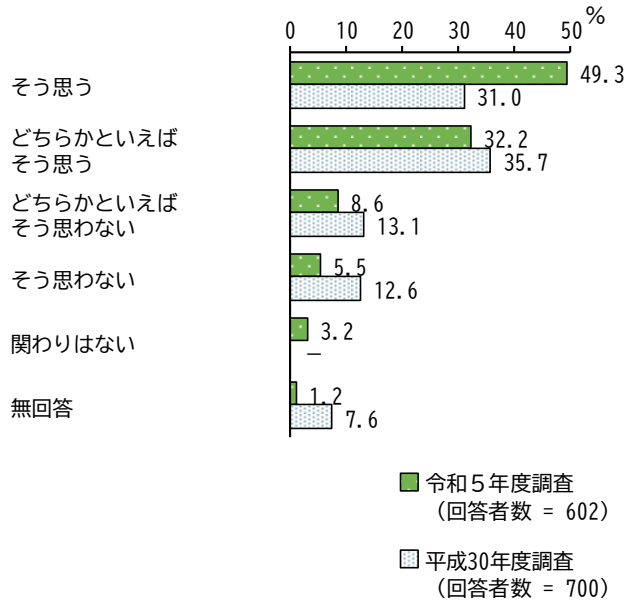
B 友人



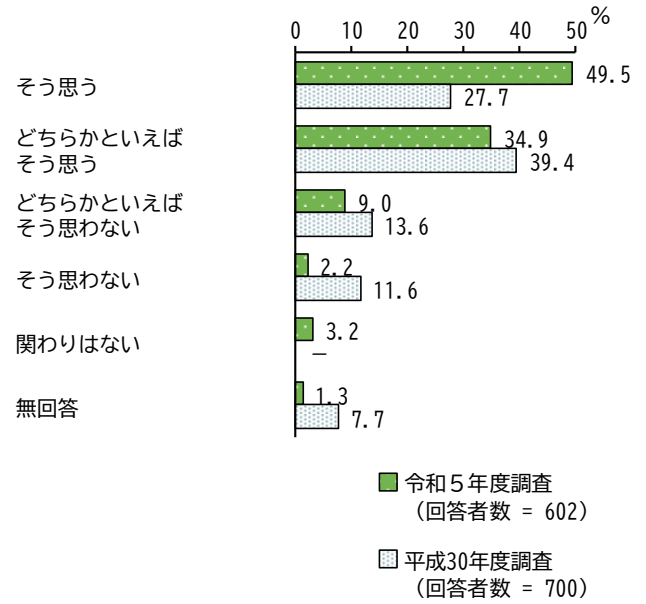
B 多摩市若者ニーズ調査

<項目ごとの経年比較>

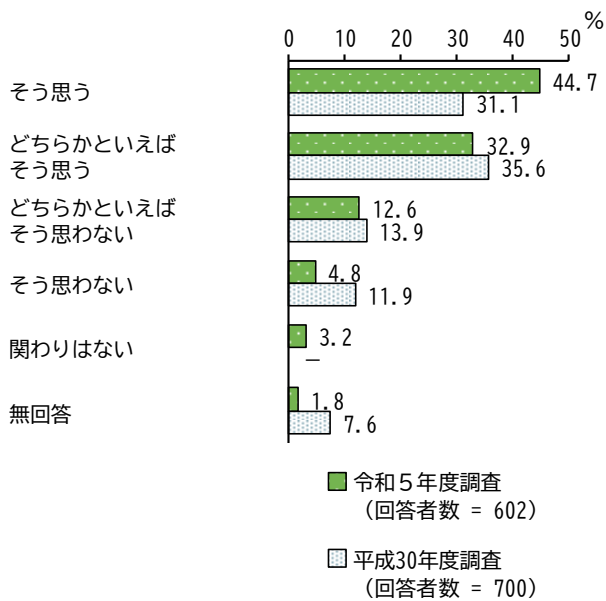
ア. 何でも悩みを相談できる人がある



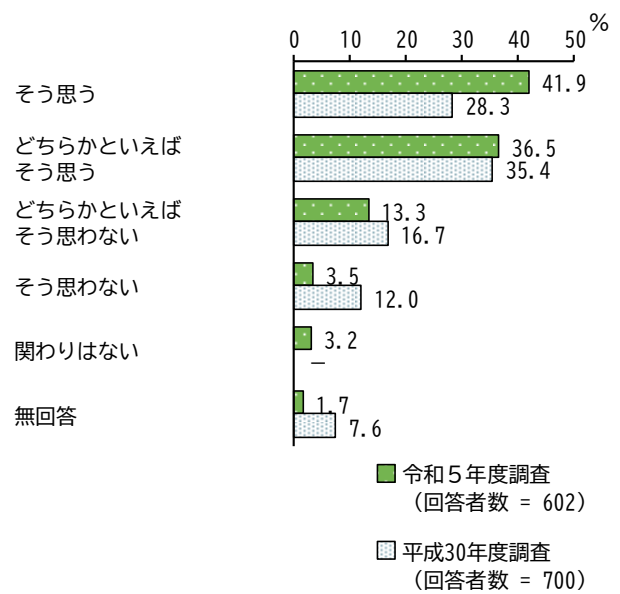
イ. 困ったときは助けてくれる



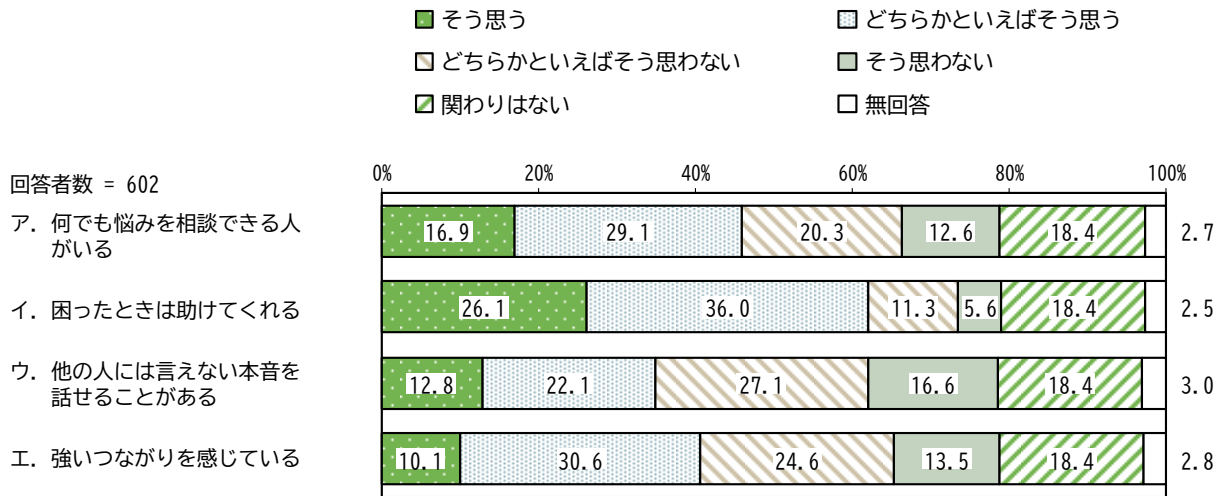
ウ. 他の人には言えない本音を話せることがある



エ. 強いつながりを感じている

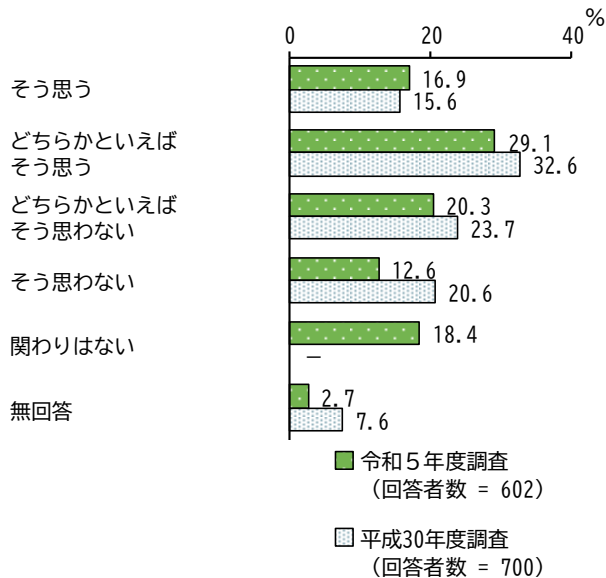


C 職場・アルバイト関係の人

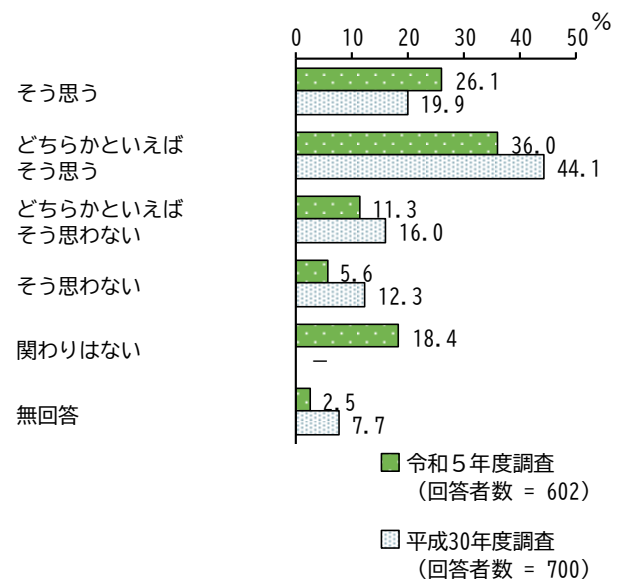


<項目ごとの経年比較>

ア. 何でも悩みを相談できる人がいる

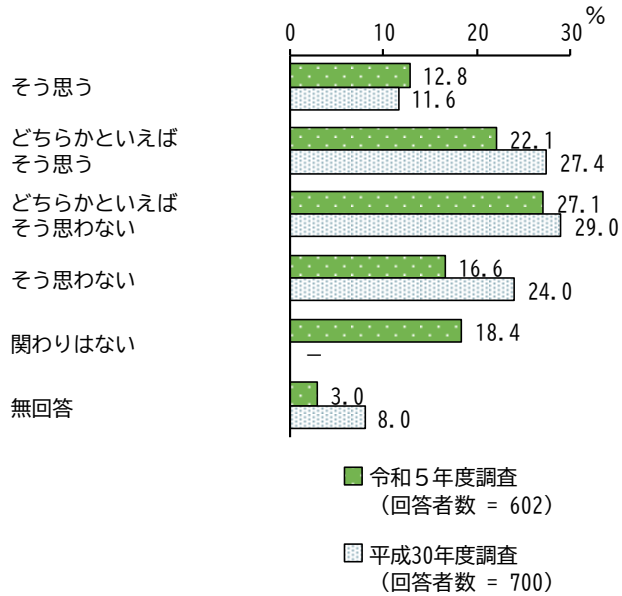


イ. 困ったときは助けてくれる

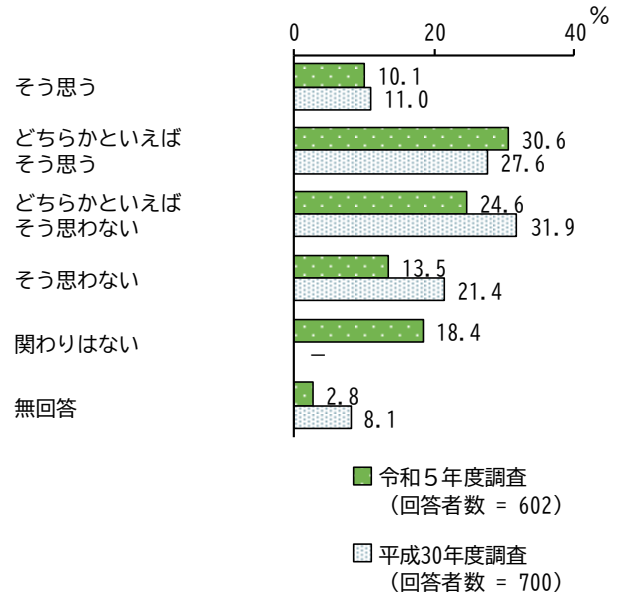


B 多摩市若者ニーズ調査

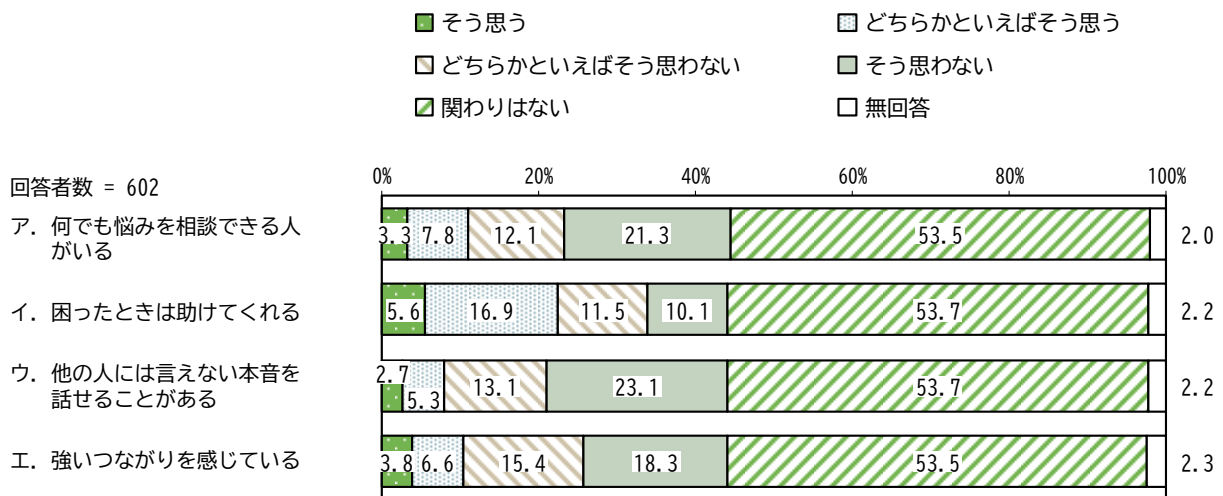
ウ. 他の人には言えない本音を話せることがある



エ. 強いつながりを感じている

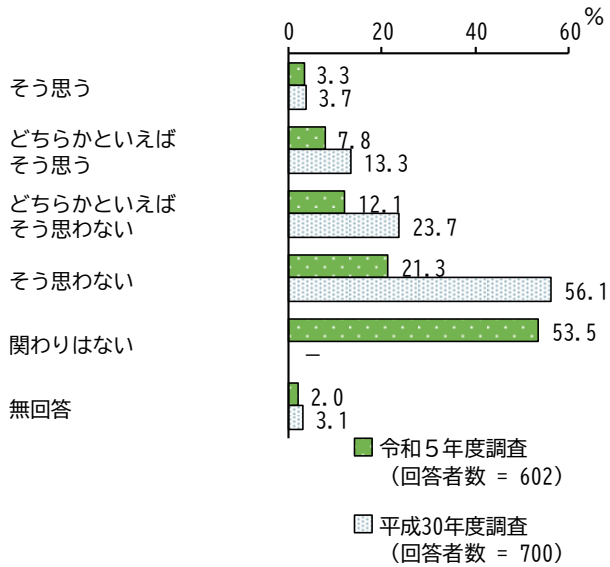


D 地域の人

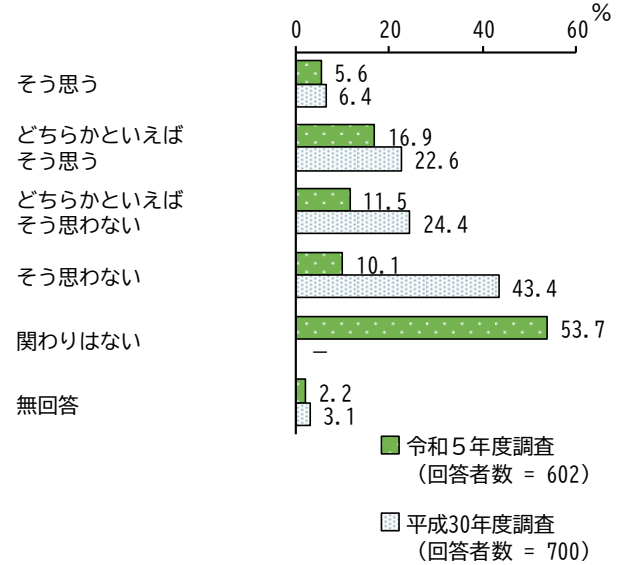


<項目ごとの経年比較>

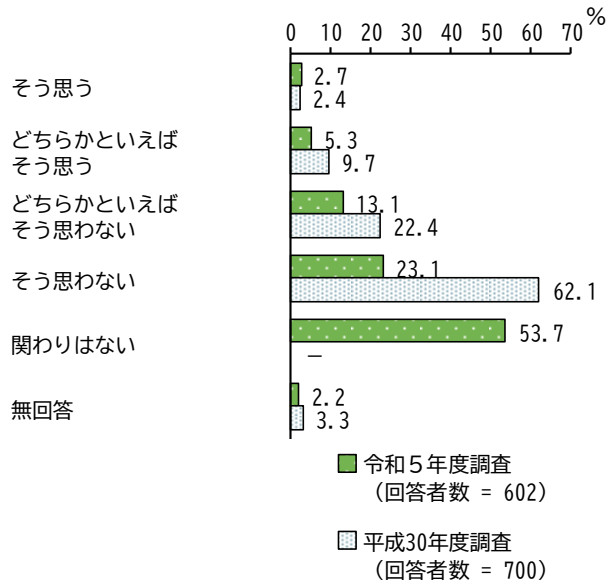
ア. 何でも悩みを相談できる人がある



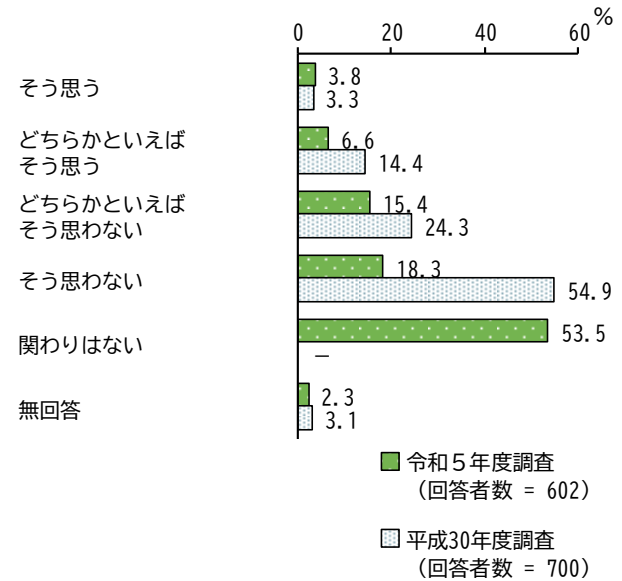
イ. 困ったときは助けてくれる



ウ. 他の人には言えない本音を話せることがある

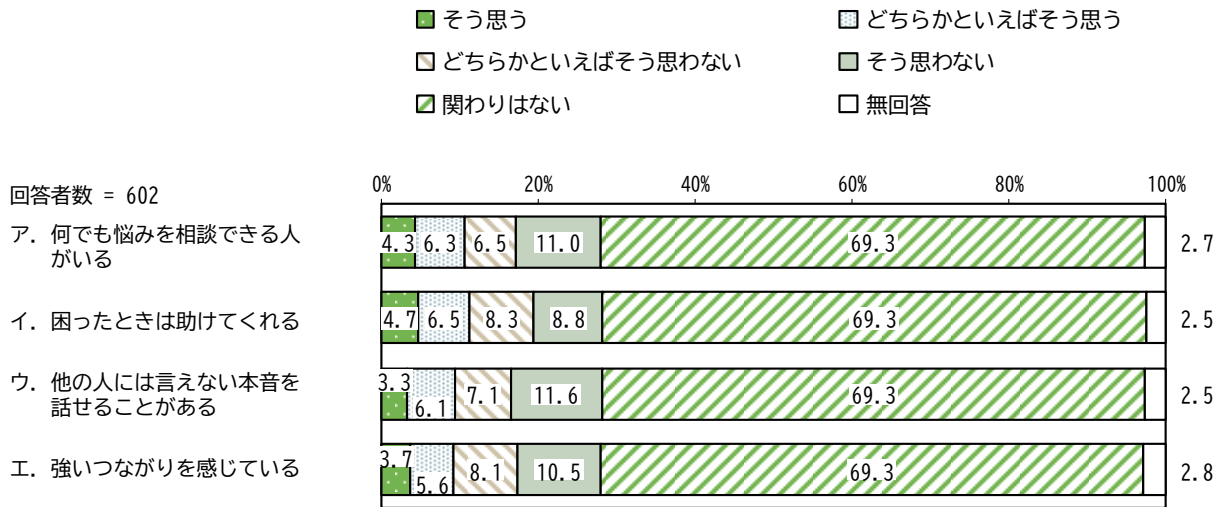


エ. 強いつながりを感じている

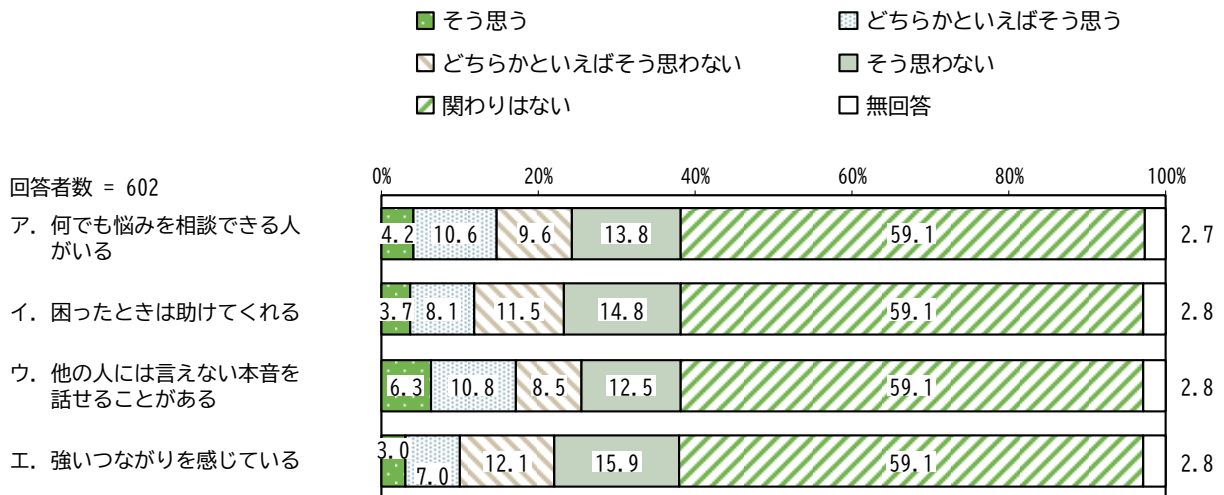


B 多摩市若者ニーズ調査

E 地域外の人

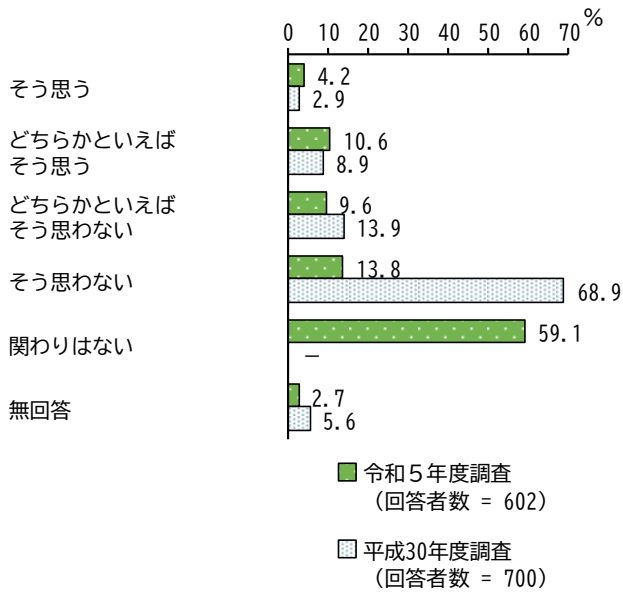


F インターネット上での人やコミュニティ

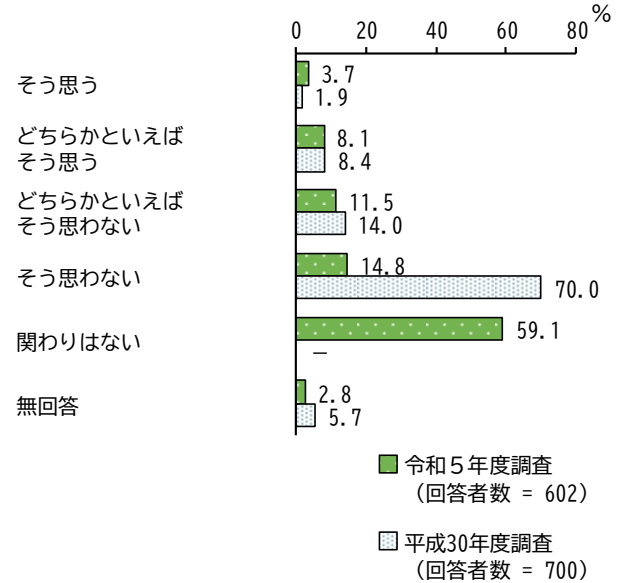


<項目ごとの経年比較>

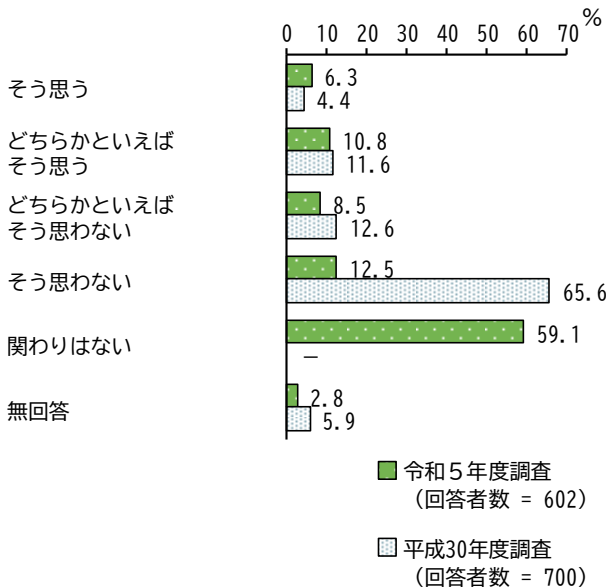
ア. 何でも悩みを相談できる人がある



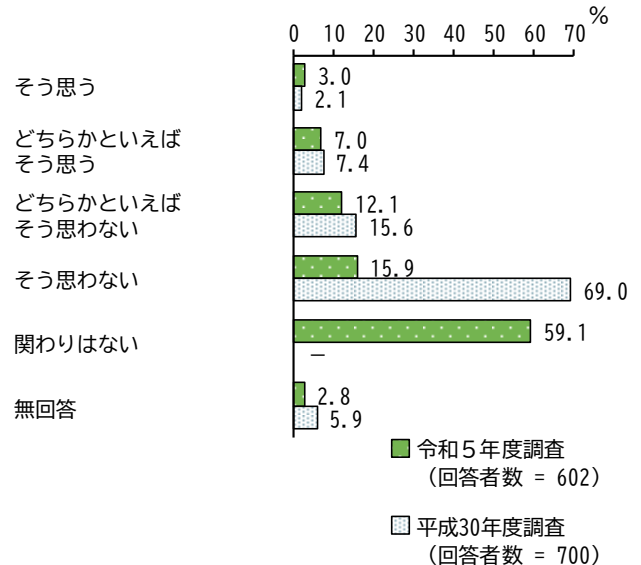
イ. 困ったときは助けてくれる



ウ. 他の人には言えない本音を話せることがある



エ. 強いつながりを感じている



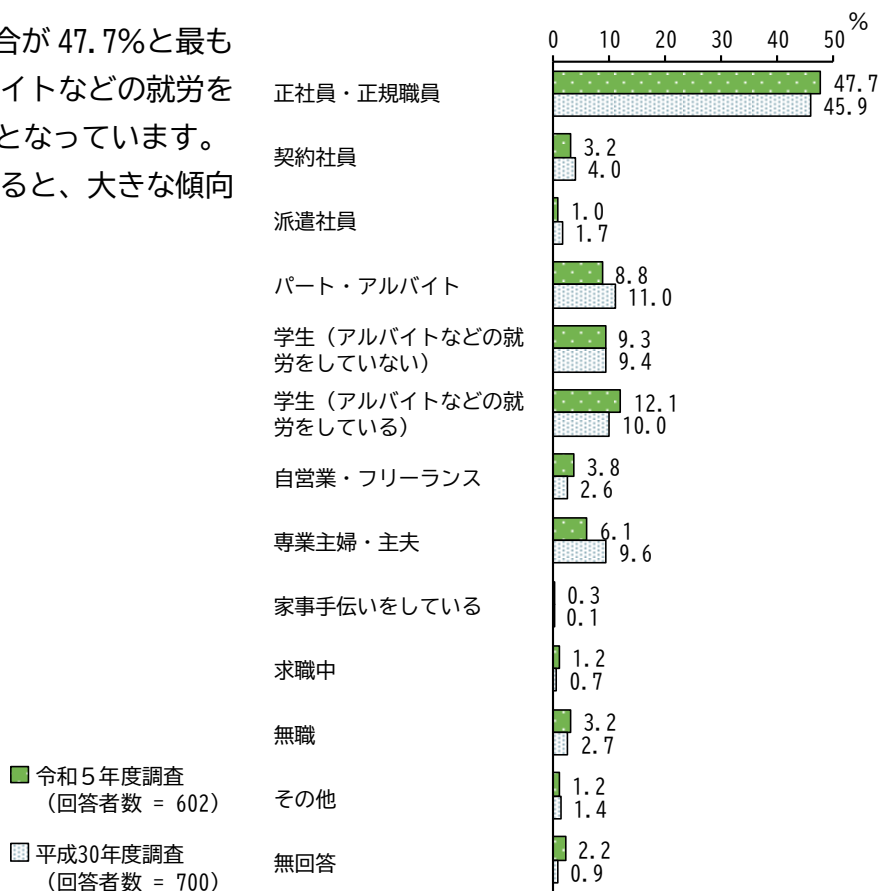
(6) あなたのお仕事について

問 13 あなたは現在、働いていますか。働いている場合は、就業形態を教えてください。(○は1つ)

「正社員・正規職員」の割合が 47.7%と最も高く、次いで「学生（アルバイトなどの就労をしている）」の割合が 12.1%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。

主な「その他」意見
・作業所 （3件）

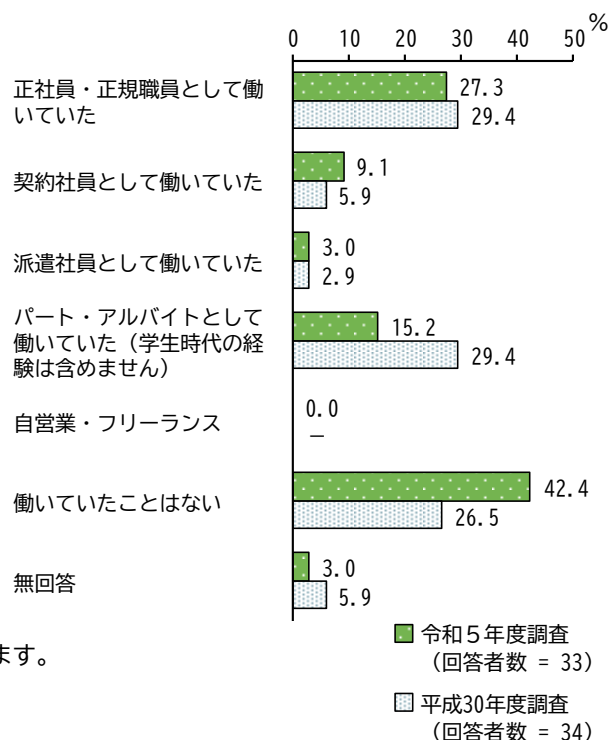


【問 13 で「10. 求職中」「11. 無職」「12. その他」と答えた方におうかがいします】

問 13-1 あなたはいままでに働いていたことはありますか。(○は1つ)

「働いていたことはない」の割合が 42.4%と最も高く、次いで「正社員・正規職員として働いていた」の割合が 27.3%、「パート・アルバイトとして働いていた（学生時代の経験は含めません）」の割合が 15.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「働いていたことはない」の割合が増加しています。一方、「パート・アルバイトとして働いていた（学生時代の経験は含めません）」の割合が減少しています。

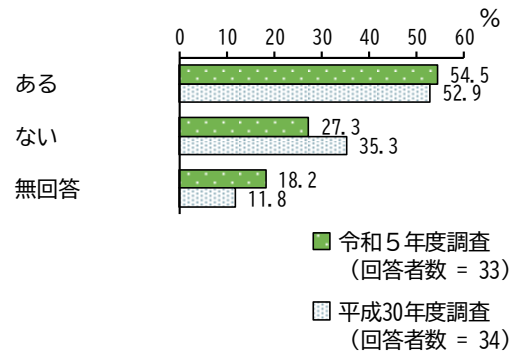


※令和5年度調査で、「自営業・フリーランス」を追加しています。

問 13－2 就労希望や就労を希望しない場合は理由をお答えください。

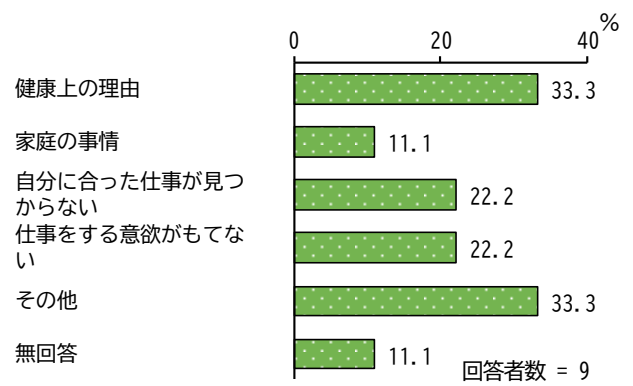
【就労希望】

「ある」の割合が 54.5%、「ない」の割合が 27.3%となっています。



【就労を希望しない理由】

「健康上の理由」が3件、「自分に合った仕事が見つからない」、「仕事をする意欲がもてない」が2件となっています。

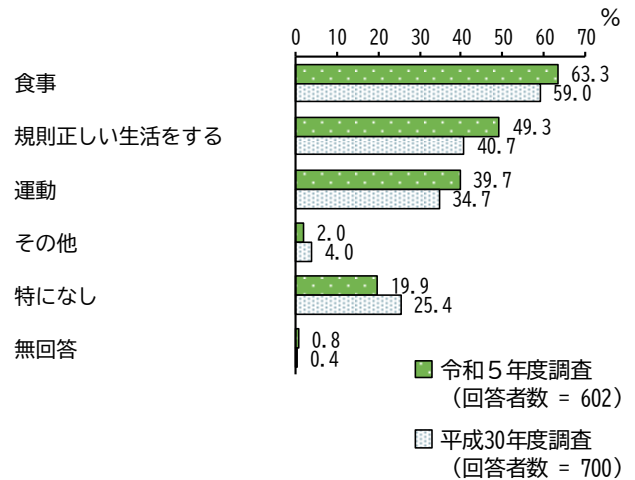


(7)『あなた自身のこと』について

問 14 身体の健康のために気を使っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「食事」の割合が 63.3%と最も高く、次いで
「規則正しい生活をする」の割合が 49.3%、「運
動」の割合が 39.7%となっています。

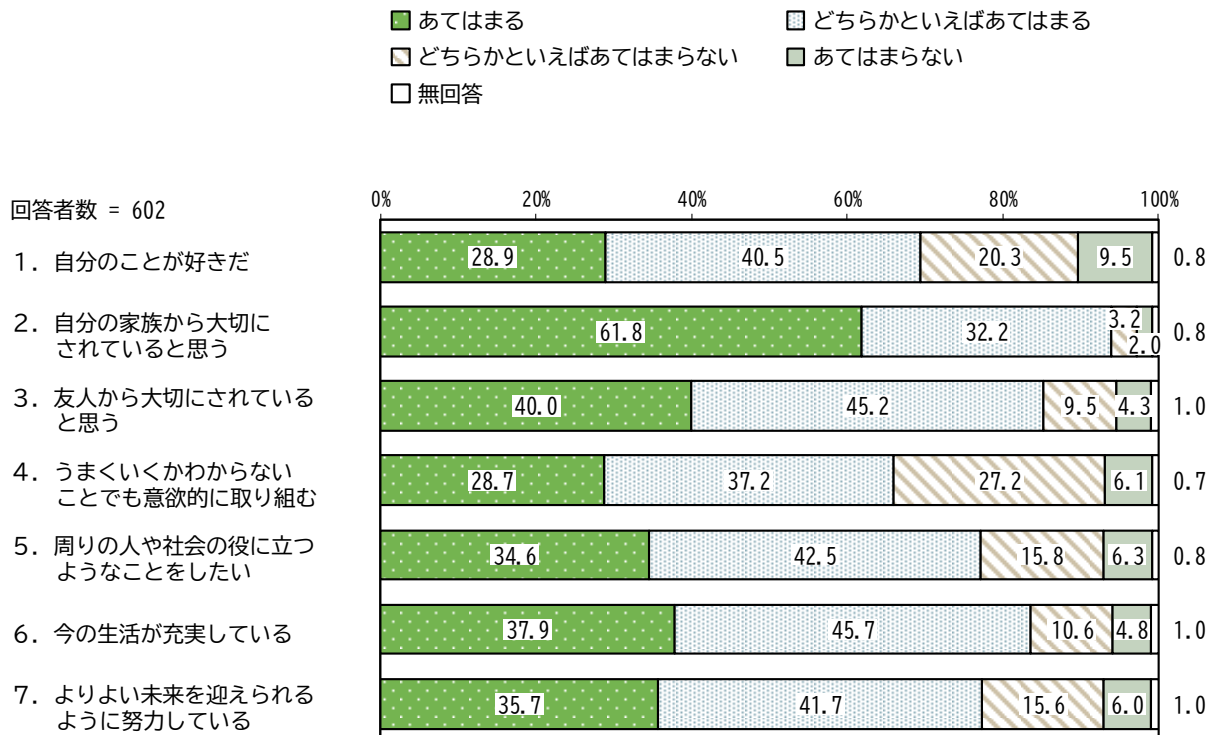
平成 30 年度調査と比較すると、「食事」「規則
正しい生活をする」「運動」の割合がともに増加
しています。



主な「その他」意見

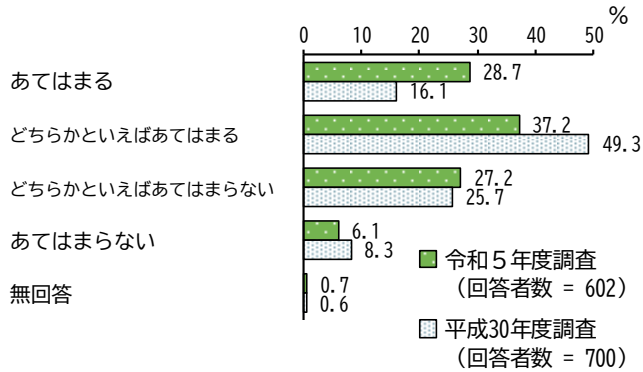
- ・睡眠 (7件)

問 15 次にあげられたことの中で、あなた自身にあてはまると感じるものをお答えください。(それぞれ○は1つ)

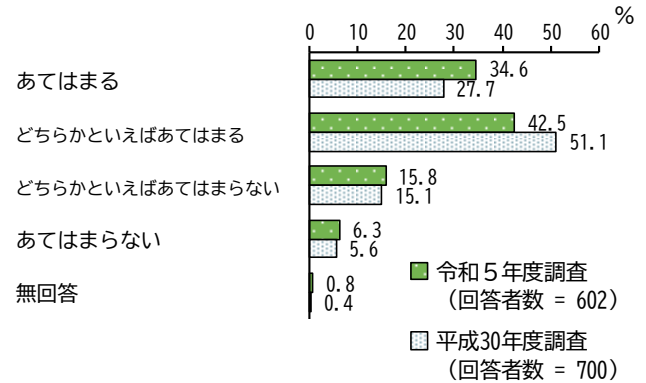


<項目ごとの経年比較>

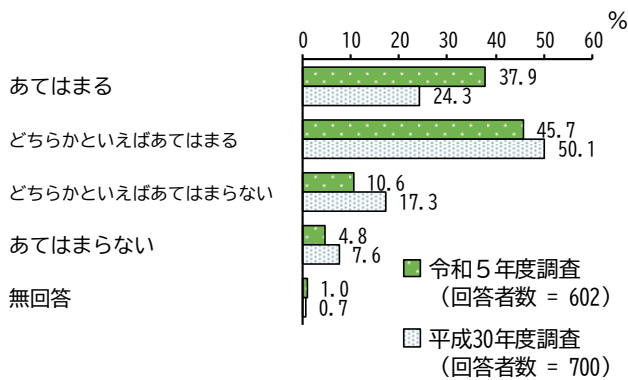
4. うまくいくかわからないことでも意欲的に取り組む



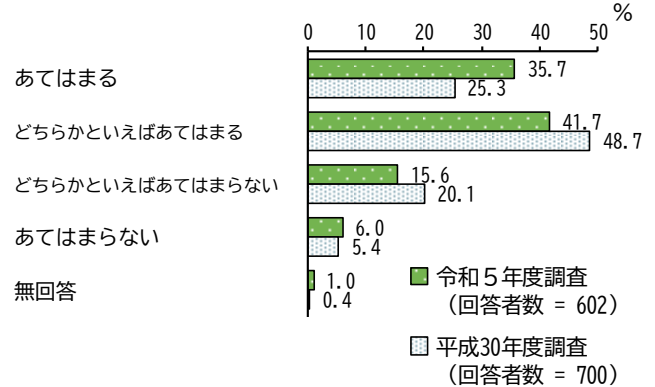
5. 周りの人や社会の役に立つようなことをしたい



6. 今の生活が充実している

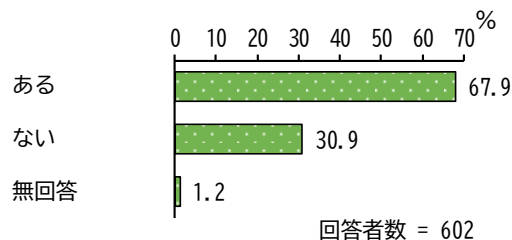


7. よりよい未来を迎えられるように努力している



問 16 あなたは、何か目標をもって取り組んでいることはありますか。(○は1つ)

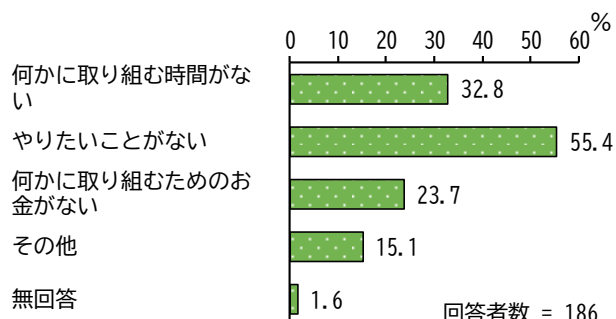
「ある」の割合が 67.9%、「ない」の割合が 30.9%となっています。



【問 16 において「2. ない」と答えた方にお聞きします】

問 16-1 目標をもって取り組めていない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「やりたいことがない」の割合が 55.4%と最も高く、次いで「何かに取り組む時間がない」の割合が 32.8%、「何かに取り組むためのお金がない」の割合が 23.7%となっています。

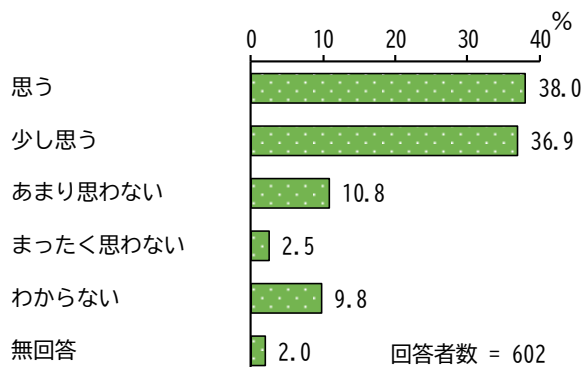


主な「その他」意見

- ・目標が決まらない、分からないから (4件)
- ・やる気が起きないから (3件)
- ・目標を考えている途中だから (3件)

問 17 あなたは将来、多摩市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

「思う」の割合が 38.0%と最も高く、次いで「少し思う」の割合が 36.9%、「あまり思わない」の割合が 10.8%となっています。

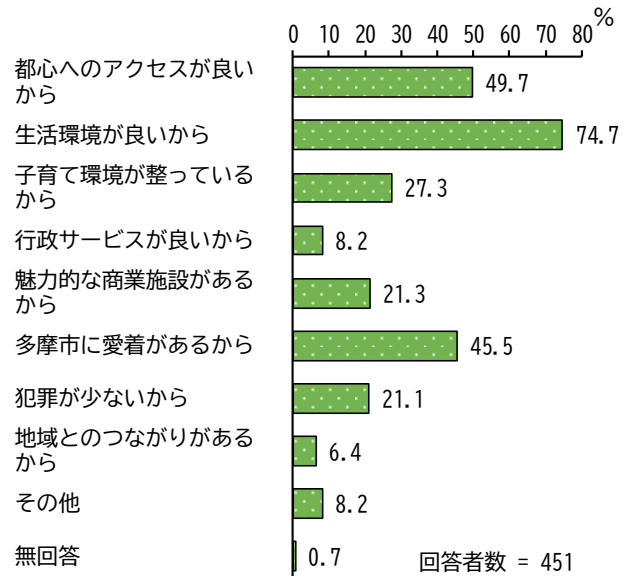


問 17-1 多摩市に住み続けたい理由（あてはまるものすべてに○）

「生活環境が良いから」の割合が 74.7%と最も高く、次いで「都心へのアクセスが良いから」の割合が 49.7%、「多摩市に愛着があるから」の割合が 45.5%となっています。

主な「その他」意見

- ・職場に近いから （6件）
- ・緑が多いから （3件）
- ・家を購入したから （3件）
- ・住み慣れているから （3件）
- ・実家があるから （3件）
- ・歩道と車道が分かれているため安全だから （2件）

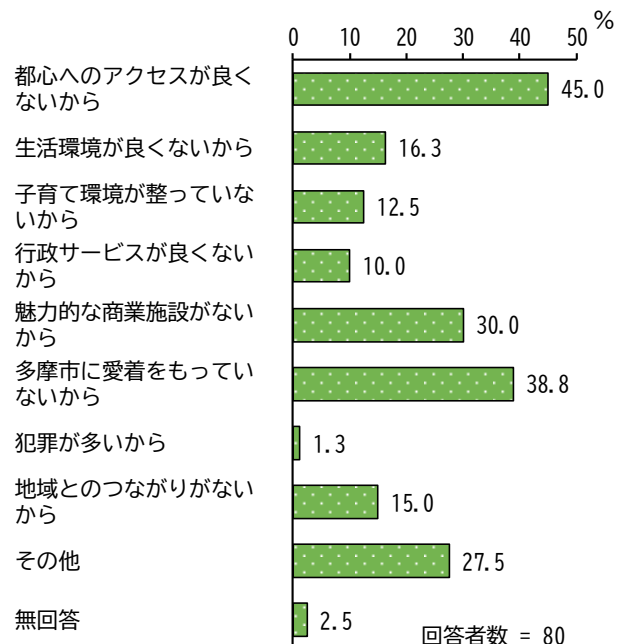


問 17-2 多摩市に住み続けたいと思わない理由（あてはまるものすべてに○）

「都心へのアクセスが良くないから」の割合が 45.0%と最も高く、次いで「多摩市に愛着をもっていないから」の割合が 38.8%、「魅力的な商業施設がないから」の割合が 30.0%となっています。

主な「その他」意見

- ・他に住みたい所があるから （5件）
- ・実家を出たいから （3件）
- ・地元に戻りたいから （3件）



問 18 多摩市の子ども・若者支援施策について、自由に記入してください。

※（ ）は意見数

項目	主な意見（要約）
1. 環境整備／公共施設／暮らしやすい市・町づくりについて (27)	・多摩市の自然豊かなところが好きなので、これからも多摩市に住む若者と子どものために、自然を守って欲しい。 ・駅前開発について、若者目線で取り組んで欲しい。市役所が駅前に移転するかもしれないと耳にした時は、活気があると喜んだのですが、無しになった時は残念だった。若者が集うまちづくりが、将来に大いにつながると考える。 ・子育てについては、力を入れていると思っている。博物館や美術館がない。文化行政は、もう少しがんばって欲しい。地元で、あるかないかで、教育のレベルがかわってくる。 ・今回、このようなアンケートに答える機会をいただき、(改めて)考えるきっかけとなった。多摩市出身ではなく、結婚してこちらに移ってきました。妊娠～子育てを多摩市で試みて、緑や公園が多く、それほど人も多くなくて、住みやすい街だと思っている。これからもずっと過ごしやすい街であって欲しいと願っている。 ・2023年5月頃から多摩市内で子どもの盗撮が相次いでいたり、不審者情報や窃盗も減ってないと思ったので、可能でしたら防犯関連の内容にも取り組んでもらえるととても安心できそうだった。
2. 商業施設について (3)	・公園の遊具をもっと増やして欲しい。 ・もう少し若者が求めている施設を開拓しないと正直魅力を感じられない。そのため、都心の方が魅力を感じるので行きたくなる。たとえば、もう少しカジュアルな衣類のお店や、気軽に行ける居酒屋、ラウンジなどがあると個人的にうれしい。 ・行政のサービスや支援などは、丁寧にやっていると思う。お年よりが住みやすいようにすることも必要だとは思いますが、若者(10～30代)に魅力的な街とは思えないのが正直なところ。子ども用品や若者ファッション、買い物できるようなお店、子育て世代に必要なお店がないと、多摩市以外の街の方が住みやすいように思ってしまう。(私のまわりも、多摩市から転出する人がけっこういるので)

項目	主な意見（要約）
3. 多摩市のサービス/情報発信/イベント等について (24)	・子育て世代への支援も大切ですが、結婚適齢期の独身者にも支援の輪を広げることによって、出生率向上に繋がっていくと思う。まずは、子を育む裾野を広げるべき。 ・「子どもがいる人」「仕事をしていない人」「学生」などは相談先がわかりやすいが、「漠然とした不安」などは相談しづらい。 ・子どもが居ないのでわからない。 ・色々なサービスがあるならもっとアピールしていった方が利用者は増えると思う。子ども、若者にどのような支援があればいいかアンケートをとって反映していったほうがいい。子どもが使いやすい工夫をする。（e x 相談ボックスを学校に設置） ・子どもや若者が住みやすく、集まる町は、イベントや文化的な活動も活発になり、より継続し続けられる市になると思うので、積極的に頑張りたい。 ・地域のワークショップ等の活動は子ども／子育て世代／高齢者向けが中心のように感じます。子育て世代でない2～30代が参加しやすい取組が増えたらうれしい。 ・特に問題はないが趣味の為の場所を増やしたらいいと思う。
4. 子育て支援/補助金/助成等について(24)	・このような施策があることを知らなかった。自分自身が直接的に関わることは今のところないが、将来的に子どもが生まれ、子育てをするような機会があれば、是非、頼りたいと思う。このような施策があることはありがたく思う。 ・S t o p 少子化に期待しています。マンモス校ができるくらい子どもにあふれた街になったらなあと思う。 ・子どもに権利や支援をおしえるのではなく親や高齢者世代に教えるべきだと思う。若者じゃない人に自覚がないと思う。子ども・若者だけにおしつけしないで欲しい。活動団体に入らないと参画はむずかしいのか。 ・子ども全員大学まで無償にして欲しい。 ・物価もあがり、金銭的余裕がない。子どもがやりたいこと（習い事等）を学ばせてあげられるような補助があると嬉しい。 ・小中学校の給食費を無料にしたいです。こども3人＋妊娠中のため、全員が小、中学生になった時の給食費の負担がとても心配。
5. 保育園について(6)	・認可保育園に関して。聖蹟桜ヶ丘駅周辺の保育園が入りにくいのを何とかしてもらえると助かる。他は空いているからと言っても、家庭の都合上、むずかしい場合もある。 ・保育園の一時保育も安く使いやすいので大変お世話になった。 ・年収が平均には届かないものの、支援を受けられるほど低収入でもない微妙な低所得者です。子どもは諦めようかな、とも思っている。団地の中に子育てコミュニティや働く場所、保育所などがあって安心して子育てできるような環境が整ったらいいなと思う時がある。

B 多摩市若者ニーズ調査

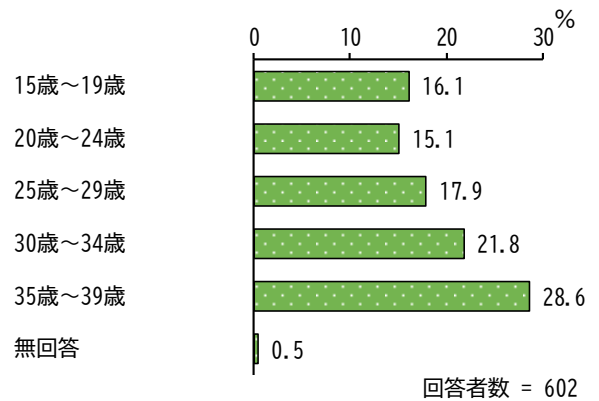
項目	主な意見（要約）
6. 公園について(3)	・公園が他の地域と比べて多いため、とてもいいと思う。 ・遊具の遊び場、公園が少なすぎる。 ・公園遊具の点検（ケガをする前に迅速に、できない場合は子どもたちの手で入れないように、触れないようにして欲しい。
7. 医療費/健診/病院について(10)	・子どもの医療費や手当金がない。 ・子どものワクチン（任意のもの）の無償化。インフルエンザワクチン子どもの無償化。 ・医療費助成が全ての世帯にあるのは助かる。所得制限はなるべくない支援策を望む。 ・聖蹟桜ヶ丘駅周辺のマンション住民なのですが、マンション内で赤ちゃんを沢山見かけるので、駅周辺の空いている物件など活かして子ども向けの施設や病児・一時保育所など充実させて欲しい。 ・子育て支援が充実していてありがたい。小児科がもう少しあって欲しい。
8. 企業誘致/就業支援等について(1)	・仕事についても若者にじっくり仕事を教えるなどして若者も仕事の継続ができる様にしていけると良いと思う。若者が少ないので、独自のサポーターなど増やしてもらえると若者も集まりやすいと思う。
9. 税金/年金について(5)	・住民税の税収の減少が気になっている。 ・税金、保険のことを思うと不安しかない。 ・生存できてそこそこに生きてるが、やりたいことはできない。金がないです。年金のことを思うと不安しかない。
10. 就業時間中の子どもの預かり場所/児童館/学童/放課後こども教室について(8)	・なぜベビーシッターの助成事業が多摩市はないのか。当日急に子どもを預けることができない。この不満をどこに伝えればよいのか分からない。 ・学童に入所するためには働いている等の要件が必要になるので、条件なく子どもが放課後過ごせる場所が欲しい。 ・児童館も近くになく行きにくい。 ・児童館など、子どもを連れて遊びに行く機会が多いが、スタッフの方々皆様とても親切であたたかくありがたい。 ・児童館も沢山あって子育てしやすい。
11. 住宅支援について(2)	・若者支援として、商業施設などを誘致するより、多摩ニュータウンの特性を生かして、住宅支援など若者向けに行ったら良いと思う。家賃が高い。 ・若者でも購入できる分譲マンションがあると良い。古い団地の建て替え。
12. 学校、教育について (4)	・学校教育を充実させて欲しい。（サポーターを増やす、地域交流の場、オープンな場にするなど） ・学校校舎の老朽化が激しい。トイレが古く、汚い。子ども達が心地良いと感じられる空間にしていきたい。6年間毎日過ごす場所です。給食費滞納問題はどうか解決するのか。

項目	主な意見（要約）
13. 図書館について（4）	・綺麗な図書館を増やして欲しい。 ・私には子どもがいないのでよくわからない。多摩市は若い人を呼び込むために頑張っていると思う。新宿駅で多摩市のポスターを見かけて少し嬉しくなりました。今年、図書館がリニューアルし、本を読む子ども達や、学習する中・高生をよく見かける。地域の中に居場所があるのは良い事だと思いました。個人的に思うのは団地を将来的にもっと子育て世帯向けに活用してくれたらいいな、ということ。 ・図書館の自習室を利用しているのですが、学生以外にもお年よりの方々が利用されていて勉強したいのに席がないことがよくある。なので、自習室の座席数を増やすことと自習スペースという認識を多くの人が持つ必要があると思う。
14. 障がい者支援について（1）	・子どもの療育（発達支援）の予約が取れない。診断を受けて、支援にかかるアクセスが少ない（キャパが足りてない）のをどうにかして欲しい。発達が遅い子の将来が安心できる制度がもっと欲しい。
15. その他(4)	・「若者支援」の「若者」とは何歳までなのでしょうか。 ・ページを見返したりしないといけない作りは改善すべき。例：問2 など。

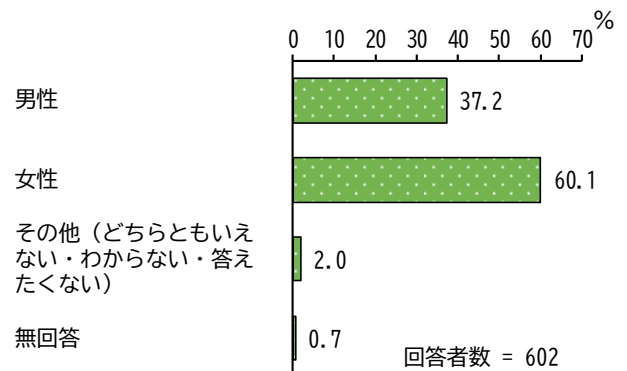
(8) あなたとご家族、お住まいについて

問 19 令和5年4月1日時点のあなたの年齢をおしえてください。(○は1つ)

「35歳～39歳」の割合が28.6%と最も高く、次いで「30歳～34歳」の割合が21.8%、「25歳～29歳」の割合が17.9%となっています。



問 20 あなたの性別をおしえてください。(○は1つ)

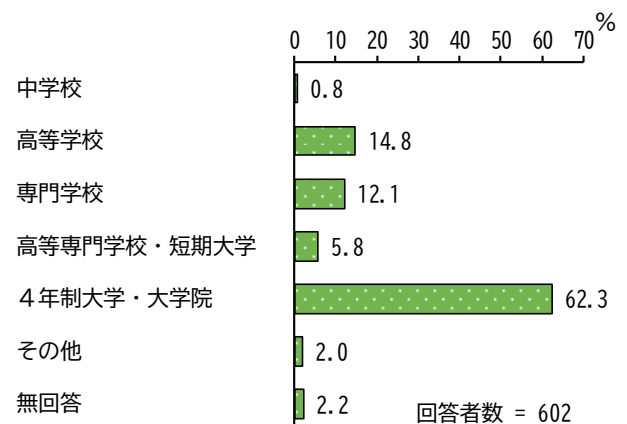


問 21 あなたが最後に卒業（中退を含む）した、または現在在学している学校はどれですか。(それぞれ○は1つ)

「4年制大学・大学院」の割合が62.3%と最も高く、次いで「高等学校」の割合が14.8%、「専門学校」の割合が12.1%となっています。

主な「その他」意見

- ・ 6年制大学 (5件)
- ・ 通信制大学 (2件)
- ・ 特別支援学校 (2件)



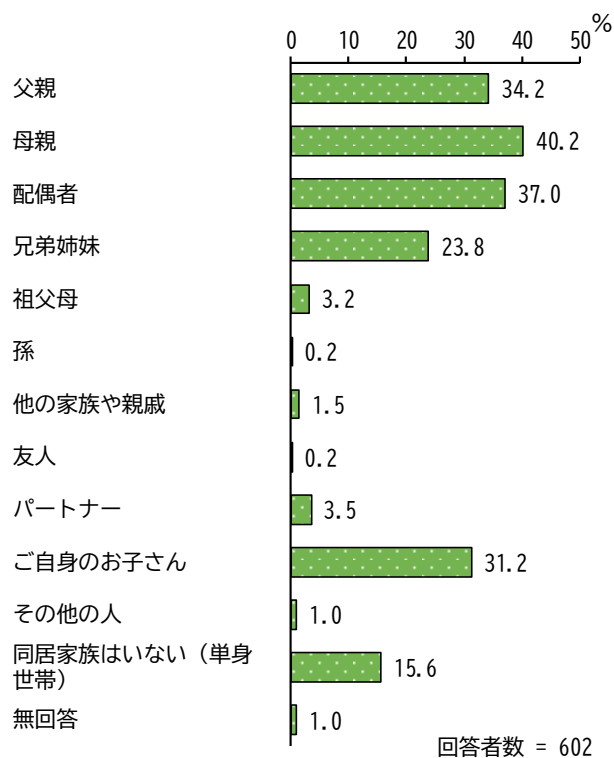
【在学状況別】

単位：件

区分	回答者数 (件)	中学校	高等学校	専門学校	大学 高等専門学校・短期	4年制大学・大学院	その他	無回答
全 体	602	5	89	73	35	375	12	13
在学中	139	0	45	10	3	79	2	0
中途退学	21	0	7	7	1	6	0	0
卒業	359	4	25	49	24	243	9	5

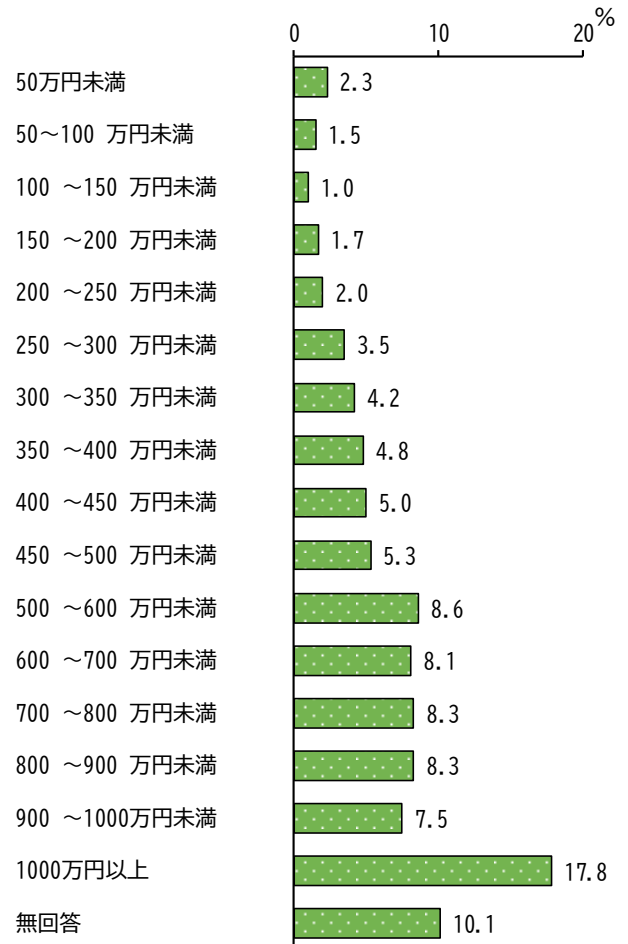
問 22 あなたと同居している人すべてに○をつけてください。続柄はあなたからみた関係です。

「母親」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が 37.0%、「父親」の割合が 34.2%となっています。



問 23 昨年（令和4年1～12月）1年間の、あなたの世帯（生計を共にする家族の収入も含みます）のおよその総収入（養育費や手当等すべての収入を含みます）を教えてください。（〇は1つだけ）

「1000 万円以上」の割合が 17.8%と最も高くなっています。



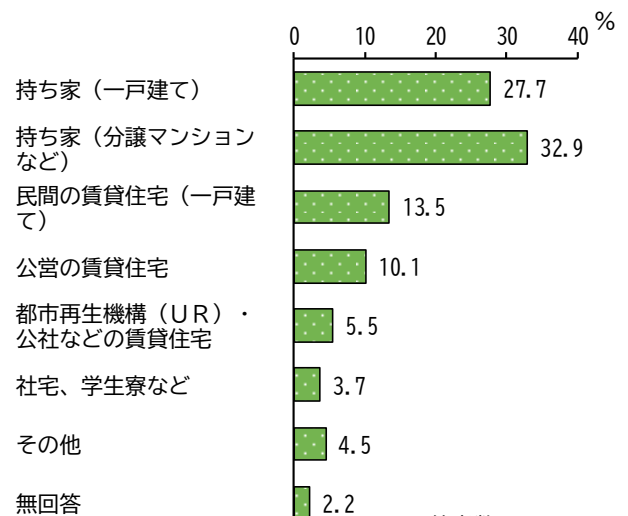
回答者数 = 602

問 24 あなたのお住まいの形態を教えてください。（〇は1つ）

「持ち家（分譲マンションなど）」の割合が 32.9%と最も高く、次いで「持ち家（一戸建て）」の割合が 27.7%、「民間の賃貸住宅（一戸建て）」の割合が 13.5%となっています。

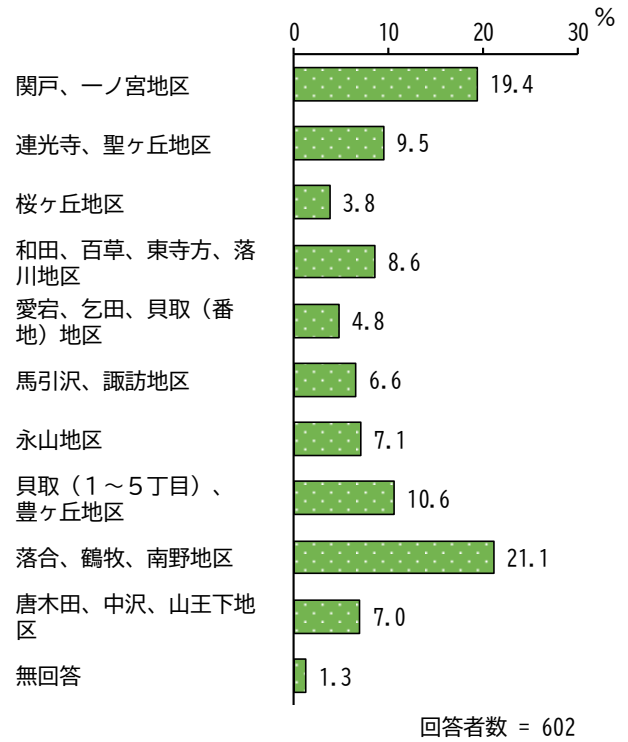
主な「その他」意見

- ・民間の賃貸住宅
（マンション・アパート等） （21 件）



回答者数 = 602

問 25 あなたのお住まいの地区はどこですか。(○は1つ)

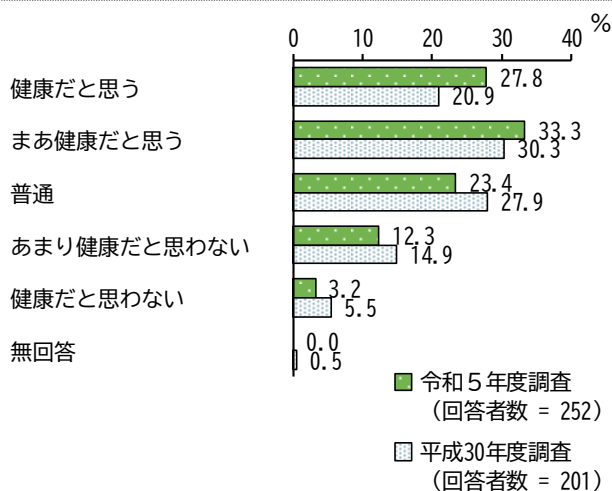


5 多摩市子どもの生活実態調査（保護者用）【C-1】

（１）あなたの健康や食事について

問１ あなたの健康状態について、最も近いものはどれですか。（○は１つ）

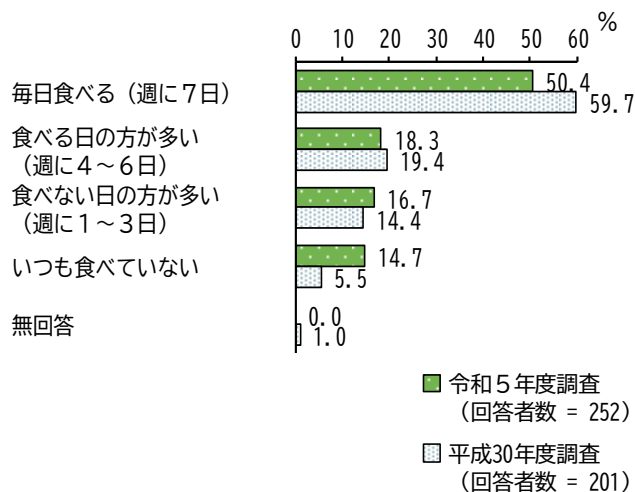
「まあ健康だと思う」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「健康だと思う」の割合が 27.8%、「普通」の割合が 23.4%となっています。
平成 30 年度調査と比較すると、「健康だと思う」の割合が増加しています。



問２ あなたは、普段朝ごはんを食べますか。（○は１つ）

「毎日食べる（週に7日）」「食べる日の方が多い（週に4～6日）」を合わせた割合は 68.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「食べない日のほうが多い（週に1～3日）」「いつも食べていない」の割合が増加しています。

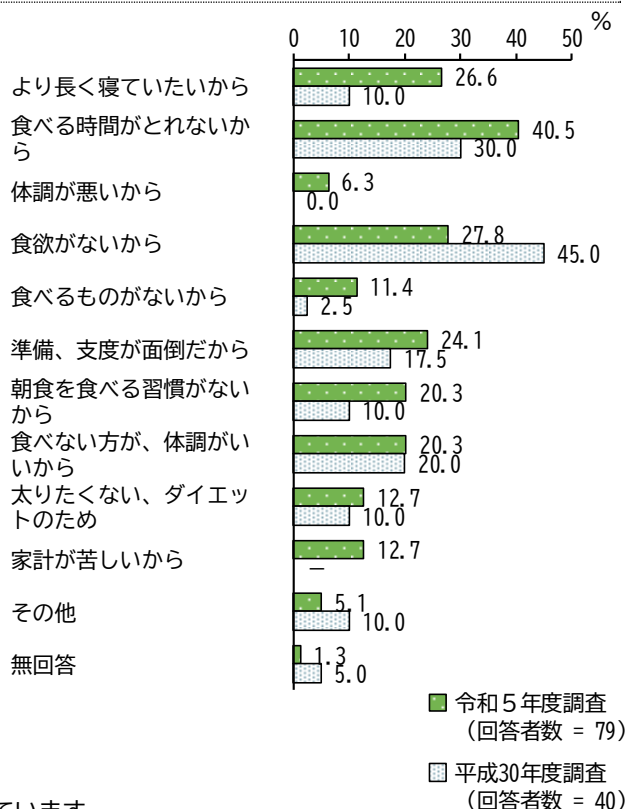


【問2で「3. 食べない日の方が多い」、「4. いつも食べていない」と答えた方にお伺いします】

問2-1 朝食を食べない理由は次のどれにあてはまりますか。
(あてはまるものすべてに○)

「食べる時間がとれないから」の割合が40.5%と最も高く、次いで「食欲がないから」の割合が27.8%、「より長く寝ていたいから」の割合が26.6%となっています。

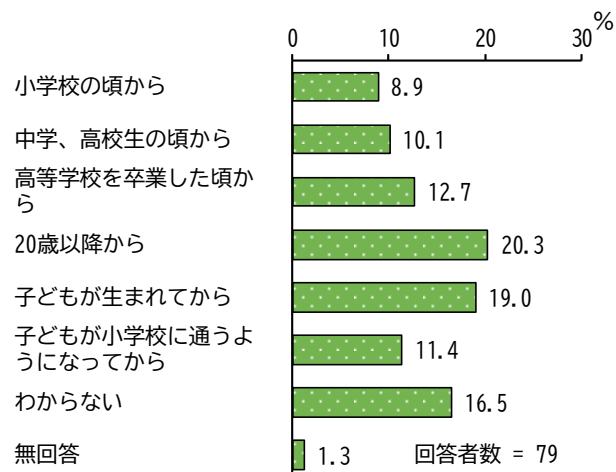
平成30年度調査と比較すると、「より長く寝ていたいから」「食べる時間がとれないから」の割合が増加しており、特に「食べるものがないから」は4倍以上の割合となっています。



※令和5年度調査で、「家計が苦しいから」の選択肢を追加しています。

問2-2 朝食を食べなくなった時期はいつごろからですか。(○は1つ)

「20歳以降から」の割合が20.3%と最も高く、次いで「子どもが生まれてから」の割合が19.0%、「わからない」の割合が16.5%となっています。

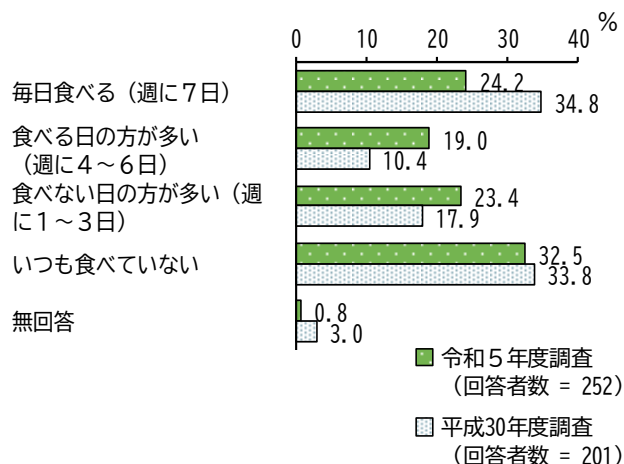


問3 あなたは、お子さん（高校生以下の子のうち1番の年長の方）と一緒にご飯を食べていますか。（○はそれぞれ1つ）

<朝食>

「いつも食べていない」の割合が32.5%と最も高く、次いで「毎日食べる（週に7日）」の割合が24.2%、「食べる日の方が多い（週に4～6日）」の割合が19.0%、「食べない日の方が多い（週に1～3日）」の割合が23.4%となっています。

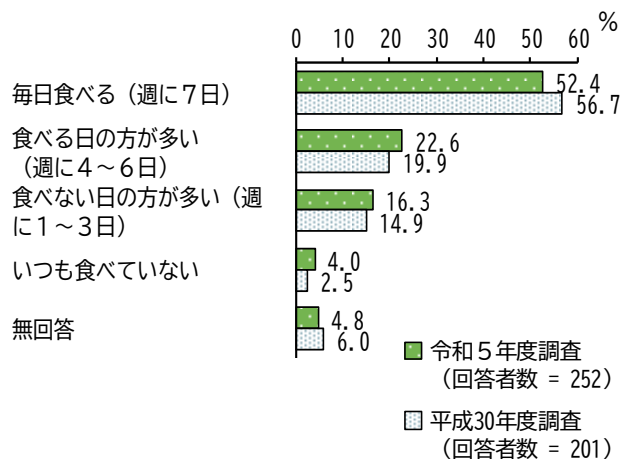
平成30年度調査と比較すると、「食べる日の方が多い（週に4～6日）」の割合が増加しています。一方、「毎日食べる（週に7日）」の割合が減少しています。



<夕食>

「毎日食べる（週に7日）」の割合が52.4%と最も高く、次いで「食べる日の方が多い（週に4～6日）」の割合が22.6%、「食べる日の方が多い（週に1～3日）」の割合が16.3%となっています。

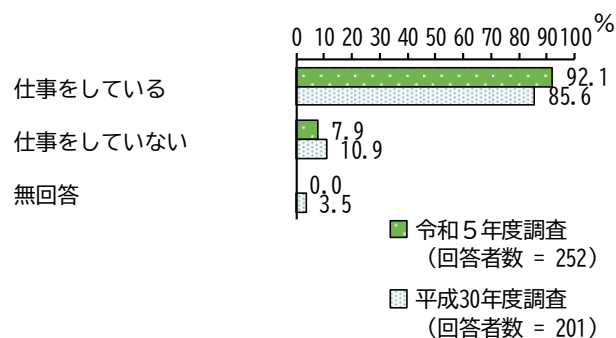
平成30年度調査と比較すると、「いつも食べていない」「食べる日の方が多い（週に1～3日）」の割合が若干増加しています。



問4 あなたは現在、仕事をしていますか。（○は1つ）

「仕事をしている」の割合が92.1%、「仕事をしていない」の割合が7.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「仕事をしている」の割合が増加しています。

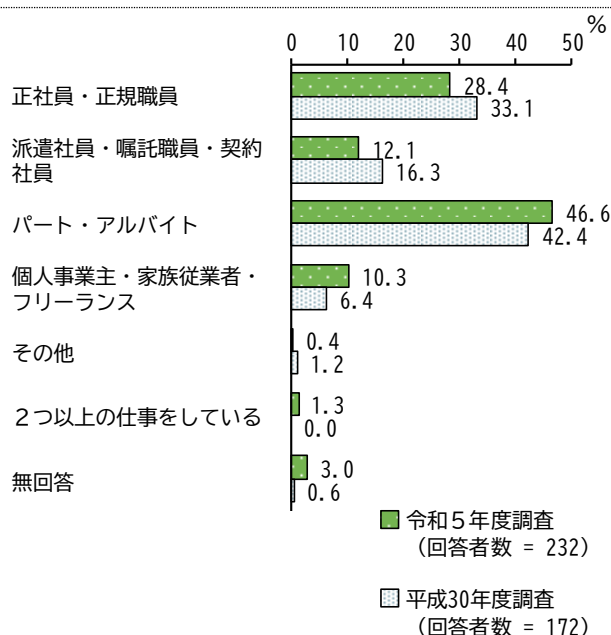


【問4で「1. 仕事をしている」と答えた方にお伺いします】

問4-1 現在の仕事の就業形態は次のどれにあてはまりますか。

「パート・アルバイト」の割合が46.6%と最も高く、次いで「正社員・正規職員」の割合が28.4%、「派遣社員・嘱託職員・契約社員」の割合が12.1%となっています。

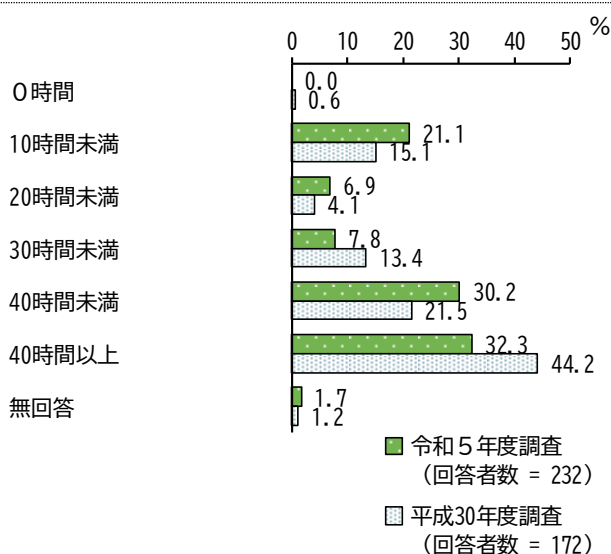
平成30年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



問4-2 あなたは、1週間に平均何時間、就労していますか。 (枠内に数字を記載してください)

「40時間以上」の割合が32.3%と最も高く、次いで「40時間未満」の割合が30.2%、「10時間未満」の割合が21.1%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「10時間未満」「40時間未満」の割合が増加し、「40時間以上」の割合が減少しています。



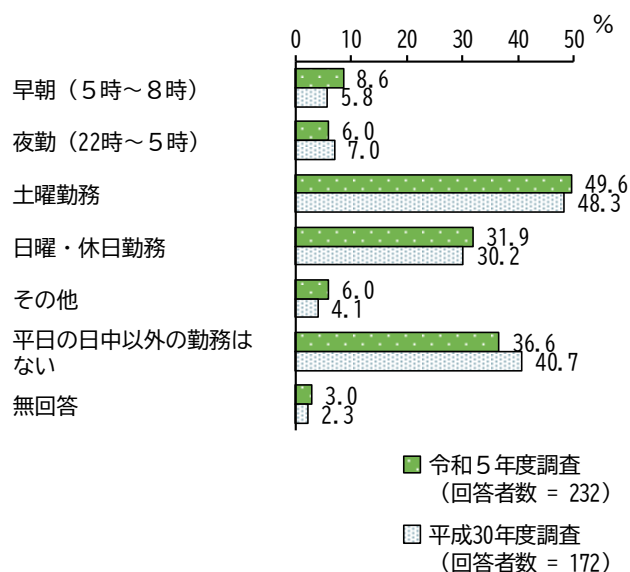
問4－3 あなたは、平日の日中以外の勤務がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「土曜勤務」の割合が49.6%と最も高く、次いで「平日の日中以外の勤務はない」の割合が36.6%、「日曜・休日勤務」の割合が31.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。

主な「その他」意見

- ・たまに土日出勤がある（7件）
- ・たまに早朝、夜勤がある（3件）
- ・祝日、年末年始（2件）

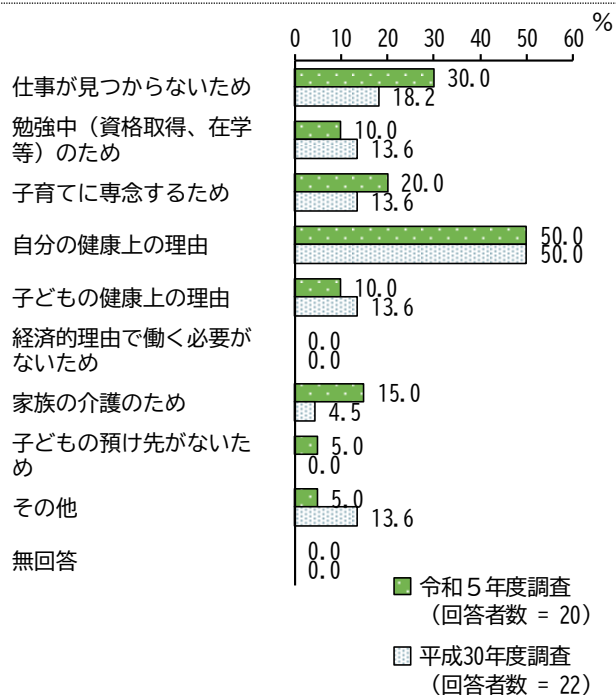


【問4で「2. 仕事をしていない」と答えた方にお伺いします】

問4－4 現在、仕事をしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「自分の健康上の理由」の割合が50.0%と最も高く、次いで「仕事が見つからないため」の割合が30.0%、「子育てに専念するため」の割合が20.0%となっています。

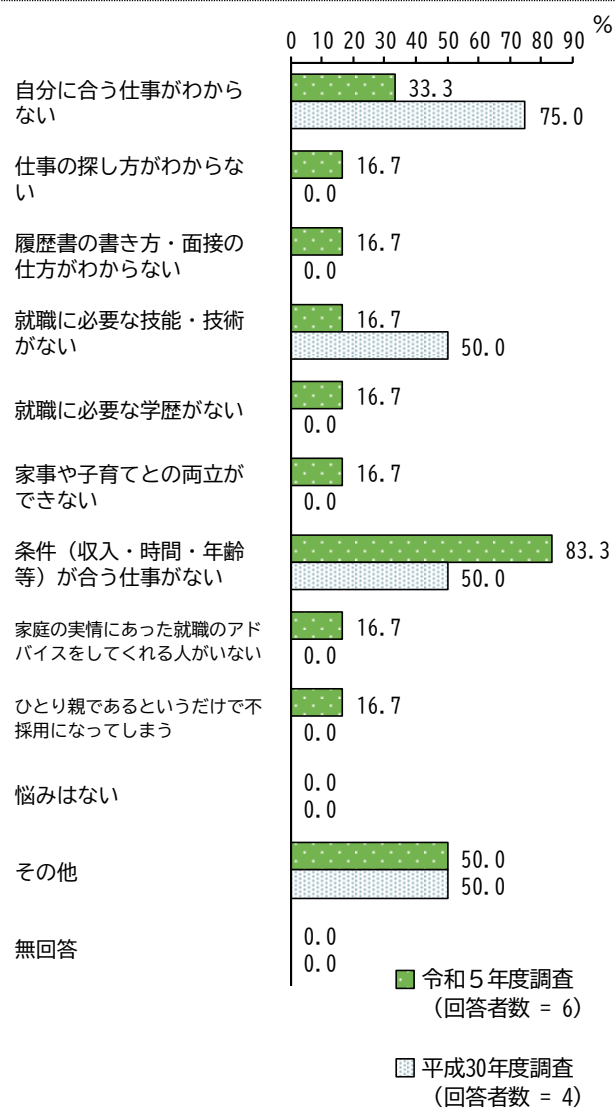
平成30年度調査と比較すると、「仕事が見つからないため」「子育てに専念するため」の割合が増加しています。



【問4-4で「1. 仕事が見つからないため」と答えた方にお伺いします】

問4-5 仕事を探すにあたって悩みはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「条件（収入・時間・年齢等）が合う仕事がない」が5件、「自分に合う仕事が見つからない」が2件となっています。



問5 あなたが日々の生活の中で、今までよりかける時間を減らしたいと思っていること、時間をかけたいと思っていることを【選択肢】の欄から上位3つまで数字を記入してください。

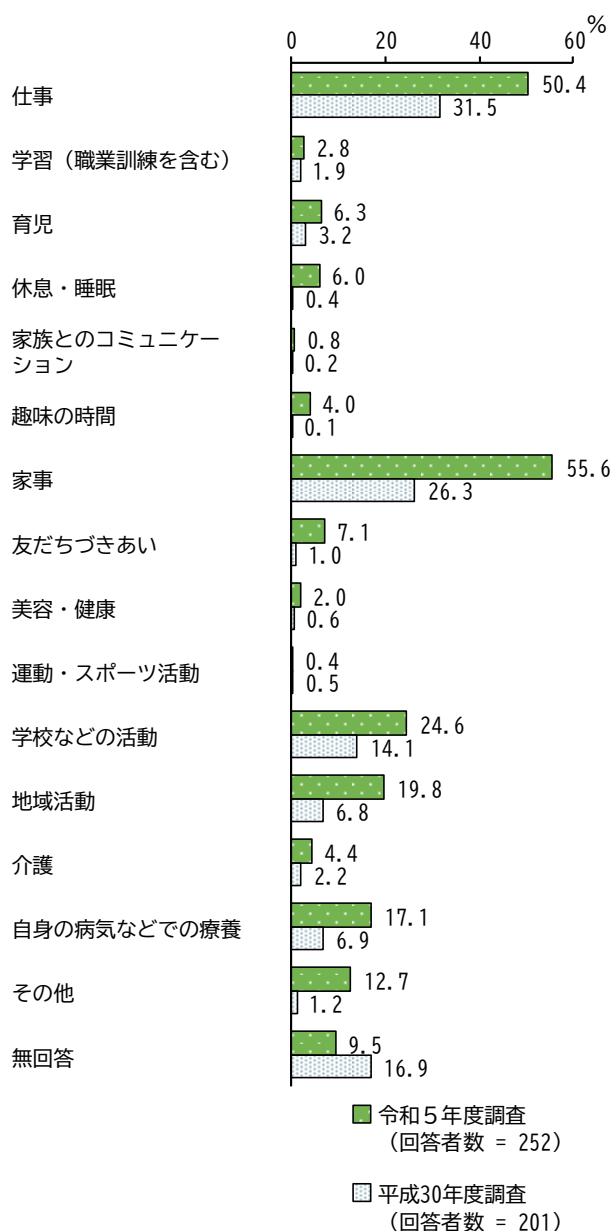
【A. もっと時間を減らしたいと思っていること】

「家事」の割合が 55.6%と最も高く、次いで「仕事」の割合が 50.4%、「学校などの活動」の割合が 24.6%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「仕事」「家事」「友だちづきあい」「学校などの活動」「地域活動」「自身の病気などでの療養」の割合が増加しています。

主な「その他」意見

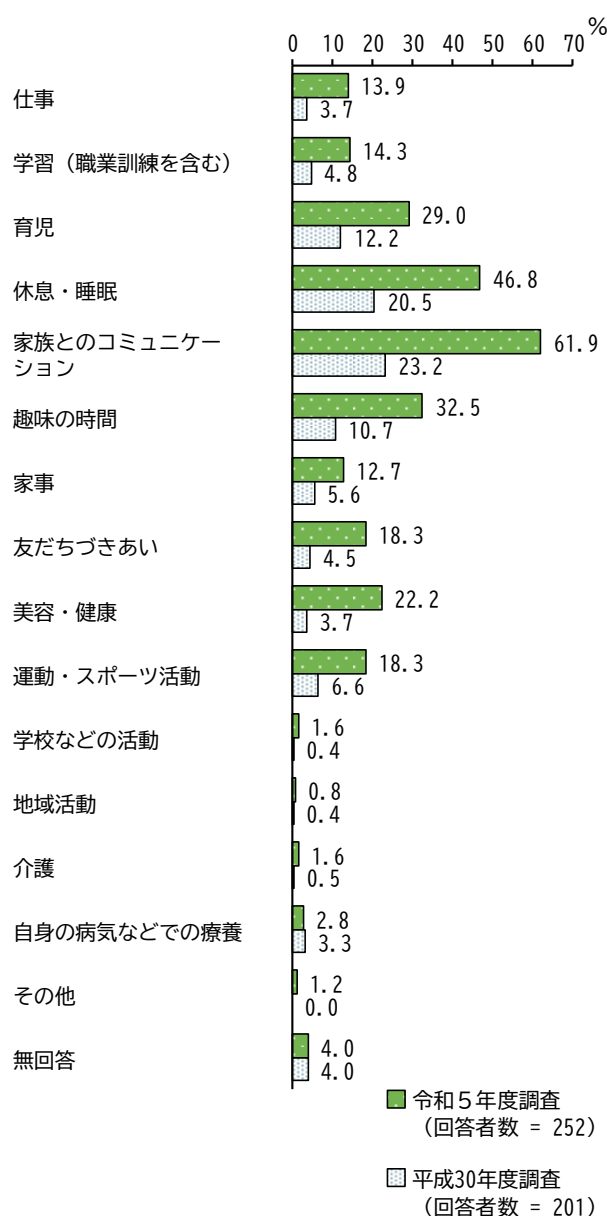
- ・通勤 （3件）
- ・通院 （2件）



【B. もっと時間をかけたいと思っていること】

「家族とのコミュニケーション」の割合が61.9%と最も高く、次いで「休息・睡眠」の割合が46.8%、「趣味の時間」の割合が32.5%となっています。

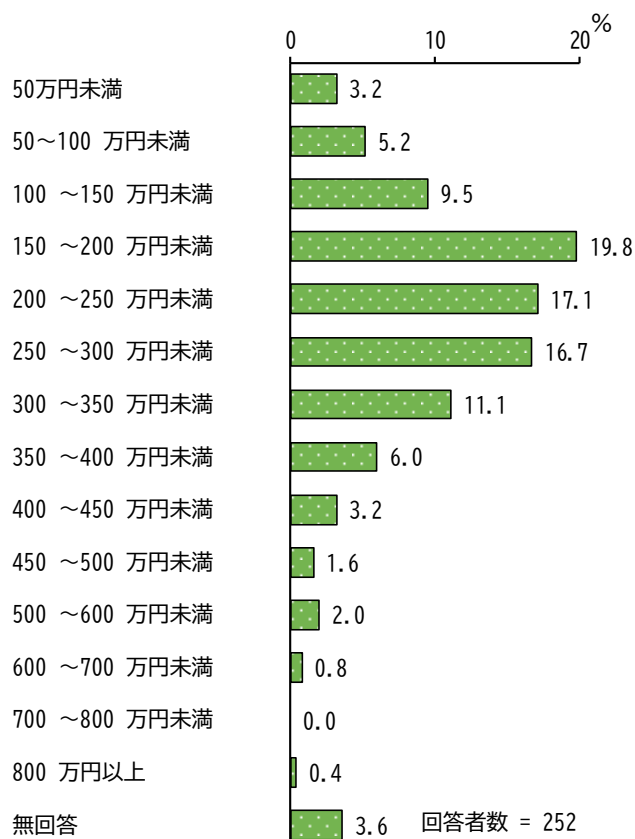
平成30年度調査と比較すると、「仕事」「学習（職業訓練を含む）」「育児」「休息・睡眠」「家族とのコミュニケーション」「趣味の時間」「家事」「友だちづきあい」「美容・健康」「運動・スポーツ活動」の割合が増加しています。



(2) あなたの暮らし向きについて

問6 昨年（令和4年1月～12月）1年間の、あなたの世帯（生計を共にする家族の収入も含みます）のおよその総収入（養育費や手当等すべての収入を含みます）を教えてください。（〇は1つ）

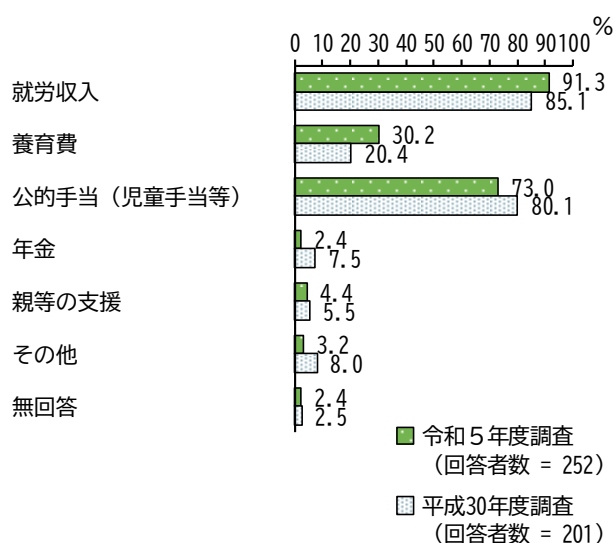
「150～200 万円未満」の割合が 19.8%と最も高く、次いで「200～250 万円未満」の割合が 17.1%、「250～300 万円未満」の割合が 16.7%となっています。



問7 収入の種類を教えてください。（あてはまるものすべてに〇）

「就労収入」の割合が 91.3%と最も高く、次いで「公的手当（児童手当等）」の割合が 73.0%、「養育費」の割合が 30.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「就労収入」「養育費」の割合が増加しています。一方、「公的手当（児童手当等）」の割合が減少しています。

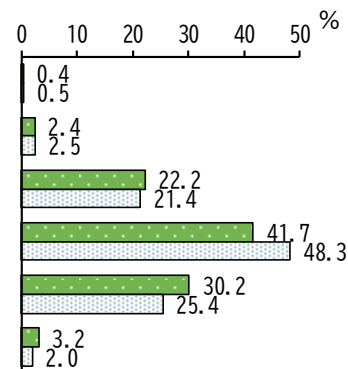


問8 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どのように感じていますか。(〇は1つ)

「やや苦しい」の割合が 41.7%と最も高く、次いで「大変苦しい」の割合が 30.2%、「普通」の割合が 22.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「やや苦しい」の割合が減少し、「大変苦しい」の割合が増加しています。

大変ゆとりがある
ややゆとりがある
普通
やや苦しい
大変苦しい
無回答



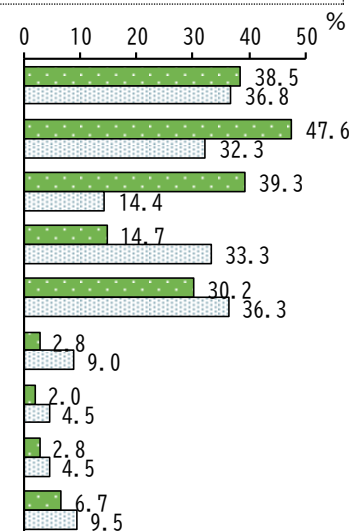
■ 令和5年度調査
(回答者数 = 252)
■ 平成30年度調査
(回答者数 = 201)

問9 生活の中で負担に感じる費用はありますか。上位2つをお選びください。(〇は2つまで)

「食費」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「光熱水費」の割合が 39.3%、「教育費」の割合が 38.5%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「食費」「光熱水費」の割合が増加し、「通信費(携帯電話代を含む)」の割合が減少しています。

教育費
食費
光熱水費
通信費
(携帯電話代を含む)
住宅費
衣服費
医療費
その他
無回答



■ 令和5年度調査
(回答者数 = 252)
■ 平成30年度調査
(回答者数 = 201)

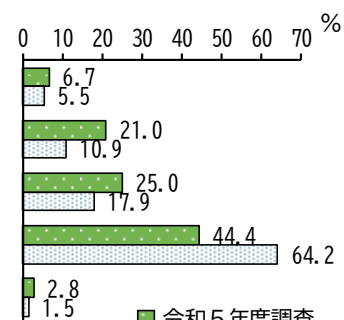
問10 あなたのご家庭では、過去1年間の間に金が足りずに、家族が必要とする食料や衣類の購入などの支払いができませんでしたか。(それぞれ〇はひとつ)

【食料】

「まったくなかった」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「あまりなかった」の割合が 25.0%、「ときどきあった」の割合が 21.0%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「ときどきあった」「あまりなかった」の割合が増加しています。一方、「まったくなかった」の割合が減少しています。

よくあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった
無回答



■ 令和5年度調査
(回答者数 = 252)
■ 平成30年度調査
(回答者数 = 201)

【衣類】

「まったくなかった」の割合が 36.9%と最も高く、次いで「ときどきあった」の割合が 27.0%、「あまりなかった」の割合が 22.6%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「ときどきあった」の割合が増加しています。一方、「まったくなかった」の割合が減少しています。

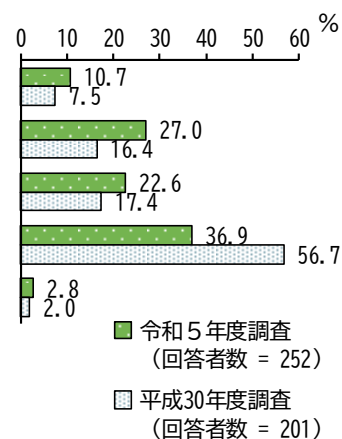
よくあった

ときどきあった

あまりなかった

まったくなかった

無回答



【光熱水費】

「まったくなかった」の割合が 49.6%と最も高く、次いで「あまりなかった」の割合が 25.0%、「ときどきあった」の割合が 17.1%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「ときどきあった」「あまりなかった」の割合が増加しています。「まったくなかった」の割合が減少しています。

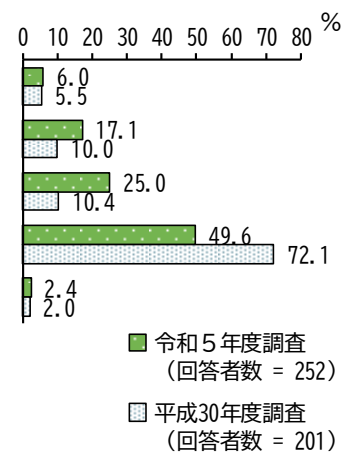
よくあった

ときどきあった

あまりなかった

まったくなかった

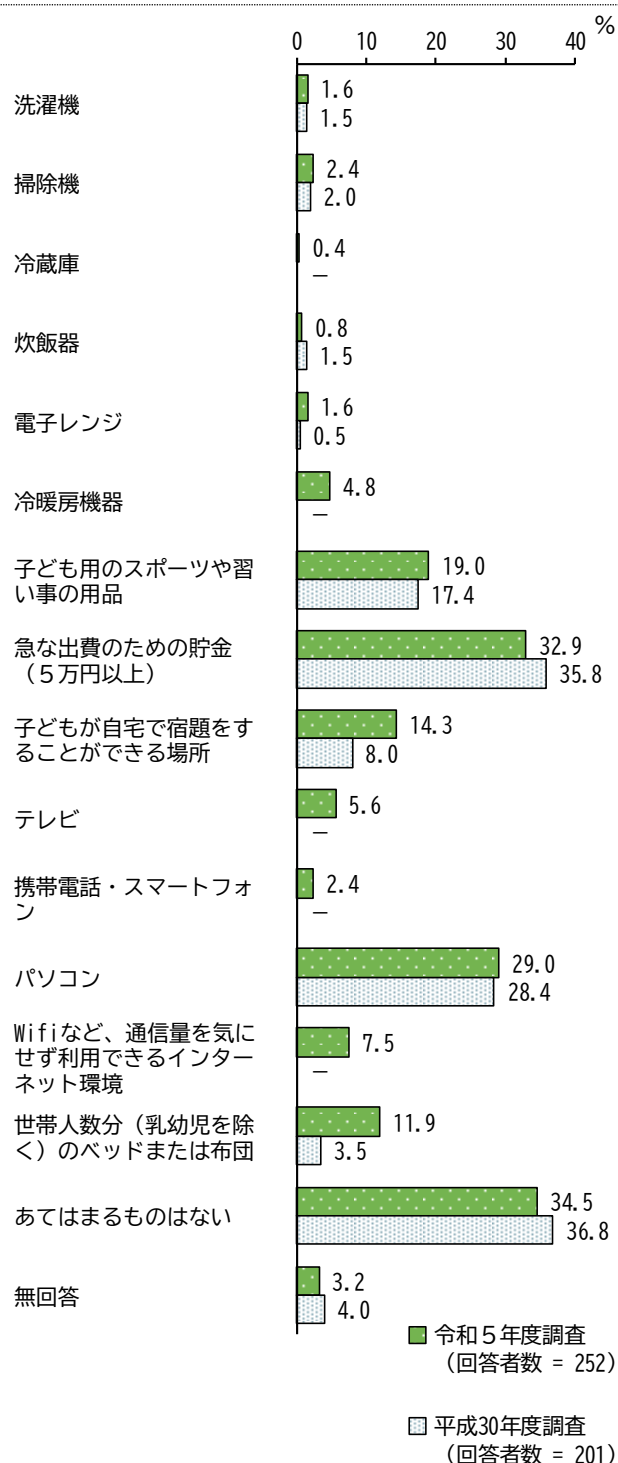
無回答



問 11 次のもののうち、経済的な理由によりあなたの世帯にないものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「あてはまるものはない」の割合が 34.5%と最も高く、次いで「急な出費のための貯金（5万円以上）」の割合が 32.9%、「パソコン」の割合が 29.0%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」「世帯人数分（乳幼児を除く）のベッドまたは布団」の割合が増加しています。

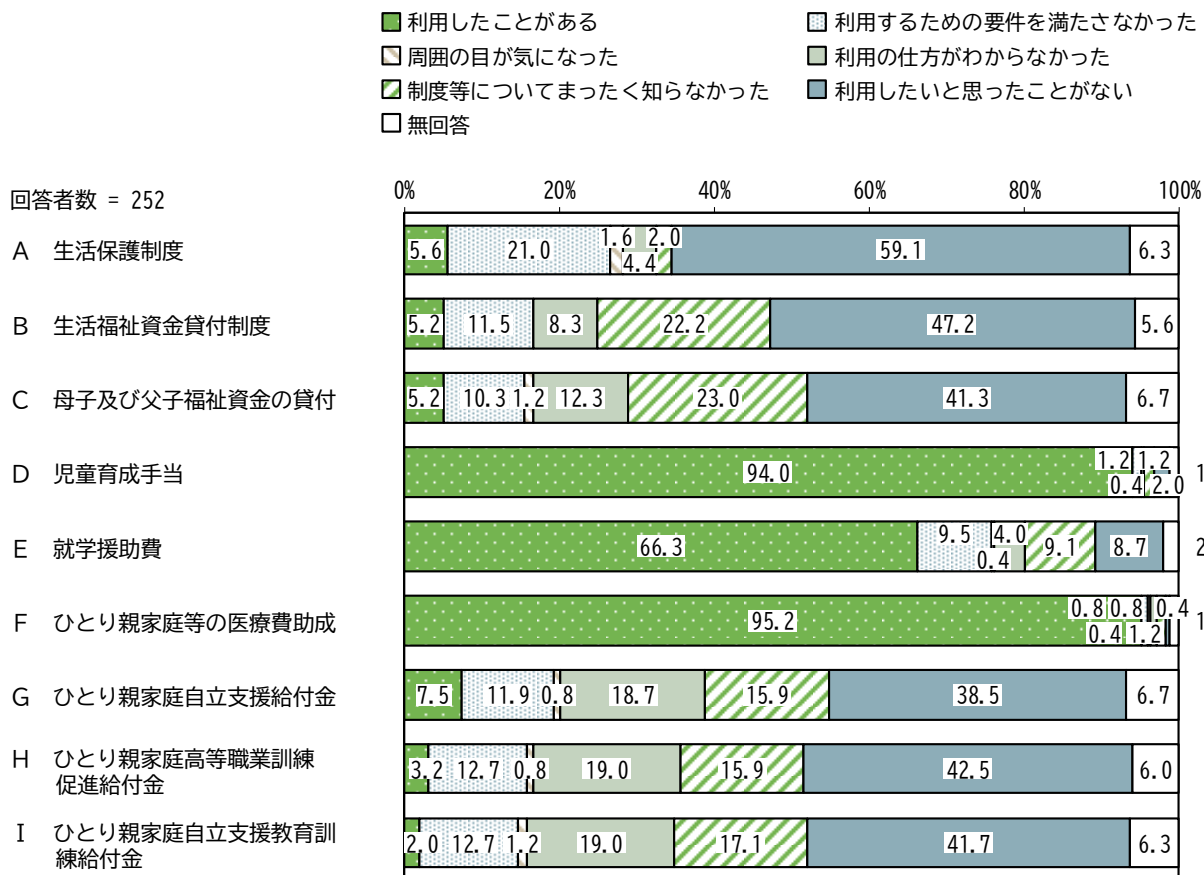
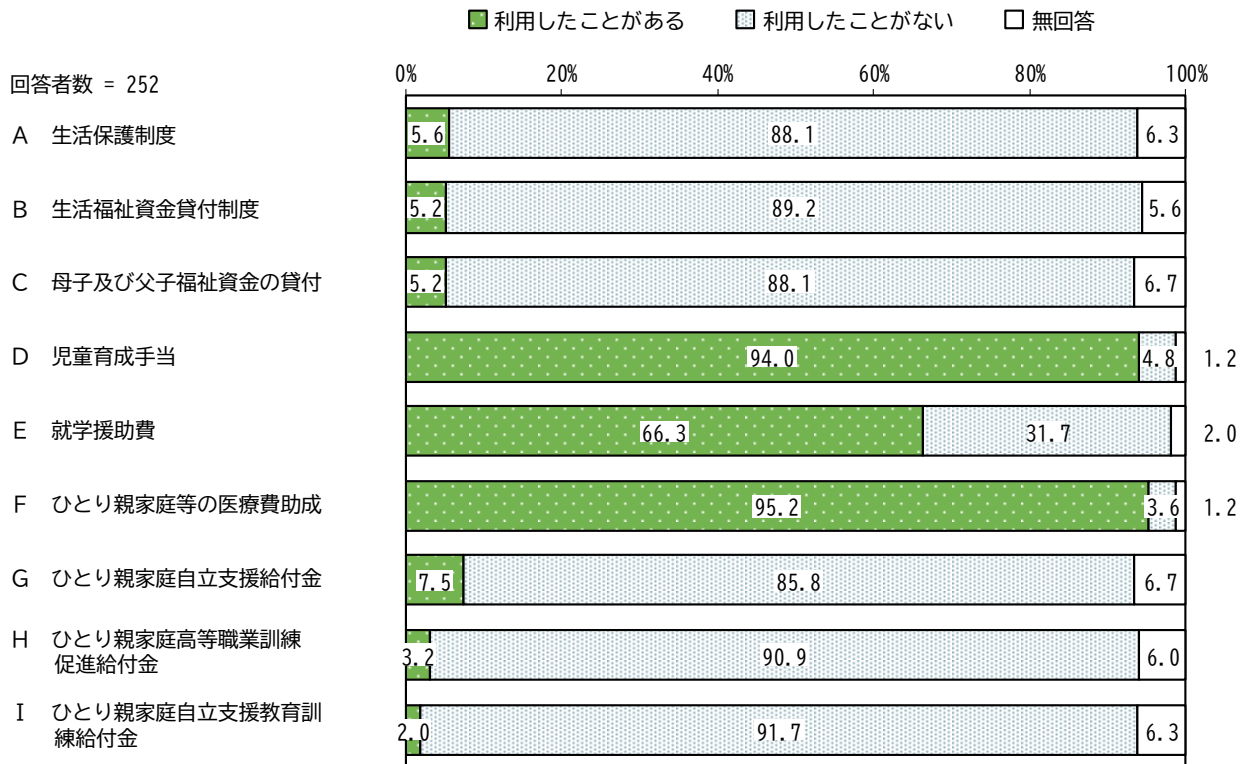


※令和5年度調査で、「冷蔵庫」「テレビ」「携帯電話・スマートフォン」「Wifi など、通信量を気にせず利用できるインターネット環境」の選択肢を追加しています。

※平成30年度調査で、「冷暖房機器」は「冷房機器」「暖房機器」で選択肢が分かれていました。

C-1 保護者用

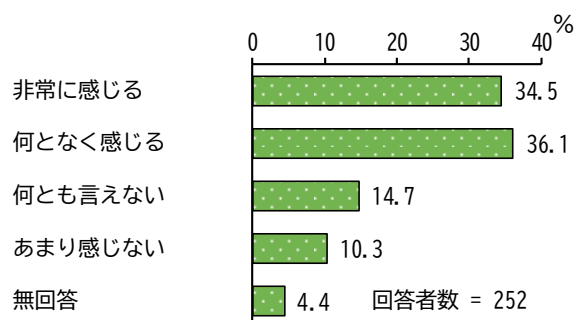
問 12 以下の支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。（それぞれ○は1つ）



(3) 子育ての悩みや相談相手について

問 13 子育てについて、不安や負担を感じていますか。(○は1つ)

「何となく感じる」「非常に感じる」を合わせた割合が 70.6%となっています。



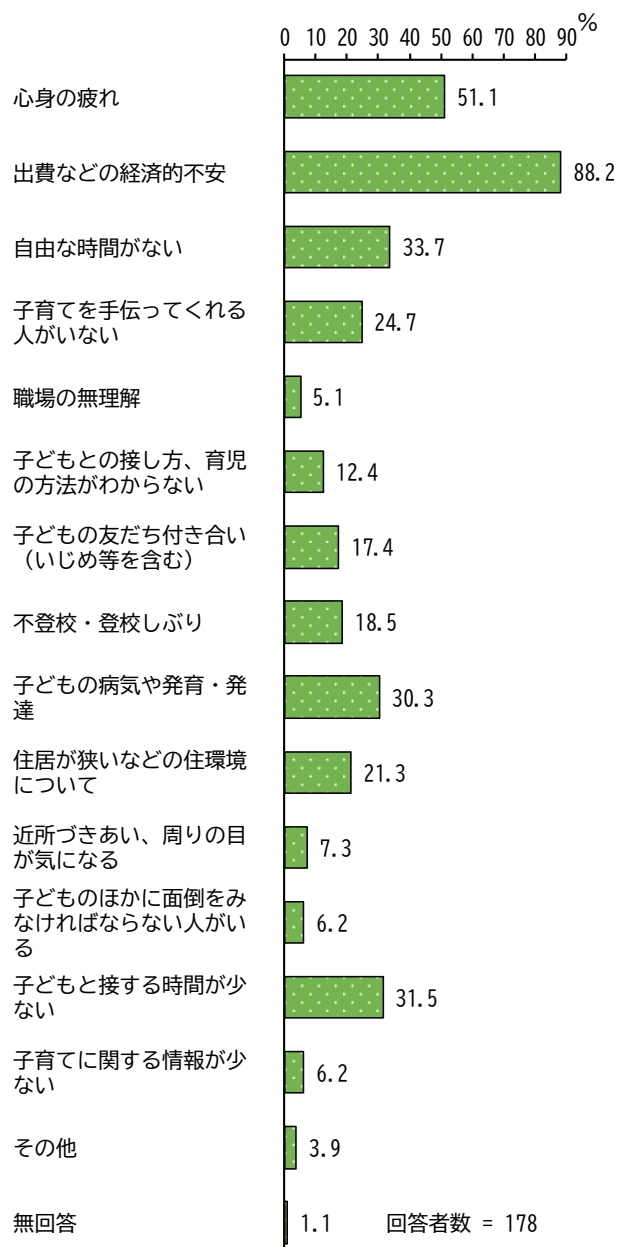
【問 13 で「1. 非常に感じる」「2. 何となく感じる」と答えた方にお伺いします】

問 13-1 具体的にどのような不安や負担を感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「出費などの経済的不安」の割合が 88.2%と最も高く、次いで「心身の疲れ」の割合が 51.1%、「自由な時間がない」の割合が 33.7%となっています。

主な「その他」意見

- ・子どもの進学について (3件)
- ・子どもの病気・障害について (3件)

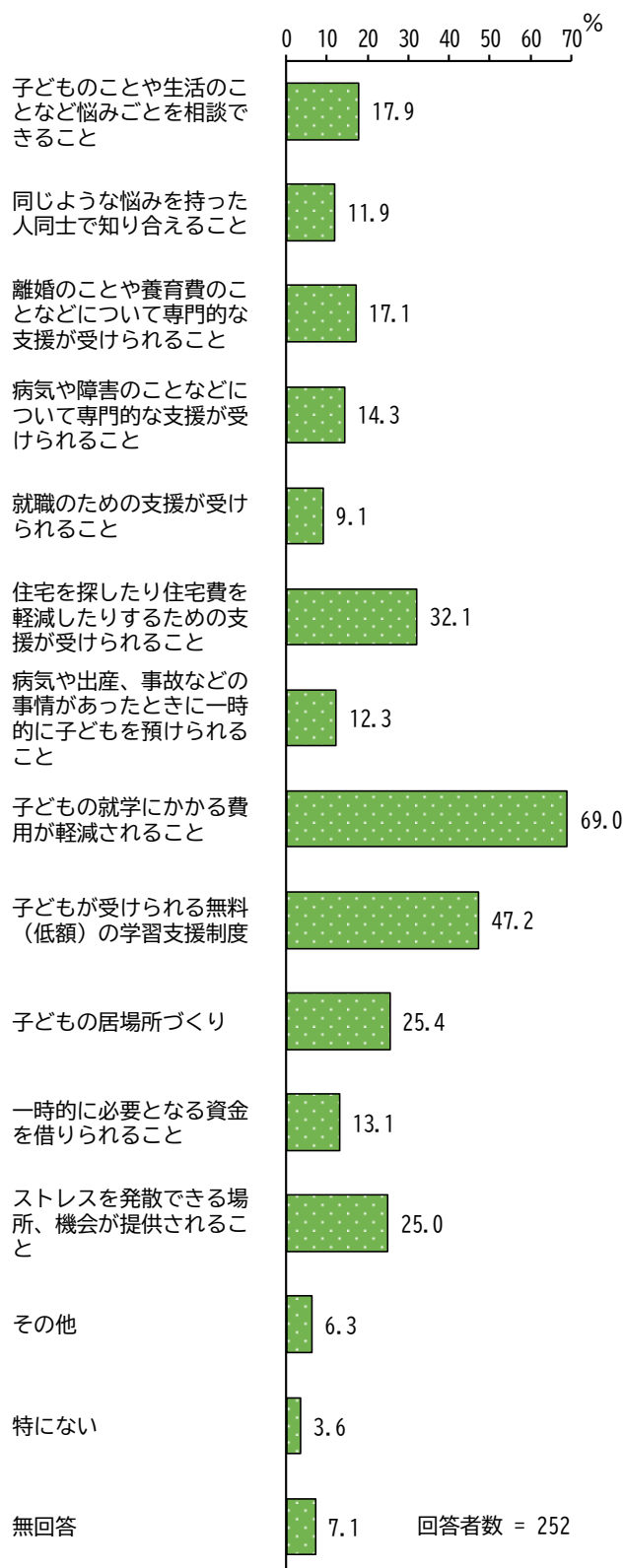


問 14 あなたが現在必要としていることで、重要だと思う支援等はあるどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」の割合が 69.0%と最も高く、次いで「子どもが受けられる無料（低額）の学習支援制度」の割合が 47.2%、「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」の割合が 32.1%となっています。

主な「その他」意見

- ・食料の支援 （3件）
- ・光熱水費の軽減できる支援 （2件）

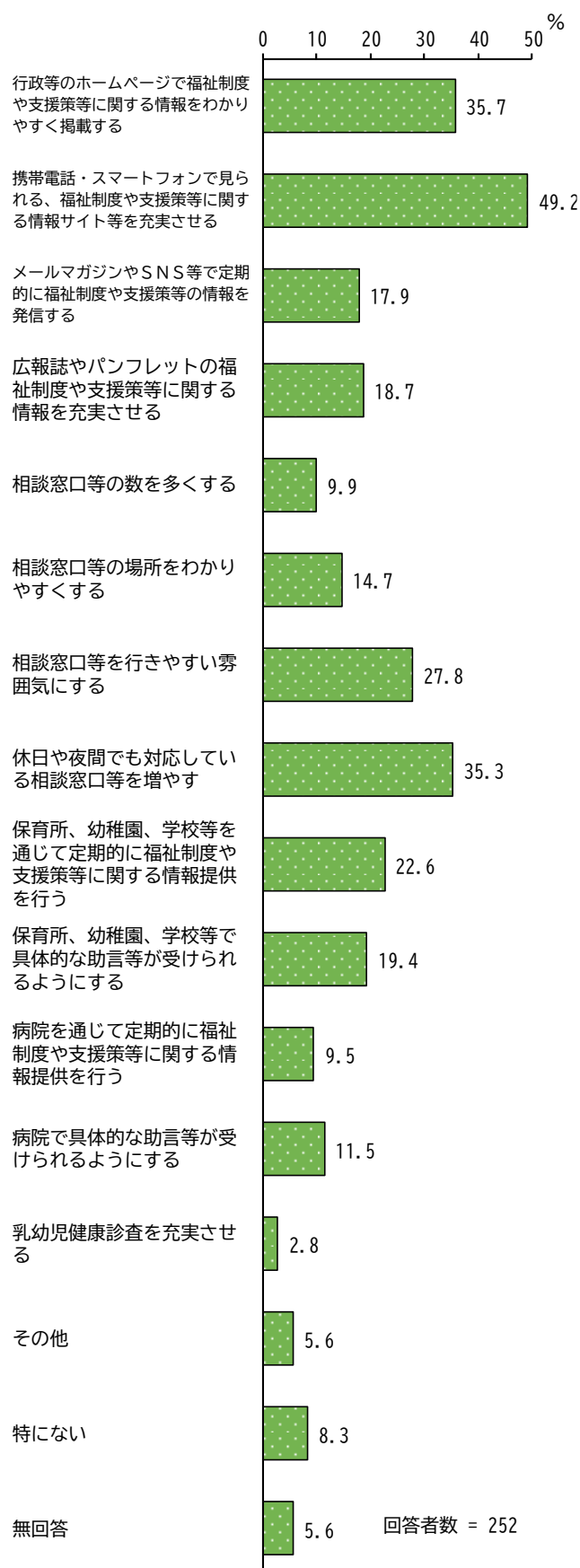


問 15 あなたが必要な支援を受けるために重要だと思うことを教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

「携帯電話・スマートフォンで見られる、福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」の割合が49.2%と最も高く、次いで「行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する」の割合が35.7%、「休日や夜間でも対応している相談窓口等を増やす」の割合が35.3%となっています。

主な「その他」意見

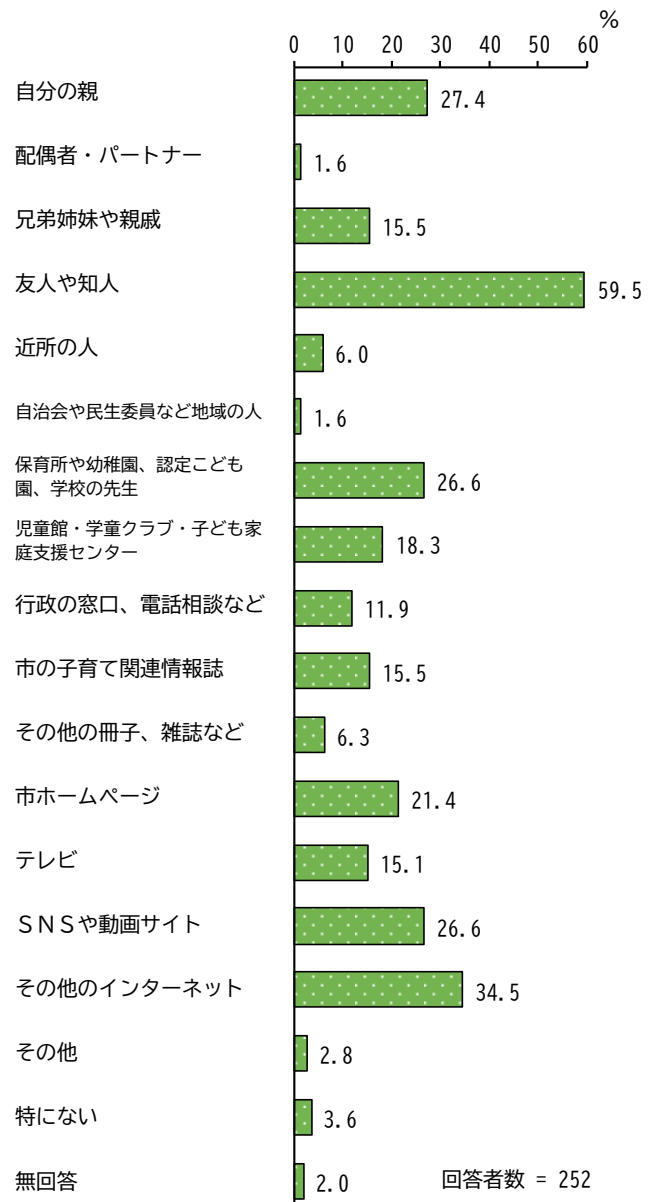
- ・役所から該当者へ手続きを
アプローチすること (3件)



問 16 あなたは、子育てに関する情報をどこから手に入れますか。
(あてはまるものすべてに○)

「友人や知人」の割合が 59.5%と最も高く、次いで「その他のインターネット」の割合が 34.5%、「自分の親」の割合が 27.4%となっています。

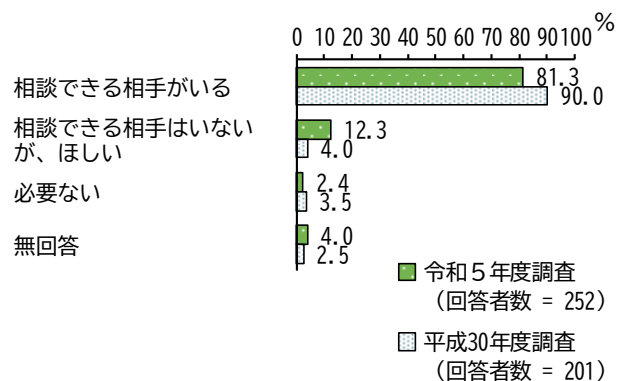
また、「市ホームページ」は 21.4%、「市の子育て関連情報誌」は 15.5%となっています。



問 17 あなたには、お子さんに関する悩みを相談できる人がいますか。(○は1つ)

「相談できる相手がいる」の割合が 81.3%と最も高く、次いで「相談できる相手はいないが、ほしい」の割合が 12.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「相談できる相手はいないが、ほしい」の割合が増加しています。



【問 17 で「1. 相談できる相手がいる」、「2. 相談できる相手はいないが、ほしい」と答えた方にお伺いします】

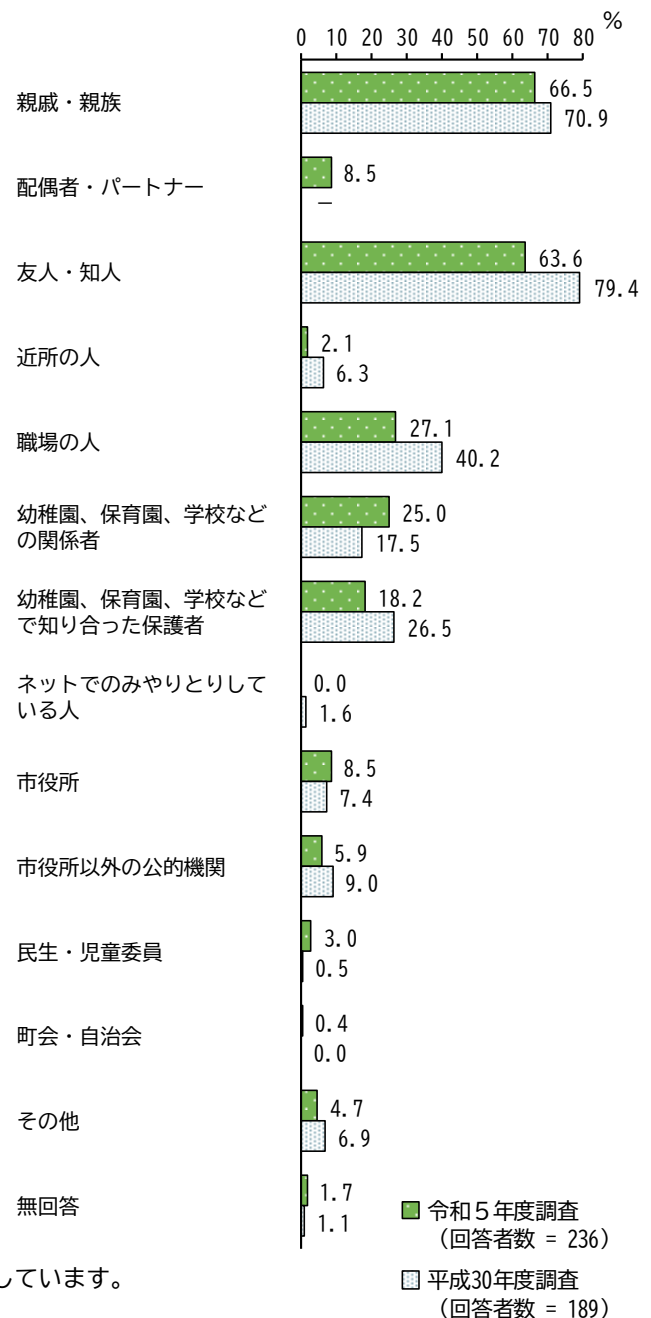
問 17-1 その相談相手は誰ですか。また、相談相手がほしい方は誰に（どこに）相談したいですか。（あてはまるものすべてに○）

「親戚・親族」の割合が 66.5%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 63.6%、「職場の人」の割合が 27.1%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「幼稚園、保育園、学校などの関係者」の割合が増加しています。一方、「友人・知人」「職場の人」の割合が減少しています。

主な「その他」意見

・カウンセラー （3件）



※令和5年度調査で、「配偶者・パートナー」の選択肢を追加しています。

問 17-2 必要ないと感じる理由を具体的に教えてください。

※（ ）は意見数

項目	意見
1. 悩みがない、困っていない (3)	・ 悩みがない。 ・ 今は必要ない。
2. その他 (2)	・ 自分でやる。 ・ 相談しても仕方ないから。

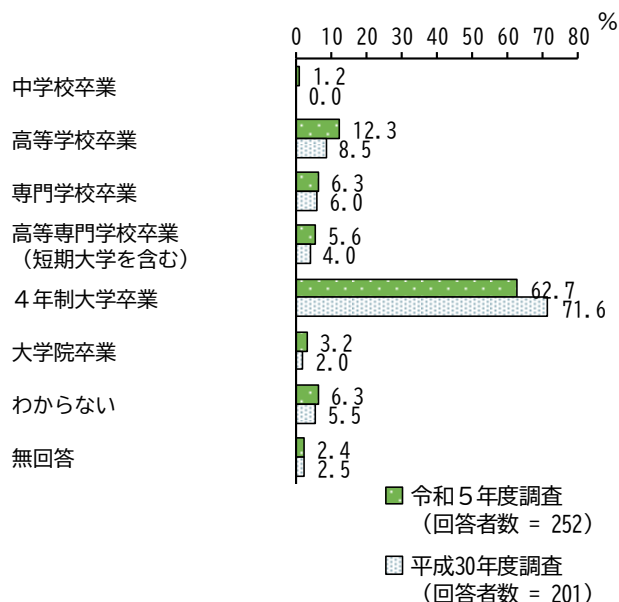
(4) お子さん（高校生以下の子のうち1番年長の方）の教育や生活について

問 18 あなたの希望として、お子さんにどの段階まで進学してほしいですか。また、実際はどの段階までの進学になると思いますか。（すでに進学、卒業された方は、どの段階まで進学しましたか）（それぞれ○は1つ）

【希望】

「4年制大学卒業」の割合が62.7%と最も高く、次いで「高等学校卒業」の割合が12.3%となっています。

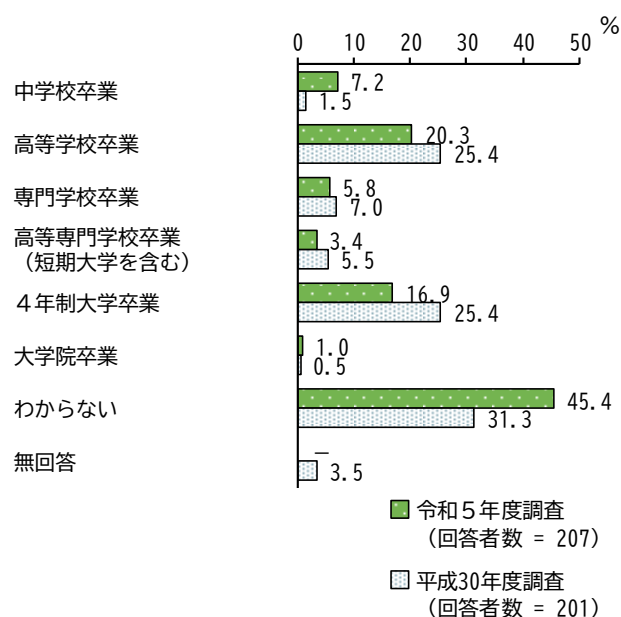
平成30年度調査と比較すると、「4年制大学卒業」の割合が減少しています。



【実際】

「わからない」の割合が45.4%と最も高く、次いで「高等学校卒業」の割合が20.3%、「4年制大学卒業」の割合が16.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「中学校卒業」の割合が増加しています。一方、「高等学校卒業」「4年制大学卒業」の割合が減少しています。

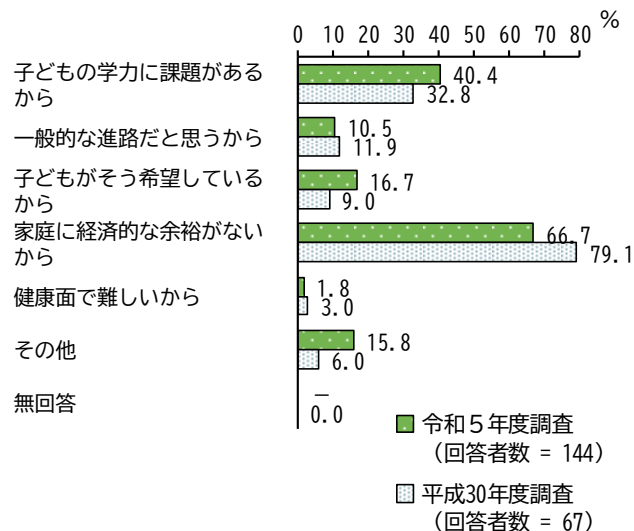


【問 18 で希望と実際の状況が異なる方にお伺いします】

問 18-1 希望と実際の状況が異なる理由を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が 66.7%と最も高く、次いで「子どもの学力に課題があるから」の割合が 40.4%、「子どもがそう希望しているから」の割合が 16.7%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「子どもの学力に課題があるから」「子どもがそう希望しているから」の割合が増加しています。一方、「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が減少しています。

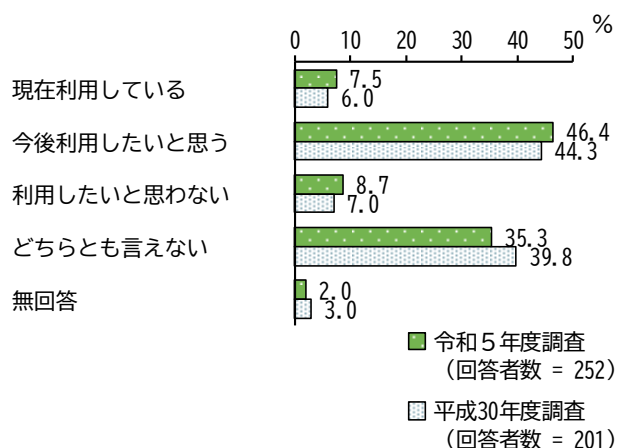


問 19 お子さん（高校生以下の子のうち1番年長の方）について、ボランティアなどによる、無料の学習支援（学習の手助けなどの支援が受けられる場）や子ども食堂（無料または低価格帯で栄養のある食事の提供が受けられる場）、居場所（学校以外で、日中、子どもたちが自習や遊びの手助け、食事の提供などが受けられる場）があった場合、利用したいと思いますか。（それぞれ○は1つ）

【無料の学習支援】

「今後利用したいと思う」の割合が 46.4%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」の割合が 35.3%となっています。

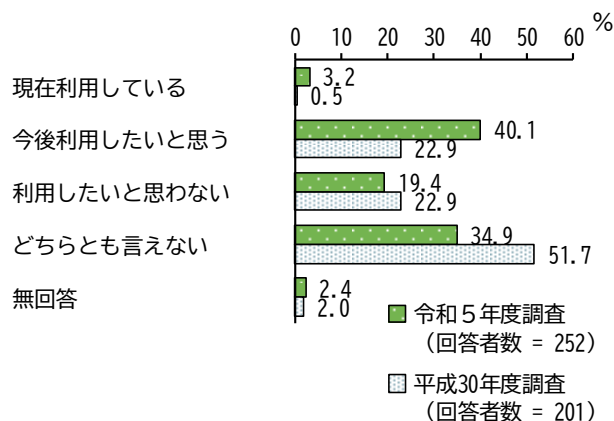
平成 30 年度調査と比較すると、「現在利用している」「今後利用したいと思う」の割合が若干増加しています。



【子ども食堂（無料または低価格帯で栄養のある食事の提供が受けられる場）】

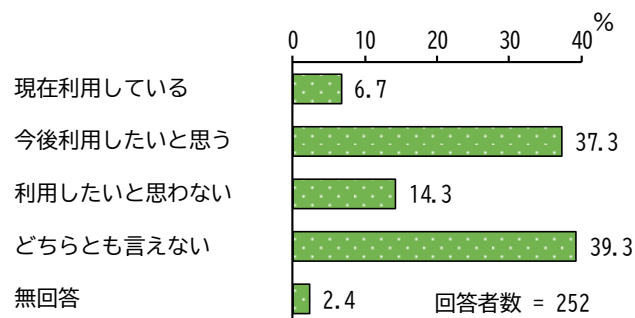
「今後利用したいと思う」の割合が 40.1%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」の割合が 34.9%、「利用したいと思わない」の割合が 19.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「今後利用したいと思う」の割合が増加しています。



【居場所】

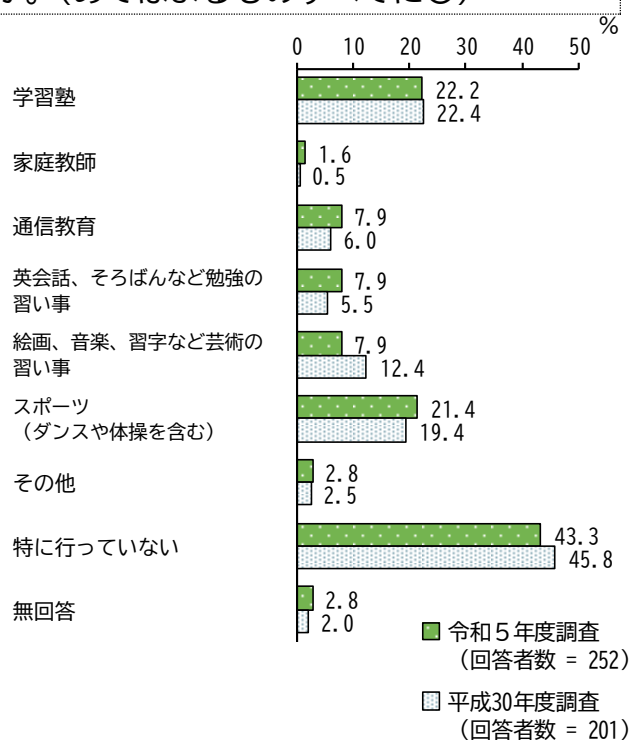
「どちらとも言えない」の割合が 39.3%と最も高く、次いで「今後利用したいと思う」の割合が 37.3%、「利用したいと思わない」の割合が 14.3%となっています。



問 20 お子さんは現在習い事等をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「特に行っていない」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「学習塾」の割合が 22.2%、「スポーツ（ダンスや体操を含む）」の割合が 21.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。

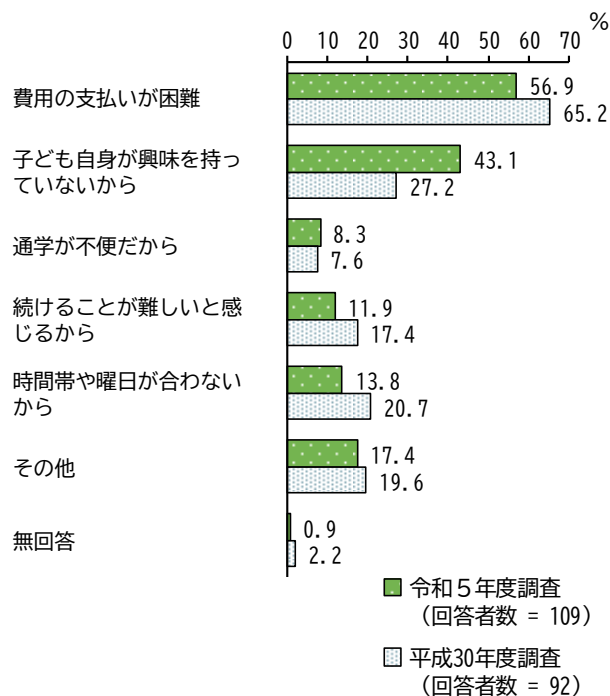


【問 20 で「8. 特に行っていない」と答えた方にお伺いします】

問 20-1 塾や習い事をしていない主な理由を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

「費用の支払いが困難」の割合が 56.9%と最も高く、次いで「子ども自身が興味を持っていないから」の割合が 43.1%、「時間帯や曜日が合わないから」の割合が 13.8%となっています。

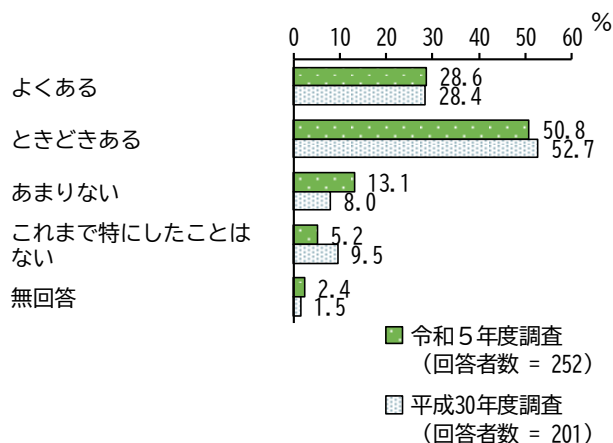
平成 30 年度調査と比較すると、「子ども自身が興味を持っていないから」の割合が増加し、「費用の支払いが困難」の割合が減少しています。



問 21 あなたは、お子さんの将来（夢、進路、職業など）について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。(○は1つ)

「ときどきある」の割合が 50.8%と最も高く、次いで「よくある」の割合が 28.6%、「あまりない」の割合が 13.1%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。



問 22 市の施策に関する意見・要望がありましたら、自由に記入してください。

※（ ）は意見数

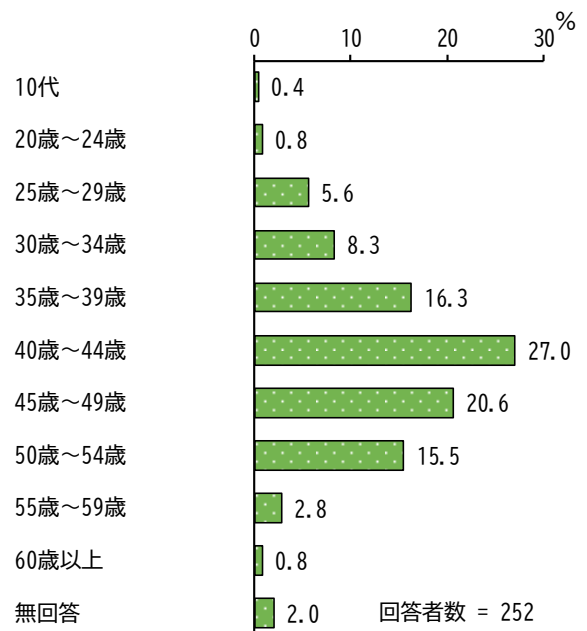
項目	主な意見（要約）
1. 助成／手当／支援について (16)	・ひとり親家庭は金銭援助を受けて助かっているが、援助を受けるための年収の壁が低すぎて、収入を増やすと税金が増えてマイナスになります。改善を求めます。 ・義務教育とはいえ、学校ではお金がかかります。制服などとても高額なので、そのようなところでも支援がもっとあるとよいと思います。
2. 相談窓口／多摩市役所について (9)	・ここ数年で少しずつ改善は見られるが、市役所の方の対応が上から目線であったり、不明点を伺えば気怠そうな顔をされ、相談をする気もなくなってしまいました。 ・1人親家庭です。フルタイムで働いています。平日に休みはとりづらいです。土曜日や日曜日に開いている出張所でも、書類を受けとっていただけるとありがたいです。
3. 学童／児童館／子どもの預け先について (6)	・子どもが1人で行動することに不安があるため、慣らし期間を設けてほしい。治安や人とのつながりの変化も考慮して、より長い期間の支援を希望します。 ・ひとり親家庭に対する支援として、保育や家庭ヘルパーなどの子育て支援を充実させ、使いやすい条件で利用できる環境を整えてほしいです。
4. 環境整備／施設整備(8)	・知的障がい者や見た目ではわからなく理解されない障がいをもってしまった大人や、子どもが公共のバスなどで利用しやすいようにもう少し配慮していただけたらと思います。 ・市役所がもう少し駅寄りの場所へ移ってもらえたらと思います。
5. 保育園／幼稚園について(1)	・ひとり親の保育所入所に対する加点が低く、定員超過により入所不可であるにも関わらず、支援が不足していると思います。特に聖蹟近隣の人口増加に対する保育の場が不足していると感じられます。
6. 情報発信について(3)	・多摩市で育ち、子どもとの生活に満足しているが、市の情報が多すぎて必要なものを見つけるのが難しいと感じる。情報の配信方法を改善し、個別に必要な情報が確実に届くようにしたいです。市のウェブサイトの見やすさも課題だが、インターネット申請ができるようになって助かっています。
7. 学習塾について(2)	・無料の学習支援等今後利用したいが、夜遅かったり場所が限られていると利用しづらいと思いました。
8. 不登校／いじめ／障がい等について(3)	・不登校児の保護者は、学校からの支援がない中、役所の教育センターから助言や支援を受けることができ、その情報が助かりました。 ・不登校児の通える場所、選択できる場所を増やしてほしいです。 ・自分の障がいや娘の障がいに苦しみ、日々不安や辛さに苦しんでおり、支援してほしいです。

項目	主な意見（要約）
9. 就労について(2)	・多摩市のひとり親への仕事紹介は、ハローワークの求人等を案内しているが、公金事業の会社では低賃金や保障のない労働が問題。市役所内の求人枠や短期アルバイトなど、直接支援できる仕組みがあれば助かります。 ・給料が少ない人に支援してほしいです。
10. 学校、教育全般について(3)	・多摩センター駅周辺や貝取、豊ヶ丘では、小学校までの距離が徒歩 10 分以上かかる場所や学童との距離が離れているところがあり、特に低学年の子どもをもつ家庭にとっては大変であり、安全面も気がかりです。 ・役員の仕事は負担が大きく、子どもが多い場合はさらに大変であり、体調不良も多い中、学校の PTA 役員をやめてほしいです。 ・学区で学力レベルに差がある事で、進学に影響することが納得できません。
11. その他(3)	・子の成人式はキティちゃんに来てほしいです。ご検討をお願いします。 ・いろいろ良くしてもらっています。ごみ袋の補助だけは期間中に行けず利用できていません。通年での申し込みを希望します。

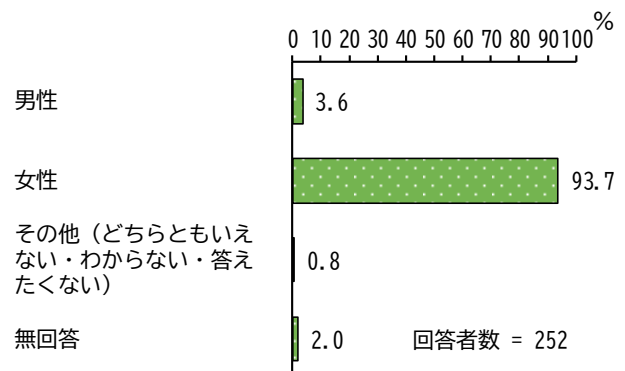
(5) あなたとご家族の状況について

問 23 あなたの現在の年齢をおしえてください。(○は1つ)

「40歳～44歳」の割合が27.0%と最も高く、次いで「45歳～49歳」の割合が20.6%、「35歳～39歳」の割合が16.3%となっています。

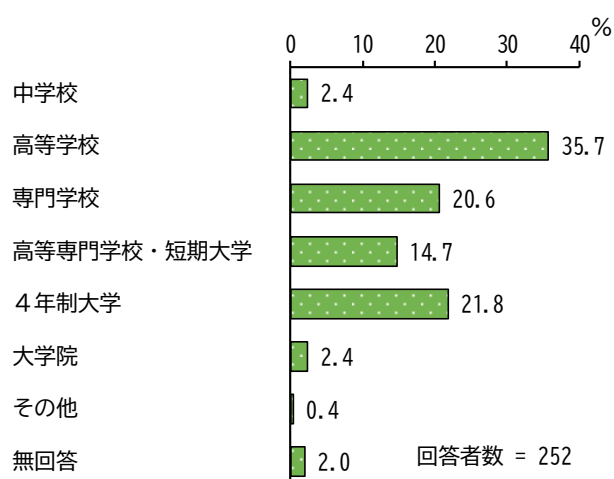


問 24 あなたの性別をおしえてください。(○は1つ)



問 25 あなたが最後に卒業（中退を含む）した、または現在在学している学校はどれですか。（それぞれ○は1つ）

「高等学校」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「4年制大学」の割合が 21.8%、「専門学校」の割合が 20.6%となっています。



【在学状況別】

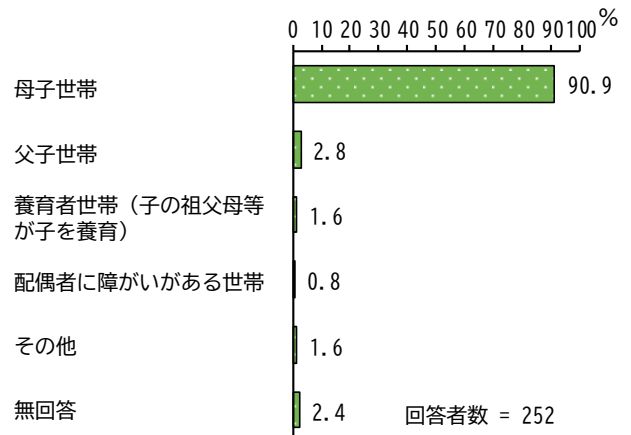
単位：件

区分	回答者数 (件)	中学校	高等学校	専門学校	大学 高等専門学校・短期	4年制大学	大学院	その他	無回答
全 体	252	6	90	52	37	55	6	1	5
在学中	3	1	1	0	0	0	1	0	0
中途退学	27	0	17	3	0	6	1	0	0
卒業	181	3	55	44	32	41	4	1	1

問 26 あなたの世帯と、同居している人について教えてください。（それぞれ○は1つ）

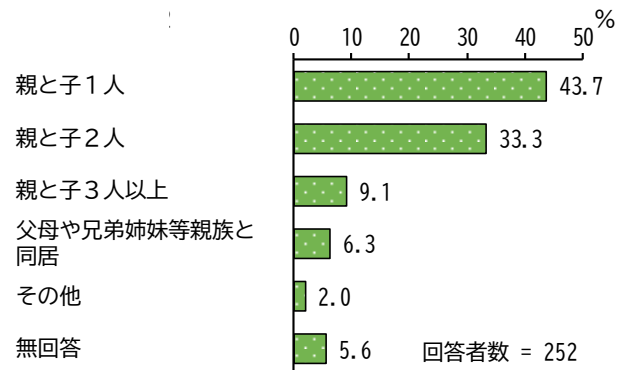
【ア. 世帯】

「母子世帯」の割合が 90.9%と最も高くなっています。



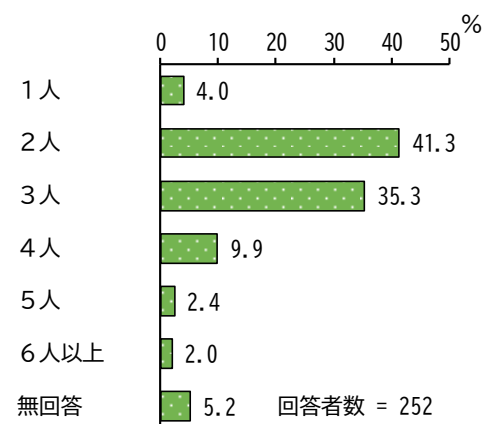
【イ. 家族構成】

「親と子1人」の割合が 43.7%と最も高く、次いで「親と子2人」の割合が 33.3%となっています。



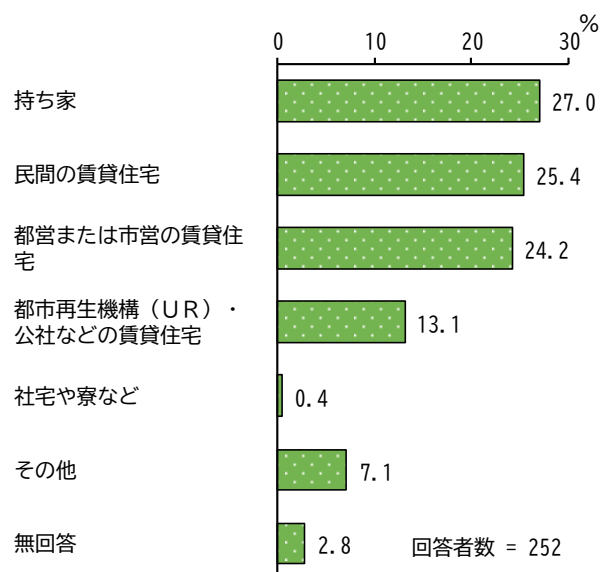
【ウ. 世帯人数（生計を共にする家族）】

「2人」の割合が 41.3%と最も高く、次いで「3人」の割合が 35.3%となっています。



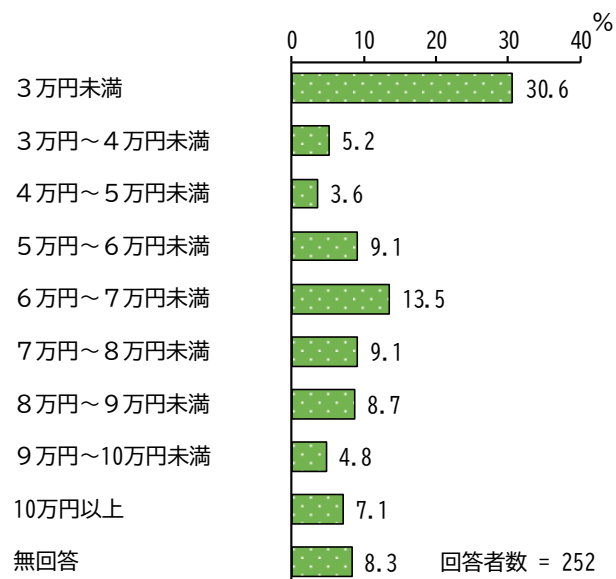
問 27 あなたの住まいの状況を教えてください。(○は1つ)

「持ち家」の割合が 27.0%と最も高く、次いで「民間の賃貸住宅」の割合が 25.4%、「都営または市営の賃貸住宅」の割合が 24.2%となっています。



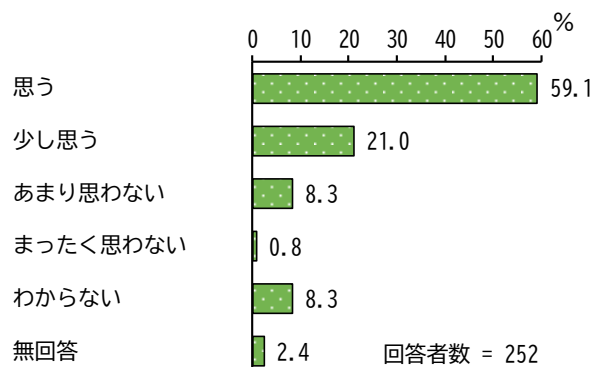
問 28 あなたの住まいの1か月の住宅費（家賃等）を教えてください。

「3万円未満」の割合が 30.6%と最も高く、次いで「6万円～7万円未満」の割合が 13.5%となっています。



問 29 あなたはこれからも多摩市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

「思う」の割合が 59.1%と最も高く、次いで「少し思う」の割合が 21.0%となっています。

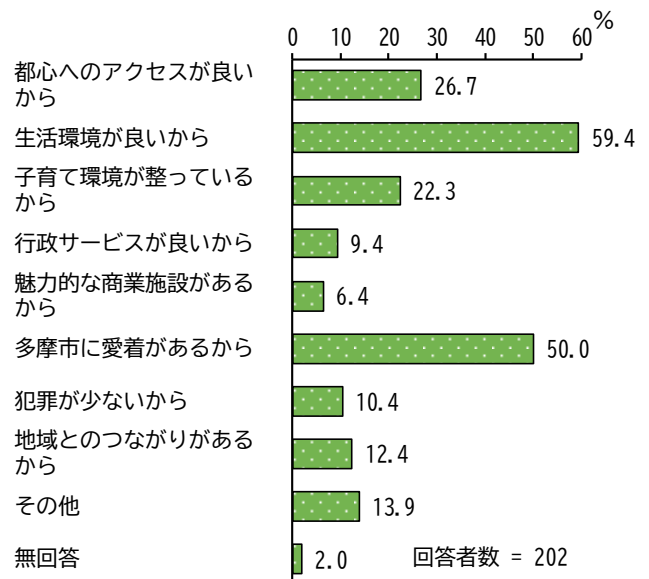


問 29-1 これからも多摩市に住み続けたい理由（あてはまるものすべてに○）

「生活環境が良いから」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「多摩市に愛着があるから」の割合が 50.0%、「都心へのアクセスが良いから」の割合が 26.7%となっています。

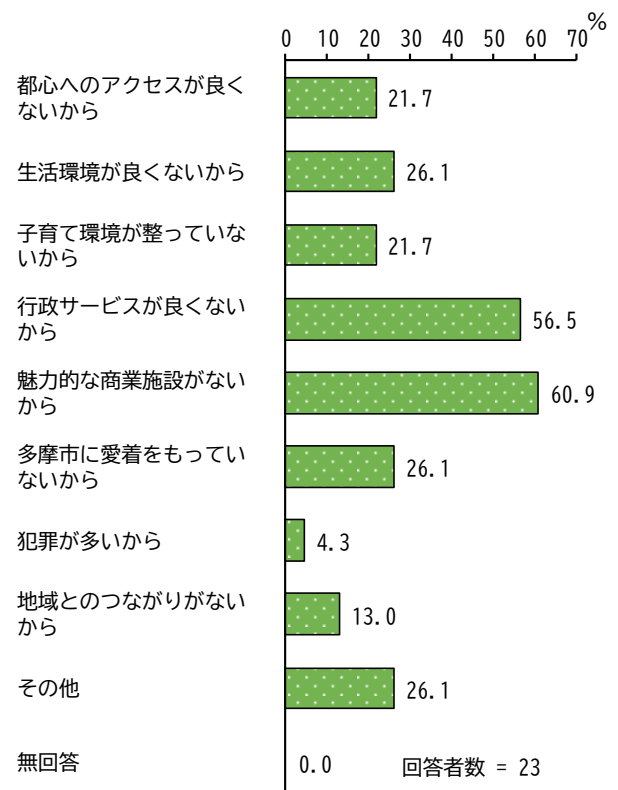
主な「その他」意見

- ・地元だから（8件）
- ・親が近くにいるから（6件）
- ・友達がいるから（3件）
- ・子どもがいるから（3件）
- ・転校させたくない（2件）

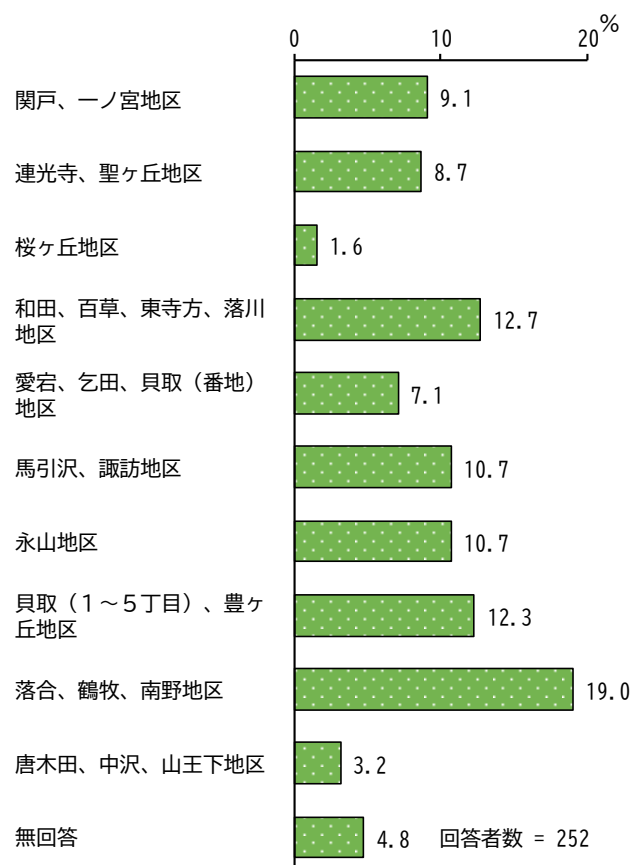


問 29-2 これからも多摩市に住み続けたいと思わない理由（あてはまるものすべてに○）

「魅力的な商業施設がないから」の割合が 60.9%と最も高く、次いで「行政サービスが良くないから」の割合が 56.5%、「生活環境が良くないから」、「多摩市に愛着をもっていないから」の割合が 26.1%となっています。



問 30 あなたがお住まいの地区はどこですか。(○は1つ)



6 多摩市子どもの生活実態調査（中高生世代用）【C-2】

（１）あなたの日頃の行動について

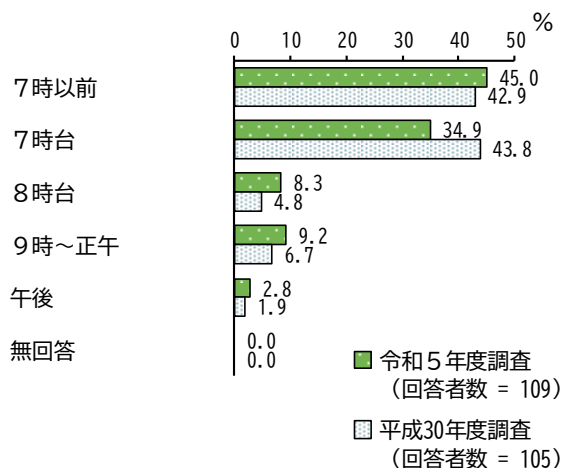
問１ あなたは、いつも何時頃に起床、就寝しますか。平日、休日についてそれぞれお答えください。（○はそれぞれ１つ）

<起床時間>

A. 平日

「7時以前」の割合が45.0%と最も高く、次いで「7時台」の割合が34.9%となっています。

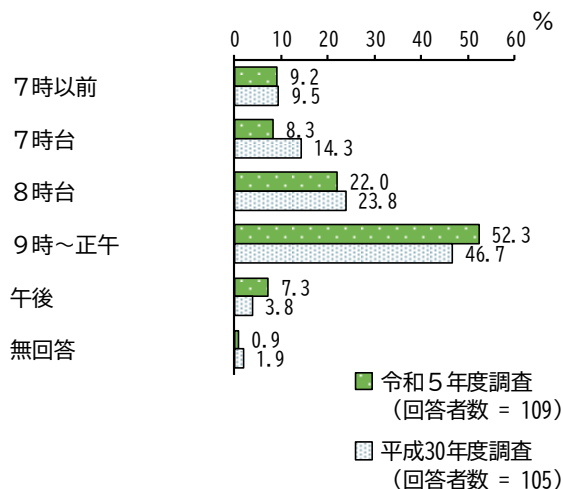
平成30年度調査と比較すると、「7時以前」の割合が増加する一方で、「8時台」「9時～正午」「午後」の割合も増加しており、起床時間の幅が広がっている傾向がみられます。



B. 休日

「9時～正午」の割合が52.3%と最も高く、次いで「8時台」の割合が22.0%となっています。

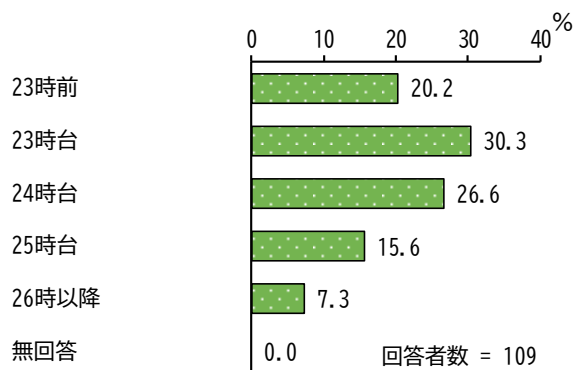
平成30年度調査と比較すると、「9時～正午」の割合が増加しています。



<就寝時間>

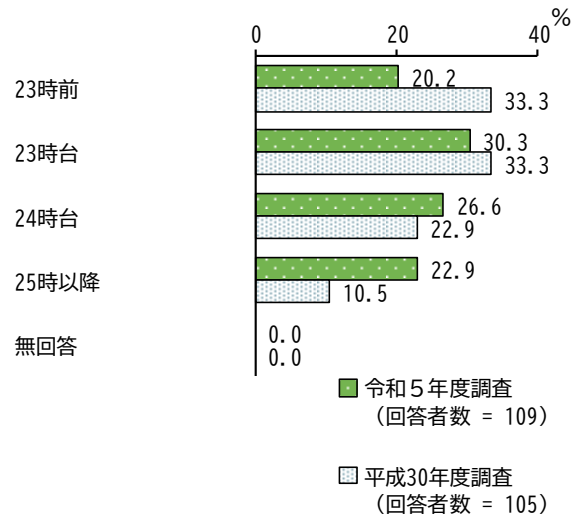
C. 平日

「23時台」の割合が30.3%と最も高く、次いで「24時台」の割合が26.6%、「23時前」の割合が20.2%となっています。



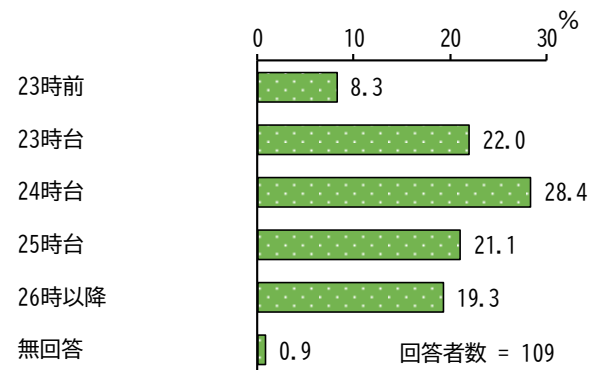
「C. 平日」に関する経年比較

平成 30 年度調査と比較すると、「25 時以降」の割合が増加している一方、「23 時前」の割合が減少しており、就寝時間が遅くなっている傾向がみられます。



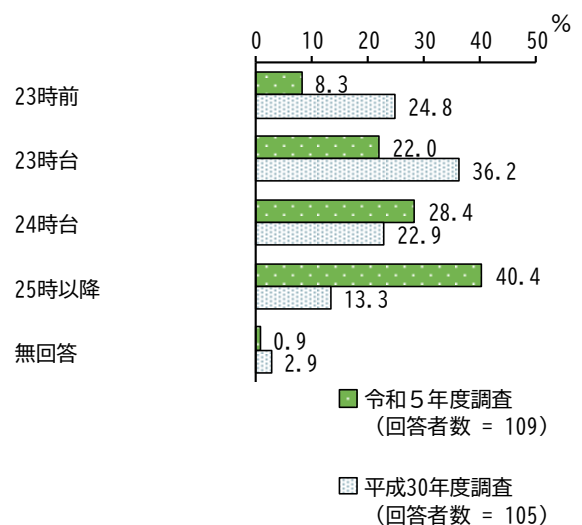
D. 休日（休日前）

「24 時台」の割合が 28.4%と最も高く、次いで「23 時台」の割合が 22.0%、「25 時台」の割合が 21.1%となっています。



「D. 休日（休日前）」に関する経年比較

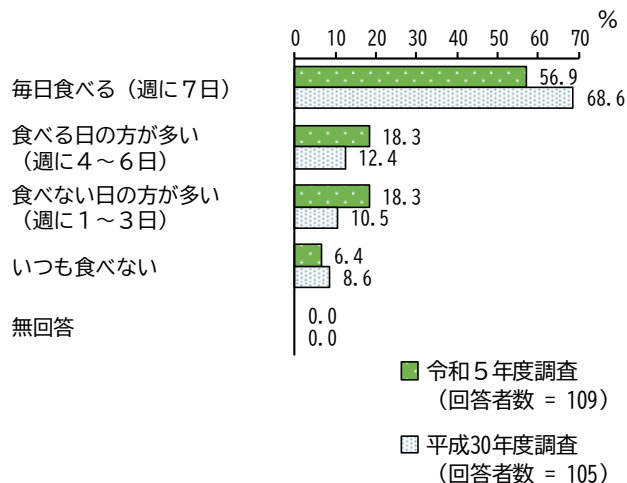
平成 30 年度調査と比較すると、「25 時以降」の割合が増加している一方、「23 時前」「23 時台」の割合が減少しており、就寝時間が遅くなっている傾向がみられます。



問2 あなたは、普段朝ごはんを食べますか。(○は1つ)

「毎日食べる(週に7日)」の割合が 56.9%と最も高く、次いで「食べる日の方が多い(週に4～6日)」、「食べない日の方が多い(週に1～3日)」の割合が 18.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「食べる日の方が多い(週に4～6日)」「食べない日の方が多い(週に1～3日)」の割合が増加し、「毎日食べる(週に7日)」の割合が減少しています。

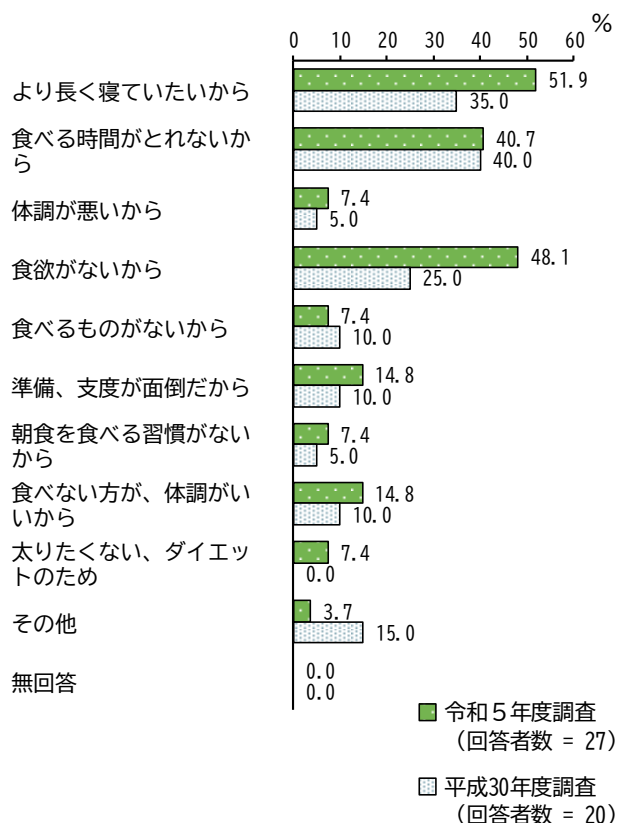


【問2で「3. 食べない日の方が多い(週に1～3日)」「4. いつも食べない」と答えた方におうかがいします】

問2-1 朝食を食べない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「より長く寝ていたいから」の割合が 51.9%と最も高く、次いで「食欲がないから」の割合が 48.1%、「食べる時間がとれないから」の割合が 40.7%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「より長く寝ていたいから」「食欲がないから」「太りたくない、ダイエットのため」の割合が増加しています。

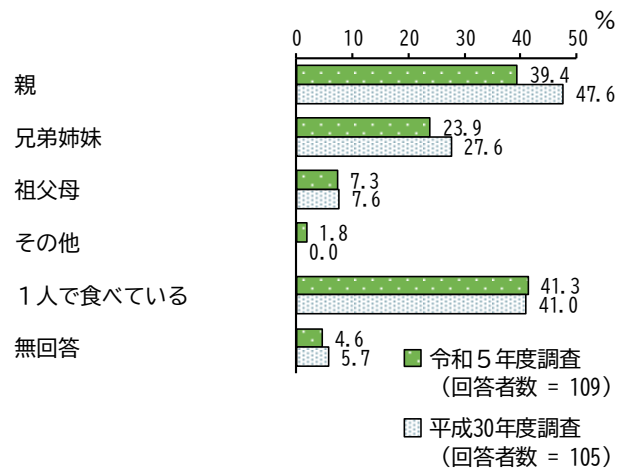


問3 あなたは、普段朝食・夕食をどなたと食べていますか。
(それぞれあてはまるものすべてに○)

【ア. 朝食】

「1人で食べている」の割合が41.3%と最も高く、次いで「親」の割合が39.4%、「兄弟姉妹」の割合が23.9%となっています。

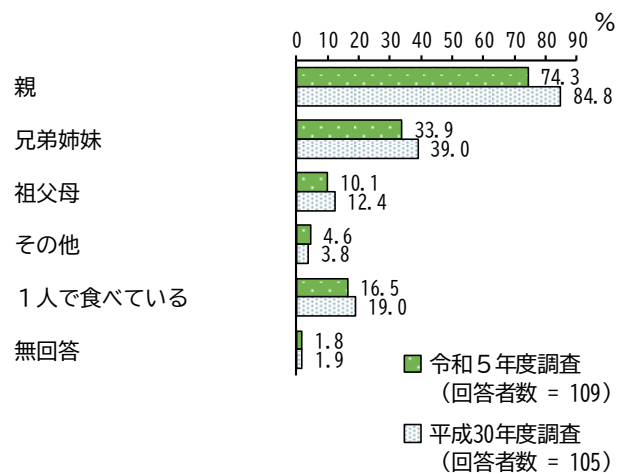
平成30年度調査と比較すると、「親」「兄弟姉妹」の割合が減少しています。



【イ. 夕食】

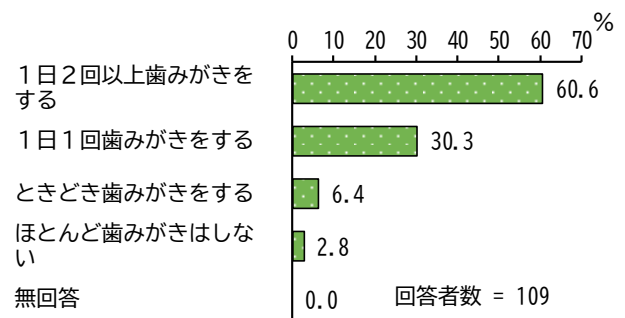
「親」の割合が74.3%と最も高く、次いで「兄弟姉妹」の割合が33.9%、「1人で食べている」の割合が16.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「親」「兄弟姉妹」の割合が減少しています。



問4 あなたは、歯みがきをどのくらいしますか。(○は1つ)

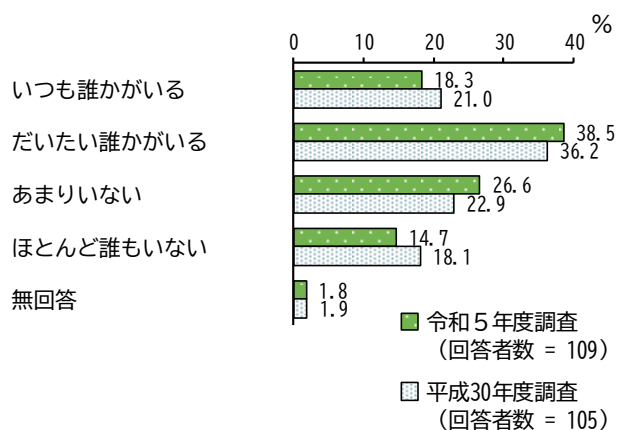
「1日2回以上歯みがきをする」「1日1回歯みがきをする」の割合を合わせると90%を超えています。



問5 あなたが放課後（終業後）帰宅した時や休日に、家に大人の方はいますか。
（〇は1つ）

「だいたい誰かがいる」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「あまりいない」の割合が 26.6%、「いつも誰かがいる」の割合が 18.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、全体では大きな傾向の変化はみられません。

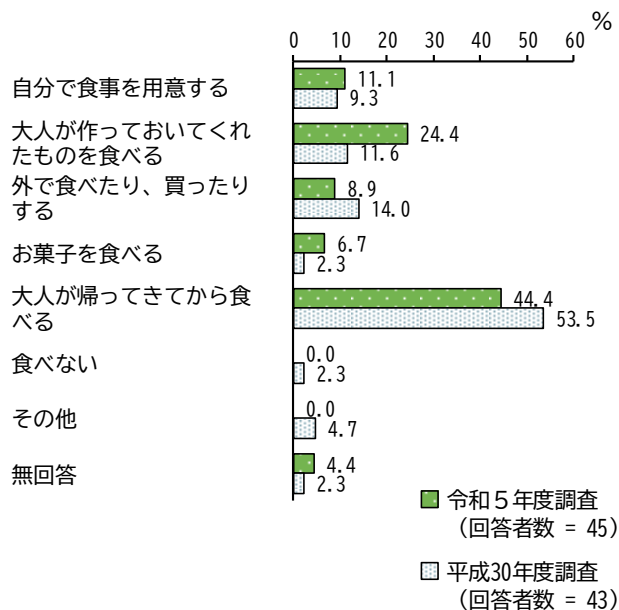


【問5で「3. あまりいない」「4. ほとんど誰もいない」と答えた方におうかがいします】

問5－1 帰宅した時や休日に大人の方が誰もいない時、食事はどうしていますか。
（〇は1つ）

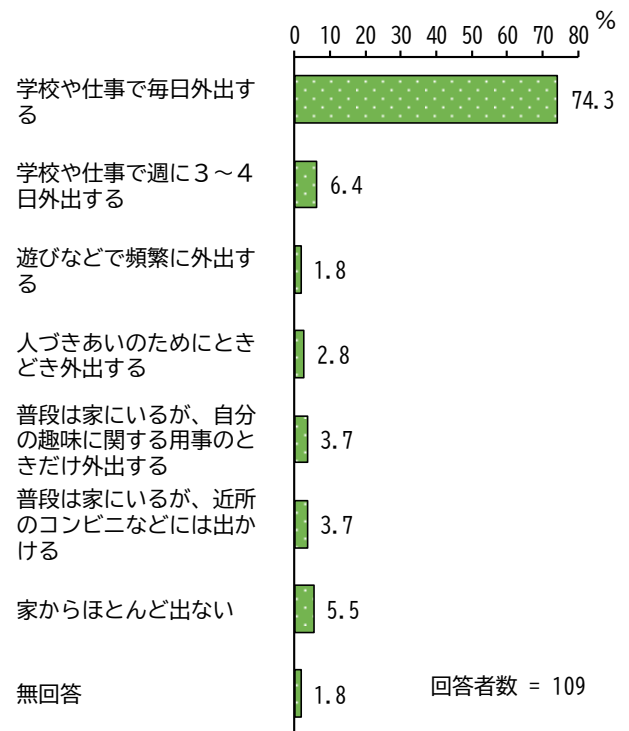
「大人が帰ってきてから食べる」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「大人が作ってくれたものを食べる」の割合が 24.4%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「大人が作ってくれたものを食べる」の割合が増加し「外で食べたり、買ったりする」「大人が帰ってきてから食べる」の割合が減少しています。



問6 あなたは、平日（月曜日から金曜日）どのくらい外出しますか。（○は1つ）

「学校や仕事で毎日外出する」「学校や仕事で週に3～4日外出する」を合わせると約8割となっています。一方で、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「家からほとんど出ない」を合わせた割合が12.9%となっています。

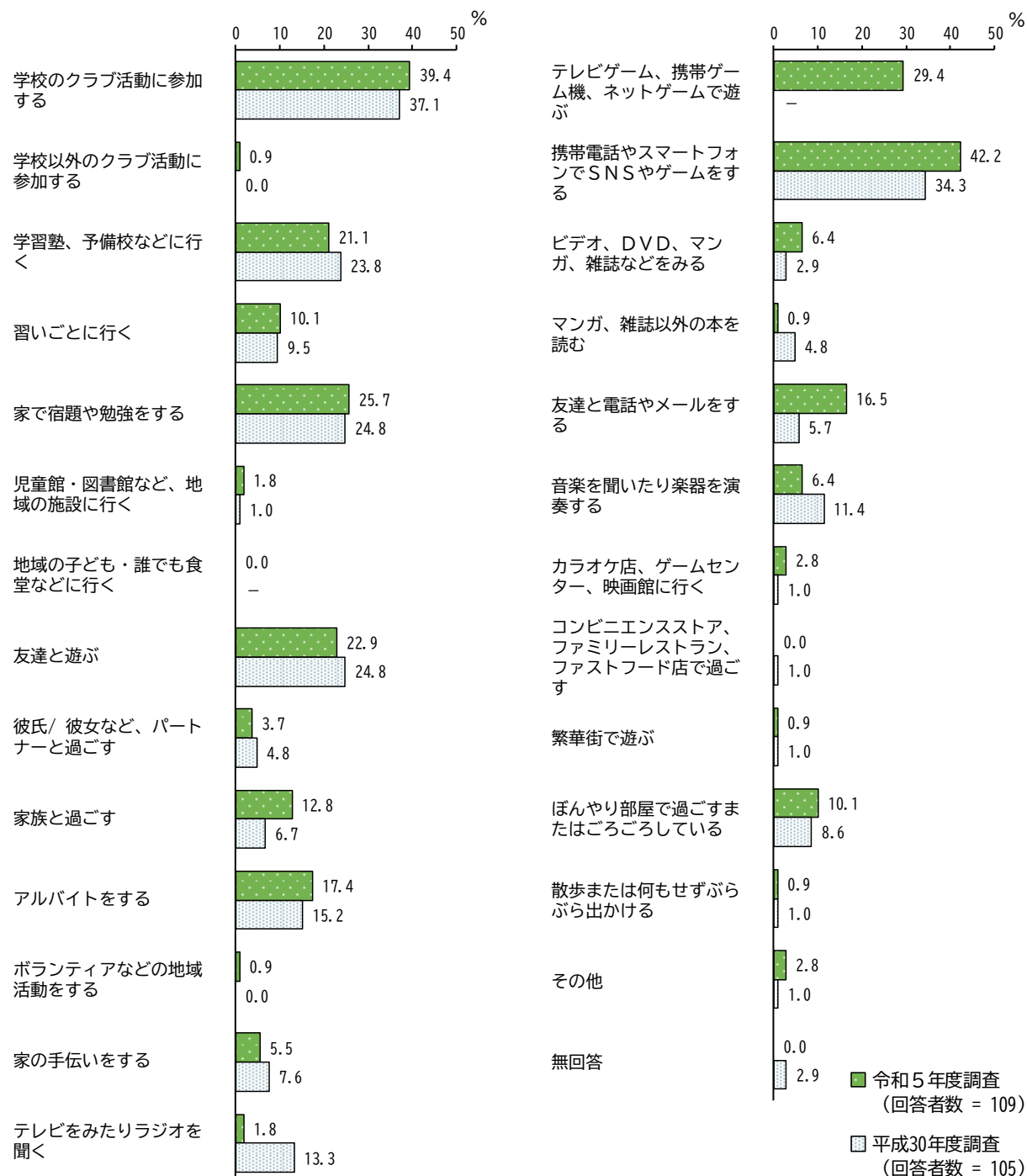


問7 あなたは放課後（終業後）と休日をどのように過ごしていますか。下から3つまで選んで四角枠の中に数字をご記入ください。

（平日）

「携帯電話やスマートフォンでSNSやゲームをする」の割合が42.2%と最も高く、次いで「学校のクラブ活動に参加する」の割合が39.4%、「テレビゲーム、携帯ゲーム機、ネットゲームで遊ぶ」の割合が29.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「家族と過ごす」「友達と電話やメールをする」の割合が増加し、「テレビをみたりラジオを聞く」の割合が減少しています。

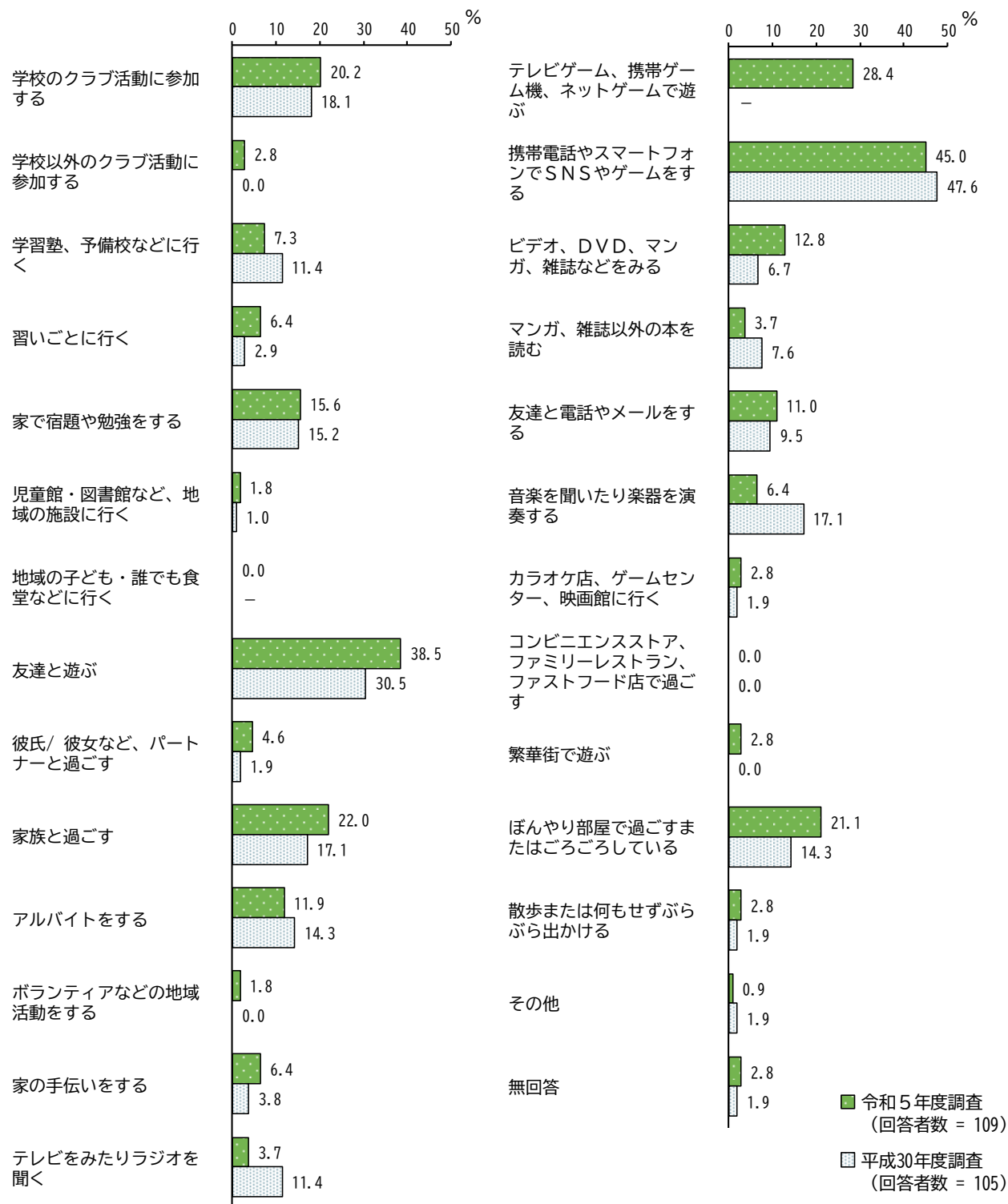


※令和5年度調査で、「地域の子ども・誰でも食堂などに行く」「テレビゲーム、携帯ゲーム機、ネットゲームで遊ぶ」の選択肢を追加しています。

(休日)

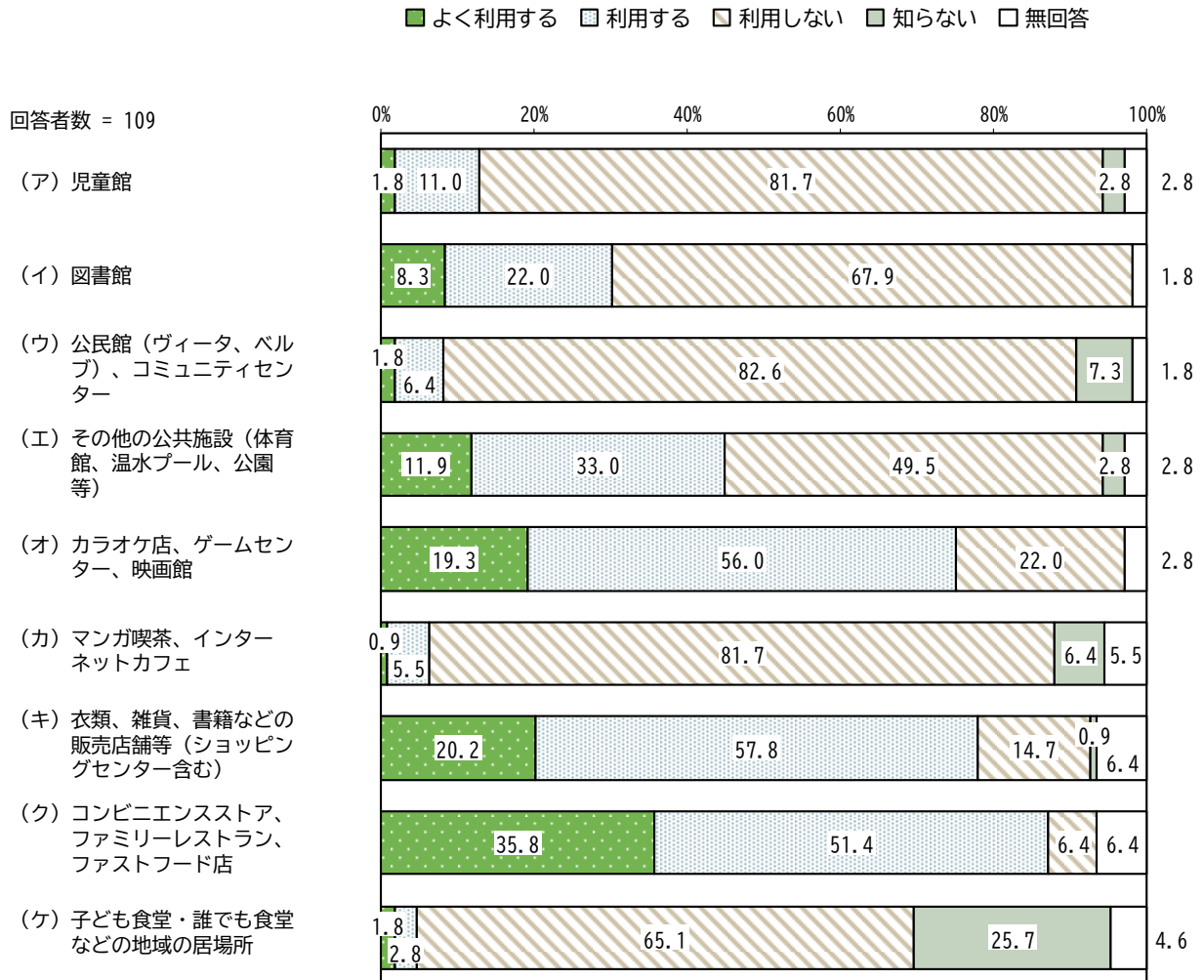
「携帯電話やスマートフォンでSNSやゲームをする」の割合が45.0%と最も高く、次いで「友達と遊ぶ」の割合が38.5%、「テレビゲーム、携帯ゲーム機、ネットゲームで遊ぶ」の割合が28.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「友達と遊ぶ」「ビデオ、DVD、マンガ、雑誌などをみる」「ぼんやり部屋で過ごすまたはごろごろしている」の割合が増加しています。一方、「テレビをみたりラジオを聞く」「音楽を聞いたり楽器を演奏する」の割合が減少しています。



※令和5年度調査で、「地域の子ども・誰でも食堂などに行く」「テレビゲーム、携帯ゲーム機、ネットゲームで遊ぶ」の選択肢を追加しています。

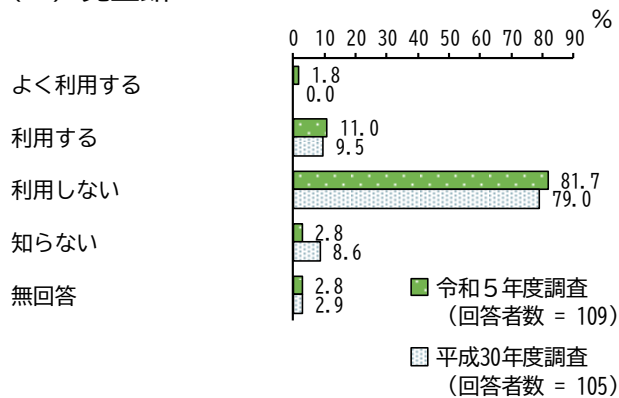
問8 以下の（ア）から（ケ）のそれぞれの施設の利用状況についておうかがいします。（それぞれ○は1つ）



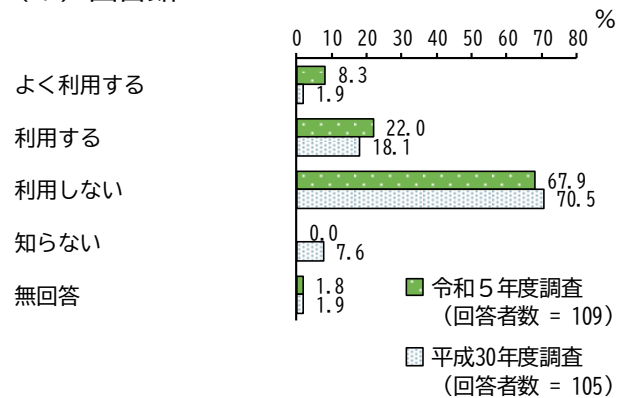
※令和5年度調査で、「子ども食堂・誰でも食堂などの地域の居場所」の選択肢を追加しています。

<項目ごとの経年比較>

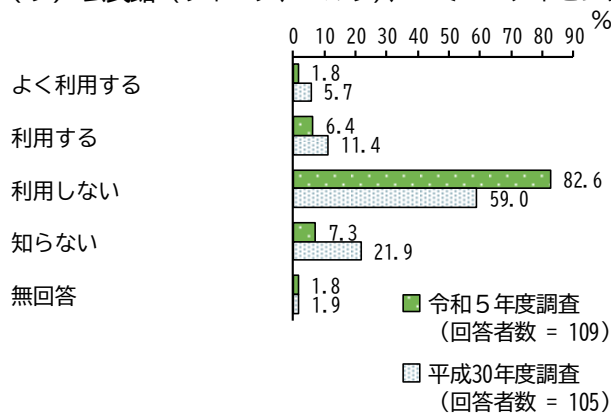
(ア) 児童館



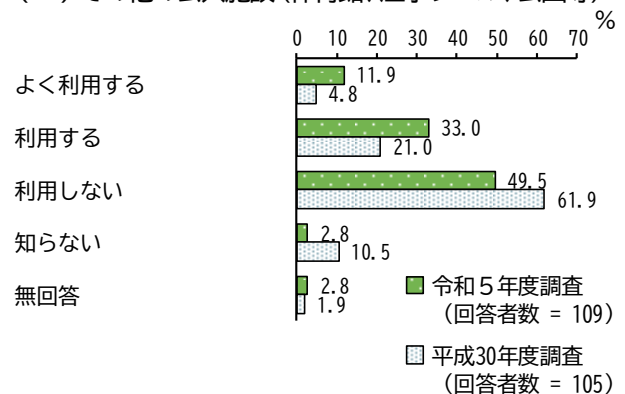
(イ) 図書館



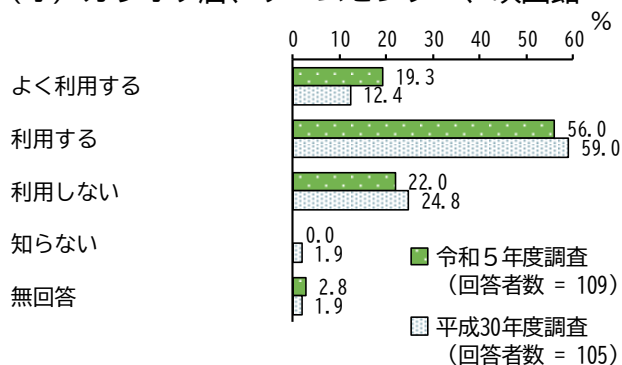
(ウ) 公民館（ヴィータ、ベルブ）、コミュニティセンター



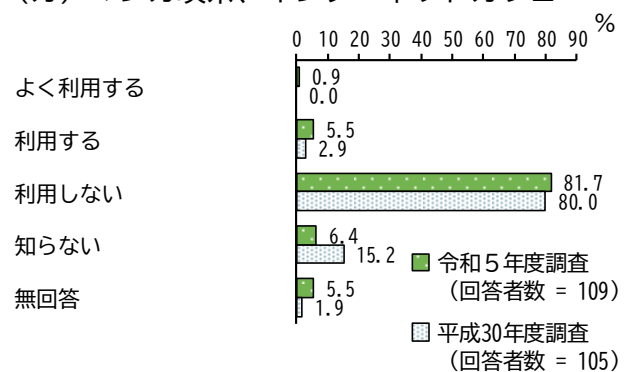
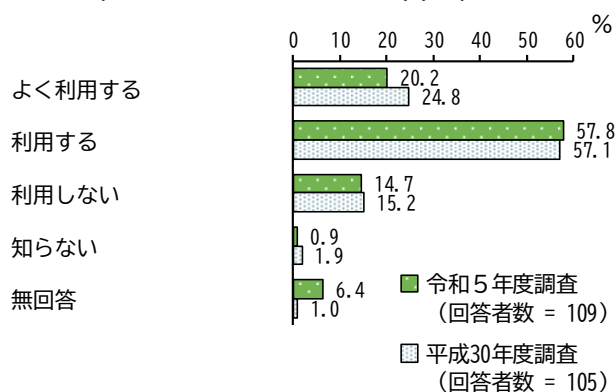
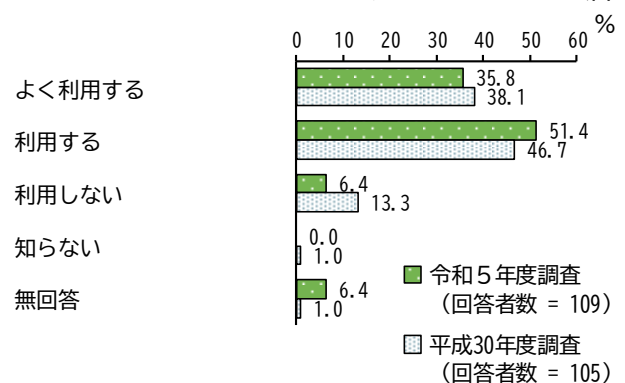
(エ) その他の公共施設（体育館、温水プール、公園等）



(オ) カラオケ店、ゲームセンター、映画館



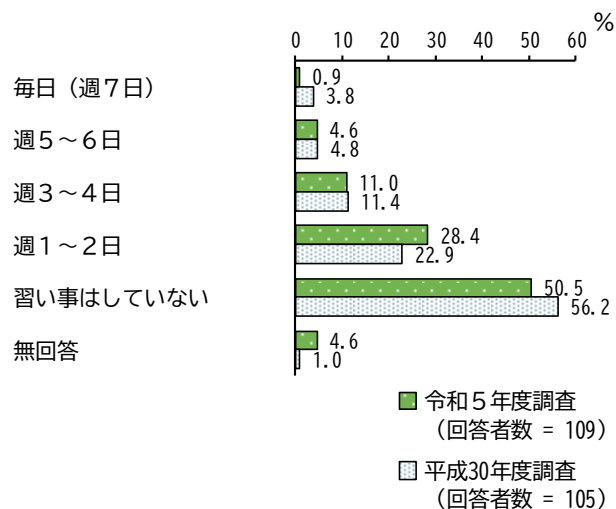
(カ) マンガ喫茶、インターネットカフェ

(キ) 衣類、雑貨、書籍などの販売店舗等
(ショッピングセンター含む)(ク) コンビニエンスストア、
ファミリーレストラン、ファストフード店

問9 あなたは1週間のうちどのくらい塾や習い事をしていますか。(○は1つ)

「習い事はしていない」の割合が50.5%と最も高く、次いで「週1～2日」の割合が28.4%、「週3～4日」の割合が11.0%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「習い事はしていない」の割合が減少しています。また、「毎日(週7日)」の割合が減少し、「週1～2日」の割合が増加しています。

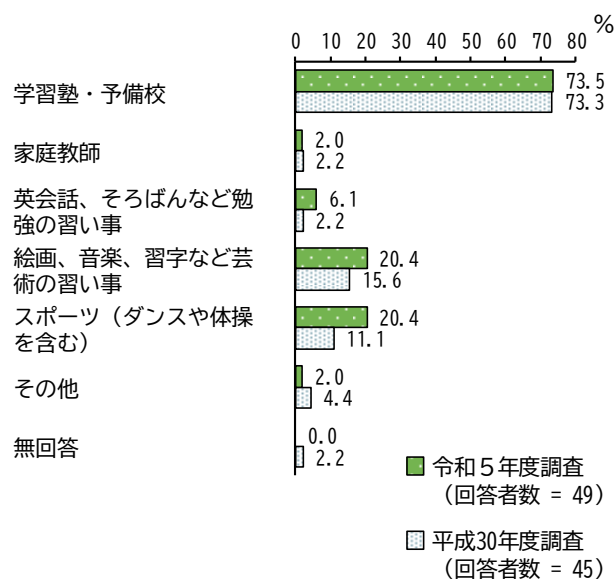


【問9で「1. 毎日(週7日)」「2. 週5～6日」「3. 週3～4日」「4. 週1～2日」と答えた方におうかがいします】

問9-1 どのような習い事をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「学習塾・予備校」の割合が73.5%と最も高く、次いで「絵画、音楽、習字など芸術の習い事」、「スポーツ(ダンスや体操を含む)」の割合が20.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「スポーツ(ダンスや体操を含む)」「絵画、音楽、習字など芸術の習い事」の割合が増加しています。



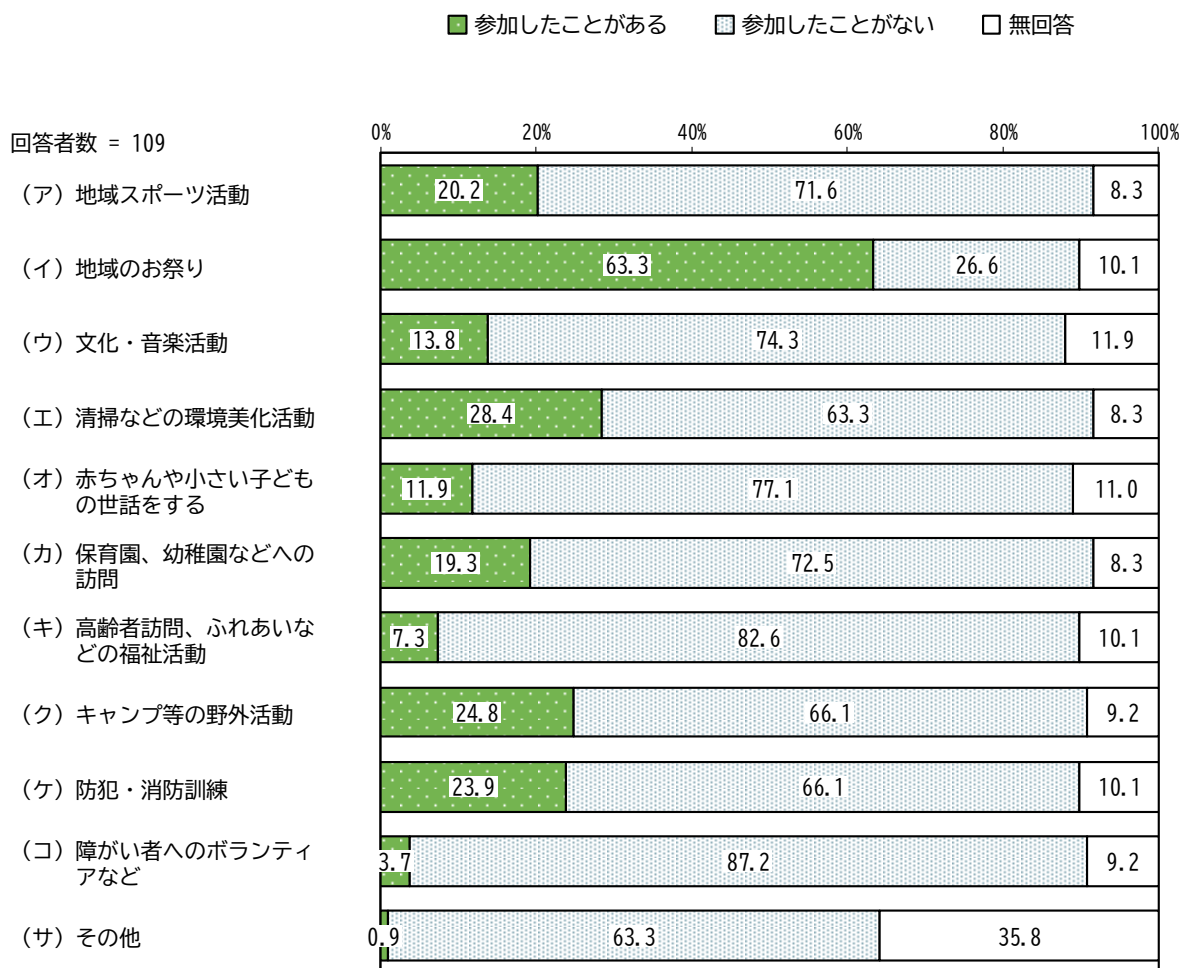
(2) 地域活動やボランティア活動について

問 10 あなたは、地域のグループ活動やボランティア活動に参加したことがありますか。「(ア) 地域スポーツ活動」から「(サ) その他」まで、「A 参加経験」を答えてください。
また、参加したことがあるものは、「B 参加内容」「C 参加した理由」について、もっともあてはまる番号1つに○をつけてください。

A 参加経験

『(イ) 地域のお祭り』で「参加したことがある」の割合が最も高く、『(エ) 清掃などの環境美化活動』『(ク) キャンプ等の野外活動』の順になっています。

また、「参加したことがある」の割合は『(オ) 赤ちゃんや小さい子どもの世話をする』が11.9%、『(カ) 保育園、幼稚園などへの訪問』が19.3%という状況です。

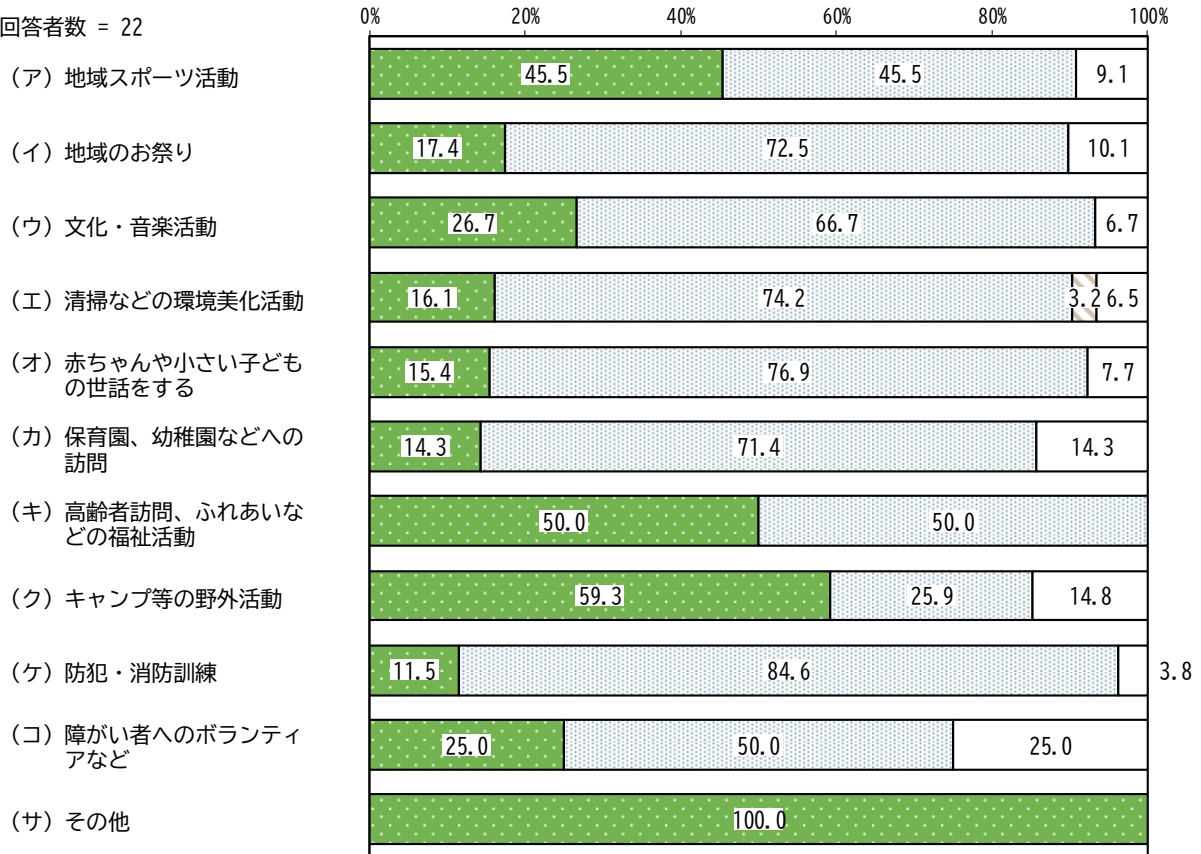


C-2 中高生世代用

B 参加内容

■ 準備から参加した ■ 当日参加した □ 後片付けのみ参加した □ 無回答

回答者数 = 22



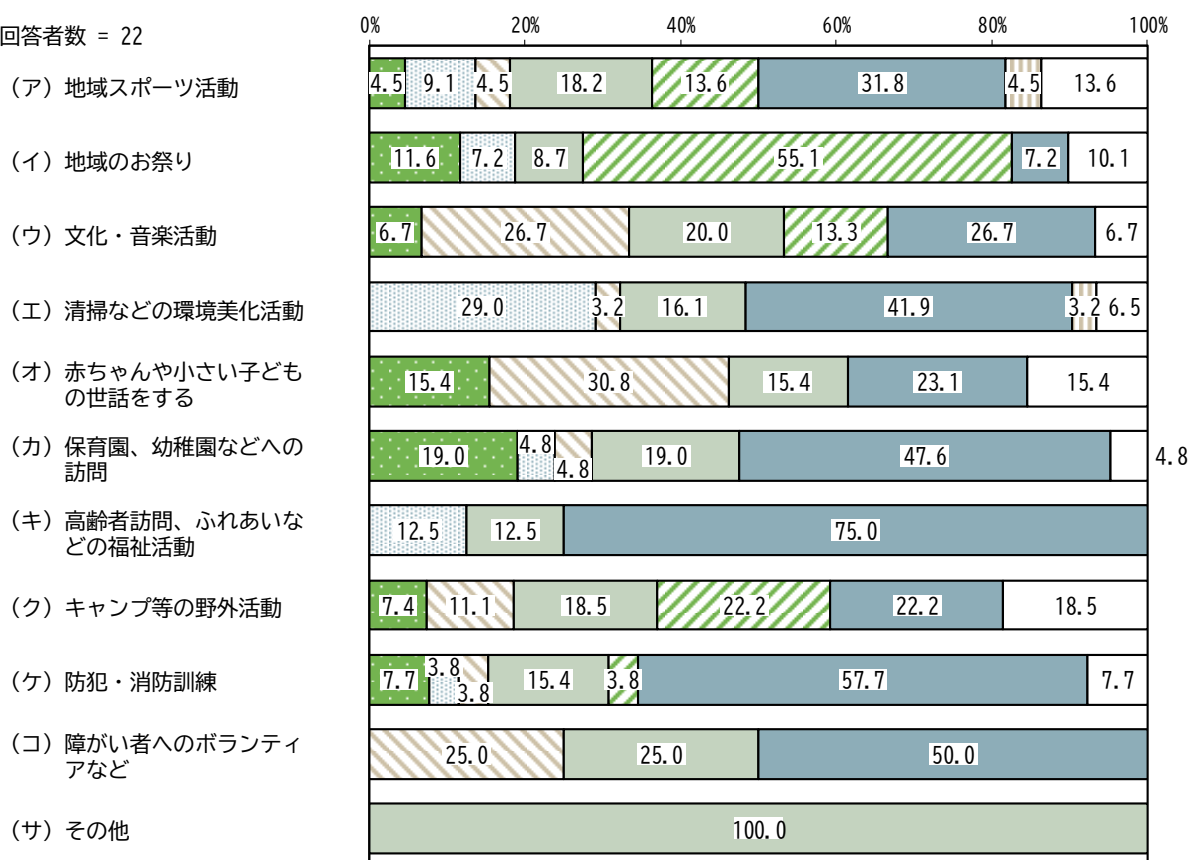
C 参加した理由

『(イ) 地域のお祭り』で「友人に誘われた」の割合が 55.1%を占めています。

また、『(エ) 清掃などの環境美化活動』で「地域のために役立つ」の割合が 29.0%を占めています。

- 学校（職場）以外の人と交流ができるから
- 地域のために役立つ
- 自分の能力を活かせる
- 親の勧め
- 友人に誘われた
- 学校の授業の一環
- 内申書に有利
- 無回答

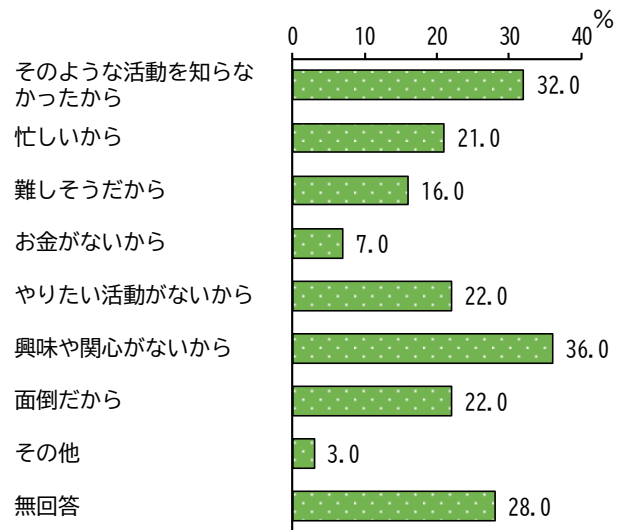
回答者数 = 22



【問 10 で「(ア) 地域スポーツ活動」から「(サ) その他」まで1つでも「参加したことがない」と答えた方におうかがいします 】

問 10－1 参加したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「興味や関心がないから」の割合が 36.0%と最も高く、次いで「そのような活動を知らなかったから」の割合が 32.0%、「やりたい活動がないから」「面倒だから」の割合が 22.0%となっています。

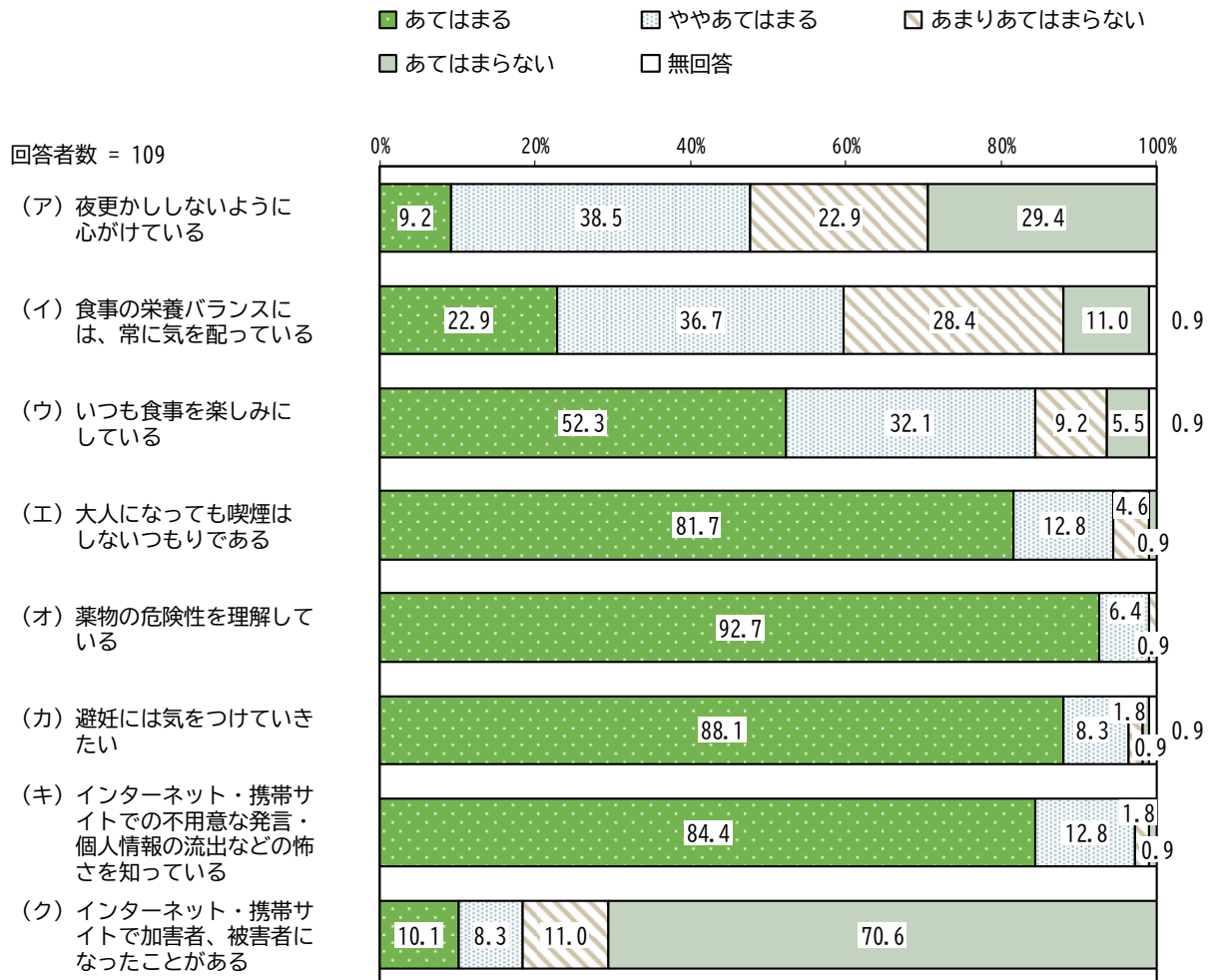


回答者数 = 100

(3) あなたの生活への意識について

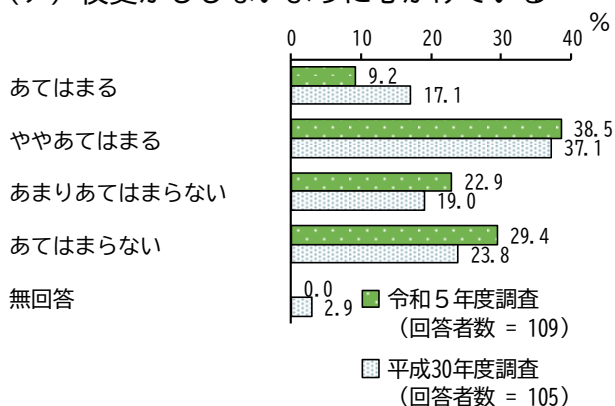
問 11 あなたの生活への意識についておうかがいします。(それぞれ○は1つ)

『(ク) インターネット・携帯サイトで加害者、被害者になったことがある』で「あてはある」「ややあてはまる」を合わせると 18.4%となっています。また、『(ア) 夜更かししないように心がけている』で「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を合わせると 52.3%と過半数を占めています。

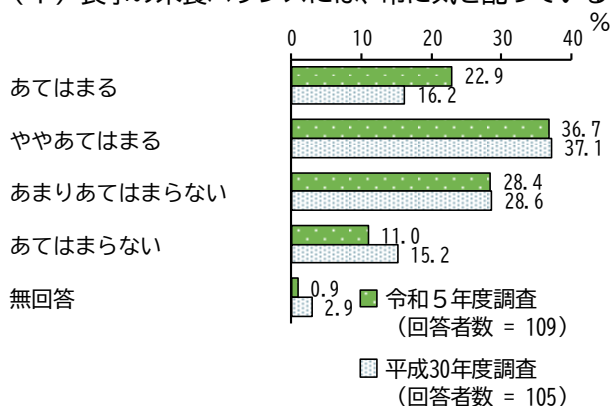


<項目ごとの経年比較>

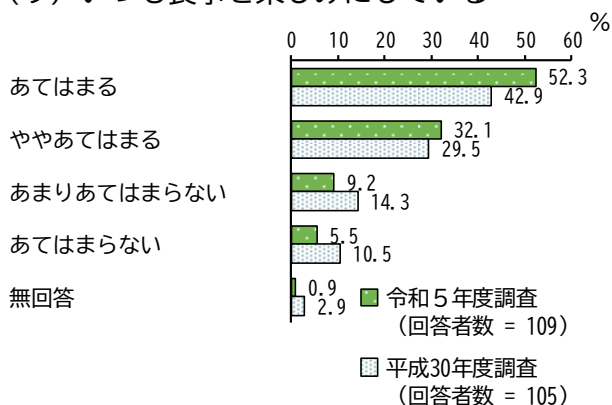
(ア) 夜更かししないように心がけている



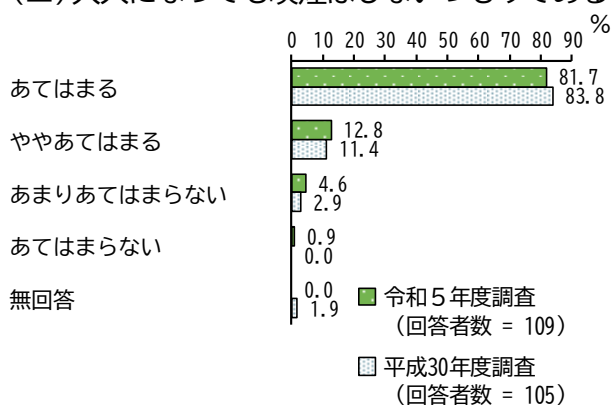
(イ) 食事の栄養バランスには、常に気を配っている



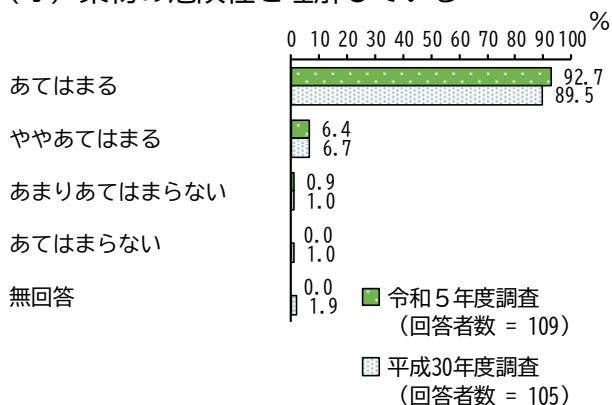
(ウ) いつも食事を楽しみにしている



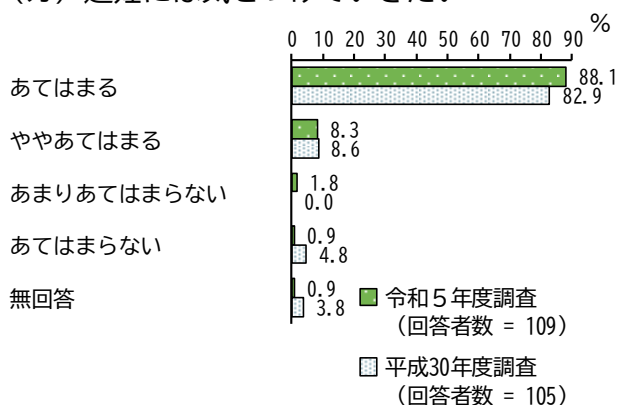
(エ) 大人になっても喫煙はしないつもりである



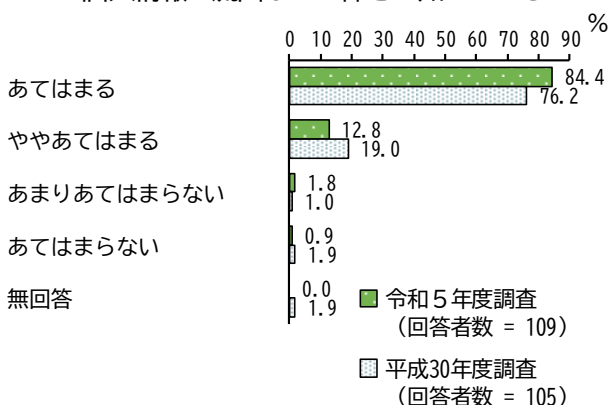
(オ) 薬物の危険性を理解している



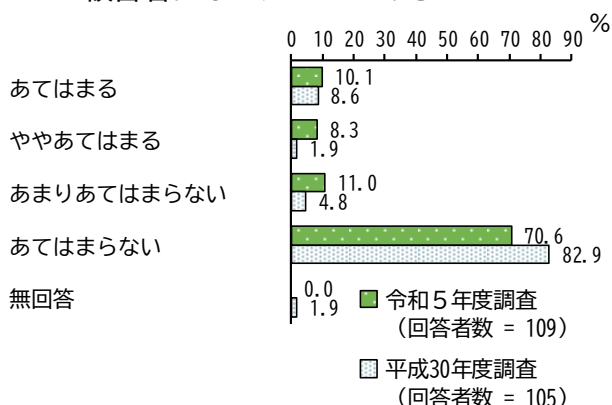
(カ) 避妊には気をつけていきたい



(キ) インターネット・携帯サイトでの不用意な発言・個人情報の流出などの怖さを知っている



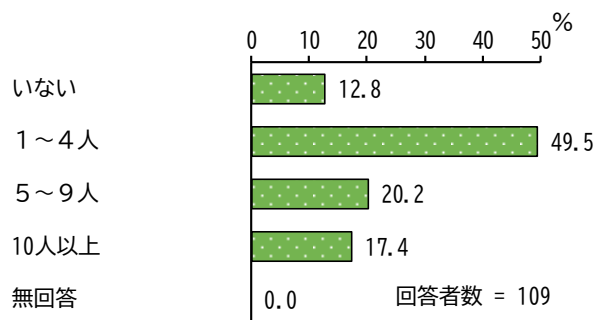
(ク) インターネット・携帯サイトで加害者、被害者になったことがある



(4) あなたの交友関係や悩み事について

問 12 日頃から遊んだり、一緒に過ごしたりする友人は何人いますか。(〇は1つ)

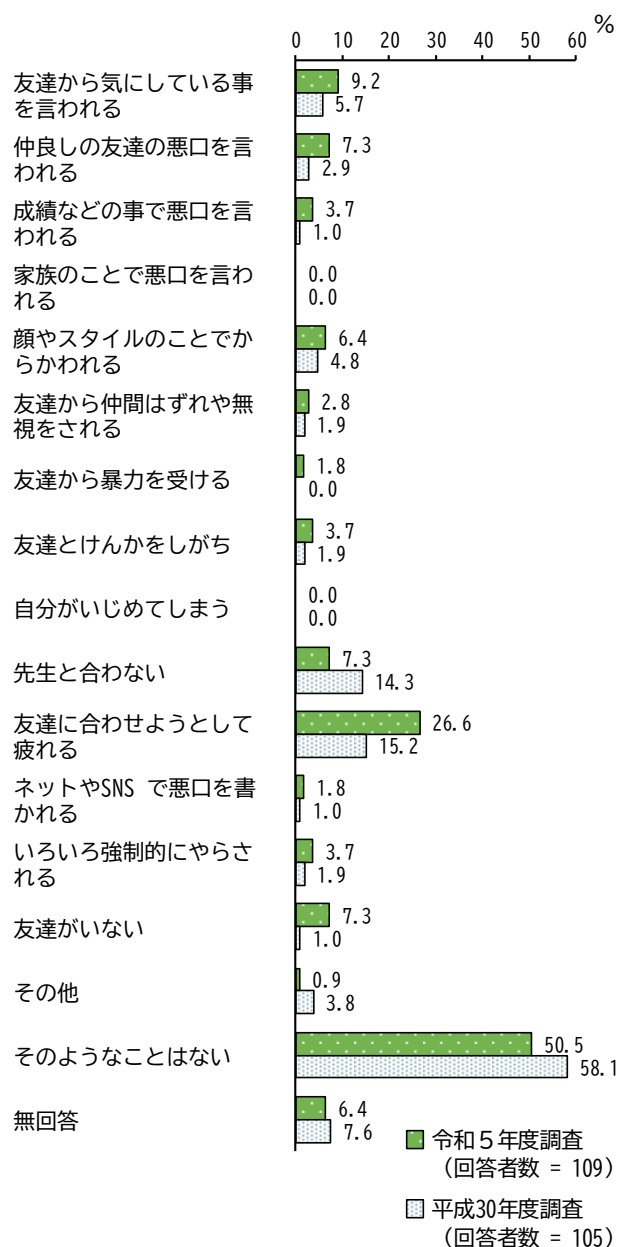
「1～4人」の割合が49.5%と最も高く、次いで「5～9人」の割合が20.2%、「10人以上」の割合が17.4%となっています。



問 13 学校や職場の人間関係で、以下のようなことがありますか。(〇は3つまで)

「そのようなことはない」の割合が50.5%と最も高く、次いで「友達に合わせようとして疲れる」の割合が26.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「友達に合わせようとして疲れる」「友達がいない」「仲良しの友達の悪口を言われる」の割合が増加し、「先生と合わない」「そのようなことはない」の割合が減少しています。

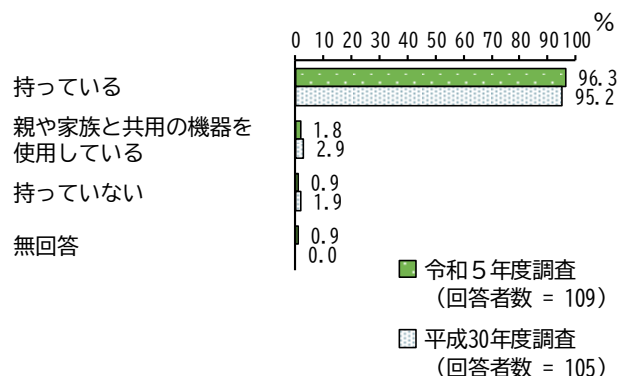


(5) 携帯電話やスマートフォン、インターネットの利用について

問 14 あなたは、インターネットに接続できる、自分用の携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン等を持っていますか。(○は1つ)

「持っている」の割合が 96.3%と最も高くなっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられません。

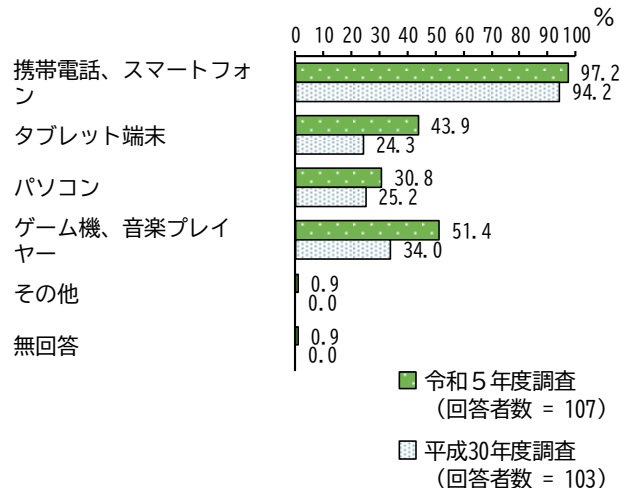


【問 14 で「1. 持っている」、「2. 親や家族と共用の機器を使用している」と答えた方におうかがいします】

問 14-1 どのような機器を使用してインターネットを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

「携帯電話、スマートフォン」の割合が 97.2%と最も高く、次いで「ゲーム機、音楽プレイヤー」の割合が 51.4%、「タブレット端末」の割合が 43.9%となっています。

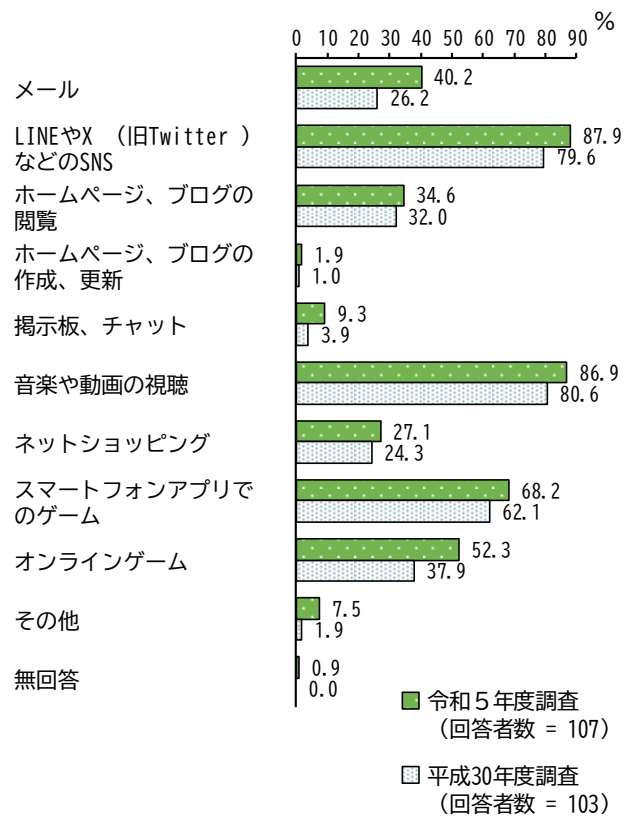
平成 30 年度調査と比較すると、「タブレット端末」「ゲーム機、音楽プレイヤー」の割合が増加しています。



問 14-2 あなたは、具体的にどのような目的でインターネットを利用していますか。
(あてはまるものすべてに○)

「LINE や X (旧 Twitter) などの SNS」の割合が 87.9%と最も高く、次いで「音楽や動画の視聴」の割合が 86.9%、「スマートフォンアプリでのゲーム」の割合が 68.2%となっています。

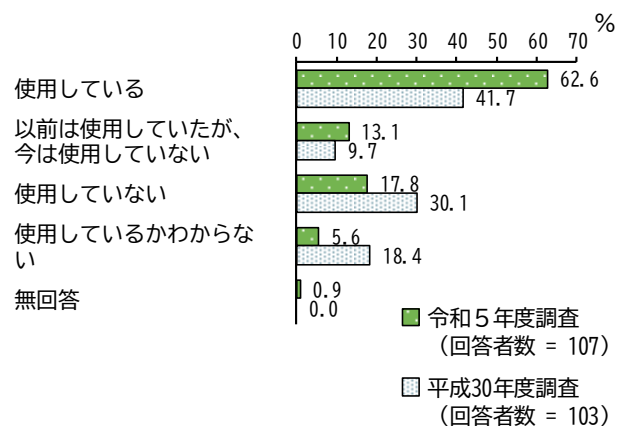
平成 30 年度調査と比較すると、「メール」「LINE や X (旧 Twitter) などの SNS」「掲示板、チャット」「音楽や動画の視聴」「スマートフォンアプリでのゲーム」「オンラインゲーム」の割合が増加しています。



問 14-3 あなたがインターネットを利用する機器には、ペアレンタルコントロール機能（利用時間制限等）やフィルタリング機能（有害サイトアクセス制限サービス）が使用されていますか。（○は1つ）

「使用している」「以前は使用していたが、今は使用していない」を合わせると 75.7%で使用経験があるという結果になっています。

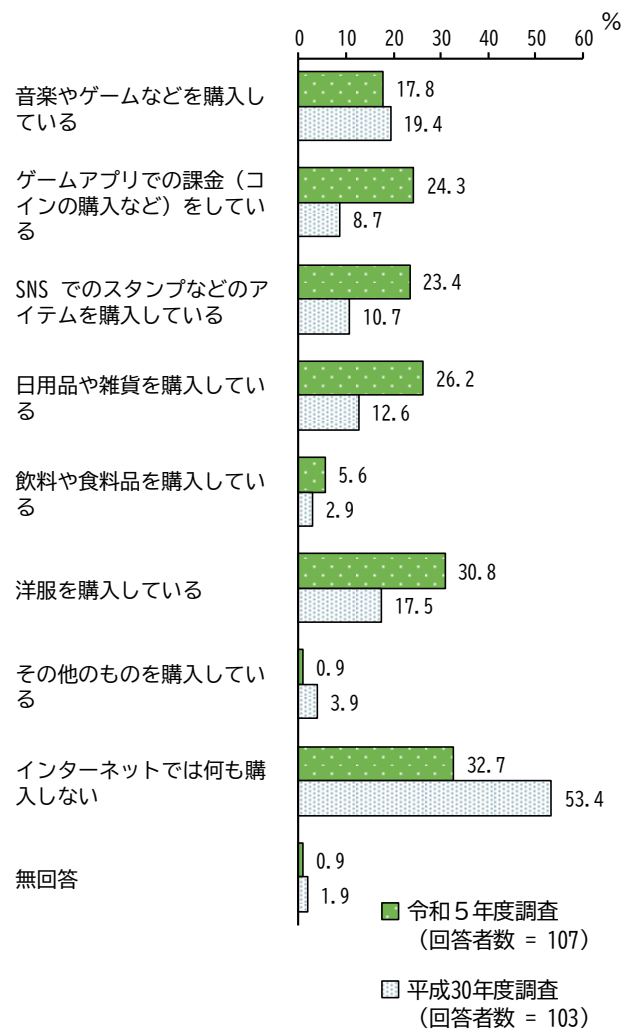
平成 30 年度調査と比較すると、「使用していない」「使用しているかわからない」の割合が減少しています。



問 14-4 あなたは、インターネットで買い物をすることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「洋服を購入している」の割合が 30.8%、「日用品や雑貨を購入している」の割合が 26.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「インターネットでは何も購入しない」の割合が減少し、「ゲームアプリでの課金(コインの購入など)」「SNSでのスタンプなどのアイテムを購入している」「日用品や雑貨を購入している」「洋服を購入している」の割合がいずれも増加しています。



(6) 子どもをもつことや結婚に対する考えについて

問 15 あなたは将来子どもが欲しいと思いますか。また欲しい方は理想の人数を教えてください。(○は1つ)

「わからない」の割合が 34.9%と最も高く、次いで「2人」の割合が 25.7%、「子どもは欲しくない」の割合が 19.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「1人」「子どもは欲しくない」の割合が増加しています。

1人

2人

3人

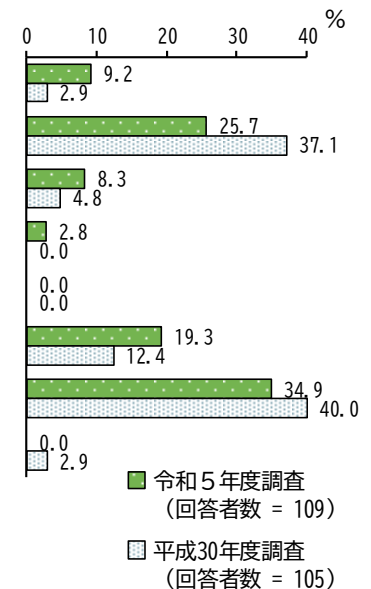
4人

5人以上

子どもは欲しくない

わからない

無回答



問 16 あなたが将来、仕事と子育てを両立することになると考えたとき、不安を感じますか。(○は1つ)

「不安を感じる」の割合が 36.7%と最も高く、次いで「少し不安を感じる」の割合が 27.5%、

「わからない」の割合が 19.3%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「少し不安を感じる」「不安を感じる」の割合が増加し、「わからない」の割合が減少しています。

不安には感じない

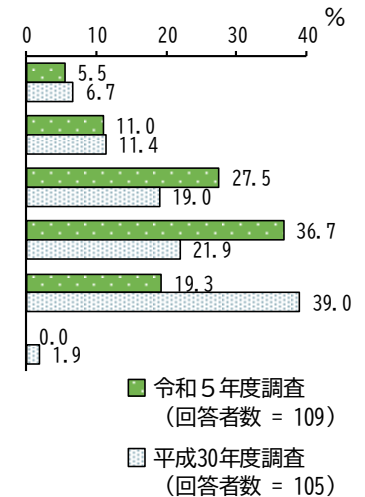
あまり不安には感じない

少し不安を感じる

不安を感じる

わからない

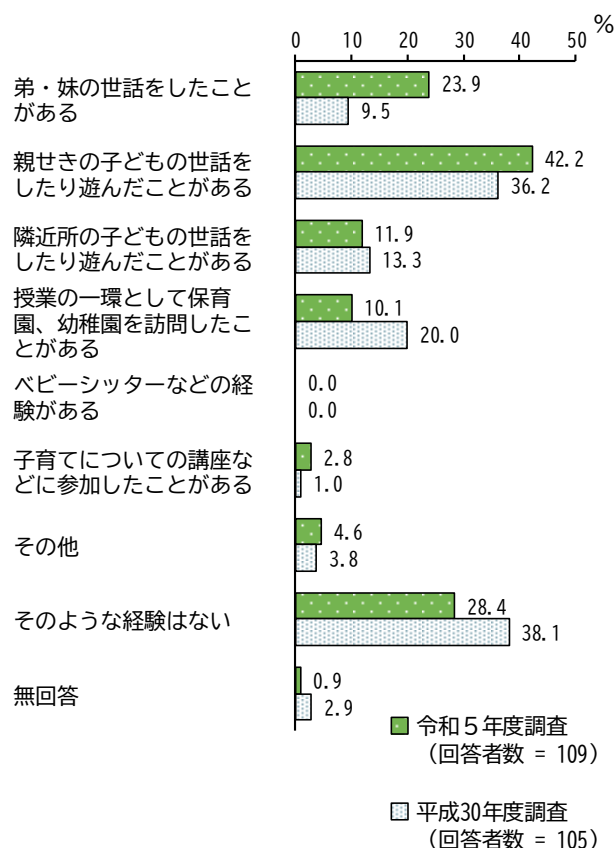
無回答



問 17 あなたは最近5年間で、赤ちゃんや小さな子どもの世話をしたり、遊んだりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「親せきの子どもの世話をしたり遊んだことがある」の割合が42.2%と最も高く、次いで「そのような経験はない」の割合が28.4%、「弟・妹の世話をしたことがある」の割合が23.9%となっています。

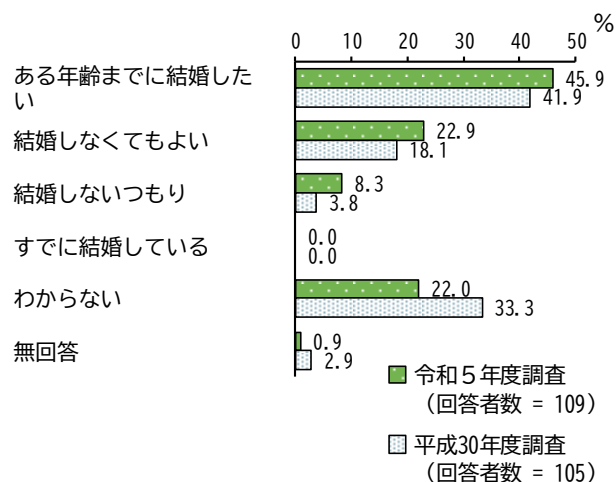
平成30年度調査と比較すると、「弟・妹の世話をしたことがある」「親せきの子どもの世話をしたり遊んだことがある」の割合が増加しています。一方、「授業の一環として保育園、幼稚園を訪問したことがある」「そのような経験はない」の割合が減少しています。



問 18 あなたは結婚についてどのように考えていますか。(○は1つ)

「結婚しなくてもよい」「結婚しないつもり」を合わせると31.2%を占めています。

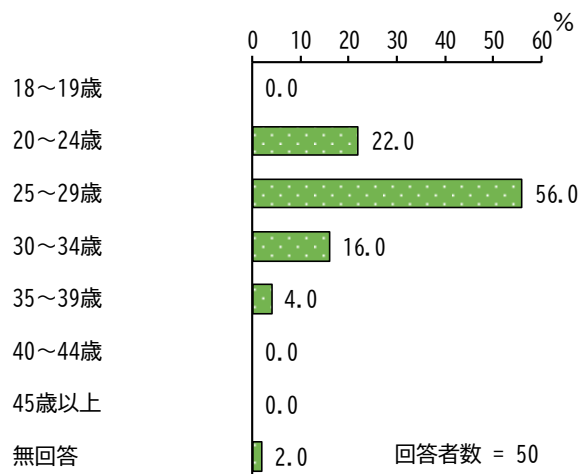
平成30年度調査と比較すると、「結婚しなくてもよい」「結婚しないつもり」の割合が増加しています。



【問 18 で「1. ある年齢までに結婚したい」と答えた方におうかがいします】

問 18－1 あなた自身は何歳で結婚したいと思いますか。(○は1つ)

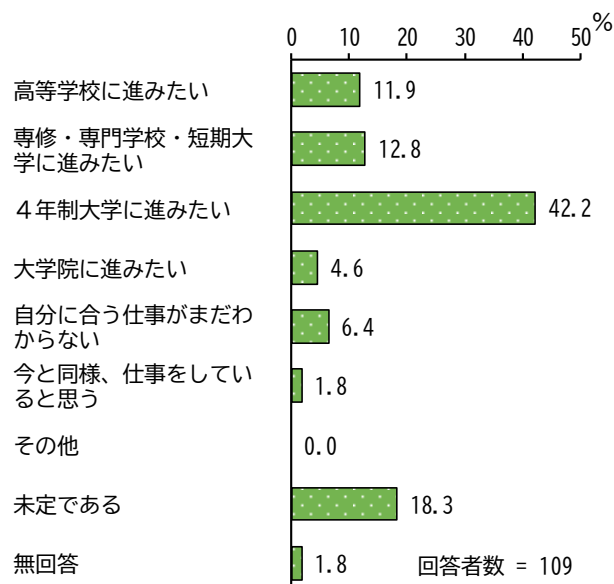
「25～29 歳」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「20～24 歳」の割合が 22.0%、「30～34 歳」の割合が 16.0%となっています。



(7) あなたの生きがいや将来について

問 19 あなたは今後の進路（学校の場合には希望する最終学歴）についてどのように考えていますか。（○は1つ）

「4年制大学に進みたい」の割合が42.2%と最も高く、次いで「未定である」の割合が18.3%、「専修・専門学校・短期大学に進みたい」の割合が12.8%となっています。



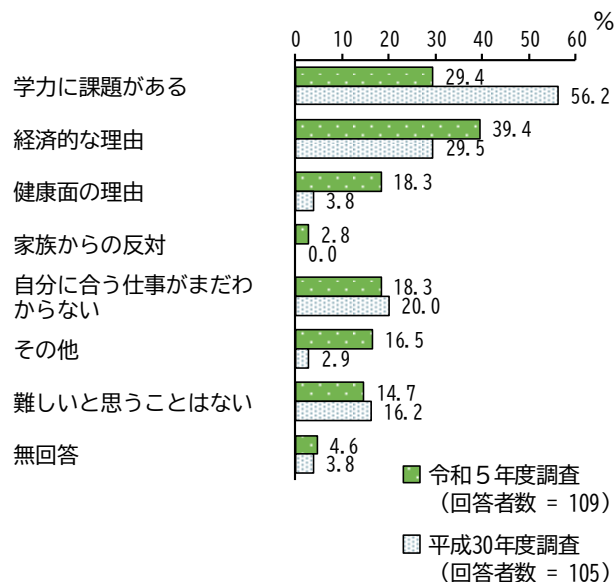
問 20 問 19 で回答した進路について考えた際、実現することが難しいと思うことがありますか。また、その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「経済的な理由」の割合が39.4%と最も高く、次いで「学力に課題がある」の割合が29.4%、「健康面の理由」、「自分に合う仕事はまだわからない」の割合が18.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「経済的な理由」「健康面の理由」の割合が増加し、「学力に課題がある」の割合が減少しています。

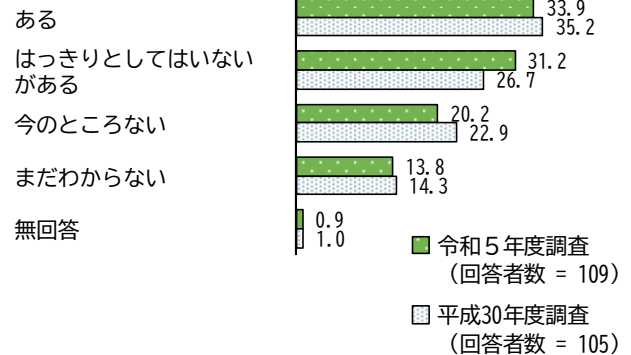
主な「その他」意見

・距離が遠い（2件）



問 21 あなたには将来の夢がありますか。(○は1つ)

「ある」「はっきりしてはいないがある」を合わせた割合が 65.1%を占めています。

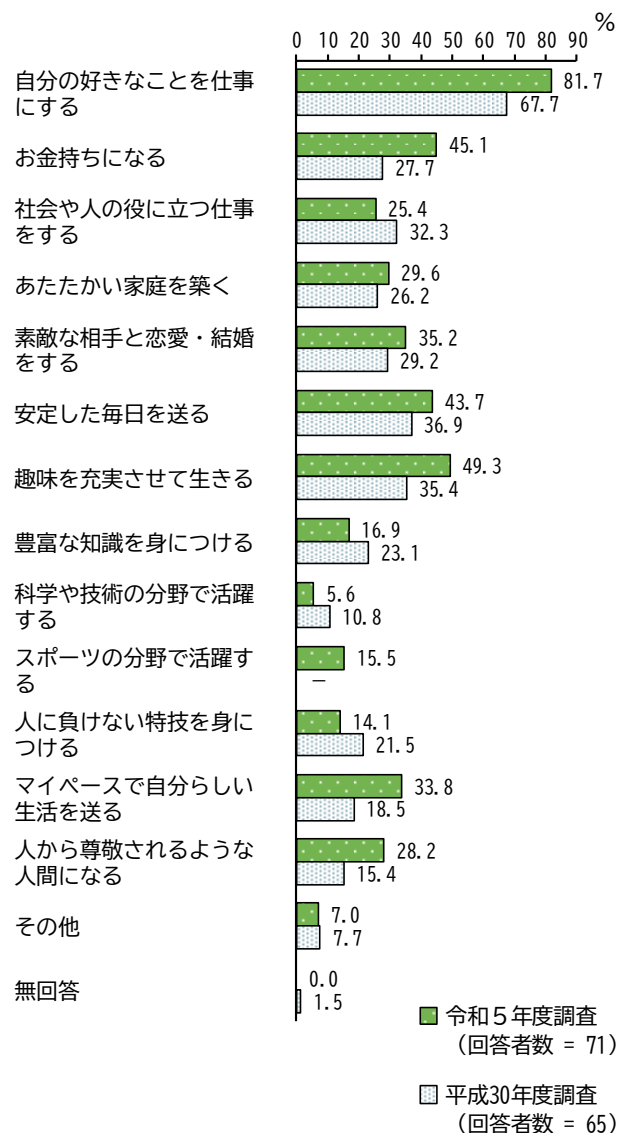


【問 21 で「1. ある」「2. はっきりしてはいないがある」と答えた方におうかがいします】

問 21-1 あなたは将来どのようになりたいですか。(あてはまるものすべてに○)

「自分の好きなことを仕事にする」の割合が 81.7%と最も高く、次いで「趣味を充実させて生きる」の割合が 49.3%、「お金持ちになる」の割合が 45.1%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「自分の好きなことを仕事にする」「お金持ちになる」「素敵な相手と恋愛・結婚をする」「安定した毎日を送る」「趣味を充実させて生きる」「マイペースで自分らしい生活を送る」「人から尊敬されるような人間になる」の割合が増加しています。一方、「社会や人の役に立つ仕事をする」「豊富な知識を身につける」「科学や技術の分野で活躍する」「人に負けない特技を身につける」の割合が減少しています。

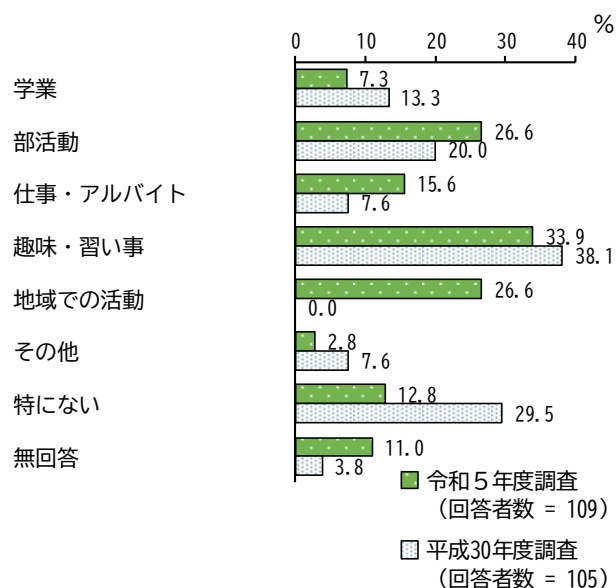


※令和5年度調査で、「スポーツの分野で活躍する」の選択肢を追加しています。

問 22 あなたは今、熱中していることがありますか。それはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

「趣味・習い事」の割合が 33.9%と最も高く、次いで「部活動」、「地域での活動」の割合が 26.6%となっています。

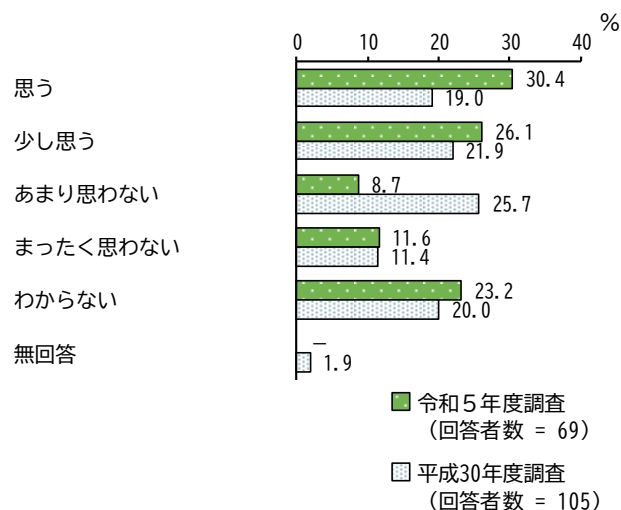
平成 30 年度調査と比較すると、「部活動」「仕事・アルバイト」「地域での活動」の割合が増加しています。



問 23 あなたは将来、親と同居または親の近くに住みたいと思いますか。(○は1つ)

「思う」の割合が 30.4%と最も高く、次いで「少し思う」の割合が 26.1%、「わからない」の割合が 23.2%となっています。

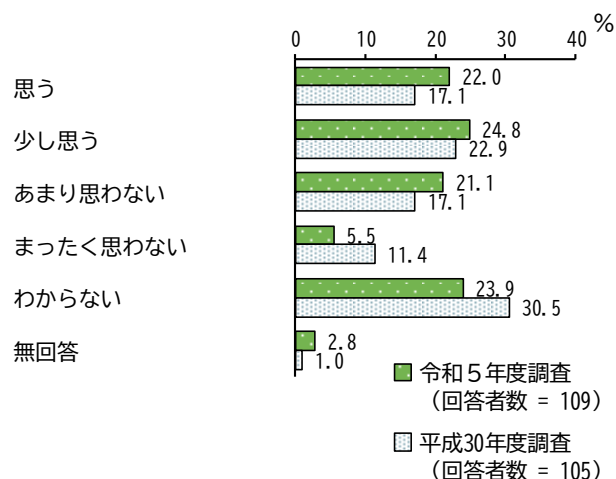
平成 30 年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加し、「あまり思わない」の割合が減少しています。



問 24 あなたは将来、多摩市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

「少し思う」の割合が 24.8%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 23.9%、「思う」の割合が 22.0%となっています。

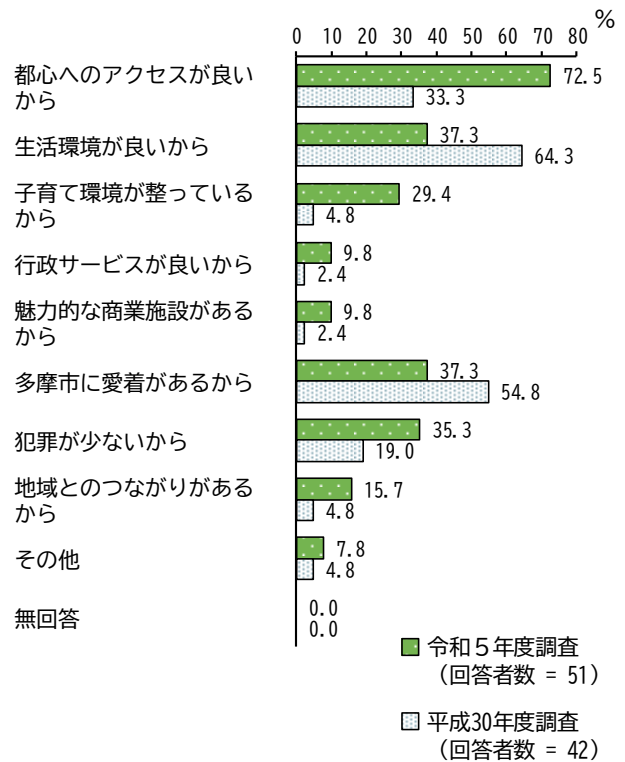
平成 30 年度調査と比較すると、「まったく思わない」「わからない」の割合が減少しています。



問 24-1 多摩市に住み続けたい理由（あてはまるものすべてに○）

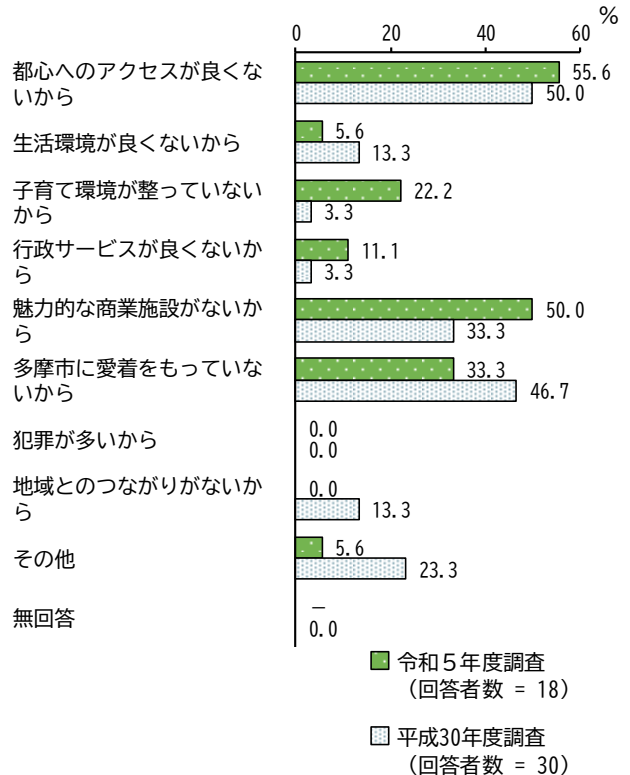
「都心へのアクセスが良いから」の割合が72.5%と最も高く、次いで「生活環境が良いから」、「多摩市に愛着があるから」の割合が37.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「都心へのアクセスが良いから」「子育て環境が整っているから」「行政サービスが良いから」「魅力的な商業施設があるから」「犯罪が少ないから」「地域とのつながりがあるから」の割合が増加しています。一方、「生活環境が良いから」「多摩市に愛着があるから」の割合が減少しています。



問 24-2 多摩市に住み続けたいと思わない理由（あてはまるものすべてに○）

「都心へのアクセスが良くないから」の割合が55.6%と最も高く、次いで「魅力的な商業施設がないから」の割合が50.0%、「多摩市に愛着をもっていないから」の割合が33.3%となっています。



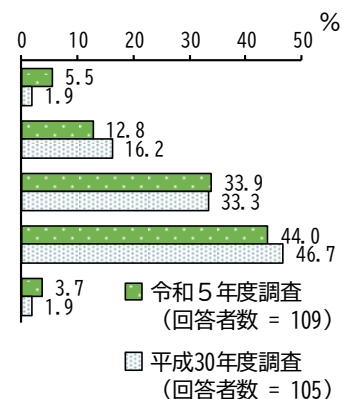
(8) あなたの持ち物について

問 25 あなたは、ふだんの生活の中で、お金が足りなくて、必要とする文具や教材が買えないことはありますか。(○はひとつだけ)

「まったくない」の割合が 44.0%と最も高く、次いで「あまりない」の割合が 33.9%、「ときどきある」の割合が 12.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「よくある」の割合が増加しています。

よくある
ときどきある
あまりない
まったくない
無回答



問 26 あなたは世の中の出来事や身近な情報を知る際に、何を利用し、誰に頼りますか。(○はそれぞれひとつ)

よく利用する (よく頼る)
ときどき利用する (ときどき頼る)
あまり利用しない (あまり頼らない)
まったく利用しない (まったく頼らない)
無回答

回答者数 = 109

(ア) テレビ・ラジオ

(イ) 新聞

(ウ) 週刊誌、雑誌

(エ) 電車などの車内広告

(オ) インターネット
(SNS をのぞく)

(カ) SNS

(キ) 親

(ク) 兄弟・姉妹

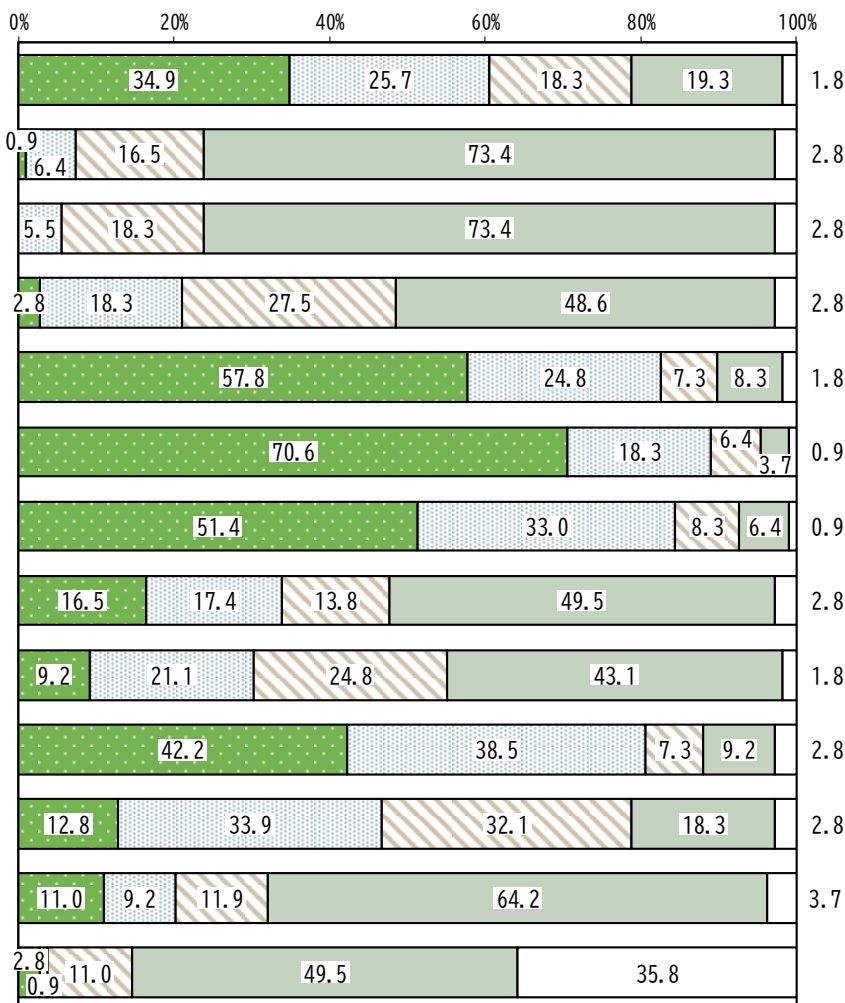
(ケ) その他の親族

(コ) 友人・知人

(サ) 学校の先生

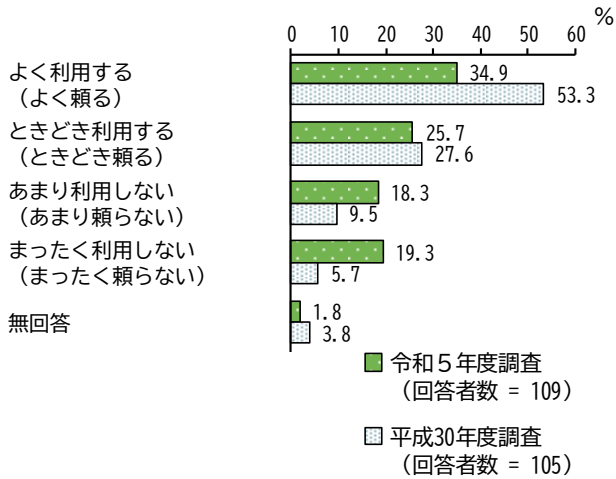
(シ) 塾、予備校などの先生

(ス) その他

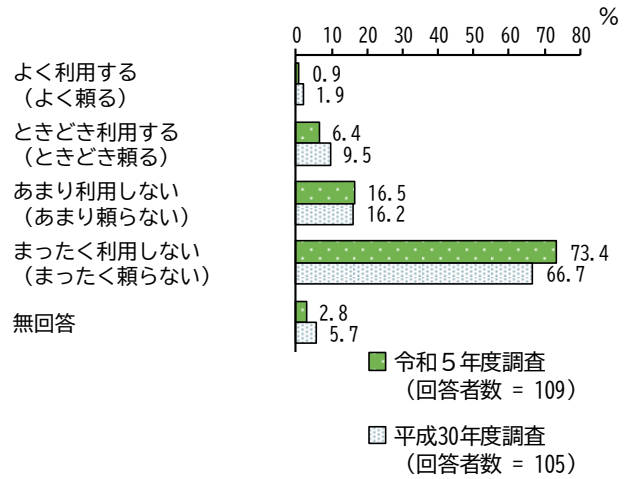


<項目ごとの経年比較>

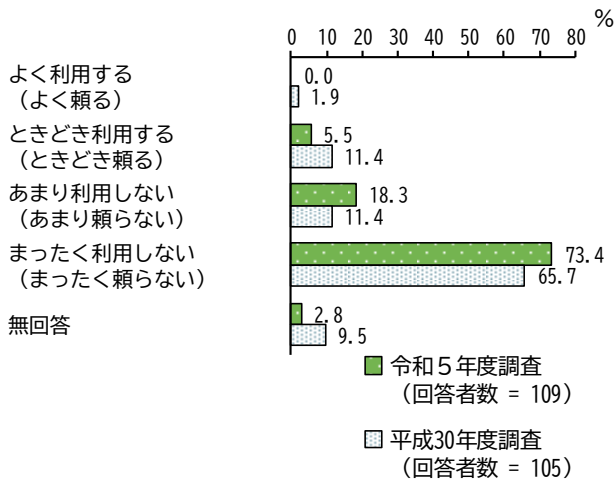
(ア) テレビ・ラジオ



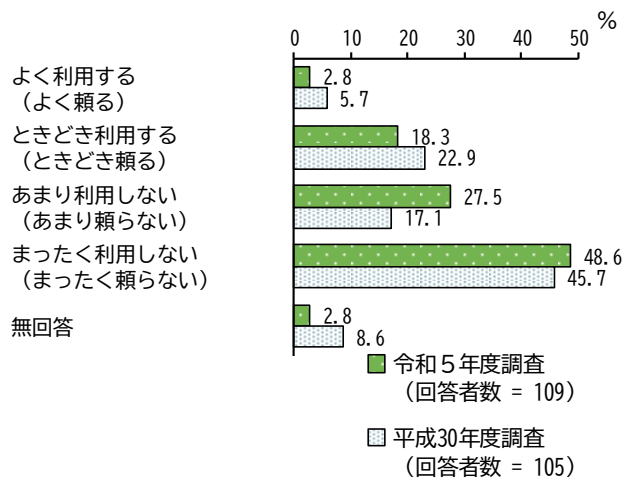
(イ) 新聞



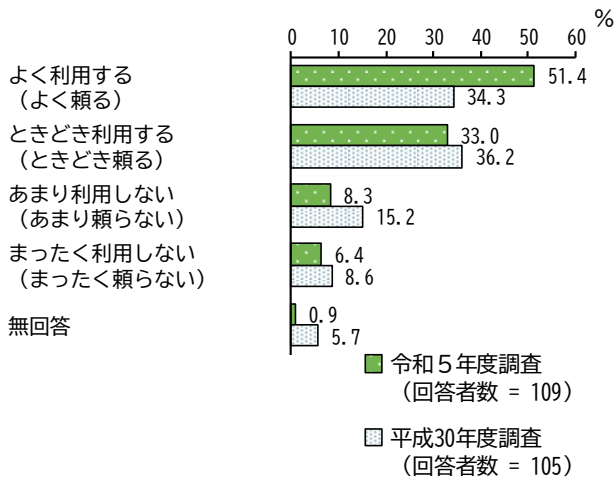
(ウ) 週刊誌、雑誌



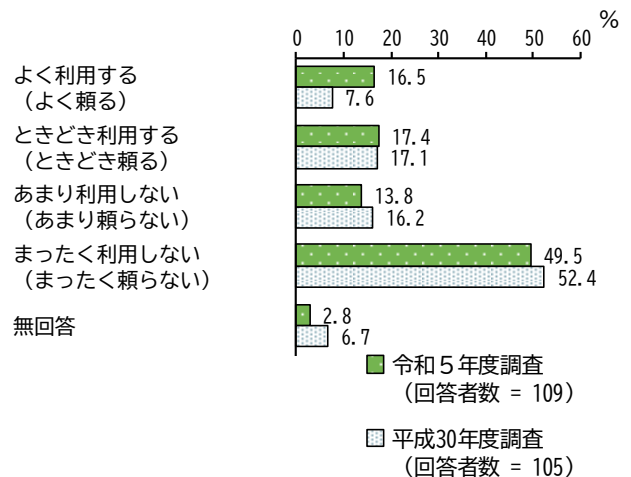
(エ) 電車などの車内広告



(キ) 親

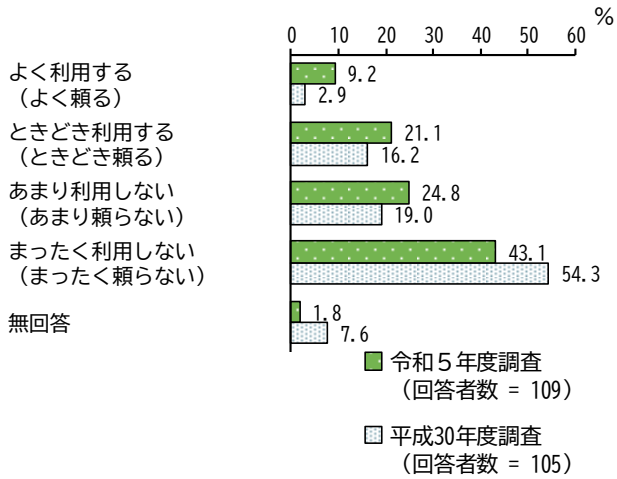


(ク) 兄弟・姉妹

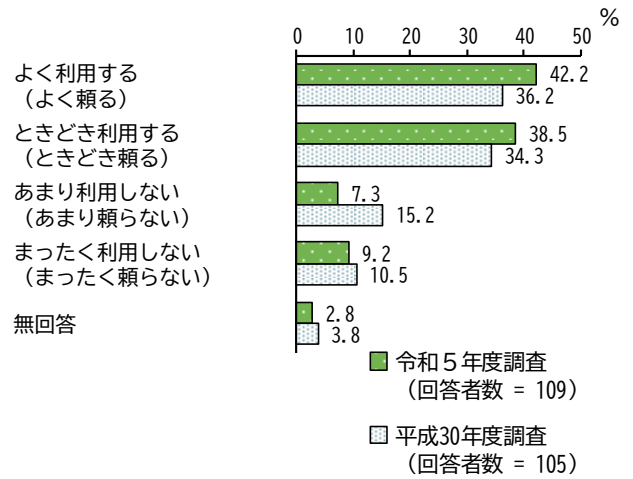


C-2 中高生世代用

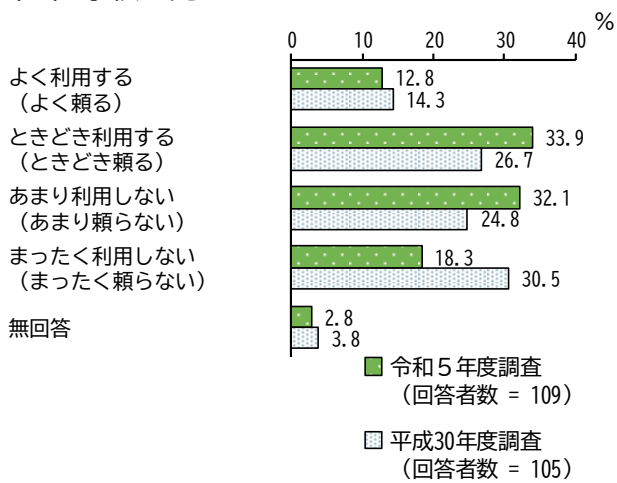
(ケ) その他の親族



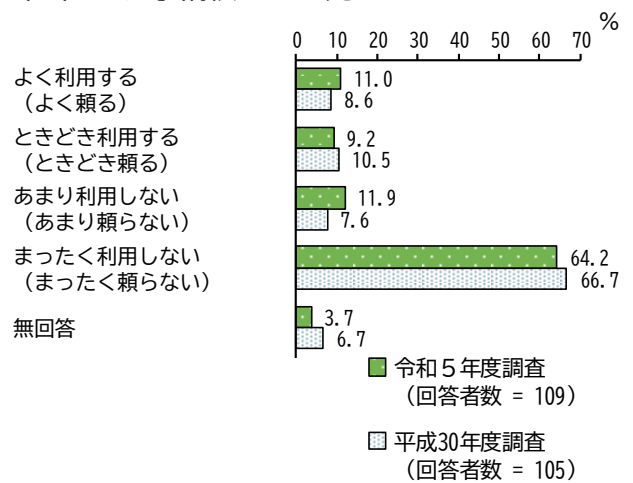
(コ) 友人・知人



(サ) 学校の先生



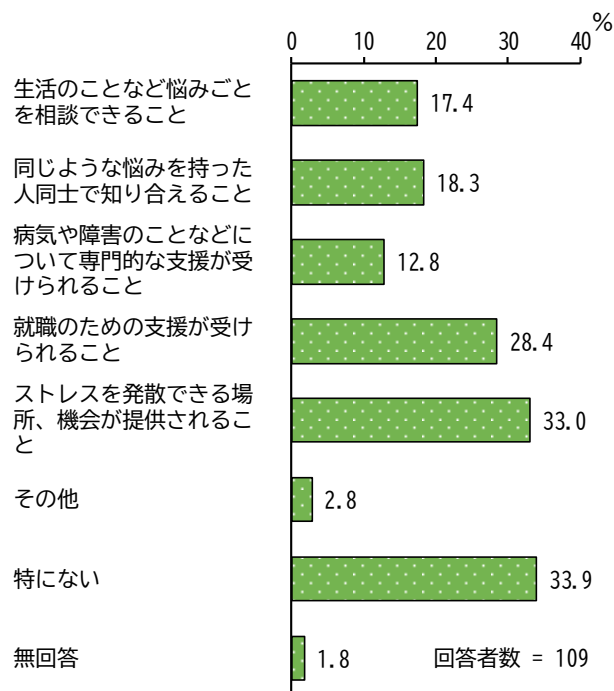
(シ) 塾、予備校などの先生



(9) 多摩市への意見や要望について

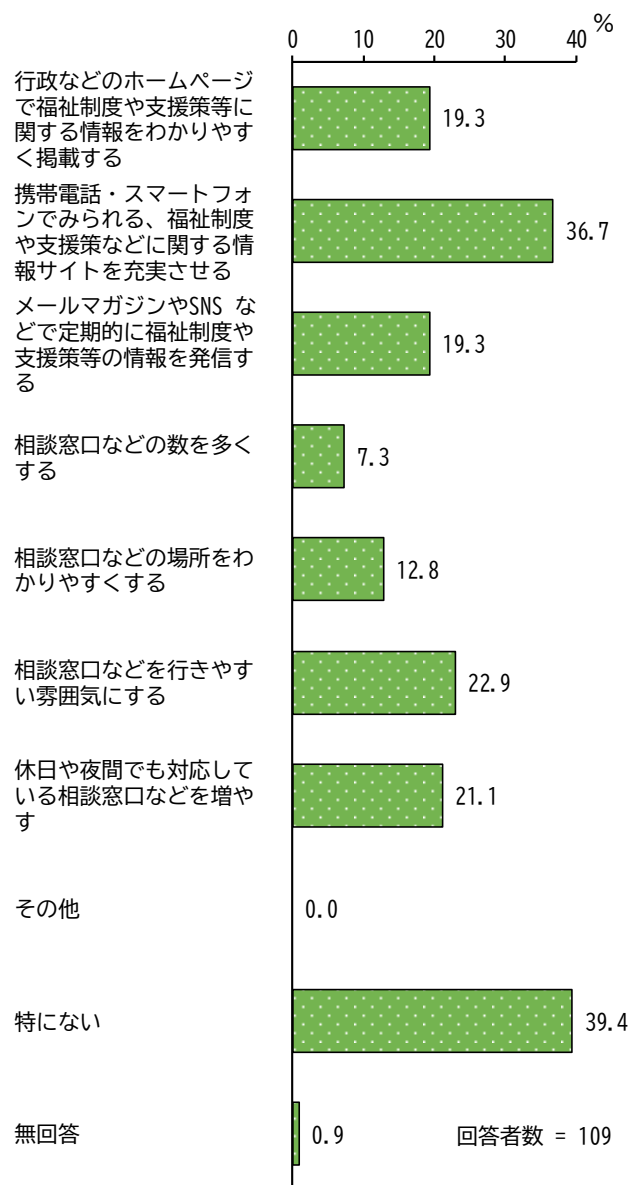
問 27 あなたが現在必要としていることで、重要だと思う支援はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

「ストレスを発散できる場所、機会が提供されること」の割合が 33.0%、「就職のための支援が受けられること」の割合が 28.4%となっています。一方、「特にない」の割合は 33.9%となっています。



問 28 あなたが必要な支援を受けるために重要だと思うことを教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

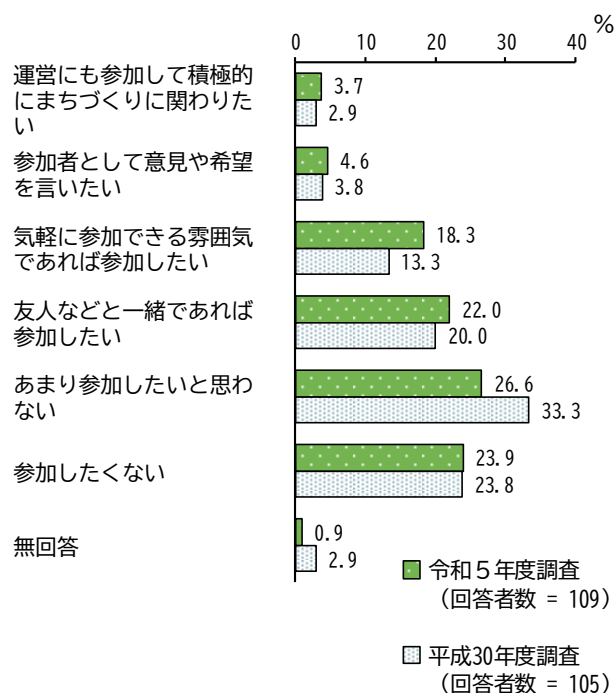
「特にない」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「携帯電話・スマートフォンでみられる、福祉制度や支援策などに関する情報サイトを充実させる」の割合が 36.7%、「相談窓口などを行きやすい雰囲気にする」の割合が 22.9%となっています。



問 29 あなたは市のまちづくりについて、意見や自分の希望を言えるような機会があるとしたら、参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

「友人などと一緒にあれば参加したい」の割合が 22.0%、「気軽に参加できる雰囲気であれば参加したい」の割合が 18.3%となっています。

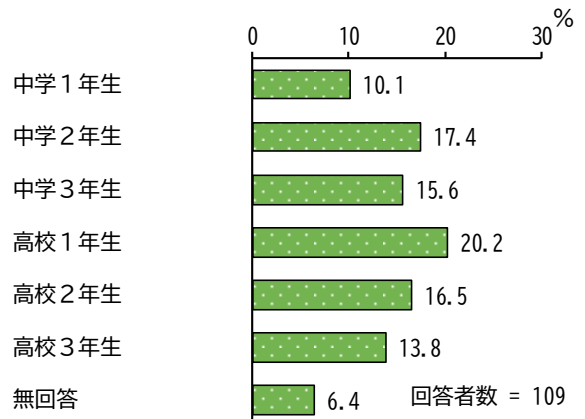
平成 30 年度調査と比較すると、参加に肯定的な割合が増加しています。



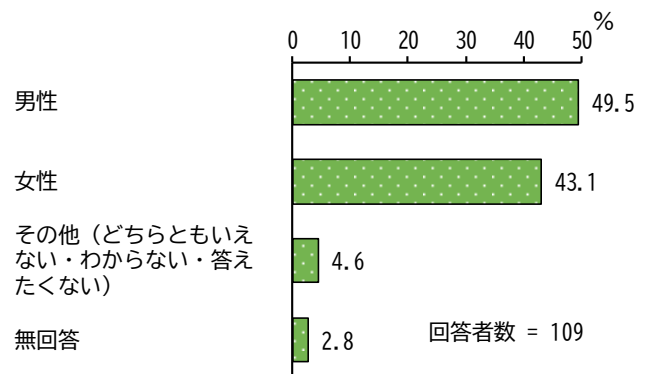
(10) あなたとご家族、お住まいについて

問 30 あなたの生年月を教えてください。(数字で具体的に)

「高校1年生」の割合が 20.2%と最も高く、次いで「中学2年生」の割合が 17.4%、「高校2年生」の割合が 16.5%となっています。

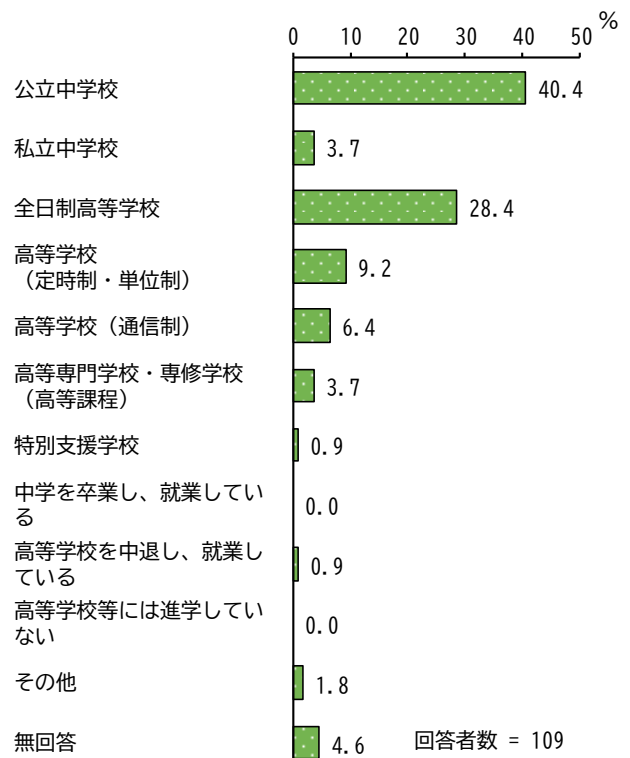


問 31 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)



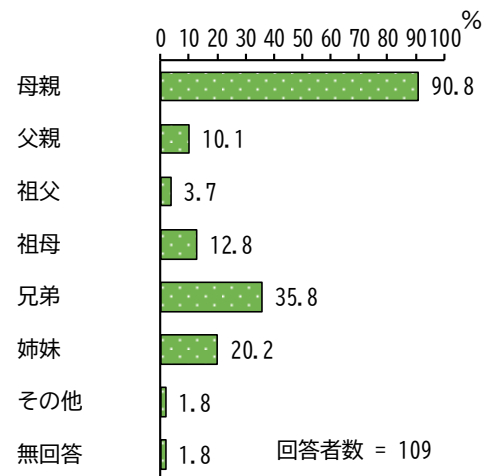
問 32 あなたは次のうち、どちらに属していますか。(○は1つ)

「公立中学校」の割合が 40.4%と最も高く、次いで「全日制高等学校」の割合が 28.4%となっています。



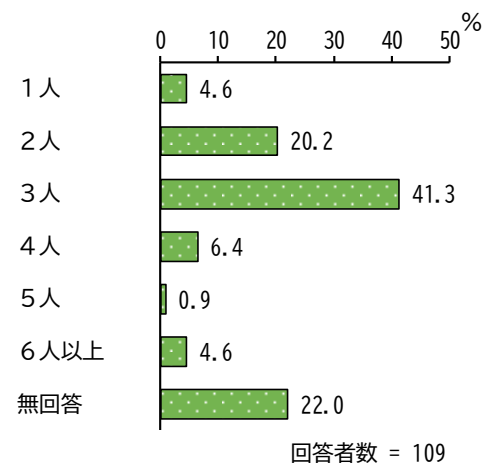
問 33 あなたと同居されているご家族すべてに○をつけてください。
 なお、続柄はあなたから見た関係です。また、あなたを含む同居している家族全員の人数を記入してください。

「母親」の割合が 90.8%と最も高く、次いで
 「兄弟」の割合が 35.8%、「姉妹」の割合が
 20.2%となっています。

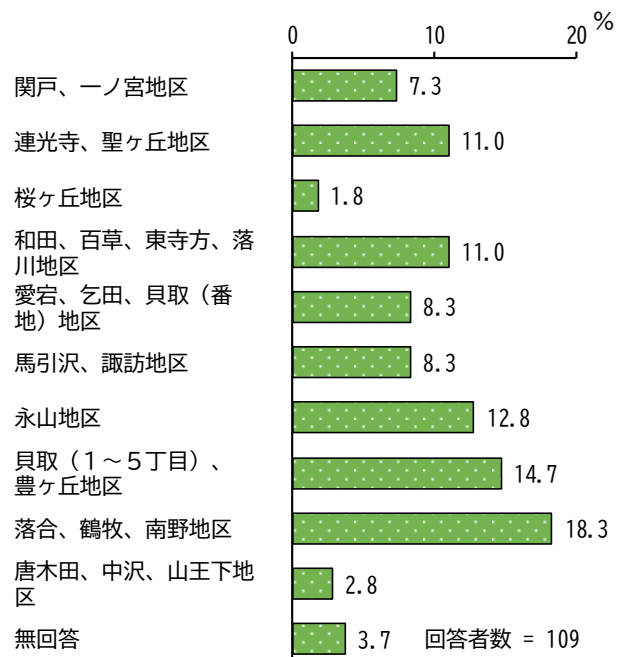


<同居人数>

「3人」の割合が 41.3%と最も高く、次いで
 「2人」の割合が 20.2%となっています。



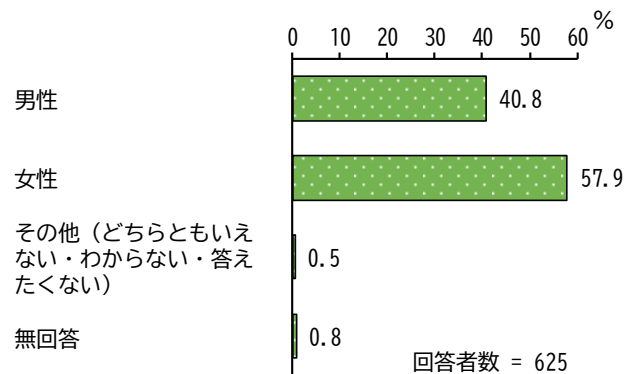
問 34 あなたのお住まいの地区はどこですか。(○は1つ)



7 多摩市少子化に関する実態・意識調査【D】

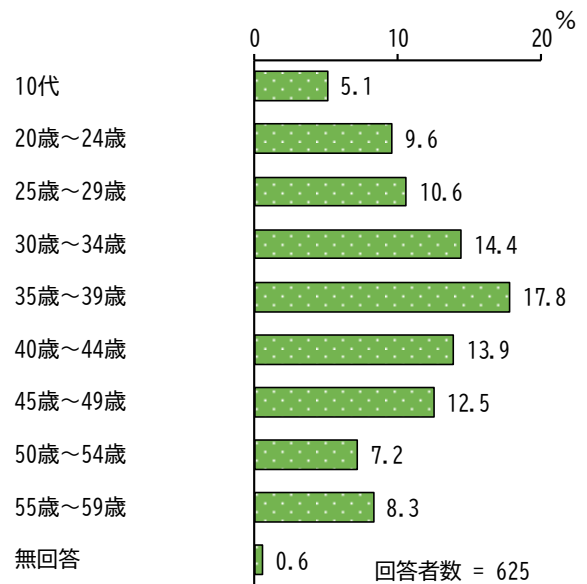
(1) 『あなた自身』について

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)



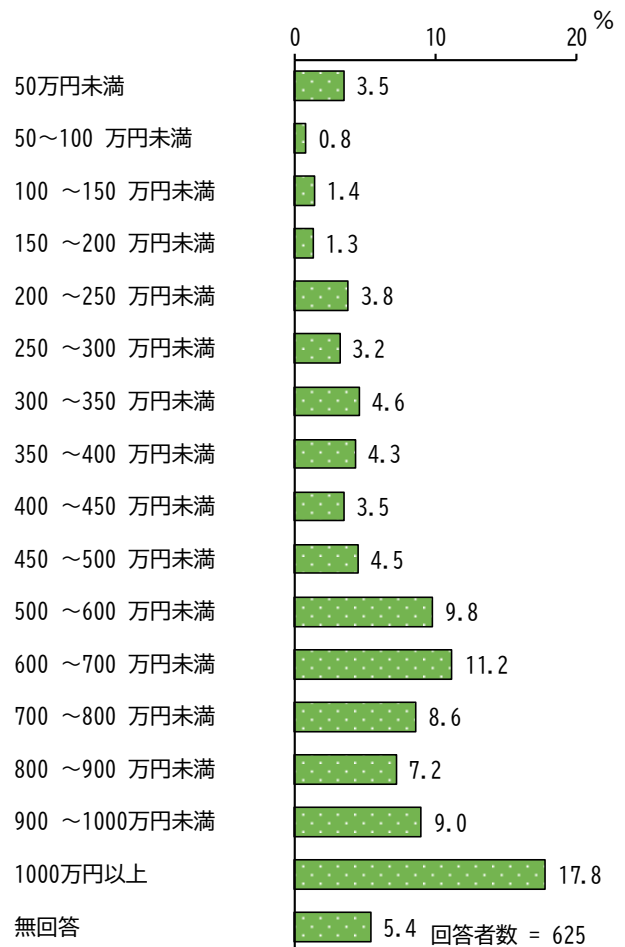
問2 あなたの年齢 (令和5年4月1日現在) を教えてください。(○は1つ)

「35歳～39歳」の割合が17.8%と最も高く、次いで「30歳～34歳」の割合が14.4%、「40歳～44歳」の割合が13.9%となっています。



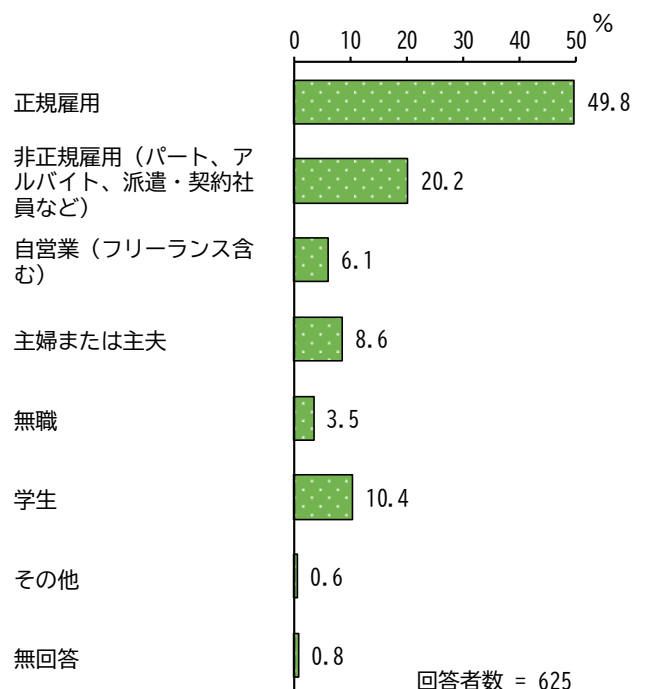
問3 昨年（令和4年1～12月）1年間の、あなたの世帯（生計を共にする家族の収入も含みます）のおよその総収入（養育費や手当等すべての収入を含みます）を教えてください。（〇は1つ）

「1000 万円以上」の割合が 17.8%と最も高く、次いで「600 ～700 万円未満」の割合が 11.2%となっています。



問4 あなたの就業形態を教えてください。（〇は1つ）

「正規雇用」の割合が 49.8%と最も高く、次いで「非正規雇用（パート、アルバイト、派遣・契約社員など）」の割合が 20.2%、「学生」の割合が 10.4%となっています。

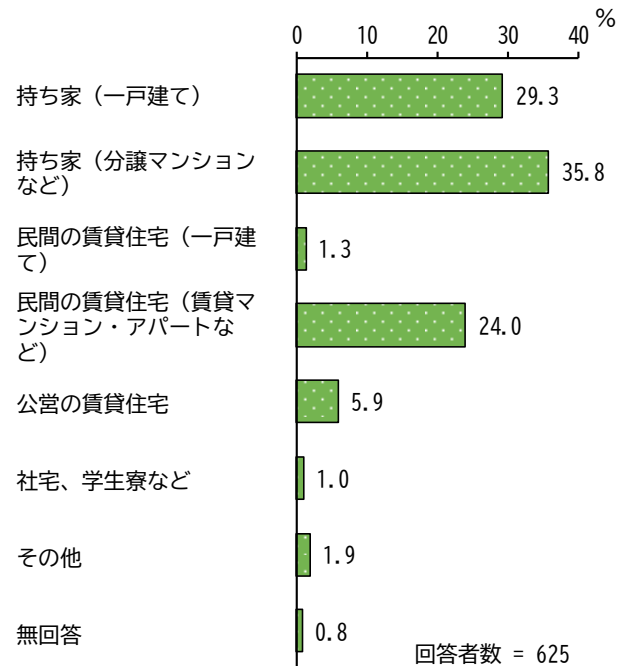


問5 あなたのお住まいの形態を教えてください。(〇は1つ)

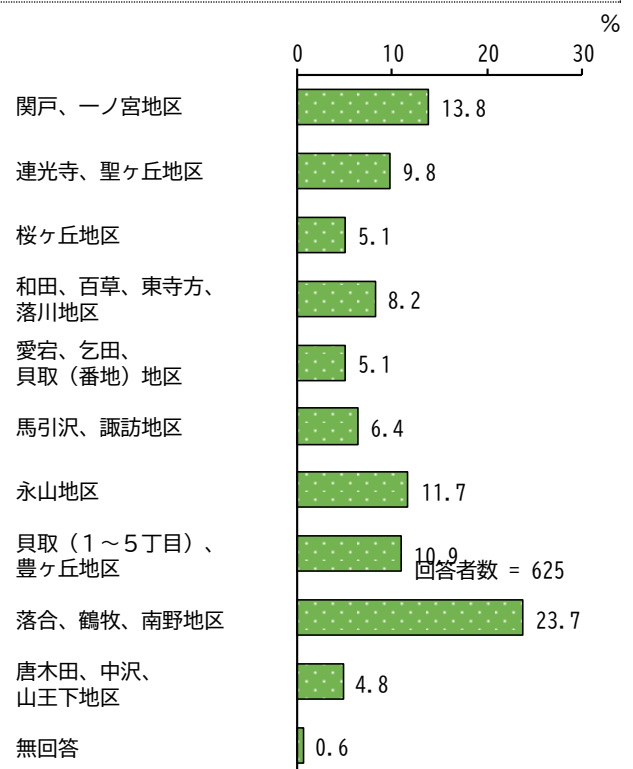
「持ち家（分譲マンションなど）」の割合が35.8%と最も高く、次いで「持ち家（一戸建て）」の割合が29.3%、「民間の賃貸住宅（賃貸マンション・アパートなど）」の割合が24.0%となっています。

「その他」意見

・実家（親の持ち家） （11件）



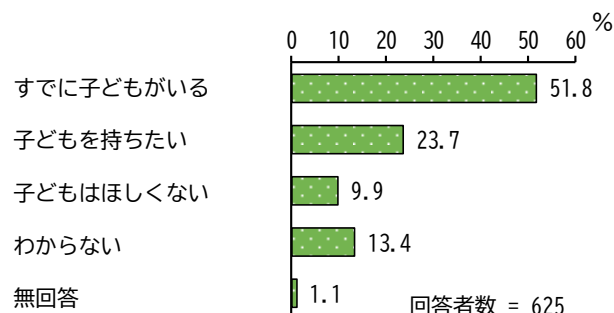
問6 お住まいの地区はどちらですか。(〇は1つ)



(2) 子どもを持つことについて

問7 あなたは子どもを持つことに対してどう思いますか。(〇は1つ)

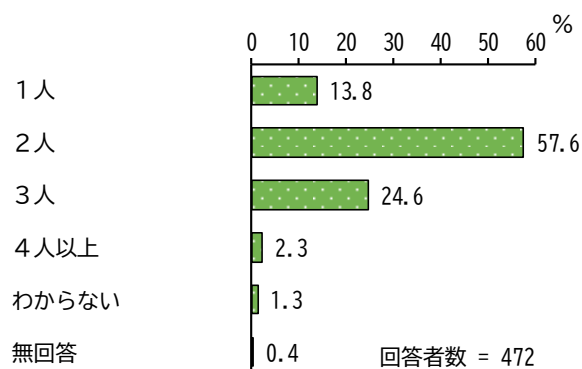
「すでに子どもがいる」の割合が51.8%と最も高く、次いで「子どもを持ちたい」の割合が23.7%、「子どもはほしくない」の割合が9.9%となっています。



【問7で「1. すでに子どもがいる」「2. 子どもを持ちたい」と答えた方にお伺いします】

問7-1 あなたが理想とする子どもの人数は何人ですか。子どもがいる方は、現在の子ども的人数を含めてお答えください。(〇は1つ)

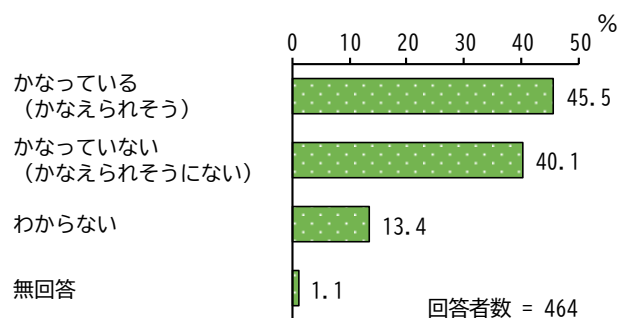
「2人」の割合が57.6%と最も高く、次いで「3人」の割合が24.6%、「1人」の割合が13.8%となっています。



【問7-1で「1. 1人」「2. 2人」「3. 3人」「4. 4人以上」と答えた方にお伺いします】

問7-2 あなたの子ども的人数は、理想がかなっていますか。また、理想とする子ども的人数をかなえられそうですか。(〇は1つ)

「かなっている(かなえられそう)」の割合が45.5%と最も高く、次いで「かなっていない(かなえられそうにない)」の割合が40.1%、「わからない」の割合が13.4%となっています。



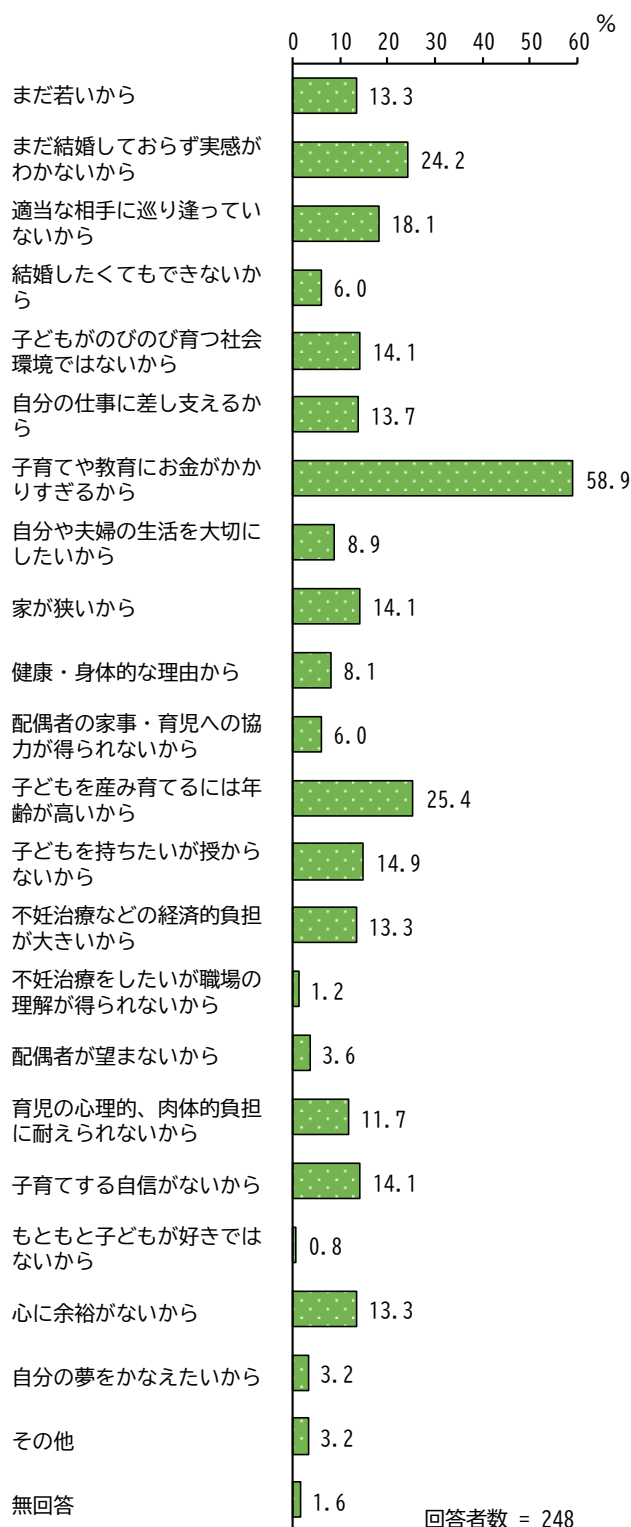
【問7-2で「2. かなっていない（かなえられそうにない）」「3. わからない」と回答した方にお伺いします】

問7-3 理想とする子どもの人数がかなっていない（かなえられそうにない）、もしくは、わからない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が58.9%と最も高く、次いで「子どもを産み育てるには年齢が高いから」の割合が25.4%、「まだ結婚しておらず実感がわからないから」の割合が24.2%となっています。

「その他」意見

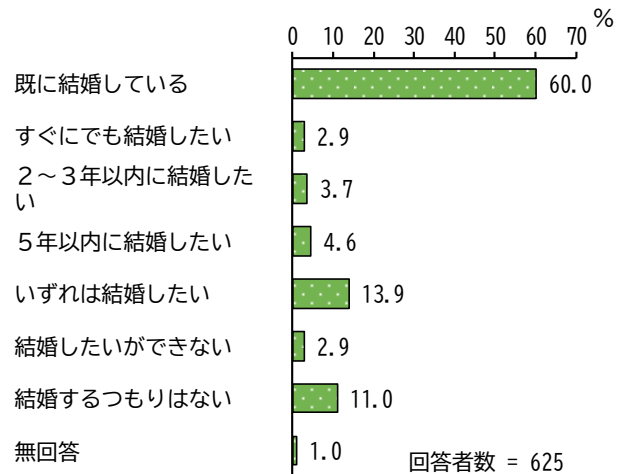
- ・お金が心配 （4件）
- ・母子家庭のため （2件）
- ・子育てが心配 （2件）
- ・不妊症のため （3件）



(3)「結婚」について

問8 あなたは、将来、結婚したいと思いますか。(○は1つ)

「既に結婚している」の割合が60.0%と最も高く、次いで「いずれは結婚したい」の割合が13.9%、「結婚するつもりはない」の割合が11.0%となっています。



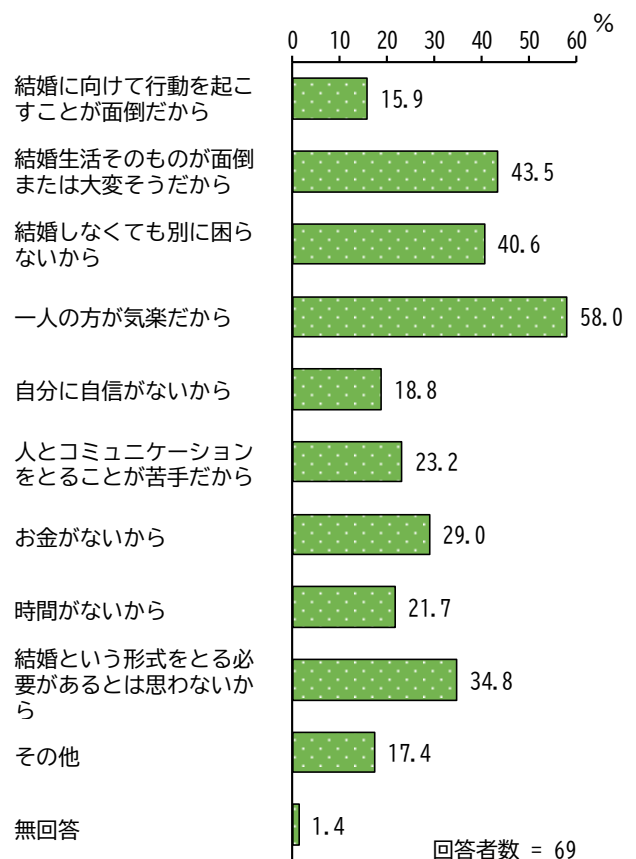
【問8で「7. 結婚するつもりはない」と答えた方にお伺いします】

問8-1 結婚するつもりがないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

「一人の方が気楽だから」の割合が58.0%と最も高く、次いで「結婚生活そのものが面倒または大変そうだから」の割合が43.5%、「結婚しなくても別に困らないから」の割合が40.6%となっています。

主な「その他」意見

- ・結婚したいと思えなくなった (7件)
- ・忙しいから (2件)
- ・環境が変わることが大変なため (2件)



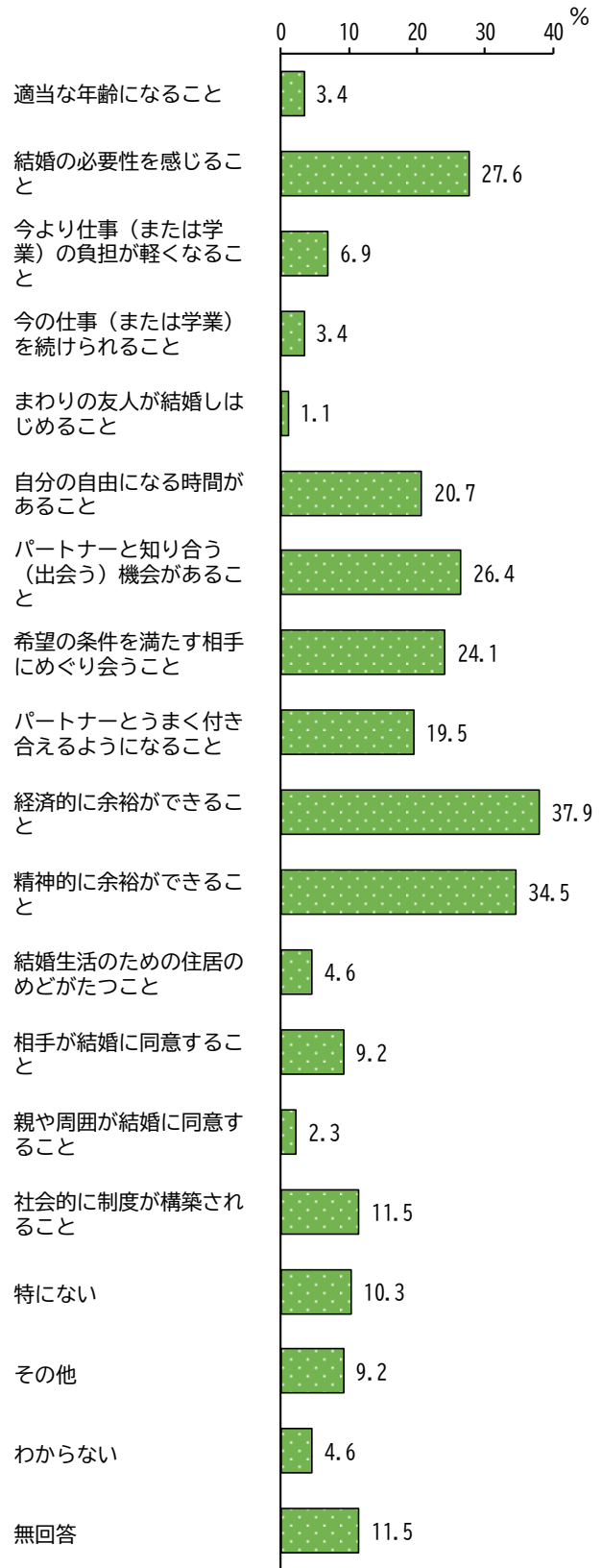
【問8で「6. 結婚したいができない」「7. 結婚するつもりはない」と答えた方にお伺いします】

問8-2 あなたは、どのような状況になれば結婚できる、または結婚すると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「経済的に余裕ができること」の割合が37.9%と最も高く、次いで「精神的に余裕ができること」の割合が34.5%、「結婚の必要性を感じる事」の割合が27.6%となっています。

主な「その他」意見

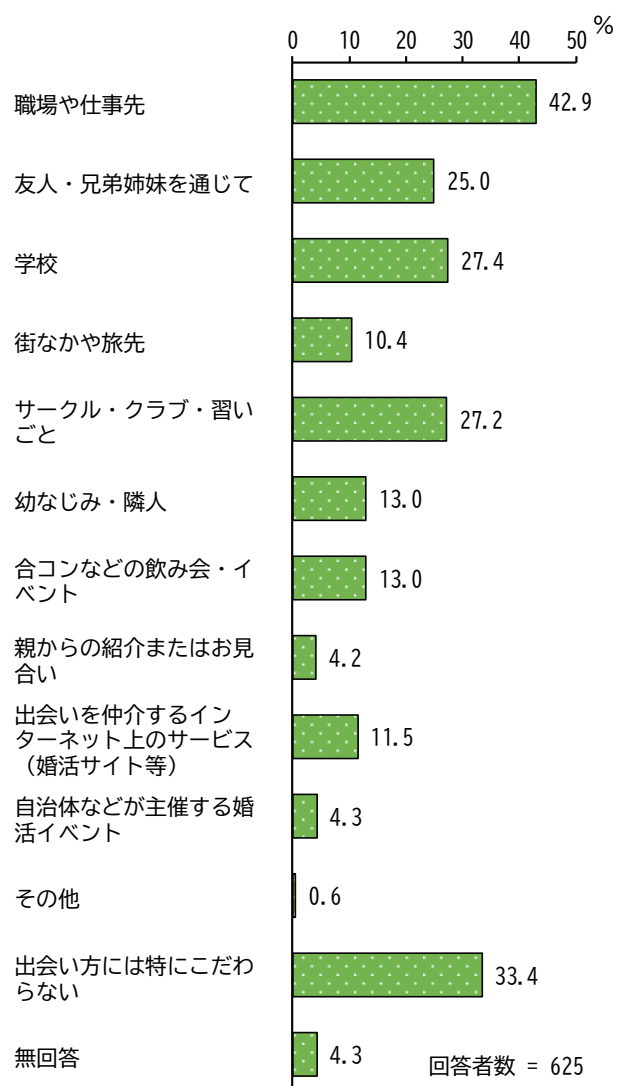
- ・今の生活を結婚しても続けられること (2件)
- ・信用できる方であれば (2件)



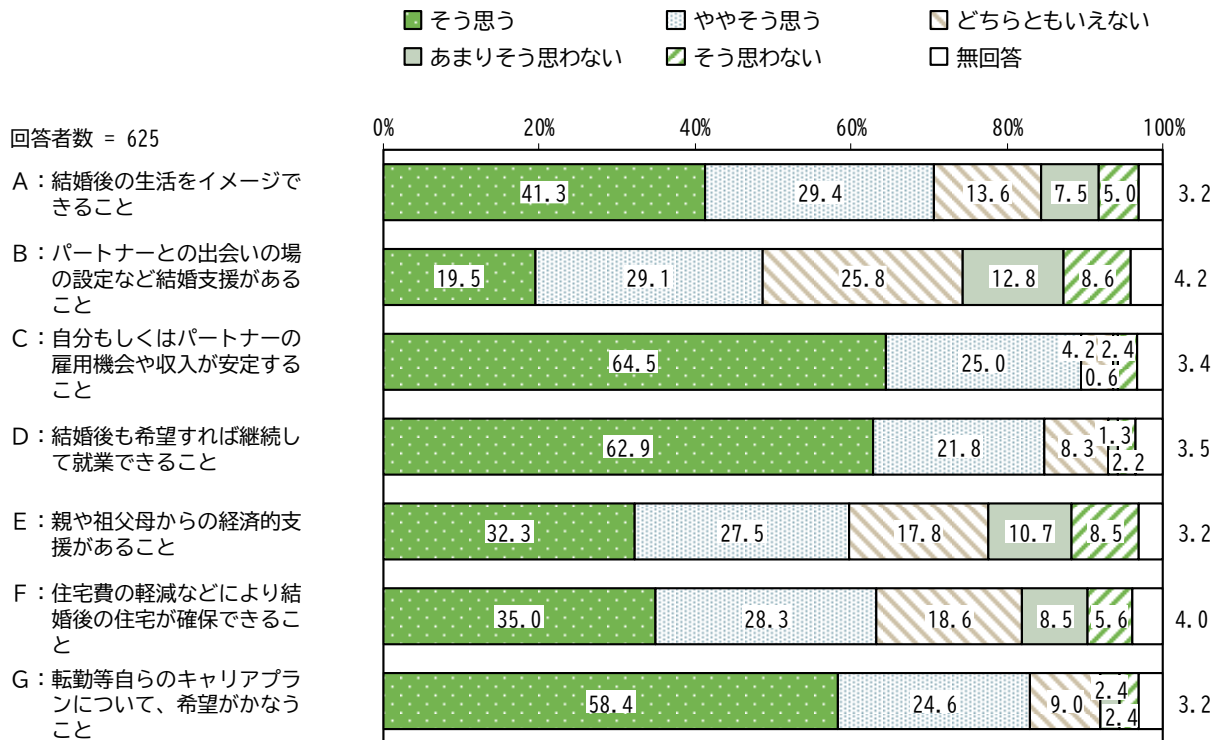
回答者数 = 87

問9 自分が思い描く、結婚相手との出会いのきっかけは次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

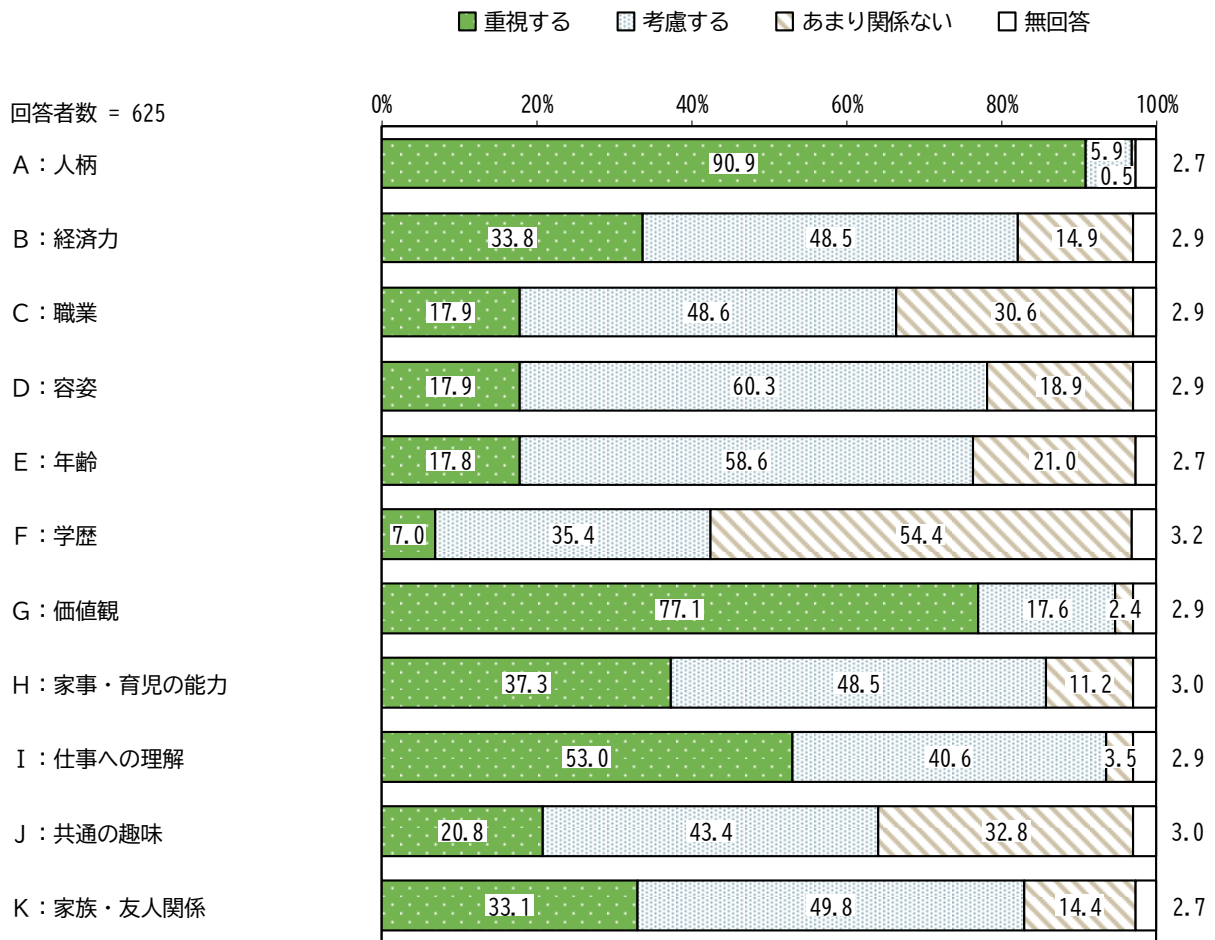
「職場や仕事先」の割合が42.9%と最も高く、次いで「出会い方には特にこだわらない」の割合が33.4%、「学校」の割合が27.4%となっています。



問 10 あなたは、次のような支援・環境があれば結婚の希望がかないやすくなると思いますか。（それぞれ該当するものに○）

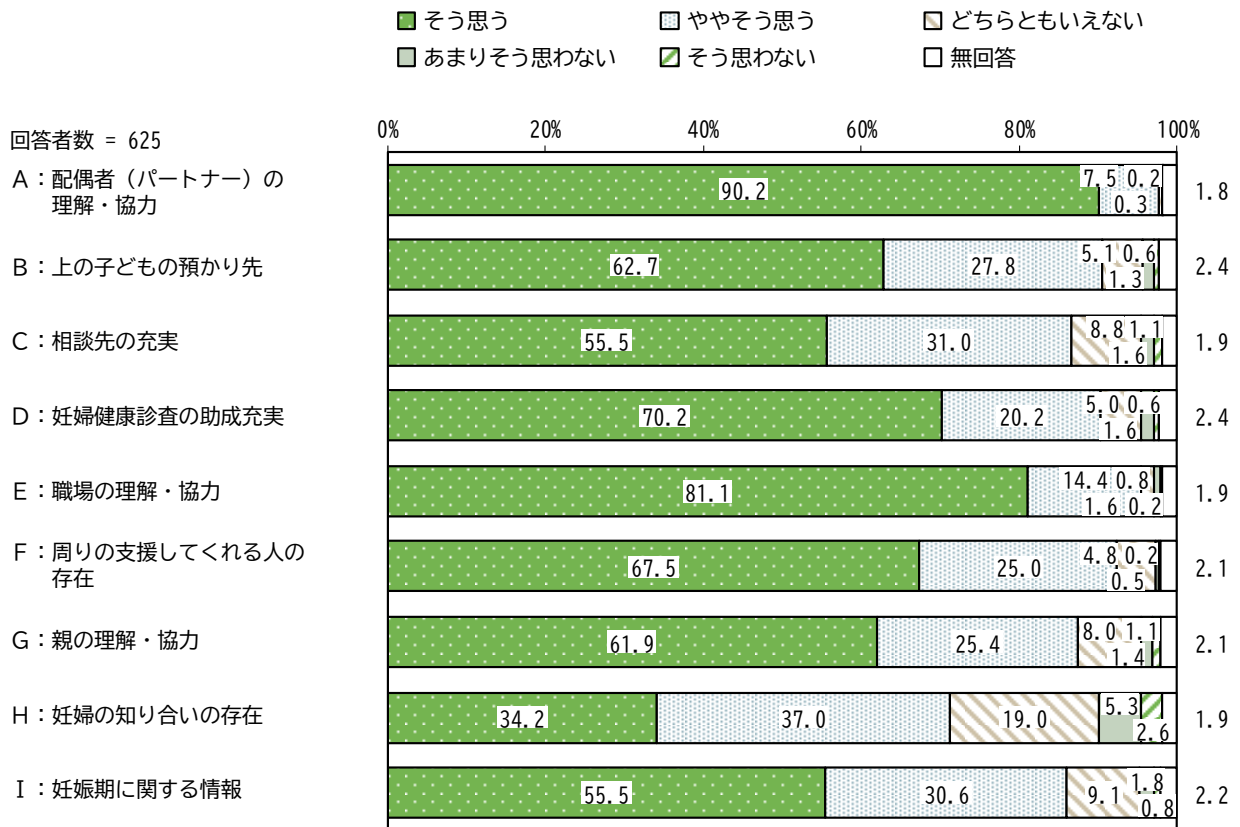


問 11 あなたが結婚相手を決めるとき、次の項目についてどの程度重視しますか。
(それぞれ該当するものに○)

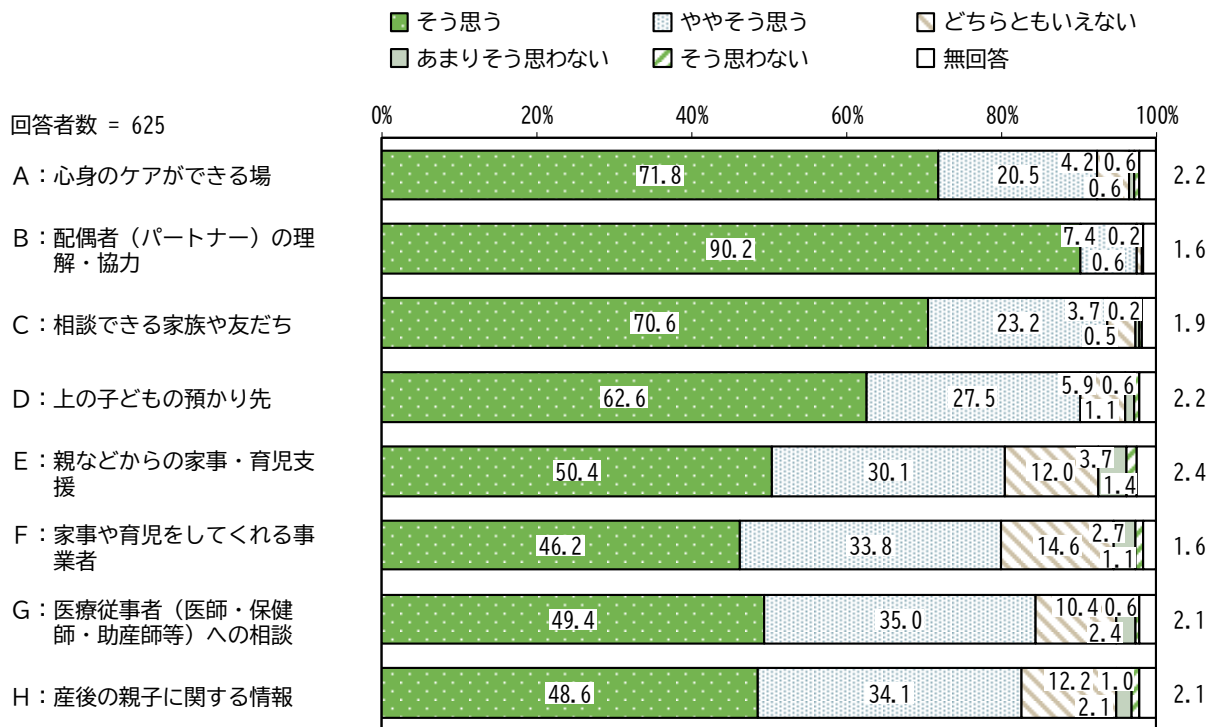


(4)「妊娠・出産」について

問 12 妊娠期間に妊婦の方が安心して過ごすために必要なことは何だと思えますか。
(それぞれ該当するものに○)



問 13 子どもを出産した方が、産後安心して過ごすために必要なことは何だと思いますか。(それぞれ該当するものに○)



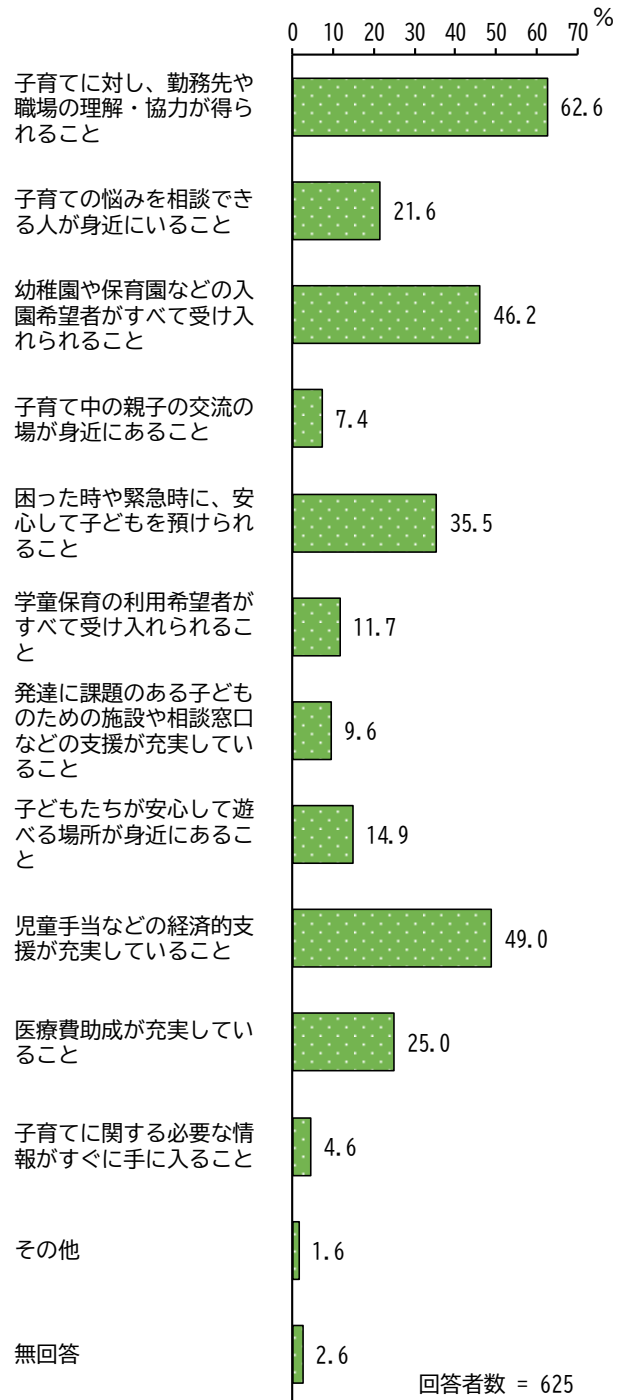
(5)「子育て支援施策」について

問 14 どのようなことがあれば子育てしやすいと感じると思いますか。効果的だと思うものを3つ選んでください。(〇は3つ)

「子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られること」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「児童手当などの経済的支援が充実していること」の割合が 49.0%、「幼稚園や保育園などの入園希望者がすべて受け入れられること」の割合が 46.2%となっています。

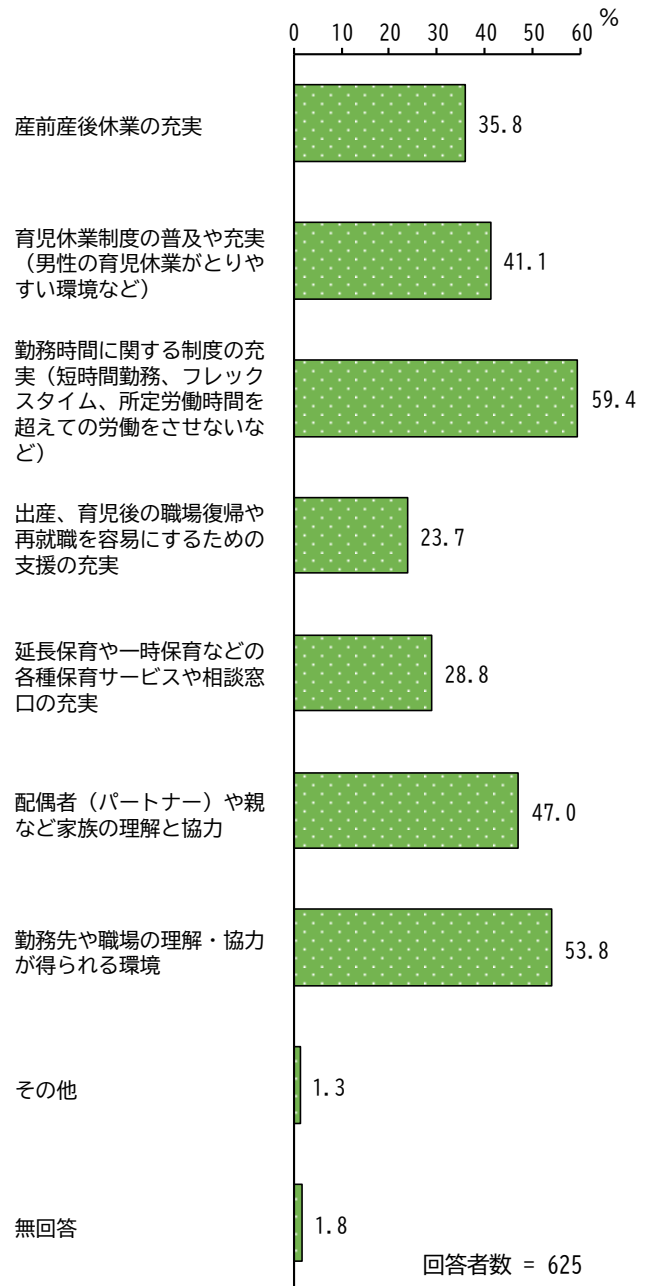
主な「その他」意見

・経済的な問題の解決 (4件)



問 15 あなたが子育てしながら働くとき、仕事と家庭を両立するためにあればよいと思うことは何ですか。効果的だと思うものを3つ選んでください。実際に仕事をしていない方や子どもがいない方も、そうなったと想定してご自身の立場で可能な範囲でお答えください。(〇は3つ)

「勤務時間に関する制度の充実」の割合が59.4%と最も高く、次いで「勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」の割合が53.8%となっています。

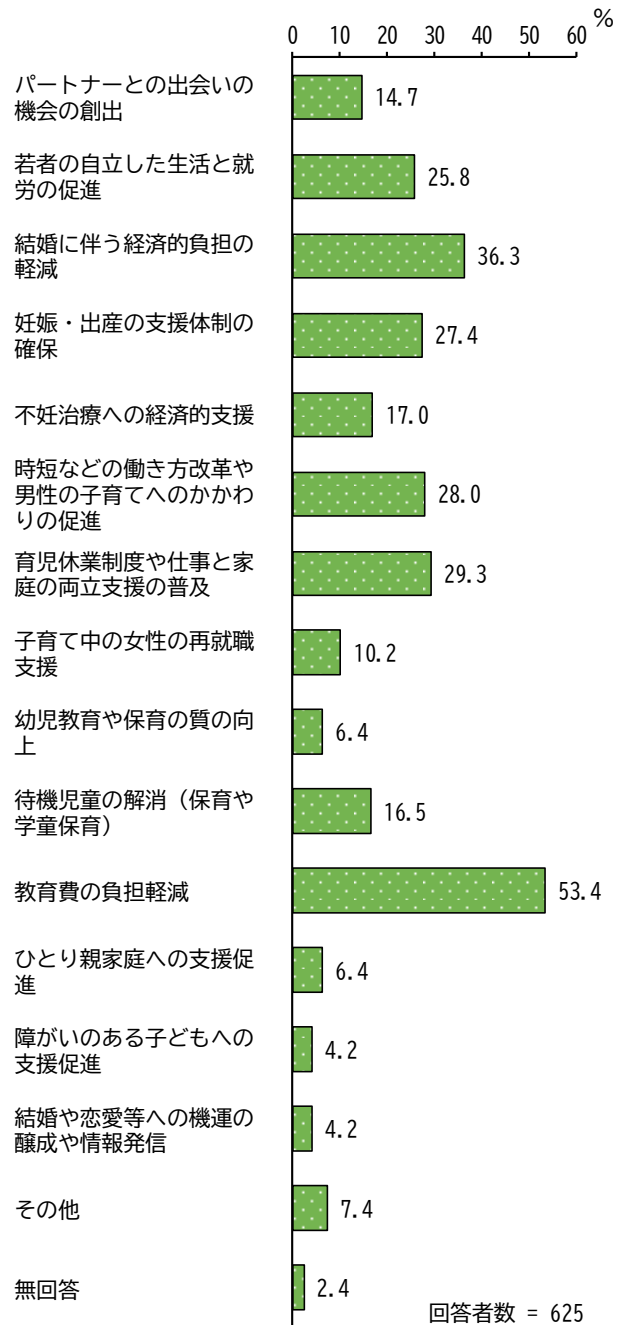


問 16 近年、急速な少子化と人口減少が進行し、社会経済に大きな影響を及ぼしています。あなたは、少子化への対策としてどのような取組が有効だと思いますか。効果的だと思うものを3つ選んでください。(〇は3つ)

「教育費の負担軽減」の割合が 53.4%と最も高く、次いで「結婚に伴う経済的負担の軽減」の割合が 36.3%、「育児休業制度や仕事と家庭の両立支援の普及」の割合が 29.3%となっています。

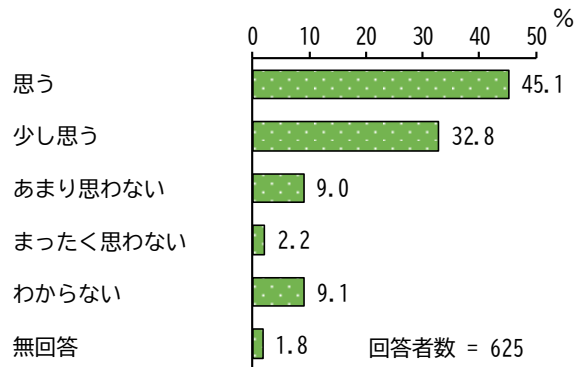
主な「その他」意見

- ・ 養育費の負担軽減 (10 件)
- ・ 収入額の上昇 (9 件)
- ・ 子育てに関係する経済的負担の軽減 (7 件)
- ・ 子育てを学習、体験できる機会の提供 (7 件)
- ・ 社会構造を抜本的に是正すること (5 件)
- ・ 各税制の軽減 (3 件)



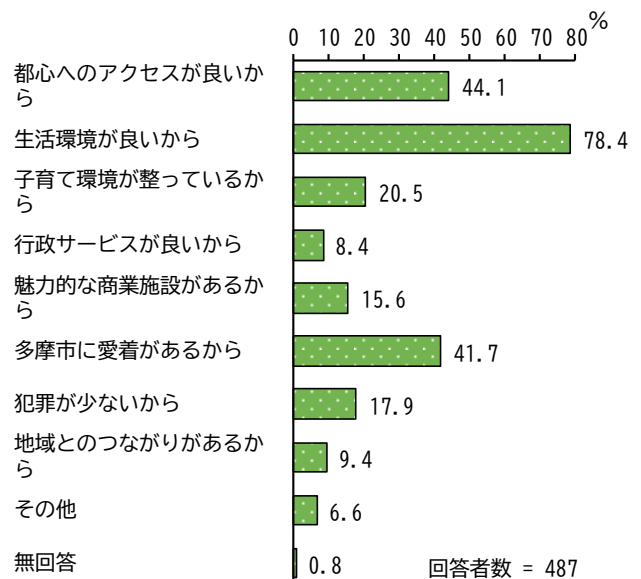
問 17 あなたは将来、多摩市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

「思う」の割合が 45.1%と最も高く、次いで
「少し思う」の割合が 32.8%となっています。



問 17-1 多摩市に住み続けたい理由 (あてはまるものすべてに○)

「生活環境が良いから」の割合が 78.4%と最も高く、次いで「都心へのアクセスが良いから」の割合が 44.1%、「多摩市に愛着をもっているから」の割合が 41.7%となっています。



主な「その他」意見

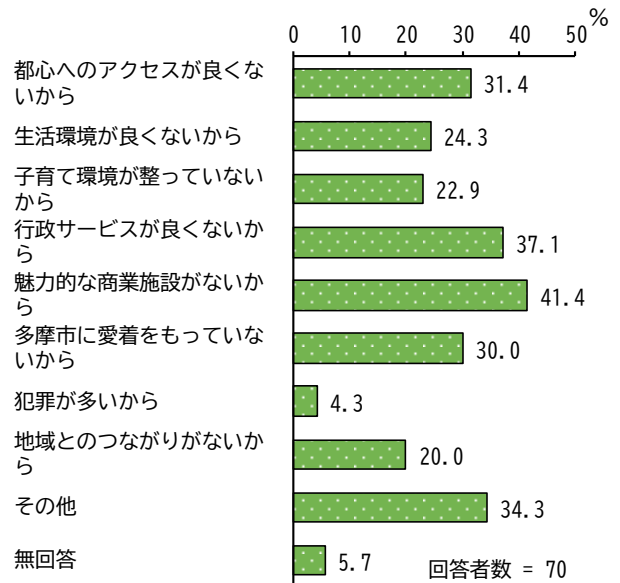
- ・自然が豊かであるため (7件)
- ・家を購入したため (6件)
- ・実家が近いから (5件)
- ・公園が多いから (3件)
- ・周辺地域へのアクセスの良さ (2件)
- ・家賃が安いから (2件)

問 17-2 多摩市に住み続けたいと思わない理由（あてはまるものすべてに○）

「魅力的な商業施設がないから」の割合が 41.4%と最も高く、次いで「行政サービスが良くないから」の割合が 37.1%、「都心へのアクセスが良くないから」の割合が 31.4%となっています。

主な「その他」意見

- ・愛着はあるが、他にも住みたい地域があるから （4件）
- ・家賃や住民税が高い （4件）
- ・人が多い都心が苦手だから （2件）



問 18 少子化に対してあなたの考えを自由に記載してください。(自由記述)

※ () は意見数

項目	主な意見(要約)
1. 出産・育児について (98)	・子どもを3人育てるにはお金と時間の充実が不可欠であり、経済的な不安が将来の不安要素として大きいです。増税や物価高などで手元に残るお金が減る中、安心して出産・子育てできる社会を望みます。 ・子育てのための手当でも必要ですが、仕事に行くときの保育園に入りやすい状況を作してほしいです。住んでいる市や区に関係なく都民ならばどこでも入れるなど、考えてほしいです。 ・子育て中の母親として、3人の子どもを出産し、長期間の育児休業を利用しているが、現在8ヶ月の息子の育児休業中に休業手当が国から出なくなり、経済的負担が増えています。育児休業を連続して取得することで子育てや妊活を繰り返すのは苦しいが、十分な支援や子どもを預けられる環境が整っておらず、保育園への入所も難しく、社会復帰が困難です。少子化問題への対策や母親の支援が必要です。 ・性別に関わらず育児意識を持つべきで、母親だけが育児や家事を担当すべきという考えは時代遅れです。父親も同様に育児や家事に参加すべきであり、その協力が子育ての負担を軽減します。
2. 労働について (37)	・20代での出産がしやすい環境を整えるため、企業も体制を整える必要があると思います。 ・産育休の取得がしやすくなってきたが、次は時短期間の延長や定時で帰れる職場環境の整備が必要です。これにより、共働きで子育てする負担が軽くなり、子どもを持つ世帯が増えると思います。 ・少子化は将来の労働力不足や社会保障の持続に影響を与える可能性があるため、育児支援や仕事と家庭の両立を促進する労働環境の整備が必要です。 ・共働きの中で2人以上の子どもを育てることは重要だが、育児休暇や時短勤務の制度がある中小企業では、2人目以降の利用が難しく、周囲の理解も得づらいです。中小企業でも育児支援が必要です。 ・30代での妊娠・出産は、年齢的にも体力的にも産める子どもの数が限られてきます。女性が20代で出産しても、キャリアを積んでいける仕組みがあればと思います。
3. 学校教育・教育制度について (29)	・高校卒業後の学費負担が大きく、専門学校や大学進学が主流である現代において、学費支援の充実が必要です。特に奨学金返済が子育てや老後の負担となり、子どもの数に関係なく学費支援が必要だと思います。 ・保育園の待機児童の課題だけでなく、育休対象に入りにくい小学生など、まだ大人の見守りが必要な年齢の子どもたちも安心して過ごせる環境や施設が必要です。 ・少子化対策としての「貢献」が2人以上の出産に焦点が当てられているが、1人でも出産すれば貢献しているのではと思います。また、中学校での学力差や教師の質の格差があり、塾に通える経済的余裕のある家庭の子どもだけが質の高い教育を受けられる現状に疑問を抱きます。 ・多摩センター駅周辺にマンションが集中し、児童が近隣の落合や鶴牧に集まっており、今年の豊ヶ丘小の入学者が1クラスのみでした。将来的に閉校の可能性が心配です。 ・廃校になった校舎を使って、子ども達の遊び場などに提供して欲しいです。

D 少子化に関する実態・意識調査

項目	主な意見（要約）
4. 住宅政策について(7)	・多摩市として、リノベーションした家または戸建てを、購入可能な価格になるような補助があると良いと思います。 ・若い世代のための子育てしやすい環境と住宅支援が必要です。
5. 地域活性化・社会資源の活用について(43)	・子どもがいる家族との触れ合いなどで、子どもが欲しいと思えるのではないかなと思います。 ・私は結婚や子育てなどのライフイベントがあっても、働き続けたいです。そのためには社会復帰しやすい環境が必要であり、特に幼稚園や保育園、学童などに安心して子どもを預けられる環境が整っているとさらに嬉しいです。 ・結婚や出産に対するデメリットを減らすために、実際の経験や交流の機会を提供し、経済的な不安に対処するための収入の増加などの施策が必要だと感じます。 ・多摩地域の魅力を活かすために、団地再生や駅前のショッピングモールのリニューアルなど古いイメージを改善し、子育て世帯の転入を促進すべきだと思います。また、財政的な支援を充実させることで結婚や子育てに前向きな気持ちを育て、少子化対策に貢献できると思います。
6. 婚姻・家族形成支援について(46)	・子どもができたときの不安を軽減するためには、事前に必要な情報や機関を知ることが重要だと思います。保険や行政手続きなどについて学び、理解することで不安を解消していければ、少子化への対応も可能だと思います。 ・大学生として将来結婚や家庭を築く願望はあるが、経済的負担が不安であり、奨学金の返済や将来の結婚・子育てに対する負担が大きな心配材料です。結婚や子育てにかかる費用が増加することに加えて、学生自体が抱える経済的負担が結婚や子育てをより難しくしていると感じます。経済的な支援が増えれば、結婚や子育てに対する積極的な姿勢が増える可能性があると思います。 ・結婚や出産のタイミングを見逃すことが問題であると思います。経済支援は重要だが、若い世代に将来の計画や相談を気軽にできる場が必要です。子育てと仕事の両立を困難にする環境も影響しています。近年は支援制度が充実し、両立している人が増えているが、相談できる機会があればと思います。
7. 医療・健康政策について(17)	・妊娠時の検診や出産にかかる医療を保険適用にできないのでしょうか。 ・子どもを産む年齢が高くなると、不妊や出産後のリスクも増え、子どもをもつ機会が減ると思います。 ・不妊治療ができる病院を増やしてほしいです。
8. 啓発活動について(19)	・ある程度社会が成熟していくと、少子化は避けられない事象かと思います。真っ向から対策するのではなく、少子化に伴う問題への解決を別の道で探すべきかと思います。 ・子どもの存在は大きな幸せであり、親になることで成長する機会が得られると感じています。親になることは自信を持ってできるものではなく、悩みや苦しみを経て成長していくものだと思います。若い世代にも子育ての楽しさを伝え、少子化の解消に向けて前向きに取り組んでほしいです。
9. その他(31)	・子育て支援施策について3つ選ぶのは難しいです。各々、各項目必要なことだと思います（問14～16）。 ・自分自身は子どもがまだいないですが、これからもし生まれてきたとして、未来の子どもが幸せに暮らせる地域や日本であるのか少し不安があります。

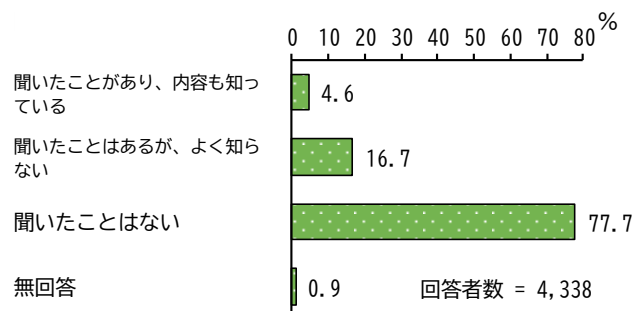
8 多摩市子どもニーズ調査

～自分自身や学校・地域とのかかわりを見つめなおしてみよう～【E-1】

(1) 令和4（2022）年4月につくられた「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」について

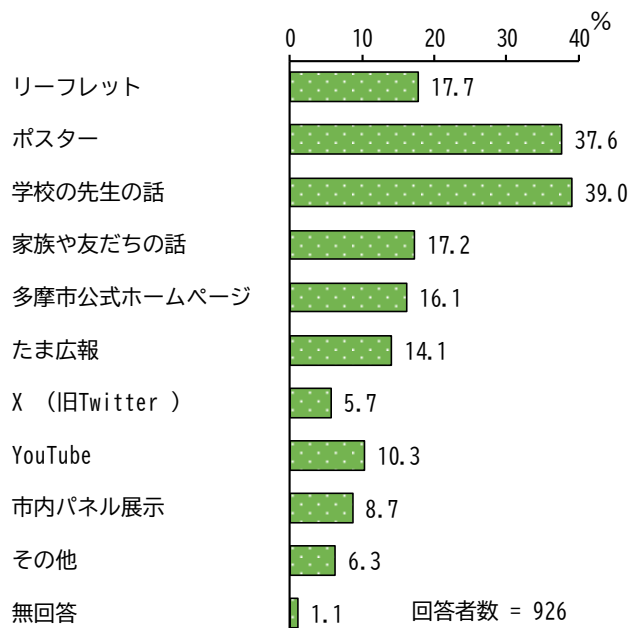
問1 「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」を知っていますか。（○は1つ）

「聞いたことはない」の割合が 77.7%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」の割合が 16.7%となっています。



問1-1 「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」をどのような方法で見たり聞いたりしますか。（あてはまるものすべてに○）

「学校の先生の話」の割合が 39.0%と最も高く、次いで「ポスター」の割合が 37.6%、「リーフレット」の割合が 17.7%となっています。



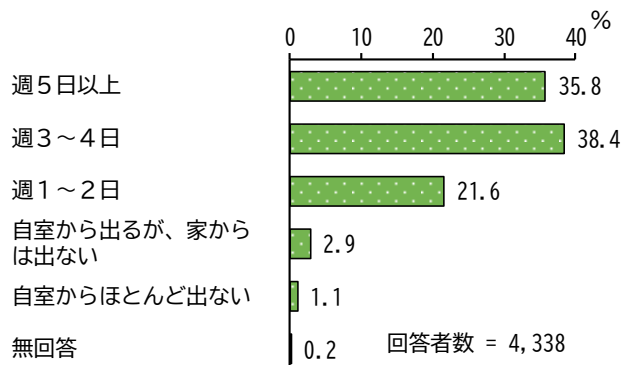
主な「その他」意見

- ・テレビ （14件）
- ・ニュース （6件）
- ・塾 （2件）
- ・新聞 （2件）

(2)『あなたの生活』について

問2 あなたは、ふだん学校以外の用事でどのくらい外出しますか。(○は1つ)

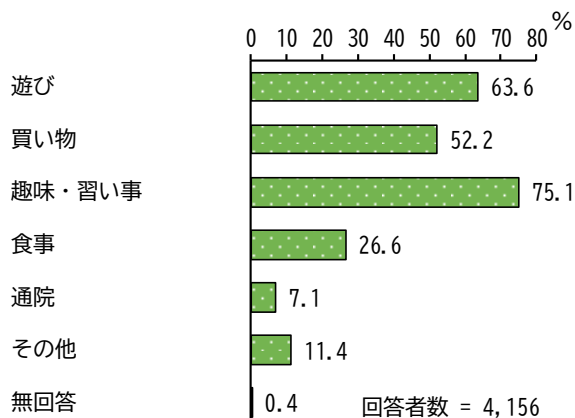
「週3～4日」の割合が38.4%と最も高く、次いで「週5日以上」の割合が35.8%、「週1～2日」の割合が21.6%となっています。



【問2で1. 週5日以上」「2. 週3～4日」「3. 週1～2日」と答えた方におうかがいします】

問2-1 外出の目的は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「趣味・習い事」の割合が75.1%と最も高く、次いで「遊び」の割合が63.6%、「買い物」の割合が52.2%となっています。

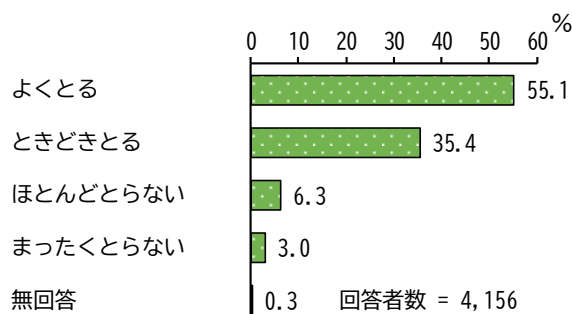


主な「その他」意見

- ・塾 (194件)
- ・散歩 (38件)
- ・勉強 (22件)
- ・スポーツ (18件)
- ・祖父母の家 (13件)
- ・部活 (13件)
- ・運動 (10件)
- ・気分転換 (5件)

問2-2 外出した際、友だちや知り合いとコミュニケーションをとりますか。(○は1つ)

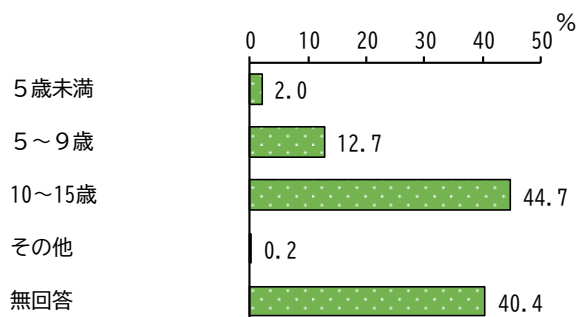
「よくとる」の割合が55.1%と最も高く、次いで「ときどきとる」の割合が35.4%となっています。



【問2で「4. 自室から出るが、家からは出ない」「5. 自室からほとんど出ない」、
問2-2で「3. ほとんどとらない」「4. まったくとらない」と答えた方におうかがいします】

問2-3 現在の状態になったのはあなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

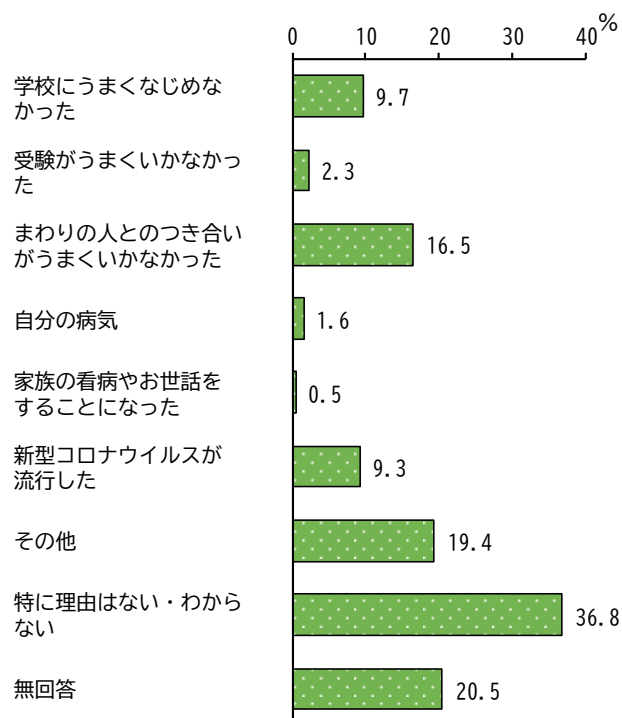
「10～15歳」の割合が44.7%と最も高く、次いで「5～9歳」の割合が12.7%となっています。



回答者数 = 557

問2-4 現在の状態になったきっかけについて思いあたることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「特に理由はない・わからない」の割合が36.8%と最も高く、次いで「まわりの人とのつき合いがうまくいかなかった」の割合が16.5%となっています。



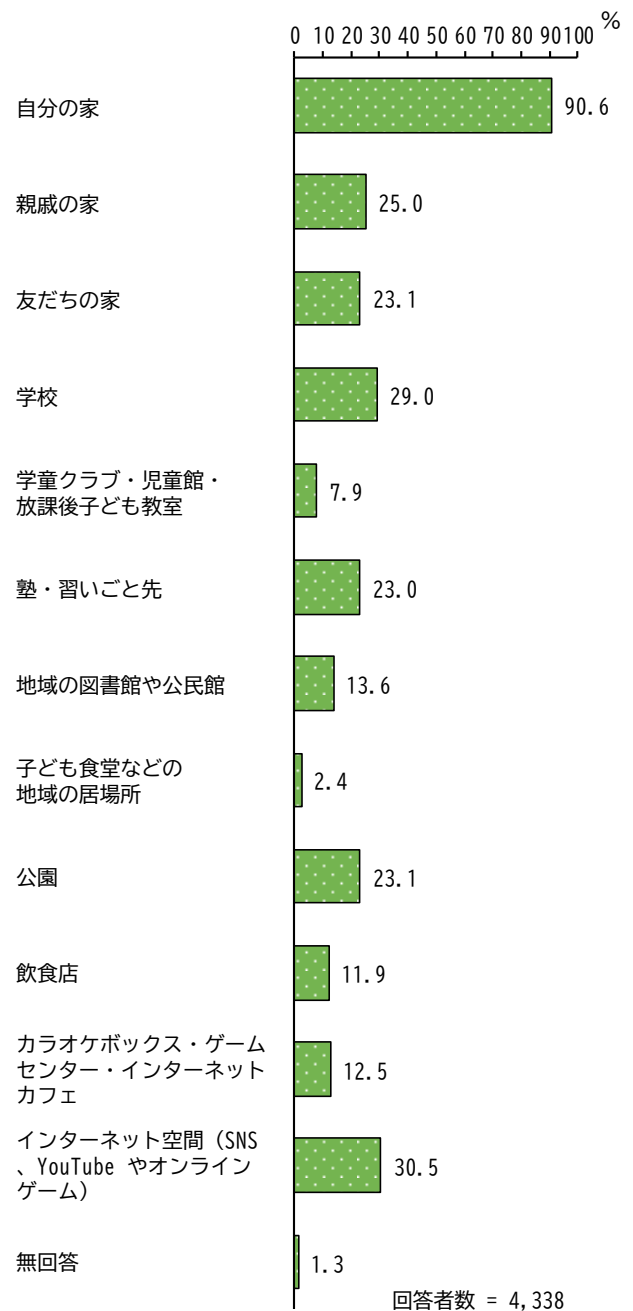
回答者数 = 557

主な「その他」意見

- ・勉強のため (15件)
- ・友達と会わなくなった (11件)
- ・外にでるのが面倒くさいから (10件)
- ・家にいる方が楽しいから (8件)
- ・ゲームをしているから (5件)
- ・外に出る用事がないから (5件)
- ・話すのが面倒になった (3件)

問3 次の場所で、あなたにとってほっとできる場所がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

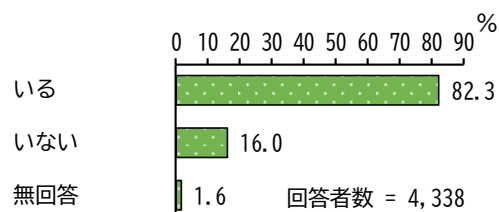
「自分の家」の割合が90.6%と最も高く、次いで「インターネット空間（SNS、YouTube やオンラインゲーム）」の割合が30.5%、「学校」の割合が29.0%となっています。



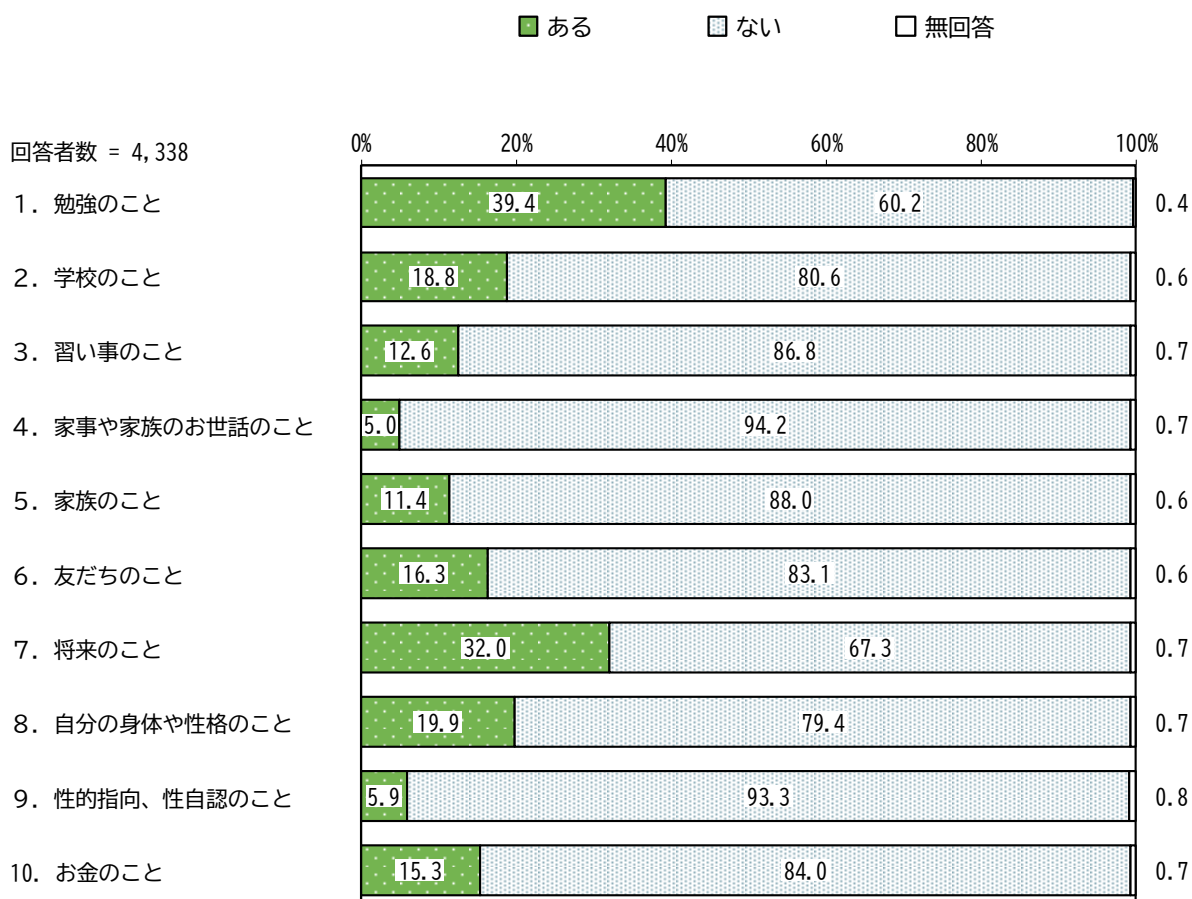
(3) 『あなたの悩みや相談するところ』について

問4 あなたには、安心して自分の気持ちや悩みを話せるおとながいますか。(○は1つ)

「いる」の割合が 82.3%、「いない」の割合が 16.0%となっています。



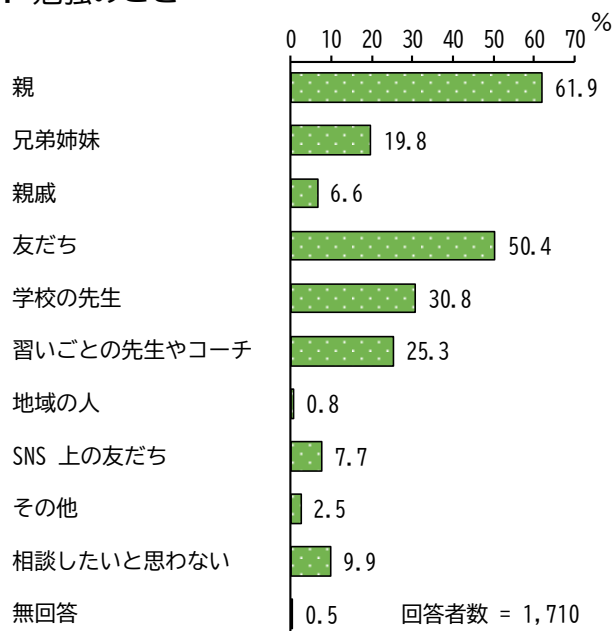
問5 あなたは次の1～10のことについて、困っていることや悩んでいることはありますか。また、困っていることや悩んでいることがある人は、誰に相談したいですか。(それぞれ該当するものに○)



E-1 子どもニーズ調査

誰に相談したいか（相談先）

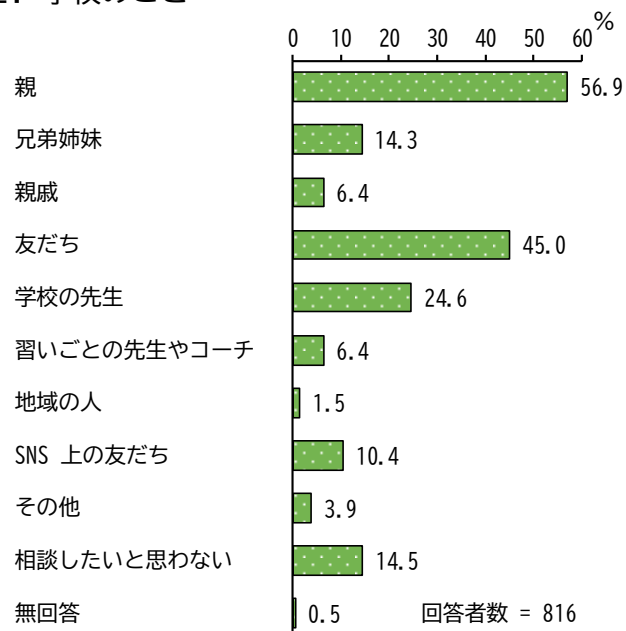
1. 勉強のこと



主な「その他」意見

- ・塾の先生 （6件）
- ・相談できる人がいない （5件）
- ・祖父母 （4件）
- ・信頼できる人 （2件）
- ・心理士 （2件）

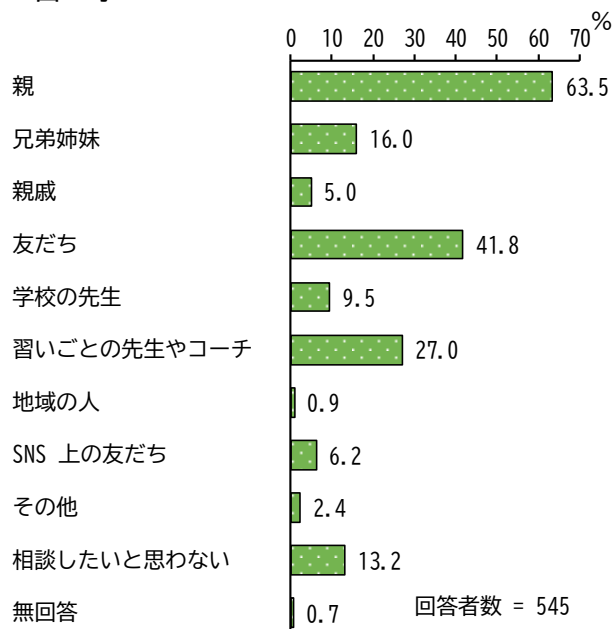
2. 学校のこと



主な「その他」意見

- ・スクールカウンセラー （6件）
- ・相談できる人がいない （3件）
- ・病院の先生 （3件）

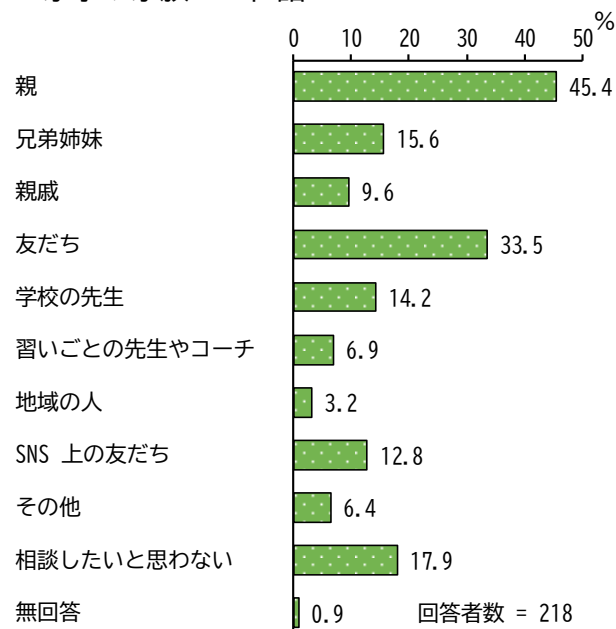
3. 習い事のこと



主な「その他」意見

- ・相談できる人がいない （3件）

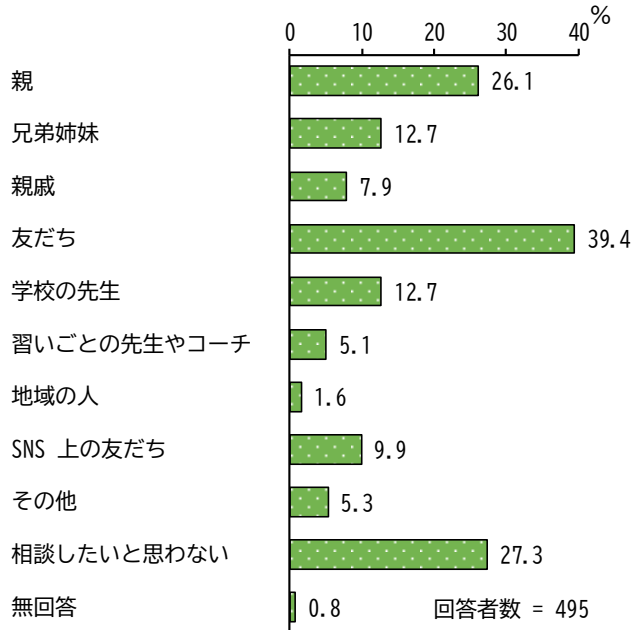
4. 家事や家族のお世話のこと



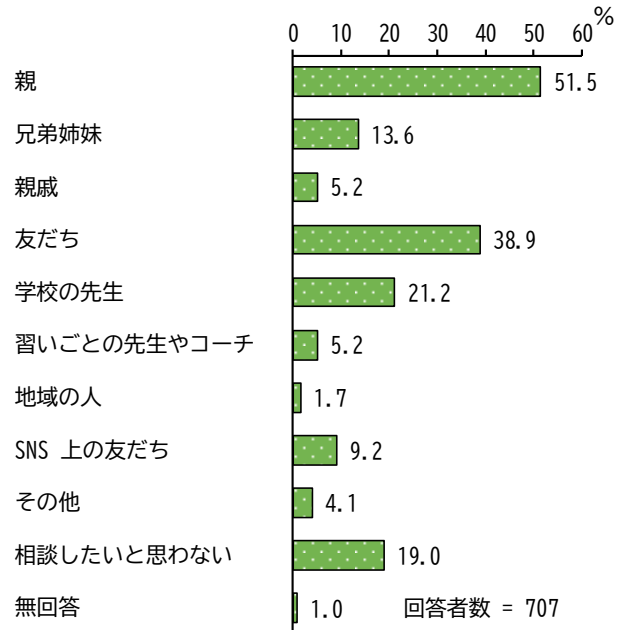
主な「その他」意見

- ・スクールカウンセラー （2件）
- ・病院の先生 （2件）
- ・相談できる人がいない （2件）

5. 家族のこと



6. 友だちのこと



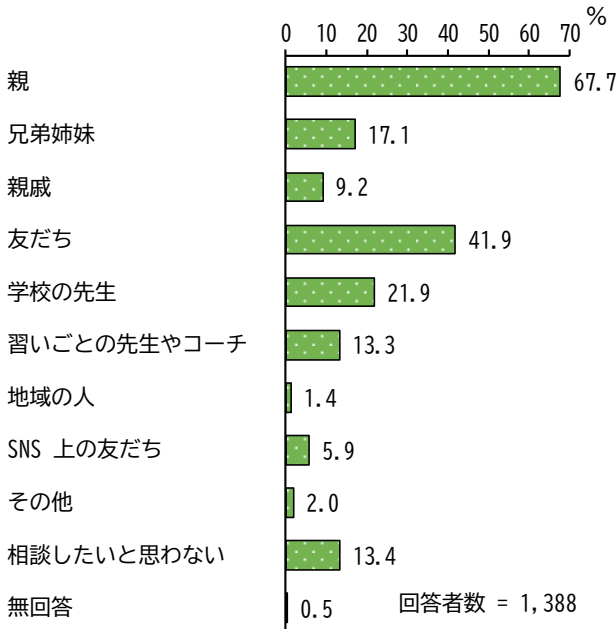
主な「その他」意見

- ・相談できる人がいない (4件)
- ・スクールカウンセラー (4件)
- ・病院の先生 (2件)

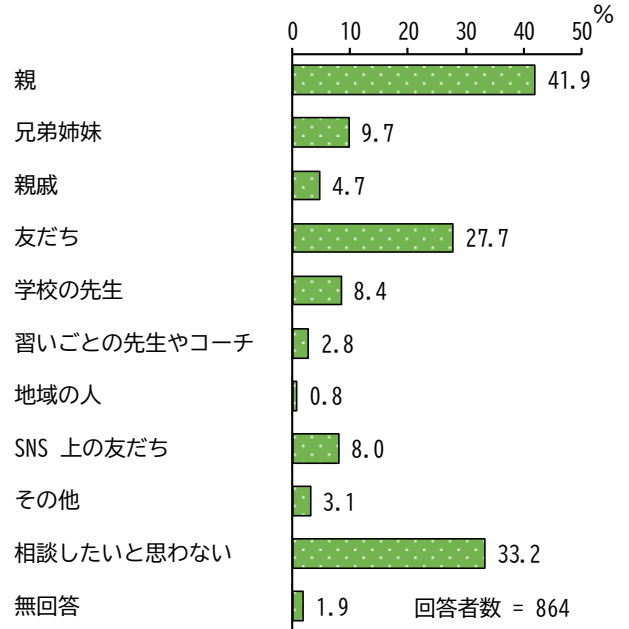
主な「その他」意見

- ・スクールカウンセラー (6件)
- ・相談できる人がいない (3件)

7. 将来のこと



8. 自分の身体や性格のこと



主な「その他」意見

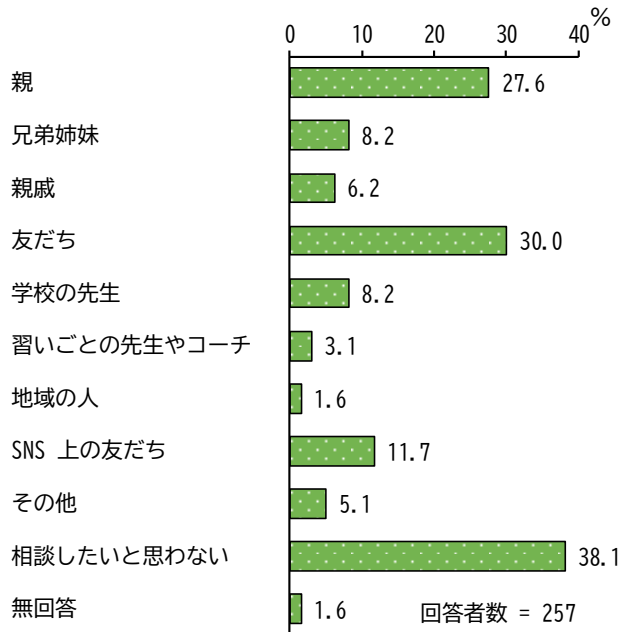
- ・スクールカウンセラー (3件)

主な「その他」意見

- ・自分で考える (6件)
- ・スクールカウンセラー (4件)
- ・相談できる人がいない (3件)
- ・病院の先生 (2件)

E-1 子どもニーズ調査

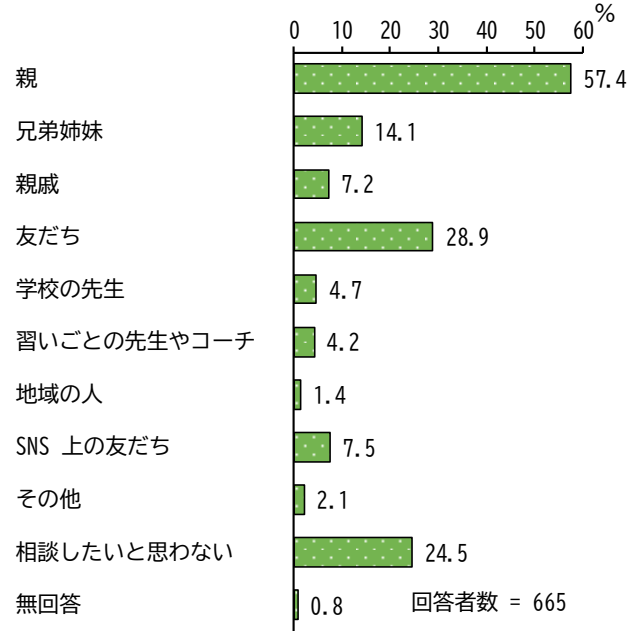
9. 性的指向、性自認のこと



主な「その他」意見

- ・相談できる人がいない (3件)
- ・スクールカウンセラー (2件)

10. お金のこと



主な「その他」意見

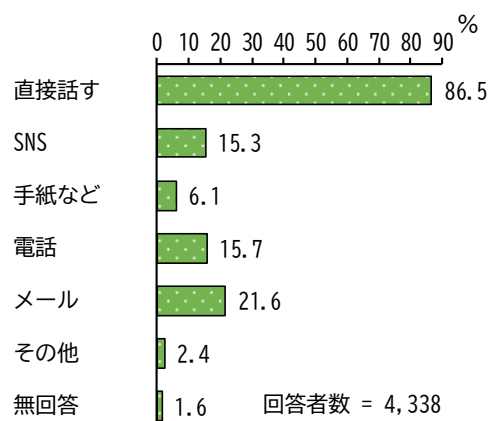
- ・相談できる人がいない (2件)

問6 あなたは、困ったり悩んだりしたとき、相談するとしたら、どのような方法で相談したいですか？（あてはまるものすべてに○）

「直接話す」の割合が86.5%と最も高く、次いで「メール」の割合が21.6%、「電話」の割合が15.7%となっています。

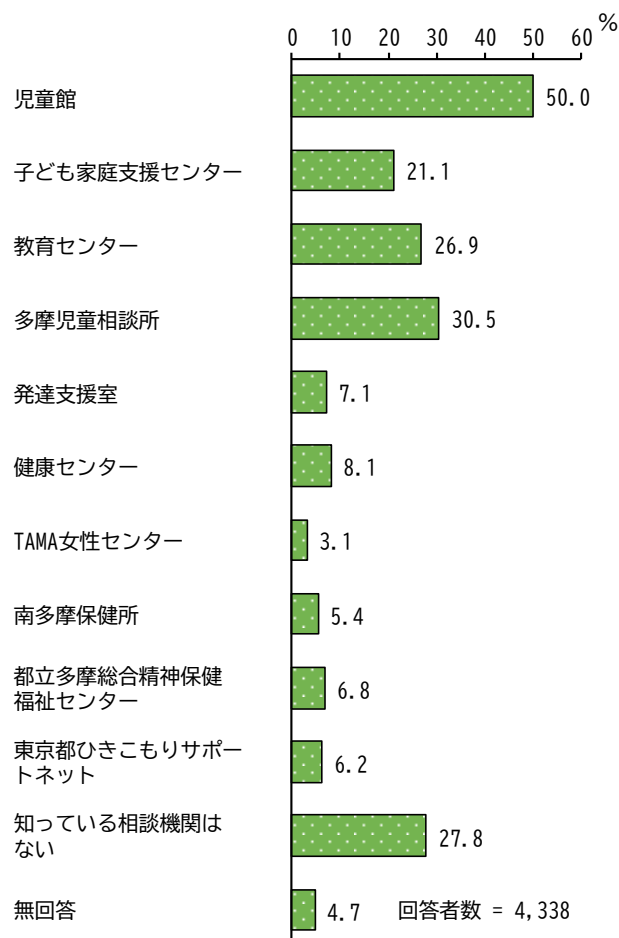
主な「その他」意見

- ・相談しない、話さない（20件）
- ・LINE（8件）



問7 次のような子どもを対象とした相談機関（相談ができるところ）を知っていますか。（あてはまるものすべてに○）

「児童館」の割合が50.0%と最も高く、次いで「多摩児童相談所」の割合が30.5%、「知っている相談機関はない」の割合が27.8%となっています。



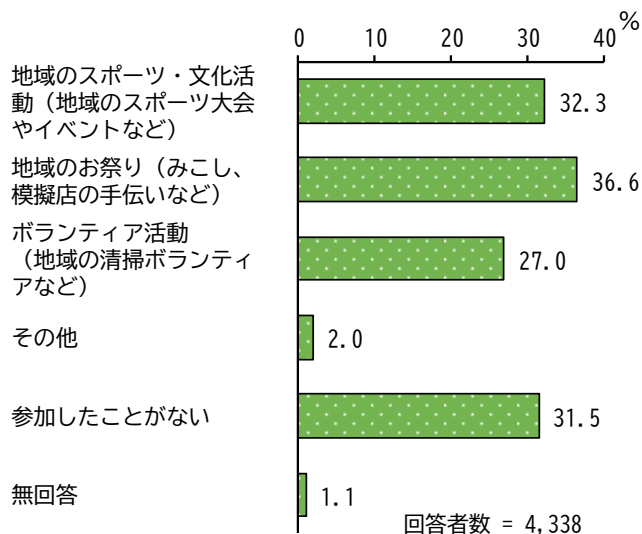
(4)『学校・地域のこと』について

問8 あなたは、地域の活動・イベント・ボランティア等に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「地域のお祭り（みこし、模擬店の手伝いなど）」の割合が 36.6%と最も高く、次いで「地域のスポーツ・文化活動（地域のスポーツ大会やイベントなど）」の割合が 32.3%、「参加したことがない」の割合が 31.5%となっています。

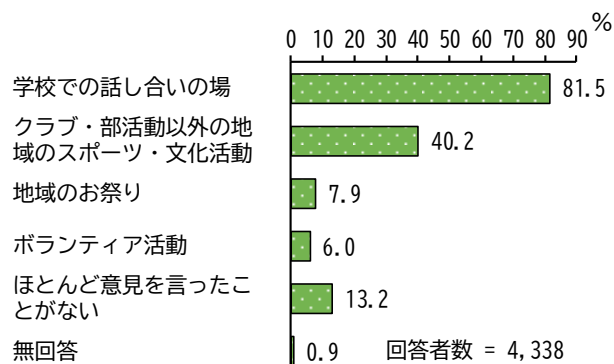
主な「その他」意見

- ・清掃活動 （11 件）
- ・保育園のお手伝い （4 件）
- ・防災訓練 （3 件）
- ・募金活動 （3 件）



問9 あなたは、次のような場で、話し合ったり意見を言ったりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「学校での話し合いの場」の割合が 81.5%と最も高く、次いで「クラブ・部活動以外の地域のスポーツ・文化活動」の割合が 40.2%、「ほとんど意見を言ったことがない」の割合が 13.2%となっています。

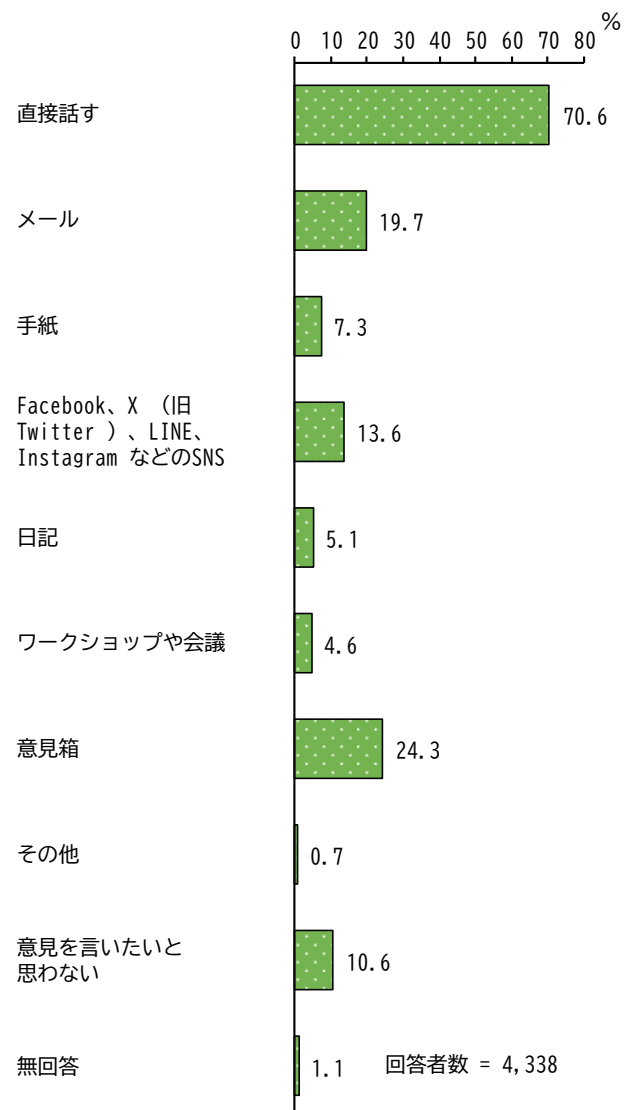


問 10 あなたは、学校生活や地域活動の中で、どのような方法であれば、意見を言いたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「直接話す」の割合が 70.6%と最も高く、次いで「意見箱」の割合が 24.3%、「メール」の割合が 19.7%となっています。

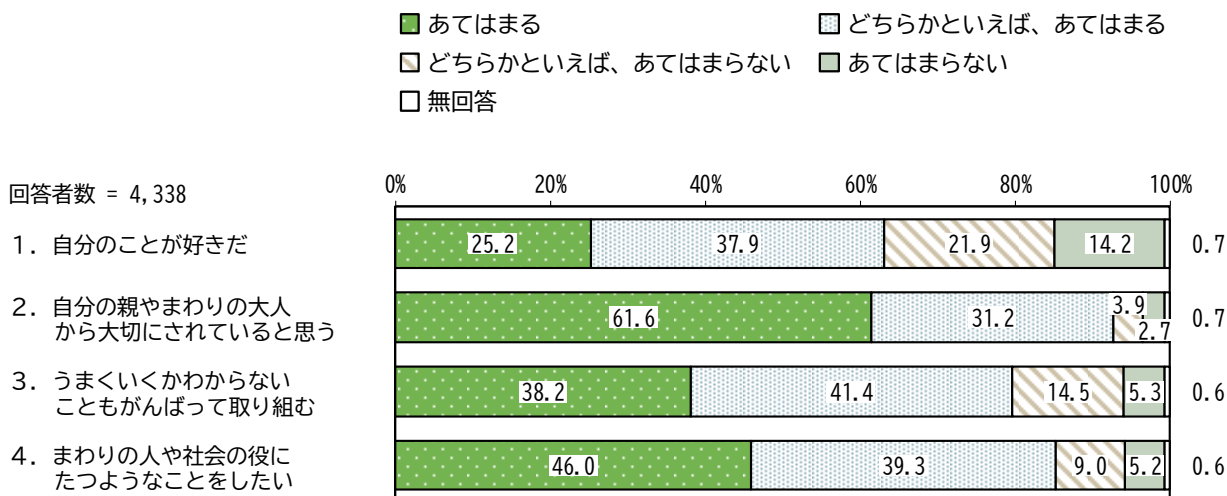
主な「その他」意見

・匿名性のもの （4件）



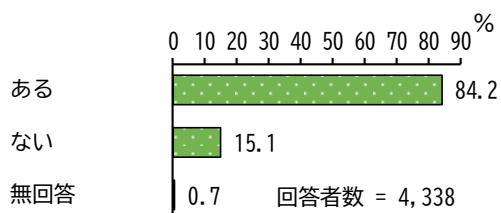
(5) 『あなたの思い』について

問 11 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。
(それぞれ該当するものに○)



問 12 あなたは、何か目標をもって取り組んでいることはありますか。(○は1つ)

「ある」の割合が 84.2%、「ない」の割合が 15.1%となっています。



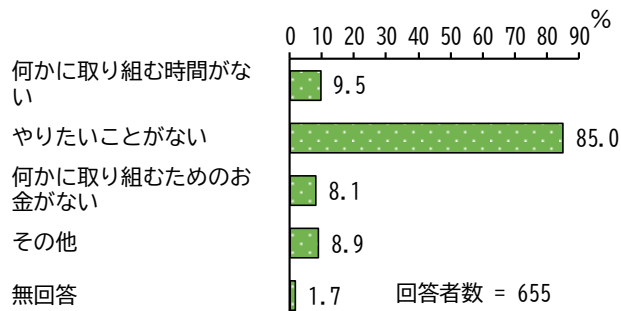
【問 12 で「2. ない」と回答した人におうかがいします】

問 12-1 目標をもって取り組めていない理由はなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

「やりたいことがない」の割合が 85.0%と最も高くなっています。

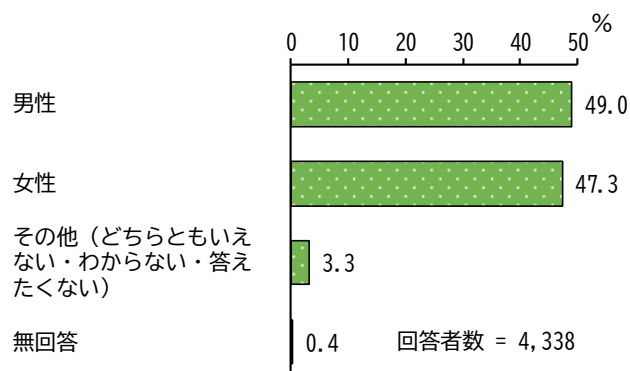
主な「その他」意見

- ・何をしたら良いかわからない (9件)
- ・やる気がでない (5件)
- ・行動に移すことができない (5件)
- ・自分じゃできないと思ってしまう (3件)
- ・めんどくさい (3件)



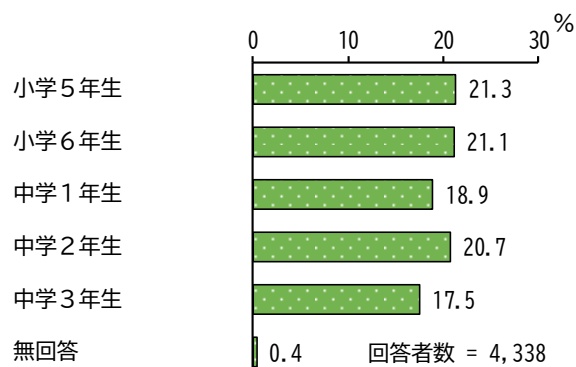
(6) 『あなた自身のこと』について

問 13 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)



問 14 あなたの学年を教えてください。(○は1つ)

「小学5年生」の割合が 21.3%と最も高く、次いで「小学6年生」の割合が 21.1%、「中学2年生」の割合が 20.7%となっています。

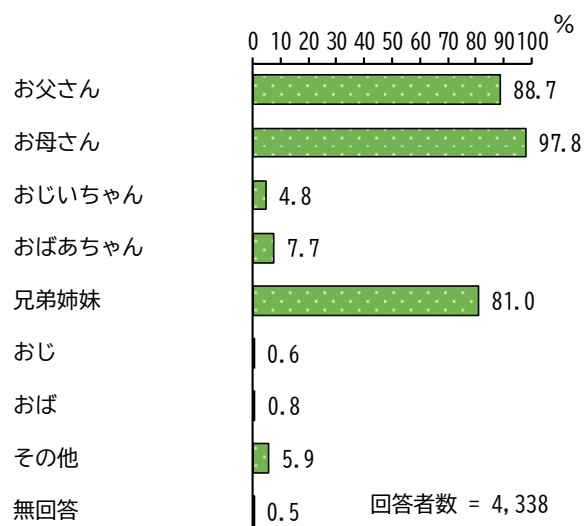


問 15 あなたは、誰と暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

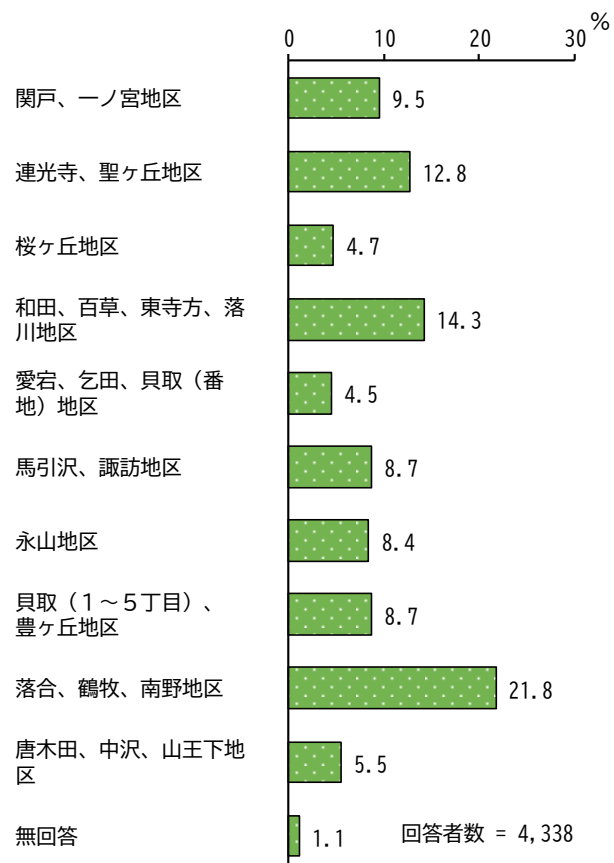
「お母さん」の割合が 97.8%と最も高く、次いで「お父さん」の割合が 88.7%、「兄弟姉妹」の割合が 81.0%となっています。

主な「その他」意見

- ・犬 (100 件)
- ・猫 (56 件)
- ・ハムスター (4 件)
- ・金魚 (10 件)
- ・インコ (4 件)
- ・うさぎ (3 件)



問 16 あなたが住んでいる地区はどこですか。(○は1つ)

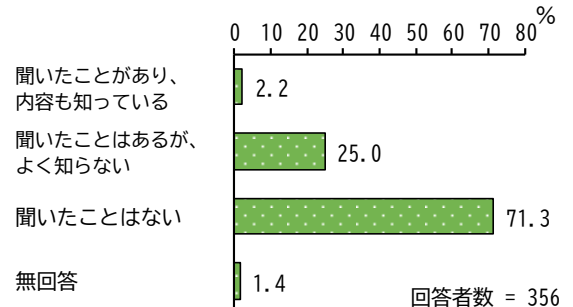


9 多摩市子ども・若者支援に関する調査【E-2】

(1) 令和4（2022）年4月に施行された「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」について

問1 「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」を知っていますか。（○は1つ）

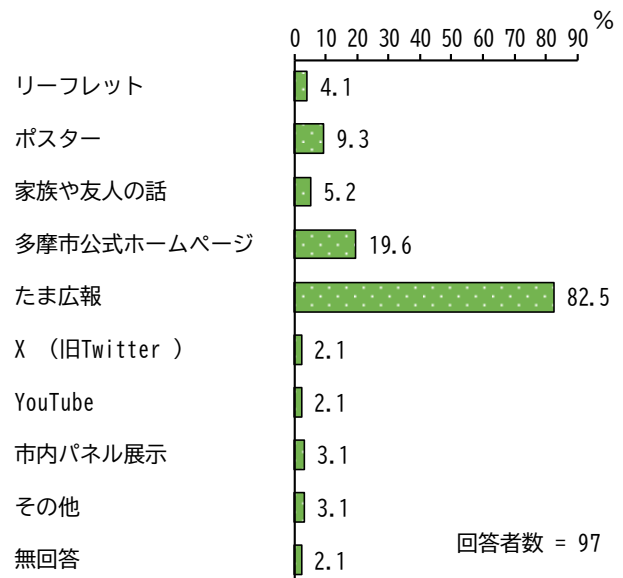
「聞いたことはない」の割合が71.3%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」の割合が25.0%となっています。



【問1で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた方にお伺いします】

問1-1 「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」をどのような方法で見たり聞いたりしますか？（あてはまるものすべてに○）

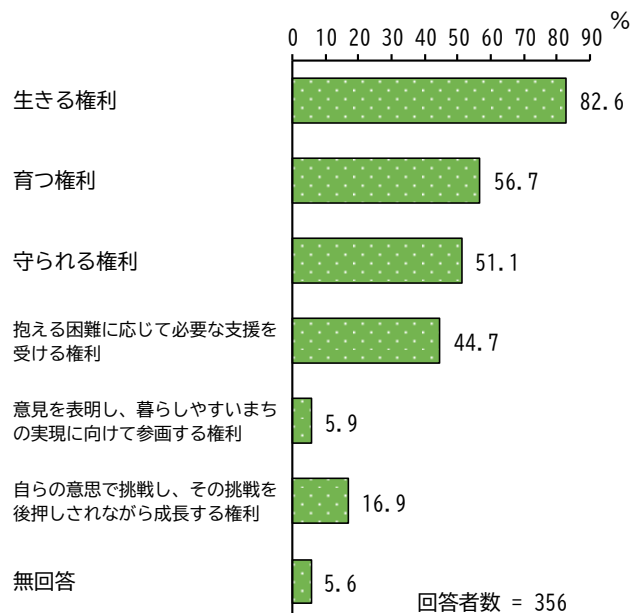
「たま広報」の割合が82.5%と最も高く、次いで「多摩市公式ホームページ」の割合が19.6%となっています。



問2 「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」には、次のような6つの子ども・若者の権利が示されています。

問2-1 6つの子ども・若者の権利のうち、「子どもや若者」にとって大切だと思うものがありますか。あてはまるものを最大3つまで選び、大切だと思う順にその番号と理由を書いてください。

「生きる権利」の割合が 82.6%と最も高く、次いで「育つ権利」の割合が 56.7%、「守られる権利」の割合が 51.1%となっています。



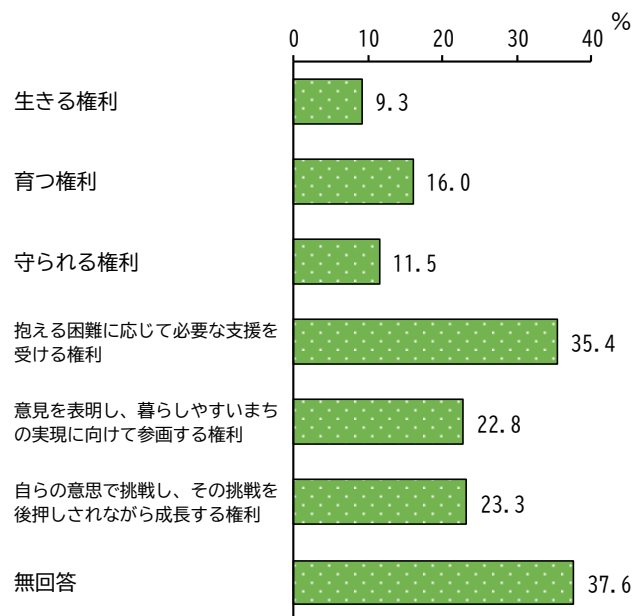
<大切だと思う主な理由>

※（ ）は意見数

項目	主な意見（要約）
1. 生きる権利 (232)	・ 生きることは全てにおいて最優先されるべきこと。命あっての人生だから。 ・ 命は誰にでも平等にありそれを維持していくのに必要な事は大切。 ・ まだ自立出来ない子どもの衣食住や安全は、該当する家庭だけではなく行政や周りの大人達が見守るべきだと思います。 ・ 最低限の生活ができる権利は憲法上保障されているため。 ・ 子どもたちは平等に生活する権利があると思う。住む場所や食事、虐待があってはならない。
2. 育つ権利 (146)	・ 子どもは未来の宝であるから、元気にそして大切に育てられるべきであると考えます。 ・ 環境に左右されずに平等に能力を伸ばせることの必要性を感じるから。 ・ 健やかに育ち、教育を受ける権利が保障されるのは未来を担う子どもたちにとって重要だから。 ・ 貧困家庭の子ども達が、進みたい進路が閉ざされるのはいけないと思う。
3. 守られる権利 (129)	・ 戦争ほど悲惨なものはありません。安心して暮らせる事が精神的にも肉体的にも良い成長に繋がります。 ・ 家庭が子どもにとって有害である場合には、社会はその子どもをしっかり守る必要があります。 ・ 自分自身で守ることも大切だが、周りも守ってくれる環境が必要。 ・ 紛争に限らず、こどもが守られることは当然であることを、こどもたち自身、周囲の大人も認識しておけるため。
4. 抱える困難に応じて必要な支援を受ける権利 (113)	・ 今不景気で収入も少ないため生活が困難。 ・ 困った時に助けを求められる環境や制度があることで困難から抜け出したり、立ち直れる機会が増えるため。 ・ ヤングケアラーなど人に相談できる環境作りは大切。 ・ 抱える困難を言えずにいたら支援を受けられない状態が続いてしまう。
5. 意見を表明し、暮らしやすいまちの実現に向けて参画する権利 (12)	・ 意見が出るかは別問題として次世代が暮らしやすいとされる体制を効率よく構築するため。 ・ 自分達の住む街を良くするには、意見をし、その意見に向き合ってください環境が何よりも必要不可欠です。 ・ 社会の中で生きる上で共に成長出来る仲間が必要。
6. 自らの意思で挑戦し、その挑戦を後押しされながら成長する権利 (45)	・ 親に言われるがまま自分の意思もなく進路を決めている子どもや若者がいるため。 ・ 挑戦していくことは、未来の可能性を広げる上で必要なことだし、そういう人材に育てて欲しいという期待がある。 ・ 可能性ある子どもの力をのばして日本の将来のためにそういった環境を作ってあげたい。

問2-2 6つの子ども・若者の権利のうち、現在の「子ども・若者」にとって守られていないと思うものがありますか。あれば最大3つまで選び、守られていないと思う順にその番号と理由を書いてください。

「抱える困難に応じて必要な支援を受ける権利」の割合が35.4%と最も高く、次いで「自らの意思で挑戦し、その挑戦を後押しされながら成長する権利」の割合が23.3%、「意見を表明し、暮らしやすいまちの実現に向けて参画する権利」の割合が22.8%となっています。



回答者数 = 356

<守られていないと思う理由>

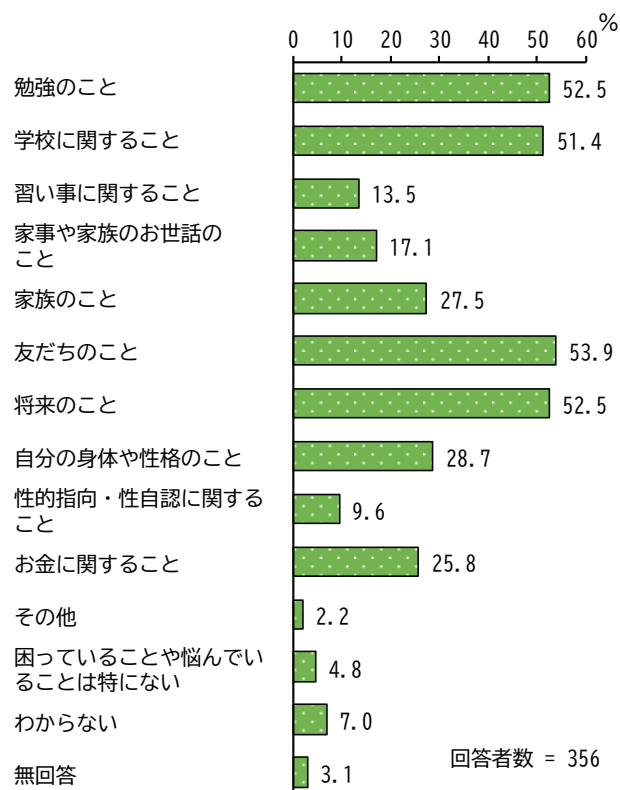
※（ ）は意見数

項目	主な意見（要約）
1. 生きる権利（24）	・複雑な家庭が多く、子どもが犠牲になっているように感じる。 ・まだまだ支援を受けられていない子がいると思うから。全ての子どもが安心してくらせているとは言えないため。 ・子どもが大きな病気になった時、市内にNICUのある病院がない。
2. 育つ権利（46）	・どうしても環境に左右されてしまう。 ・進学したくてもできない子どもがいる。 ・多様な考え方や性格、特性を持つ子どもがその成長を阻まれることのないような義務教育が必要だと考えるので。 ・豊かな自然環境の中で育ってほしい。スマホ、ゲームに偏っていないか。
3. 守られる権利（30）	・SNSの普及でまだまだ誹謗中傷が続いている。 ・まだまだ支援を受けられていない子がいると思うから。全ての子どもが安心してくらせているとは言えないため。 ・実際に紛争が起きた際にどう巻き込まれないようにするのか不明だから。
4. 抱える困難に応じて必要な支援を受ける権利（95）	・隠れ貧困問題など、表に出てこない問題に行政は対応できていないと思うから。 ・虐待やヤングケアラーなどの問題が増加していると感じるため。 ・支援する制度はあっても周知されていなかったり、抵抗なく支援を受けることが出来なかったりすると思う。 ・貧しい家庭に対して援助が乏しいから。
5. 意見を表明し、暮らしやすいまちの実現に向けて参画する権利（54）	・年長者の意見が取り入れられる傾向があるため。 ・若者が自分の考えを表明することがあまりない。 ・自分の考えや思いを表明しても思いどおりにならない事のほうが多いと思う。
6. 自らの意思で挑戦し、その挑戦を後押しされながら成長する権利（50）	・社会が子どもの挑戦を全て支援しているとは思えないから。 ・どのような後押しがあるのか、どうしたら受けられるのか不明だから。 ・若者が積極的にチャレンジできる制度的仕組みが用意されていない。

(2)『子どもや若者の生活』について

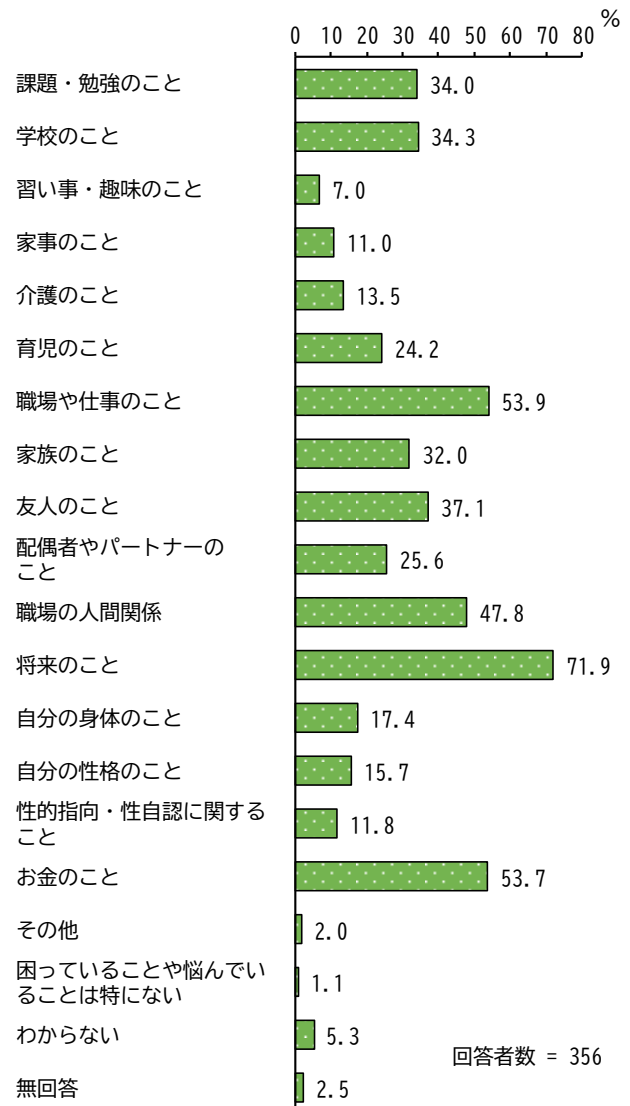
問3 あなたは、「子ども」がどのような事柄に困っていたり、悩んでいると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「友だちのこと」の割合が 53.9%と最も高く、次いで「勉強のこと」、「将来のこと」の割合が 52.5%となっています。



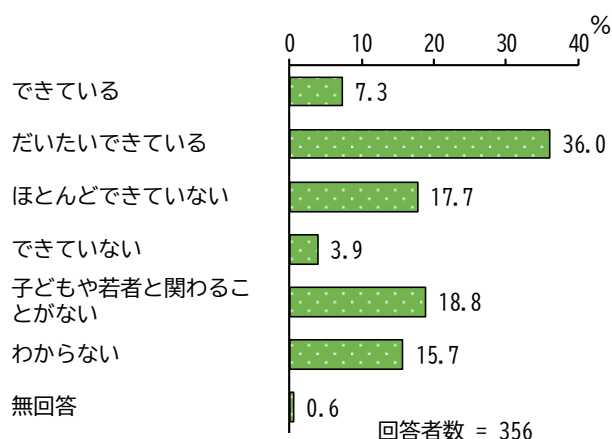
問4 あなたは、次の中で「若者」が不安に思うこと、悩んでいることは何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

「将来のこと」の割合が 71.9%と最も高く、
次いで「職場や仕事のこと」の割合が 53.9%、
「お金のこと」の割合が 53.7%となっています。



問5 あなたは子どもや若者の話を聞くこと（気持ちを受け止めること）ができていますか。（○は1つ）

「だいたいできている」の割合が36.0%と最も高く、次いで「子どもや若者と関わることがない」の割合が18.8%、「ほとんどできていない」の割合が17.7%となっています。



【問5において「1. できている」または「2. だいたいできている」と答えた方にお伺いします。】

問5-1 その具体例や工夫していることは何ですか。

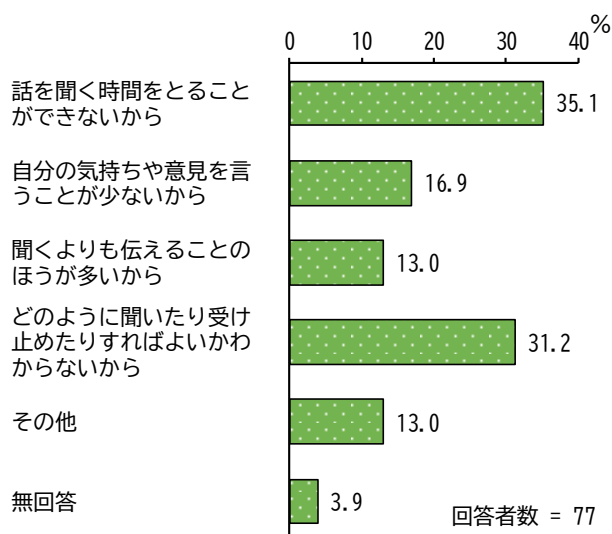
<主な意見>

- ・ご飯の時に会話を持つようにしている。
- ・地域の若者に積極的に声かけをし、将来の夢や希望を聞いている。
- ・子どもの話を聞いた上で、お互いの意見を言うようにする。 など

【問5において、「3. ほとんどできていない」または「4. できていない」と答えた方にお伺いします】

問5-2 その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「話を聞く時間をとることができないから」の割合が35.1%と最も高く、次いで「どのように聞いたり受け止めたりすればよいかわからないから」の割合が31.2%、「自分の気持ちや意見を言うことが少ないから」の割合が16.9%となっています。



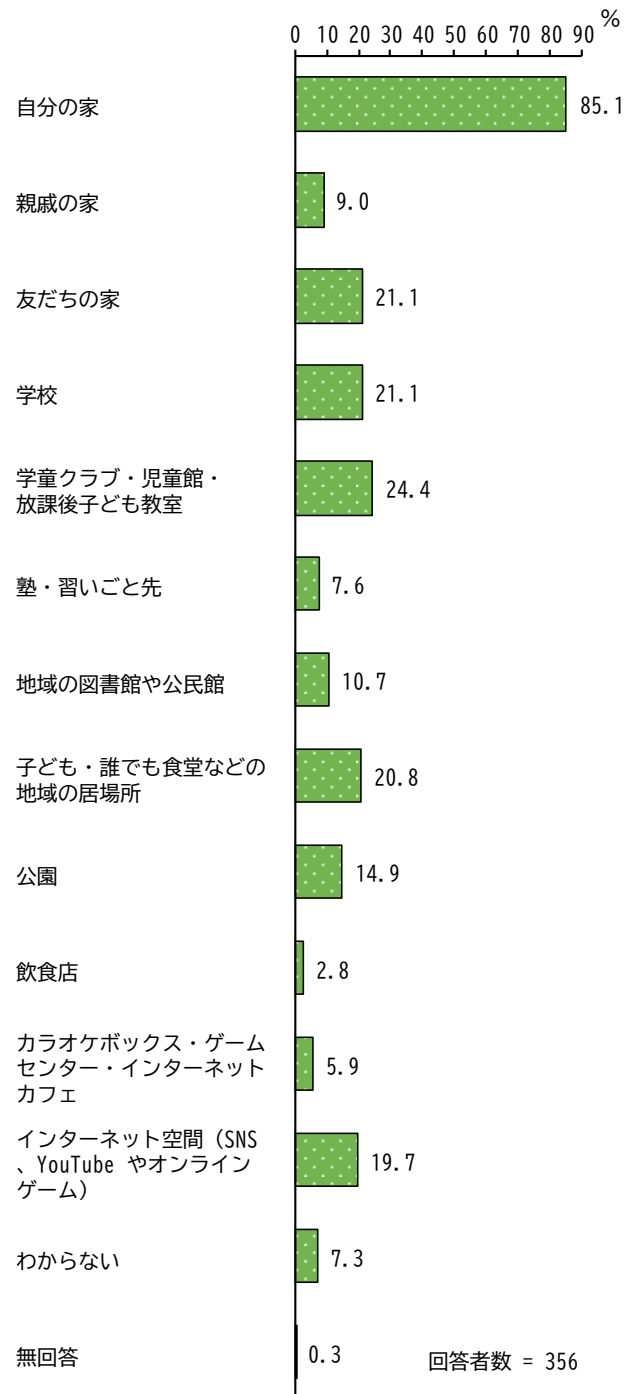
主な「その他」意見

- ・接する機会がないから （10件）
- ・話してくれないから （2件）

問6 子どもや若者にとってホッとできる場所はどこだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

<子ども>

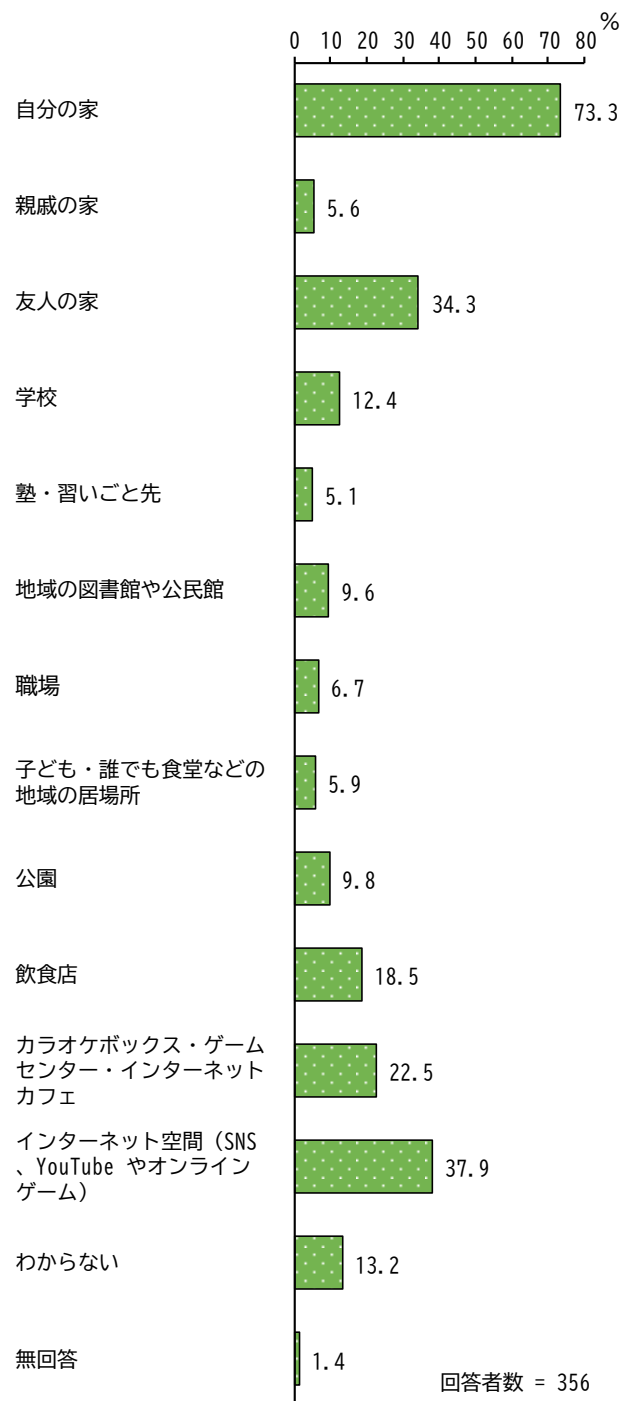
「自分の家」の割合が 85.1%と最も高く、次いで「学童クラブ・児童館・放課後子ども教室」の割合が 24.4%、「友だちの家」、「学校」の割合が 21.1%となっています。



E-2 子ども・若者支援に関する調査

<若者>

「自分の家」の割合が 73.3%と最も高く、次いで「インターネット空間（SNS、YouTube やオンラインゲーム）」の割合が 37.9%、「友人の家」の割合が 34.3%となっています。



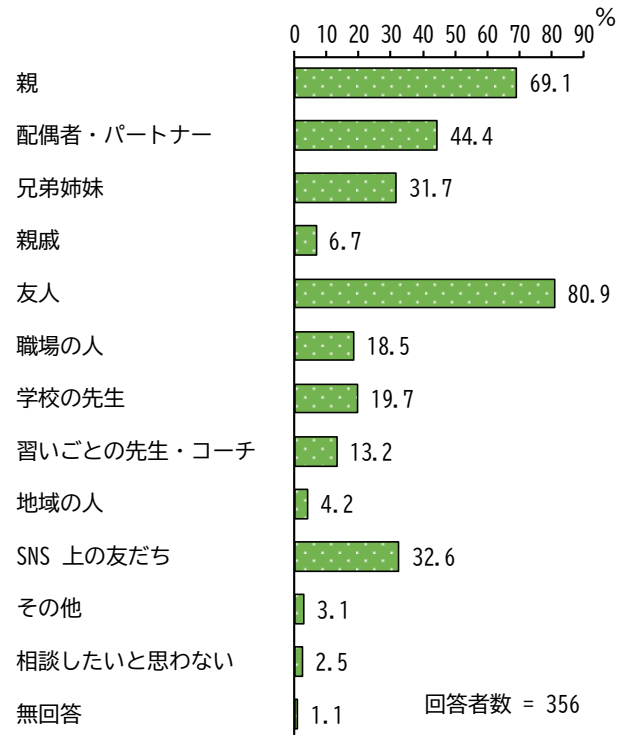
(3) 『子どもや若者の相談』について

問7 子どもや若者は、困ったり悩んだりしたとき誰に相談したいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「友人」の割合が80.9%と最も高く、次いで
「親」の割合が69.1%、「配偶者・パートナー」
の割合が44.4%となっています。

主な「その他」意見

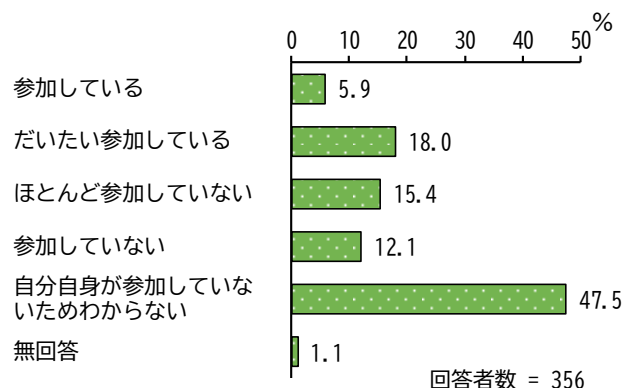
・誰に相談したらよいかわからない (3件)



(4)『地域のこと』について

問8 あなたが参加するボランティア活動や町内会・自治会活動など、地域の活動や行事・イベントに子どもや若者は参加していますか。(〇は1つ)

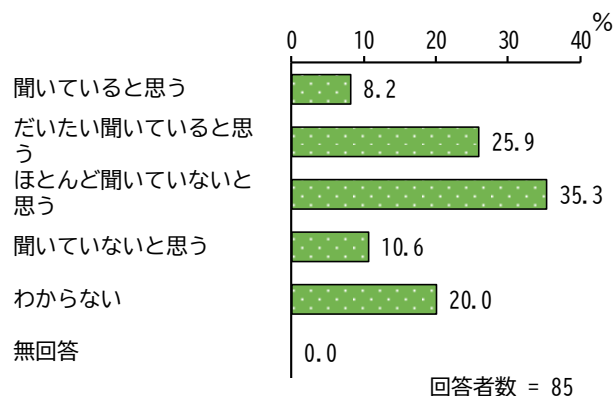
「自分自身が参加していないためわからない」の割合が47.5%と最も高く、次いで「だいたい参加している」の割合が18.0%、「ほとんど参加していない」の割合が15.4%となっています。



【問8において「1. 参加している」または「2. だいたい参加している」と答えた方へお伺いします】

問8-1 地域で何かを決めるとき、子どもや若者の意見を聞いていると思いますか。(〇は1つ)

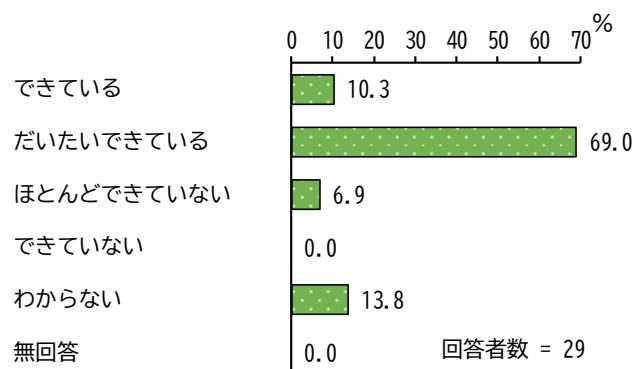
「ほとんど聞いていないと思う」の割合が35.3%と最も高く、次いで「だいたい聞いていると思う」の割合が25.9%、「わからない」の割合が20.0%となっています。



【問8-1において「1. 聞いていると思う」または「2. だいたい聞いていると思う」と答えた方へお伺いします】

問8-2 子どもや若者から聞いた意見を実際に反映させたり、実現することができますか。(〇は1つ)

「だいたいできている」の割合が69.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が13.8%、「できている」の割合が10.3%となっています。



【問8-2において「3. ほとんどできていない」または「4. できていない」と答えた方へお伺いします。】

問8-3 その理由について、自由に記載してください。

※（ ）は意見数

項目	主な意見（要約）
1. 地域の行事に子どもの意見をきく機会がない (9)	・子どもや若者はどこで意見を言えるのでしょうか。学校では子どもにも建前があるのでは。 ・地域での自治会は役員の人が参加しているので、なかなか子どもや若者の意見を聞く機会がないと思います。 ・地域の行事に子どもの意見が入っている様なものが少ないと思う。 ・子どもの意見を聴く場がないと思う。 ・活動への子どもの参加はたびたびいるが、会議などへの子どもの参加がないので。「子ども達はこうだろう」との思いでずっと運営されている。
2. 忙しくて時間がない (7)	・時間がない。仕事と家事で1日がおわる。 ・参加できる時間帯ではない。 ・活動を知らない、仕事上参加が難しいことが多いため。 ・忙しく時間がない。 ・共働きで忙しい。
3. イベントの参加者が高齢の方が多い (2)	・地域で行われている活動は、高齢者向けが多い。高齢者が多ければ高齢者優先にイベントが進み、子どもの参加者がぞんざいに扱われる様子を目撃した。このようなことは少なくないのではないか。 ・青少年向けのイベントの参加者が高齢の方中心の事が多い。子どもや若者にとってイベントの内容がつまらなかったり、魅力的なものではないと感じる。
4. 興味をもつような活動内容になっていない (2)	・興味をもつような活動内容になっていない。 ・自治会活動をしているが、役員のみで物事を決めている。地区に子どもが少なく、若者は地区に興味があるとは思えない。活動に参加がない為、意見を聞く事はない。
5. その他 (10)	・子どもに接する時がないです。公園に遊びに来ている子にも、知らない大人は声がけしません。何か困った事があっても子どもから声をかけられれば話は聞こうと思います。今の時代は知らない人に声をかけられても話をしないのでは。 ・異世代交流として大人側からの呼びかけが足りない。 ・特定の人や特定のグループばかりいつも集まるというイメージがあり、なかなか新しい人（初参加の人）が入っていけないイメージがある。特にうちは身障者なので迷惑をかけてしまうのではないかと考えてしまい、行く気になかなかたえません。 ・地域やコミュニティにおける共通意識や連帯感が感じられない。 ・住んでいる地域に「子ども」が少ない。「若者」は参加していない。

E-2 子ども・若者支援に関する調査

【問8において「3. ほとんど参加していない」または「4. 参加していない」と答えた方へお伺いします。】

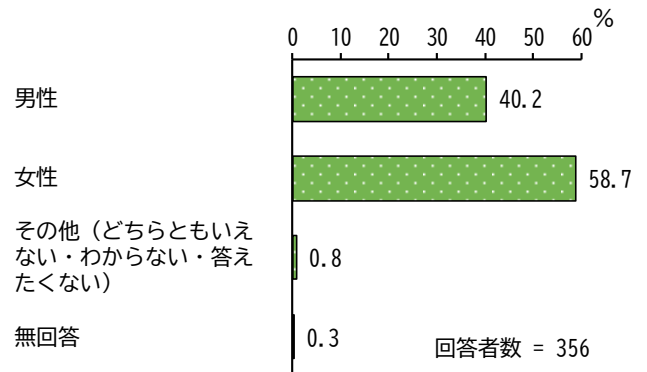
問8-4 どのようにすれば、子どもや若者が参加すると思いますか。自由に記載してください。

※（ ）は意見数

項目	主な意見
1. 親子で参加する (7)	・ 親（大人）と一緒に参加する。 ・ 子どもの親も巻きこんで知らせる。 ・ 親が子どもを連れてくること。親が全て行っている。 ・ 親が子ども若者といっしょに活動できるようにすべきと思う。
2. 興味や関心をひくイベント内容にする (13)	・ 子どもや若者自身に参加することによってメリットがあると思わせる。たまたま自分の参加しているイベントには子どもがいないが、活動によっては参加してくれると思う。多様性という意味では、今後は子どもや若者が参加し易いイベントを増やすことは、いいことだと思う。 ・ 興味関心をひくイベント。 ・ 面白そう、自分ごとと思えるコンテンツがあること。 ・ 子どもや若者が「やってみたい」「行ってみようかな」と思えるような内容のイベントだということ。
3. もっと情報発信をする (8)	・ 町内会・自治会活動などのイベントがあるたびに「子どもや若者の参加を歓迎する」というメッセージを出し続けること。 ・ 情報が無い。暇が無い。 ・ 気楽に参加できるような告知。
4. 参加する機会を作る (8)	・ 年齢や性別を問わず交流出来るような場所があれば。 ・ 子どもや若者から意見を出せるような機会をもっと作るべきだ。 ・ 学校で積極的に機会を増やす。
5. SNSを活用する (8)	・ 紙の回覧からSNS等に変えること。集会などは最低限にして、あとはオンラインで。 ・ SNSの積極的活用。 ・ 親も参加しないからだと思う。SNSで知らせる。
6. 参加しやすい雰囲気にする (8)	・ 参加しやすい雰囲気、日時、場所。 ・ 活動は学生達が参加しやすいよう土曜、日曜日に集合とし気軽に打ち解け易い雰囲気をつくるなど工夫をすると良いのでは。 ・ 近くに気軽に参加できるようなイベントがあれば参加する。
7. その他 (28)	・ 活動の企画を、もっと若手や、外部（多摩市外）の協力を得てやるのはどうか。 ・ 一緒に参加する友達や知り合いがいないと難しい。 ・ 無理に参加する必要はない。 ・ 防災など、生きる上で大切な行事と活動は、必ず参加できるように開催日時に工夫すれば良く、また、出欠の実態も本人に理解してもらえるようにすれば良いと思います。 ・ 大人だけで決めるのではなく、子どもの意見も聞いていくことが大切だと思う。話すのが苦手な子の意見もちゃんと聞いてほしい。

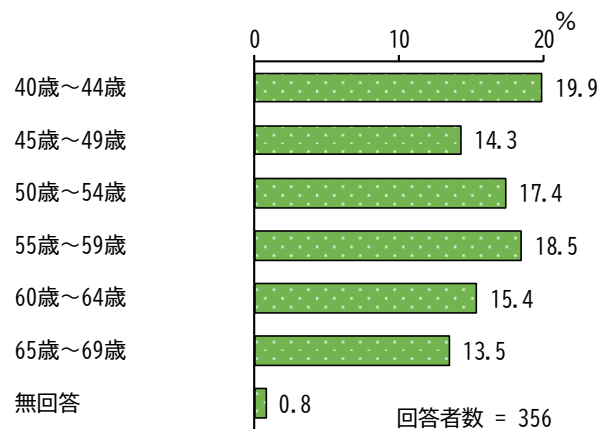
(5) 『あなた自身のこと』について

問9 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)



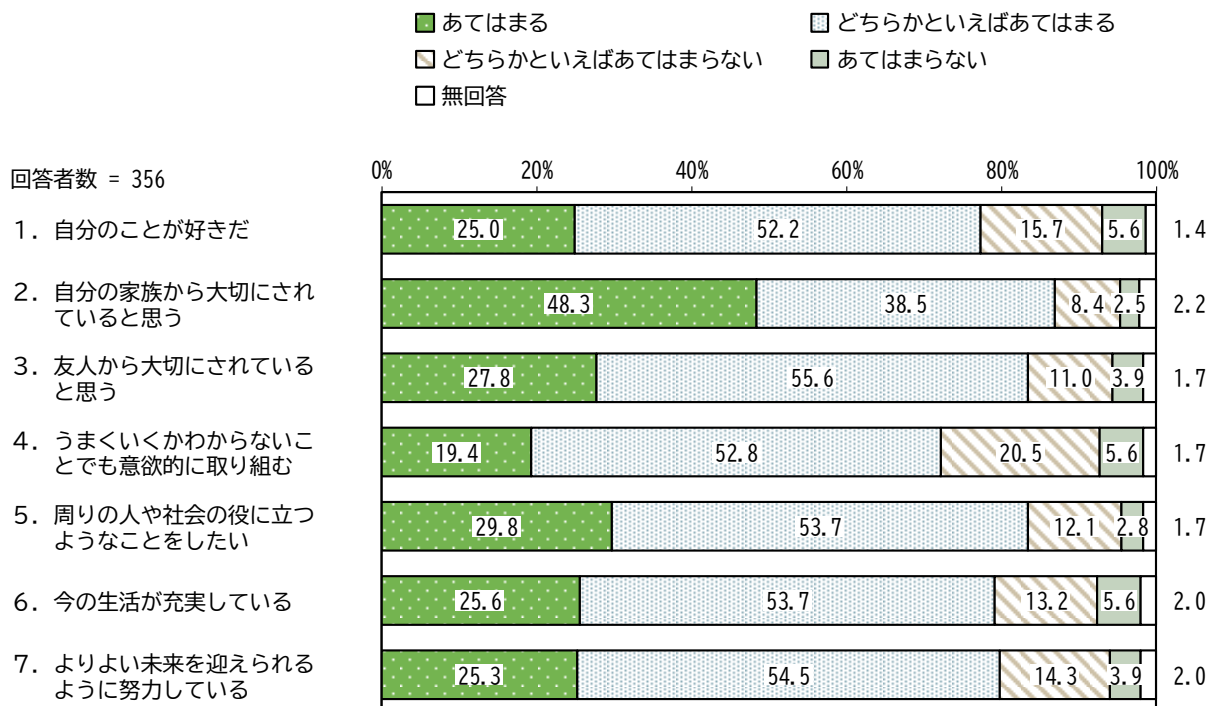
問10 あなたの令和5年4月1日時点での年齢をおしえてください。(〇は1つ)

「40歳～44歳」の割合が19.9%と最も高く、次いで「55歳～59歳」の割合が18.5%、「50歳～54歳」の割合が17.4%となっています。



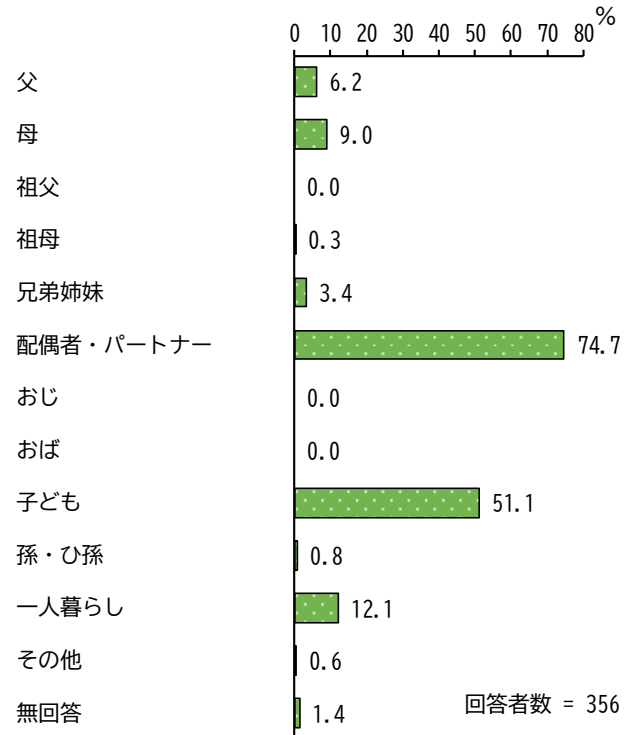
E-2 子ども・若者支援に関する調査

問 11 次にあげられたことの中で、あなた自身にあてはまると感じるものをお答えください。（それぞれ○は1つ）



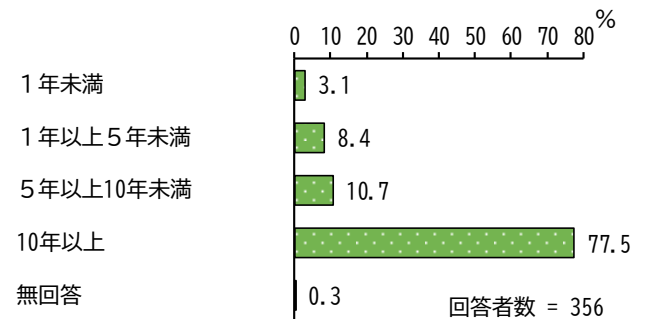
問 12 あなたは誰と暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「配偶者・パートナー」の割合が 74.7%と最も高く、次いで「子ども」の割合が 51.1%、「一人暮らし」の割合が 12.1%となっています。

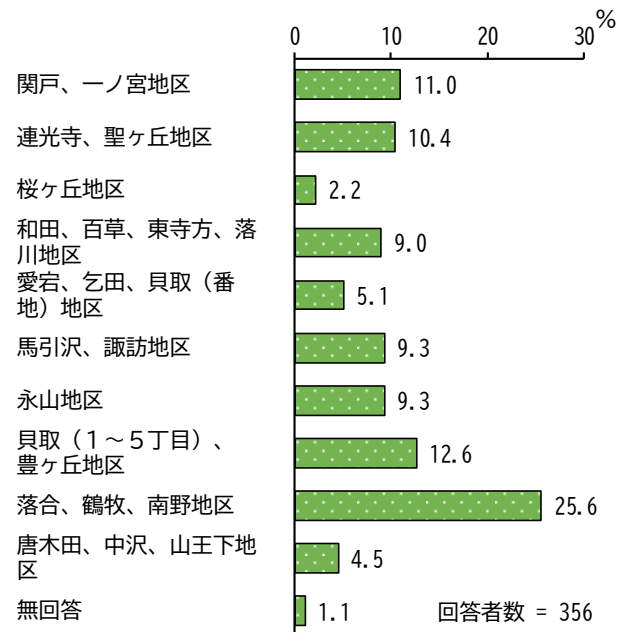


問 13 あなたは、多摩市に住んでどのくらいになりますか。(○は1つ)

「10年以上」の割合が 77.5%と最も高く、次いで「5年以上10年未満」の割合が 10.7%となっています。



問 14 お住まいの地区はどちらですか。(○は1つ)

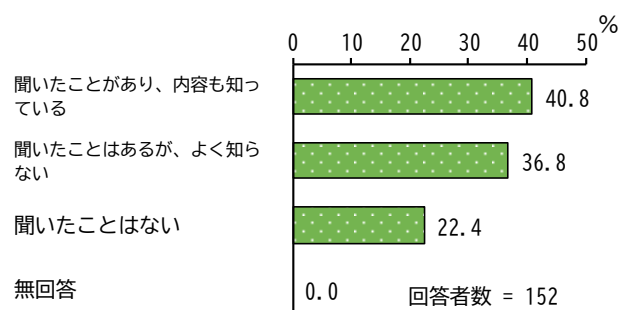


10 多摩市子ども・若者支援に関する調査（関係機関用）【E-3】

(1) 令和4（2022）年4月に施行された「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」について

問1 「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」を知っていますか。（1つ選択）

「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合が40.8%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」の割合が36.8%、「聞いたことはない」の割合が22.4%となっています。



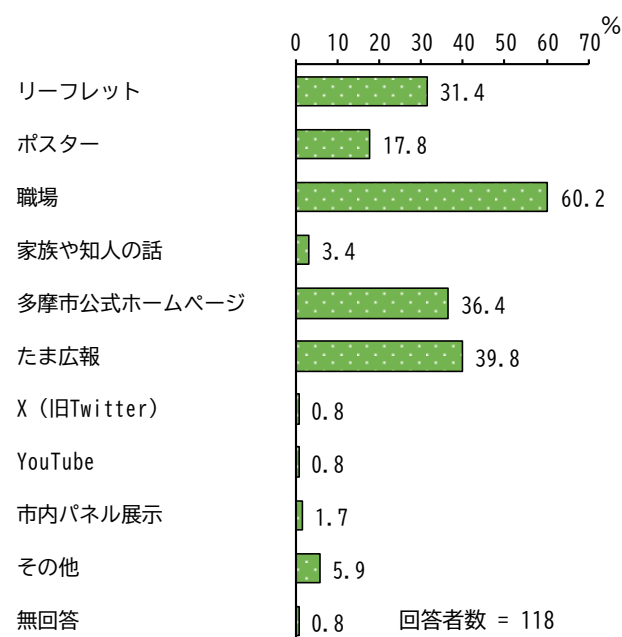
【問1で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた方にお伺いします。】

問1-1 「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」をどのような方法で見たり聞いたりしますか。（あてはまるものをすべて選択）

「職場」の割合が60.2%と最も高く、次いで「たま広報」の割合が39.8%、「多摩市公式ホームページ」の割合が36.4%となっています。

「その他」意見

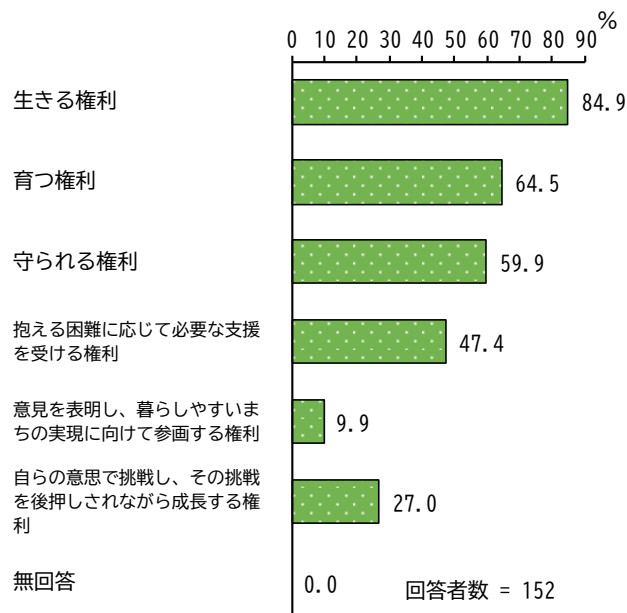
・会議や研修の中で（7件）



問2 「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」には、次のような6つの子ども・若者の権利が示されています。

問2-1 6つの子ども・若者の権利のうち、「子どもや若者」にとって特に大切だと思うものを最大3つまで選び、大切だと思う順に番号とその理由を記載してください。

「生きる権利」の割合が 84.9%と最も高く、次いで「育つ権利」の割合が 64.5%、「守られる権利」の割合が 59.9%となっています。



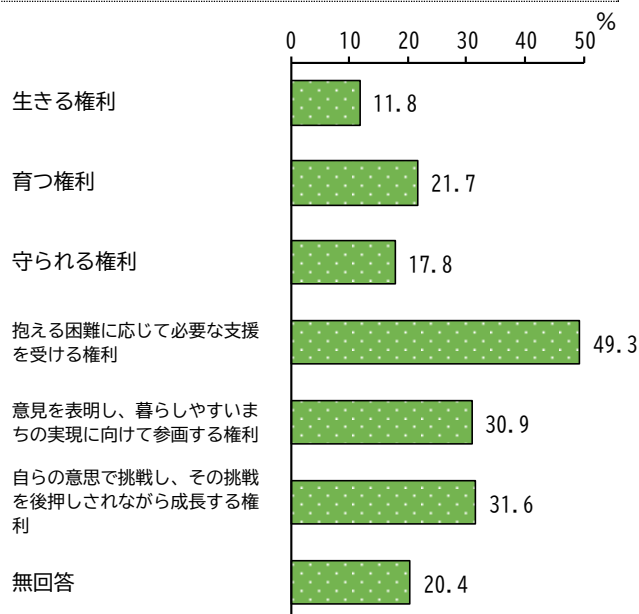
<大切だと思う主な理由>

※（ ）は意見数

項目	主な意見（要約）
1. 生きる権利（111）	・ 誰であっても人の生きる権利を奪ってはならないから。 ・ 衣食住が揃わないと生きる基盤が整わず、他の権利も意味をなさないから。 ・ 子どもや児童ではどうにもならないことであり、大人が保障してあげるべき権利だから。 ・ 命が守られることが何より大事だと思うから。
2. 育つ権利（76）	・ 平等に教育を受ける権利は守られるべきだから。 ・ 若い世代の育成が今後の日本の未来につながるため。 ・ 環境に関係なく子ども・若者は同等に育つべきだと考えているから。
3. 守られる権利（72）	・ 子どもや児童ではどうにもならないことであり、大人が保障すべきことだから。 ・ 自由な思想は安全が保障されないと難しいと思うから。 ・ すくすくと育つために子どもは、あらゆる迫害からも守られるべき存在であると考えから。 ・ どんな環境下であっても、子どもが守られる権利は保証されないといけないと思うから。
4. 抱える困難に応じて必要な支援を受ける権利（65）	・ 若者が目の前の困難に向き合う時、孤立しない環境や人との繋がりがある環境があることが最も重要だと考えているため。 ・ 必要な支援が、本当に必要な個々に行き届いていないと感じるから。 ・ 義務教育を終え、経済的な自立をするまでは必要な支援を受けることが必要だと考える。 ・ 必要とする支援が受けられる街であってほしいから。
5. 意見を表明し、暮らしやすいまちの実現に向けて参画する権利（14）	・ 次世代の生活を担う世代として、当事者意識を持つことや公平に参画できる機会が保障されることはありそうでないので守られるべき権利だと思う。 ・ 子どもの意見が反映される世の中を希望します。 ・ どんな風に思っているのか自分の意見を何らかの形で表現し、よりよいまちづくり、住みやすいまちづくりに貢献することが大切だと思う。
6. 自らの意思で挑戦し、その挑戦を後押しされながら成長する権利（38）	・ 子どもと若者の活躍の後押しを法令として定めていることに価値があるから。 ・ これからの社会を生きていく上で自分の意思をもって、挑戦することが必要だと思う。 ・ 自分の思いを我慢せずに表現しながらチャレンジする事で失敗と成功、両方から学びがある。

問2-2 6つの子ども・若者の権利のうち、現在の「子どもや若者」にとって守られていないと思うものがありますか。あれば最大3つまで選び、守られていないと思う順に番号とその理由を記載してください。

「抱える困難に応じて必要な支援を受ける権利」の割合が49.3%と最も高く、次いで「自らの意思で挑戦し、その挑戦を後押しされながら成長する権利」の割合が31.6%、「意見を表明し、暮らしやすいまちの実現に向けて参画する権利」の割合が30.9%となっています。



回答者数 = 152

<守られていないと思う理由>

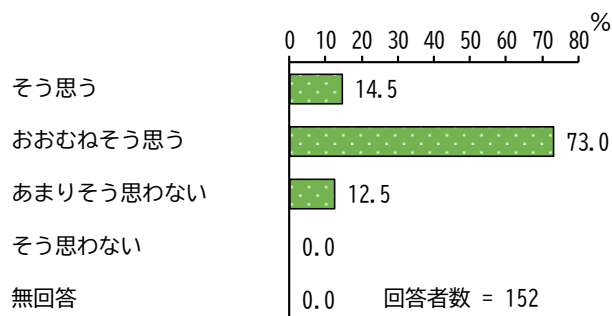
※（ ）は意見数

項目	主な意見（要約）
1. 生きる権利（12）	・メディアなどでの情報を通して、痛ましい事件や事故が多いと感じたため。 ・虐待やマルトリートメント（避けるべき子育て）の多さを実感している。
2. 育つ権利（26）	・家庭によって、また金銭面での格差によって守られることができないケースもあるから。 ・子どもの問題を親が解決しようとしたり、過度に立ち入りすぎていると思うから。 ・育つことが家庭に任せすぎているため。
3. 守られる権利（19）	・親、先生、兄弟など近しい者からの虐待がある。心理的安全性が保障されていない現状がある。 ・ここ数年の社会情勢をみると、いつ紛争に巻き込まれてもおかしくないと感じるから。 ・子どもに関わる多くの現場で今起こっている人材不足の解決が無いと、守り切ることは困難。
4. 抱える困難に応じて必要な支援を受ける権利（72）	・今まで一番見落とされてきた内容だと感じているため。 ・発達支援や教育相談などを見ていると、まだまだ両親の理解が足りず、必要な支援を受けられていないと思う事例がみられるから。 ・日々の相談業務の中で、園や学校、福祉のサービスでできる支援や配慮はまだ限られたものが多く、ニーズに沿っていない現実もみられるため。 ・様々な困難に対して、必要な支援体制が構築されていないと感じるから。
5. 意見を表明し、暮らしやすいまちの実現に向けて参画する権利（37）	・子どもの意見が反映される場面が少ない。 ・まちづくりに参画するという認識がそもそも薄いと感じており、そのような機会も少ないと感じるため。 ・意見を言える人、学びの場がまだ十分ではないと思う。
6. 自らの意思で挑戦し、その挑戦を後押しされながら成長する権利（36）	・若者自身の挑戦を後押しするためには、周囲がその状況を認識している必要があるが、大人たちも自分のことで精一杯な社会で後押しする余裕がない現実があるのではないかな。 ・ひとりひとりの個性を大事に見守ることは、集団の中でなかなか難しい。 ・自分の意思を表現する環境が少ないように思う。

(2) 『あなたが職場で関わる子どもや若者の生活』について

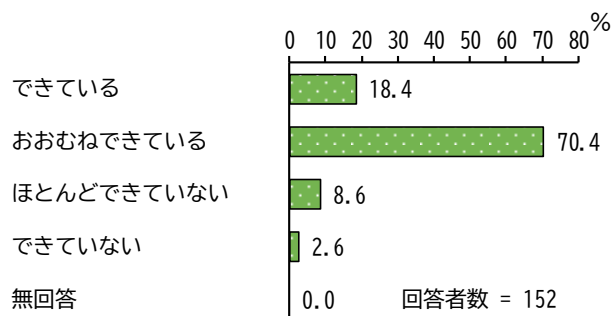
問3 あなたが関わる子どもや若者には、安心して自分の気持ちや悩みを話せる大人がいると思いますか。(1つ選択)

「おおむねそう思う」の割合が73.0%と最も高く、次いで「そう思う」の割合が14.5%、「あまりそう思わない」の割合が12.5%となっています。



問4 あなたは職場において、子どもや若者の気持ちや意見を聞くこと（受けとめること）ができていますか。(1つ選択)

「おおむねできている」の割合が70.4%と最も高く、次いで「できている」の割合が18.4%となっています。



【問4において「1. できている」「2. おおむねできている」と答えた方にお伺いします。】

問4-1 子どもや若者の気持ちや意見の聞き方についての具体例や、工夫していることは何ですか。

<主な意見>

- ・ アンケート調査。
- ・ 話や気持ちを聞く。
- ・ 子どもの立場に立つ。
- ・ 何でも話しやすい雰囲気をつくる。 など

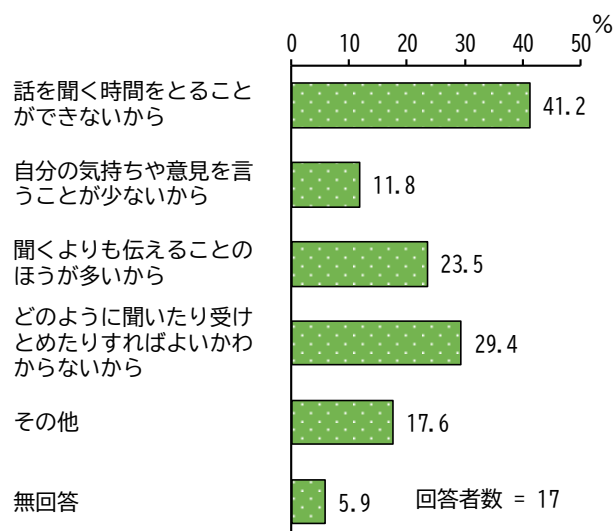
【問4において「3. ほとんどできていない」「4. できていない」と答えた方にお伺いします】

問4-2 その理由は何ですか。(あてはまるものをすべて選択)

「話を聞く時間をとることができないから」の割合が41.2%と最も高く、次いで「どのように聞いたり受けとめたりすればよいかわからないから」の割合が29.4%、「聞くよりも伝えることのほうが多いから」の割合が23.5%となっています。

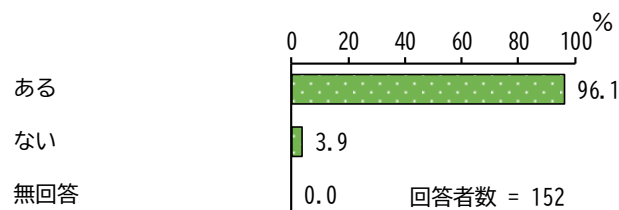
主な「その他」意見

- ・子どもや若者と接する機会がない (2件)



問5 あなたの職場で子どもや若者を支援する際、関係機関や地域団体と協働・連携して行うことがありますか。「ない」場合は理由も教えてください。(1つ選択)

「ある」の割合が96.1%、「ない」の割合が3.9%となっています。

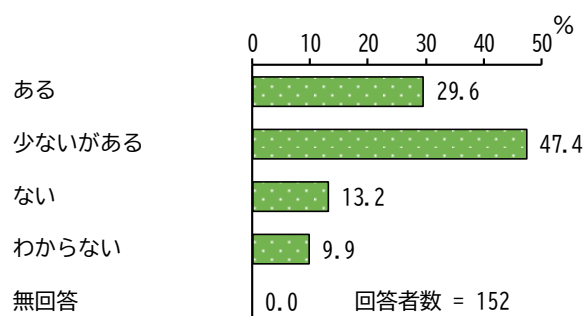


<「ない」場合の理由>

- ・まだ、連携が図れていないから。
- ・時間的余裕や人的つながりが少ないから。
- ・成人した方が多いから。
- ・関わりがあまり無いから。

問6 あなたの職場では、子どもや若者が自分の権利について学ぶ機会がありますか。(1つ選択)

「少ないがある」の割合が47.4%と最も高く、次いで「ある」の割合が29.6%、「ない」の割合が13.2%となっています。



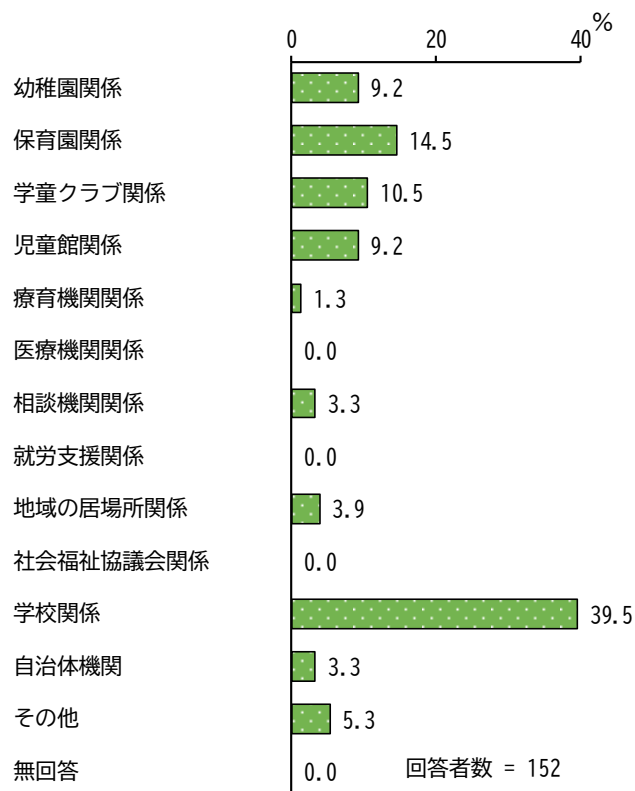
(3) 『あなた自身のこと』について

問7 あなたの所属を教えてください。(1つ選択)

「学校関係」の割合が39.5%と最も高く、次いで「保育園関係」の割合が14.5%、「学童クラブ関係」の割合が10.5%となっています。

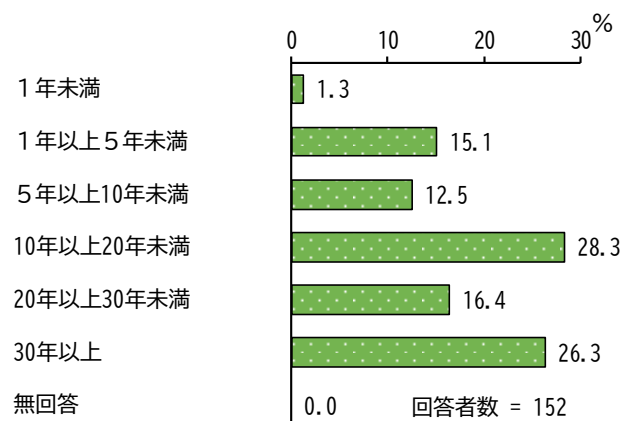
主な「その他」意見

・福祉関係 (7件)



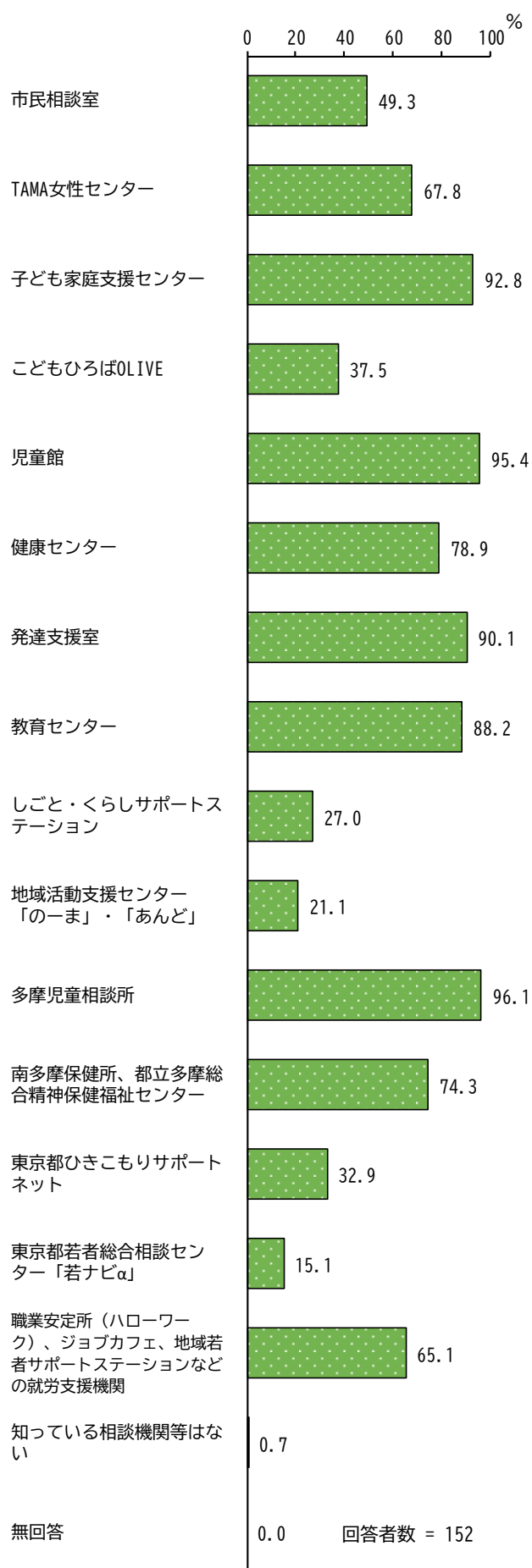
問8 あなたの令和5（2023）年4月1日時点の勤続年数を教えてください。(1つ選択)

「10年以上20年未満」の割合が28.3%と最も高く、次いで「30年以上」の割合が26.3%、「20年以上30年未満」の割合が16.4%となっています。



問9 あなたは、次のような子どもや若者を対象とした施設や相談機関を知っていますか。(あてはまるものをすべて選択)

「多摩児童相談所」の割合が96.1%と最も高く、次いで「児童館」の割合が95.4%、「子ども家庭支援センター」の割合が92.8%となっています。



問 10 子ども・若者の権利について、あなたの思いや考え等を自由に記載してください。

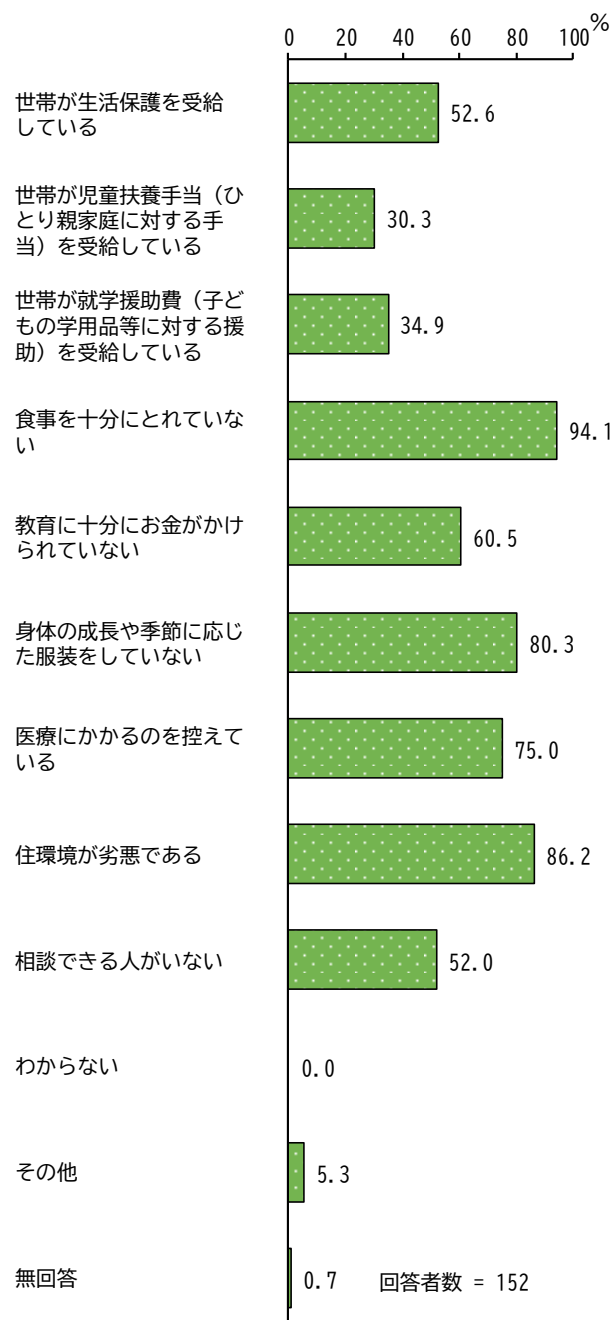
※（ ）は意見数

項目	主な意見（要約）
1. 未来を担う人材を育てる (5)	・ 子若条例に鑑み、授業や行事における児童の主体性を活かした取り組みを実施し始めた。教え込むことからの脱却、児童が主人公となる学校にすることで、未来を担う人材を育てている。授業改善にもつながる重要な法令だと思う。 ・ これからの社会を支えていく人材であり、まずは多摩市の 2030 年を支えてもらう人材を育成し、その人たちが 2050 年を支える人材を育成していったほしい。 ・ 子若条例の趣旨には賛同します。この条例の趣旨が活かされた行政が実行されると良いと思います。学校もこの趣旨を生かした生活指導ができるようにしないといけないと思います。 ・ 権利を声高に主張する子どもや若者は以前より減ったように感じるが、権利意識は皆高く持っていると思う。
2. 大人の意識改革やゆとり (34)	・ 小学生の場合、内容によっては、意見を聞くにとどめる事もあると思う。判断するまでの発達が十分でない事もあるので全てを子どもに任せるのは難しいと思う。 ・ 実現に向けた様々な困難の解消に向け、大人一人一人が自らできることを積み重ねていきたい。 ・ すべての子どもが幸せを感じることができることを目指したい。そのためには大人の意識改革やゆとりも大切だと感じる。 ・ 「子若条例」の意義や大切さについては、子どもを主語と考えていく学校にとっても、大変重要なことであり、今後も子どもたちと一緒に、子ども・若者の権利について考えていきます。
3. 子どもの意識改革 (12)	・ 自分の思いや願いをかなえるために世の中に埋もれない力を若者が自ら獲得してほしい。 ・ 自分の命を大切にすること、同じだけ他の命も大切にしてほしい。 ・ 子どもが自分の意見をのびのびと表現できる学校をつくってほしい。 ・ 将来の夢をもたない、もてない子どもや若者が少しでも減ってほしい。
4. 子ども・若者の権利、理解 (19)	・ 権利と義務の両方をバランスよく教え、考えさせることが大切だと思う。 ・ 若者や子どもには安心して今を生き生きと過ごしてほしい。子どもたちの権利を守るためには、大人が知ることが大切。 ・ 自分にどんな権利があるのか知らないながら、なんとなくもやもやしたり、納得できないことは多くあるのではと思います。私自身も知ることから支援を始めたいと思います。 ・ 誰もが生きやすい世の中になるよう権利ばかりを主張することなく、子ども・若者の権利を周知していくことを願います。
5. 子育て支援の見直し (12)	・ 小さい頃から傷ついて育ってきた子どもの多さに驚く。子育て支援の見直しや予算措置が必要ではないか。 ・ 必要な支援が適切に受けられる仕組みづくりが大切である。 ・ 老人世代ではなく、若い世代のために資金を使っていくべき。 ・ 子どもを中心として考える政策、活動はとても大切だと思っています。子どもにもちゃんと権利があるとみんなで大切にしていけたらいいなと思いました。

(4)『貧困の状況にある子ども・若者、保護者の状態』について

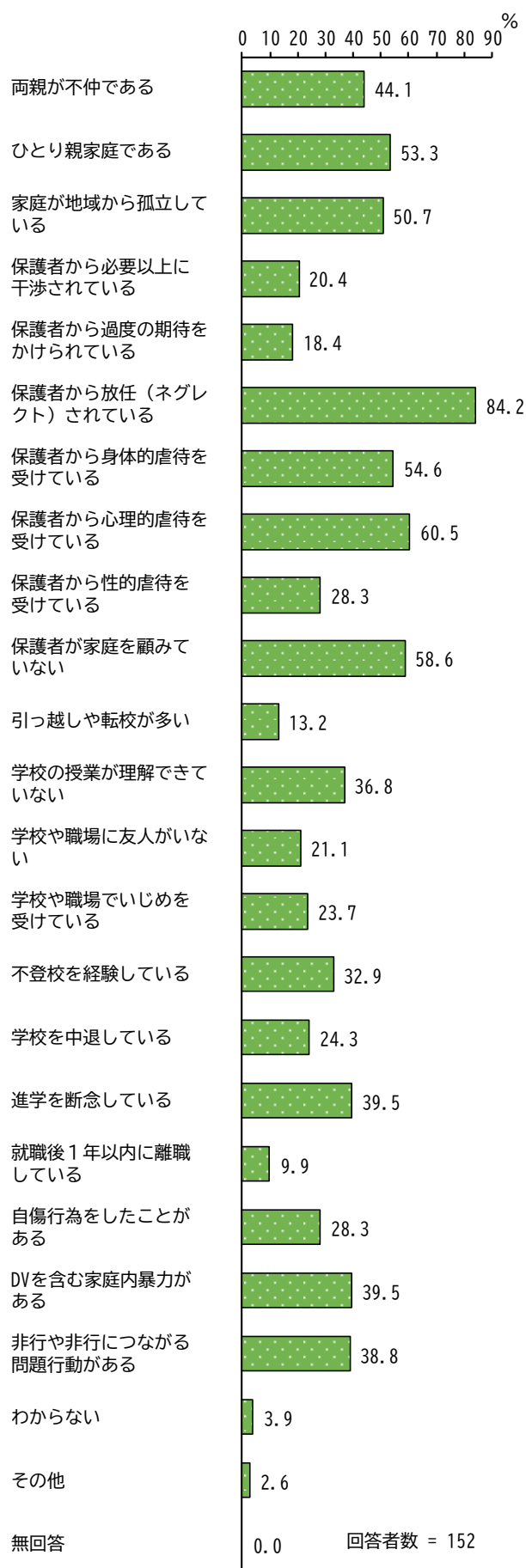
問 11 あなたは、どのような状況にある子どもや若者を「貧困状態にある」と考えますか。(あてはまるものをすべて選択)

「食事を十分にとれていない」の割合が 94.1%と最も高く、次いで「住環境が劣悪である」の割合が 86.2%、「身体の成長や季節に応じた服装をしていない」の割合が 80.3%となっています。



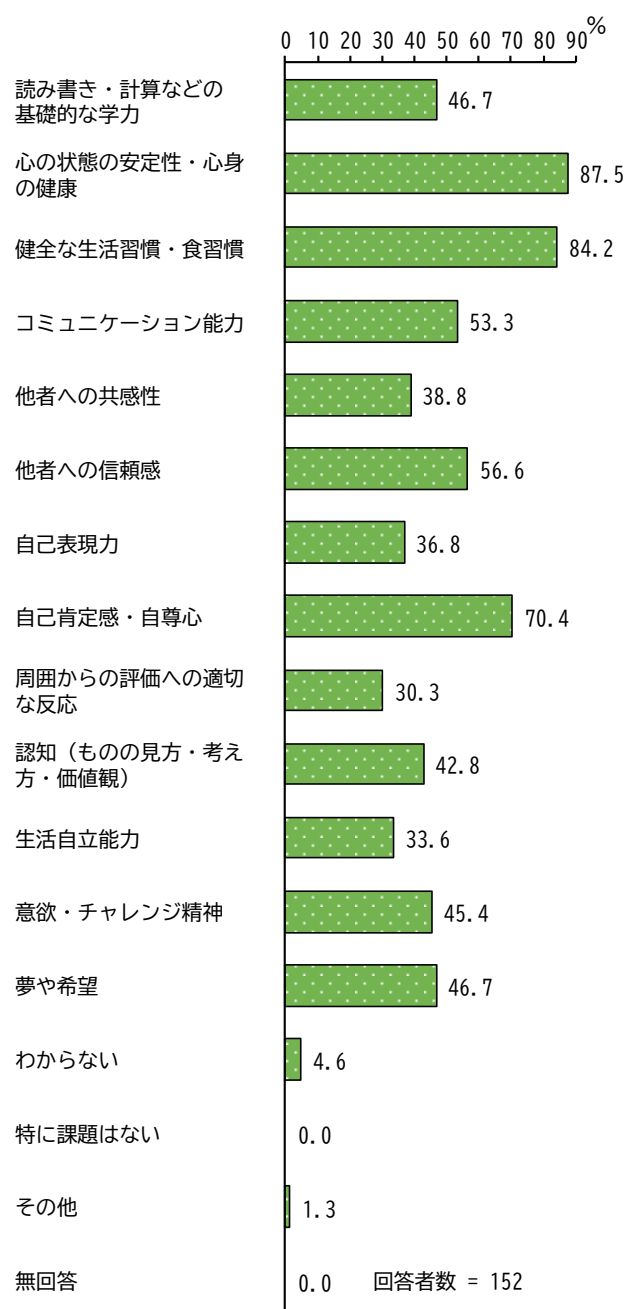
問 12 これまでの経験で、貧困状態にある子どもや若者は、家庭状況や生活にどのような傾向があると感じていますか。(あてはまるものをすべて選択)

「保護者から放任（ネグレクト）されている」の割合が 84.2%と最も高く、次いで「保護者から心理的虐待を受けている」の割合が 60.5%、「保護者が家庭を顧みていない」の割合が 58.6%となっています。



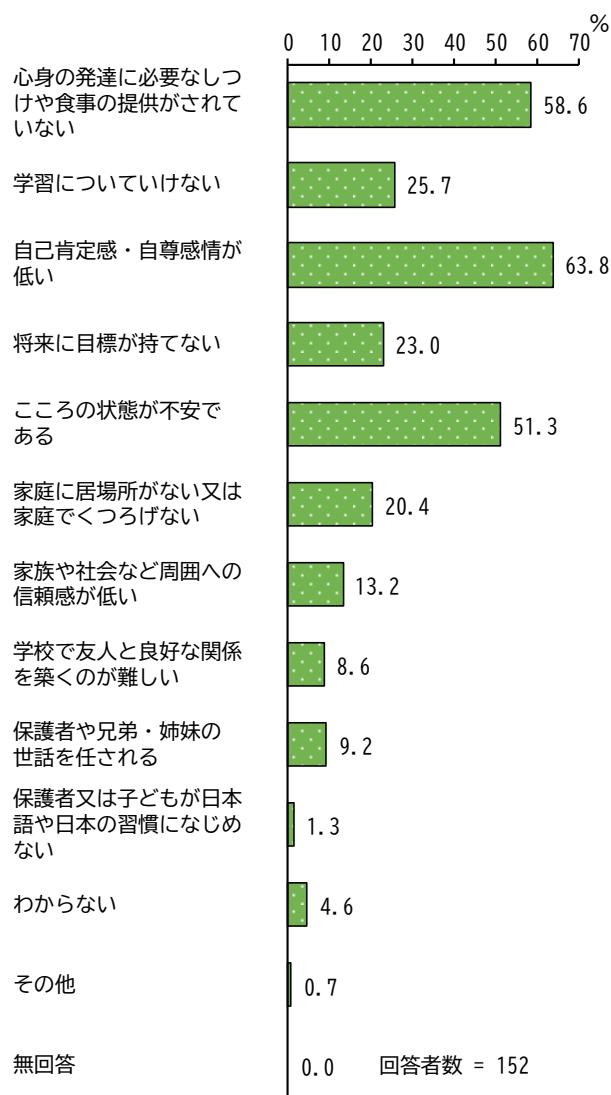
問 13 これまでの経験で、貧困状態にある子どもや若者は、どのような項目において課題があると感じていますか。(あてはまるものをすべて選択)

「心の状態の安定性・心身の健康」の割合が87.5%と最も高く、次いで「健全な生活習慣・食習慣」の割合が84.2%、「自己肯定感・自尊心」の割合が70.4%となっています。



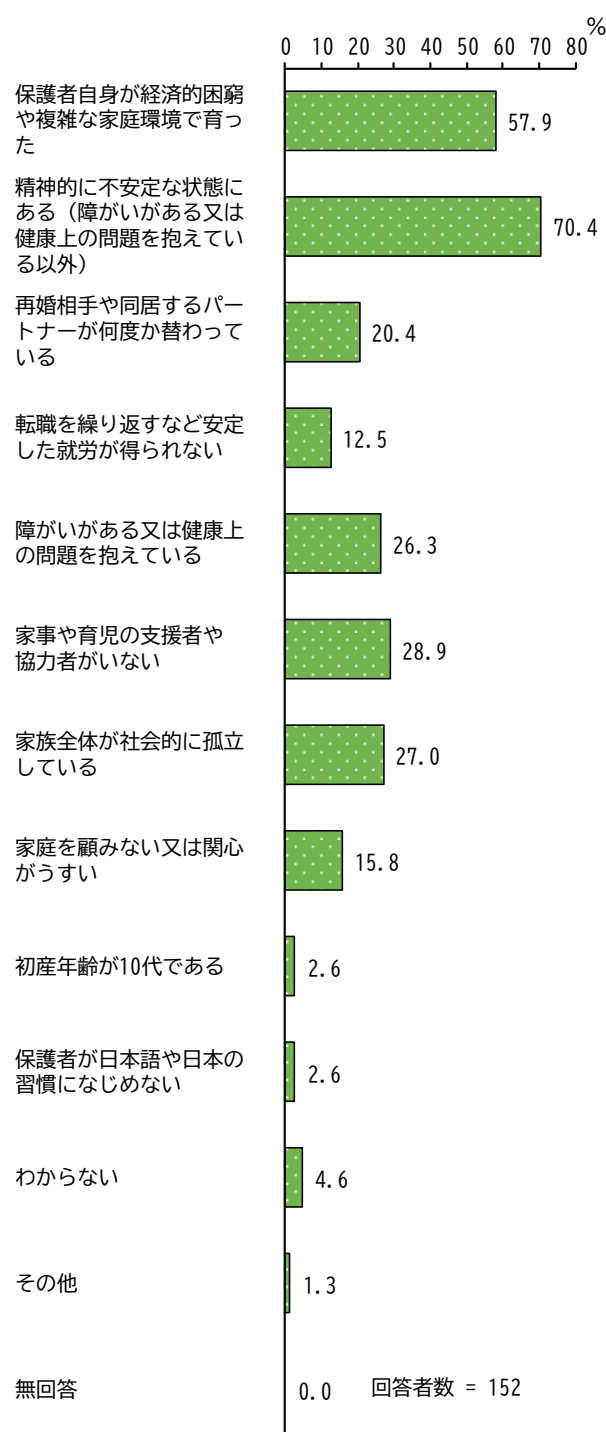
問 14 貧困状態にある子どもや若者は、現在、どのような面で困難を抱えていることが多いと感じていますか。（特にあてはまるものを3つ選択）

「自己肯定感・自尊感情が低い」の割合が63.8%と最も高く、次いで「心身の発達に必要なしつけや食事の提供がされていない」の割合が58.6%、「こころの状態が不安である」の割合が51.3%となっています。



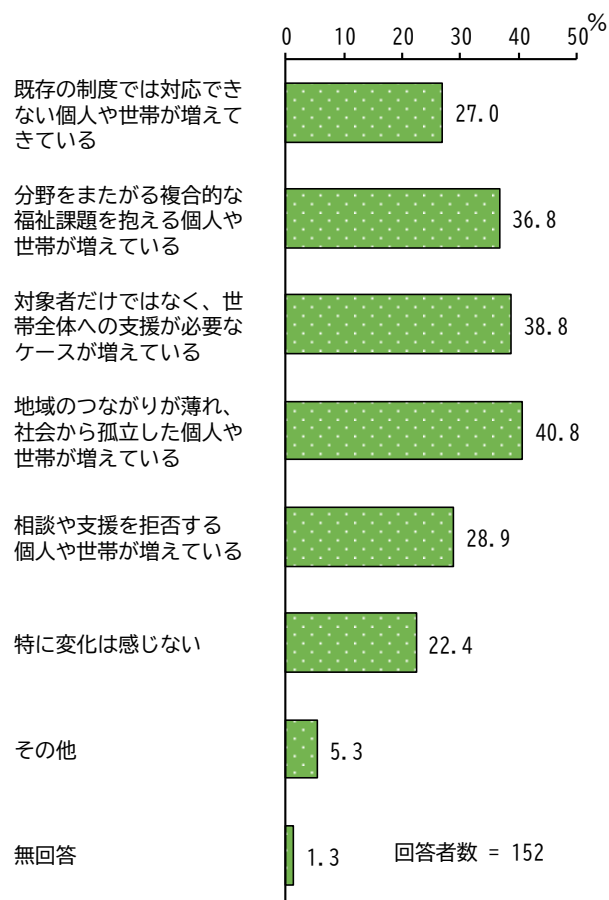
問 15 貧困状態にある家庭で子どもや若者、保護者は、どのような困難を抱えていることが多いと感じていますか。（特にあてはまるものを3つ選択）

「精神的に不安定な状態にある（障がいがある又は健康上の問題を抱えている以外）」の割合が70.4%と最も高く、次いで「保護者自身が経済的困窮や複雑な家庭環境で育った」の割合が57.9%、「家事や育児の支援者や協力者がいない」の割合が28.9%となっています。



問 16 新型コロナウイルス感染症の流行前と比較して、最近の相談内容や支援対象者の傾向について、どのように感じていますか。（あてはまるものをすべて選択）

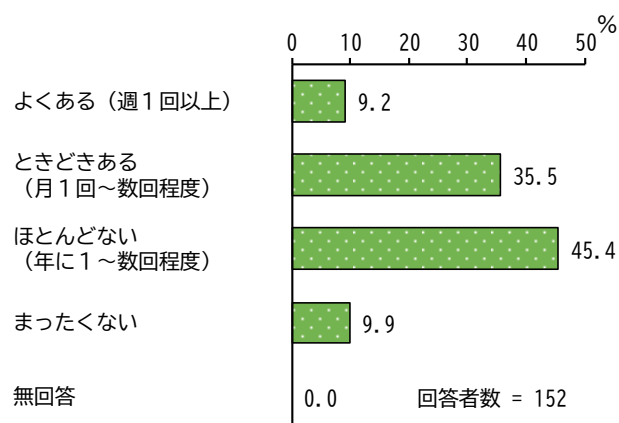
「地域のつながりが薄れ、社会から孤立した個人や世帯が増えている」の割合が 40.8%と最も高く、次いで「対象者だけではなく、世帯全体への支援が必要なケースが増えている」の割合が 38.8%、「分野をまたがる複合的な福祉課題を抱える個人や世帯が増えている」の割合が 36.8%となっています。



(5)『貧困の状況にある子どもや若者、保護者に対する支援』について

問 17 あなたは普段、他の部署・機関の人と、貧困状態にある子どもや若者について情報をやり取りする機会がありますか。(1つ選択)

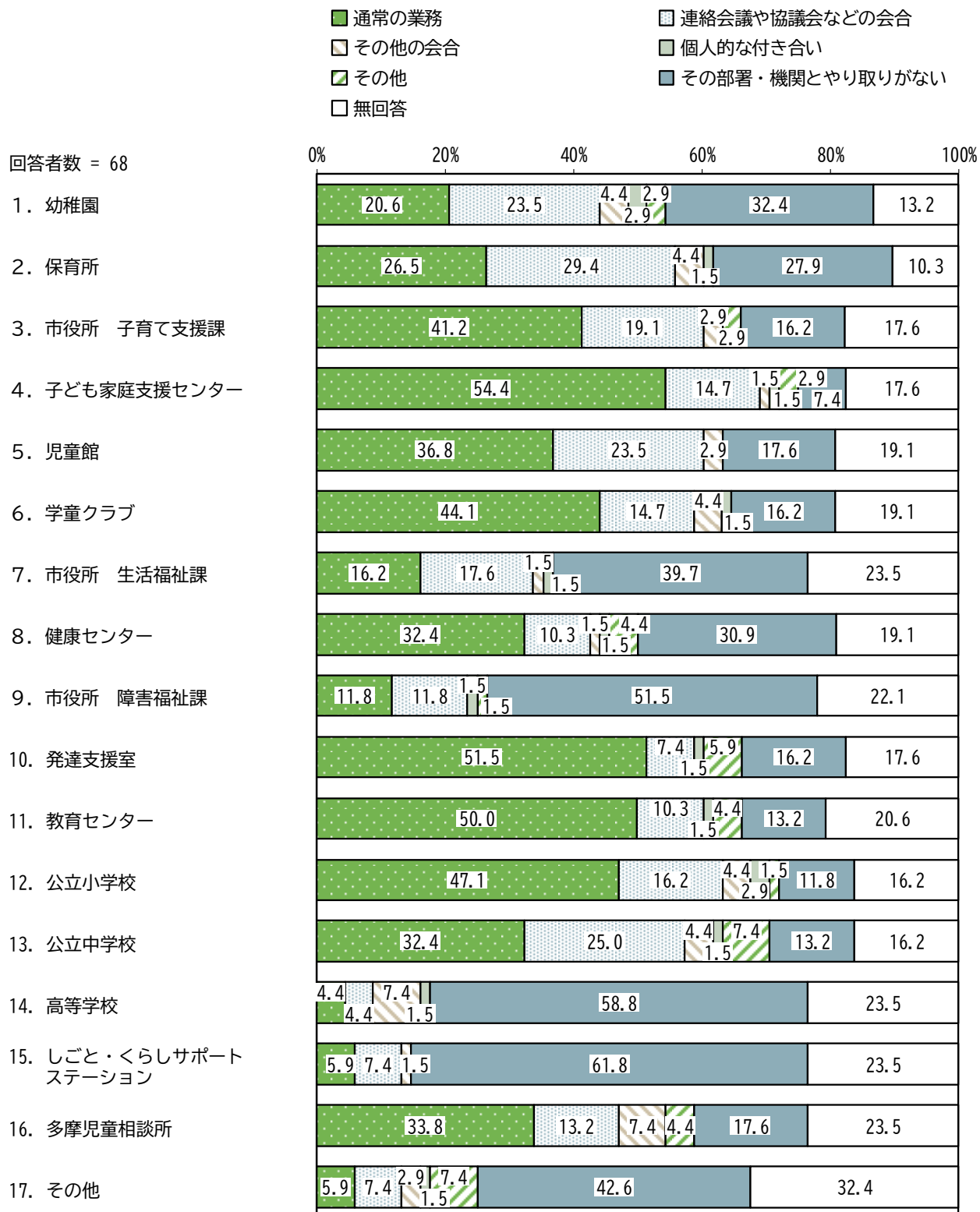
「ほとんどない(年に1～数回程度)」の割合が45.4%と最も高く、次いで「ときどきある(月1回～数回程度)」の割合が35.5%となっています。



E-3 関係機関用

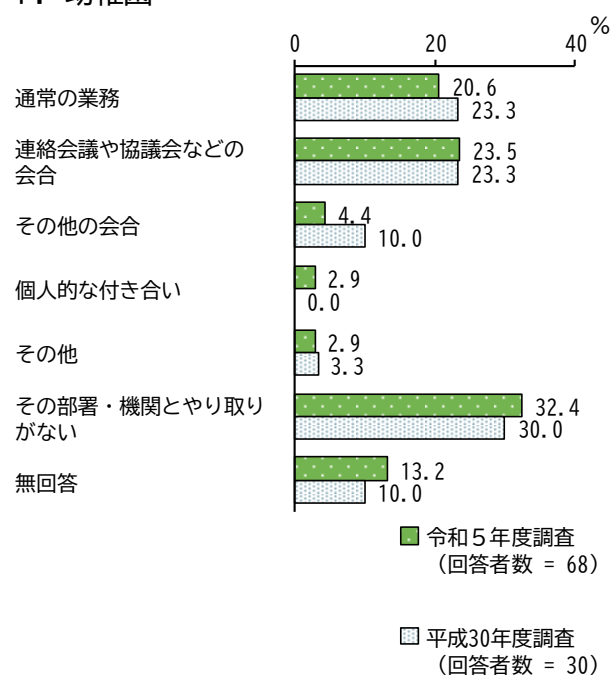
【問 17 で「1. よくある（週 1 回以上）」「2. ときどきある（月 1 回～数回程度）」と答えた方にお伺いします】

問 17-1 どの部署・機関の人とどのような機会でのやり取りすることが多いですか。次の 1 から 17 について、あてはまる番号をそれぞれ 1 つ選択してください。

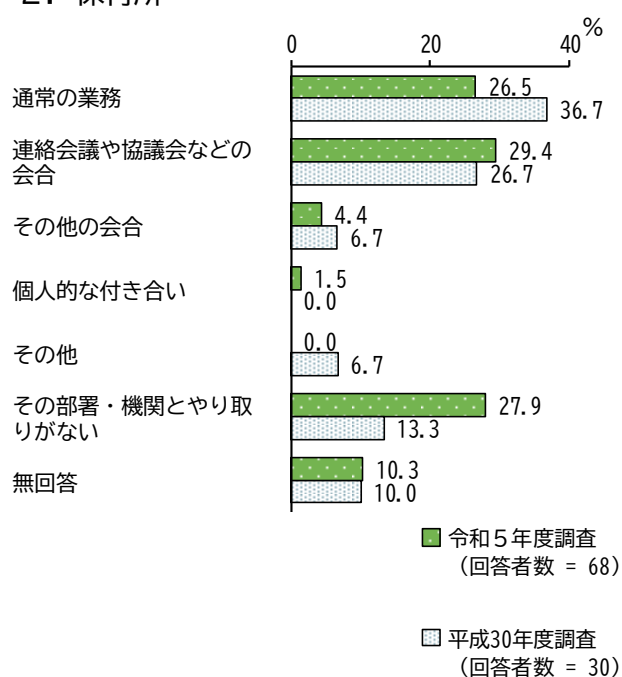


<項目ごとの経年比較>

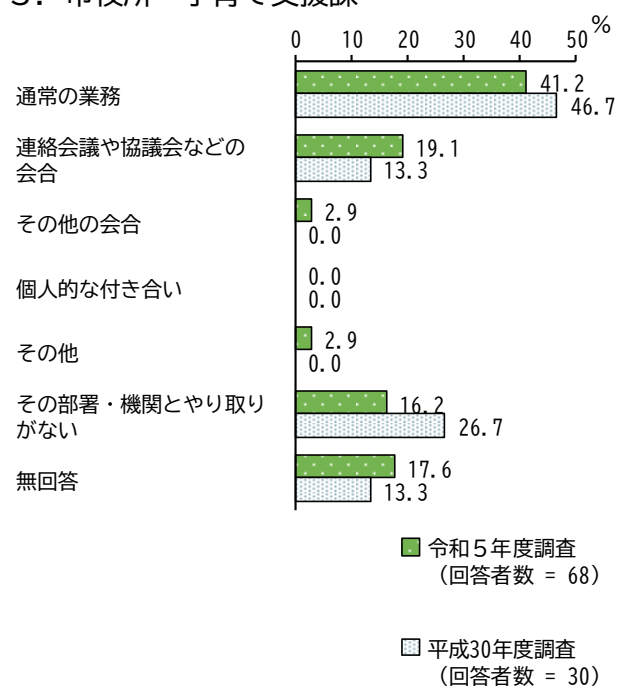
1. 幼稚園



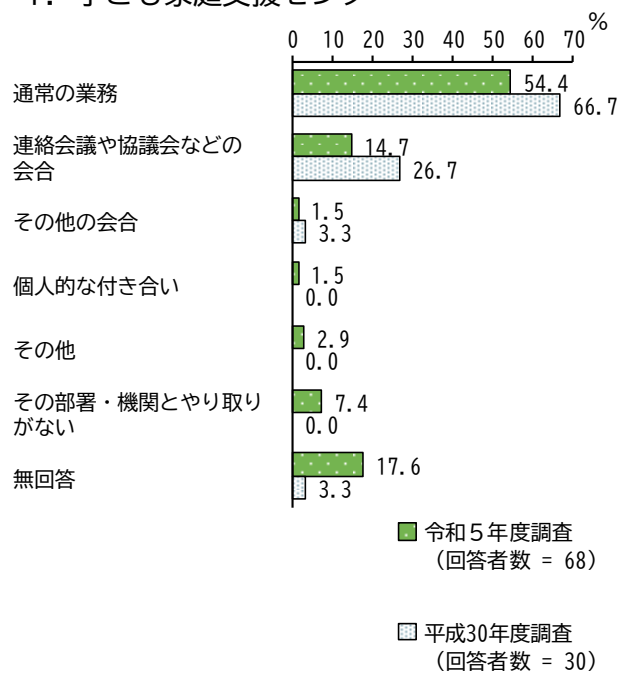
2. 保育所



3. 市役所 子育て支援課

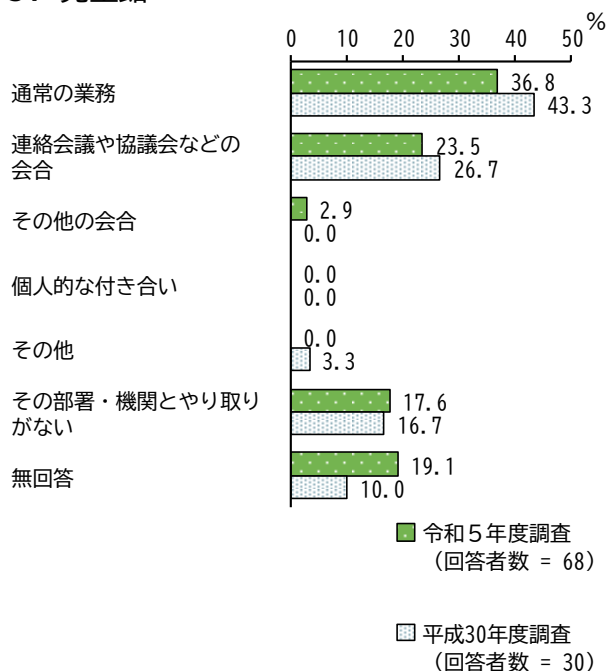


4. 子ども家庭支援センター

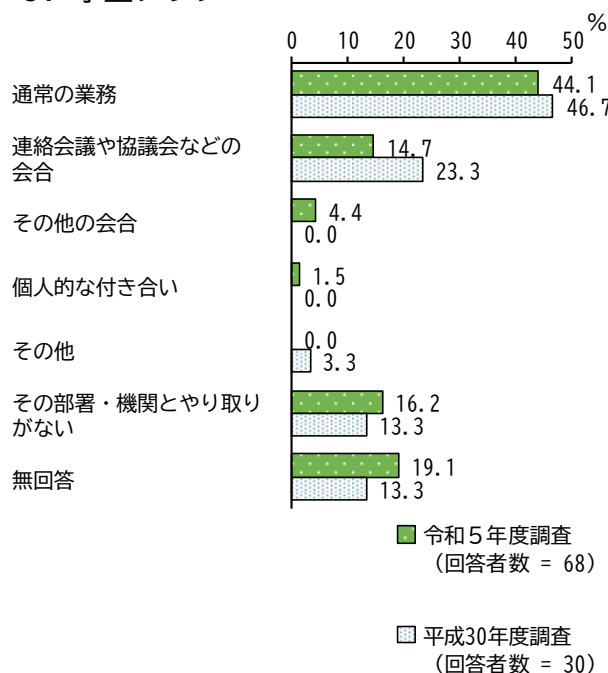


E-3 関係機関用

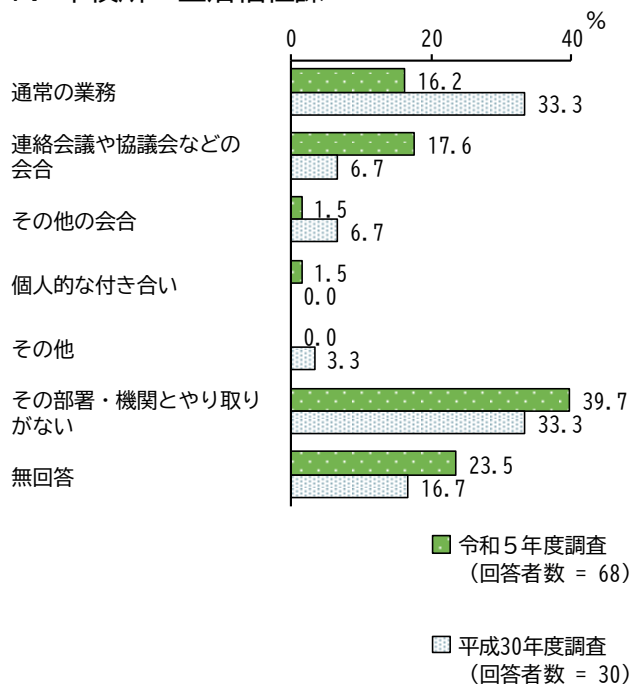
5. 児童館



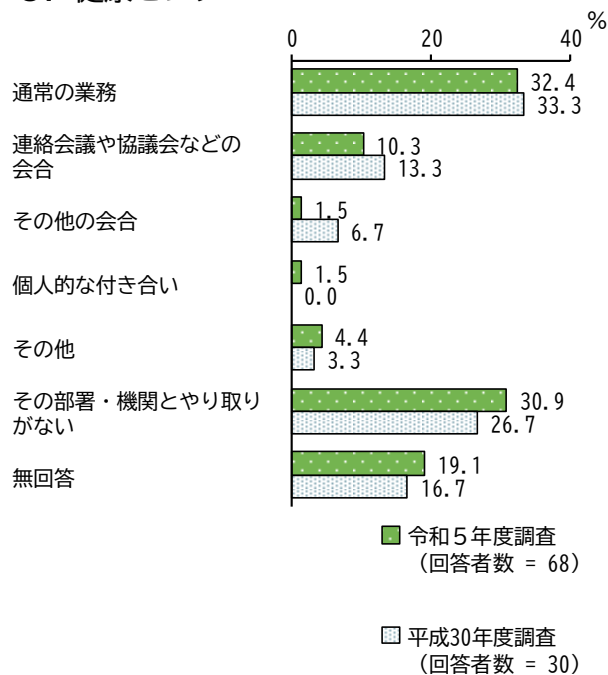
6. 学童クラブ



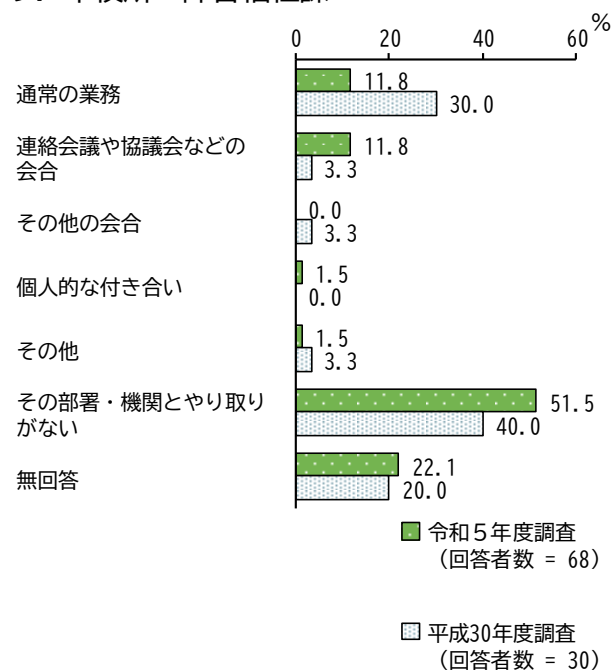
7. 市役所 生活福祉課



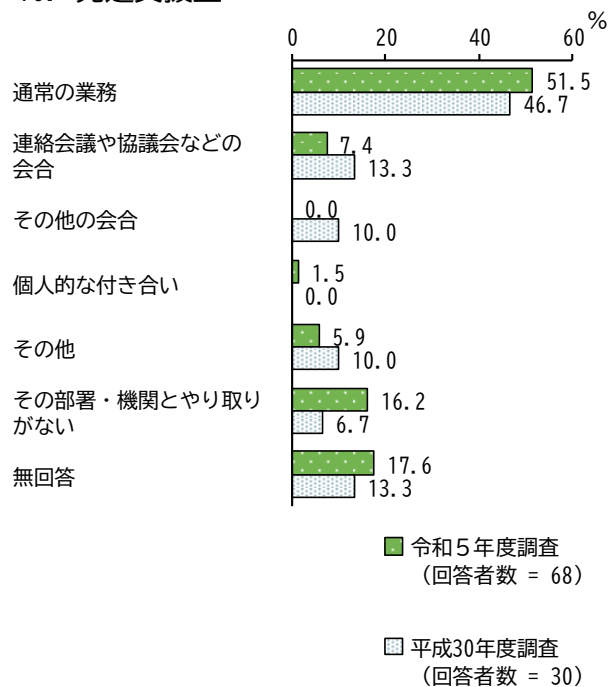
8. 健康センター



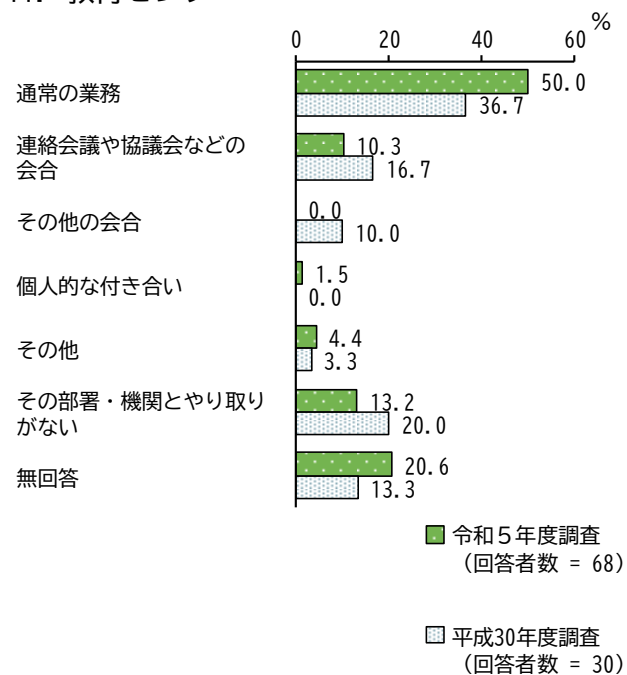
9. 市役所 障害福祉課



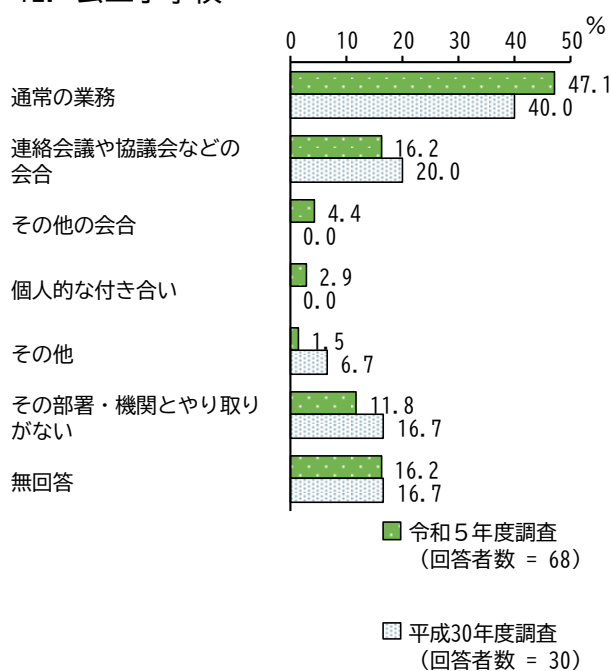
10. 発達支援室



11. 教育センター

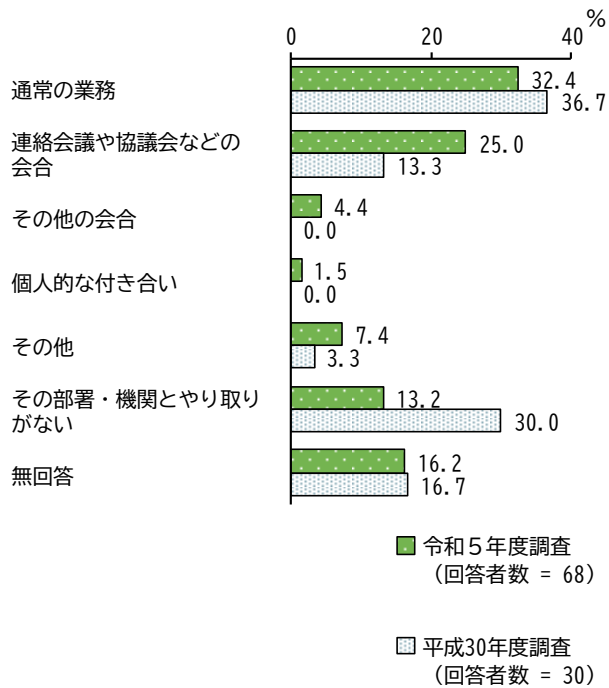


12. 公立小学校

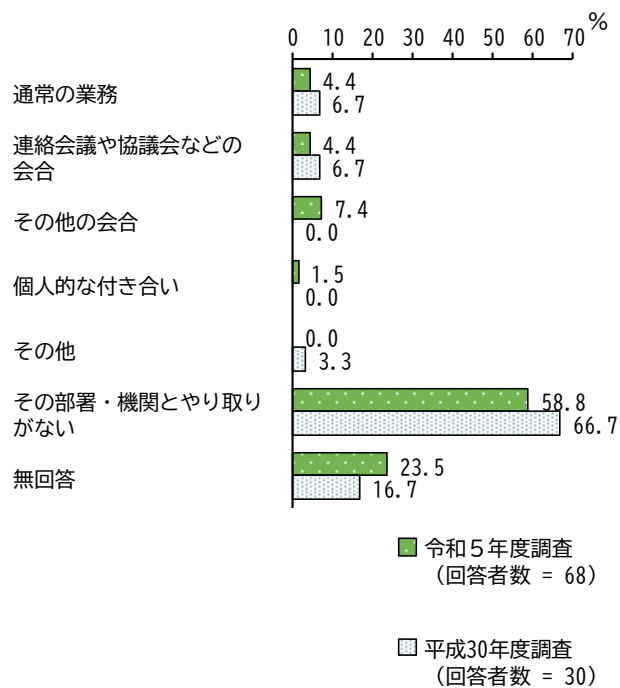


E-3 関係機関用

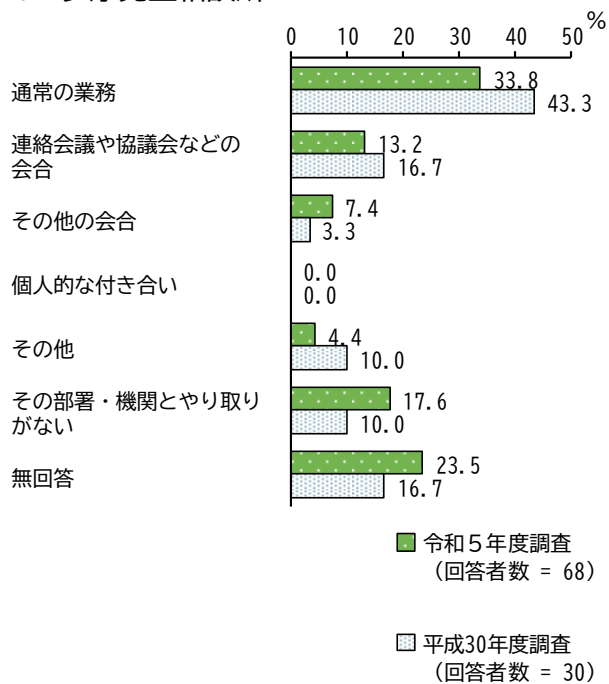
13. 公立中学校



14. 高等学校



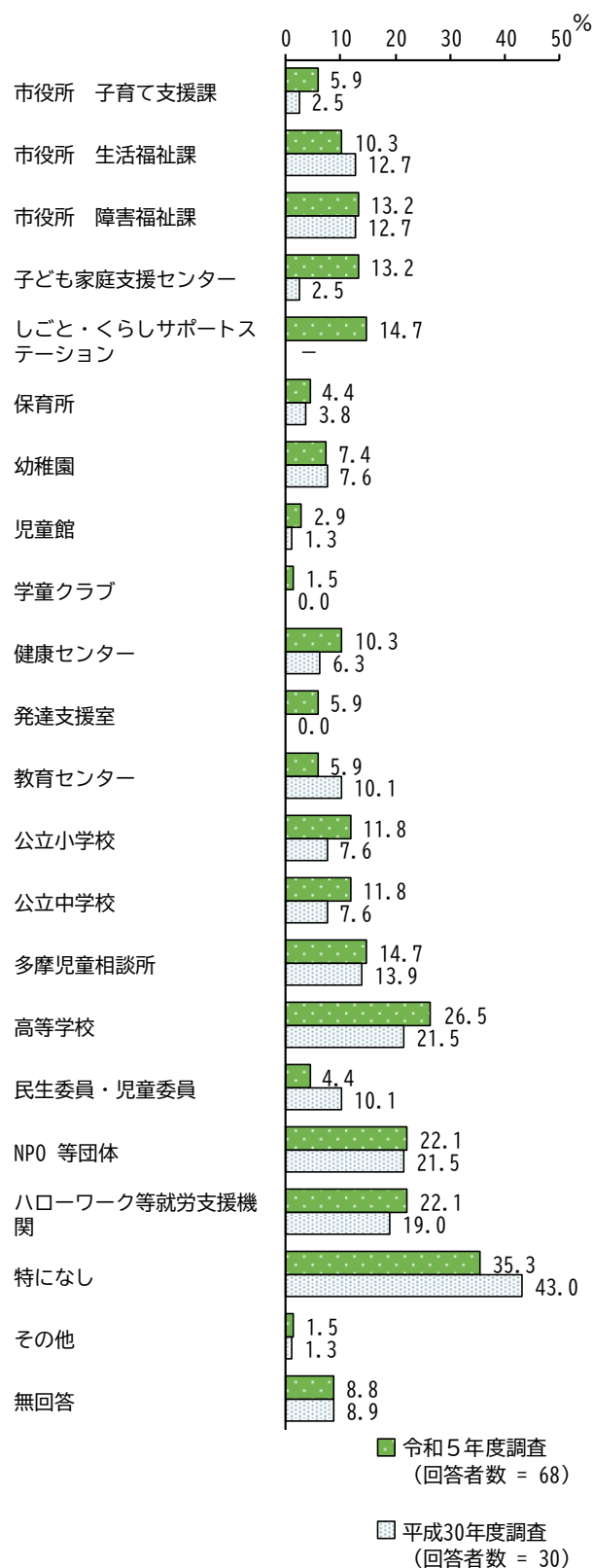
16. 多摩児童相談所



問 17-2 支援を行う上で、連携がしにくいと感じている部署・機関等はどこですか。
(あてはまるものに○)

「特になし」の割合が 35.3%と最も高く、次いで「高等学校」の割合が 26.5%、「NPO 等団体」、「ハローワーク等就労支援機関」の割合が 22.1%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「子ども家庭支援センター」「高等学校」の割合が増加しています。



※令和5年度調査では、「しごと・暮らしサポートステーション」の選択肢を追加しています。

※「子ども家庭支援センター」は、令和2年4月1日に、子育て総合センターから名称変更を行っています。

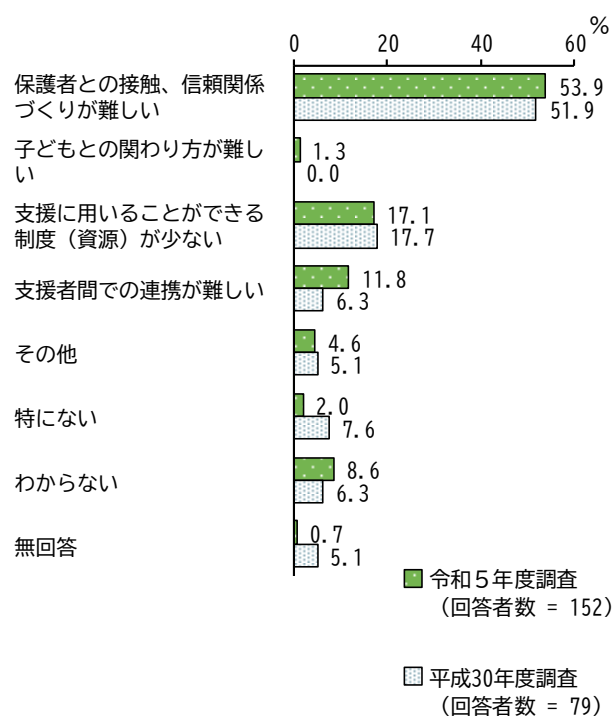
問 18 あなたは、貧困家庭への支援にあたって、どのような点が困難だと感じていますか。（1つ選択）

「保護者との接触、信頼関係づくりが難しい」の割合が 53.9%と最も高く、次いで「支援に用いることができる制度（資源）が少ない」の割合が 17.1%、「支援者間での連携が難しい」の割合が 11.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「支援者間での連携が難しい」の割合が増加しています。

主な「その他」意見

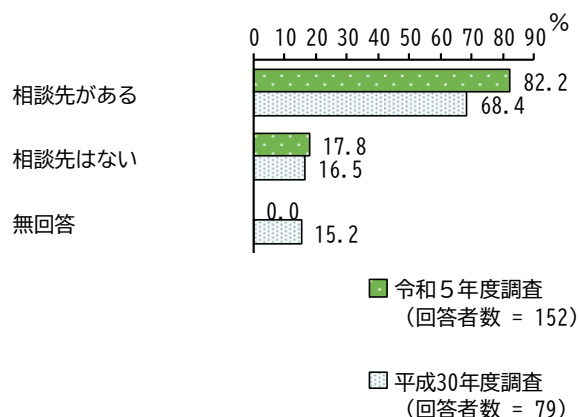
・どこまで踏み込んで良いものか （2件）



問 19 あなたが、貧困家庭への支援における問題について、困ったり、悩んだりした場合、相談先はありますか。「相談先がある」場合は、相談場所を具体的に教えてください。(1つ選択)

「相談先がある」の割合が 82.2%、「相談先はない」の割合が 17.8%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「相談先がある」の割合が増加しています。

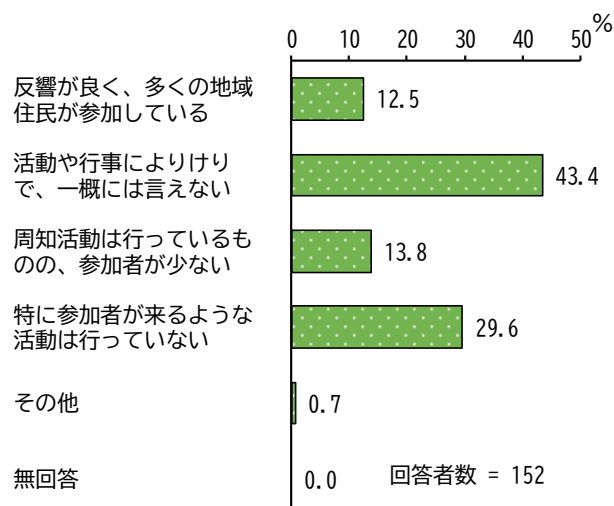


<主な相談先>

- ・子ども家庭支援センター (78 件)
- ・市役所 (20 件)
- ・児童相談所 (15 件)
- ・教育センター (8 件)
- ・教育委員会 (5 件)
- ・学生相談室 (3 件)

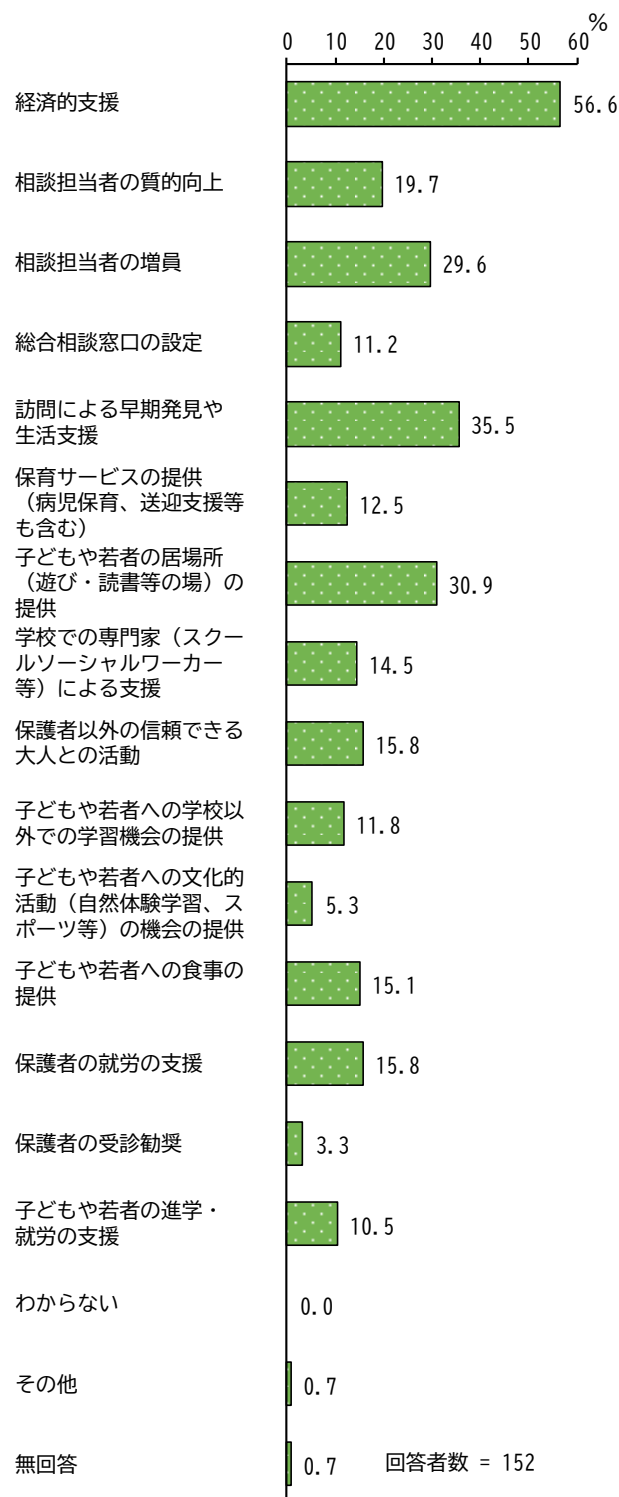
問 20 あなたが参加・主催している活動や行事への地域住民の参加状況はいかがですか。(1つ選択)

「活動や行事によりけりで、一概には言えない」の割合が 43.4%と最も高く、次いで「特に参加者が来るような活動は行っていない」の割合が 29.6%、「周知活動は行っているものの、参加者が少ない」の割合が 13.8%となっています。



問 21 あなたは、（自分が所属する機関で実際に取り組まれている支援にかかわらず）一般的に、貧困状態にある子どもや若者、保護者に対して、どのような支援がより必要だと感じていますか。

「経済的支援」の割合が 56.6%と最も高く、次いで「訪問による早期発見や生活支援」の割合が 35.5%、「子どもや若者の居場所（遊び・読書等の場）の提供」の割合が 30.9%となっています。



問 22 あなたは、貧困状況にある家庭への支援に関して、どのような改善が必要だと思いますか。自由に記載してください。

※（ ）は意見数

項目	主な意見（要約）
1. 経済的支援について (15)	・働ける環境。ただ働くだけでなく、賃金が足りない場合は公的補助。 ・子どもに対する経済的支援が必要である。例えば、自分で調理できる食品の支給、弁当の利用など、子どもの手に届く支援が大切であるとする。そのためにも居場所事業などの発展が望ましい。 ・直接子どもへの支援ができるといいと思います。経済的な支援も実際子どもに使っているのか確認は難しいので、具体的に子どもへ経済的な支援ができる仕組みづくりがあればいいと思います。 ・経済的支援家庭に支援が必要である場合、子育て中であれば健康センターなどが関わってきますが、そうでない場合は支援が遅れるように感じます。行政の横のつながりが必要だと思います。また、支援が必要な家庭の子ども、保護者などすべてを把握する機関があるといいと思いました。 ・働く環境を整える、安定した収入が得られるための支援の充実、または経済的な支援、子育てサポート体制の整備が必要。
2. 相談支援体制について (12)	・気軽に相談ができて素早く支援を実施する体制や制度の充実。 ・相談しやすい環境づくり。 ・学校で、児童や家庭が貧困状態にあると思われた際に、学校から相談しても支援につながるまでに時間がかかることが多い。学校と関係機関が連携して、迅速に対応する体制をつくる必要があると思う。 ・家庭訪問による積極的な情報提供や相談活動の実施。 ・聴き取りであったり周りの人間による支援、手助けがあると少しずつ良くなっていくように感じます。
3. サポート体制の充実・改善について (26)	・貧困状態にあることを、そばにいる人たちが正しく理解することが大切だと思う。その上で、どのような支援や援助があるのか知らせたい。 ・長期的にサポートするシステム。 ・生活の見直し等の支援や援助。 ・学校への私費会計及び給食費等の完全無償化。 ・乳児健診や新生児訪問からもっと積極的に介入してほしい。
4. その他 (19)	・子どもを支援していくためには、保護者の同意を得ないと難しいため、保護者の同意を得られるための手立てが必要である。 ・いわゆる貧困家庭に関与したケースがないので分かりません。 ・そもそも、貧困に陥る原因が様々なため、改善も一概には言えない。強いて上げるなら、貧困家庭自体に援助を求める能力や、受け入れる力を育成すること。 ・貧困状況にある家庭に関わる大人の増員と予算の増加。

問 23 子ども・若者を取り巻く課題が多様化していますが、普段から子どもや若者と接していて、課題と感じている点と、それに対する対応方法として必要であると考えている点について、自由に記載してください。

※（ ）は意見数

項目	主な意見（要約）
1. インターネットの活用、教育について (6)	・主にスマートフォン等のデジタルデバイスから情報を得ている子どもは、偏った情報の影響を知らず知らずのうちに受けているように思う。そのため、自分は偏った情報で物事を判断しているという自覚がないことが課題である。デジタルデバイスの功罪や活用方法について、生徒を始め保護者、地域等へ知らせ、学校教育の中でも扱う必要がある。 ・対面だけでなく、電話でも相談できないような人が、コロナ前より更に増えている気がする。繋がることが出来なければ支援は難しいので、いかにそのような人たちを引っ張り出すか。LINE や WEB でも相談できるようにできないものかと考えている。
2. 子どもの意欲、意識向上について (10)	・ある子どもの権利を守るために、違う子どもの権利が守られていない場合があるのではないかと悩む場面がある。自分で乗り越えた子達が、「ずるい」というような感覚をもたせないように、支援していくことが大切だと思う。 ・自己肯定感が低い、将来への希望が持てていない。寄り添って時間をかけて話をしていく。
3. 家庭と社会の連携について (19)	・学校現場として難しいのは家庭へ入り込むこと。 ・子ども・若者の課題は昔からある。その課題に対応できる大人の数が少な過ぎることが課題と考える。 ・様々な子ども・若者が健全に成長できるための安心できる居場所が必要。
4. 保護者への支援について (25)	・子どもを養育する保護者の同意を得ることに課題があると感じる。様々な機関の連携を更に高めていく必要がある。 ・学校では保護者が医療を必要と感じてもそこまでは踏み込みにくい。子ども家庭支援センターや SSW に救われている。子どもを守るには保護者の健康、精神の安定が不可欠である。 ・家庭環境の改善と保護者の自立支援コミュニティの受け入れ体制の確立。
5. 社会参加について (11)	・支援を必要としている生徒の数に対して支援する人材が少ないこと。 ・子どもや若者たちとの関わりを持つ機会がない。
6. ヤングケアラーについて (1)	・きょうだいに障害がありその対応に両親が追われていたりしてその他の子に時間をかけてあげられなかったり、きょうだいの1番上の子が下の子たちの面倒を見るなどヤングケアラー的な子が見受けられる。長期的にこのような状況が続くと後に学業に時間を割くことができず、学力への影響が懸念されたり、友達と遊ぶ時間が奪われ、交友関係が希薄になり孤独を感じる子もいるのではないかと考える。まずは現状を把握すること。その子話を聞いてあげることから始めたら良いのではと思う。直接的な助けを行うことは難しいがヤングケアラーの子の負担感があるのならば少しでも軽減できたらと思う。

Ⅲ 参考資料（調査票）

- ・多摩市子ども・子育てに関する計画策定に係るニーズ調査 調査票

